

前畑 J 遺跡

前畑 J 遺跡

一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一九

群馬県桐生土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2019

群馬県桐生土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



前畑 J 遺跡

一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2019

群馬県桐生土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書は、一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書です。本調査は、笠懸赤堀今井線は東毛地域桐生市、伊勢崎市、みどり市をつなぐ幹線道路の拡幅工事に伴い実施された発掘調査です。

前畑J遺跡は平成29年9月から11月にかけて発掘調査が実施されました。

遺跡は桐生市新里町野に位置し、粕川の支流、鎚木川の左岸にあります。南東側には広大な大間々扇状地が広がり、更に東には鹿田山や八王子丘陵、渡良瀬川扇状地に続きます。

このような東西の地域をつなぐ幹線道路を拡幅し、更に東毛地域の一般車両、物流交通をスムーズになることを期待しての道路建設でした。

遺跡の内容は縄文時代前期～後期の竪穴建物、土坑、ピットが確認されました。縄文時代以降は古墳時代前期から後期、平安時代初頭の竪穴建物や土坑が確認されています。さらに中近世の溝や井戸、江戸時代の陶磁器が出土しています。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県桐生土木事務所、群馬県教育委員会、桐生市教育委員会や地元の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。

本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。











平成31年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 中野三智男

例 言

1. 本書は一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴い発掘調査された前畑J遺跡の報告書である。
2. 遺跡の呼称および所在地。
前畑J遺跡(まえはたじえいいせき)は、群馬県桐生市新里町野字東畑31-1、32-1、50、字前畑292-1・15、295-1・2、298-1、295-5・11、298-2、299-1、300-1、303-1、304-1、305-1、306-1、字蛭川51-1、53-1・2、54-1・2・3、59-1、59-4、61-1、62-1にある。
3. 事業主体 群馬県桐生土木事務所
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 発掘調査及び整理事業の期間
 - (1) 発掘事業
事業主体 群馬県桐生土木事務所
調査主体 公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
履行期間 平成29年8月1日～平成30年1月31日
調査期間 平成29年9月1日～平成29年11月30日
発掘調査担当者 岩上千鶴(主任調査研究員) 飛田野正佳(専門調査役)
調査面積 2,482㎡
遺跡掘削工事 スナガ環境測設株式会社
 - (2) 整理事業
履行期間 平成30年9月1日～平成31年3月31日
整理期間 平成30年9月1日～平成31年3月31日
6. 本書作成の担当者は以下のとおりである。
遺構写真 岩上千鶴 飛田野正佳
遺物観察表・観察表執筆
縄文土器 石坂 茂(専門調査役)
土師器・須恵器・陶磁器 大西雅広(専門調査役)
石製品 津島秀章(資料第2課長)
金属製品 板垣泰之(専門員)
保存処理 板垣泰之 関 邦一(専門調査役)
編集作業 友廣哲也(専門調査役)
土師器遺物写真 //
7. 発掘調査及び整理事業での委託
遺構測量 技研コンサル株式会社
8. 石材の同定は、飯島静雄(群馬県地質研究会)に依頼した。
9. 新里町現計形図(1/2,500) No20は、桐生市長の承認を得て、同市発行の2,500分の1現形図を複製したものである。
10. 発掘調査および報告書の作成にあたり、群馬県教育委員会事務局文化財保護課、桐生市教育委員会事務局のご指導とご助言を得た。
11. 発掘調査および報告書の作成にあたり群馬県教育委員会事務局文化財保護課、桐生市教育委員会のご指導とご助言をいただいた。
12. 発掘調査の記録資料と出土資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

1. 本書で使用した座標値および方位は、日本測地系、平面直角座標系第Ⅸ系で示した。挿図中に示した方位は座標北を示す。単位はメートルである。
2. 等高線、遺構断面図等に記した数値は海拔標高を示す。
3. 遺構図、遺物図については、各挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。また、遺物写真の縮尺は、実測図と同一の縮尺を原則とした。
遺構図：竪穴建物1/60 竪穴状遺構1/60 竈1/30 土坑・ピット・溝・井戸1/40 屋外炉1/40 1号遺物集中1/40
遺物図：縄文 1/2・1/3・1/4・1/6 土師器・須恵器 1/3 陶磁器 1/3・1/4
石器・石製品 1/1・1/2・1/3・1/4・1/6 羽口 1/3
4. 建物の掲載は、種別に限らず、遺構ごとに通し番号とした。
5. 本書の図版に使用したスクリーントーンは、次のことを示す。
遺構図：焼土  炭化物  粘土  攪乱  ローム 
遺物図：赤彩  灰釉  黒色  すり面  強いすり面 
6. 遺構図中の遺物記号は、次のことを示す。
全体：● 出土遺物
7. 遺構の数値は全容が計測できない遺構については残存値()で表記してある。
8. 本遺跡で確認する軽石・火山灰は以下の通りである。
浅間A軽石 天明3年(1783)
浅間山B軽石 天仁元年(1108)
浅間C軽石 3世紀末～4世紀初頭
榛名山F P軽石 6世紀初頭
榛名山F A 5世紀末～6世紀初頭
9. 遺構観察表の表現及び記載法は、以下の通りである。
計測値の項目は以下の略である。
口：口径 底：底径 高：器高
10. 本書で使用した地形図は以下の通りである。
桐生市都市計画課発行 2千5百分の1新里町現形図No20 経済企画庁・群馬県1956『土地分類基本調査』前橋
群馬県農政部土地計画課1977『土地分類基本調査』桐生及足利
国土地理院の電子地形図 25000 を1/10000に掲載
国土地理院：地形図 2万5千分の1地形図「大胡」平成22年12月1日発行 同「大間々」平成8年7月1日発行 同
「桐生」平成21年4月1日発行 同「鼻毛石」平成14年9月1日発行

目 次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

写真目次

第1章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査の方法	3
第4節 基本土層	3

第2章 地理的環境と歴史的環境

第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 古墳時代～奈良・平安時代	13
第2節 縄文時代	57

第4章 まとめ

遺物観察表	134
-------	-----

写真図版

抄録

付図 前畑J遺跡 全体図(1:400)

插图目次

第1图	遺跡位置図	1	第64图	14号竪穴建物(2)	67
第2图	調査区位置図	2	第65图	14号竪穴建物出土遺物(1)	68
第3图	基本土層	3	第66图	14号竪穴建物出土遺物(2)	69
第4图	周辺地形分類図	6	第67图	15号竪穴建物	69
第5图	周辺遺跡位置図	8	第68图	15号竪穴建物・出土遺物	70
第6图	1号竪穴建物・出土遺物	13	第69图	2号竪穴状遺構・出土遺物	71
第7图	2号竪穴建物	14	第70图	4号竪穴状遺構・出土遺物(1)	72
第8图	2号竪穴建物・出土遺物	15	第71图	4号竪穴状遺構出土遺物(2)	73
第9图	3号竪穴建物(1)	16	第72图	6号竪穴状遺構	73
第10图	3号竪穴建物(2)・出土遺物	17	第73图	6号竪穴状遺構出土遺物	74
第11图	4号竪穴建物	18	第74图	縄文土坑・出土遺物(1)	75
第12图	4号竪穴建物出土遺物	19	第75图	縄文土坑・出土遺物(2)	76
第13图	5号竪穴建物(1)	20	第76图	縄文土坑・出土遺物(3)	77
第14图	5号竪穴建物(2)	21	第77图	縄文土坑・出土遺物(4)	78
第15图	5号竪穴建物出土遺物(1)	22	第78图	縄文土坑・出土遺物(5)	79
第16图	5号竪穴建物出土遺物(2)	23	第79图	縄文土坑・出土遺物(6)	80
第17图	5号竪穴建物出土遺物(3)	24	第80图	縄文土坑・出土遺物(7)	81
第18图	6号竪穴建物・出土遺物	25	第81图	縄文土坑・出土遺物(8)	82
第19图	10号竪穴建物・出土遺物	26	第82图	縄文土坑・出土遺物(9)	83
第20图	11号竪穴建物(1)	27	第83图	縄文土坑・出土遺物(10)	84
第21图	11号竪穴建物(2)	28	第84图	縄文土坑・出土遺物(11)	85
第22图	11号竪穴建物(3)・出土遺物	29	第85图	縄文土坑・出土遺物(12)	86
第23图	12号竪穴建物(1)	30	第86图	縄文土坑・出土遺物(13)	87
第24图	12号竪穴建物(2)	31	第87图	縄文土坑・出土遺物(14)	88
第25图	12号竪穴建物出土遺物(1)	32	第88图	縄文土坑・出土遺物(15)	89
第26图	12号竪穴建物出土遺物(2)	33	第89图	縄文土坑・出土遺物(16)	90
第27图	1号竪穴状遺構	34	第90图	縄文土坑・出土遺物(17)	91
第28图	3号竪穴状遺構	34	第91图	縄文土坑・出土遺物(18)	92
第29图	5号竪穴状遺構	35	第92图	縄文土坑・出土遺物(19)	93
第30图	土坑(1)	36	第93图	縄文土坑・出土遺物(20)	94
第31图	土坑(2)	37	第94图	縄文土坑・出土遺物(21)	95
第32图	土坑(3)	38	第95图	縄文土坑・出土遺物(22)	96
第33图	土坑(4)	39	第96图	縄文土坑・出土遺物(23)	97
第34图	1号溝・出土遺物(1)	40	第97图	縄文土坑・出土遺物(24)	98
第35图	1号溝出土遺物(2)	41	第98图	縄文土坑・出土遺物(25)	99
第36图	1号井戸	41	第99图	縄文土坑・出土遺物(26)	100
第37图	1号井戸出土遺物	42	第100图	縄文土坑・出土遺物(27)	101
第38图	2号井戸	42	第101图	縄文土坑・出土遺物(28)	102
第39图	2号井戸出土遺物	43	第102图	縄文土坑・出土遺物(29)	103
第40图	ピット(1)	44	第103图	縄文土坑・出土遺物(30)	104
第41图	ピット(2)	45	第104图	縄文土坑・出土遺物(31)	105
第42图	ピット(3)	46	第105图	縄文土坑・出土遺物(32)	106
第43图	ピット(4)	47	第106图	1号屋外炉・出土遺物	107
第44图	ピット(5)	48	第107图	縄文遺構外出土遺物(1)	113
第45图	ピット(6)	49	第108图	縄文遺構外出土遺物(2)	114
第46图	ピット(7)	50	第109图	縄文遺構外出土遺物(3)	115
第47图	ピット(8)	51	第110图	縄文遺構外出土遺物(4)	116
第48图	ピット(9)	52	第111图	縄文遺構外出土遺物(5)	117
第49图	ピット(10)	53	第112图	縄文遺構外出土遺物(6)	118
第50图	ピット(11)	54	第113图	縄文遺構外出土遺物(7)	119
第51图	ピット(12)	55	第114图	縄文遺構外出土遺物(8)	120
第52图	遺構外出土遺物土師器・須恵器	56	第115图	縄文遺構外出土遺物(9)	121
第53图	7号竪穴建物・出土遺物	57	第116图	縄文遺構外出土遺物(10)	122
第54图	7号竪穴建物出土遺物	58	第117图	縄文遺構外出土遺物(11)	123
第55图	7号竪穴建物・出土遺物	58	第118图	縄文遺構外出土遺物(12)	124
第56图	9号竪穴建物(1)	59	第119图	縄文遺構外出土遺物(13)	125
第57图	9号竪穴建物(2)	60	第120图	縄文遺構外出土遺物(14)	126
第58图	9号竪穴建物出土遺物(1)	61	第121图	縄文遺構外出土遺物(15)	127
第59图	9号竪穴建物出土遺物(2)	62	第122图	旧石器試掘(1)	128
第60图	1号遺物集中・出土遺物	63	第123图	旧石器試掘(2)	129
第61图	13号竪穴建物	64	第124图	旧石器試掘(3)	130
第62图	13号竪穴建物出土遺物	65			
第63图	14号竪穴建物(1)	66			

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	9
第2表	前畑J遺跡土坑一覧	108
第3表	前畑J遺跡ピット一覧	110
第4表	遺物観察表	134
第5表	縄文土器胎土分類一覧表	160
第6表	縄文土器未掲載遺物出土一覧表	162

写真目次

P L. 1	1	1号竪穴建物	6	6号竪穴状遺構	
	2	2号竪穴建物	7	6号竪穴状遺構	
	3	2号竪穴建物	P L. 8	1	1号井戸
	4	2号竪穴建物出土遺物	2	2号井戸	
	5	2号竪穴建物出土遺物	3	1号土坑	
	6	2号竪穴建物内ピット	4	2・3号土坑	
	7	3号竪穴建物	5	3号土坑・馬歯	
	8	3号竪穴建物出土遺物	6	5号土坑	
P L. 2	1	3号竪穴建物竈	7	6号土坑	
	2	3号竪穴建物竈	8	8号土坑	
	3	3号竪穴建物貯蔵穴	9	9号土坑	
	4	3号竪穴建物出土遺物	10	9号土坑出土遺物	
	5	3号竪穴建物出土遺物	11	10号土坑	
	6	4号竪穴建物	12	11号土坑	
	7	4号竪穴建物竈	13	12号土坑	
	8	4号竪穴建物竈	14	13号土坑	
P L. 3	1	4号竪穴建物出土遺物	15	15号土坑	
	2	5号竪穴建物	P L. 9	1	15号土坑出土遺物
	3	5号竪穴建物	2	16号土坑	
	4	5号竪穴建物	3	17号土坑	
	5	5号竪穴建物出土遺物	4	18号土坑	
	6	5号竪穴建物出土遺物	5	20号土坑	
	7	5号竪穴建物出土遺物	6	21号土坑	
	8	5号竪穴建物竈・貯蔵穴	7	22号土坑	
P L. 4	1	5号竪穴建物出土遺物	8	24号土坑	
	2	6号竪穴建物	9	25号土坑	
	3	6号竪穴建物出土遺物	10	28号土坑	
	4	6号竪穴建物貯蔵穴	11	29号土坑	
	5	7号竪穴建物	12	30号土坑	
	6	8号竪穴建物	13	30号土坑出土遺物	
	7	9号竪穴建物	14	31・32号土坑	
	8	9号竪穴建物出土遺物	15	32号土坑	
P L. 5	1	10号竪穴建物	P L. 10	1	33号土坑
	2	11号竪穴建物	2	34号土坑	
	3	12号竪穴建物	3	35号土坑	
	4	12号竪穴建物	4	36号土坑	
	5	12号竪穴建物出土遺物	5	37号土坑	
	6	12号竪穴建物出土遺物	6	39号土坑	
	7	12号竪穴建物出土遺物	7	40号土坑	
	8	12号竪穴建物出土遺物	8	41号土坑	
P L. 6	1	13号竪穴建物	9	42号土坑	
	2	14号竪穴建物	10	43号土坑	
	3	15号竪穴建物	11	45号土坑	
	4	15号竪穴建物炉	12	46号土坑	
	5	1号竪穴状遺構	13	48号土坑	
	6	2号竪穴状遺構	14	48～50号土坑	
	7	2号竪穴状遺構出土遺物	15	50号土坑	
	8	2号竪穴状遺構出土遺物	P L. 11	1	51・52号土坑
P L. 7	1	3号竪穴状遺構出土遺物	2	53・54号土坑	
	2	4号竪穴状遺構	3	53号土坑出土遺物	
	3	5号竪穴状遺構	4	53号土坑出土遺物	
	4	6号竪穴状遺構	5	53号土坑	
	5	6号竪穴状遺構	6	55号土坑	

	7	57号土坑		13	ピット63
	8	58号土坑		14	ピット66
	9	56号土坑		15	15号竪穴建物P 9
	10	59号土坑	P L. 16	1	ピット68
	11	60号土坑		2	ピット69
	12	61号土坑		3	ピット70
	13	62号土坑		4	ピット72
	14	63号土坑		5	ピット74
	15	64号土坑		6	ピット75
P L. 12	1	65号土坑		7	ピット76
	2	65号土坑出土遺物		8	ピット77
	3	67号土坑		9	ピット78
	4	66号土坑		10	ピット80
	5	68号土坑		11	ピット81
	6	69号土坑		12	ピット82
	7	72号土坑		13	ピット83
	8	73号土坑		14	ピット85
	9	74号土坑		15	ピット86
	10	75号土坑	P L. 17	1	ピット87
	11	75号土坑出土遺物		2	ピット88
	12	77号土坑		3	ピット89
	13	77号土坑		4	ピット90
	14	80号土坑		5	ピット91
	15	81号土坑		6	ピット92
P L. 13	1	82号土坑		7	ピット93
	2	84号土坑		8	ピット94
	3	85号土坑		9	ピット95
	4	86号土坑		10	15号竪穴建物P 3
	5	87号土坑		11	ピット99
	6	89号土坑		12	ピット100
	7	90号土坑		13	15号竪穴建物P 6
	8	90号土坑出土遺物		14	ピット102
	9	103号土坑出土遺物		15	ピット103
	10	103号土坑	P L. 18	1	ピット104
	11	104号土坑		2	ピット106
	12	105号土坑		3	ピット107
	13	ピット9		4	ピット108
	14	ピット11		5	ピット109
	15	ピット12		6	ピット110
P L. 14	1	ピット13		7	ピット111
	2	ピット14		8	ピット113
	3	ピット17		9	ピット115
	4	ピット19		10	ピット116
	5	ピット20		11	15号竪穴建物P 1
	6	ピット21		12	ピット118
	7	ピット24		13	ピット119
	8	ピット25		14	ピット120
	9	ピット26		15	ピット121
	10	ピット42	P L. 19	1	ピット122
	11	ピット43		2	ピット123
	12	ピット47		3	ピット124
	13	ピット48		4	ピット125
	14	ピット49		5	ピット126
	15	ピット50		6	ピット127
P L. 15	1	ピット51		7	ピット128
	2	ピット52		8	ピット129
	3	ピット53		9	ピット130
	4	ピット54		10	ピット131
	5	ピット55		11	ピット132
	6	ピット56		12	ピット133
	7	ピット57		13	ピット134
	8	ピット58		14	ピット136
	9	ピット59		15	ピット139
	10	ピット60	P L. 20	1	ピット137
	11	ピット61		2	ピット138
	12	ピット62		3	ピット140

	4	ピット141			90号土坑出土遺物
	5	ピット142	P L . 40		59号土坑出土遺物
	6	15号竪穴建物 P 10			62号土坑出土遺物
	7	ピット145 (15号竪穴建物柱穴)			63・67号土坑出土遺物
	8	15号竪穴建物 P 2	P L . 41		64号土坑出土遺物
	9	15号竪穴建物 P 4			65号土坑出土遺物
	10	ピット148			66号土坑出土遺物
	11	ピット149			68号土坑出土遺物
	12	ピット150	P L . 42		69号土坑出土遺物
	13	15号竪穴建物 P 5			72号土坑出土遺物
	14	ピット152			73号土坑出土遺物
	15	ピット153			74号土坑出土遺物
P L . 21	1	ピット154	P L . 43		75号土坑出土遺物
	2	ピット155	P L . 44		77号土坑出土遺物
	3	ピット156			87号土坑出土遺物
	4	1号屋外炉・下面が58号土坑			86号土坑出土遺物
	5	58号土坑			89号土坑出土遺物
	6	1号屋外炉			91・92・96・97号土坑出土遺物
	7	1号屋外炉埋め甕	P L . 45		98・100・101号土坑出土遺物
	8	1号屋外炉埋め甕			95号土坑出土遺物
P L . 22	2	号竪穴建物出土遺物			102号土坑出土遺物
	3	号竪穴建物出土遺物			103号土坑出土遺物
	4	号竪穴建物出土遺物	P L . 46		104・105号土坑出土遺物
P L . 23	5	号竪穴建物出土遺物(1)			1号屋外炉出土遺物
P L . 24	5	号竪穴建物出土遺物(2)			1区遺構外出土遺物(1)
P L . 25	6	号竪穴建物出土遺物	P L . 47		1区遺構外出土遺物(2)
	10	号竪穴建物出土遺物	P L . 48		1区遺構外出土遺物(3)
P L . 26	11	号竪穴建物出土遺物	P L . 49		2区遺構外出土遺物
	12	号竪穴建物出土遺物(1)	P L . 50		3区遺構外出土遺物(1)
P L . 27	12	号竪穴建物出土遺物(2)	P L . 51		3区遺構外出土遺物(2)
P L . 28	12	号竪穴建物出土遺物(3)	P L . 52		3区遺構外出土遺物(3)
	1	号溝出土遺物	P L . 53		3区遺構外出土遺物(4)
P L . 29	1	号井戸出土遺物	P L . 54		3区遺構外出土遺物(5)
	2	号井戸出土遺物			
P L . 30	89	号ピット出土遺物			
		遺構外出土遺物			
	7	号竪穴建物出土遺物			
	8	号竪穴建物出土遺物			
P L . 31	9	号竪穴建物出土遺物			
P L . 32	1	号遺物集中出土遺物			
	13	号竪穴建物出土遺物			
	14	号建物出土遺物(1)			
P L . 33	14	号建物出土遺物(2)			
	15	号竪穴建物出土遺物			
	2	号竪穴状遺構出土遺物			
P L . 34	4	号竪穴状遺構出土遺物			
	6	号竪穴状遺構出土遺物			
P L . 35	10・14	号土坑出土遺物			
	18・19・21・22	号土坑出土遺物			
	12	号土坑出土遺物			
	13	号土坑出土遺物			
	15	号土坑出土遺物			
	16	号土坑出土遺物			
	17	号土坑出土遺物			
P L . 36	28	号土坑出土遺物			
	30	号土坑出土遺物			
	33・35・38・47	号土坑出土遺物			
P L . 37	39・42・44	号土坑出土遺物			
	41	号土坑出土遺物			
	46	号土坑出土遺物(1)			
P L . 38	46	号土坑出土遺物(2)			
	50	号土坑出土遺物			
	51・52	号土坑出土遺物			
	53・54	号土坑出土遺物			
P L . 39	55	号土坑出土遺物			
	56・57	号土坑出土遺物			

第1章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経過

1 埋蔵文化財の調査に至る経緯

前畑J遺跡は、桐生市新里町野に所在する遺跡である。本遺跡は平成29年9月1日から平成29年11月30日までの期間に、一般県道笠懸赤堀今井線道路改良事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査が実施されている。本書はその埋蔵文化財発掘調査報告書である。

一般県道笠懸赤堀今井線道路改良事業を進めるにあたり、群馬県桐生土木事務所(以下、「桐生土木」と表記)は、群馬県県土整備部建設企画課をとおして、群馬県教育委員会文化財保護課(以下、「保護課」と表記)に照会した。これを受けた保護課は、当該事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地である野03号墳・野-01遺跡(桐生市遺跡番号B0183)内にあることから、確認調査の必要がある旨の回答をした。そのため、桐生土木は保護課に、当該事

業地における確認調査の実施を依頼した。

保護課による確認調査は平成28年12月に行われた。いずれも、バックホーを用いてトレンチ状に掘削し、平断面から遺構の存在、種類、検出数を確認する方法を用いた。

その結果、確認調査対象地のうち、事業地東側は本調査が必要、事業地中央部は本調査が不要、西側は慎重工事による対応が適切であると判断された。

この確認調査の結果を基に、保護課は桐生土木に対して、確認調査の依頼範囲の一部では、事業を実施するにあたり埋蔵文化財の発掘調査が必要である旨を通知した。また、地元の桐生市教育委員会に対しても、確認調査の結果を報告した。

本調査が必要な範囲は、既に周知の埋蔵文化財包蔵地の名称がある。しかし、桐生市教育委員会と保護課との協議の結果、本調査の範囲の遺跡名は「前畑J遺跡」として発掘調査を実施することとなった。



第1図 遺跡位置図 国土地理院の電子地形図1/25,000「大胡」を1/10,000に使用

第2節 調査の経過

前畑J遺跡における発掘調査は、桐生土木から委託を受けて実施した。

発掘調査期間は平成29年9月から平成29年11月30日の計3か月間、2,482㎡行われた。

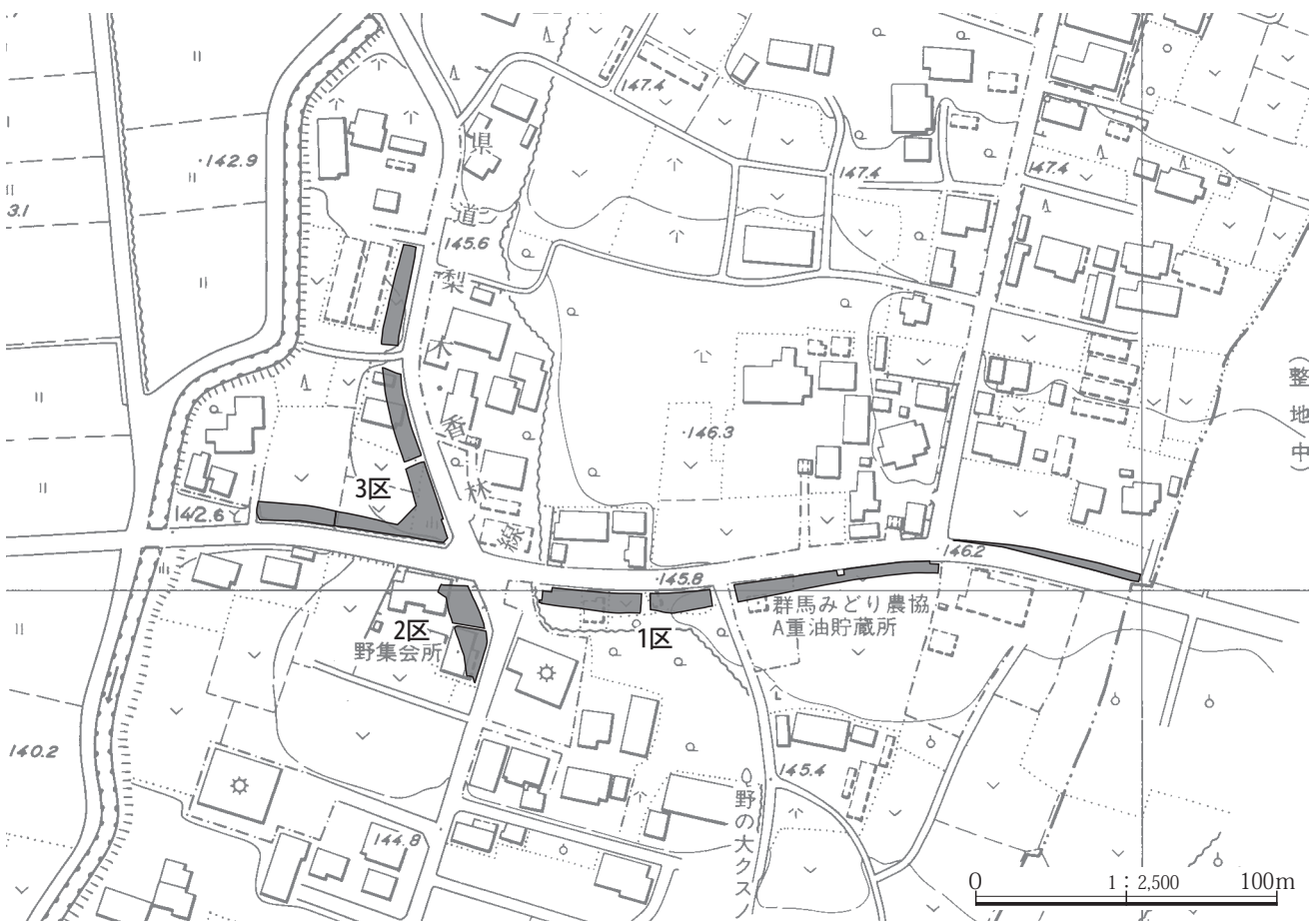
これらの調査成果は、桐生土木からの委託のもと、平成30年9月1日から平成31年3月31日までの期間に整理を実施して本書にまとめた。

発掘調査日誌抄録

平成29年

- 9月1日 調査区内環境整備、表土掘削開始
- 4日 遺構確認作業、掘り下げ着手
- 5日 1区1・2・3号土坑掘削開始、セクション写真
- 6日 1区1号竪穴建物確認掘削

- 29日 1区9号竪穴建物確認掘削
- 平成29年
- 10月3日 1区11号竪穴建物確認掘削
- 3区12号竪穴建物確認掘削
- 4日 1区西側旧石器試掘
- 10日 1区埋め戻し
- 11日 2区調査開始
- 17日 2・3区竪穴建物調査継続
- 27日 3区遺構掘削継続
- 11月1日 3区竪穴建物調査継続
- 7日 2・3区調査継続
- 15日 2区14号竪穴建物掘削
- 3区旧石器試掘開始
- 16日 3区旧石器試掘継続
- 22日 2・3区埋め戻し開始
- 30日 調査終了



第2図 調査区位置図 桐生市都市計画課発行1/2,500新里町現形図No.20使用

第3節 調査の方法

1 調査区の設定

前畑J遺跡の調査区内において、グリッドの設定は行わず、世界測地系による平面直角座標系(平成十四年国土交通省告示第九号) IX系に基づき、東経139度50分、北緯36度0分を原点として、1m四方の区画を1単位として区画を設定している。本報告書での呼称は、座標数値の下3桁で表記している。

なお、前畑J遺跡は X = 44,824 ~ 44,970、 Y = -52,790 ~ 53,085の範囲内にある。

2 調査面の設定

本遺跡ではローム層直上を第1面として調査を進め、縄文時代から古墳時代の遺構の検出を行った。ローム面に旧石器試掘を行ったが、石器の出土はなかった。

3 発掘調査の方法

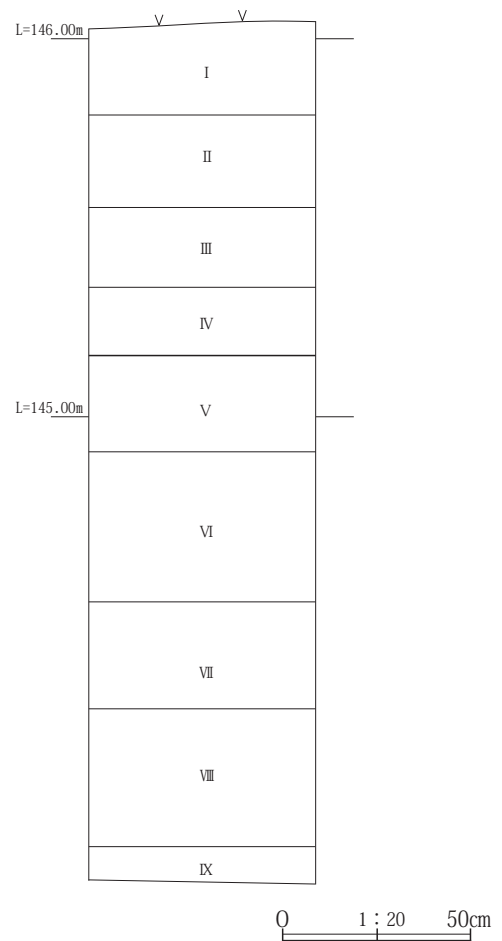
発掘調査はバックフォーによる表土掘削の後、作業員による鋤簾等での遺構検出、精査作業という手順で進めた。

遺構の平断面測量は、原則として1/10、1/20、1/40、1/100のスケールを遺構種類ごとに選択し、測量業務は委託業者が行った。

記録写真撮影はデジタル一眼レフカメラと6×7の中判フィルムカメラを使用した。

第4節 基本土層

- I. 黒色土 10YR2/1
- II. 黒褐色土 10YR3/4 暗褐色土40%含む。
- III. 漸移層 暗褐色土 10YR3/4 ロームと黒褐色土を斑状に含む。
- IV. ローム層 黄橙色10YR7/8 φ 2 ~ 5 mmの灰白色 Y Pを少量含む。
- V. 明黄褐色土 10YR7/6 やや黒い。
- VI. 暗色帯
- VIa. VIに黄褐色土50%含む。
- VII. 黄橙色土 10Y7/8 φ 5 mmの小礫含む。
- VIII. 暗褐色土 10YR3/4 褐色土を20%含む φ 5 mmの小礫微量を含む。
- IX. 褐色土 10YR4/4 暗褐色土を10%含む。



第3図 基本土層

第2章 地理的環境と歴史的環境

第1節 地理的環境

前畑J遺跡は群馬県の東部、桐生市新里町のうち、清掃センターから北500mほどの場所に所在する。地理的に概観すると、関東平野北西域の赤城山南麓に立地する(第4図)。遺跡の南東側には広大な大間々扇状地が広がり、更にその東側は鹿田山や八王子丘陵、渡良瀬川扇状地、足尾山地へと続いている。本節では遺跡周辺の地形的環境について、それぞれ言及する。

(1)地形的環境

前畑J遺跡は粕川の支流の1つである鑄木川の左岸に立地する。この周辺地域には平坦な裾野の傾斜面や、大間々扇状地の地形とは異なる丘陵地形が発達している。これらは、約20～30万年前の古期成層火山形成期であった赤城山の山体崩落を起因として発生した岩屑なだれである、梨木泥流を成因とする流れ山であると考えられている(守屋1968)。

赤城山南麓には土地改良等で消滅したものも含めると、大小41個の流れ山が存在しており、多田山丘陵や権現山、遺跡の北側に所在する寄居山などが挙げられる(澤口2013)。この遺跡の西側にも流れ山の1つである峯岸山が存在する。

峯岸山は東西の両側を河川によって開析された、南北に細長く伸びる丘陵である。峯岸山は1つの丘陵として捉えられているが、比高24mと28mと2つのピークを有することから、2つの流れ山が接続して1つの丘陵を形成したと考えられている(澤口 前掲)。また、丘陵の北東側には、平坦な台地および浅皿を被せたような比高の小さい丘が波状微高地を形成している。これは流れ山と呼べるほどの丘陵を形成しなかった、梨木泥流堆積物の堆積面である、流れ山台地であると推定される(澤口 前掲)。

前畑J遺跡は大間々扇状地の桐原面と呼称される台地の縁辺部に立地する。調査区内の標高は西端部で約142

m、東端部で約146mである。そのため、今回の発掘は遺跡内でも比高差4mの東から西へ向かって傾斜する、台地の斜面部を調査したこととなる。

第2節 歴史的環境

桐生市新里町内は土地改良事業等によって多くの遺跡が発掘調査されている(第5図)。そのため、前畑J遺跡の周辺においても、旧石器時代から近世の遺跡が多数見つかっている。本節では、その中でも本報告での遺構・遺物の内容に該当する、縄文時代、古墳時代～奈良・平安時代の遺跡について主に言及する。

【縄文時代】

赤城山南麓の縄文時代遺跡は、前期に遺跡数が急増する傾向にあり、特に黒浜・諸磯a期にそのピークを迎えることが知られている(鬼形1985)。桐生市新里町内でも同様の傾向を示し、相前後する早・中期では標高200～300mに遺跡が偏在する傾向にあるのに対し、前期では標高とは関係なく遺跡数が急激に増加する(石坂・原1984)。しかし、これらの遺跡の圧倒的多数は、全体的に単一時期の土器形式が少数散布するような、小規模なものである(石坂・原 前掲)。

前畑J遺跡周辺の縄文時代前期の遺跡のうち、武井城遺跡(36)、武井峯遺跡(40)、十三塚E遺跡(104)、久保井D遺跡(42)、下鶴ヶ谷B遺跡(100)、清水山遺跡(135)などで発掘調査が実施されている。そのうち、十三塚E遺跡で諸磯期の竪穴建物が2棟、清水山遺跡で諸磯a期を中心に竪穴建物が5棟検出されている。前畑J遺跡においても、諸磯式土器を伴う竪穴建物が複数棟検出されているほか、竪穴状遺構内から浮島式土器が完形で出土している。また、武井城遺跡では諸磯b式期を中心とした土器片や土製品、石製品が集中して多量に出土している。

峯岸山周辺に限ってみると、十二社遺跡(9)と、峯岸山遺跡(25)、峯岸山遺跡V(12)、峯岸山古墳群、田場I

遺跡、天幕城遺跡(11)から縄文時代の遺構が検出されている。峯岸山周辺の遺跡では前期の遺構は検出されていないものの、峯岸山遺跡において前期の土器片が一定量検出されている。これらは花積下層、関山、黒浜式に比定され得る含繊維土器や、繊維を含まない諸磯式土器が中心となっている。

【弥生時代】

桐生市新里地区では弥生時代の遺跡について、ほとんど認知されていない。その中では鐮川の対岸に位置する峯岸遺跡(2)で中期の竪穴建物が2棟検出され、縄文時代から継続する集落と考えられている。また、従来、弥生時代と考えられていた赤井戸式土器を伴う遺構は古墳時代前期に位置づけられ、こうしたことがこの時代の様相を変えている。なお、桐生市教育委員会によると蛭川遺跡(4)から十王台式土器の出土が報告され、天神原や久保井付近から磨製有孔石鏃が出土しており、弥生時代末の遺構が存在する可能性が指摘されている。

【古墳時代】

桐生市新里町内では、古墳時代後期から居住域と墓域の分布が拡大していく傾向にある(能登・小島 1984、鹿田 1984)。しかし、峯岸山周辺においては、弥生時代中期から古墳時代前期と、周辺と比較して早い時期から居住域と墓域が形成される。

まず、武井峯岸V遺跡から100mほど北には、峯岸山遺跡(25)と峯岸遺跡(2)が位置する。峯岸山遺跡と峯岸遺跡では、弥生時代中期から古墳時代前期の竪穴建物が複数棟検出されている。これらの竪穴建物群の分布と地形から、峯岸山遺跡と峯岸遺跡は古墳時代前期まで集落域として土地利用されており、丘陵の西側の沖積地を生産域として用いていたと想定される(能登・内田 1985)。

峯岸山の丘陵上は古墳時代前期以降、主に墓域として用いられるようになる(能登・内田 前掲)。峯岸遺跡では、遺跡の南側を中心に、古墳時代前・中期の遺構が検出されている。そのうち、墓域を形成するものとして、円墳の他、方形周溝墓や石槨墓が複数基検出されている。特に方形周溝墓は5基検出されており、これらの殆どは周溝も含めて一辺5～10m前後の規模を呈する。また、峯岸山遺跡では古墳時代前期の方形周溝墓が2基検出さ

れている。これらの方形周溝墓はそれぞれ、6m前後、15m前後の規模で隅丸方形である。加えて、特殊な遺構として、竪穴状の掘り方の中に土壙墓と推定される土坑を複数基内包する土坑群が検出されている。

また、武井峯岸V遺跡自体も小林5号～15号墳(25)の古墳群の只中に立地する。これらの古墳は未調査であり、残存状態は良くないものの、多くは直径10～18mほどの円墳であるとされる(新里村教育委員会 1984)。その中でも直径約30mに及ぶ小林15号墳では、墳丘から円筒埴輪片が採集されている。

丘陵の反対側に位置する西側には、峯岸山古墳群(25)と日横遺跡(20)、小林峯岸遺跡(19)が位置する。峯岸山古墳群では30基の古墳が発掘調査されている。これらの古墳群の築造の開始時期は5世紀後半であるが、そのピークは6世紀後半から7世紀前半であったことが判明している。また、峯岸山北端部に立地する小林峯岸遺跡においても、峯岸山古墳群と連続するかたちで古墳時代前期から中期の古墳が検出されている。前述した小林5号～15号墳などの、峯岸山の北東側に点在する古墳群は、峯岸山古墳群と同時期であると推測されている(鹿田 前掲)。

また、これらの古墳群の他に、峯岸山の南側には伊勢崎市指定史跡である十二所古墳(10)が存在する。十二所古墳は全長約48mの前方後円墳であり、上記の古墳群の中でも最大規模をもつ。昭和初期に後円部墳頂が調査されたものの、築造年代等については不明とされている。

峯岸山周辺に展開する居住域としては、十二所遺跡(10)と十二社遺跡(9)、日横遺跡(20)が挙げられる。

十二所遺跡は峯岸山南東側の台地上に立地しており、古墳時代後期、6世紀後半の竪穴建物が1棟検出されている。また、十二所遺跡と隣接する十二社遺跡では古墳時代の竪穴建物が600棟ほど検出している(加部 2010)。

日横遺跡は峯岸山の北西側に位置する台地上に立地しており、竪穴建物572棟、古墳3基などが検出されている。竪穴建物の多くが5世紀終末から7世紀初頭のものであることから、日横遺跡は古墳時代後期～終末期に至る居住域であったと推測される。

峯岸山丘陵と周辺地域での従前までの発掘調査成果を概観すると、弥生時代中期から古墳時代前期までの期間、峯岸山の丘陵上に居住域が展開していたことがわかる。



第4図 周辺地形分類図(経済企画庁・群馬県 1956『土地分類基本調査』と
群馬県農政部土地改良課 1997『土地分類基本調査』桐生及足利の付図を合成)

また、それと並行して、古墳時代前期から丘陵上は墓域として用いられ始め、古墳時代後期には墓域として主に利用されるようになっていく。それと対応して、居住域は丘陵周辺の台地上に展開するようになる。このことから、峯岸山とその周辺地域では、時期が下るにつれて土地利用が分化する傾向にあるといえる。

その他、周辺地域にける古墳時代前期の遺跡としては、大屋G・H遺跡(68)では、当該期の豪族居館跡と考えられる遺構や遺物が検出されている。

【奈良・平安時代】

遺跡地周辺では集落や生産、墓地、信仰に関する遺跡が多数存在する。集落遺跡の調査は少ないようであるが、峯岸山遺跡(2)、砂田遺跡(49)、天笠南遺跡(45)、仏歯様遺跡(第5図中の33、山上多重塔周囲、文献113)、藤生沢遺跡(115・116)、熊野遺跡、新川天神原(124)、十三塚遺跡(104)、久保井遺跡(41)などが上げられるだけであるが、分布調査では多くの地点で、この時代の土器が散布しており、より多くの集落が存在した可能性が窺える。

生産遺構には瓦生産が行われた窯跡である雷電山瓦窯跡(57)が知られており、1基の窯が発掘されている。そしてここで生産された瓦は伊勢崎市上植木廃寺に瓦を供給していたことがわかっている。この他、上鶴ヶ谷遺跡(98)、外摺山遺跡、十三塚遺跡、十三塚E遺跡(104)、十三塚H遺跡(103)、不二山遺跡(102)、大日遺跡で炭窯が確認されており、不二山周辺で見つかっている製鉄や精錬などの鉄生産に関する遺跡に供給されていたとみられる。

農業生産に関する遺跡としては砂田遺跡(49)や蕨沢遺跡(15)が上げられる。両遺跡はともに八世紀から9世紀初頭の水田が見つかっているが、818(弘仁九)年の地震に伴う土石流によって水田が埋め尽くされていた。

また、この地域の特色に火葬墓が多く存在することである。火葬墓は伊勢崎市多田山で数多く見つかっているほか、桐生市新里地区でも善昌寺裏山火葬墓(104)、熊野火葬墓、大久保山田古墳、中塚南火葬墓群、武井廃寺(37)などが知られている。なお、武井廃寺は当初、塔芯礎と想定され史跡に指定されていたが、史跡整備に伴う発掘調査の結果、八角形をした墳丘の頂部に石製骨蔵器を設置した火葬墓であることがわかっている。なお、武

井廃寺の年代は8世紀前半に想定されており、この地域では早い段階から火葬が導入されており、仏教信仰が盛んであったとみられる。仏教信仰が盛んであった背景から経典を納めた「山上多重塔」(33)が設置されたと見られる。

【中世】

周囲には山上城跡や北山館、膳上城跡などが良好な状態で残存している。この他に多くの和鏡が出土した「峰の薬師」などの小規模な寺院が存在したとみられるが、発掘調査の成果が乏しいため詳細は不明な点がある。

引用文献

- 新井房夫 1971 「地形と地質」『前橋市史』
 青木幹雄 1974 「地質と地形」『新里村誌』pp27-43 新里村誌編纂委員会
 飯島静男 1987 「群馬県の地質」『群馬県植物誌(改訂版)』pp 1-15 群馬県植物誌編纂委員会
 石坂茂・原雅信 1984 「縄文時代の遺跡分布」『新里村の遺跡』pp14-20 新里村教育委員会
 鬼形芳夫 1985 「赤城山麓における縄文文化の展開」『群馬県史研究』pp 6-38 群馬県史編さん委員会
 小野寺透 1950 「赤城火山の崩落に関する地質学的研究」『カスリン颱風の研究—利根川水系における災害の実相—』pp139-162 群馬県災害対策特別委員会
 加部二生 1998 「武井遺跡の調査概要—新里村教育委員会の調査を中心として—」『武井遺跡と北関東の槍先形石器文化 予稿集』pp1 2010 「古墳時代の遺跡」『新里地区遺跡群発掘調査報告I』pp 3-4 桐生市教育委員会
 河井興三・山田博 1960 「群馬県太田・大間々地域の第三系と後期中新世における関東西北部の古地理について」『石油技術協会誌』25-2 pp10-18 石油技術協会
 群馬県企業局 1999 『赤城山頂カルデラ内南縁の地質並びに温泉調査』
 小菅将夫 2013 「武井遺跡群と周辺の地形発達史を考える(2)」『概報 武井遺跡群III』pp30-31 武井遺跡群調査団
 小菅将夫 2014 「武井遺跡群と周辺の地形発達史を考える(3)—赤城火山の地形発達史と武井遺跡—」『概報 武井遺跡群IV』pp34-35 武井遺跡群調査団
 澤口宏 2013 「桐生・伊勢崎・前橋周辺の流れ山」『良好な自然環境を有する地域学術調査報告書』38号 pp79-94 群馬県環境森林部自然環境課
 鹿田雄三 1984 「古墳の分布」『新里村の遺跡』pp38-41 新里村教育委員会
 杉原荘介 1977 『群馬県武井における二つの石器文化』臨川書店
 須藤定久・田島順子・木崎喜雄 1976 「群馬県太田～大間々地域の第三紀火砕岩類」『地率學論集』13 pp241-249 日本地質学会
 早田勉 1990 「第一章 群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編1』pp37-130 群馬県史編さん委員会
 津島秀章 2008 「チャートをめぐる石材環境—赤城山南麓地域のチャート露頭」『研究紀要』26 pp119-130 群馬県埋蔵文化財調査事業団
 新里村教育委員会 1984 『新里の遺跡表』
 能登健・内田憲治 1985 「里棲み集落の発掘調査」『峯岸遺跡—里棲み集落の発掘調査—』pp63-71 新里村教育委員会
 能登健・小島敦子 1984 「弥生から平安時代の遺跡分布」『新里村の遺跡』pp26-33 新里村教育委員会
 丸山清康 1958 「赤城山」『勢多郡誌』pp45-121 勢多郡
 守屋以智雄 1968 『赤城火山の地形及び地質』前橋営林局
 守屋以智雄 1970 「赤城火山の地形学図及び地質図に関する考察」『地図』8-1 pp 1-9 日本国際地図学会



第5図 周辺遺跡位置図(国土地理院1/25,000地形図「桐生」平成21年4月1日発行、同「大間々」平成8年7月1日発行、同「大胡」平成22年12月1日発行、同「鼻毛石」平成14年9月1日発行を使用)

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
1	前畑J		●		●	●	●	●	●	本報告
1	前畑B				●	●	●			51
1	前畑C				●	●	●	●		51
1	前畑D		●		●	●	●			51
1	前畑F		●	●	●	●	●	●		49
2	武井の砦							●		56
2	武井	●								14,16,17,18,64,71~75
2	峯岸(武井遺跡峯岸地区を含む)	●		●	●	●	●			14,34,59,88
2	武井内出東(武井遺跡内出東地区を含む)	●			●	●	●			16,38,52
3	観音寺古墳				●					87
3	観音寺	●	●		●	●	●	●	●	50
4	蛭川	●	●	●	●	●	●	●		41,53
4	蛭川II		●		●					49
5	東畑A		●		●				●	50
6	武井峯岸V	●	●		●					75
6	小林8号墳				●					86
6	小林10号墳				●					86
6	小林11号墳				●					86
6	小林12号墳				●					86
7	西久保		●		●					53
8	南原	●	●		●		●			87
9	十二社横穴古墳				●					87
9	十二社	●	●		●					39,40,46
10	十二所(磯十二所遺跡を含む)	●	●		●					6
10	十二所古墳				●					10
11	天幕城		●		●			●		9,10,56
12	峯岸山遺跡V	●	●					●		70
13	峯岸山古墳群	●	●		●					4,5,7,15
14	小林一本木				●					52
15	蔵沢					●	●			52
16	前橋市0912(関後百々目木)		●				●			31
17	前橋市0692(堤頭、一日市宿後)			●	●		●	●	●	31,32,96
18	前橋市0890(一日市城)							●		56,110
19	小林峯岸		●		●					52
20	日横		●		●	●	●	●		52
21	小林前田					●	●	●		52
22	日横A					●	●	●		51
23	田場I	●			●	●	●	●	●	46
23	田和	●								94
24	内出II					●	●	●		45
24	内出III				●	●	●	●		48
24	内出IV	●			●	●	●	●	●	54
25	小林5号墳				●					86
25	小林6号墳				●					86
25	小林7号墳				●					86
25	小林13号墳				●					86
25	小林14号墳				●					86
25	小林15号墳				●					86
25	新里23号墳				●					11
25	峯岸山	●	●	●	●	●	●			15,76,77

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
26	生目	●								86
26	生目II				●	●	●	●		44
27	前橋市0646(白藤新宿、白藤古墳群)		●		●	●	●	●		30,33
28	前橋市0649(膳城)					●	●	●		31,56,110
29	太郎A					●	●		●	50
30	堂城						●			56,110
30	堂城B							●		50
30	堂城D		●		●	●	●	●	●	47
30	堂城E		●		●	●	●	●	●	46
30	堂城F					●	●	●	●	48
31	山上天笠D				●	●	●	●		50
31	山上天笠F					●	●	●		49
31	山上天笠J					●				47
31	山上天笠K				●					47
31	山上天笠L				●	●	●	●		44
31	山上天笠M					●				45
32	町南				●	●	●	●		51
32	町南B					●	●			51
32	町南C				●	●	●	●	●	49
32	町南D				●	●	●			48
33	天笠東				●	●	●			53
34	間ノ田		●				●			53
35	諏訪越II				●	●	●	●	●	46
36	武井城(城遺跡を含む)		●				●			59,83,86
37	武井廃寺跡		●			●				50,58,86
37	新川2号墳				●					86
38	武井城1号墳				●					50
38	中塚古墳				●					21
39	武井城II		●			●	●			55
40	武井峯(峰遺跡を含む)		●		●	●	●	●		51,83
40	武井峯B				●	●	●	●		50
40	武井峯C		●			●	●		●	50
40	武井峯D				●	●	●	●		50
40	武井峯E	●								41
40	武井峯F					●	●			50
40	武井峯G					●	●			50
40	武井峯H					●	●	●	●	49
40	武井峯K	●								41
40	武井峯L		●		●		●	●		45
41	久保井		●				●			82
41	久保井B		●							50
41	久保井C						●	●		49
42	久保井D						●			89
43	小沢御伊勢山					●	●	●	●	47
43	小沢御伊勢山II							●	●	47
44	石山	●								59
44	石山II						●	●	●	93
45	天笠南		●	●	●	●	●	●		81
45	天笠南C					●	●			49
45	天笠南E		●		●	●	●	●		47
45	天笠南F					●	●	●	●	47
45	天笠南G					●	●	●	●	47
45	天笠南I				●	●	●			45
46	石山西						●			50
46	石山西IV						●			47
46	石山西V				●	●	●			44
47	内出I				●	●	●	●	●	49
48	石山東I				●	●				49
49	鎮守II				●					47
49	砂田		●			●	●			112
50	高畔					●	●			52

第2章 地理的環境と歴史的環境

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
51	梨子木				●					51
51	梨子木A				●	●	●			51
51	梨子木C				●	●	●			50
51	梨子木D	●			●	●	●			50
51	梨子木E	●			●	●	●	●		50
51	梨子木F				●	●	●			50
51	梨子木H				●	●	●	●		49
51	梨子木I				●	●	●			49
51	梨子木J	●			●	●	●			36,41
51	梨子木K	●			●	●	●			48
51	梨子木L	●					●	●	●	54
52	金井IV					●	●			47
53	金井V					●	●	●	●	47
54	元宿A					●	●			51
54	元宿C		●							50
54	元宿G				●	●	●	●		46
54	元宿H	●						●		41,44
54	元宿J				●	●	●	●	●	54
55	武井の内出							●		56
55	山内出							●		86
55	山内出A					●	●			51
55	山内出B	●			●	●	●	●		35,45
55	山内出古墳				●					58
56	金井Ⅲ				●	●	●	●	●	49
57	雷電山瓦窯址					●				46,58
58	元宿	●								3
58	元宿Ⅱ	●			●					44
59	向赤坂	●								86,94
60	広間地西Ⅱ		●					●		50
61	新宮	●			●		●	●		53
61	新宮F				●					50
61	新宮G				●	●	●			50
61	新宮H				●					47
61	新宮I	●								37,41
62	新宮J							●	●	46
63	新宮Ⅱ				●	●	●	●	●	53
64	下宿東					●	●			50
65	大屋元屋敷		●		●	●	●	●		47
65	大屋元屋敷Ⅱ					●	●			45
66	宿東A					●	●			51
66	宿東C					●	●			51
66	宿東D					●	●	●	●	92
67	新川八幡		●							51
67	新川八幡Ⅲ					●	●	●	●	92
68	大屋B		●		●		●			51
68	大屋C		●		●	●	●			51
68	大屋D		●		●					51
68	大屋E				●					51
68	大屋G		●		●					49
68	大屋H		●		●	●	●			49
68	大屋I		●		●	●	●	●		49
68	大屋N		●		●	●	●			46
68	大屋P		●		●	●	●	●		45
69	磯	●								3
69	磯C				●	●	●			51
69	磯E				●					47
69	磯L				●	●	●	●		44
70	広間地東	●	●							87
71	広間地				●	●	●			52
71	広間地東B				●		●			84
72	広間地東A					●	●			50
73	広間地西	●	●		●	●	●	●		50
74	北原第3地点	●								68
74	北原A	●			●			●		50
75	東畑		●							86
75	東畑C				●	●	●	●	●	47
75	東畑D				●	●	●			46
76	香林西ノ原							●		8
77	道上				●	●	●			57
78	柳池						●			89

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
79	赤井戸		●	●	●	●	●			10,66,67,69
80	長昌寺開山塚古墳				●					22
81	西鹿田中島(中島遺跡、西鹿田遺跡を含む)	●	●		●		●		●	2,3,12,13,22,29,59,65,106,108
82	新川前田A		●							43,52
83	西原				●					22
84	神社裏	●	●	●						22,28,58,98
85	西原南		●							22
86	西鹿田高橋		●	●						22
87	山西				●					22
88	和田	●	●	●	●			●	●	26,58,59
89	坊谷戸		●							22
90	坊谷戸Ⅱ		●				●			27,28,100
91	新宿A					●	●	●		50
91	新宿C				●					47
92	山上新町				●	●	●	●		51
92	山上新町Ⅱ					●	●	●		49
92	山上新町Ⅲ							●		49
92	山上西久保Ⅰ		●					●		55
93	山上城跡Ⅶ		●	●	●			●		46
93	山上城跡Ⅸ	●	●		●	●	●	●	●	93
93	山上城跡				●			●		56
94	五反田		●		●	●	●	●		53
95	久留美田	●								94
96	町西Ⅰ		●		●	●	●	●	●	47
97	鳥屋ヶ峯愛宕山		●					●	●	55
98	上鶴ヶ谷		●				●			59,84
99	下鶴ヶ谷C								●	47
100	下鶴ヶ谷B		●							50
100	下鶴ヶ谷E					●	●			44
101	清水山Ⅱ		●							89
101	鶴ヶ谷東	●								111
102	不二山	●	●				●			3,59,90
103	十三塚H					●				47
103	不二山B地点	●								86
104	十三塚F		●				●	●		85,87
104	十三塚E		●				●			89
104	善昌寺裏山火葬墓						●			58
104	外挿山		●				●		●	58,80,86
105	十三塚F		●					●		89
105	峯の薬師		●					●	●	47
106	谷津館跡Ⅰ						●	●		44
107	籾木A		●		●	●	●			51
107	籾木B		●							51
107	籾木D		●				●			49
108	善田下					●	●			52
109	熊野藤生沢		●			●	●			78,79,86
110	杉森古墳				●					19,20,106
111	桐原	●	●	●				●		3,19,20,42
112	新川9号墳				●					87
113	新川10号墳				●					87
114	新川6号墳				●					87
115	藤生沢B		●							51
116	藤生沢C					●	●			50
117	藤生沢D					●	●	●		50

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
118	銅山道東A		●							19
119	銅山道東B		●							19
120	銅山道西		●							19,109
121	新川4号墳				●					87
122	新川5号墳				●					87
123	天神原古墳				●					87
124	新川天神原						●	●	●	49
124	新川天神原II						●			47
125	新川11号墳				●					87
126	新川14号墳				●					87
126	葉師様					●	●		●	54
127	新川12号墳				●					87
128	稲荷山	●	●				●			22,24 25,58
129	鹿清水	●	●							100
129	鹿清水第16地点		●							102
129	鹿清水第17地点		●				●			105
130	清水									28
130	清水第2地点	●	●				●			95
130	清水西丘		●							22
131	道婦	●	●					●	●	22
131	道婦山の砦							●		56
132	清水北口	●	●		●			●		28,102
133	向山		●	●		●	●			27,98, 100,101
134	清水西丘	●	●	●						22,28
135	清水山		●	●			●			59,60
136	北口古墳群				●		●			22,27
137	清泉寺裏		●							22
138	雉子野		●							103
138	鶴山砦跡(建岩の砦)							●		56,103
139	大平山西		●							103
140	田村屋敷							●		56
141	山際瓦窯跡					●	●			22,58
141	山際製鉄跡									22
142	鹿田山砦跡(泉沢城)							●		56,103
143	山際小山					●				103
144	溜ノ内		●							103
145	堀上		●				●	●		22,98 99,104
146	岩宿	●	●			●	●	●		23,59, 63,97, 98,100, 102,104 107
147	岩宿II	●	●							27,28, 62,102
147	東岩宿遺跡(仮)	●								15
148	沢田		●					●		27
148	鹿ノ川窯跡					●				58
149	山上4号墳				●					86
149	山上5号墳				●					86
150	山上7号墳				●					86
150	山上8号墳				●					86
150	山上庚申塚古墳				●					91
151	山上6号墳				●					86
151	桜塚古墳				●					91
151	桜塚西古墳				●					91
152	桜塚I		●				●	●	●	91
153	山上10号墳				●					86
153	山上11号墳				●					86
154	元宿						●		●	89

引用文献

- 1 相沢忠洋 1956「北関東赤城山麓に於けるマイクロ・コアの発見」『貝塚』第58号 平井尚志
- 2 相沢忠洋 1959「赤城山麓に於ける縄文早期文化と西鹿田遺跡発掘調査の意義」『古代文化』3-12 古代学協会
- 3 相沢忠洋・関矢昭 1988『赤城山麓の旧石器』 講談社
- 4 赤堀村教育委員会 1975『赤堀村峯岸山の古墳1』
- 5 赤堀村教育委員会 1976『赤堀村峯岸山の古墳2』
- 6 赤堀町教育委員会 1987『下触下寺遺跡及び磯十二所遺跡発掘調査概報』
- 7 赤堀町教育委員会 1994『群馬県佐波郡赤堀町文化財調査報告40 町内遺跡発掘調査概報』
- 8 赤堀町教育委員会 2001『平成12年度埋蔵文化財発掘調査報告』
- 9 赤堀町教育委員会 2004『天幕城遺跡』
- 10 伊勢崎市教育委員会 2012『伊勢崎市遺跡分布地図』
- 11 岩澤正作 1933『新里村郷土大観』新里村史蹟保存会
- 12 岩澤正作 1939a「石器時代の笠懸村(上)」『毛野』5-1 pp5-10 毛野研究会
- 13 岩澤正作 1939b「石器時代の笠懸村(下)」『毛野』5-2 pp1-9 毛野研究会
- 14 岩宿フォーラム実行委員会 1998a『武井遺跡と北関東の槍先形尖頭器文化』予稿集
- 15 岩宿フォーラム実行委員会 1998b『北関東の槍先形尖頭器文化』資料集
- 16 岩宿フォーラム実行委員会 2000『槍先形尖頭器文化期の集落と武井遺跡』
- 17 岩宿フォーラム実行委員会 2004『武井遺跡の槍先形尖頭器』
- 18 岩宿フォーラム実行委員会 2013『槍先形尖頭器文化の大規模遺跡と遺跡の広がり』
- 19 大間々町誌編さん室 1996『大間々町誌「基礎資料VI」 大間々町の遺跡』
- 20 大間々町誌編さん室 1998『大間々町誌 通史編 上巻』
- 21 尾崎喜佐雄 1958『赤城南麓新里村の古墳』新里村教育委員会
- 22 笠懸村誌編さん室 1983『笠懸村誌 別巻 資料編 自然編・原始古代編』
- 23 笠懸村教育委員会 1971『群馬県笠懸村岩宿遺跡緊急発掘調査概報一昭和45年度発掘調査によるC地点およびD地点の概要一』
- 24 笠懸村教育委員会 1979『笠懸村稲荷山遺跡一笠懸村埋蔵文化財調査報告第2集一』
- 25 笠懸村教育委員会 1980a『笠懸村稲荷山遺跡一笠懸村埋蔵文化財調査報告第3集一』
- 26 笠懸村教育委員会 1980b『和田遺跡調査概報一笠懸村埋蔵文化財調査報告第4集一』
- 27 笠懸町教育委員会 1993『笠懸町内遺跡I』
- 28 笠懸町教育委員会 1995『笠懸町内遺跡II』
- 29 笠懸町教育委員会 2003『西鹿田中島遺跡発掘調査報告書(1)』
- 30 粕川村教育委員会 1983『白藤・新宿』
- 31 粕川村教育委員会 1985『粕川村の遺跡一遺跡詳細分布調査報告書一』
- 32 粕川村教育委員会 1988『堤頭遺跡』
- 33 粕川村教育委員会 1989『白藤古墳群』
- 34 加部二生 1998「武井遺跡の調査概要一新里村教育委員会の調査を中心として一」『武井遺跡と北関東の槍先形石器文化 予稿集』pp19-26 岩宿フォーラム実行委員会
- 35 加部二生・阿久澤智和 2009「山内出B遺跡」『石器文化研究15』pp75-78 石器文化研究会
- 36 加部二生・石田典子・後藤佳一 2003「梨子木J遺跡」『第9回石器文化研究交流会一発表要旨一』pp17-20 石器文化研究会
- 37 加部二生・石田典子・後藤佳一 2004「赤城村の旧石器時代遺跡」『勢多郡文化財ニュース』No.6 pp11-14 群馬県勢多郡町村教育委員会事務所研究会
- 38 加部二生・小菅将夫 1995「武井遺跡」『第2回石器文化研究交流会』pp4-10 石器文化研究会
- 39 加部二生・大工原豊 1992「群馬県新里村十二社遺跡の調査」『第5回長野県旧石器文化研究交流会一発表要旨一』pp16-21 長野県旧石器文化研究交流会
- 40 加部二生・大工原豊・町田正行 1992「群馬県新里村十二社遺跡の石器群について」『第6回東北日本の旧石器文化を語る会』pp23-29 東北日本の旧石器文化を語る会
- 41 軽部達也・小原俊行 2013「武井遺跡周辺の槍先形尖頭器文化の遺跡」

第2章 地理的環境と歴史的環境

- 『岩宿フォーラム2013 槍形尖頭器文化の大規模遺跡と遺跡の広がり—武井遺跡発掘60周年—』pp39-48岩宿フォーラム実行委員会
- 42 桐原遺跡調査団・芹沢長介 2004『群馬県山田郡大間々町桐原遺跡の調査概要報告』
- 43 桐生市教育委員会 1994『新川前田A遺跡(その1)』
- 44 桐生市教育委員会 2008『平成17・18年度発掘調査概報』
- 45 桐生市教育委員会 2010 a『桐生市内遺跡発掘調査報告平成19・20年度調査』
- 46 桐生市教育委員会 2010 b『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅰ』
- 47 桐生市教育委員会 2011『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅱ』
- 48 桐生市教育委員会 2012『桐生市内遺跡発掘調査報告平成21・22年度調査』
- 49 桐生市教育委員会 2012『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅲ』
- 50 桐生市教育委員会 2013『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅳ』
- 51 桐生市教育委員会 2014『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅴ』
- 52 桐生市教育委員会 2015『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅵ』
- 53 桐生市教育委員会 2016 a『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅶ』
- 54 桐生市教育委員会 2016 b『桐生市内遺跡発掘調査報告平成25・26年度調査』
- 55 桐生市教育委員会 2018『桐生市内遺跡発掘調査報告平成27・28年度調査』
- 56 群馬県教育委員会 1989『群馬県の中世城館』
- 57 群馬県教育委員会 2010『道上遺跡』
- 58 群馬県史編さん委員会 1986『群馬県史 資料編2 原始古代2』群馬県
- 59 群馬県史編さん委員会 1988『群馬県史 資料編1 原始古代1』群馬県
- 60 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985『清水山遺跡』
- 61 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2019『前畑J遺跡』
- 62 小菅将夫 2002『岩宿Ⅱ遺跡第3次調査』『第8回石器文化研究交流会—発表要旨—』pp43-45 石器文化研究会
- 63 杉原荘介 1956『群馬県岩宿発見の石器文化』明治大学
- 64 杉原荘介 1977『群馬県武井における二つの石器文化』明治大学
- 65 周東隆一 1950『群馬県新田郡笠懸村中島遺跡調査報告(第一報)—主として地表採集による概報—』『両毛古代文化』2 pp38-45 両毛考古学会
- 66 周東隆一 1951『赤城山南麓に於ける特色ある弥生式土器とその分布』『日本考古学協会第8回総会研究発表要旨』pp16-18 日本考古学協会
- 67 周東隆一 1953『赤城山南麓における特色ある弥生式土器とその分布(第2報)』『日本考古学協会第11回総会研究発表要旨』pp13-16 日本考古学協会
- 68 関矢晃 1991『群馬県新里村北原遺跡の後期旧石器—表面採集資料の検討(Ⅰ)—』『太平臺史窓』第11号 史窓会
- 69 藪田芳雄 1975『(b)赤井戸式土器』『崖岸山遺跡発掘調査報告(第一次)』pp37-38 新里村教育委員会
- 70 勢藤力 2009『崖岸山遺跡Ⅴ』『石器文化研究15』pp71-74 石器文化研究会
- 71 武井遺跡調査団 2010『概報 武井遺跡群Ⅰ』
- 72 武井遺跡調査団 2011『概報 武井遺跡群Ⅱ』
- 73 武井遺跡調査団 2012『概報 武井遺跡群Ⅲ』
- 74 武井遺跡調査団 2014『概報 武井遺跡群Ⅳ』
- 75 武井遺跡調査団 2015『概報 武井遺跡群Ⅴ』
- 76 新里村教育委員会 1975a『崖岸山遺跡発掘調査報告(第一次)』
- 77 新里村教育委員会 1975b『崖岸山遺跡発掘調査報告(第二次)』
- 78 新里村教育委員会 1975c『熊野遺跡発掘調査報告(第一次)』
- 79 新里村教育委員会 1977『熊野・藤生沢遺跡発掘調査報告(第二次)』
- 80 新里村教育委員会 1980『外播山遺跡』
- 81 新里村教育委員会 1981a『天笠南遺跡』
- 82 新里村教育委員会 1981b『久保井遺跡』
- 83 新里村教育委員会 1981c『武井・城遺跡』
- 84 新里村教育委員会 1982『上鶴ヶ谷遺跡』
- 85 新里村教育委員会 1982『十三塚遺跡』
- 86 新里村教育委員会 1984a『新里村の遺跡』
- 87 新里村教育委員会 1984b『新里の遺跡表』
- 88 新里村教育委員会 1985『崖岸遺跡—里棲み集落の発掘調査—』
- 89 新里村教育委員会 1998『新里村内電源開発只見幹線鉄塔建設関連遺跡発掘調査概要』
- 90 新里村教育委員会 2002『新里村不二山遺跡群発掘調査報告：ぐんま昆虫の森(仮称)に伴う発掘調査』
- 91 新里村教育委員会 2003『新里村内県道梨木香林線建設関連遺跡発掘調査報告』
- 92 新里村教育委員会 2004『宿東D遺跡・新川八幡Ⅲ遺跡』
- 93 新里村教育委員会 2005『山上城跡Ⅹ・石山Ⅱ遺跡』
- 94 日本旧石器学会 2010『日本列島の旧石器時代遺跡』
- 95 萩谷千明 1995『清水遺跡第2地点』『第3回石器文化研究交流会—発表要旨—』pp4-7 石器文化研究会
- 96 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009『粕川町一日市宿後遺跡』
- 97 みどり市教育委員会 2010 a『史跡岩宿遺跡保存整備報告書』
- 98 みどり市教育委員会 2010 b『みどり市内遺跡 1』
- 99 みどり市教育委員会 2011『堀上遺跡』
- 100 みどり市教育委員会 2011『みどり市内遺跡 2』
- 101 みどり市教育委員会 2012『みどり市内遺跡 3』
- 102 みどり市教育委員会 2013『みどり市内遺跡 4』
- 103 みどり市教育委員会 2013『みどり市遺跡地図』
- 104 みどり市教育委員会 2014『みどり市内遺跡 5』
- 105 みどり市教育委員会 2015『みどり市内遺跡 6』
- 106 みどり市教育委員会 2016『みどり市内遺跡 7』
- 107 みどり市教育委員会 2017 a『岩宿遺跡F地点』
- 108 みどり市教育委員会 2017 b『西鹿田中島遺跡発掘調査報告書(2)』
- 109 みどり市教育委員会 2018『みどり市内遺跡 8』
- 110 山崎一 1971『群馬県古城址の研究 上巻』群馬県文化事業振興会
- 111 柳田俊夫・阿子島香 2015『群馬県鶴ヶ谷東遺跡発掘調査の研究報告』Bulletin of the Tohoku University Museum No.14 pp.201-276 東北大学総合学術博物館
- 112 群馬県新里村教育委員会 1991『資料集 赤城山麓の歴史地震—弘仁九年に発生した地震とその災害—』
- 113 加部二生 2001『多重塔周辺部分の調査 仏歯様遺跡の発掘調査から』『山上多重塔 建立一二〇〇年記念歴史後援会』新里村教育委員会

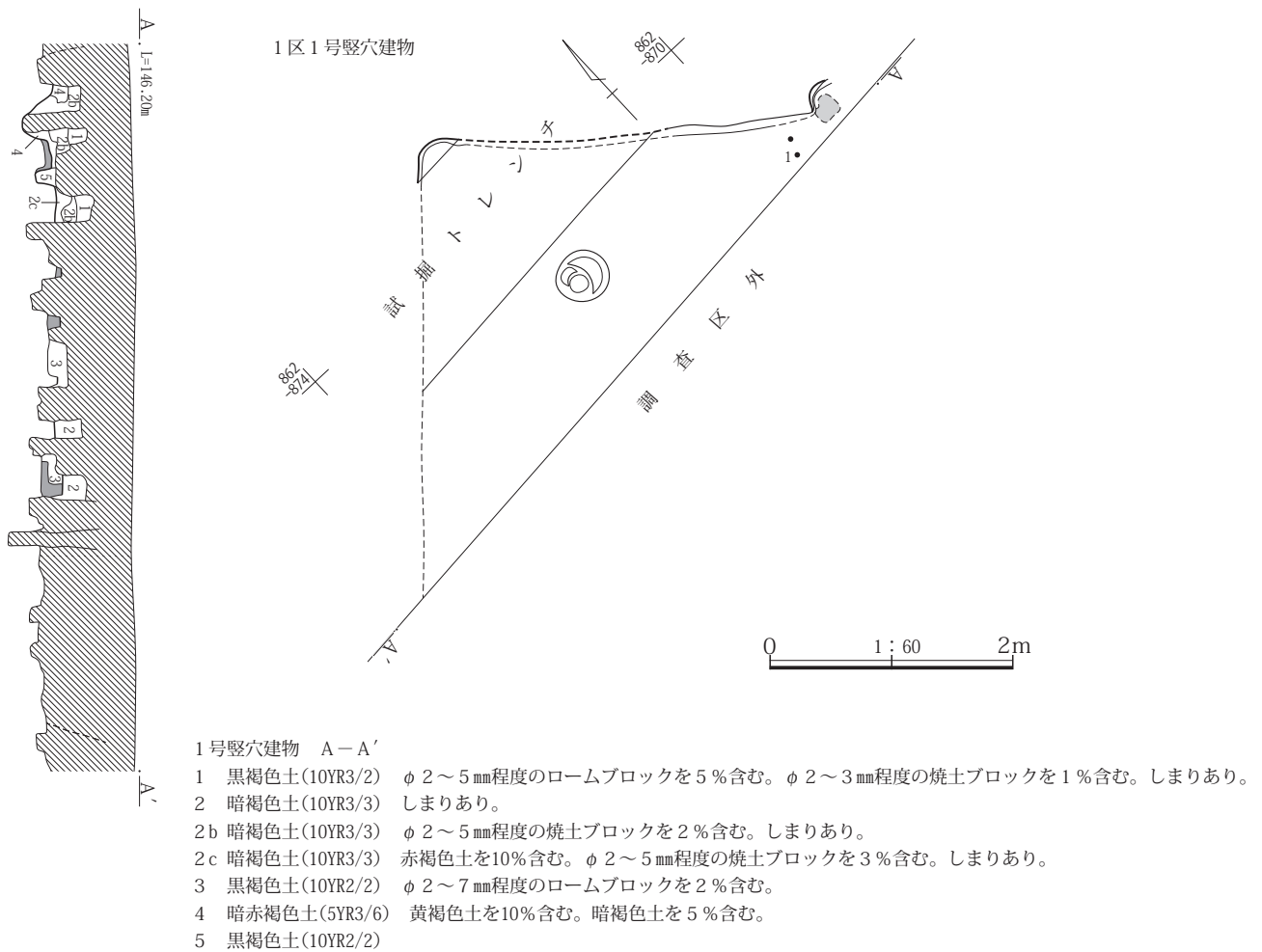
第3章 検出された遺構と遺物

第1節 古墳時代～奈良・平安時代

1号竪穴建物(第6図、PL. 1)

1区北部に位置し、X=44.859～862、Y=-59.869～876の範囲にある。方位N-38°-Eを指す。竪穴建物の大半は調査区外へ延びるため、北コーナーの一部を確認したのみである。残存部からみると長軸推定で3.7m、短軸3.5mを測る。コーナー部からみると形態は方形を

呈し、規模は推定長軸3.7m、短軸3.5mと考えられ、壁高は14～15cmを測る。建物は現代の機械工作機により、15cmの幅で1m以上の深さの溝により攪乱を受けている。北側のコーナー部に試掘のトレンチが確認された。このため床面はほとんどで確認できず、竪穴建物の確認された面積は6.46㎡である。出土遺物は土師器の甕頸部片があるが、計測数値は測れない小片である。このため時期は不明である。



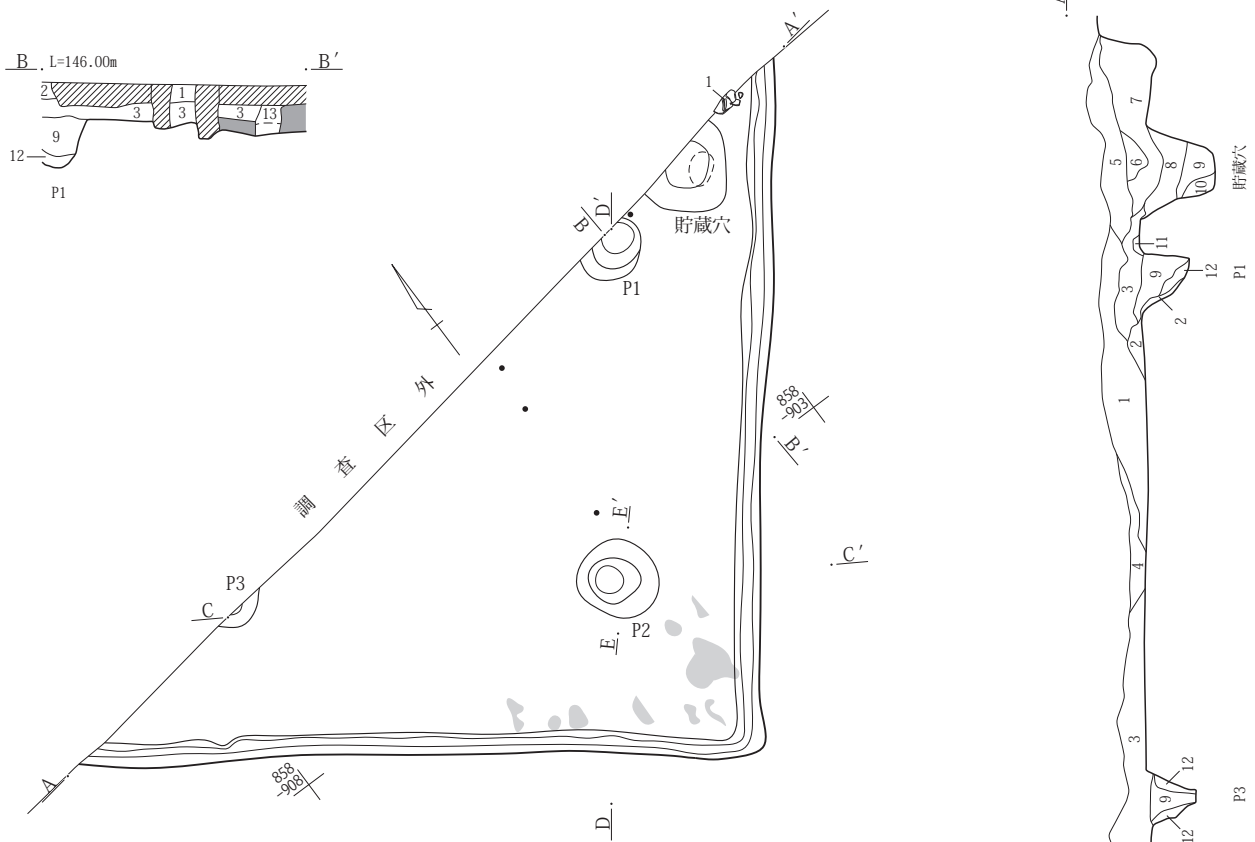
第6図 1号竪穴建物・出土遺物

2号竪穴建物(第7・8図、PL. 1・22)

1区中央部に位置し、X=44.856~860、Y=-52.901~909の範囲にある。方位はN-37°-Eを指す。1号竪穴建物同様コーナー部の一部を確認したのみである。形態は方形を呈し、規模は、東壁残存部5.5m、南西壁5.3m、壁高は25~30cmを測る。竪穴建物は現代の工作機械で攪乱を受けている。床面は平坦をなし、壁周溝が確認された。規模は幅10~15cm、深さ7~10cmある。竪穴建物の確認された面積は12.66㎡である。北側調査区

外に一部かかるが貯蔵穴が確認された。規模は長軸約70cm、短軸約55cm、深さ55cmを測る。床面にはピットが3基確認され、貯蔵穴の西のピットから時計と反対周りにP1~3とした。規模はP1長軸60cm、短軸約50cm、深さ30cm、P2径約60cm、深さ65cm、P3は大半が調査区外に伸び、計測不能である。柱間はP1・P2間が2.7m、P2・P3間は3mを測る。確認された面積は7.65㎡である。出土遺物は土師器甕が確認されている。

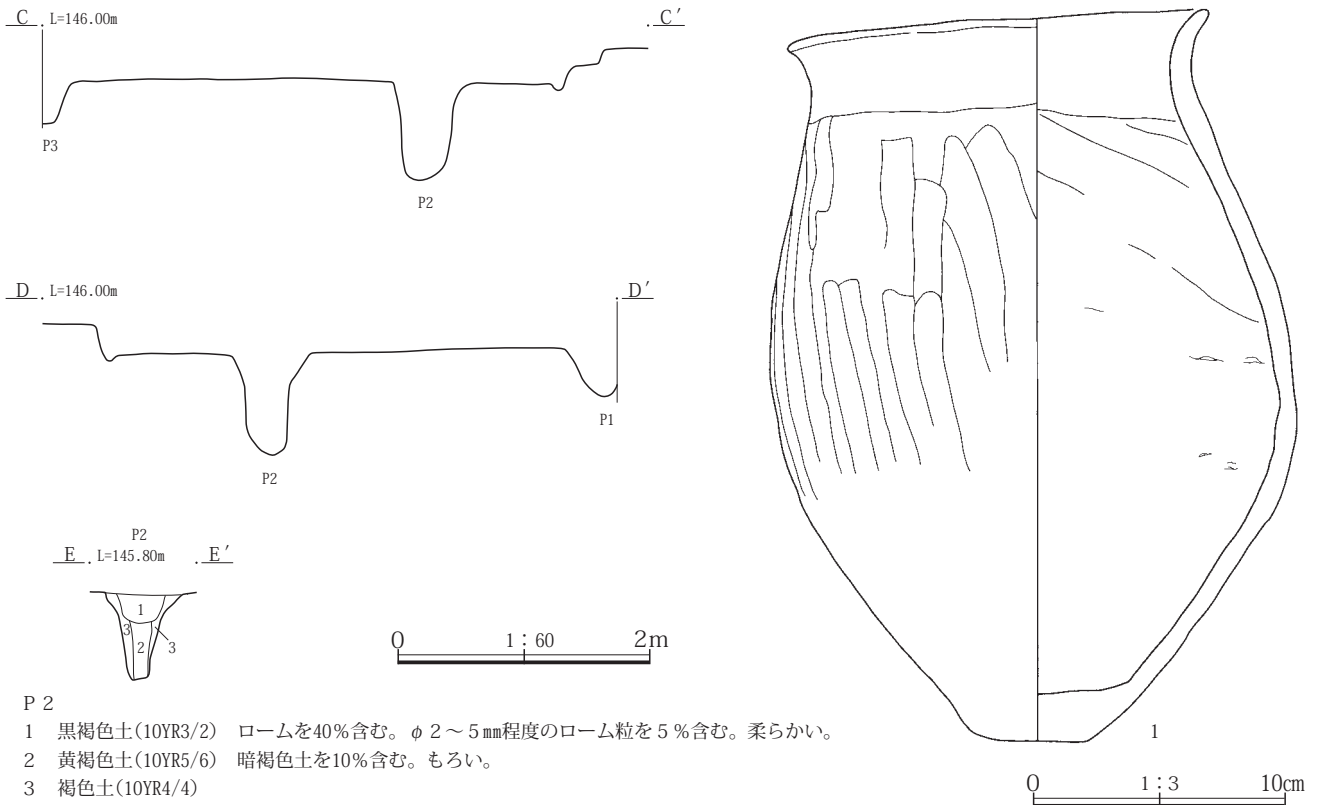
1区2号竪穴建物



2号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) φ2~20mm程度のロームブロックを7%含む。φ3mm程度の赤褐色粒を1%含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) φ2~20mm程度のロームブロックを7%含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) φ2~80mm程度のロームブロックを10%含む。しまりあり。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) φ80mm程度のロームブロックを5%含む。しまりあり。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土3/1を30%含む。φ2~3mm程度のローム粒を2%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) ロームを40%含む。
- 7 暗褐色土(10YR3/2) 部分的に黒褐色土を10%含む。φ2~10mm程度のロームブロックを5%含む。
- 8 暗褐色土(10YR3/4) φ2~10mm程度のロームブロックを5%含む。φ2mm程度の赤褐色粒を1%含む。
- 9 暗褐色土(10YR3/4) ロームを20%含む。
- 10 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
- 11 暗赤褐色土(5YR3/3) カマドの粘土の焼土化。
- 12 黄褐色土(10YR5/6)
- 13 黒褐色土(10YR2/2)

第7図 2号竪穴建物



- P 2
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ロームを40%含む。φ 2～5mm程度のローム粒を5%含む。柔らかい。
 - 2 黄褐色土(10YR5/6) 暗褐色土を10%含む。もろい。
 - 3 褐色土(10YR4/4)

第8図 2号竪穴建物・出土遺物

3号竪穴建物(第9・10図、PL.1・2・22)

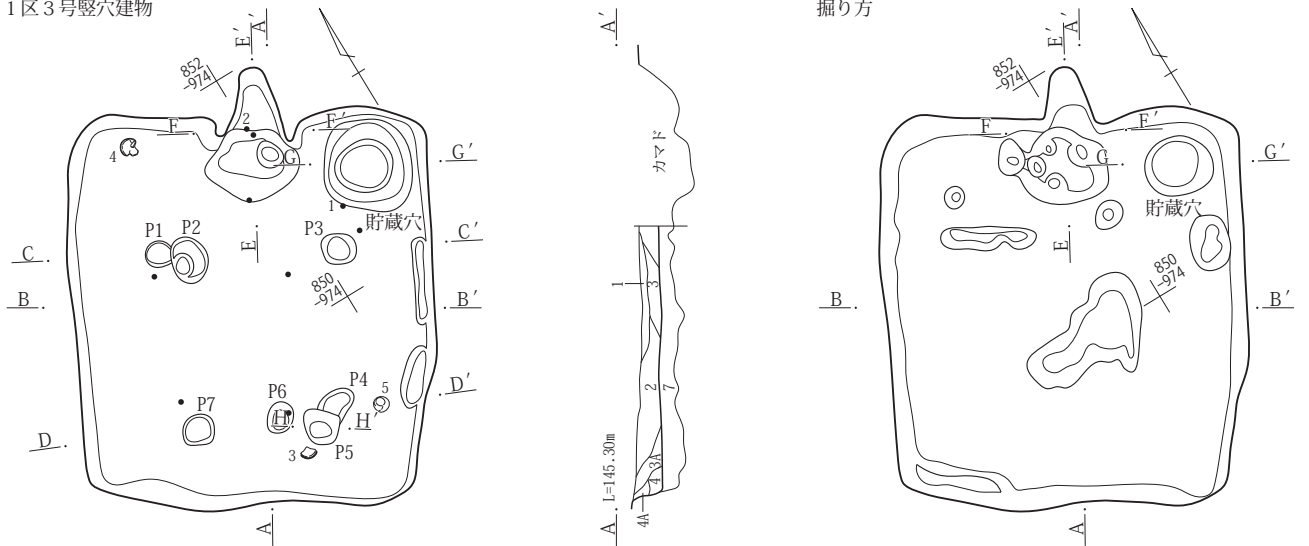
1区南部に位置し、X=44.873～852、Y=-52.873～876の範囲にある。方位はN-31°-Eを指す。形態は長方形を呈し、規模は長辺約3m、短辺約2.8m、壁高は25～30cmを測る。他の遺構との重複はないが、北東部で縄文時代の9号竪穴建物の上にある。このため縄文時代の竪穴建物の一部を壊している。床面は平坦をなし、柱穴と考えられるピットが確認されている。ピットは北西部からP1～P7と図に落とした。各々の規模はP1径20cm、深さ10cm、P2径35cm、P3径20cm、深さ10cm、P4径20cm、深さ10cm、P5径20cm、深さ15cm、P6径15cm、P7径25cm、深さ10cmである。柱穴はP2・3・5・7が対応すると考えられる。またP1・4等は柱の立て直し等が考えられる。北東隅に貯蔵穴が確認された。規模は径70cm、深さ60cmを測る。竈は北壁ほぼ中央に確認された。規模は長軸1m、袖幅60cmを測る。確認された面積は7.65㎡である。出土遺物は土師器甕・杯等が出土している。

4号竪穴建物(第11・12図、PL.2・3・22)

1区南側に位置し、3号竪穴建物の南西にある。X=44.853～855、Y=-52.977～981の範囲にある。他の遺構との関係は6号土坑、P9と重複する。新旧関係は土坑、ピットが新しい。北側の大半は調査区域外に延びている。形態は長方形を呈し、規模は長軸3.0m、短軸推定1.6m、壁高約30cmを測る。方位はN-100°-Eを指す。床面はほぼ平坦をなし、南西隅に2基のピットが確認された。規模はP1径40cm、深さ15cm、P2径40cm、深さ25cmを測る。竈は東壁南寄りに確認された。規模は長軸1.2m袖幅70cmである。両袖部に袖材、構築材と思われる4個の石が確認された。確認された面積は4.33㎡である。出土遺物は竈焚口前に土師器甕、土師器杯、須恵器杯が出土している。

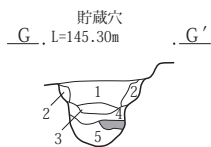
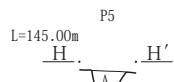
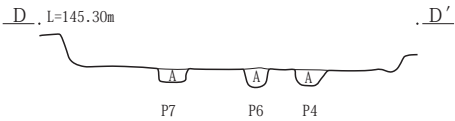
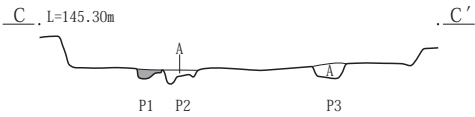
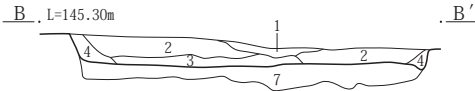
第3章 検出された遺構と遺物

1区3号竪穴建物



3号竪穴建物 A-A'・B-B'

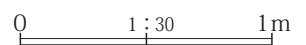
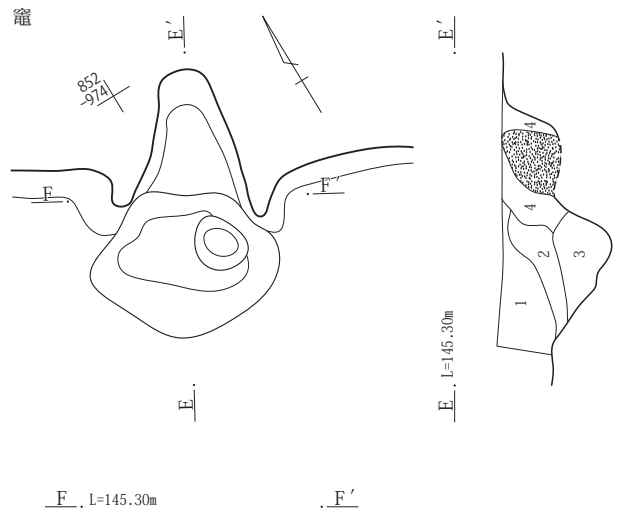
- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ1~2mmの灰白色パミス、φ2mmの褐色パミスを少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) φ20~40mmのロームブロック、φ1~2mmのローム粒を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) φ1~5mmの灰白色パミス、φ2mmの褐色パミスを少量含む。
- 3A 3にロームブロック(φ10mm)が混入。
- 4 ロームブロックの2次堆積土と黒褐色土の混土。
- 4A 4に近似するがロームブロックの混入少ない。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒φ2~10mm少量、灰白色粘土粒φ2~5mm少量、炭化物少量含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 焼土ブロック(φ5~20mm)を含む下層は粘る灰層(灰粒子)含む。
- 7 黒褐色土とロームブロックの混土層。



3号竪穴建物 C-C'・D-D'・P5
A 黒褐色とローム粒の混土。

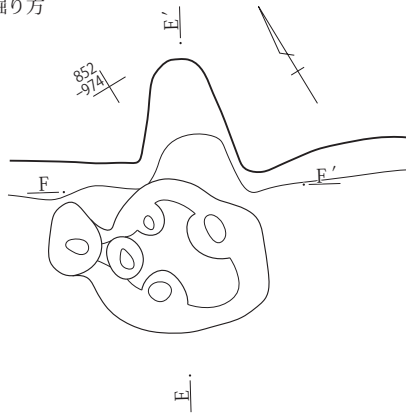
貯蔵穴 G-G'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ2mmの灰白色パミス少量。ローム粒(φ3mm) 焼土粒(φ2mm)少量。
- 2 1にローム粒φ2~10mmを加えたもの。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) φ2mmの灰白色パミス少量含む。粘性あり。
- 4 黒色土(10YR2/1) 細粒の炭化物を多量混入。
- 5 4にローム粒(φ2~10mm)が混入。



第9図 3号竪穴建物(1)

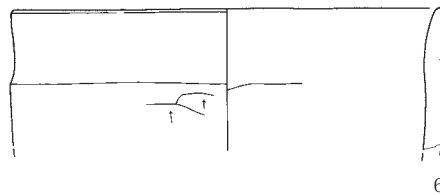
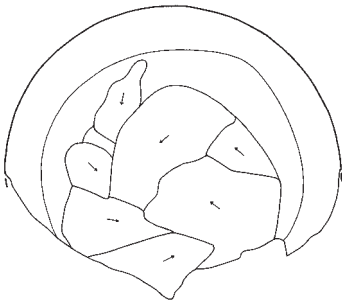
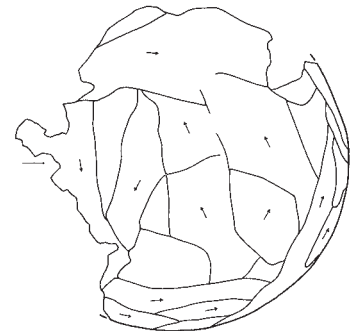
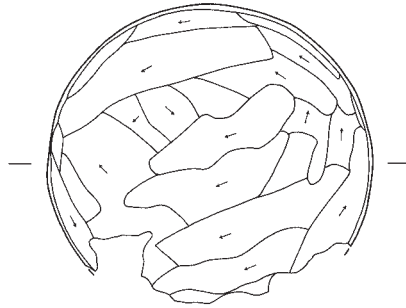
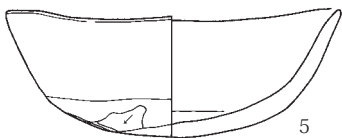
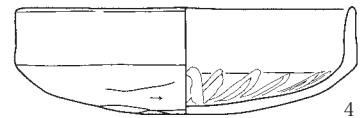
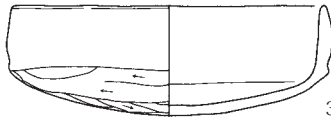
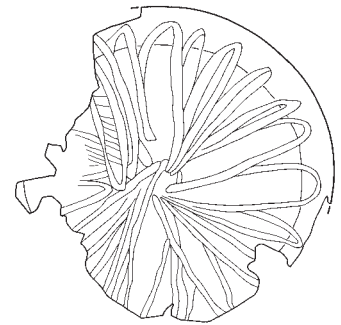
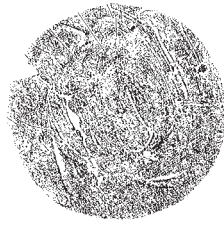
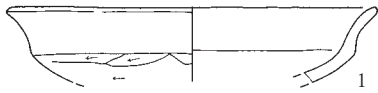
竈掘り方



竈 E-E'・F-F'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ20~40mmのロームブロック、φ1~2mmのローム粒を含む。
- 2 1層にロームブロック(φ20mm)灰白色粘土ブロックが少量混入。
- 3 2に近似するがロームブロック(黄褐色)の混入多い。
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2) 灰黄褐粘土ブロック(φ20~40mm)・焼土ブロック(φ20~30mm)が混入。壁体の崩落塊か？

0 1:30 1m

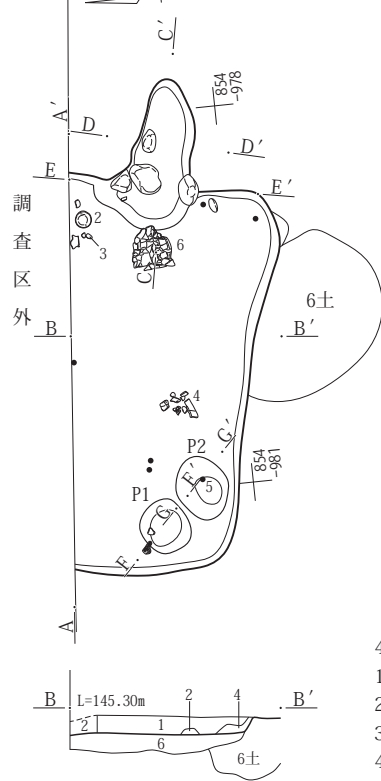


0 1:3 10cm

第10図 3号竪穴建物(2)・出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

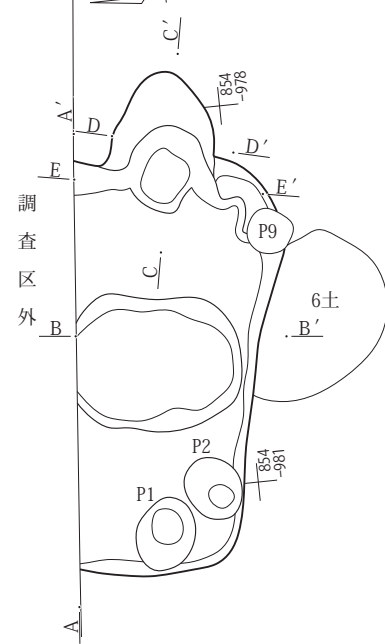
1区4号竪穴建物



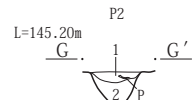
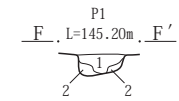
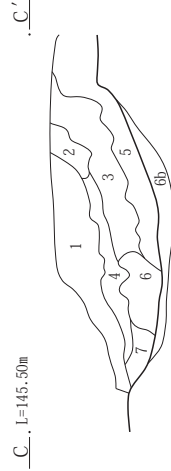
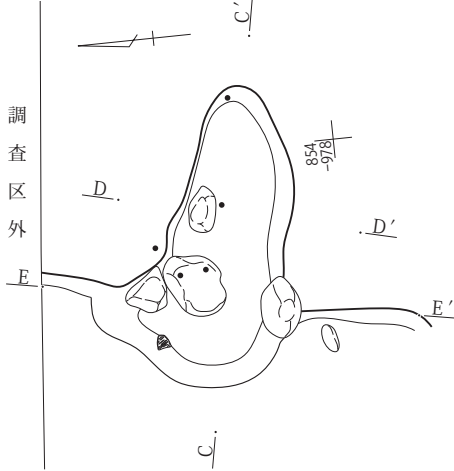
4号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) しまりあり。黄褐色土は攪乱の土。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色土を20%含む。もろい。
- 3 褐色土(10YR4/4)
- 4 黒褐色土(10YR3/2) しまりあり。暗褐色土を40%含む。ロームを10%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色土を40%含む。黄褐色土はロームの二次堆積。
- 6 黒褐色土とローム粒・ロームブロックの混土層。

掘り方

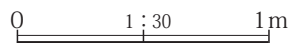
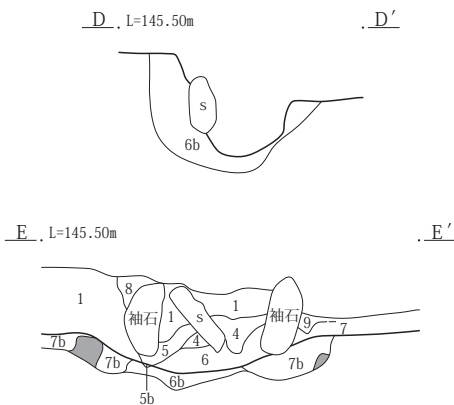
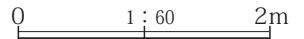


竈

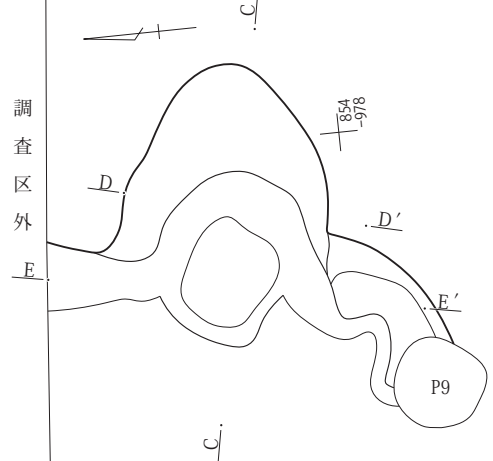


4号竪穴建物 P1・P2

- 1 黒褐色土(10YR2/2)
- 2 暗褐色土(10YR3/4)ロームを30%含む。
φ 2~10mm程度のロームブロックを5%含む。



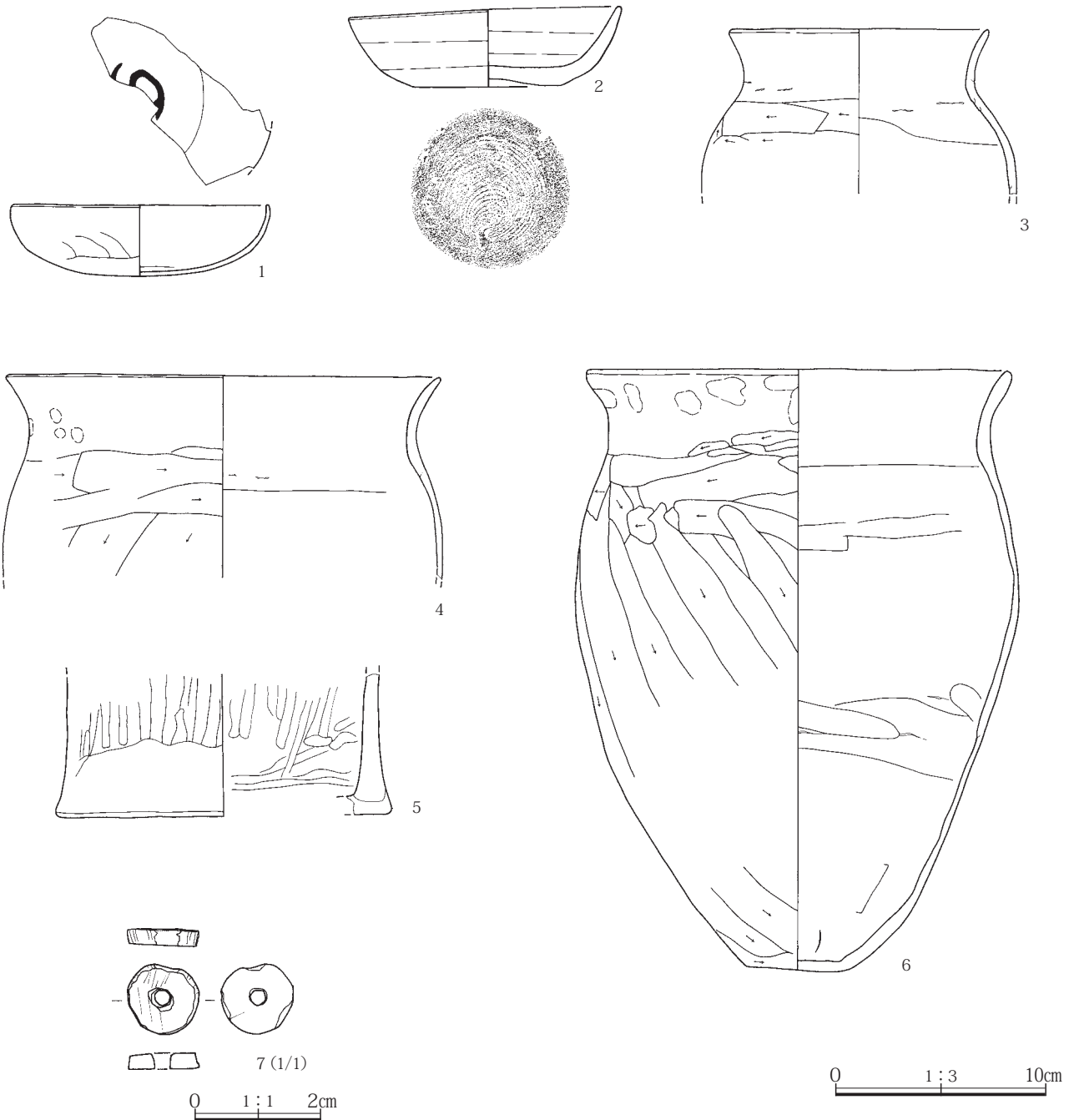
竈掘り方



第11図 4号竪穴建物

竈 C-C'・D-D'・E-E'

- 1 黒褐色土(7.5YR2/2) φ2~7mm程度の赤褐色粒を5%含む。φ1~2mm程度の白色粒を2%含む。φ1~5mm程度の黄褐色粒を2%含む。固くしまる。
- 2 灰褐色土(5YR4/2) 黒褐色土を30%含む。赤褐色土を10%含む。しまりあり。天井壁の焼土化。
- 3 黒褐色土(5YR3/1) φ2~3mm程度の赤褐色粒を2%含む。φ2~25mm程度の黄褐色粒を8%含む。しまりあり。
- 4 暗赤褐色土(5YR3/6) 暗褐色土を30%含む。φ3~7mm程度の黄褐色粒を2%含む。燃焼部の焼土化。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) 褐色土を20%含む。
- 5b 5にロームを30%含む。
- 6 黒褐色土(5YR2/2) φ1~2mm程度の赤褐色粒を2%含む。柔らかい。
- 6b 6にロームを30%含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/2) しまりあり。
- 7b 7にロームを30%含む。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2) 固くしまる。
- 9 褐灰色土(5YR4/1) しまりあり。



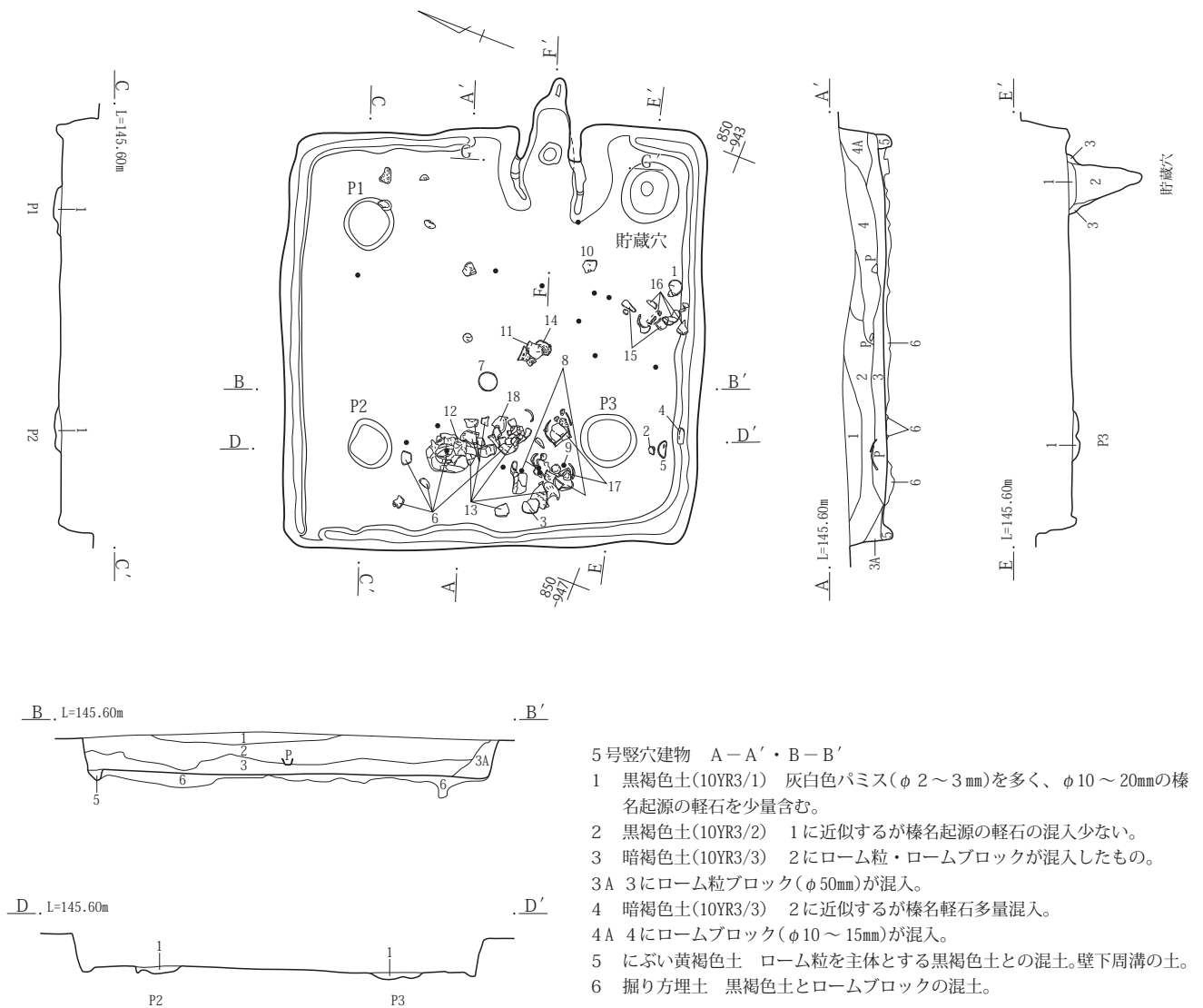
第12図 4号竪穴建物出土遺物

5号竪穴建物(第13～17図、PL.3・4・23・24)

1区中央部に位置し、X=44.849～854、Y=-52.943～947の範囲にある。方位はN-70°-Eを指す。形態は方形を呈し、規模は長辺、短辺約3.5m、壁高は35～40cmを測る。他の遺構との重複はない。床面は平坦をなし、南西隅に貯蔵穴、ピットが3基確認された。壁周溝が確認され、深さ10cmを測る。ピットは北東隅をP1とし、

時計と反対周りにP1～3とした。規模はP1径45cm、深さ5cm、P2径45cm、深さ5cm、P3径45cm、深さ5cmを測る。南東隅には確認できなかったが柱穴と考えられる。南東隅に貯蔵穴が確認された。規模は径50cm、深さ65cmを測る。竈は東壁南寄りに確認された。規模は長軸1.2m、袖幅60cmである。確認された面積は11.88㎡である。出土遺物は、床面西側に土師器甕、杯が出土している。

1区5号竪穴建物

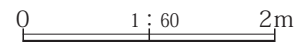


5号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色パミス(φ2～3mm)を多く、φ10～20mmの榛名起源の軽石を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 1に近似するが榛名起源の軽石の混入少ない。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 2にローム粒・ロームブロックが混入したもの。
- 3A 3にローム粒ブロック(φ50mm)が混入。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 2に近似するが榛名軽石多量混入。
- 4A 4にロームブロック(φ10～15mm)が混入。
- 5 にぶい黄褐色土 ローム粒を主体とする黒褐色土との混土。壁下周溝の土。
- 6 掘り方埋土 黒褐色土とロームブロックの混土。

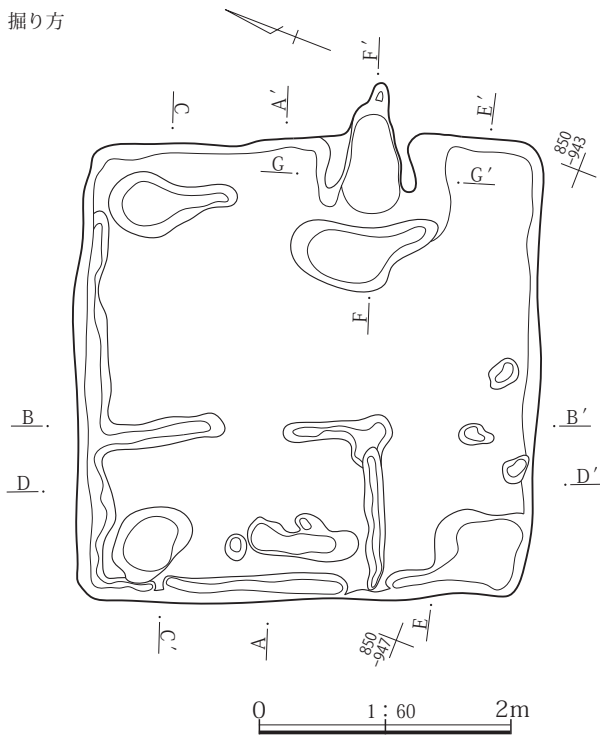
5号竪穴建物 C-C'・D-D'・E-E'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒・ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を多量含む。
- 3 ロームを主体とする黒褐色土の混入あり。

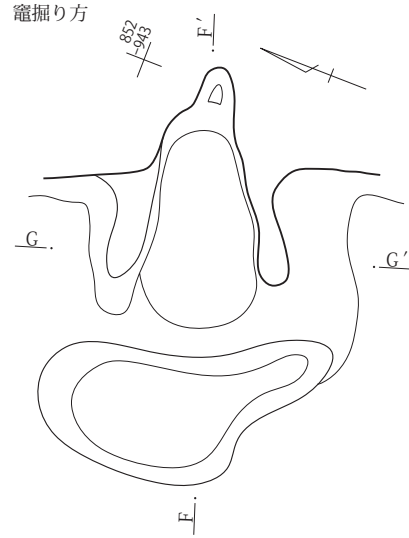


第13図 5号竪穴建物(1)

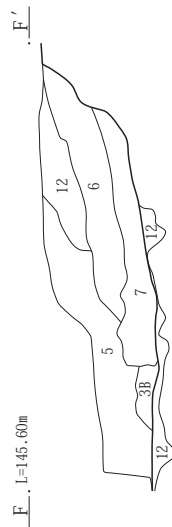
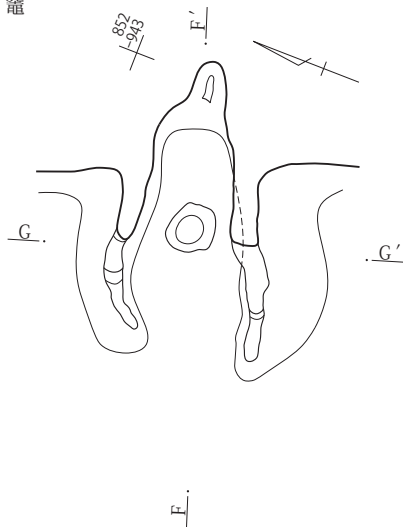
掘り方



竈掘り方



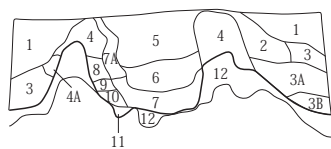
竈



竈 F-F'・G-G'

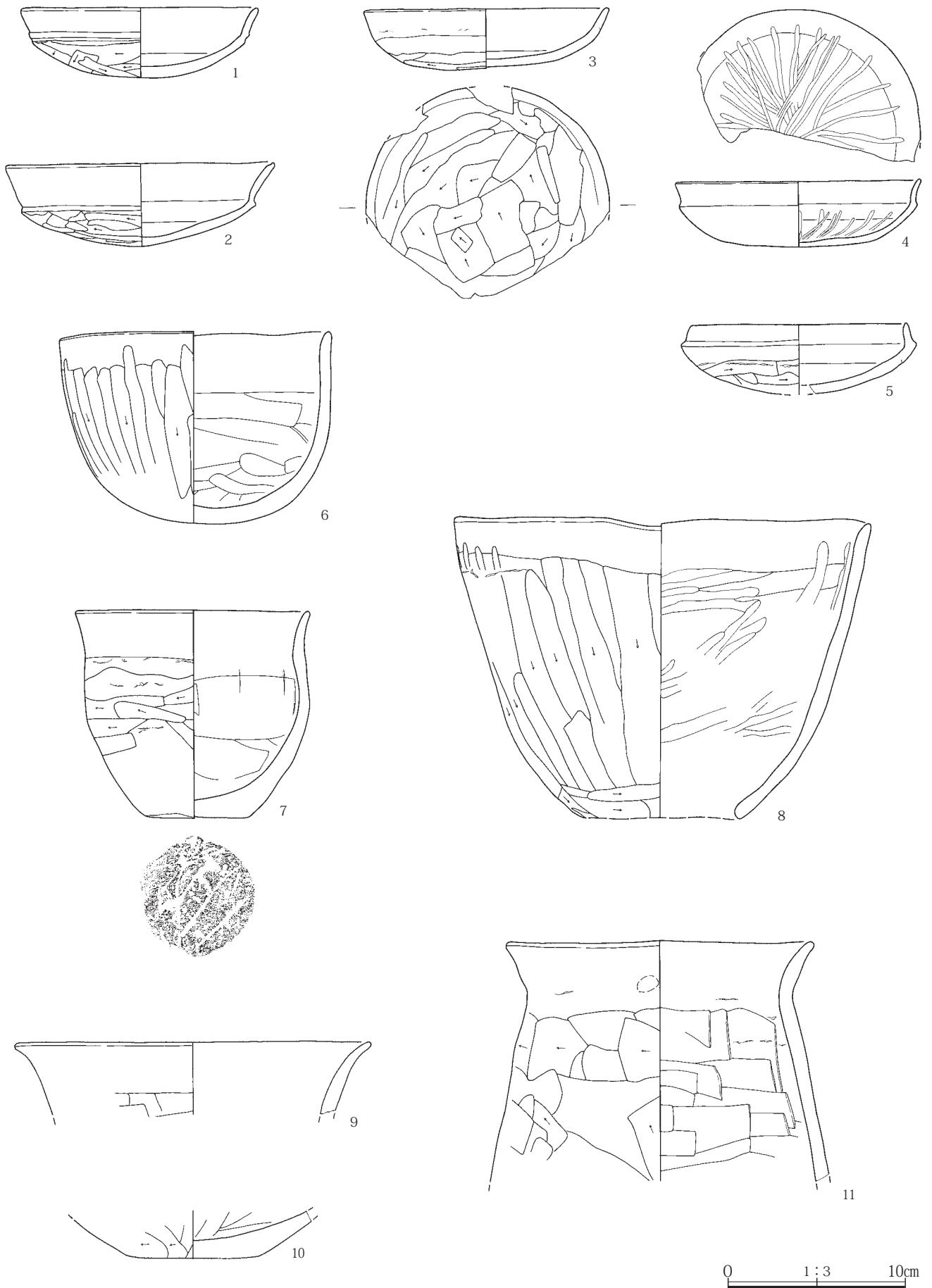
- 1 褐灰色土(10YR4/1) 微細の灰黄褐色粒子φ1~3mmの灰白色パミス少量の焼土粒(φ2mm)を含む。
- 2 褐灰色土(10YR4/1) 少量の灰黄褐色粒(微細)灰白色パミス(φ2mm)を含む灰黄褐色粘土粒子の流れ込みあり。
- 3 1に近似するが焼土粒子(φ5mm)の混入あり。灰黄褐色粒子灰白色パミスの混入少ない。
- 3A 3に近似するがやや黒味が強く黒褐色(10YR3/1)を呈す。
- 3B 3Aにローム粒・ロームブロックが多く混入。
- 4 灰褐色土(10YR4/2) 灰白色パミス(φ1~2mm)を少量含む。
- 4A 4にローム粒(φ5mm)が少量混入。
- 5 4に近似。灰黄褐色粘土粒(壁体の2次堆積か?)
- 6 5に近似。5より灰白色パミスの混入少ない。
- 7 6に焼土粒(φ2~10mm)が多く混入。少量の炭化物粒あり。
- 7A 7より焼土粒の混入少ない。
- 8 黒褐色土(10YR3/1) 少量の焼土粒(φ2~3mm)灰白色パミス含む。
- 9 8と10の混土。
- 10 黒色土(10YR2/1) 炭化物粒子(微量)を多量含む。
- 11 3Bに焼土粒子が少量混入。
- 12 掘り方埋土 灰黄褐色(灰まじり)。

G, L=145.60m

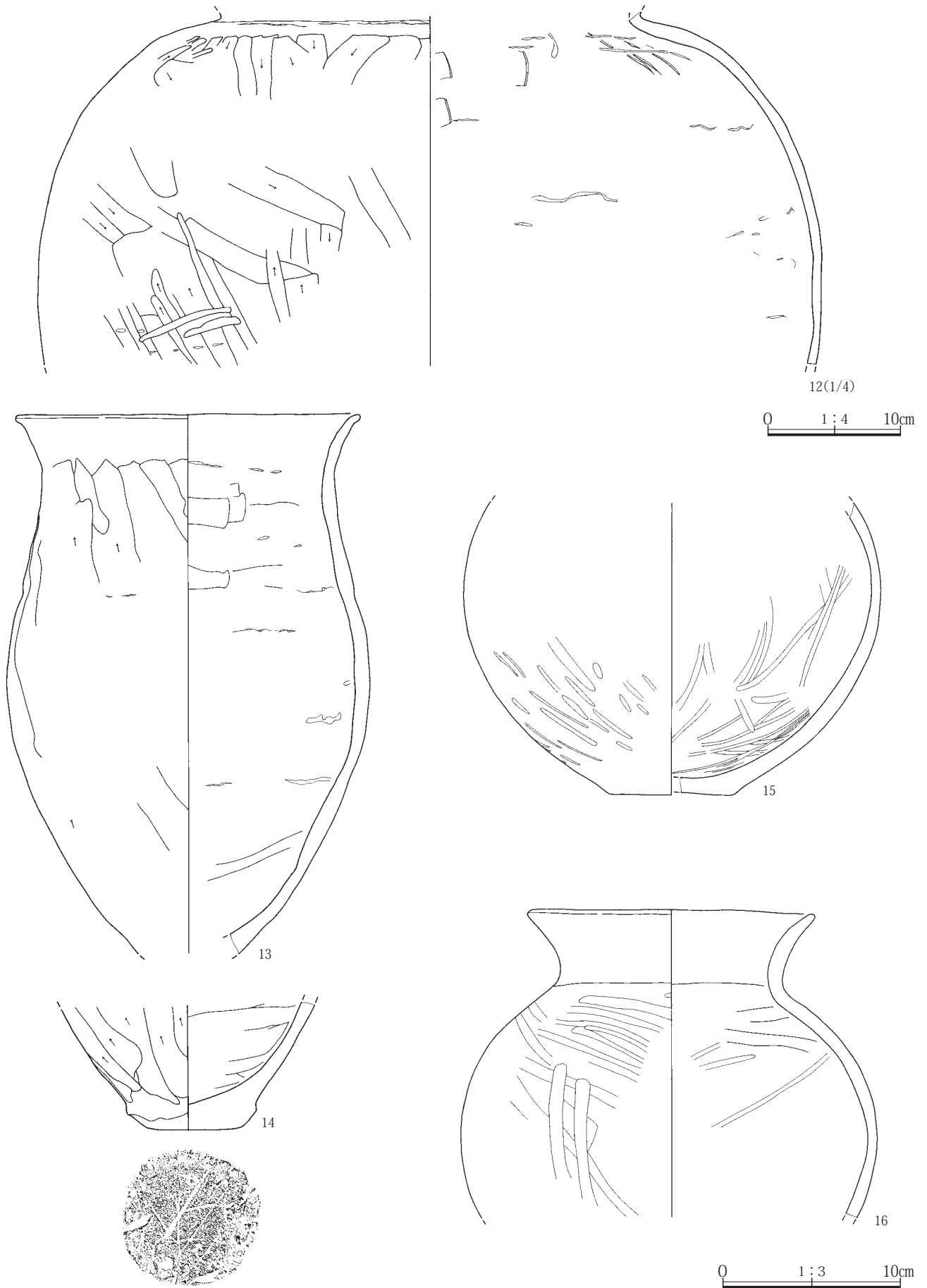


0 1:30 1m

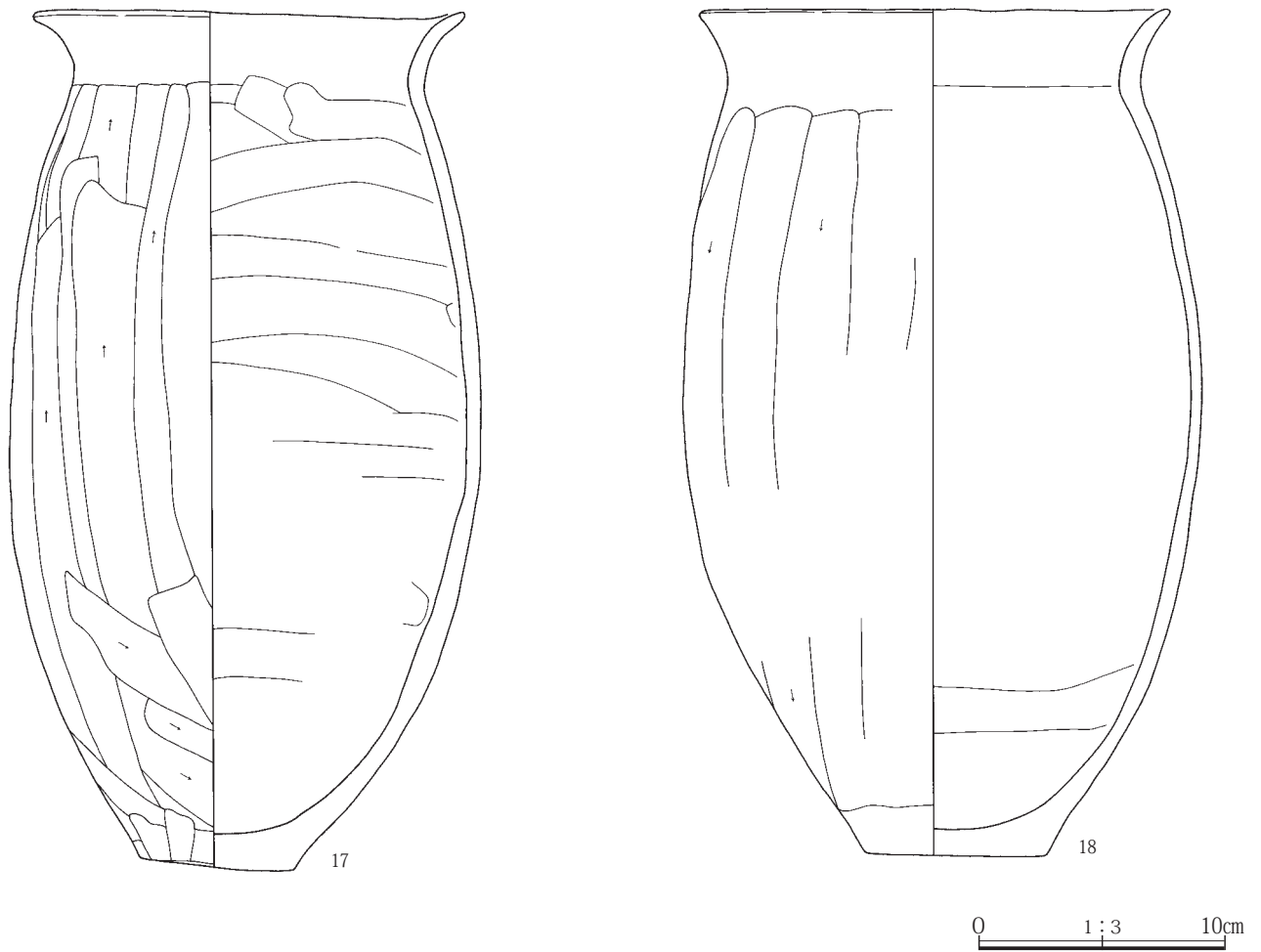
第14図 5号竪穴建物(2)



第15図 5号竪穴建物出土遺物(1)



第16図 5号竪穴建物出土遺物(2)



第17図 5号竪穴建物出土遺物(3)

6号竪穴建物(第18図、PL. 4・25)

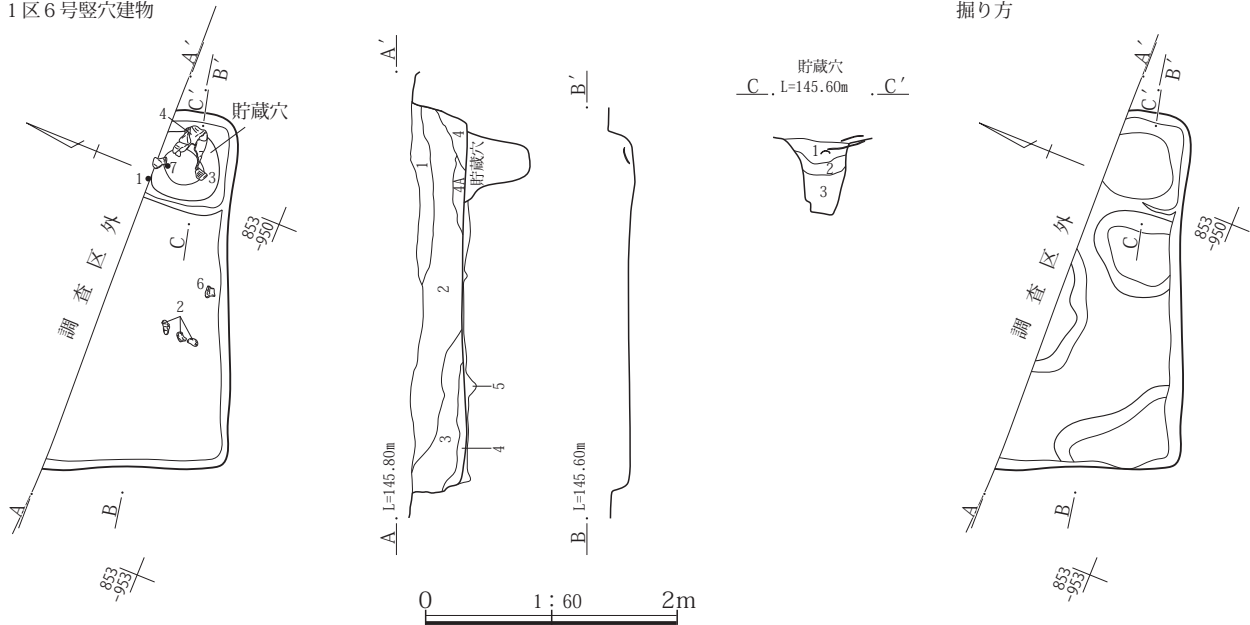
1区中央部に位置し、5号竪穴建物の南西にある。X=44.857～858、Y=-52.949～952の範囲にある。方位はN-70°-Eを指す。遺構の北側大半は調査区外に延び、南側の一部を確認したのみである。壁高は約17cmを測る。

南東隅に貯蔵穴を確認した。規模は径55cm、深さ50cmを測る。確認された面積は2.42㎡である。出土遺物は土師器甕片が確認された。

10号竪穴建物(第19図、PL. 5・25)

3区南部に位置し、X=44.878～881、Y=-52.049～054にある。南・西部の大半は攪乱によって壊されている。このため形態・規模は確認できないが、わずかに東壁を確認した。東壁の壁高は約10cmを測る。確認した部分の真ん中にピットが確認された。規模は径約80cm、深さ30cmを測る。確認された面積は34.13㎡である。出土遺物は灰釉陶器耳皿、土師器甕、須恵器壺・椀の高台部、砥石が1点出土している。

1区6号竪穴建物

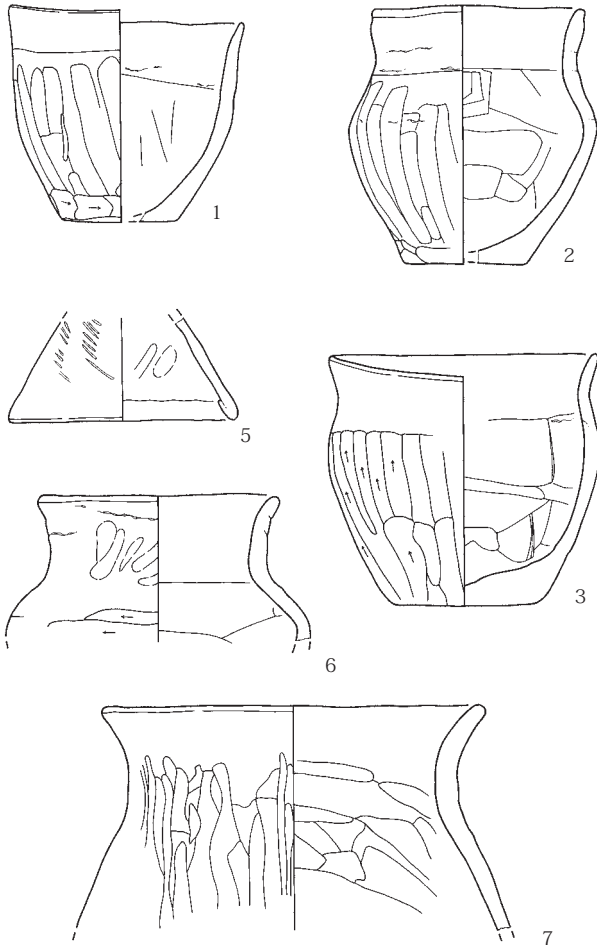


貯蔵穴

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒子(φ2~3mm)を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロックを少量含む。
- 3 ローム粒を主体とするロームブロック(φ10~20mm)の混入あり。

6号竪穴建物 A-A'

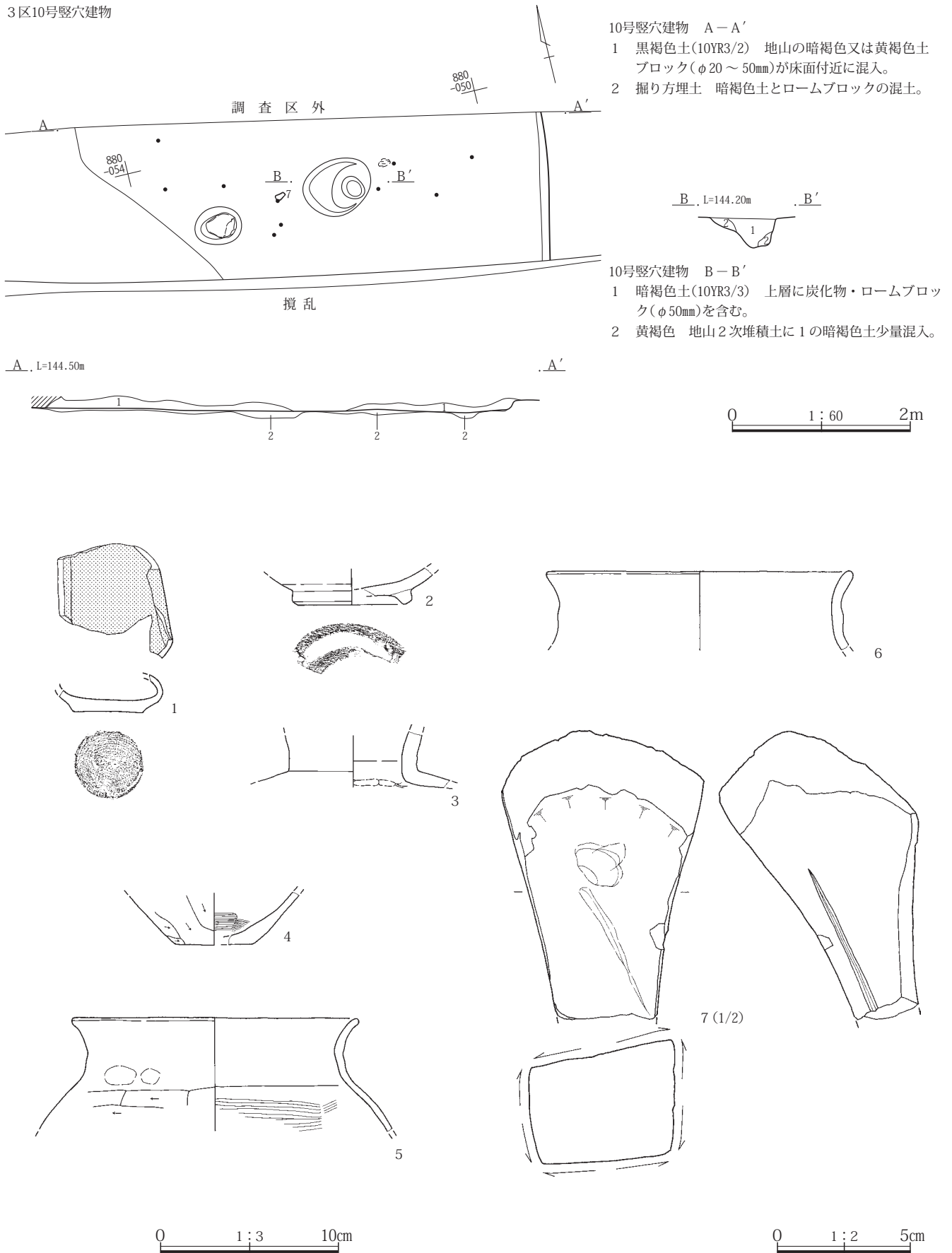
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色軽石(φ2~7mm)明黄褐色パミス(φ5mm)を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) φ2~10mmの灰白色パミスを多量含む。明黄褐色パミス少量、下層(下位)にローム粒・ロームブロック(φ5mm以下)を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色パミス(φ2mm)・黄褐色パミス(φ2mm)を含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 3にローム粒・ロームブロックを多量混入したもの。4A 4に近似するがローム粒、ロームブロックの混入少ない。
- 5 暗褐色土とローム2次堆積土の混土。



第18図 6号竪穴建物・出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

3区10号竪穴建物



第19図 10号竪穴建物・出土遺物

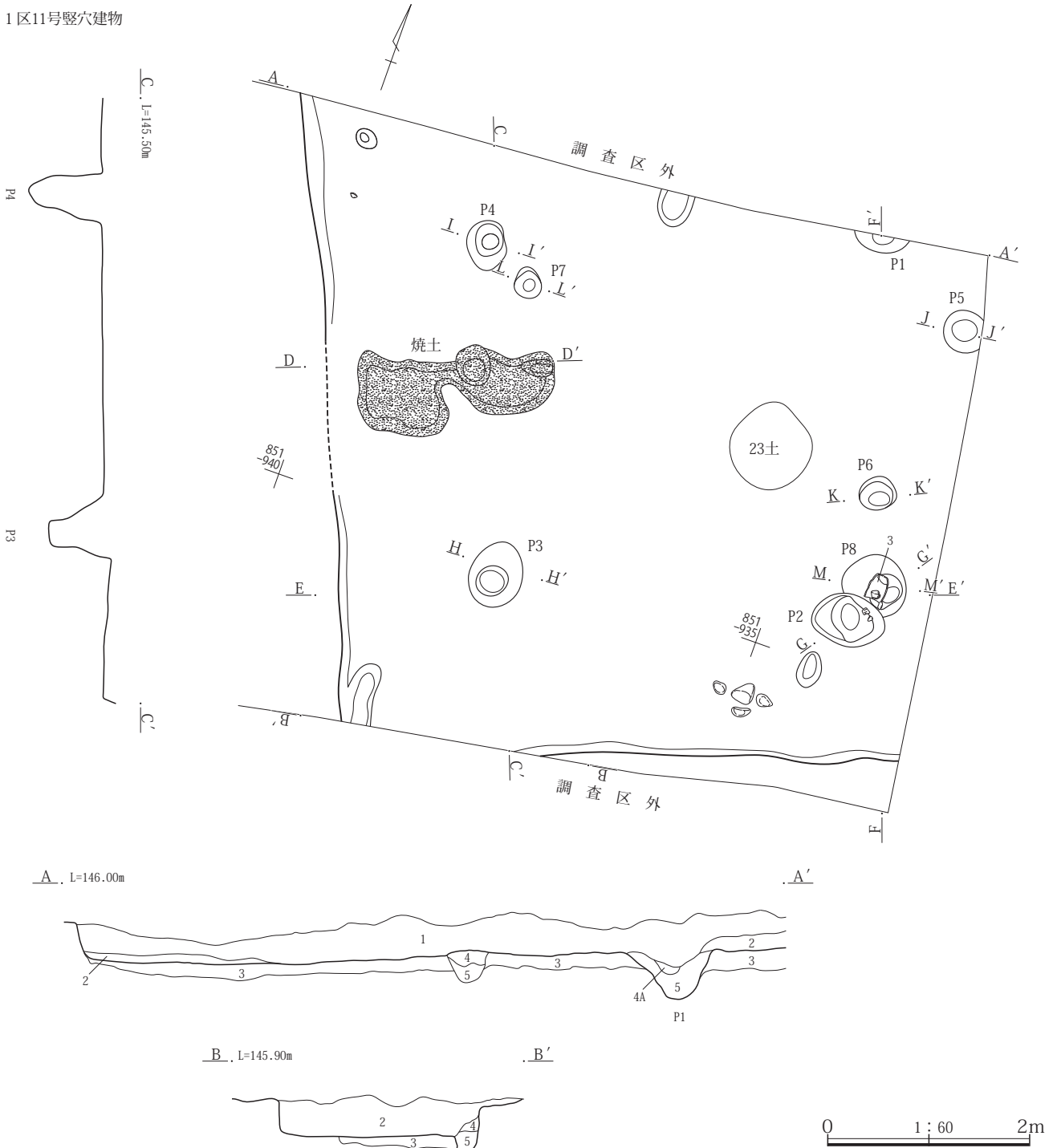
11号竪穴建物(第20～22図、PL. 5・26)

1区中央部に位置し、X=44.848～855、Y=-52.933～941の範囲にある。5号竪穴建物の北にある。方位はN-100°-Wを指す。形態は方形を呈し、規模は推定で長軸約6.6m、短軸6m、壁高は15～20cmを測る。東側の大半は調査区外に延びる。他の遺構との関係は縄文時代の23号土坑と重複する。新旧関係は竪穴建物があたらしい。床面からピットが7基確認され、P1・3・4・

7が柱穴と考えられる。規模はP1 径40cm、深さ50cm、P2 径約45cm、深さ45cm、P3 径約45cm、深さ50cm、P4 径約25cm、深さ25cm、P5 径約30cm、深さ65cm、P6 径約20cm、深さ55cm、P7 径約40cm、深さ40cmを測る。

確認された面積は34.13㎡である。出土遺物はP7覆土上面で甗が出土した。

1区11号竪穴建物



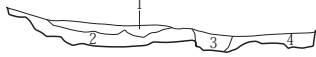
第20図 11号竪穴建物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

11号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒(φ 2~5mm)を多量含む。少量のローム粒(φ 2~10mm)を下位に多量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(微細~φ 40mm)を斑点状に含む。
- 3 黒褐色土とロームブロックの混土。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) φ 2~4mmの灰白色粒を含む。
- 4A 4にローム粒の混土。
- 5 4にローム粒・ロームブロック(φ 2~30mm)混土。

D, L=145.60m



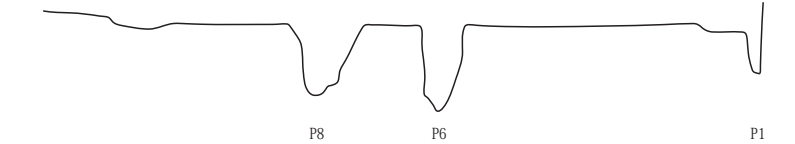
D' 焼土 D-D'

- 1 オリーブ灰(2.5GY6/1) 色粘土と黒褐色土との混土。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒・ロームブロックを多量含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。
- 4 暗褐色土とロームブロックの混土。

E, L=145.50m



F, L=145.50m



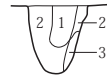
G, L=145.40m



P 2

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ロームブロック(φ 2~30mm)を含む。

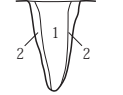
H, L=145.30m



P 3

- 1 褐灰色土(10YR4/1) ローム粒・ロームブロック(φ 微~3mm)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒・ロームブロック(φ 微~15mm)を含む。
- 3 黒褐色土ブロック。

I, L=145.20m



P 4

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4) (柱痕?)ローム粒・ロームブロック(φ 5mm)を多量含む。
- 2 にぶい黄橙色土(10YR7/4) ローム粒を多量含む。

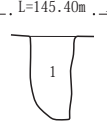
J, L=145.40m



P 5

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒の混入あり。
- 2 黒褐色土とロームブロックの混土。

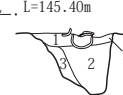
K, L=145.40m



P 6

- 1 黒褐色土ローム粒を多量に含む。

L, L=145.40m



P 8

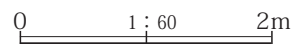
- 1 黒褐色(10YR3/2) ローム粒(φ 5~10mm)を含む。
- 2 暗褐色(10YR3/3) ローム粒を多量に含む。
- 3 2にロームブロック(φ 10mm)を混土。

M, L=145.20m

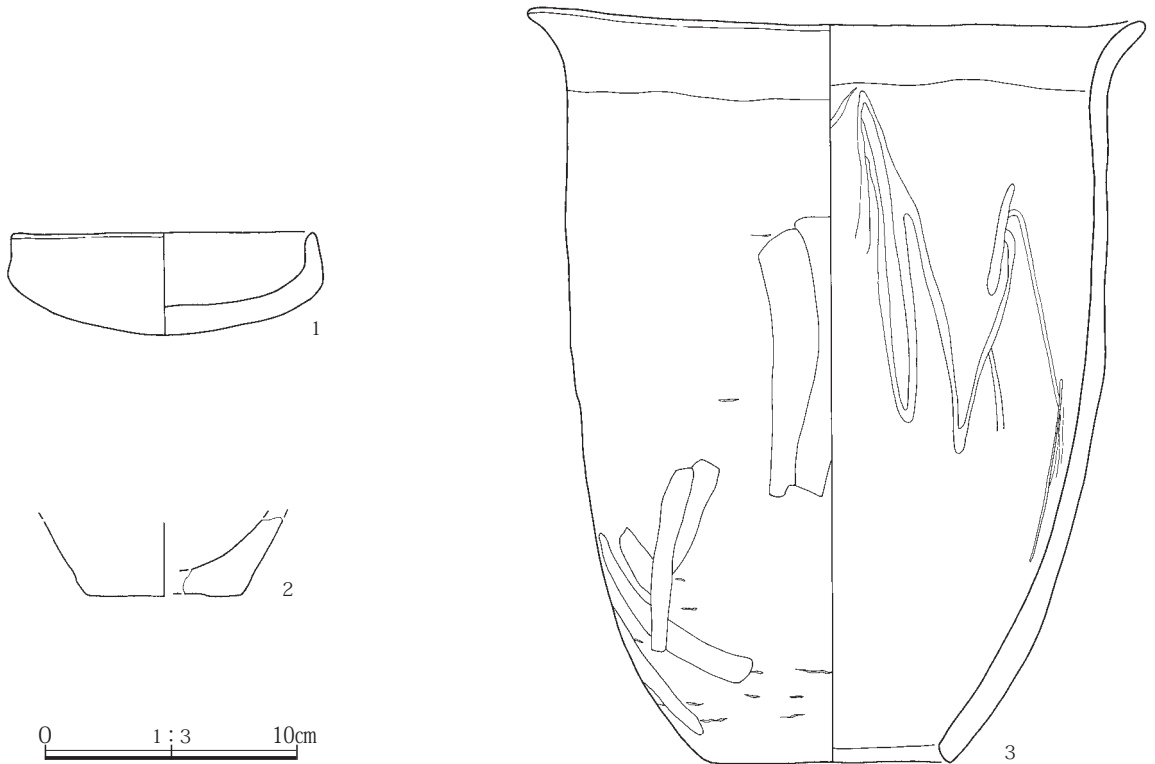
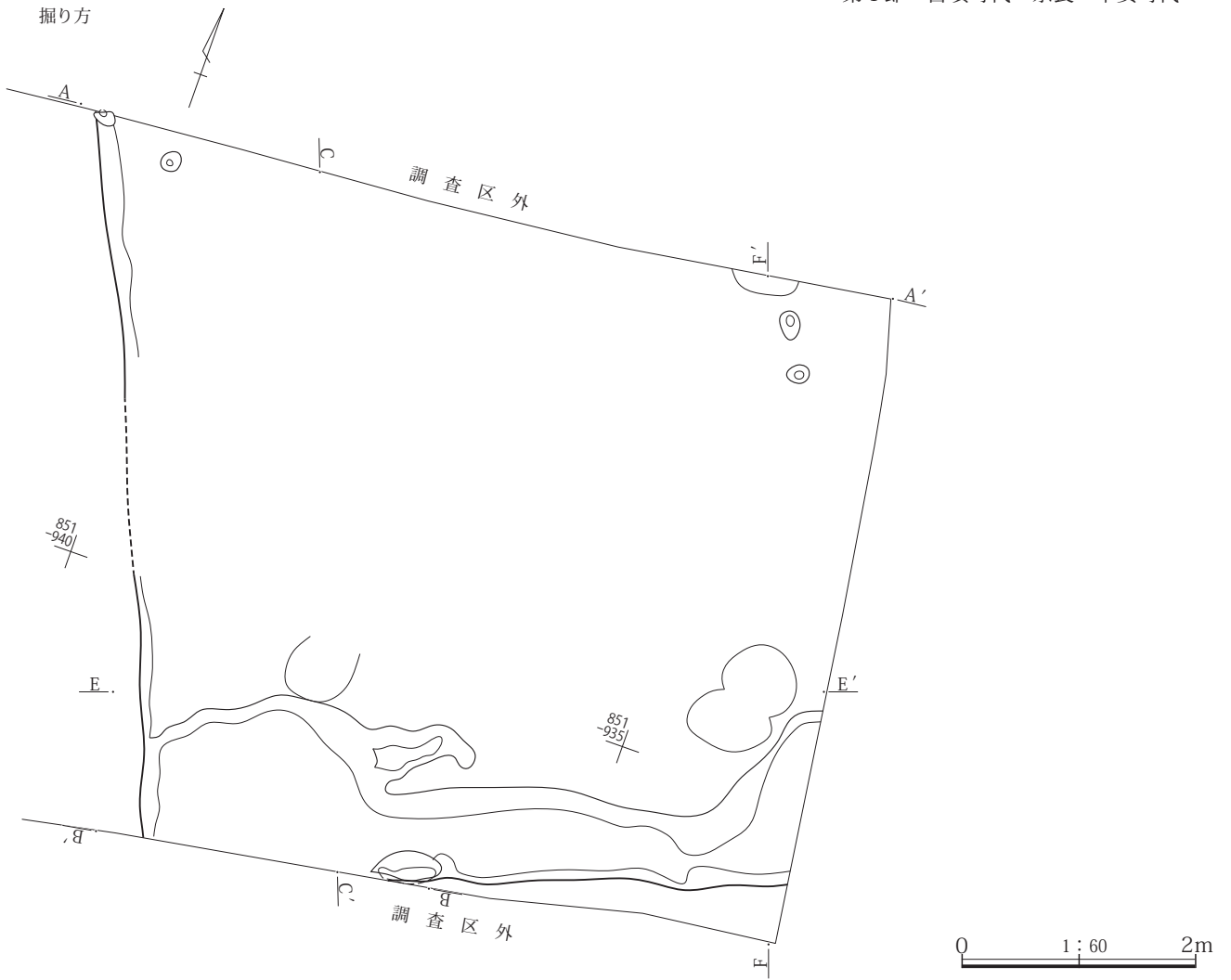


P 7

- 1 褐灰色土(10YR4/1)



第21図 11号竪穴建物(2)



第22図 11号竪穴建物(3)・出土遺物

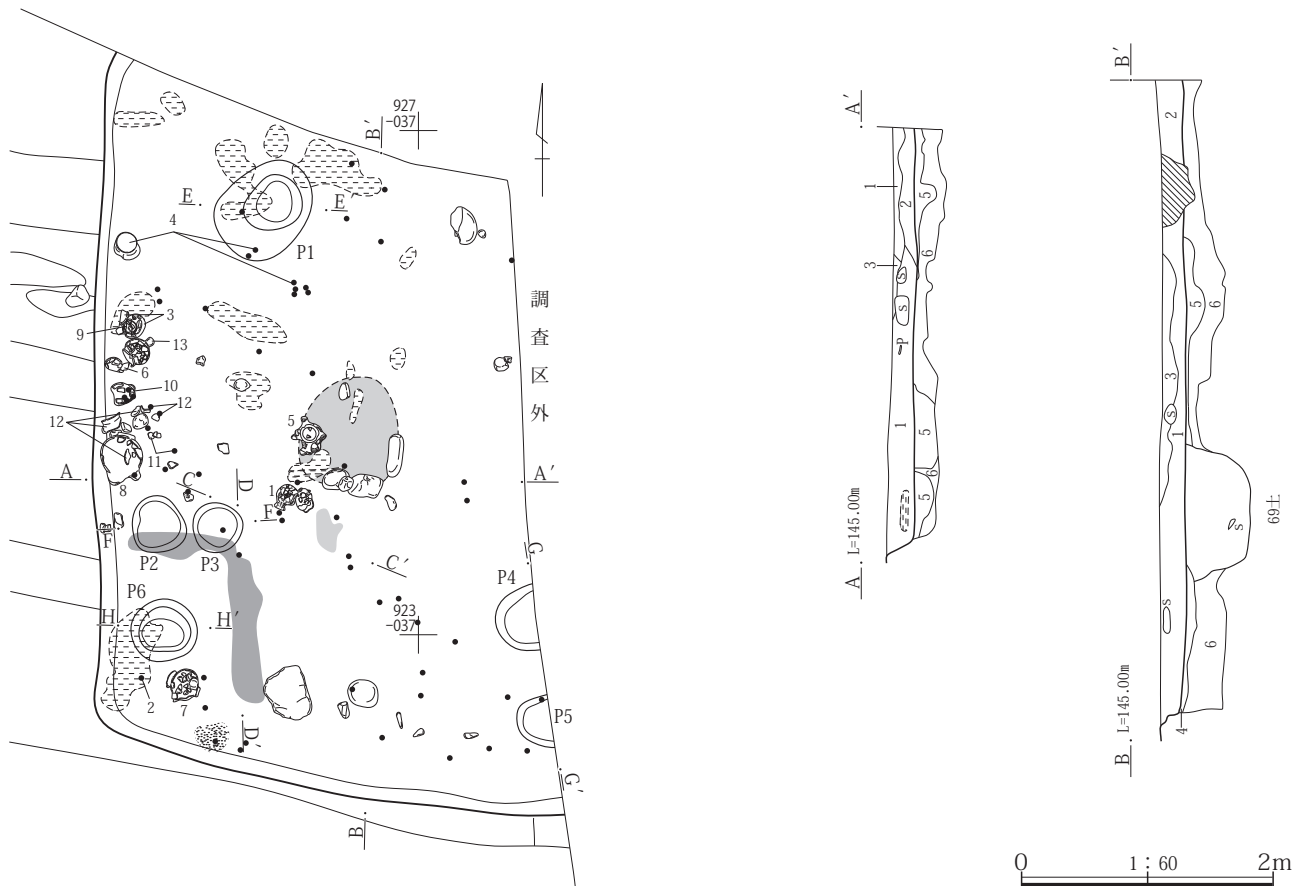
12号竪穴建物(第23～26図、PL. 5・26～28)

3区北部に位置し、X=44.921～927、Y=-53.035～039の範囲にある。方位はN-4°-Eを指す。北・東側は調査区の外へ延びる。このため形態は長方形、あるいは方形と考えられる。規模は残存部で南北5.0m、東西3.45m、壁高は10～15cmを測る。他の遺構との関係は69号土坑と重複する。新旧関係は69号土坑が縄文時代前期のものと考えられるため12号竪穴建物があたらしい。

床面は平坦をなし、床上には焼土、炭化物、ローム混土が確認されている。炉がほぼ中央部西に確認された。規模は長軸90cm、短軸で70cmを測り、掘り込みはほとんど確認できなかった。周囲に数個の石が確認され、枕石

の可能性が高いが、時期的にみて囲むことは無いと考えられる。床面にはピットがP1～6の6基が確認された。規模はP1径約80cm、深さ45cm、P2径約30cm、深さ10cm、P3径約35cm、深さ15cm、P4径約35cm、深さ25cm、P5径約40cm、深さ15cm、P6径約45cm、深さ35cmを測る。確認された面積は16.93㎡である。出土遺物はS字状口縁台付甕、単口縁台付甕、壺、甕等すべて古墳時代前期に比定される土師器である。図示できなかった遺物のなかに単口縁の小形甕や赤彩された異形高坏が出土している。

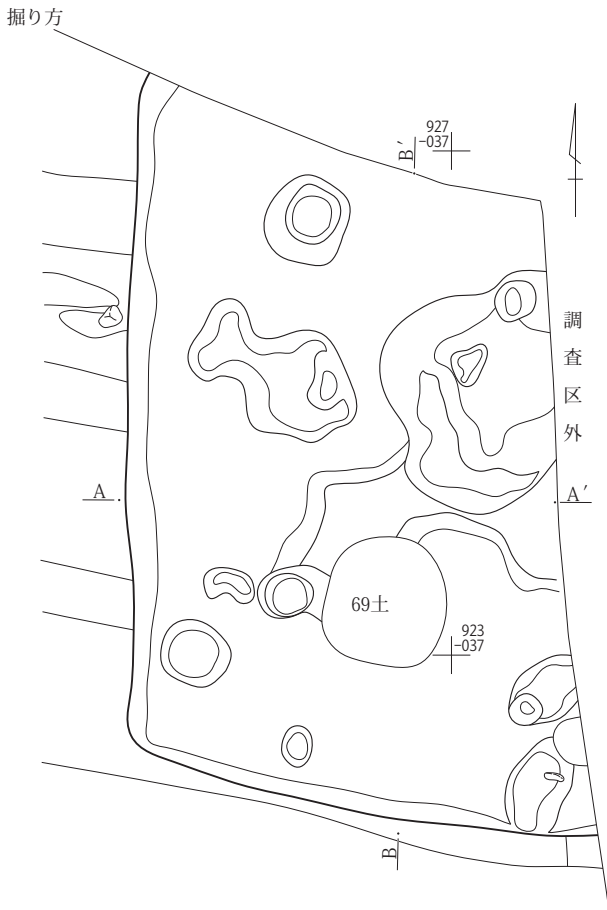
3区12号竪穴建物



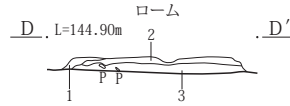
12号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) φ1～3mmの灰白色パミスを比較的多量含む。炭化物粒・ローム粒・焼土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 1にロームブロック(φ20～30mm)を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物を含むため黒色味がつよい。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) ロームを5%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) ロームを10%含む。固くしまる。
- 6 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土を10%含む。固くしまる。

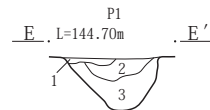
第23図 12号竪穴建物(1)



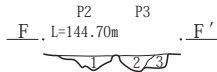
- C-C'
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒・炭化物粒を含む。
 - 2 黒褐色土(10YR3/1) 少量の焼土粒(φ 2mm)を含む。
 - 3 黒褐色土(10YR3/2) 少量の焼土粒(φ 2mm)を含む。



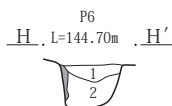
- D-D'
- 1 暗褐色土(5YR3/2) 焼土を10%含む。やや柔らかい。
 - 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 暗褐色土を斑状に20%含む。しまりあり。粘土質。
 - 3 黒褐色土(10YR3/2) ロームを10%含む。やや粘性。



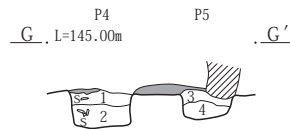
- P 1
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロックを少量含む。
 - 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を主体とする。
 - 3 灰黄褐色土(10YR5/2) ローム粒を主体とする。



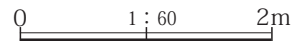
- P 2・P 3
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量混入。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム粒を含む。
 - 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を含む。



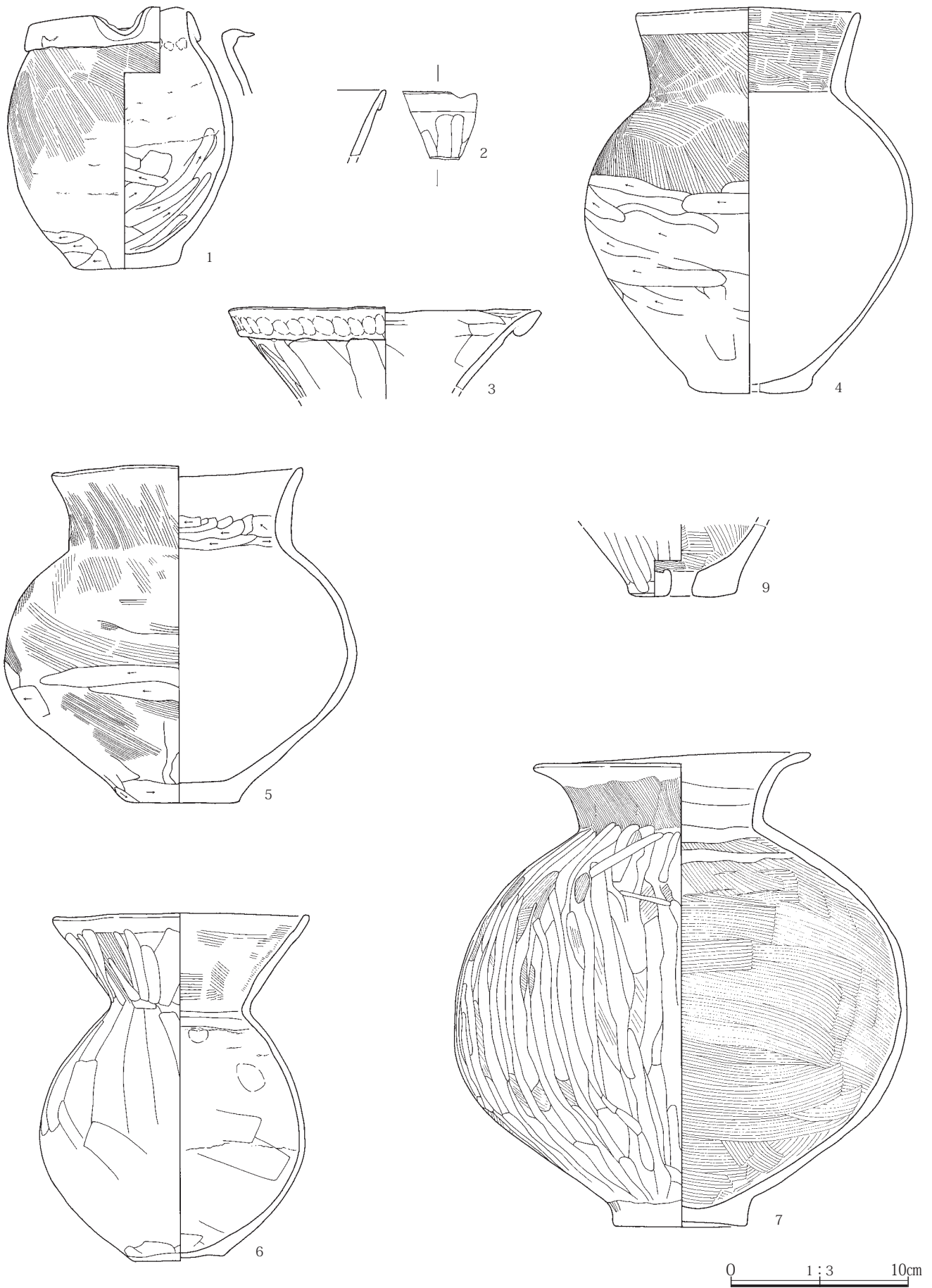
- P 6
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・炭化物粒を含む。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロックを含む。



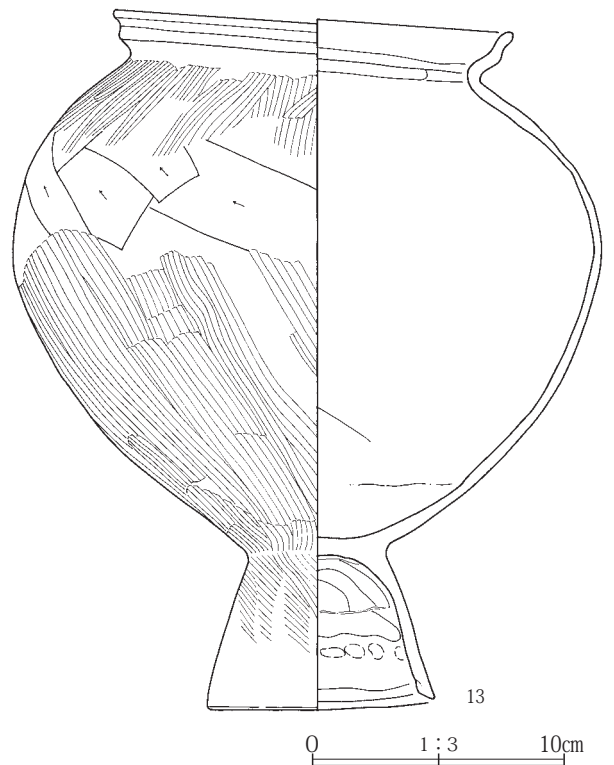
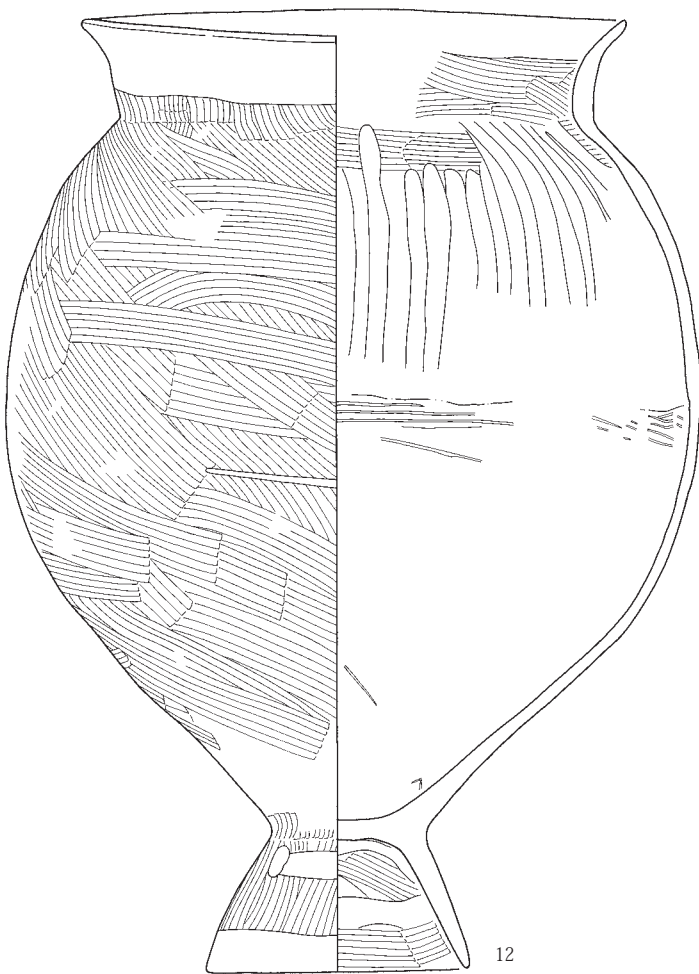
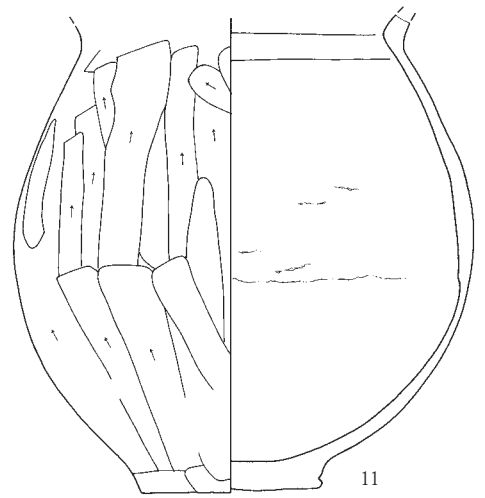
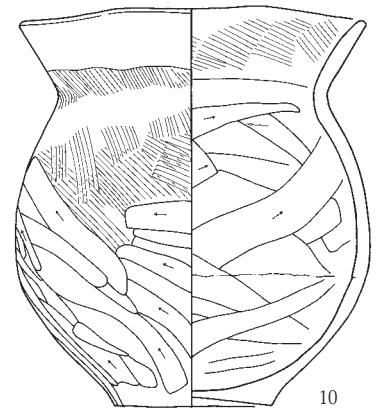
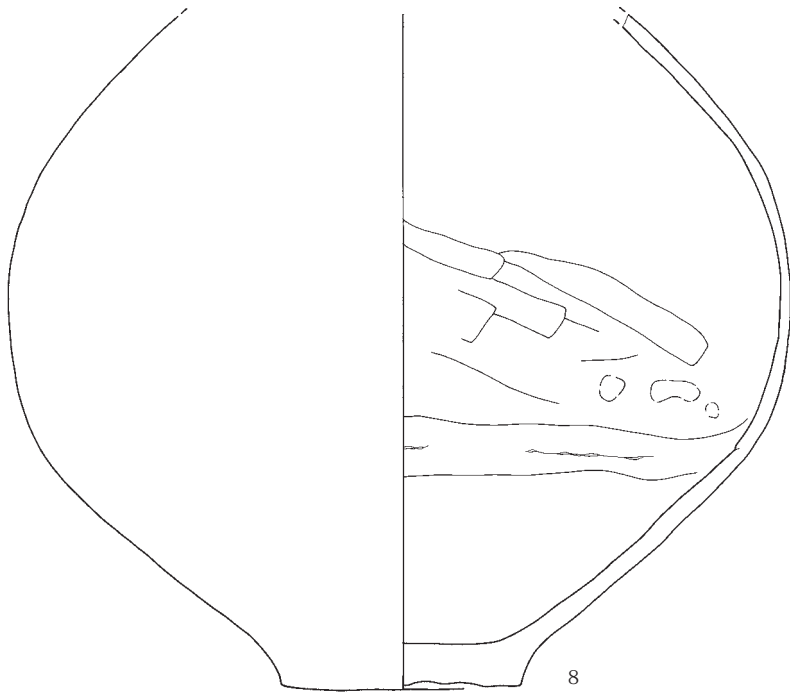
- P 4・P 5
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・炭化物粒を含む。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
 - 3 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(φ 30mm)炭化物を含む。
 - 4 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・炭化物を含む。



第24図 12号竪穴建物(2)



第25図 12号竪穴建物出土遺物(1)



0 1:3 10cm

第26図 12号竪穴建物出土遺物(2)

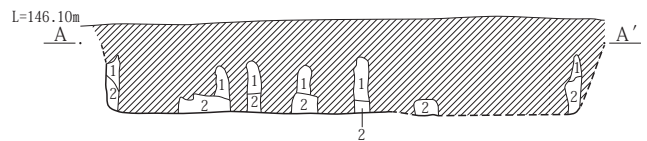
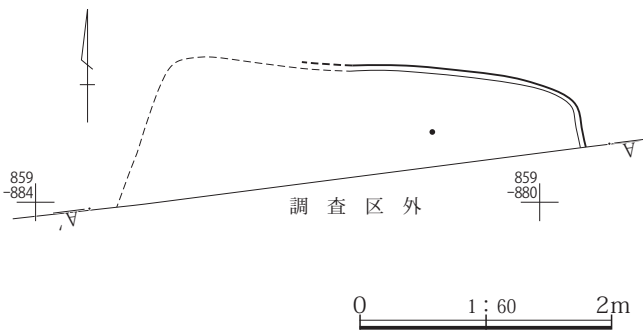
豎穴状遺構

1号豎穴状遺構(第27図、PL. 6)

1区北部に位置し、X=44.859～860、Y=-52.879～883の範囲にある。方位はN-7°-Eを指す。形態は

不明である。遺構は南端部を確認し、大半は北側調査区域外に延びる。遺構は現代機械耕作機により攪乱を受けている。規模は長軸3.69m、短軸1.05m、壁高12cmを測る。確認した面積は2.86㎡である。出土遺物は土師器小片を確認した。

1区1号豎穴状遺構



1号豎穴状遺構 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土を40%含む。φ1～5mm程度のローム粒を1%含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) φ2～10mm程度のローム粒を3%含む。しまりあり。

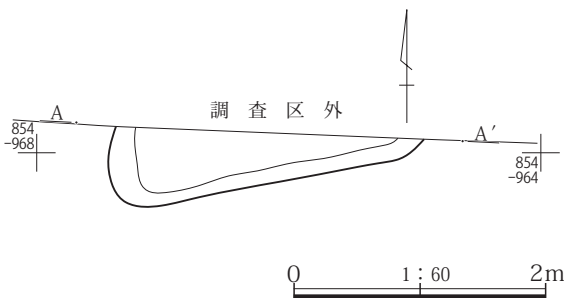
第27図 1号豎穴状遺構

3号豎穴状遺構(第28図、PL. 7)

1区西側に位置し、X=44.853～854、Y=-52.879～883の範囲にある。方位はN-81°-Eを指す。遺構の大半は西側調査区域外に延びる。規模は長軸2.0m、短

軸0.55m、深さ36cmを測る。確認された面積は0.60㎡である。出土遺物は確認されなかった。

1区3号豎穴状遺構



3号豎穴状遺構 A-A'

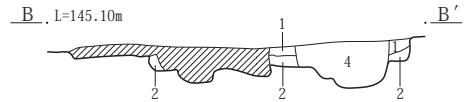
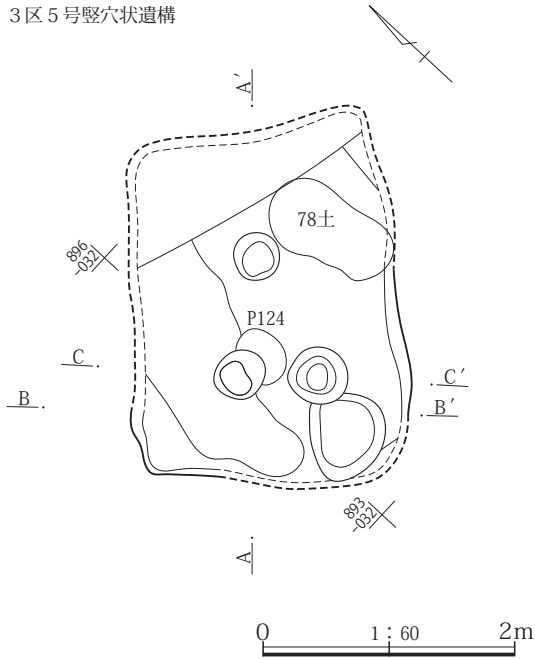
- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ1～5mmの灰白色パミスを少量含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロックが混入。褐色味を帯びる。

第28図 3号豎穴状遺構

5号竪穴状遺構(第29図、PL. 7)

3区南部に位置し、X=44.893～896、Y=-53.029～032の範囲にある。方位はN-47°-Eを指す。規模は

長軸2.6m、短軸1.9m、壁高20～25cmを測る。他の遺構との関係は、78号土坑と重複する。新旧関係は不明である。確認された面積は5.19㎡である。出土遺物は無い。



5号竪穴状遺構 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の灰白色粒(φ 1mm)を含む。ローム粒子主体。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR6/4)
- 3 2に近似。ローム粒混入やや少なく黒味がつよい。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の白色パミス混入(φ 1mm)のローム粒主体。



第29図 5号竪穴状遺構

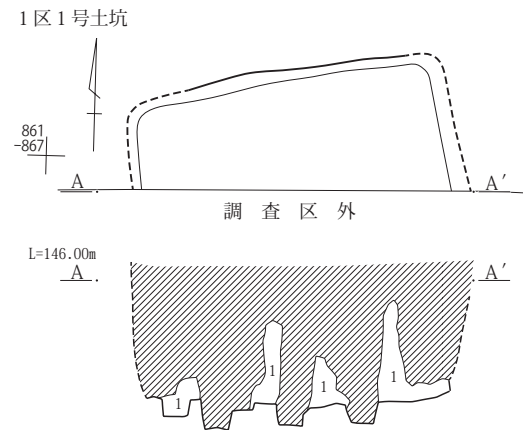
土坑 (第30～33図、PL. 8・9)

古墳時代～中近世

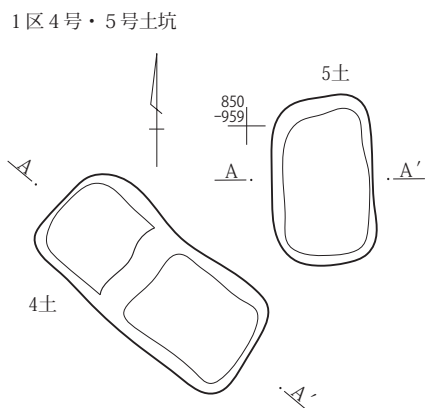
前畑J遺跡では、番号を振った土坑は103基確認した。
このうち18基が古墳時代以降の段階に入る。

1号土坑は現代の機械耕作機により、大半は攪乱され

ている。3号土坑覆土内から馬の歯が確認された。覆土
中の上層のため、時期は新しいと考えられる。

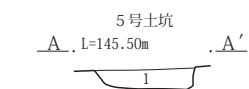


1号土坑
1 黒褐色土(10YR3/1) φ 2～7mm程度のローム粒を3%含む。
φ 2mm程度の白色粒を3%含む。古代～中世か？

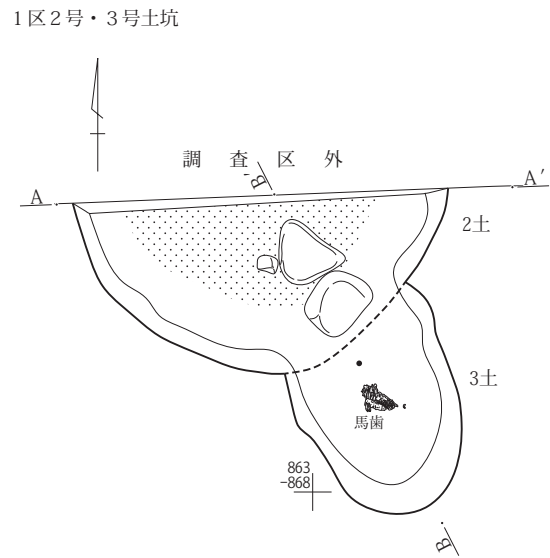


4号土坑
1 黒褐色土(10YR3/1) 新しい？

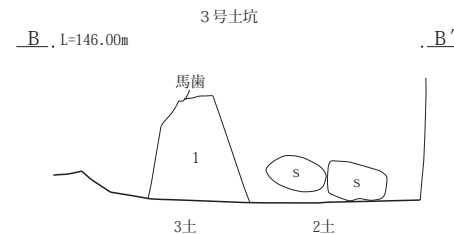
5号土坑
1 黒褐色土(10YR3/2)



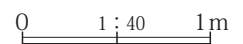
5号土坑
1 黒褐色土(10YR3/2)



2号土坑
1 黒褐色土(10YR3/2) ロームを40%含む。φ 2～10mm程度のローム粒を5%含む。人為的な堆積の可能性がある。
2 黒褐色土(10YR3/2) φ 2～10mm程度のローム粒を5%含む。
3 黒褐色土(10YR2/2) φ 2～20mm程度のローム粒を5%含む。
4 褐色土(10YR4/6) 3とロームのまじり。

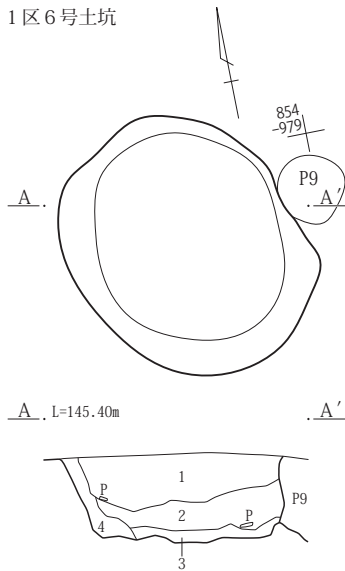


3号土坑
1 黒褐色土(10YR3/1)

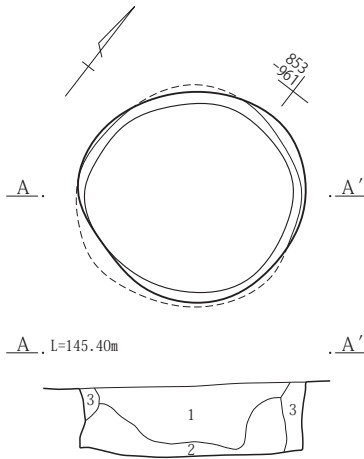


第30図 土坑(1)

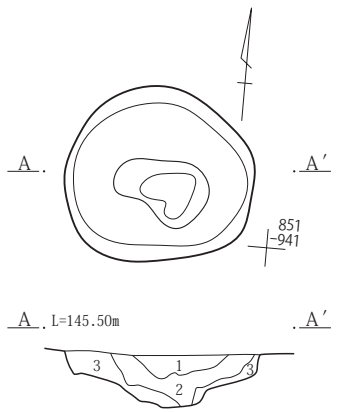
1区6号土坑



1区9号土坑



1区24号土坑



6号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ 2～3mm程度のローム粒を2%含む。
φ 1mm程度の白色粒を1%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) φ 2～30mm程度のローム粒を3%含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) φ 10～20mm程度のロームブロックを10%含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土を20%含む。やや柔らかい。

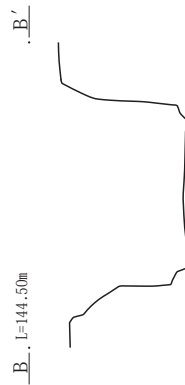
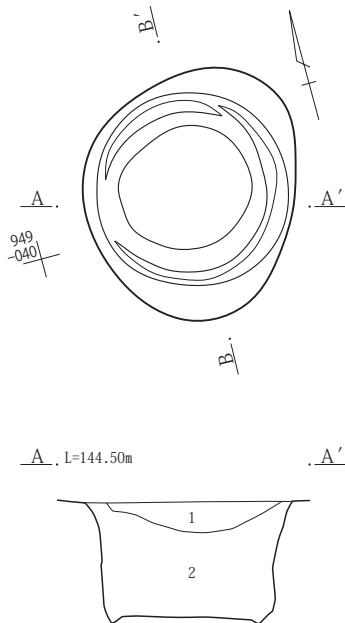
9号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1) 少量の灰黄褐色粒(φ 2mm)を含む。
- 2 暗褐色(10YR3/3) ローム粒子と(微細φ 5mm)ロームブロック(φ 10～20mm)を含む。
- 3 2にロームブロック(φ 30～40mm)が多量混入。

24号土坑

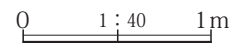
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土を10%含む。φ 1mm程度の白色粒を1%含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) 暗褐色土とロームの混土を30%含む。φ 1mm程度の白色粒を1%含む。1mm程度の白色粒を1%含む。しまりあり。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームを40%含む。固くしまる。

3区25号土坑



25号土坑

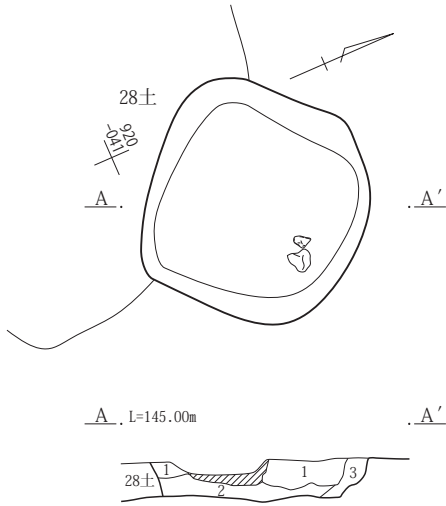
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を多く含む。
- 2 1とロームブロックとの混土。近世以降か？



第31図 土坑(2)

第3章 検出された遺構と遺物

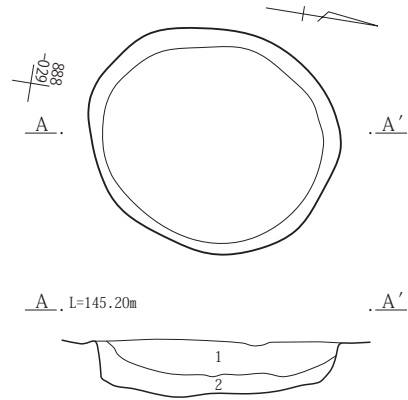
3区29号土坑



29号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・灰白色粒(φ 1~2mm)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒(φ 1mm) ロームブロック(φ 30~40mm)を少量含む。
- 3 にぶい黄橙色土(10YR4/3) ローム粒を主体とする。φ 30mmのロームブロック少量混入。

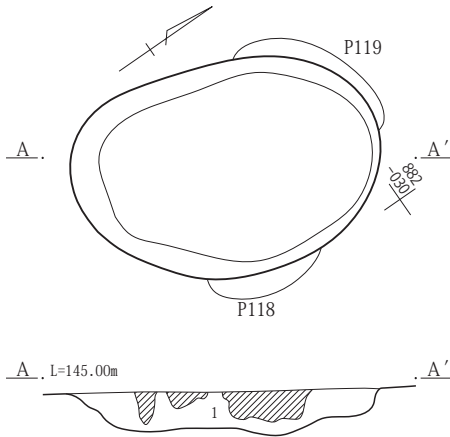
3区60号土坑



60号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土を10%含む。φ 5~10mm程度のロームブロックを2%含む。ややしまる。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム色土を20%含む。ややしまる。

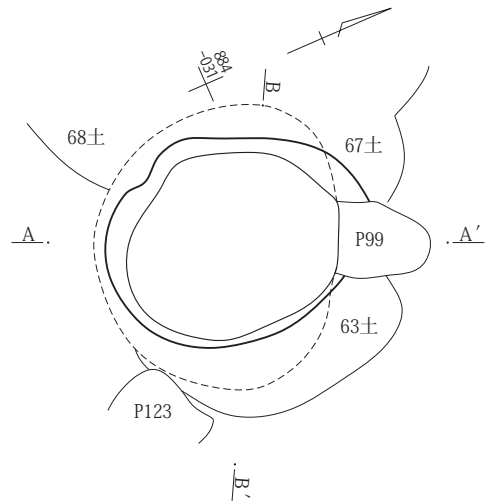
3区61号土坑



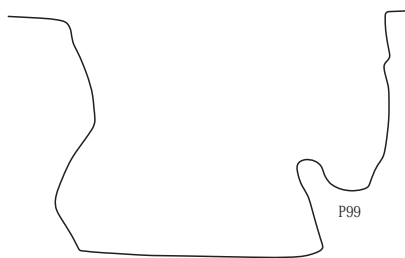
61号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量含む。一部にローム粒ブロック(φ 50mm)混入。

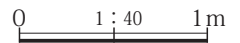
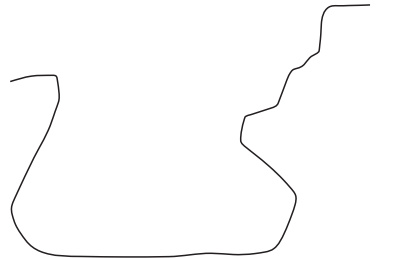
3区71号土坑



A, L=145.10m

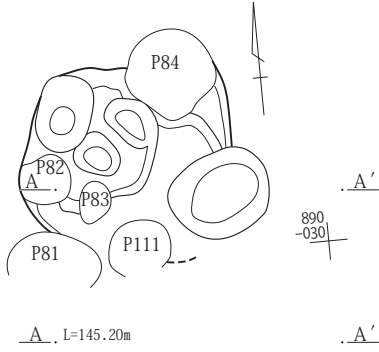


B, L=145.10m

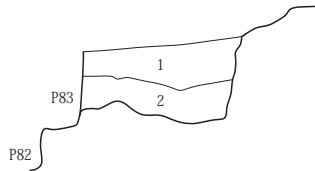


第32図 土坑(3)

3区70号土坑



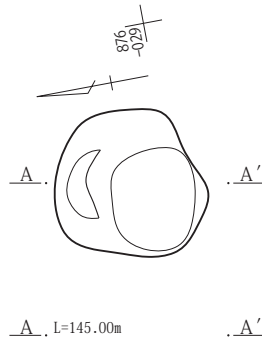
A, L=145.20m A'



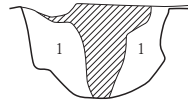
70号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。
- 2 1にロームブロック(φ10～30mm)混土。

3区76号土坑



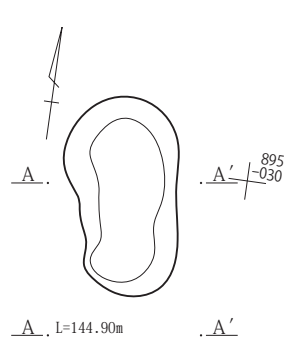
A, L=145.00m A'



76号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(微細～φ20mm)を多量含む。

3区78号土坑



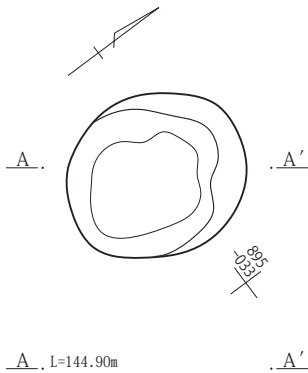
A, L=144.90m A'



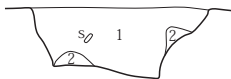
78号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を5%含む。固くしまる。

3区82号土坑



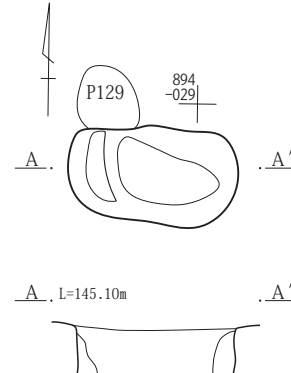
A, L=144.90m A'



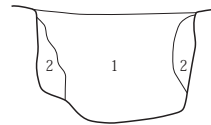
82号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(微細～φ5mm)を多量含む。
- 2 ローム2次堆積土。

3区83号土坑



A, L=145.10m A'



83号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ1～2mm)ロームブロック(φ20mm)を含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック混土。



第33図 土坑(4)

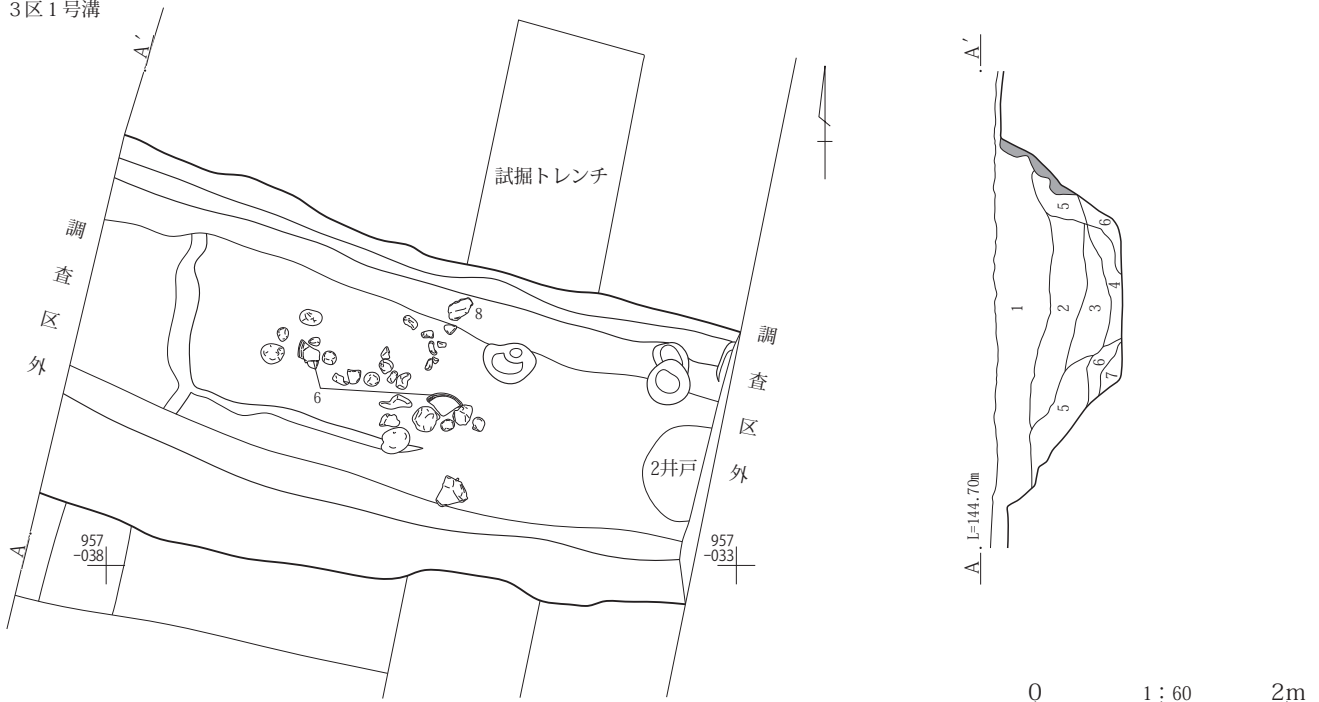
溝

1号溝(第34・35図、PL.28)

3区北部に位置し、X=44.956~960、Y=-53.033~038の範囲にある。走行は東西方向にほぼまっすぐ走る。方位はN-73°-Wを指す。規模は長さ5.2m(東西長、

調査区範囲内)、幅2.85m、深さ74~97cmを測る。掘り込みはなだらかで、通常の溝の形態を持つ。出土遺物は1点羽片が確認されている。さらに江戸時代が主体の陶磁器類が多い。肥前や瀬戸・美濃天目碗がある。在地系の内耳鍋が出土し、中世に上るものもある。板碑が1点出土している。

3区1号溝

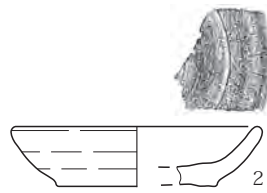


1号溝 A-A'

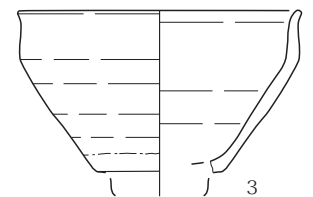
- 1 褐色土(10YR4/4) ローム粒・ロームブロック(φ5mm)を含む。砂質性あり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒・ロームブロック(φ5~10mm)を含む。砂質性あり。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 3に近似。ロームブロック(φ30mm)の混入あり。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 2にローム粒・ロームブロック多量混土。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 5にローム粒多量混土。
- 7 6にロームブロック(φ40mm)混土。



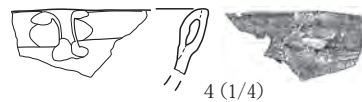
8



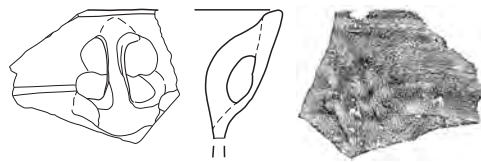
2



3



4 (1/4)

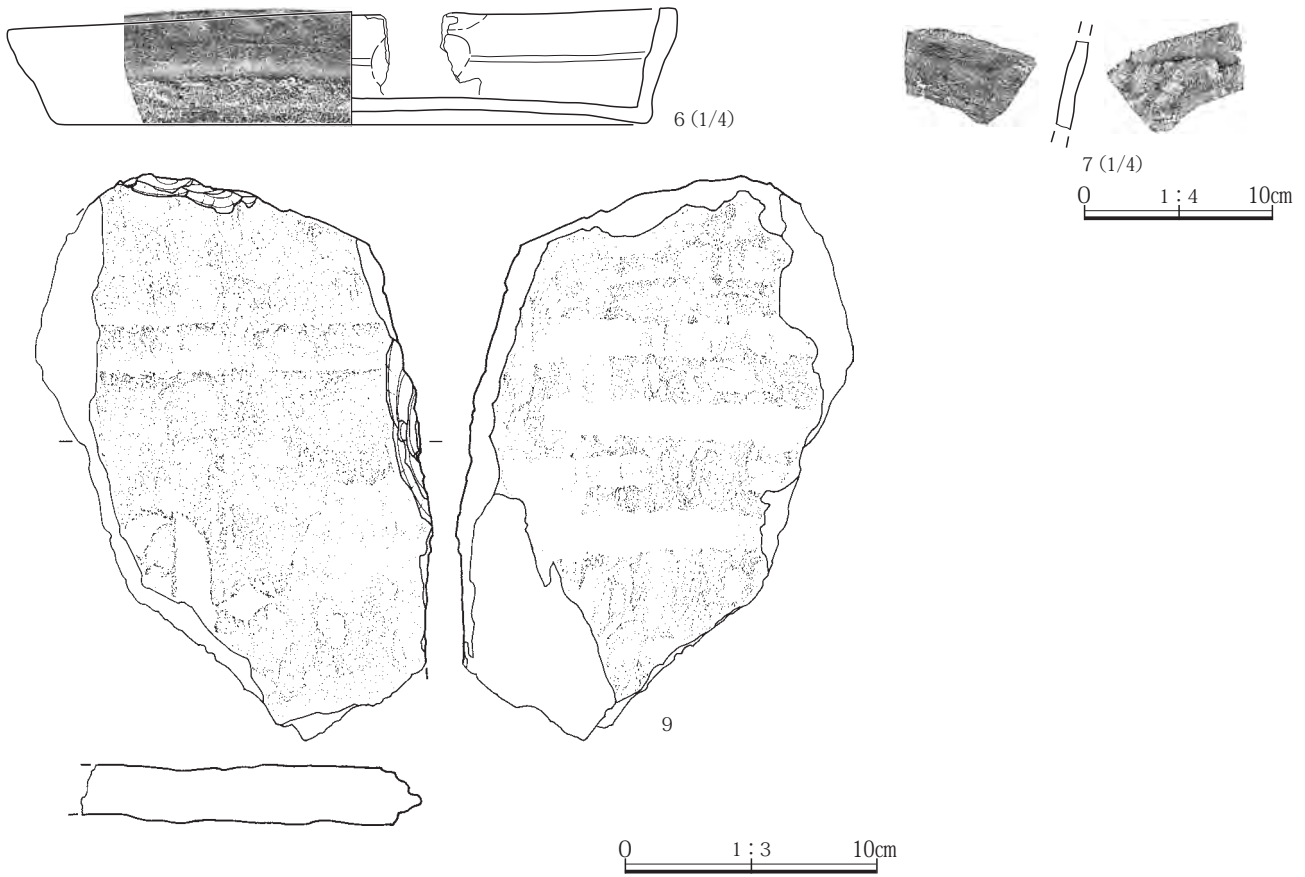


5 (1/4)

0 1:3 10cm

0 1:4 10cm

第34図 1号溝・出土遺物(1)



第35図 1号溝出土遺物(2)

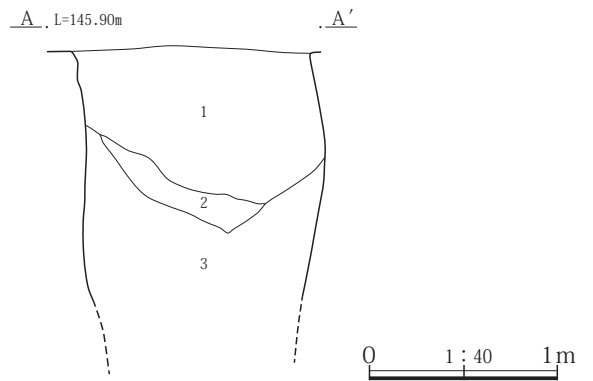
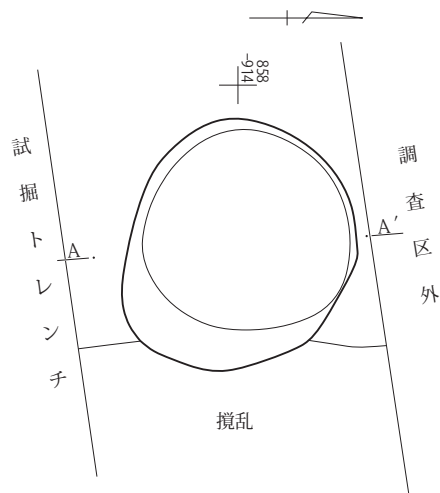
井戸

1号井戸(第36・37図、PL. 8・29)

1区中央部に位置し、X=44.858、Y=-52.913の範

囲にある。井戸内面には構築時の工具痕が確認された。出土遺物は肥前磁器2点・瀬戸美濃陶器、堺・明石陶器が1点ずつ出土している。

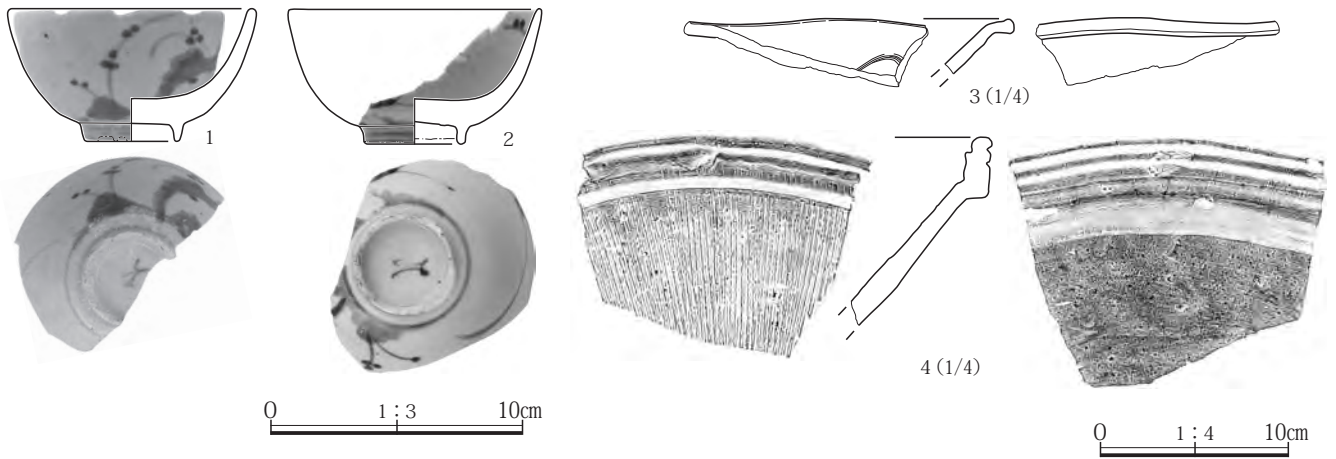
1区1号井戸



1号井戸 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ10～20mm程度のロームブロックを2%含む。φ2～7mm程度の白色粒を2%含む。φ2～7mm程度の褐色土を2%含む。固くしまる。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 暗褐色土を30%含む。φ2～3mm程度の白色粒を2%含む。φ2～3mm程度の黄色粒を2%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) φ15mm程度のロームブロックを1%含む。固くしまる。

第36図 1号井戸



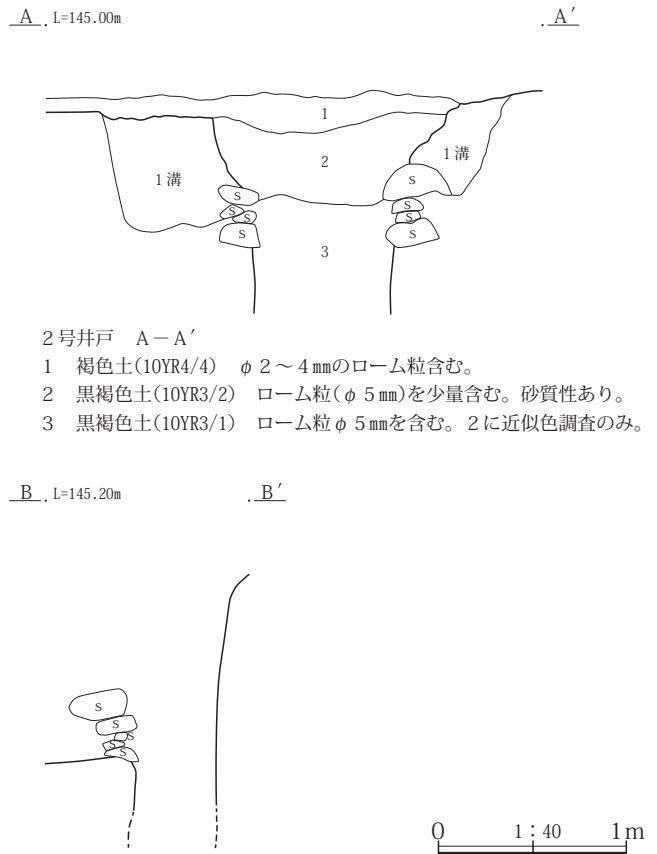
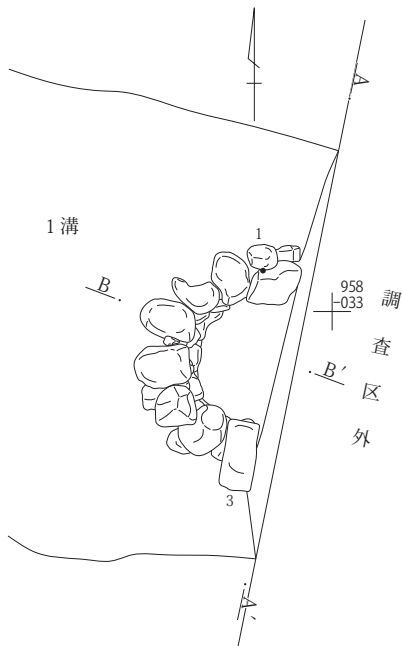
第37図 1号井戸出土遺物

2号井戸(第38・39図、PL. 8・29)

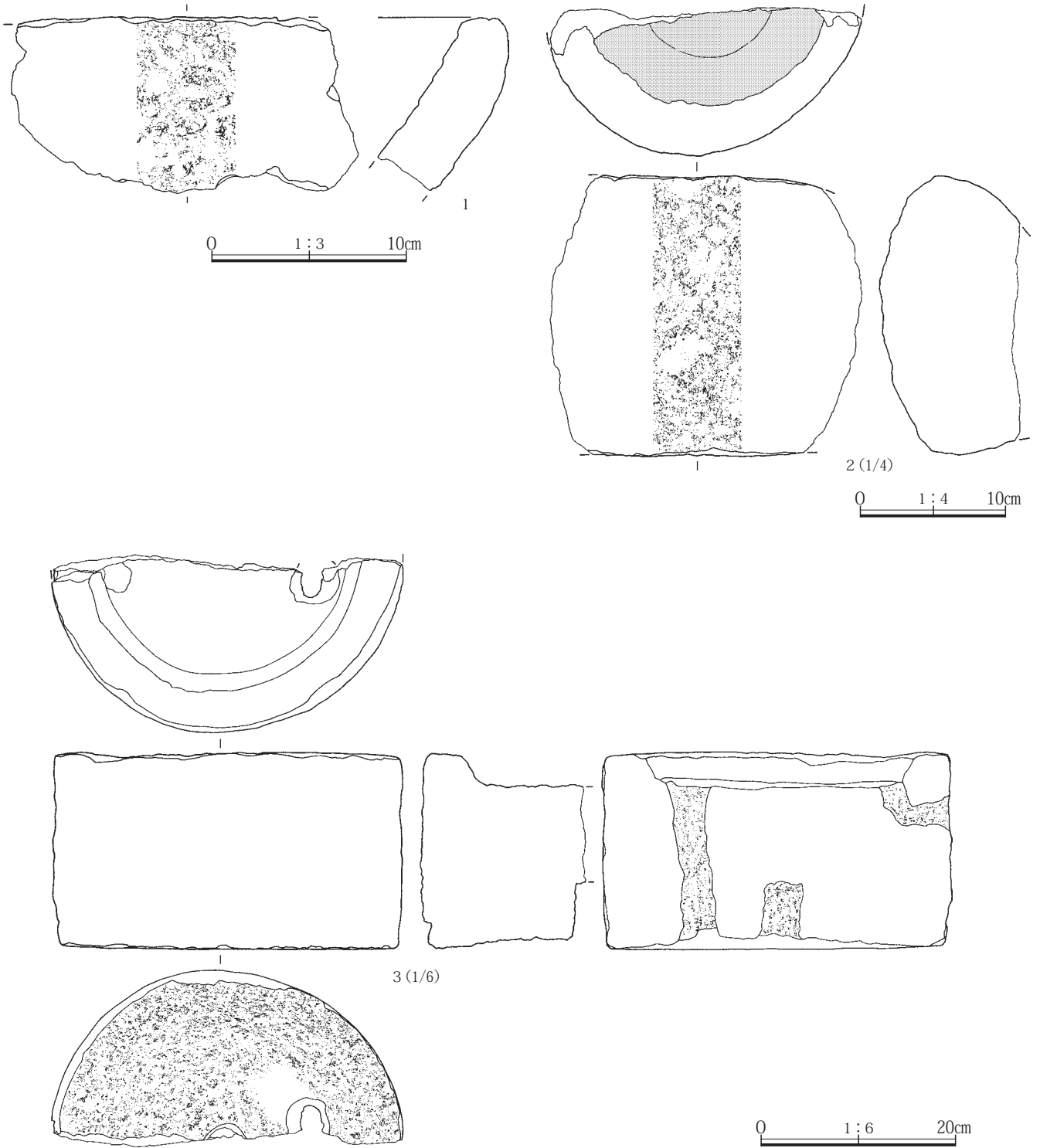
1号溝の中に位置し、X=44.957、Y=-53.032の範囲にある。井戸は1号溝の底面に構築されている。周囲には1～2段の石積が確認され、中には割れた石臼が再利用されている。石積は溝の壁面に積まれ、断面の観察からも溝が埋まった後につくられたものと考えられる。

出土遺物は井戸からは確認できない。溝からは江戸時代を主体の陶磁器が出土している。その中には中世の在在系内耳鍋が確認されている。このため2号井戸の時期は江戸時代以降、溝の埋没後と考えられる。井戸枠に石がつまれ、その中から石臼1/2に割れた石が再利用されている。

3区2号井戸



第38図 2号井戸



第39図 2号井戸出土遺物

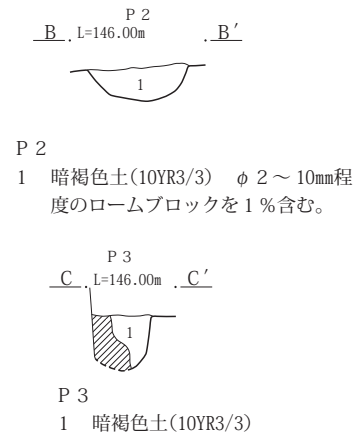
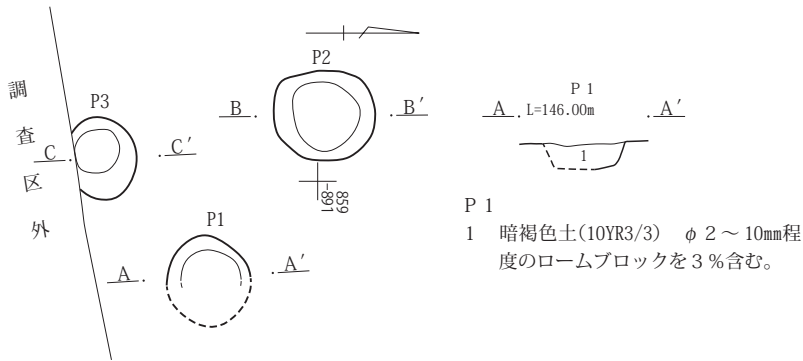
ピット

古墳時代以降(第40~51図、PL.13~21・30)

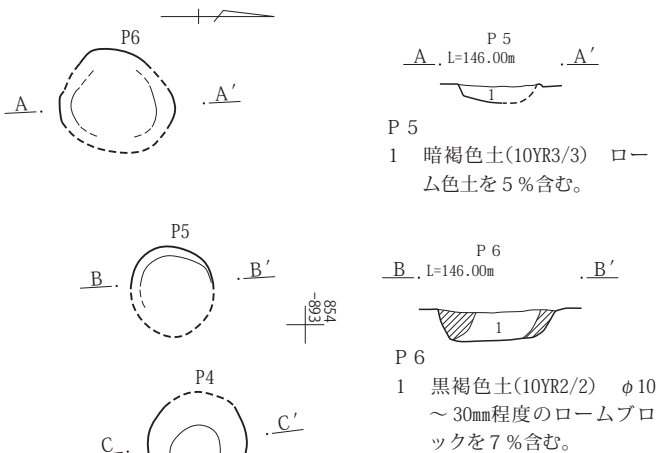
前畑J遺跡のピットは番号を振ったものは143基確認された。このうち古墳時代以降と確認されたものは84基である。大半のピットからは遺物の出土はなかった。わ

ずかに75号ピットから酸化炎焼成の土師器が出土しているが、体部には轆轤整形痕が確認でき、須恵器と考えられる。又89号ピットからは人為的に持ち込まれたとみられる石英の礫の出土がある。

1区1号~3号ピット



1区4号~6号ピット

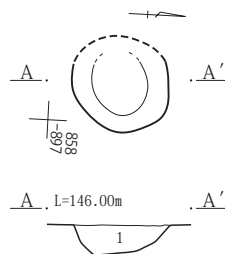


P 4
1 暗褐色土(10YR3/3) φ 3~30mm程度のロームブロックを5%含む。

P 5
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム色土を5%含む。

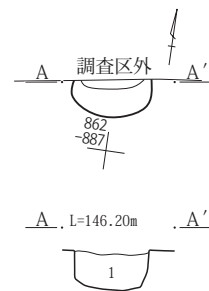
P 6
1 黒褐色土(10YR2/2) φ 10~30mm程度のロームブロックを7%含む。

1区7号ピット

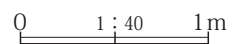


P 7
1 暗褐色土(10YR3/3) φ 10mm程度のロームブロックを3%含む。

1区8号ピット

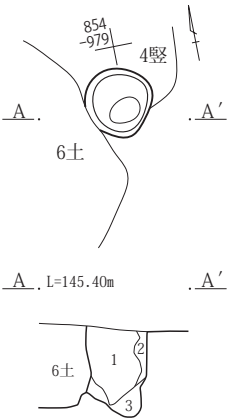


P 8
1 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土とロームブロックの混土。



第40図 ピット(1)

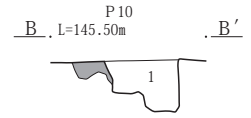
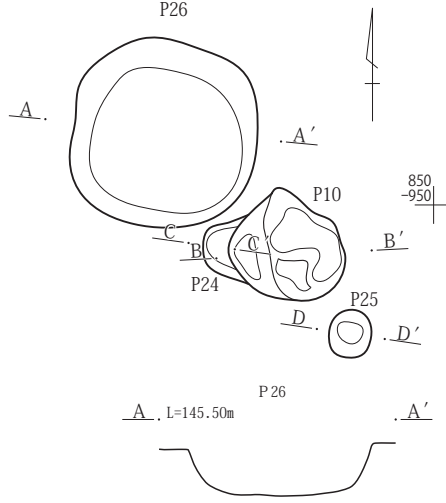
1区9号ピット



P 9

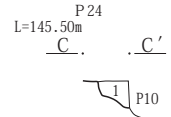
- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ 2～3mm程度のローム粒を2%含む。φ 1mm程度の白色粒を1%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) φ 2～30mm程度のローム粒を3%含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) φ 10～20mm程度のロームブロックを10%含む。しまりあり。

1区10号・24号～26号ピット



P 10

- 1 黒褐色土(10YR3/1)と黄褐色土(10YR3/3)の混土でローム粒(微細)が多量混入。



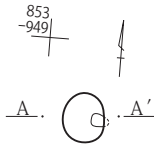
P 25



P 24・P 25

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒の混入あり。

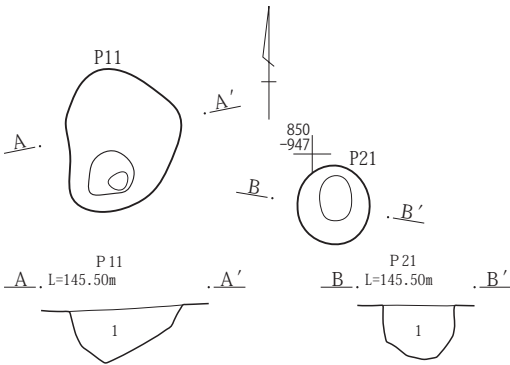
1区12号ピット



P 12

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒が少量混入。

1区11号・21号ピット



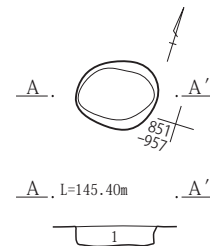
P 11

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ロームブロック(φ 30mm)が混入。

P 21

- 1 黒褐色土と暗褐色土・ロームブロックの混土。

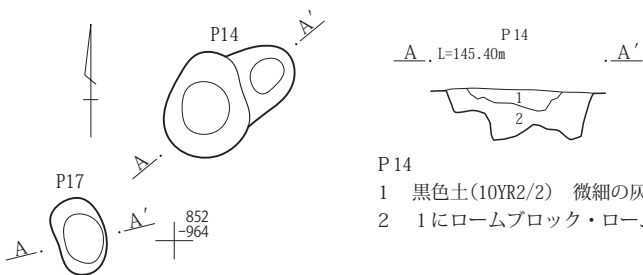
1区13号ピット



P 13

- 1 黒色土とロームブロック・ローム粒の混土。

1区14号・17号ピット

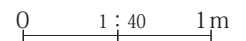


P 14

- 1 黒色土(10YR2/2) 微細の灰白色パミスを含む。
- 2 1にロームブロック・ローム粒多量混土。

P 17

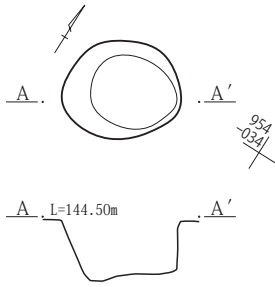
- 1 黒色土とロームブロックの混土。



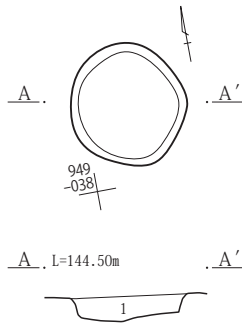
第41図 ピット(2)

第3章 検出された遺構と遺物

3区15号ピット



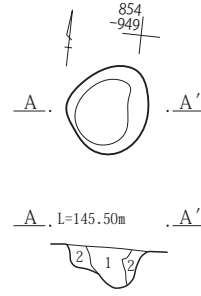
3区16号ピット



P 16

1 黒褐色土ブロックとロームブロックの混土層。

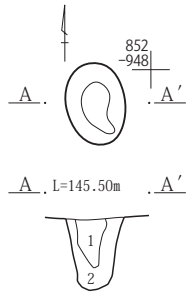
1区19号ピット



P 19

1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒の混入あり。
2 黒褐色土とロームブロックの混土。

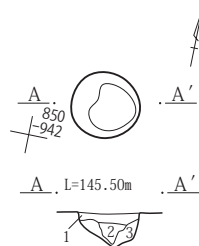
1区20号ピット



P 20

1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒の混入あり。
2 黒褐色土とロームブロックの混土。

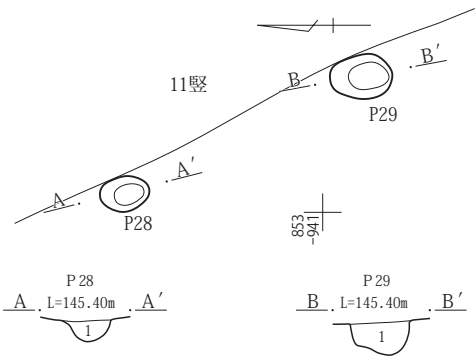
1区23号ピット



P 23

1 黒褐色土(10YR2/2) 暗褐色土を20%含む。
2 暗褐色土(10YR3/4) ローム色土を20%含む。
3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土を40%含む。固くしまる。

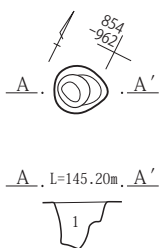
1区28号・29号ピット



P 28・P 29

1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 1~10mm)を含む。

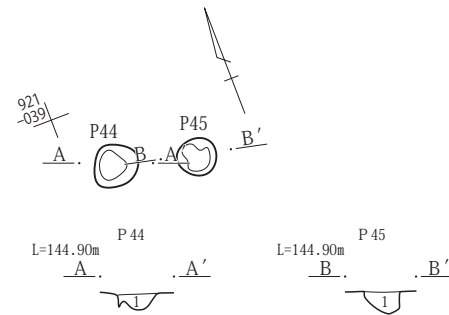
1区42号ピット



P 42

1 黒褐色(10YR3/2) ローム粒を少量含む。

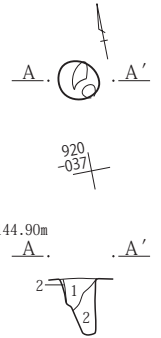
3区44号・45号ピット



P 44・P 45

1 黒褐色(10YR2/2) 褐色土10%含む。ややかたい。

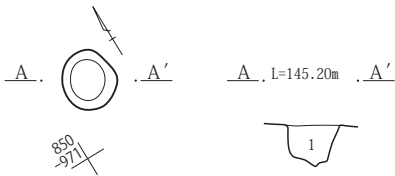
3区46号ピット



P 46

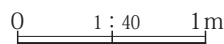
1 黒褐色(10YR2/2) 褐色土20%混入。ややかたい。
2 褐色土(10YR4/6) 黒褐色土10%混入。

1区43号ピット



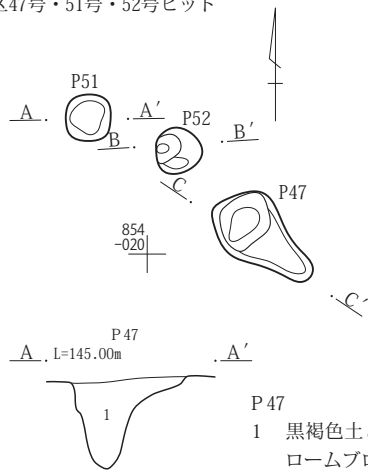
P 43

1 黒褐色(10YR3/2) ローム粒を少量含む。



第42図 ピット(3)

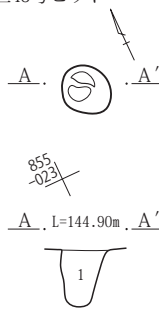
2区47号・51号・52号ピット



P47
1 黒褐色土とロームブロックの混土。
ロームブロック混入多い。

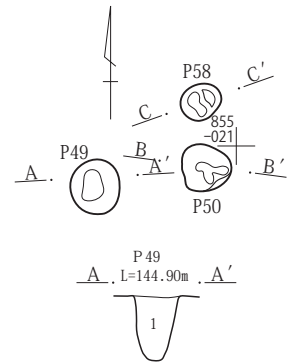
P51・P52
1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2～5mm)を含む。

2区48号ピット

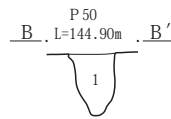


P48
1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2～5mm)を含む。

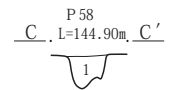
2区49号・50号・58号ピット



P49
1 P48にロームブロック(φ 40mm)混土。

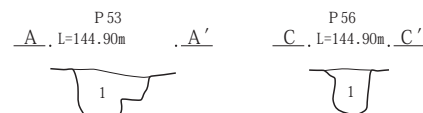
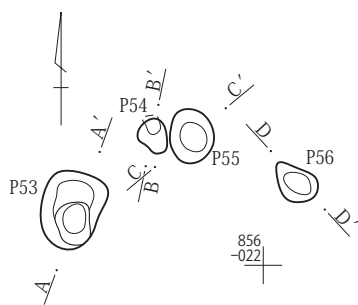


P50
1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2～5mm)を含む。

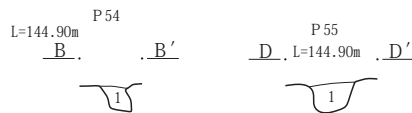


P58
1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(φ 10～20mm)が多量混入。

2区53号～56号ピット

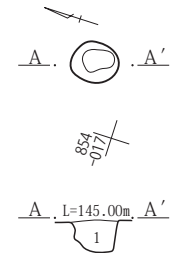


P53・P56
1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(φ 10～20mm)が多量混入。



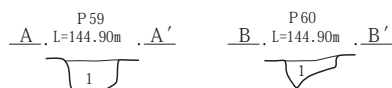
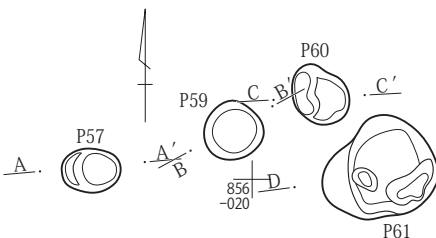
P54・P55
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒ブロックの多量混入。

2区62号ピット

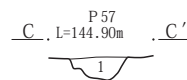


P62
1 黒褐色土とローム粒の混土。

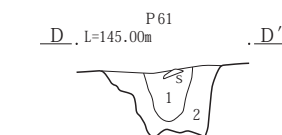
2区57号・59号～61号ピット



P59・P60
1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(φ 10～20mm)が多量混入。

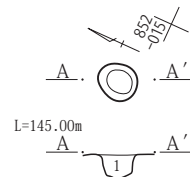


P57
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒の混入多く、しまる。

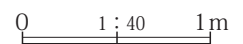


P61
1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロックの混入あり。
2 ローム粒・ロームブロックの2次堆積土。

2区63号ピット



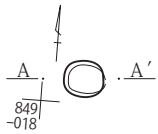
P63
1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(φ 10～20mm)が多量混入。



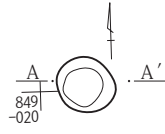
第43図 ピット(4)

第3章 検出された遺構と遺物

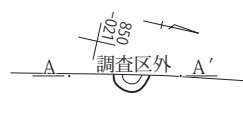
2区64号ピット



2区65号ピット



2区66号ピット



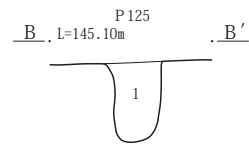
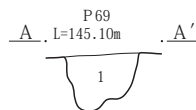
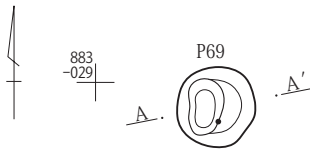
P64・P65

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 2mm)。
ロームブロック(φ 15mm)を含む。

P66

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2~5mm)。
ロームブロック(φ 30mm)を含む。

3区69号・125号・128号ピット

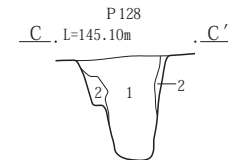
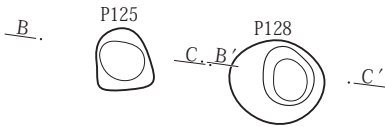


P69

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を5%
含む。赤石を底に出土。しまりあり。

P125

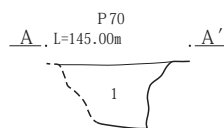
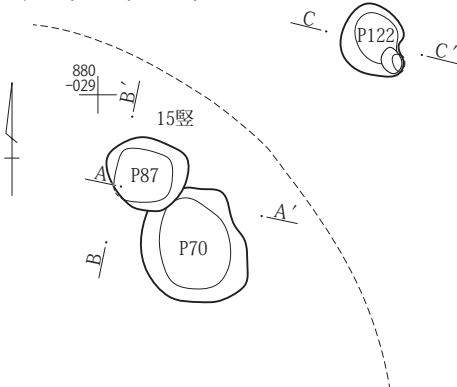
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のロー
ム粒(φ 2mm)・ロームブロック(φ
30~40mm)を含む。



P128

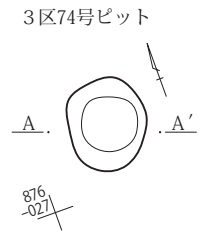
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 1~2mm)・
灰白色粒を少量含む。
2 ローム2次堆積土。

3区70号・87号・122号ピット

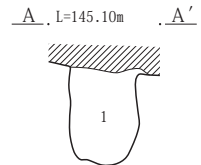


P70

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームを
10%含む。やや柔らかい。

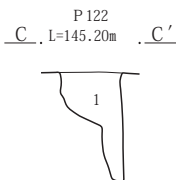


3区74号ピット



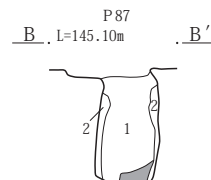
P74

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒(微細
~φ 3mm)を含む。



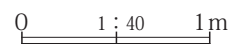
P122

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒(φ 2mm)・
ロームブロック(φ 15mm)炭化物粒を含む。



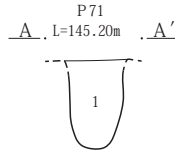
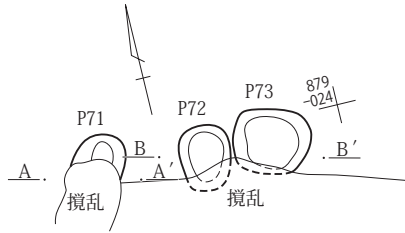
P87

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック(φ
40mm)を含む。
2 1に近似するがローム粒・ロームブロッ
クの混入多い。

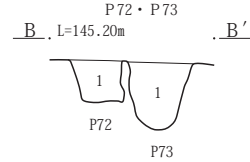


第44図 ピット(5)

3区71号～73号ピット

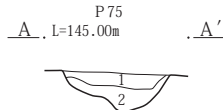
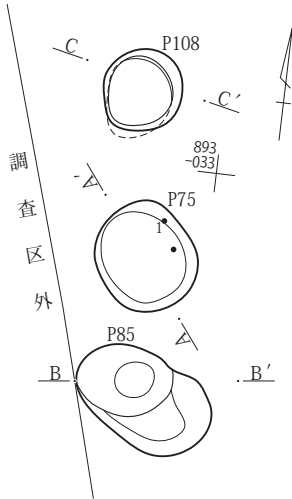


P71
1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒
(微細～φ10mm)を多く含む。

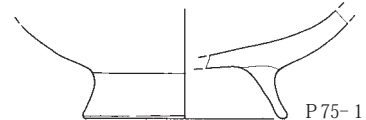


P72・P73
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(微細～φ15mm)を多量含む。

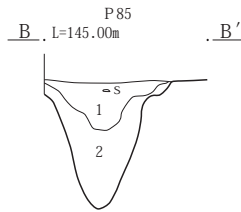
3区75号・85号・108号ピット



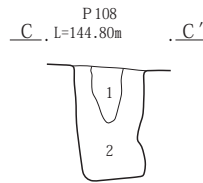
P75
1 黒褐色土(10YR3/3) 焼土粒(φ2～10mm)炭化物粒・黄色粘土質土ブロック(φ5～10mm)を含む。
2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(φ1～10mm)を含む。



0 1:3 10cm

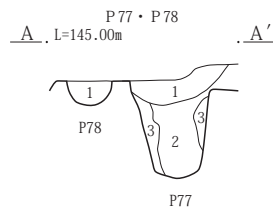
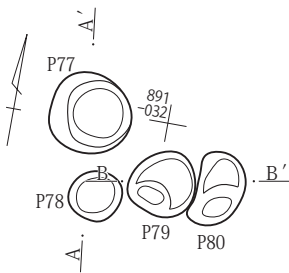


P85
1 黒褐色土(10YR3/1) 少量のロームブロック(φ10mm)を含む。
2 黒褐色土(10YR3/2) 微細のローム粒を多量含む。

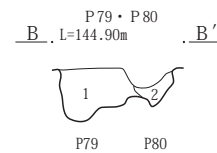


P108
1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を含む。粘土か？
2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(φ1～20mm)を多量含む。

3区77号～80号ピット



P77・P78
77ピット 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ2～5mm)を少量含む。
2 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ1mm)を含む。
3 2にローム粒・ロームブロック混土。
78ピット 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を含む。

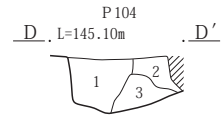
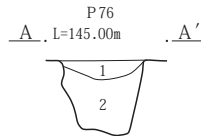
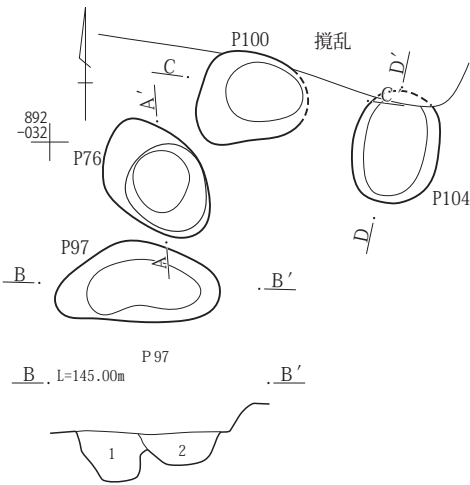


P79・P80
1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を含む。
2 黒褐色土(10YR3/1) 少量のロームブロック(φ20mm)を含む。

0 1:40 1m

第3章 検出された遺構と遺物

3区76号・97号・100号・104号ピット



76号ピット

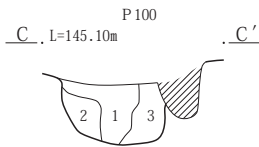
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒・ロームブロック(φ 1 ~ 10mm)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 少量のロームブロック(φ 10mm)を含む。

P 104

- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ 5~30mm程度のロームブロックを 10%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) ローム色土を 5%含む。固くしまる。
- 3 褐色土(10YR4/6)

P 97

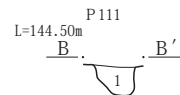
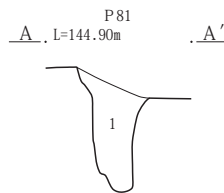
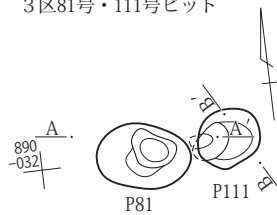
- 1 にぶい黄橙色土(10YR6/4) ローム粒(φ 1~2mm)を 多量含む。
- 2 暗褐色土とローム 2次堆積の混土(遺構ではない)。



P 100

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 1~2mm)を 多量含む。
- 2 ローム 2次堆積土。
- 3 ローム粒・ロームブロック・暗褐色土の混土。

3区81号・111号ピット



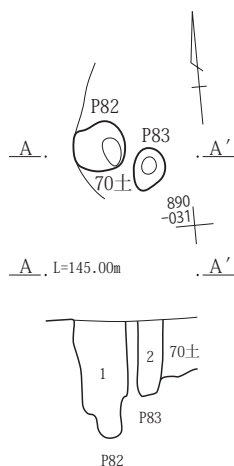
P 111

- 1 暗褐色土とローム粒・ローム ブロックの混土。

P 81

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム 粒(φ 1mm)灰白色粒(φ 2mm)黄褐色 粒(φ 2mm)を含む。

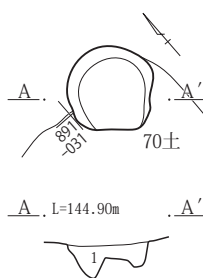
3区82号・83号ピット



P 82・P 83

- 82ピット 1 黒褐色土とロームブロックの混土。
- 83ピット 2 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ 1mm)灰白色粒(φ 2mm)黄褐色粒(φ 2mm)を含む。

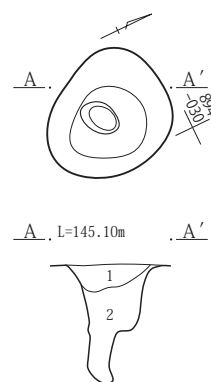
3区84号ピット



P 84

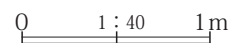
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ 1 ~ 10mm)を多く含む。

3区86号ピット

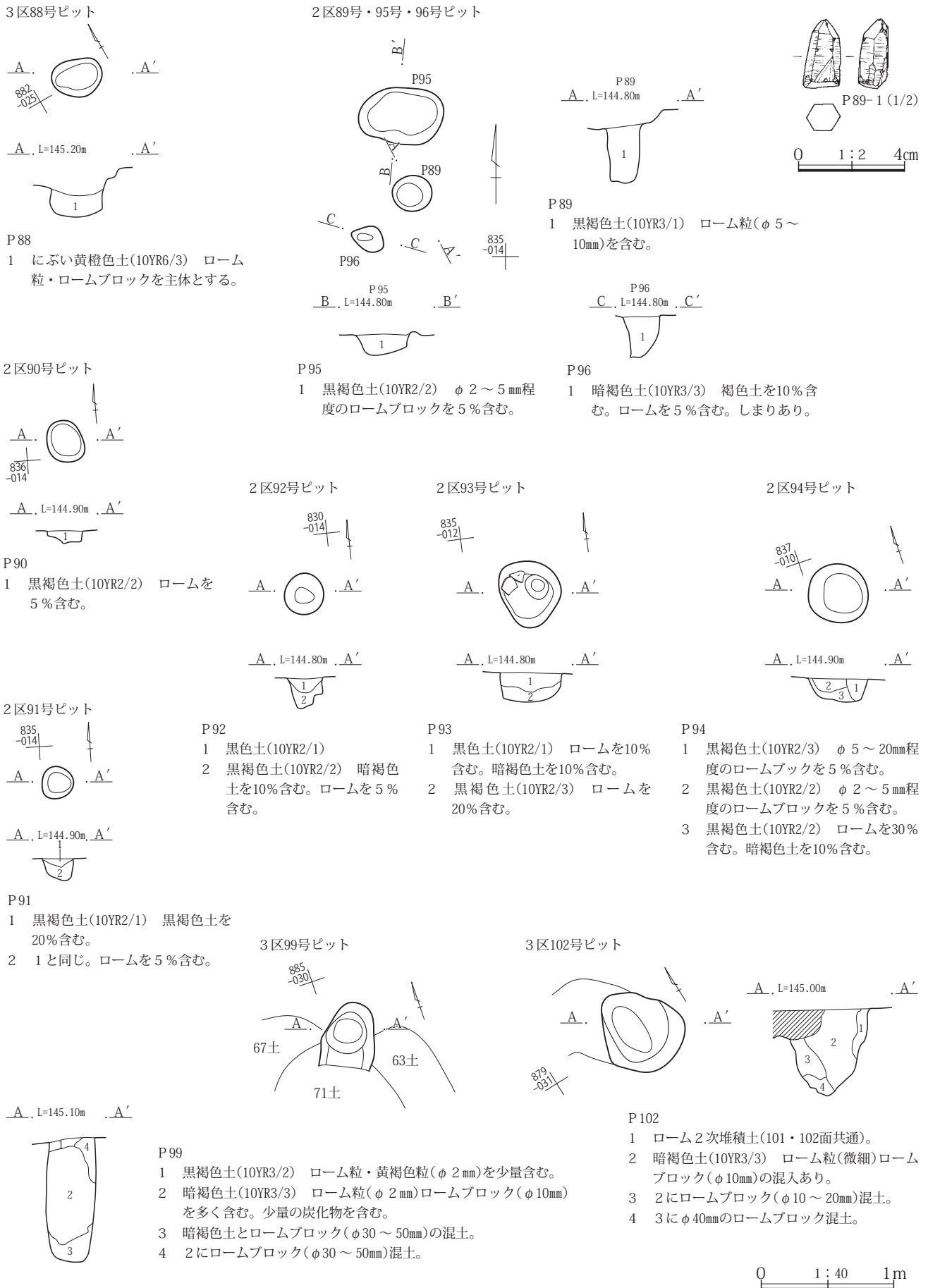


P 86

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰白色粒(φ 2mm)。ローム粒の混入あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒の混入多く、ロームブロック(φ 20mm)も認められる。



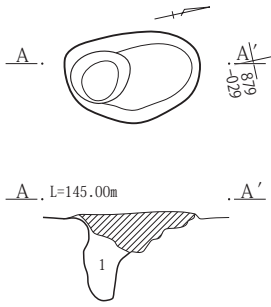
第46図 ピット(7)



第47図 ピット(8)

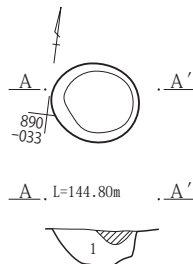
第3章 検出された遺構と遺物

3区103号ピット



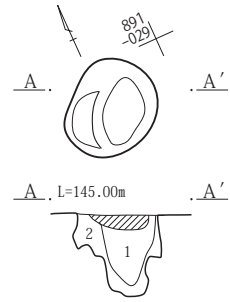
P 103
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(微~φ30mm)を多量含む。

3区105号ピット



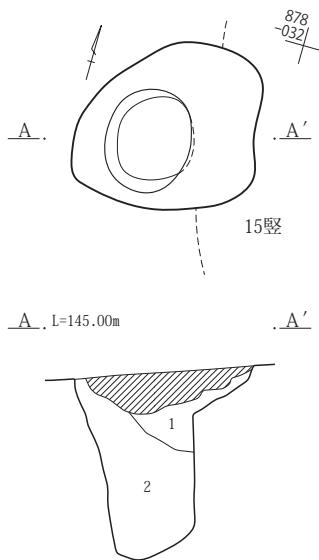
P 105
1 暗褐色土(10YR3/4) 柔らかい。

3区106号ピット



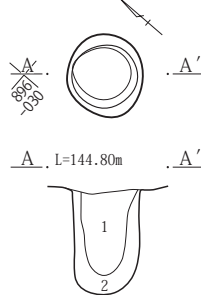
P 106
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム色土を10%含む。固くしまる。
2 褐色土(10YR4/4) 暗褐色土を5%含む。固くしまる。

3区110号ピット



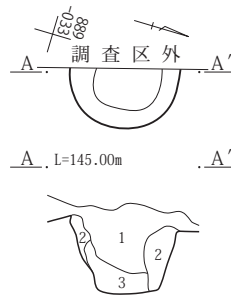
P 110
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ2~10mm)を多量含む。
2 1にロームブロック混土。1より褐色味がつよい。

3区113号ピット



P 113
1 黒褐色土(10YR2/2) φ5~30mm程度のロームブロックを5%含む。固くしまる。
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 暗褐色土を20%含む。ロームを5%含む。

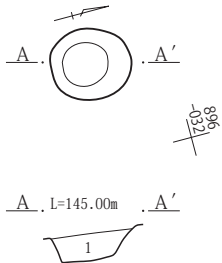
3区114号ピット



P 114
1 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土を10%含む。
2 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土を10%含む。ロームの2次堆積。
3 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土を10%含む。

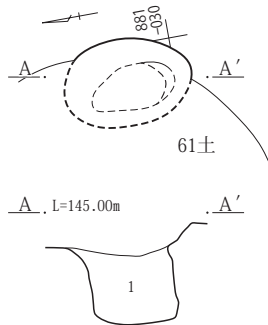
※110ピットの南にある
覆土は暗褐色土(10YR3/3)にロームブロック混土。

3区116号ピット



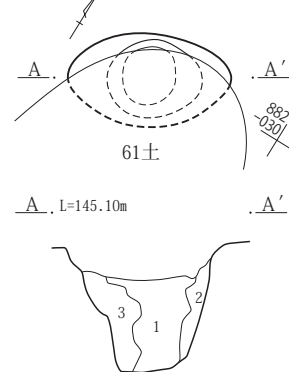
P 116
1 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物粒を少量含む。

3区118号ピット

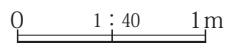


P 118
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(φ1~30mm)を含む。ローム主体。

3区119号ピット

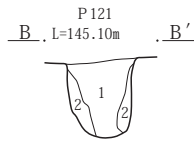
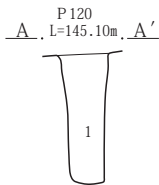
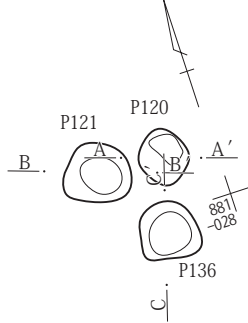


P 119
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(微細)を多く含む。
2 ローム2次堆積土。
3 1とロームブロックの混土。

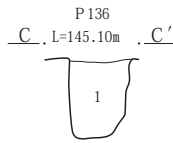


第48図 ピット(9)

3区120号・121号・136号ピット



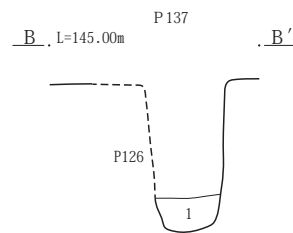
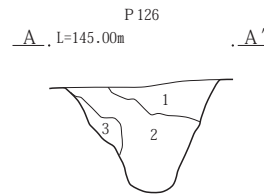
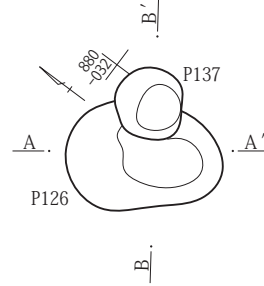
- P 121
 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロックが少量含まれる。
 2 1にロームブロック混土。



- P 136
 1 黒褐色土(10YR3/1) 底面付近にロームブロック(φ30mm)を含む。

- P 120
 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を主体としロームブロック(φ20mm)が少量含まれる。

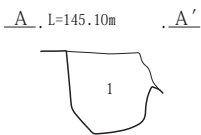
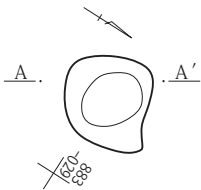
3区126号・137号ピット



- P 126
 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム粒(微細)を含む。
 2 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ1~3mm)を少量含む。
 3 ローム2次堆積土。

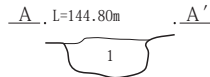
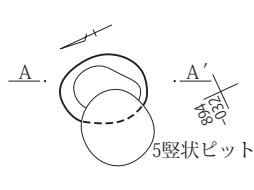
- P 137
 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ2~5mm)ロームブロック(φ3mm)を少量含む。

3区123号ピット



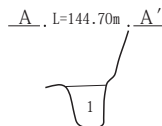
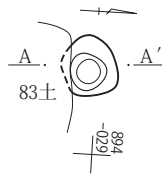
- P 123
 1 暗褐色土とローム粒・ロームブロック(微~φ30mm)の混土。

3区124号ピット



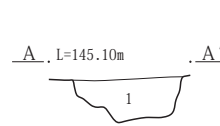
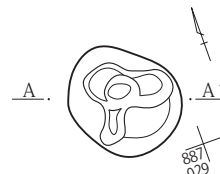
- P 124
 1 暗褐色土(10YR3/3) 微細のローム粒主体。ロームブロック(φ20mm)を少量含む。

3区129号ピット



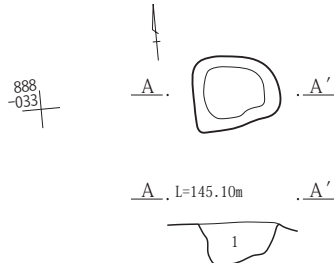
- P 129
 1 ローム粒・ロームブロック(φ1~30mm)を少量含む。

3区130号ピット

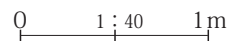


- P 130
 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ2~10mm)を多量含む。

3区127号ピット



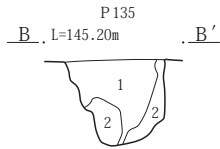
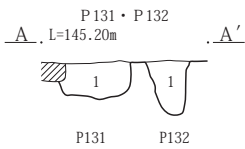
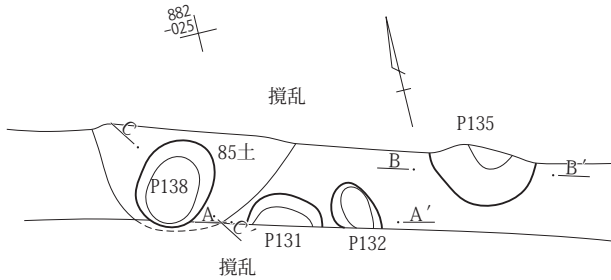
- P 127
 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒・ロームブロックを主体とする。



第49図 ピット(10)

第3章 検出された遺構と遺物

3区131号・132号・135号・138号ピット

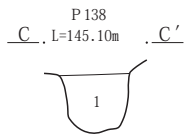


P131・P132

1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 1~10mm)・炭化物を含む。

P135

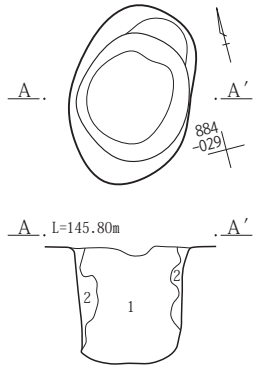
1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 1~10mm)を含む。
2 ローム2次堆積土。



P138

1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 2~15mm)を含む。

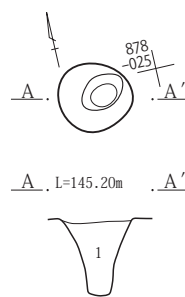
3区139号ピット



P139

1 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒・ロームブロックを主体とする。
2 ローム2次堆積土。

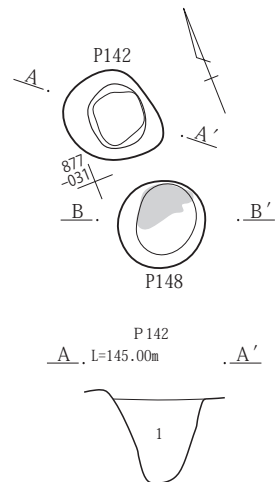
3区140号ピット



P140

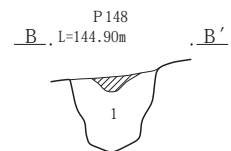
1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ロームブロック(φ 1~20mm)を少量含む。

3区142号・148号ピット



P142

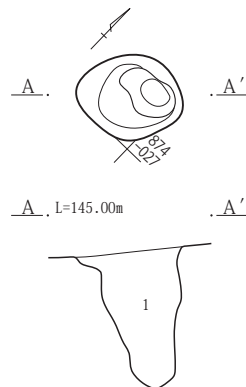
1 暗褐色土(10YR3/4) φ 5~50mm程度のロームブロックを5%含む。固くしまる。φ 1~2mm程度の白色粒を1%含む。固くしまる。



P148

1 黒褐色土とローム粒・ロームブロックの混土。

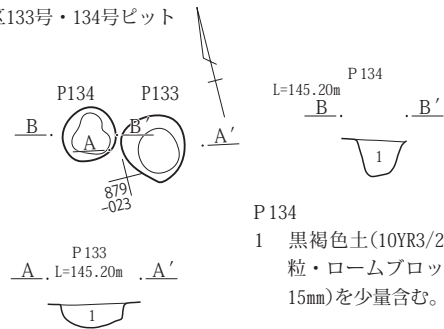
3区141号ピット



P141

1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロック(φ 2~15mm)を少量含む。

3区133号・134号ピット

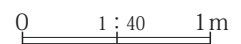


P133

1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロック(φ 1~15mm)を少量含む。

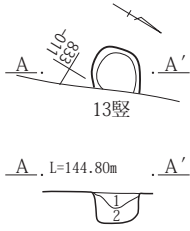
P134

1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロック(φ 1~15mm)を少量含む。



第50図 ピット(11)

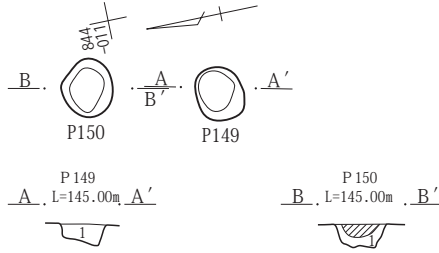
2区143号ピット



P 143

- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ 1mmの灰白色粒を含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック(φ 2～15mm)混土。

2区149号・150号ピット



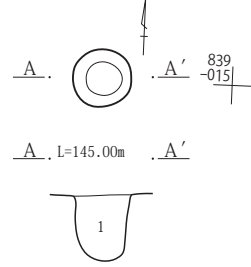
P 149

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックを10%含む。黒褐色土(10YR2/2)を10%含む。しまりあり。

P 150

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 固くしまる。

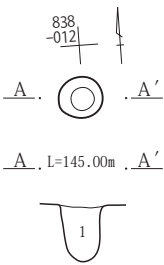
2区152号ピット



P 152

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック(φ 5～20mm)を含む。

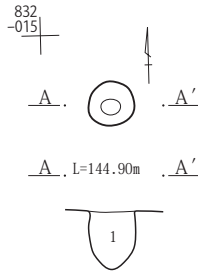
2区153号ピット



P 153

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 2～5mm)を含む。

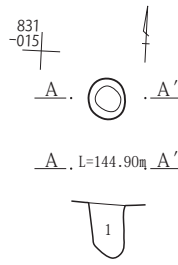
2区154号ピット



P 154

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 2～5mm)を含む。

2区155号ピット



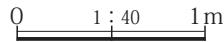
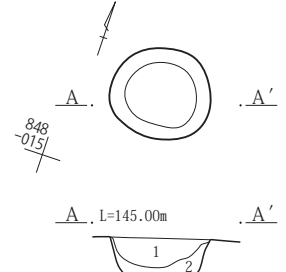
P 155

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 2～5mm)を含む。

P 156

- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ 1mm程度の白色粒を1%含む。φ 1mm程度のローム粒を1%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックを斑状に30%含む。固くしまる。

2区156号ピット



第51図 ピット(12)

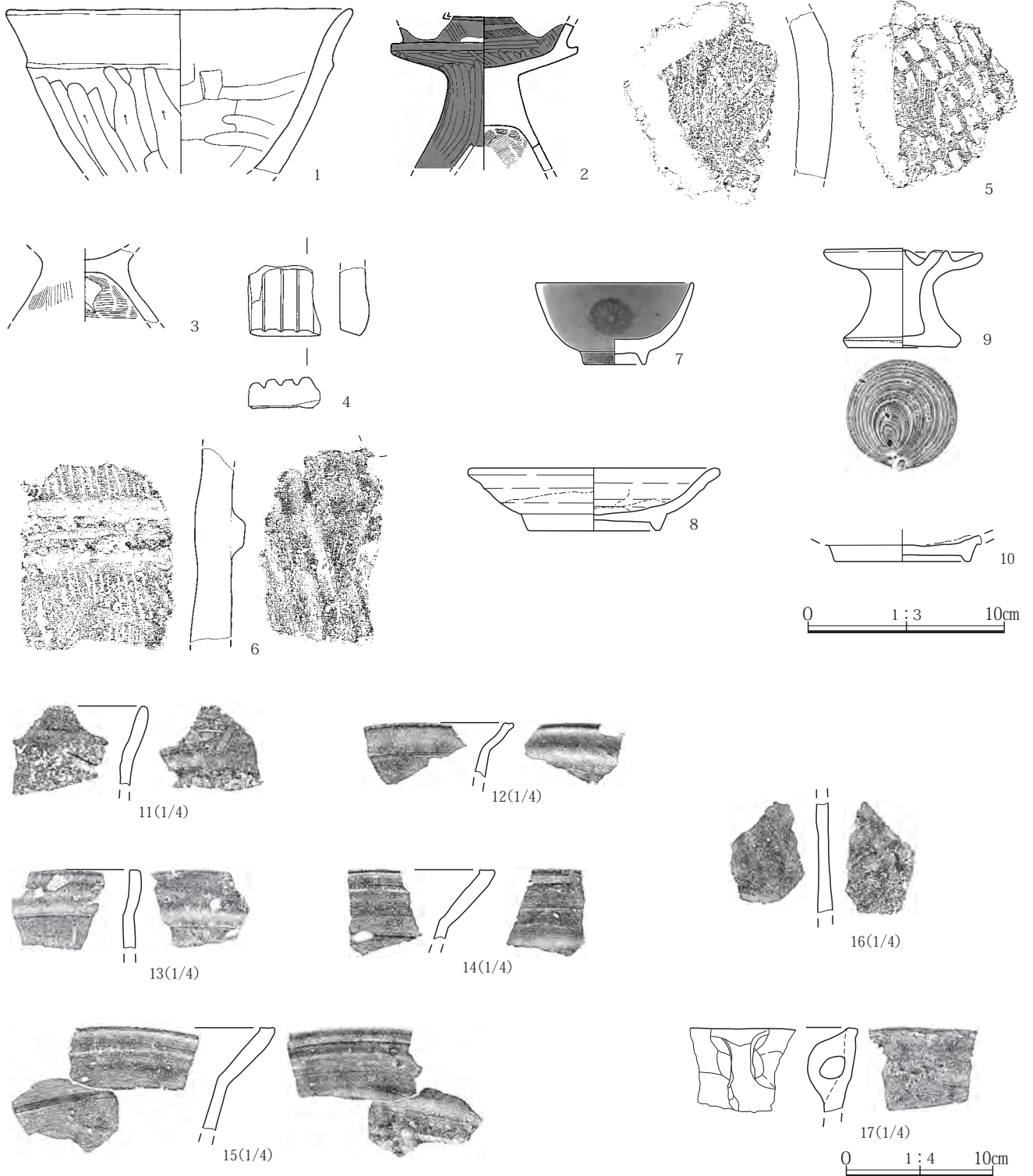
遺構外

遺構外出土遺物

古墳時代以降 (第52図、PL.30)

古墳時代以降の遺物は少ないが、古墳時代前期の赤彩された土師器器台、台付甕脚部が縄文41号土坑覆土上層か

ら出土し、混じり込みである。埴輪片が出土し、周囲の古墳群のものと考えられる。中近世に至る瀬戸・美濃や肥前磁器が出土している。共伴は在地系の内耳鍋、鍋が出土している。これらの遺物は3区1号溝の時期に並行するものと思われる。



第52図 遺構外出土遺物土師器・須恵器

第2節 縄文時代

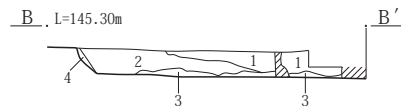
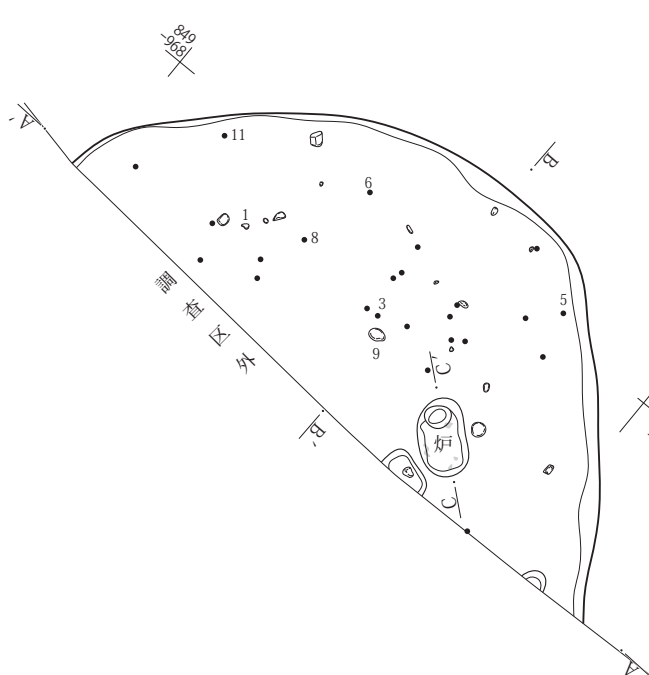
7号竪穴建物(第53・54図、PL. 4・30)

1区西側に位置し、9号竪穴建物の南東にある。
X=44.847~849、Y=-52.962~968の範囲にある。
方位はN-97°-Eを指す。竪穴建物の南側の半分は調査

区外に延びる。形態は円形を呈し、規模は壁高約15~20cmを測る。壁床面は平坦をなし、南東部に炉を確認した。

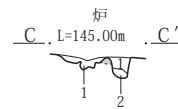
炉の規模は長軸70cm、短軸45cm、深さ10~15cmを測る。確認された面積は8.00㎡である。出土遺物は、すべて深鉢片で諸磯a~b式、有尾式を確認した。又石器も出土している。

1区7号竪穴建物



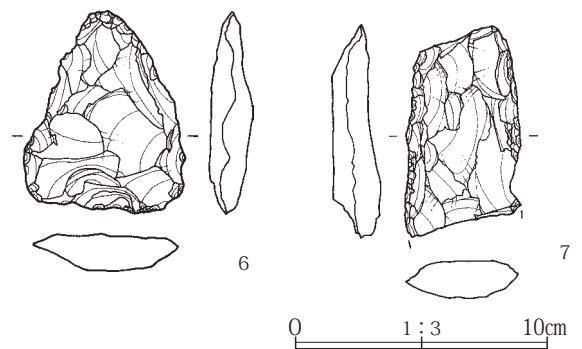
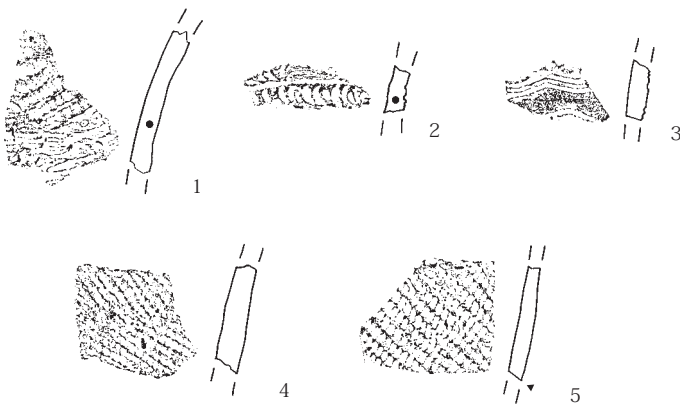
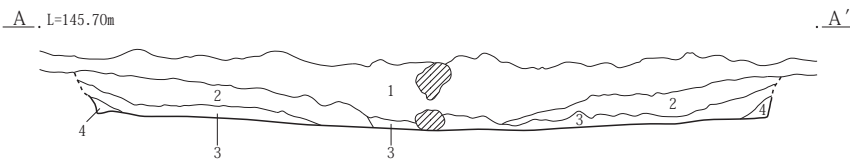
7号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ1~3mm程度の白色粒を1%含む。φ1mm程度の褐色粒を1%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) φ1mm程度の白色粒を1%含む。φ1mm程度の褐色粒を1%含む。固くしまる。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームを20%含む。φ1mm程度の白色粒を1%含む。φ1mm程度の褐色粒を1%含む。固くしまる。
- 4 褐色土(10YR4/4) ロームを10%含む。しまりあり。

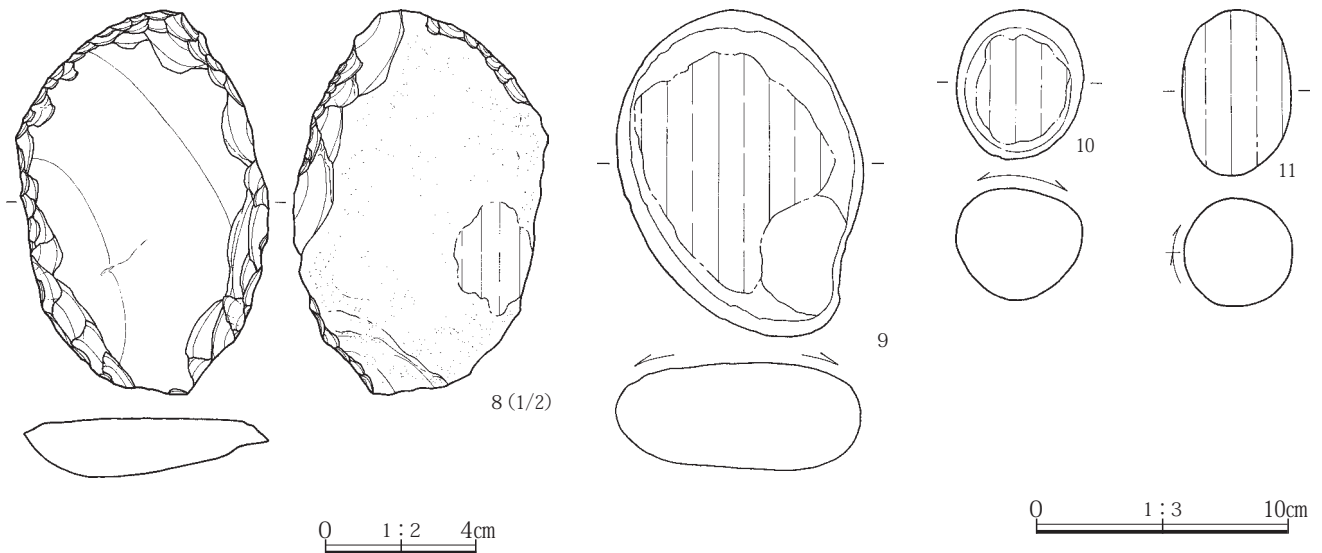


炉 C-C'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ2~5mm)黒褐色土ブロック混入。
- 2 ローム2次堆積土に黒褐色土が混入。
1・2ともに炭化物・焼土粒の混入は顕著でない。



第53図 7号竪穴建物・出土遺物



第54図 7号竪穴建物出土遺物

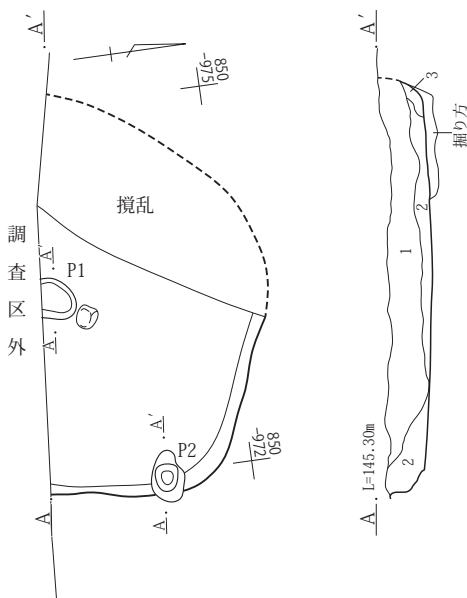
8号竪穴建物(第55図、PL. 4・30)

1区西側7号竪穴建物の西9号竪穴建物の南にある。X=44.848~850、Y=-52.971~975の範囲にある。方位はN-10°-Eを指す。形態は円形を呈し、南半分は調査区外に延びる。西側一部で3号竪穴建物と重複し、壊されている。規模は長軸2.9m、短軸1.65m、壁高は

10~15cmを測る。

床面は平坦をなし、南側にP1、北東側にP2を確認した。規模はP1径約30cm、深さ15cm、P2径約25cm、深さ30cmを測る。確認された面積は4.30㎡である。出土遺物はすべて深鉢片で黒浜~有尾式、諸磯b式を確認した。

1区8号竪穴建物



8号竪穴建物 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 灰黄褐・灰白色粒子(φ2mm)を少量含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック(φ2mm)を少量混入。
- 3 地山の崩落土。

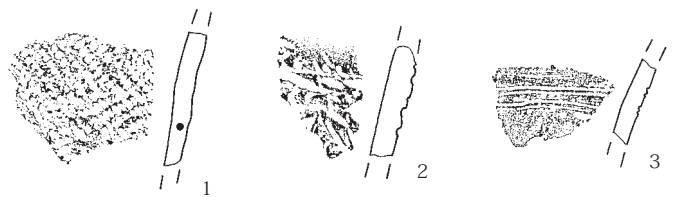


P1

- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ2~5mmのローム粒を含む。
- 2 1とロームブロック(φ10~30mm)の混土層。

P2

- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ2~3mm程度のローム粒を1%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) ロームを10%含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) ロームを30%含む。



0 1:60 2m

0 1:3 10cm

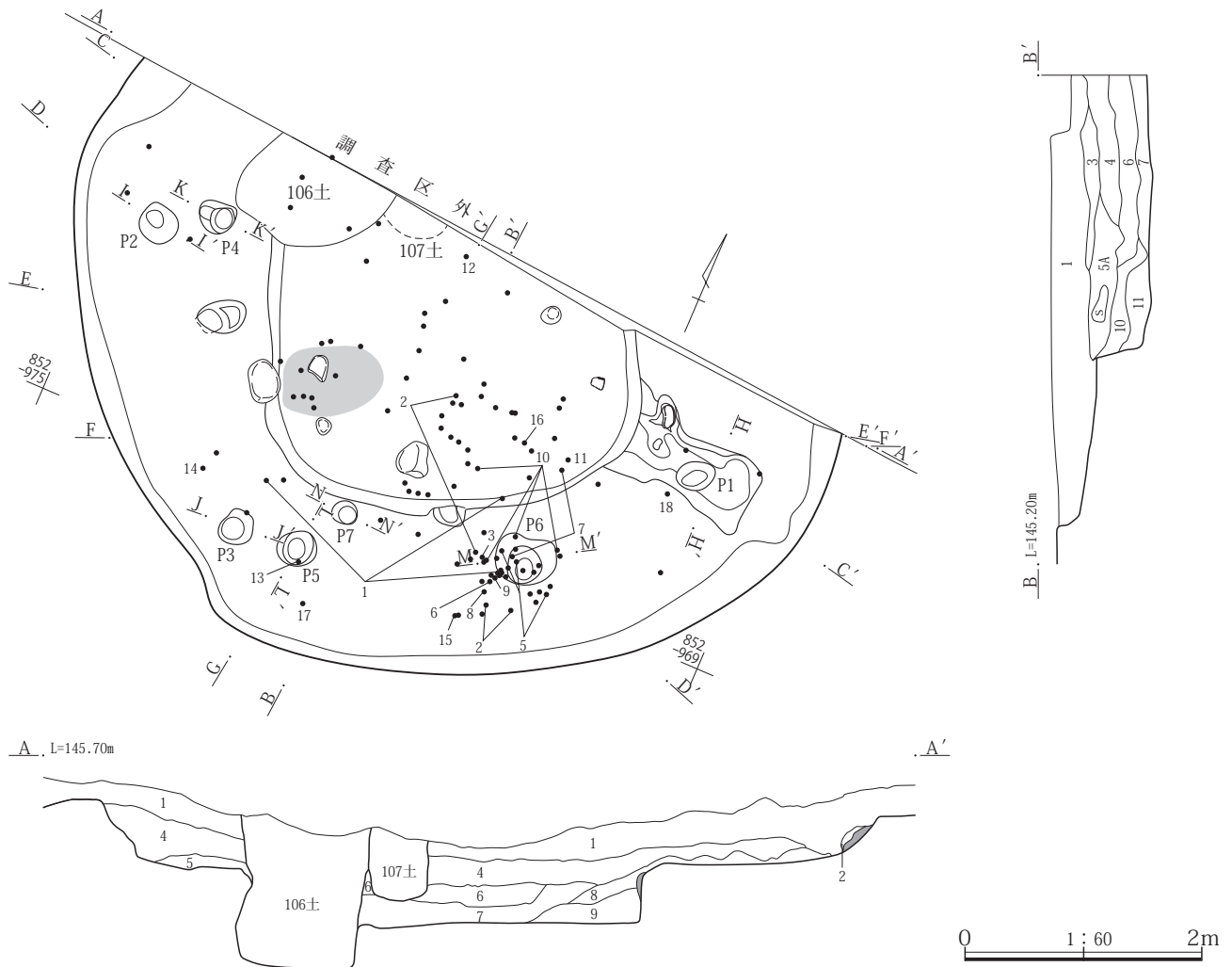
第55図 8号竪穴建物・出土遺物

9号竪穴建物(第56～59図、PL. 4・31)

1区西部に位置し、8号竪穴建物の北にある。北半部は調査区域外に延びる。X=44.850～854、Y=-52.968～975の範囲にある。方位はN-43°-Wを指す。形態は円形を呈し、規模は径約5.0mを測る。壁の形状は、壁から中央に向かい、なだらかに下がり、中央部が隅丸方形状に床面を作る2段構造である。下段の規模は東西長3.9m、北半部は調査区の外側に切られるため、南北長2.5mである。上段の壁高は30～35cm、中央部の床面は中段からまっすぐ掘り込まれ、東側で

40～50cmを測る。他の遺構との関係は西側で106・107号土坑と4号竪穴建物と重複している。新旧関係は106・107号土坑、4号竪穴建物が新しい。中央部下段の南西部に炉と思われるうすい焼土が確認された。ピットが7基確認された。規模はP1径約50cm、深さ50cm、P2径約35cm、深さ60cm、P3径約30cm、深さ90cm、P4径約30cm、深さ60cm、P5径30cm、深さ60cm、P6径約60cm、深さ、60cm、P7径約20cm、深さ40cmを測る。確認された面積は18.30㎡である。出土遺物はすべて深鉢で上段が南東部に集中し、下段は平均して出土し加曾利E1式である。

1区9号竪穴建物

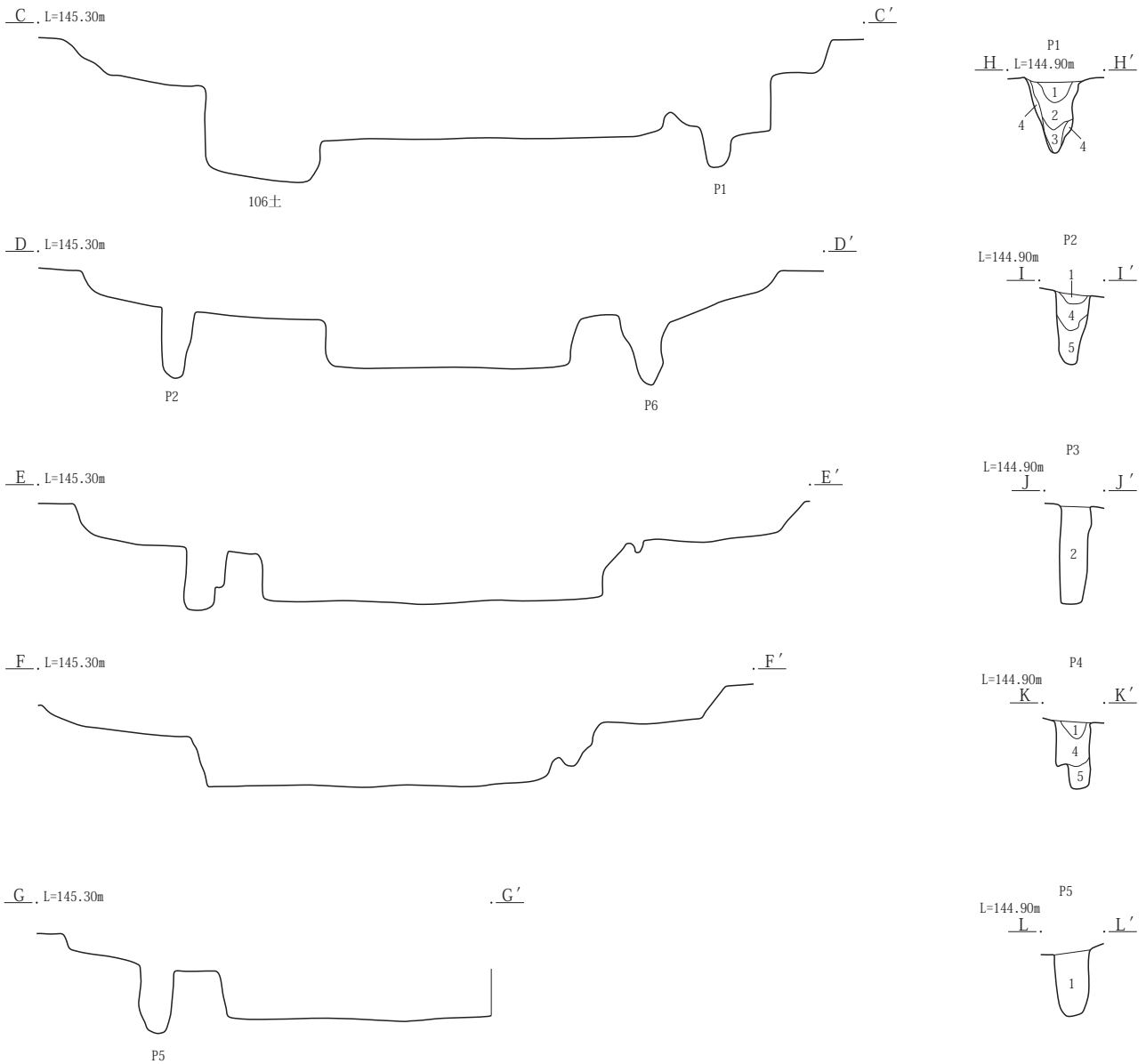


9号竪穴建物 A-A'・B-B'

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1 暗褐色土(10YR3/3) φ2～3mmの灰白・灰黄褐色粒子を含む。 | 6 暗褐色土と黒褐色土の混土でローム粒・ブロック混土。 |
| 2 1に小粒のロームブロックが混入。 | 7 暗褐色土(10YR3/3) 灰黄褐色・ローム粒子混土。 |
| 3 1にロームブロック(φ10～30mm)が混入。 | 8 6にロームブロックが混入。 |
| 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1にローム粒が混入。 | 9 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム粒主体。灰黄褐色粒子(φ2～3mm)混入。 |
| 5 4にロームブロックが混入。 | 10 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰白色粒(φ3mm)を含む少量のローム粒あり。 |
| 5A 4に灰白色粒(φ3mm)が多量混入。 | 11 10に近似。ローム粒・ロームブロックが混入。 |

第56図 9号竪穴建物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



P 1 ~ P 4

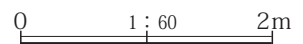
- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ 1 ~ 5mm程度のロームブロックを 2% 含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) φ 2 ~ 15mm程度のロームブロックを 3% 含む。部分的に暗褐色土を含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム色土を20%含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) ローム色土を30%含む。
- 5 褐色土(10YR4/6) 上部に 4 との混土を含む。

P 5 ・ P 6

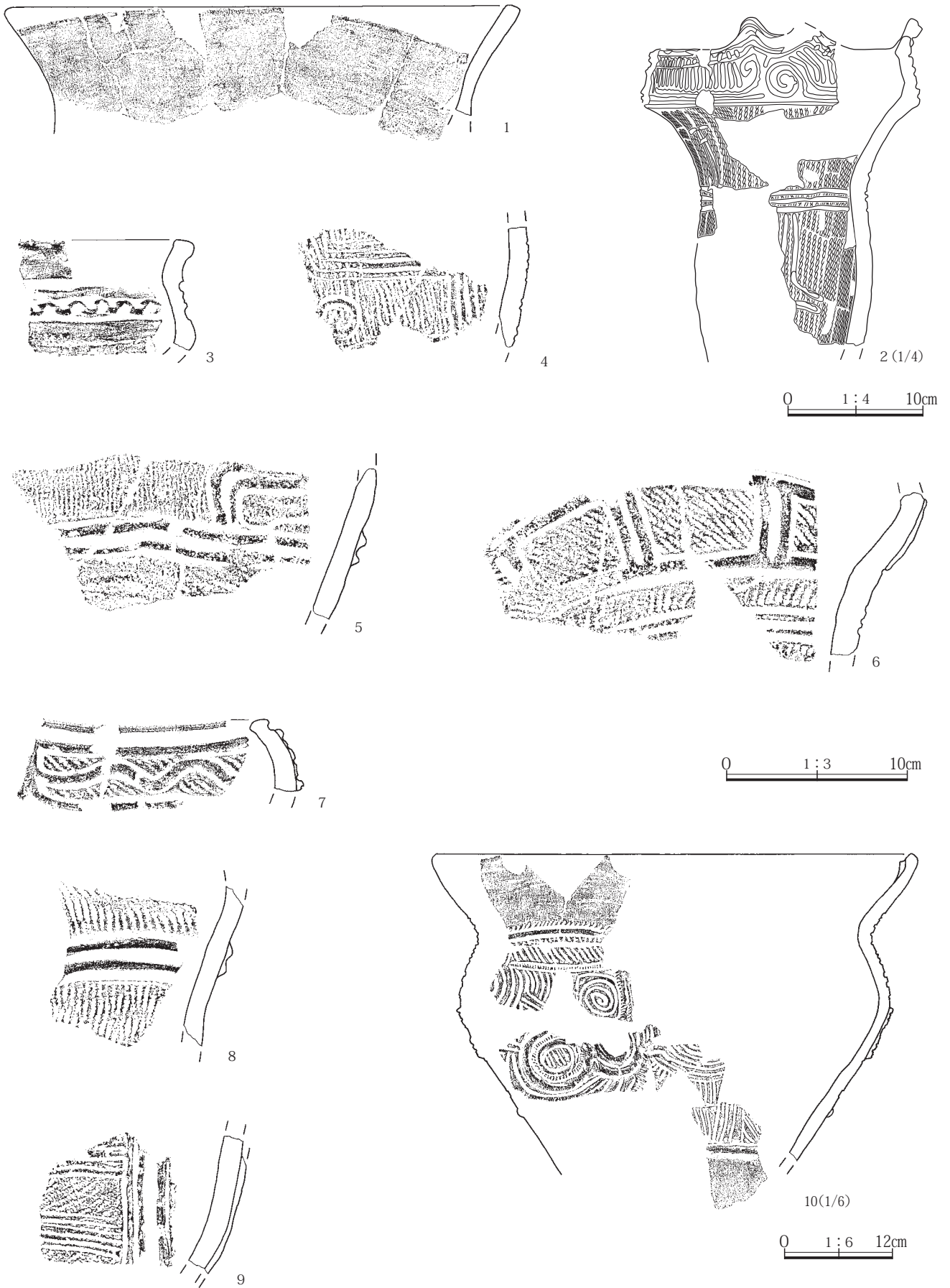
- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ 2 ~ 15mm程度のロームブロックを 3% 含む。部分的に暗褐色土を含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ロームを20%含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) ロームを30%含む。

P 7

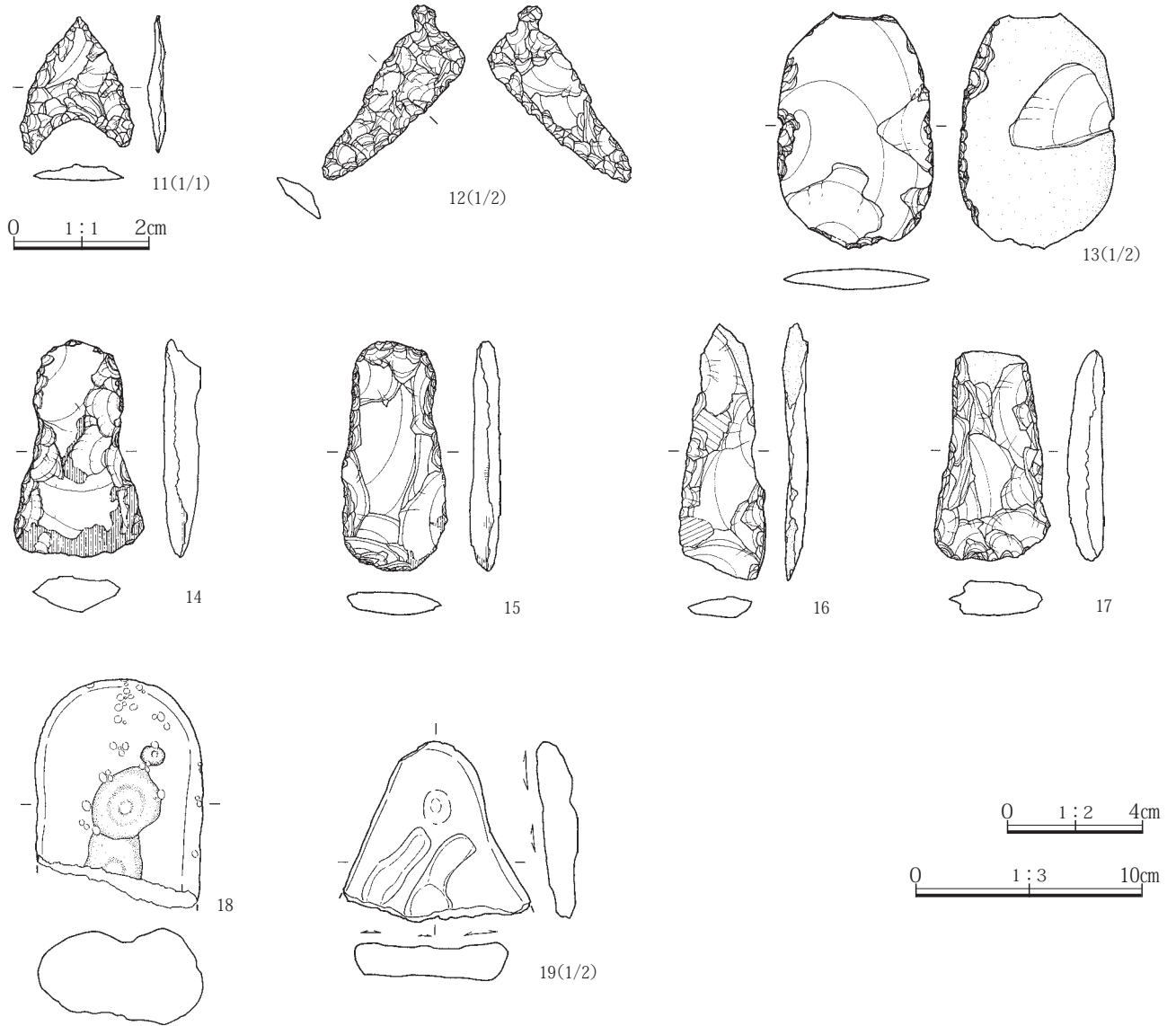
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2mm)・灰白色パミス少量含む。



第57図 9号竪穴建物(2)

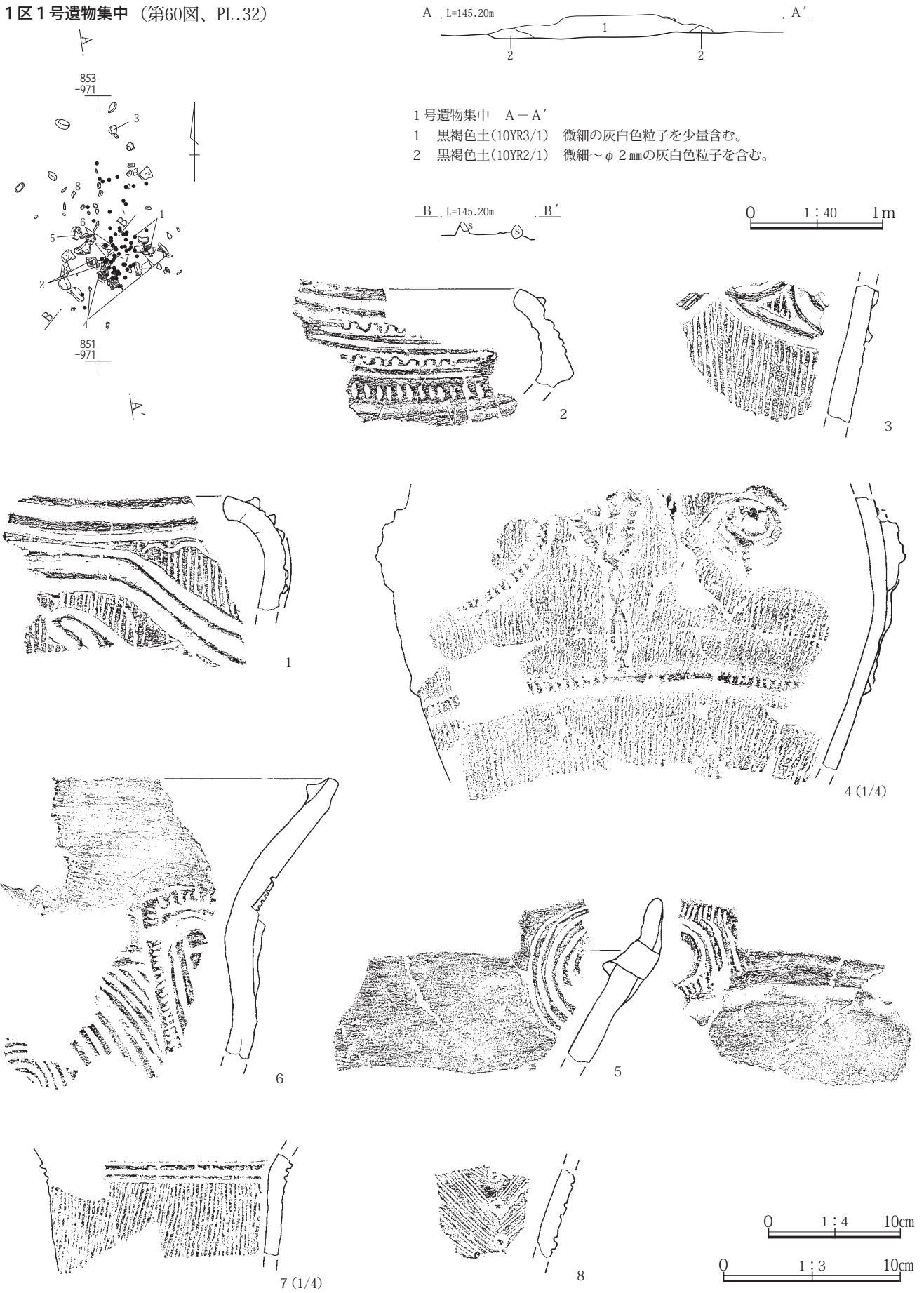


第58図 9号竪穴建物出土遺物(1)



第59図 9号竪穴建物出土遺物(2)

1区1号遺物集中 (第60図、PL.32)

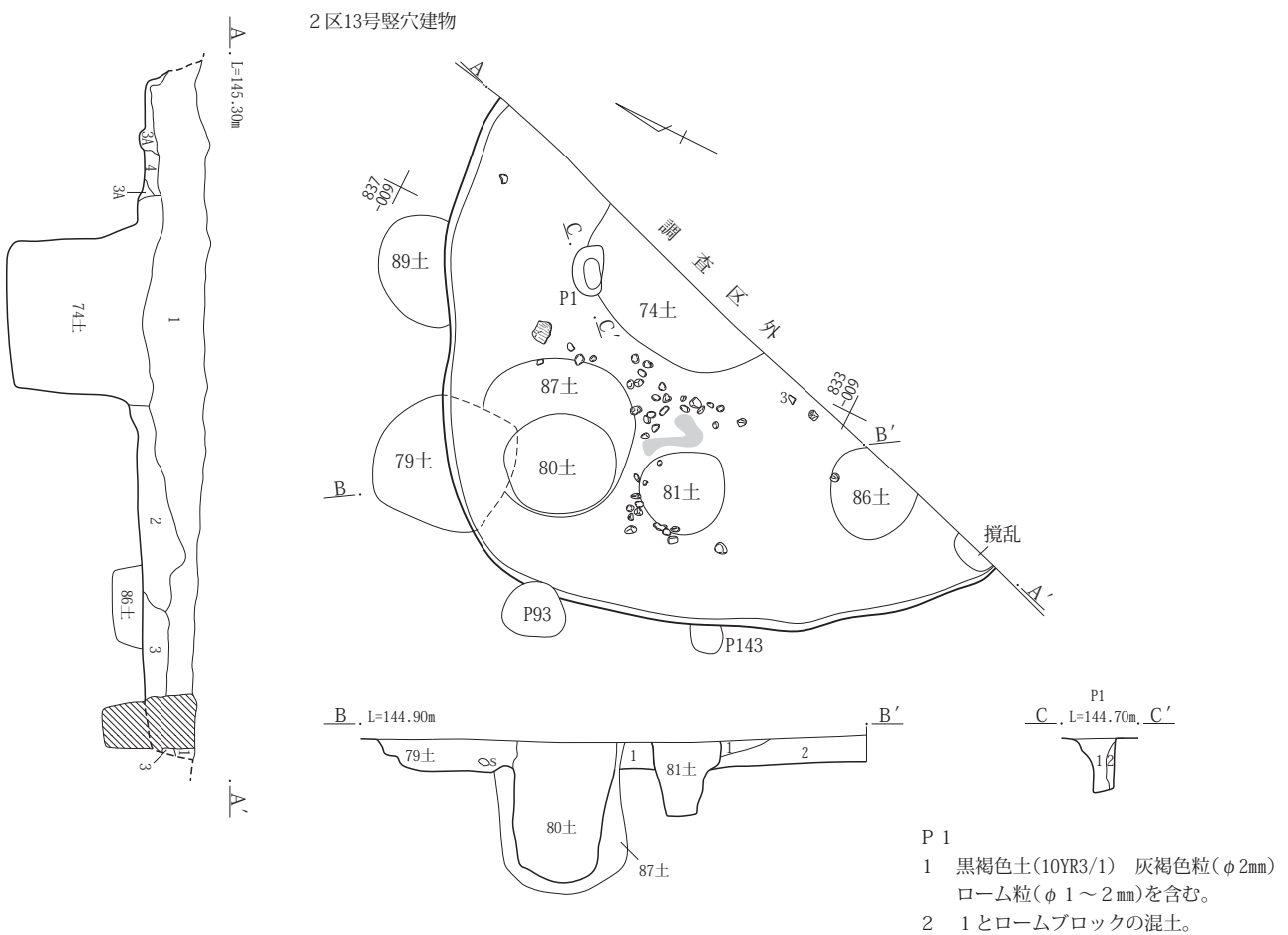


第60図 1号遺物集中・出土遺物

13号竪穴建物(第61・62図、PL. 6・32)

2区南東部に位置し、X=44.831~836、Y=-53.008~011の範囲にある。方位はN-28°-Wを指す。北東半分は調査区外に延びる。形態は楕円形を呈し、規模は径5.5m、壁高は約20cmを測る。他の遺構との関係は74・79~81・86・87・89号土坑、93・143号ピットと重複する。新旧関係は、断面観察により、86号土坑は竪穴建物より旧く、竪穴建物が完掘できないため、74号土坑としたが、堆積覆土の状況からみて1区9号竪穴建物と同じ

2段構造を持つ可能性も否定できない。ピットは1基確認できた。規模はP1径約35cm、深さ45cmを測る。面積は30.10m²である。出土遺物はすべて深鉢片、諸磯b式・浮島式片が確認された。74号土坑から諸磯b式86号土坑から諸磯b式、浮島式土器、87号土坑からは諸磯式土器が出土する。74号土坑の堆積状況と出土遺物を合わせ、74号土坑が13号竪穴建物の床面と考えることが出来る。86号土坑は竪穴建物内の土坑との可能性がある。土坑は出土遺物が無いため新旧関係は不明である。



13号竪穴建物 A-A'

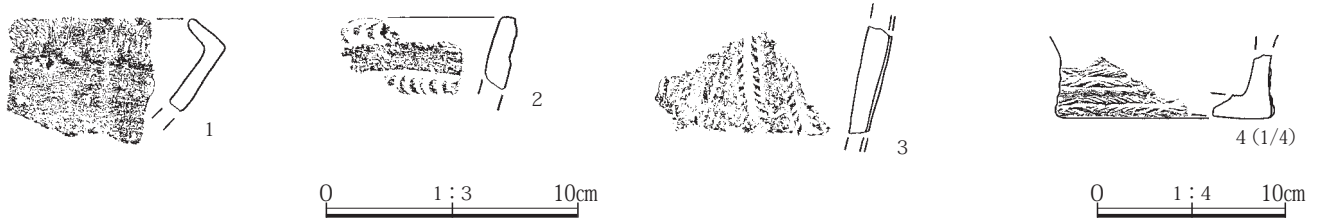
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ1~2mm)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム及びロームブロックの2次堆積土(人為的?)
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック(φ20~30mm)を少量含む。
- 3A 3にロームブロック(φ20mm)を多量含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ5~10mm)を含む。

13号竪穴建物 B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ1~2mm)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(微~φ2mm)ロームブロック(φ20~50mm)を含む。

0 1:60 2m

第61図 13号竪穴建物



第62図 13号竪穴建物出土遺物

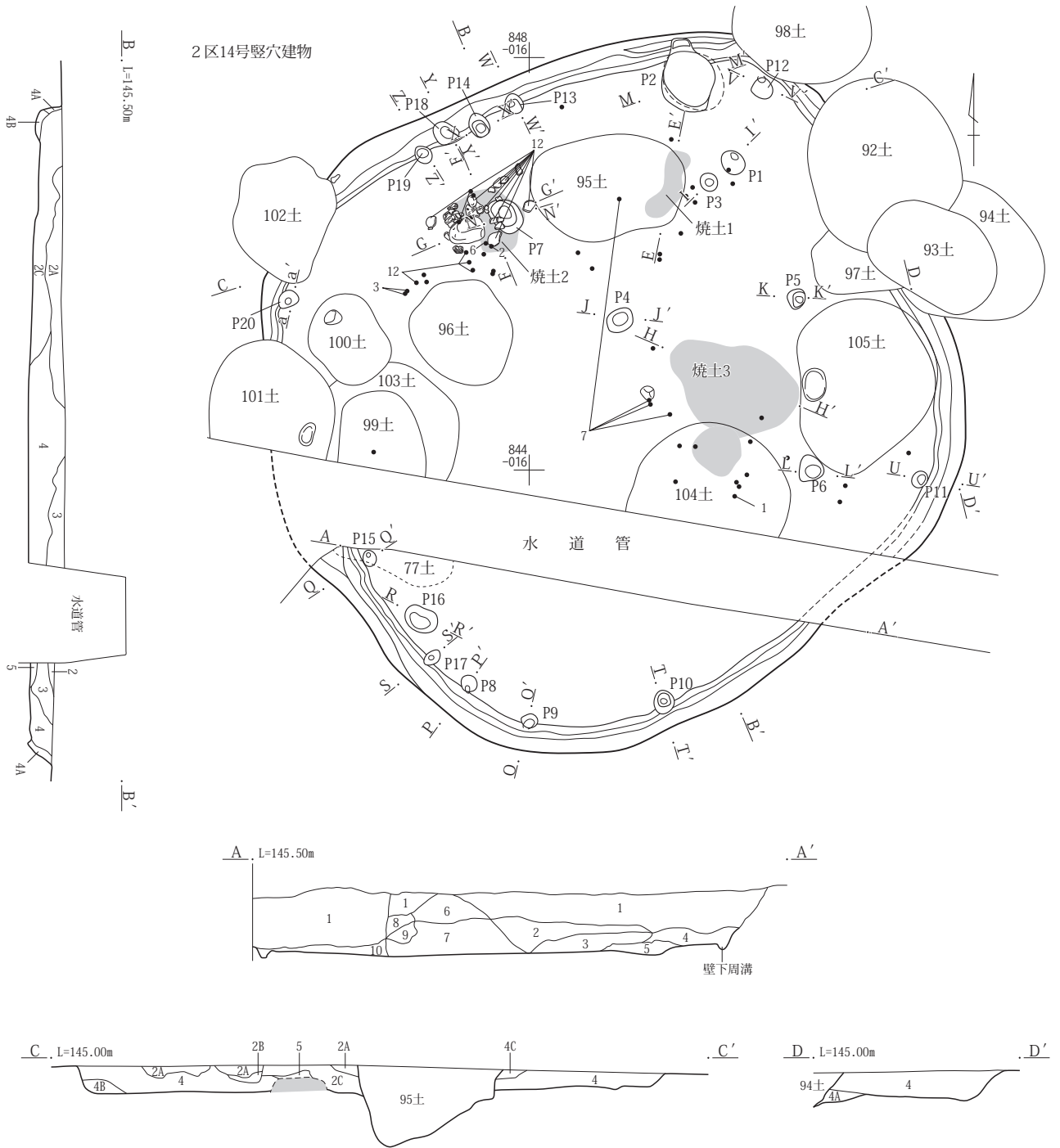
14号竪穴建物(第63～66図、PL. 6・32)

2区中央部に位置し、X=44.841～848、Y=-53.011～018の範囲にある。方位はN-23°-Wを指す。竪穴建物南部に水道管が走っている。形態は楕円形を呈し、長軸5.82m、短軸5.7m、壁高15～20cmを測る。他の遺構との関係は77・92～105号土坑と重複する。土坑は77号土坑が諸磯bに加曾利E 1が1点混入し、新旧関係は100号土坑が加曾利E 4式土器を出土し、他の土坑は主体が諸磯b式を出土するため新旧は不明である。

形態は楕円形を呈し、長軸5.82m、短軸5.7m、壁高15～20cmを測る。床面は平坦を呈し、壁際には周溝が確認された。規模は幅15cm、深さ10cmを測る。中央東・西・北の3ヶ所で焼土が確認された。各々焼土1～3とした。規模は各々断面をとった場所で焼土1、80cm、焼土2、70cm、100cm、焼土3、110cmを測る。焼土は床面上に乗りわずかに掘り込みが認められる。焼土2は周りを囲むように石が配置され石囲い炉の様相を呈する。ピット20基確認した。このうちピット8から20は円形の竪穴建物の周溝に沿い円形に巡り、竪穴建物構築構造の一部の可能性が高い。ピットの規模はP 1 径約25cm、深さ25cm、P 2 径約50cm、深さ45cmを測る。P 3 径約15cm、深さ40cm、径約20cm、深さ35cm、P 5 径25cm、深さ25cm、P 6 径25cm、深さ70cm、P 7 径約25cm、深さ40cm、P 8 径10cm、深さ30cm、P 9 径約10cm、深さ30cm、P 10 径約10cm、深さ35cm、P 11 径約10cm、深さ15cm、P 12 径約10cm、深さ45cm、P 13 径約10cm、深さP 14 径約15cm、深さ20cm、P 15 径約10cm、深さ15cm、P 16 径約30cm、深さ5cm、P 17 径約15cm、深さ15cm、P 18 径約15cm、深さ5cm、P 19 径約10cm、深さ25cm、P 20 径約10cm、深さ15cmを測る。面積は30.10㎡である。出土遺物は浮島式、諸磯b式が確認されている。

15号竪穴建物(第67・68図、PL. 6・15・17・18・20・33)

3区コーナー部に位置し、X=44.875～880、Y=-53.027～032の範囲にある。竪穴建物は現代機械耕作機により、攪乱を受けている。形態は円形である。規模は径5m、壁高は東側の一部で数cmを測る。他の遺構との関係は76号土坑と重複する。新旧関係は15号竪穴建物と76号土坑共に出土遺物が無いため不明である。竪穴建物は円形を呈し、遺跡内のピット番号を振られたものもあるが15号竪穴建物の柱穴の可能性が高い。そのピットはP 67・P 144・P 107・P 145である。また南側76号土坑の南に接する小穴も竪穴建物の構造に付属する可能性が高い。中央部に石囲い炉を確認した。規模は径約90cm、深さ27cm、掘り方面まで厚いところで5～6cmある。ピットは10基確認した。規模はP 1 径約13cm、深さ22cm、P 2 径約60cm、深さ60cm、P 3 径約30cm、深さ40cm、P 4 径約35cm、深さ40cm、P 5 径約15cm、深さ30cm、P 6 径約30cm、深さ85cm、P 7 計測不能、P 8 径約20cm、深さ45cmを測る。P 9 径約60cm、深さ54cm、P 10 径約50cm、深さ59cmを測る。竪穴建物の推定面積は20.12㎡である。P 10より石匙、P 6より砥石が出土している。

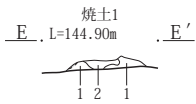


14号竪穴建物 A-A'・B-B'・C-C'・D-D'

- | | |
|---|--|
| <p>1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒・黄褐色粒(φ 1~2mm)を少量含む。</p> <p>2 にぶい黄褐色(10YR4/3) 微細の灰白色・黄褐色粒を含む。</p> <p>2A 2に近似するがローム粒の混入少なく黒味がつよい。</p> <p>2B 2Aにロームブロック(φ 50mm)が混入。</p> <p>2C 2Bに焼土粒が混入。</p> <p>3 2に近似する。ロームブロック(φ 30~40mm)を含む。</p> <p>4 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰白色粒(φ 1~2mm)・黄褐色粒を含む。</p> <p>4A 4にローム(φ 40mm)が混入。</p> | <p>4B 4Aにローム粒(φ 2~5mm)を含む。</p> <p>4C 4にローム粒(φ 2~3mm)を含む。</p> <p>5 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ 1mm)含む。</p> <p>6 暗褐色土(10YR3/3) 5にローム粒(微細)を含む。</p> <p>7 にぶい橙色(10YR6/4) ローム粒を主体とする。</p> <p>8 7に近似する。ローム粒の混入多い。</p> <p>9 にぶい橙色(10YR6/3) ローム粒を主体(2次堆積的なブロック)。</p> <p>10 3に近似。3よりやや黒味つよい。</p> |
|---|--|

0 1:60 2m

第63図 14号竪穴建物(1)



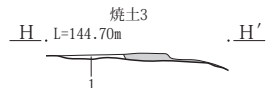
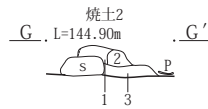
E-E'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の灰白色バミスを含む。
- 2 焼土粒子を多量含む。暗褐色土。



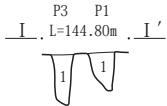
F-F'・G-G'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒子を多量含む。
- 2 焼土粒・焼土粒子を主体とする赤褐色土。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 微量の焼土粒子を含む。

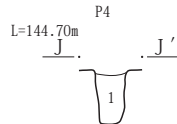


H-H'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒を含む。(φ 2mm)

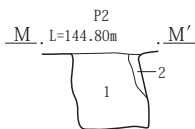
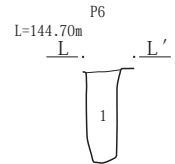
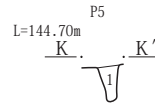


- P 1 1 黒褐色土(10YR2/3) 固くしまる。
- P 3 1 P 1と同じ。ロームを10%含む。固くしまる。



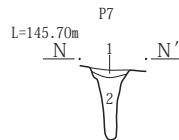
P 4~P 6

- 1 P 1と同じ。ロームブロックを5%含む。固くしまる。



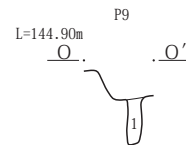
P 2

- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ 10~20mm程度のロームブロックを10%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) ロームを20%含む。



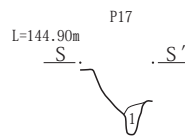
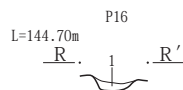
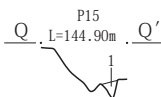
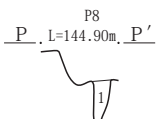
P 7

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックを10%含む。φ 1mm程度の焼土をブロック状に1%含む。固くしまる。



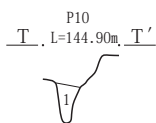
P 9

- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ 5~10mm程度のロームブロックを5%含む。しまりあり。



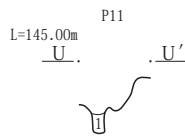
P 8・P 15~P 17

- 1 暗褐色土(10YR3/3) φ 5~20mm程度のロームブロックを10%含む。しまりあり。



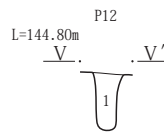
P 10

- 1 褐色土(10YR4/4) ロームを5%含む。しまりあり。



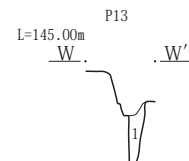
P 11

- 1 P 1と同じ。ロームブロックを3%含む。しまりあり。



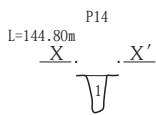
P 12

- 1 P 1と同じ。φ 1mm程度のローム粒を1%含む。



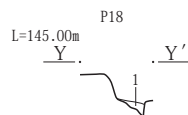
P 13

- 1 P 1と同じ。ロームブロックを10%含む。固くしまる。



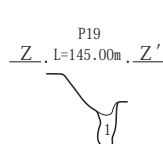
P 14

- 1 P 1と同じ。φ 2~20mm程度のロームブロックを5%含む。固くしまる。



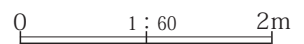
P 18・P 19

- 1 P 1と同じ。ロームブロックを5%含む。固くしまる。

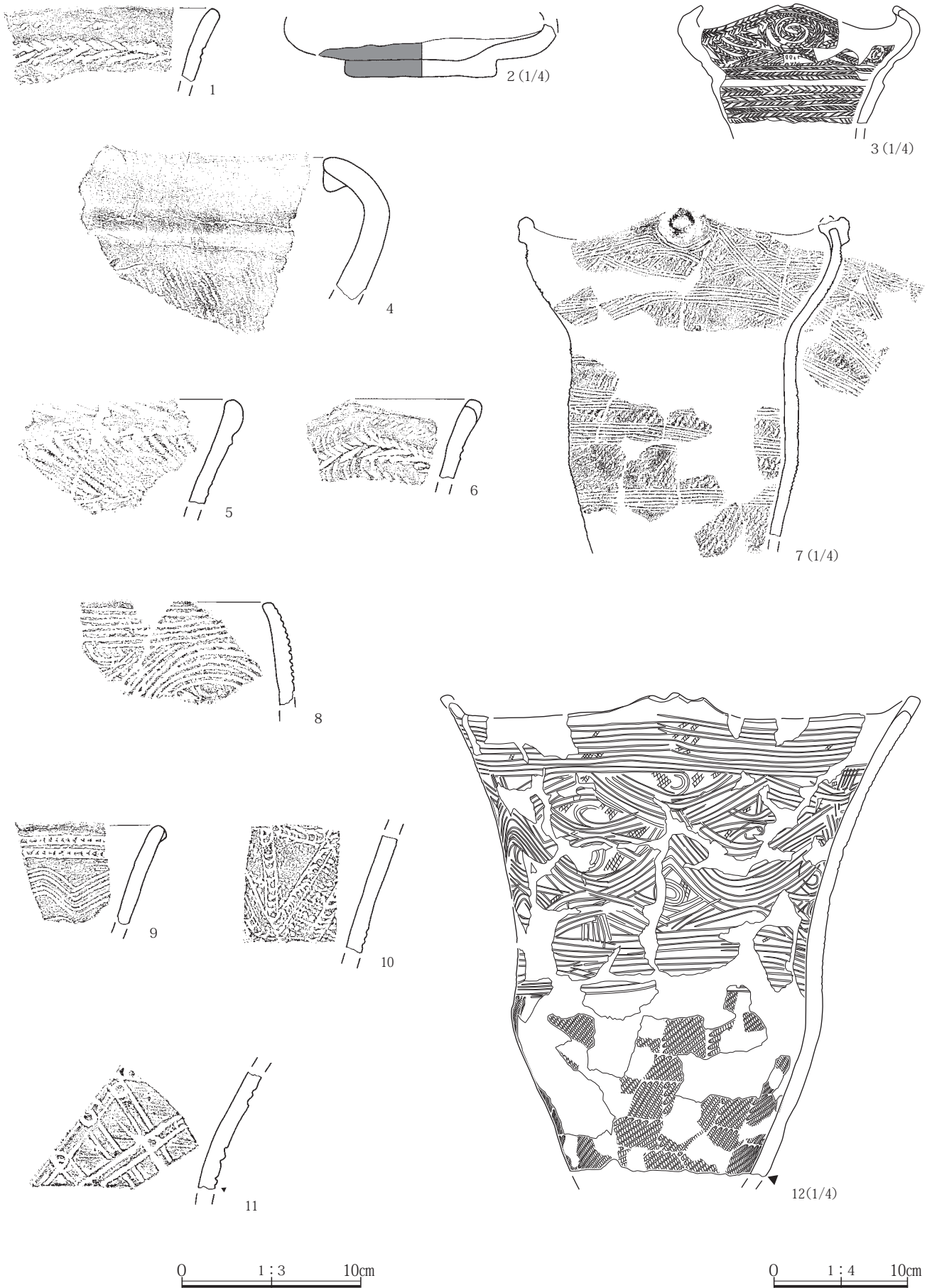


P 20

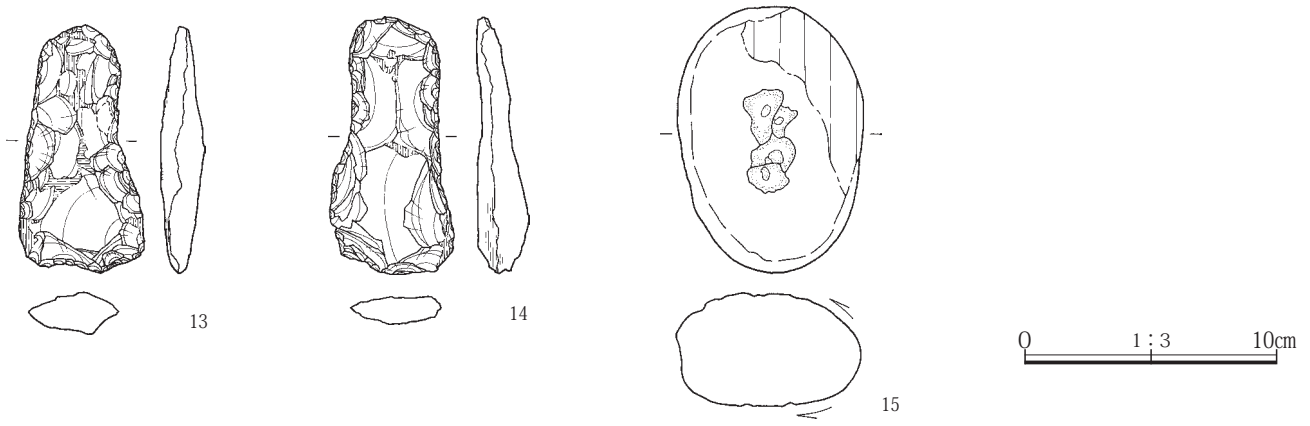
- 1 P 1と同じ。ロームブロックを3%含む。



第64図 14号竪穴建物(2)

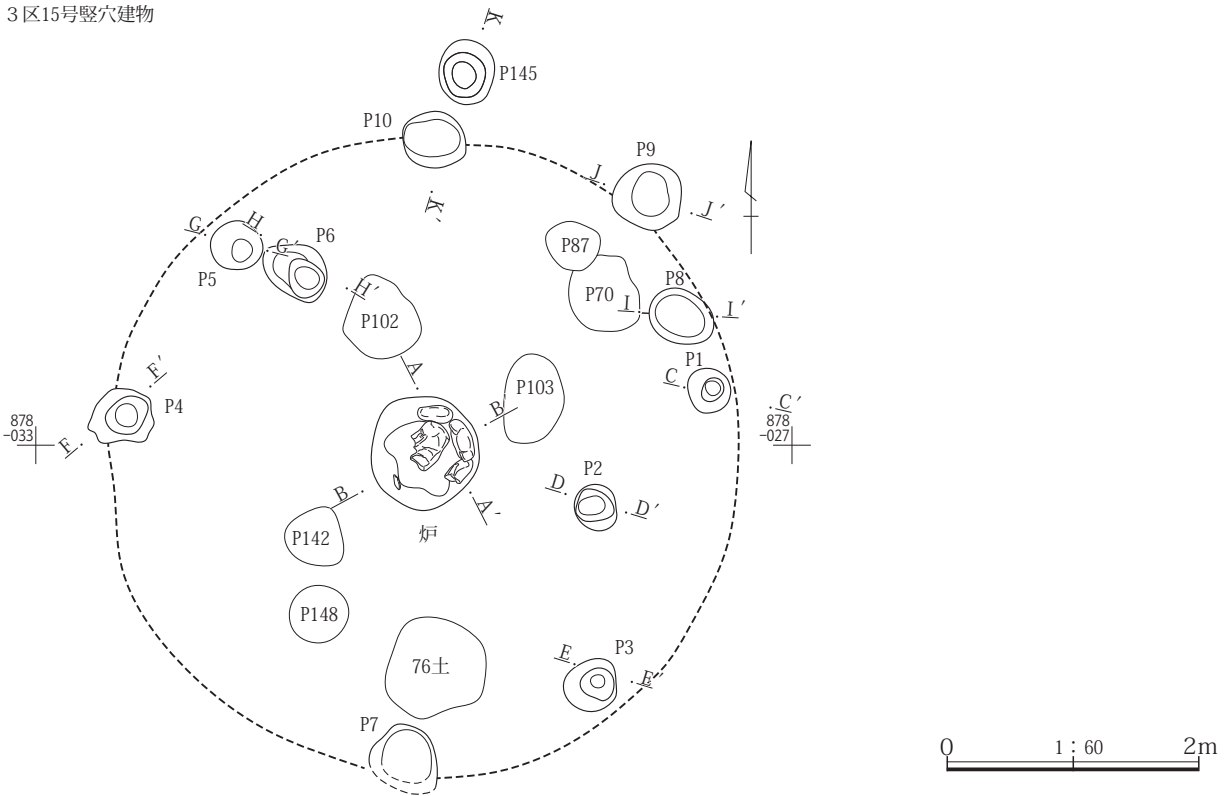


第65図 14号竪穴建物出土遺物(1)

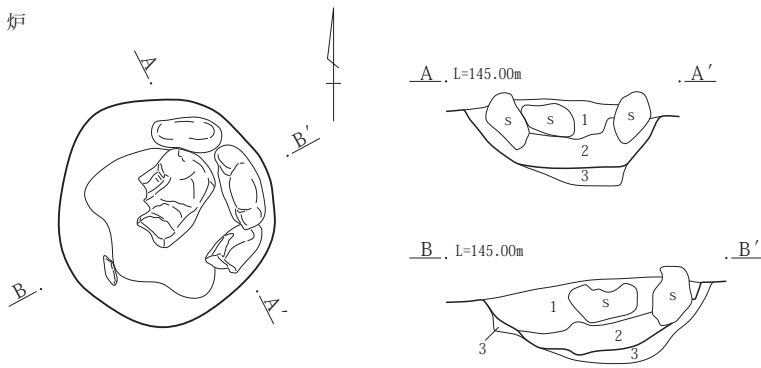


第66図 14号竪穴建物出土遺物(2)

3区15号竪穴建物

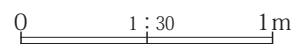


炉



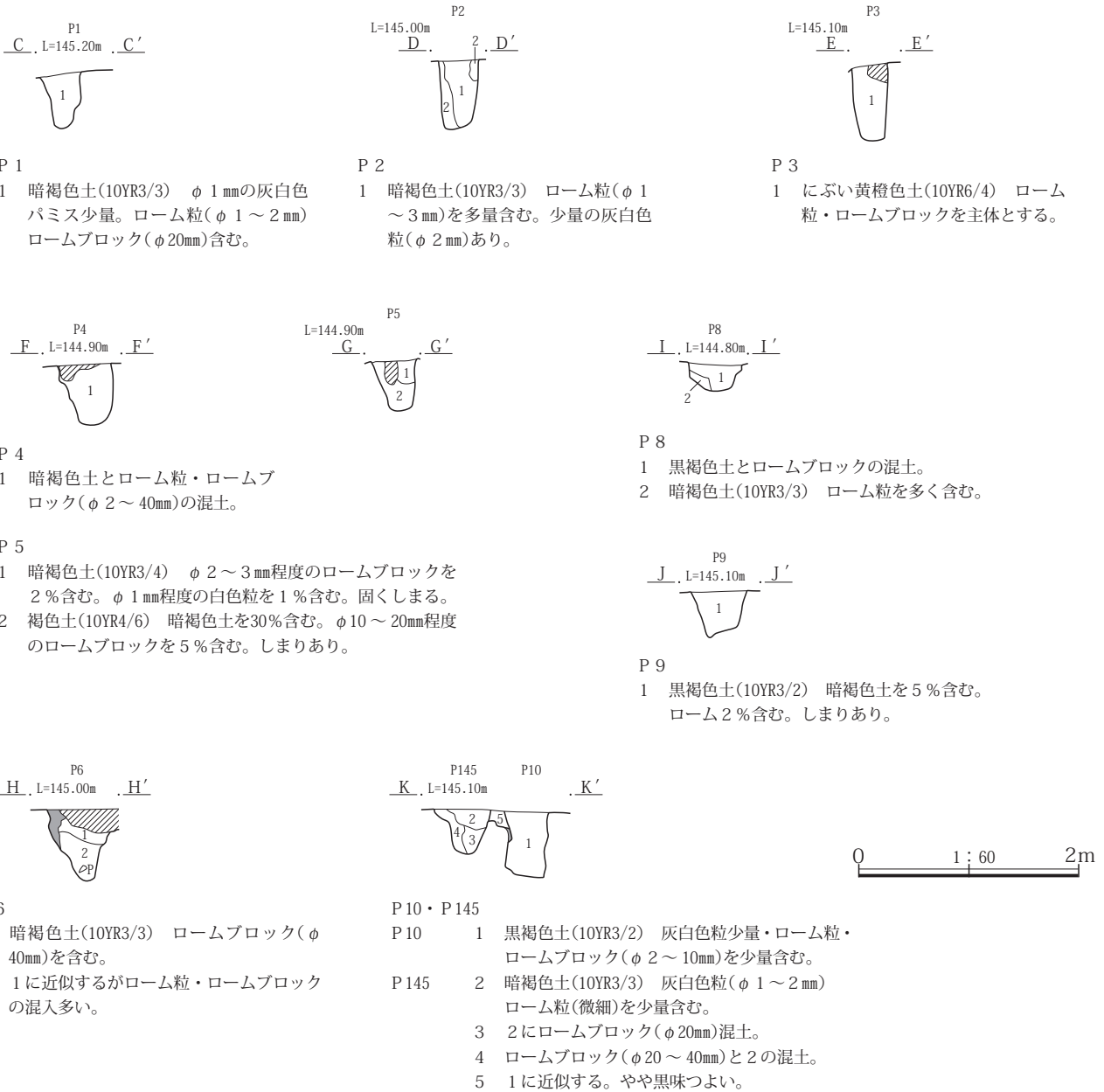
15号竪穴建物 炉 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ1~2mmの灰白色粒・ローム粒(φ2mm)を少量含む。微量の焼土粒が認められる。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 1にローム粒(φ1~3mm)の混土。微量の炭化物あり。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を主体とする。炉の掘り方の土砂か。



第67図 15号竪穴建物

第3章 検出された遺構と遺物



P 1

1 暗褐色土(10YR3/3) φ 1mmの灰白色パミス少量。ローム粒(φ 1~2mm)ロームブロック(φ 20mm)含む。

P 2

1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ 1~3mm)を多量含む。少量の灰白色粒(φ 2mm)あり。

P 3

1 にぶい黄橙色土(10YR6/4) ローム粒・ロームブロックを主体とする。

P 4

1 暗褐色土とローム粒・ロームブロック(φ 2~40mm)の混土。

P 8

1 黒褐色土とロームブロックの混土。
2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多く含む。

P 5

1 暗褐色土(10YR3/4) φ 2~3mm程度のロームブロックを2%含む。φ 1mm程度の白色粒を1%含む。固くしまる。
2 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土を30%含む。φ 10~20mm程度のロームブロックを5%含む。しまりあり。

P 9

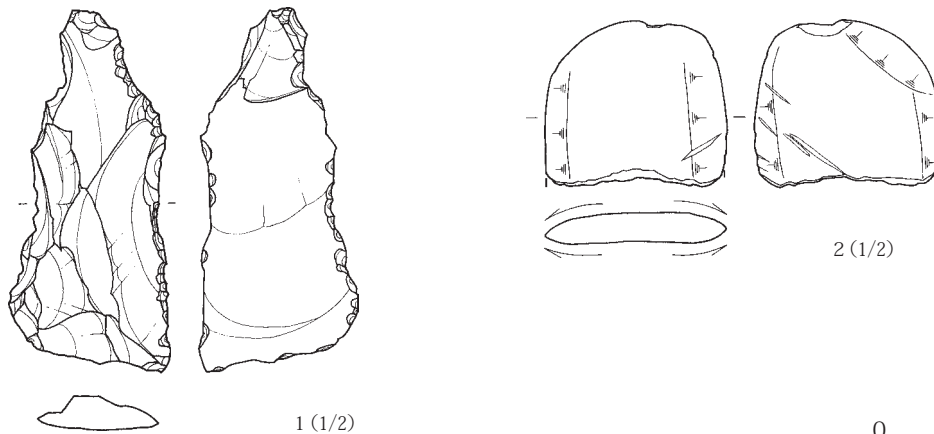
1 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土を5%含む。ローム2%含む。しまりあり。

P 6

1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック(φ 40mm)を含む。
2 1に近似するがローム粒・ロームブロックの混入多い。

P10・P145

P10 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒少量・ローム粒・ロームブロック(φ 2~10mm)を少量含む。
P145 2 暗褐色土(10YR3/3) 灰白色粒(φ 1~2mm)ローム粒(微細)を少量含む。
3 2にロームブロック(φ 20mm)混土。
4 ロームブロック(φ 20~40mm)と2の混土。
5 1に近似する。やや黒味つよい。



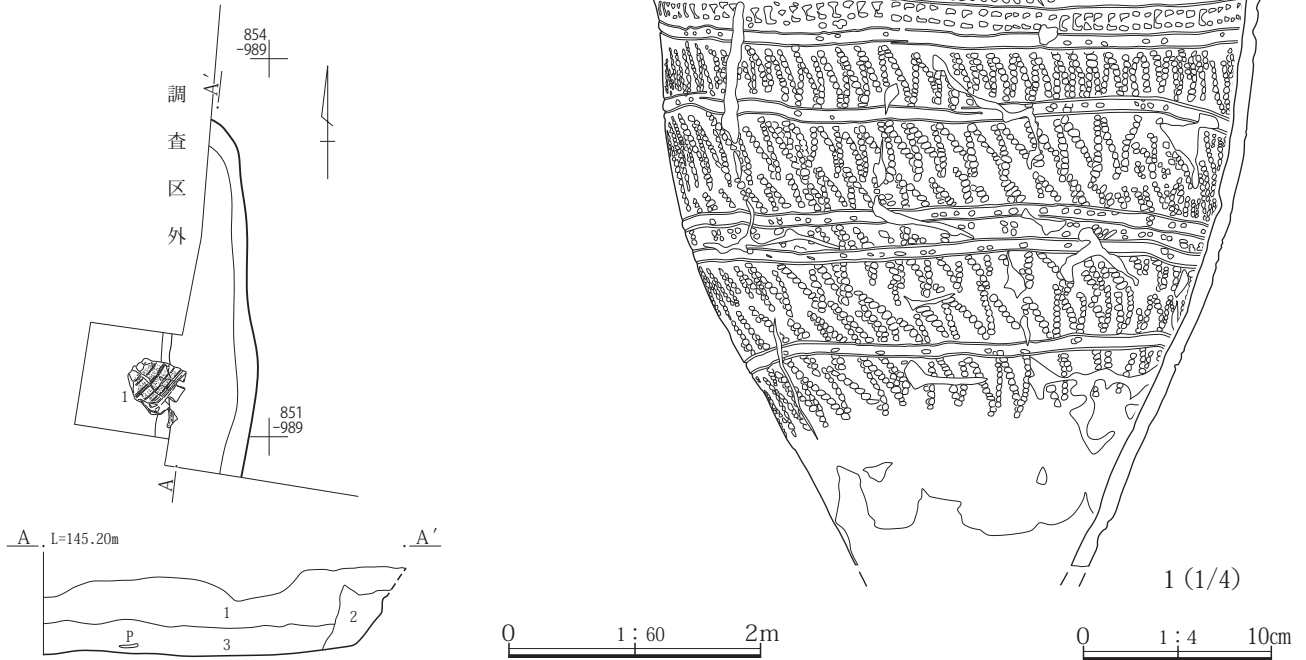
第68図 15号竪穴建物・出土遺物

2号竪穴状遺構(第69図、PL. 6・33)

1区西端部に位置し、X=44.850~853、Y=-52.989~991の範囲にある。方位はN-5°-Eを指す。形態は不明である。遺構は東端部の位置を確認し、大半は西側

現道下に延びる。規模は長軸2.3m、短軸1.2m、深さ40cmを測る。確認された面積は1.82㎡である。出土遺物は浮島式深鉢が出土した。

1区2号竪穴状遺構



2号竪穴状遺構 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ1~2mmの灰白色パミス・ローム粒子(φ1~2mm)を少量含む。
- 2 1にロームブロック(φ20~50mm)を多量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ2~5mm)ロームブロック(φ30~50mm)を含む。やや粘質。

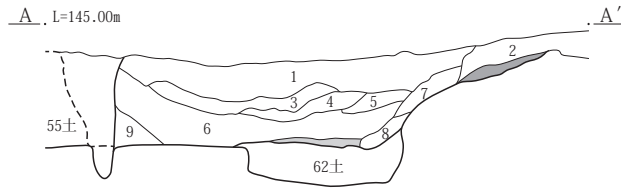
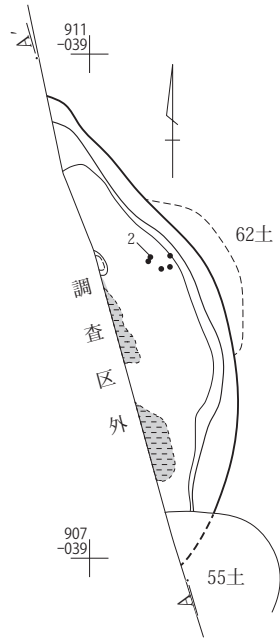
第69図 2号竪穴状遺構・出土遺物

4号竪穴状遺構(第70・71図、PL. 7・34)

3区北西部に位置し、X=44.907~910、Y=-53.037~039の範囲にある。方位はN-15°-Wを指す。遺構の大半は西の調査区外に延びている。規模は長軸2.0m、短軸0.75m、壁高は73cmを測る。他の遺構の関係は55・62号土坑と重複する。新旧関係は本遺構が55号土坑より

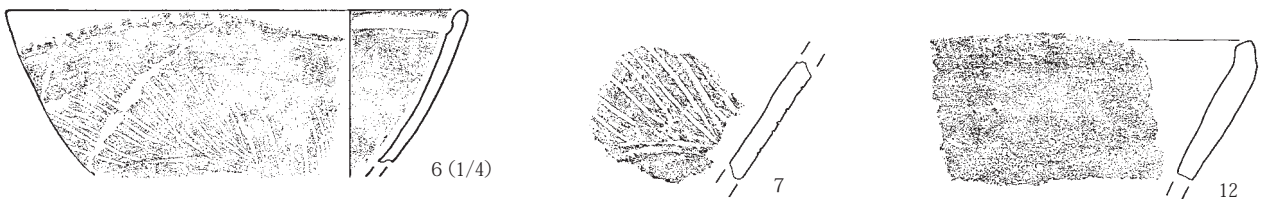
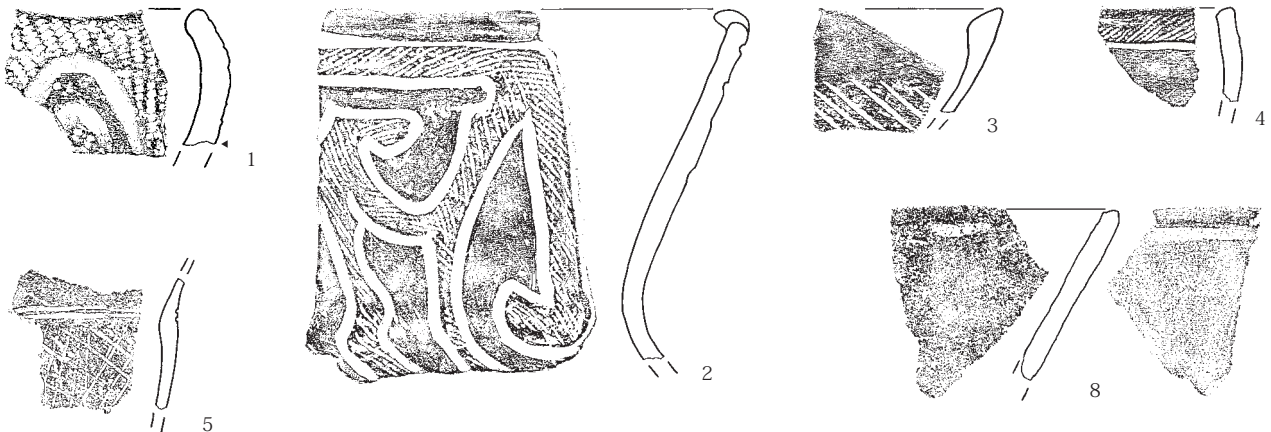
古く、62号土坑より新しい。確認された面積は1.57㎡である。出土遺物は加曾利B2・3式、55号土坑からは称名寺Ⅱ式・堀之内Ⅰ式・加曾利B2式、62号土坑からは堀之内Ⅰ式が出土するが、本遺構の出土土器は、小片で覆土最上層からの出土であり、床上約70cmを測る。他に3点の石鏃が出土している。

3区4号竖穴状遺構

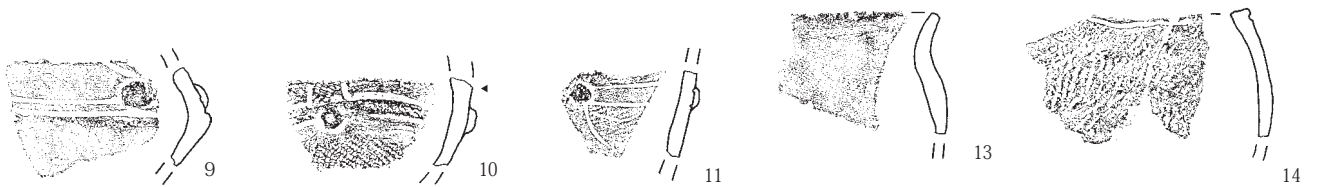


4号竖穴状遺構 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色・褐色粒(φ 2mm)を含む。
- 2 1にロームブロックが混入。
- 3 1と暗褐色土ブロックの混土。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ 1~2mm)・炭化物を含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 4に近似。色調差のみ。
- 6 暗褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロックを含む。焼土粒・炭化物が下位に認められる。
- 7 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(微細)を少量含む。
- 8 7と灰黄褐色土ブロックの混土。
- 9 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒・ロームブロック(φ 5~20mm)・炭化物を含む。

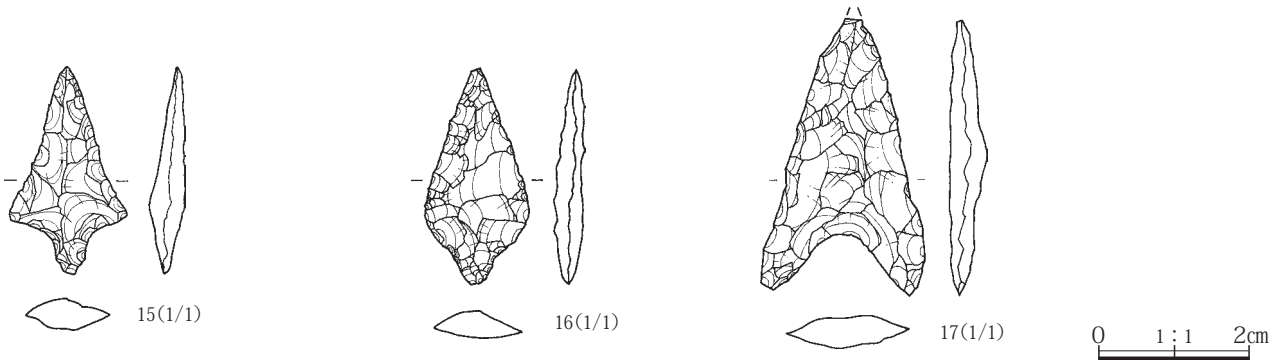


0 1:4 10cm



0 1:3 10cm

第70図 4号竖穴状遺構・出土遺物(1)



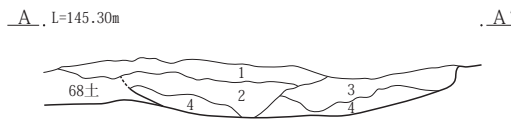
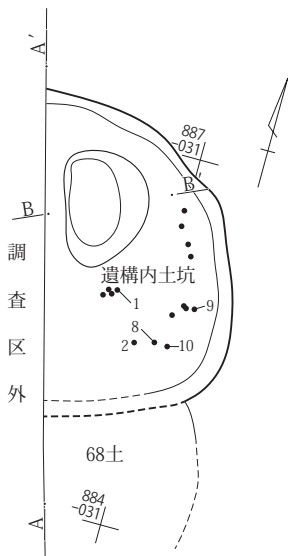
第71図 4号竪穴状遺構出土遺物(2)

6号竪穴状遺構(第72・73図、PL. 7・34)

3区南部に位置し、X=44.884~887、Y=-53.030~032の範囲にある。方位はN-14°-Wを指す。西の大半は調査区域外に延びる。規模は長軸2.35m、短軸1.3m、深さ32cmを測る。他の遺構との関係は南部で68号土坑と重複する。新旧関係は6号竪穴状遺構があたらしい。確

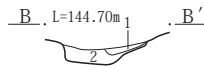
認した面積は2.66㎡である。出土遺物は諸磯b式と加曾利B2式が混じっている。68号土坑は加曾利B2式を主体とする。6号竪穴状遺構出土遺物と68号土坑の出土遺物のレベルはほぼ同じで、ともに覆土最上層である。このため遺物は両遺構のものではなく、加曾利B2式段階に両遺構に混入したものと考えられる。

3区6号竪穴状遺構



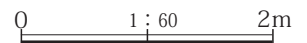
6号竪穴状遺構 A-A'

- 1 黒褐色(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ1~2mm)を含む。(砂質性あり)
- 2 黒褐色(10YR3/2) 少量のローム粒(微細)を含む。
- 3 2にロームブロック(φ10~50mm)を少量混入。
- 4 3とロームブロック(φ30~40mm)の混土。

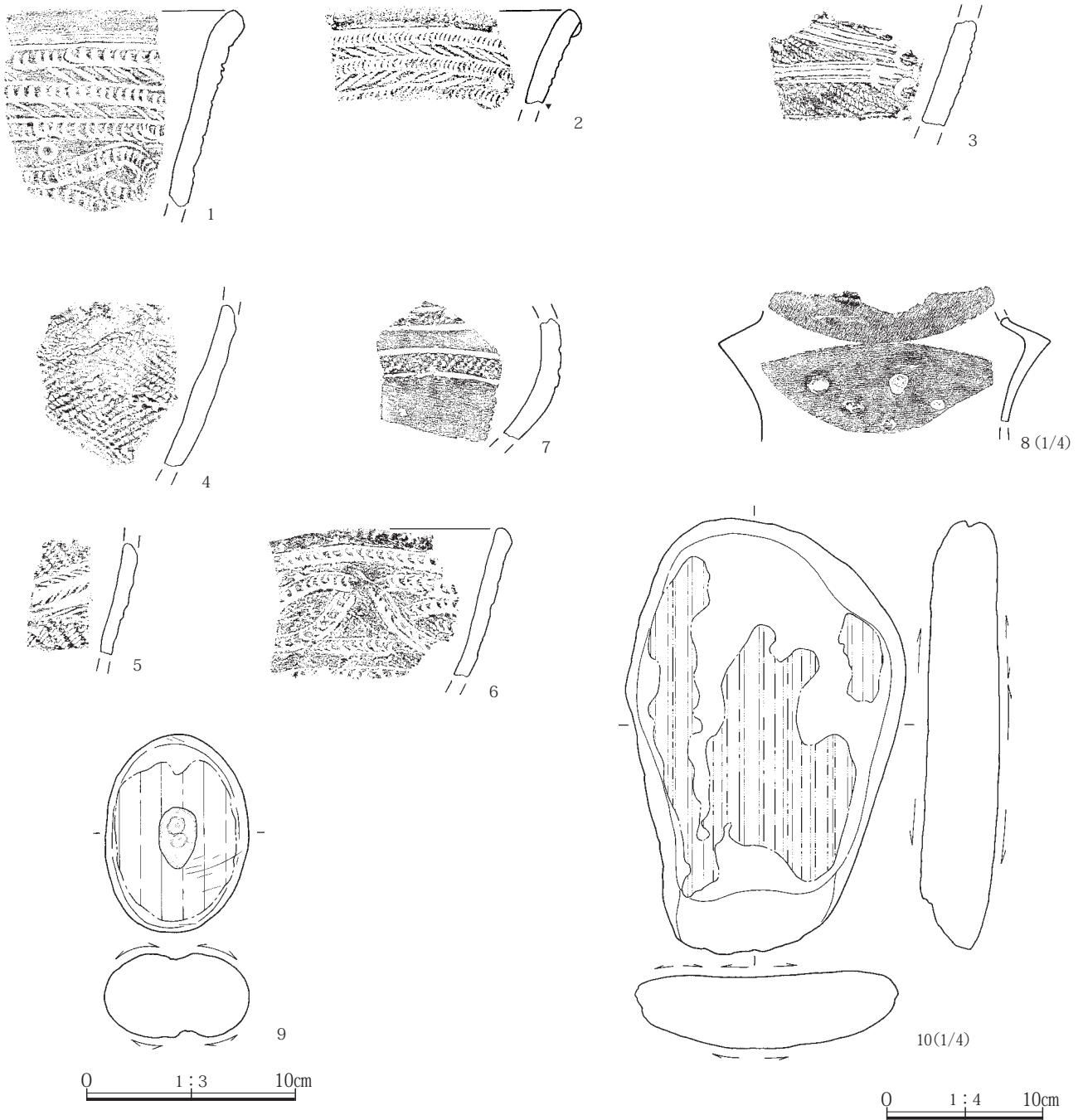


遺構内土坑 B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒を含む。
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量含む。



第72図 6号竪穴状遺構

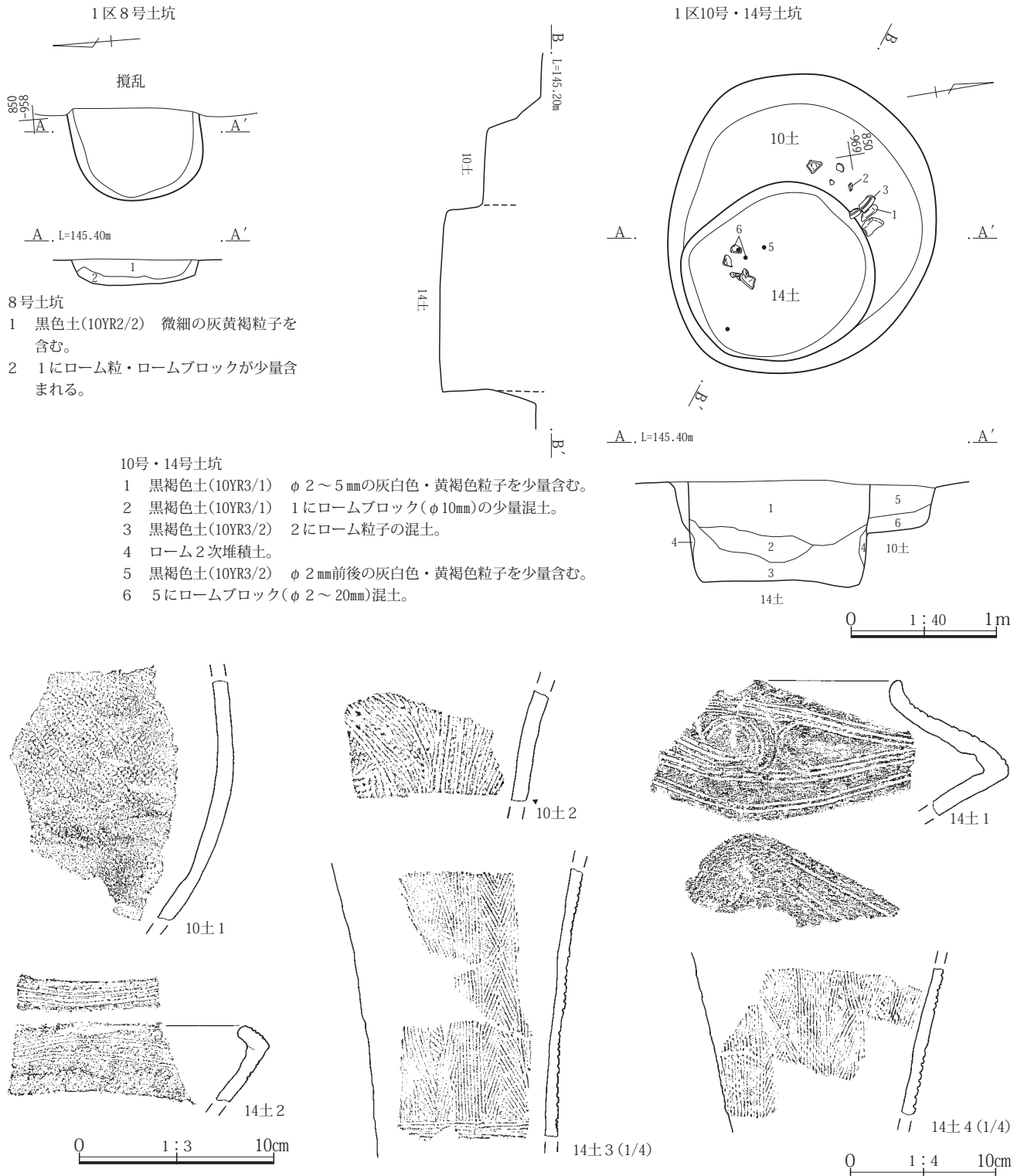


第73図 6号竖穴状遺構出土遺物

縄文土坑 (第74~105図、PL. 8~13・35~46)

前畑J遺跡では103基の土坑が検出され、その内縄文時代と考えられるのは85基がある。時期は前期から後期

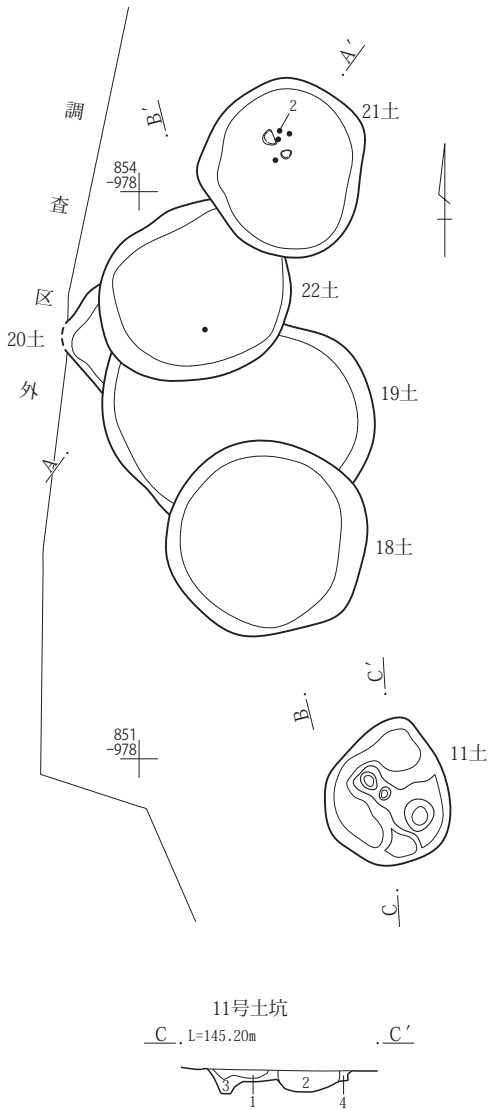
に至るまで前期では諸磯b式期が主体で、後期は加曾利E 1~2式段階に出土のピークがある。遺物の型式には濃い、薄いはあるが、前期諸磯b式期から後期高井東式段階まで途切れることなく継続している。



第74図 縄文土坑・出土遺物(1)

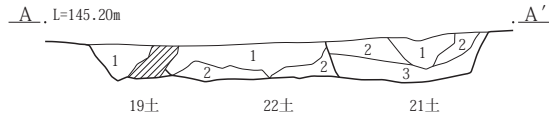
第3章 検出された遺構と遺物

1区11号・18号～22号土坑



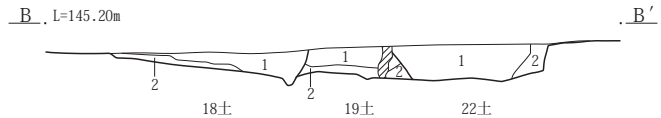
- 11号土坑
- 1 暗褐色土(10YR3/3) しまりあり。
 - 2 黒褐色土(10YR2/2) φ 5～30mm程度のロームブロックを7%含む。しまりあり
 - 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 固くしまる。
 - 4 黒褐色土(10YR3/2) ロームを30%含む。しまりあり。

19号・21号・22号土坑



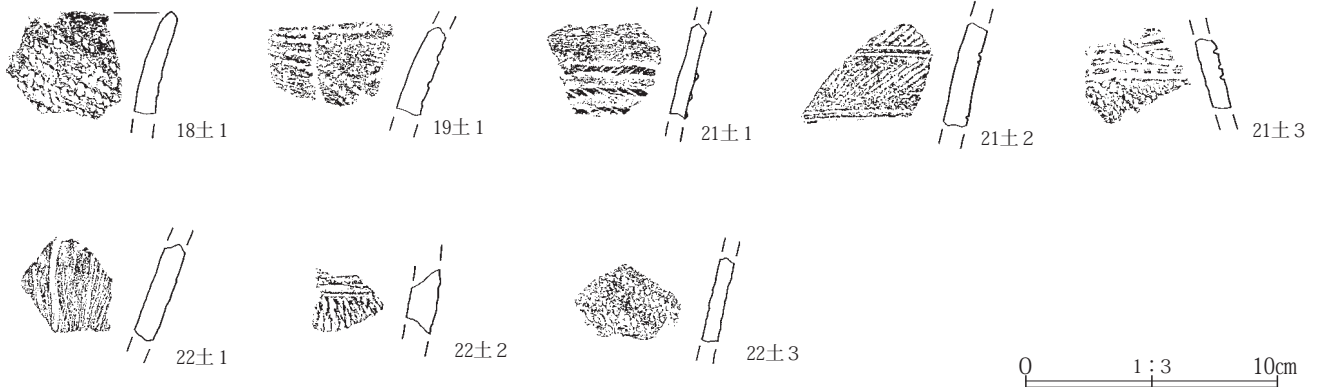
- 19・21・22号土坑
- 19土坑 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) φ 1～2mm程度の褐色粒1%含む。固くしまる。
2 暗褐色土(10YR3/3) ロームを5%含む。柔らかい。
- 21土坑 1 黒褐色土(10YR3/2) φ 1mm程度の白色粒を1%含む。
2 黒褐色土(10YR2/3) φ 1mm程度の白色粒を1%含む。φ 1mm程度の褐色粒を1%含む。
3 黒褐色土(10YR2/3) φ 20～50mm程度のロームブロックを5%含む。φ 1mm程度の白色粒を微量含む。
- 22土坑 1 暗褐色土(10YR3/3) φ 2～3mm程度の褐色粒を2%含む。φ 1mm程度の白色粒を1%含む。
2 黒褐色土(10YR3/2) φ 2～10mm程度の褐色粒を2%含む。
3 黒褐色土(10YR3/2) φ 15～20mm程度のロームブロックを10%含む。しまりあり。
4 暗褐色土(10YR3/3) ロームを5%含む。柔らかい。

18号・19号・22号土坑



- 18・19・22号土坑
- 18土坑 1 黒褐色土(10YR2/2) φ 15mm程度のロームブロックを15%含む。固くしまる。
2 褐色土(10YR4/4) 暗褐色土を10%程度含む。ロームを10%含む。固くしまる。
- 19土坑 1 黒褐色土(10YR2/2) φ 1mm程度の白色粒を1%含む。固くしまる。
2 暗褐色土(10YR3/4) ロームを15%含む。固くしまる。
- 22土坑 1 暗褐色土(10YR3/3) φ 2～3mm程度の褐色粒を2%含む。φ 1mm程度の白色粒を1%含む。
2 黒褐色土(10YR3/2) φ 2～10mm程度の褐色粒を2%含む。
3 黒褐色土(10YR3/2) φ 15～20mm程度のロームブロックを10%含む。しまりあり。
4 暗褐色土(10YR3/3) ロームを5%含む。柔らかい。

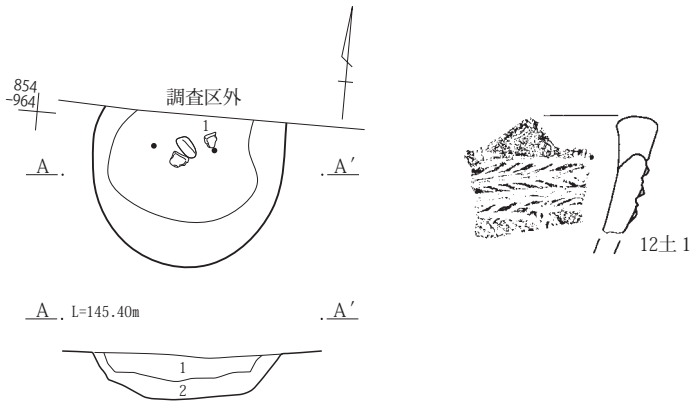
0 1:40 1m



0 1:3 10cm

第75図 縄文土坑・出土遺物(2)

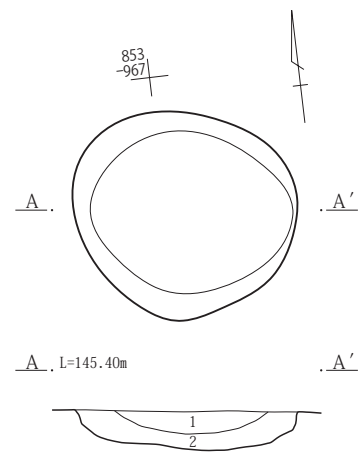
1区12号土坑



12号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰黄褐色パミス(φ 2~4mm)少量含む。
- 2 1にロームブロック・ローム粒を多量に混入。

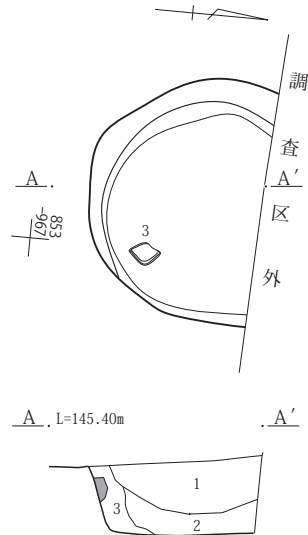
1区13号土坑



13号土坑

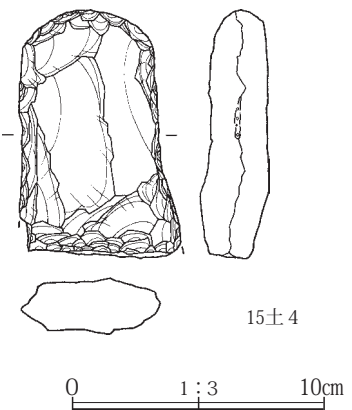
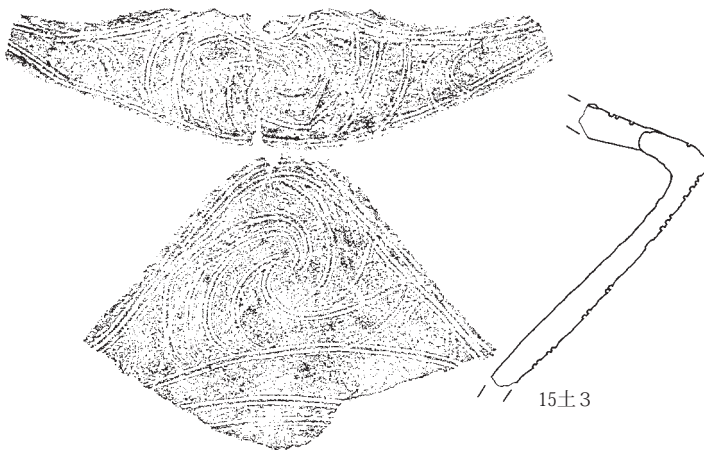
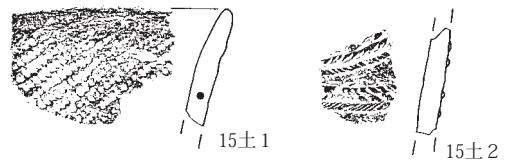
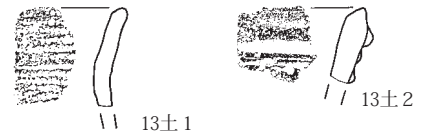
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の灰黄褐色粒子(φ 2mm)を含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロックを多量混入。

1区15号土坑



15号土坑

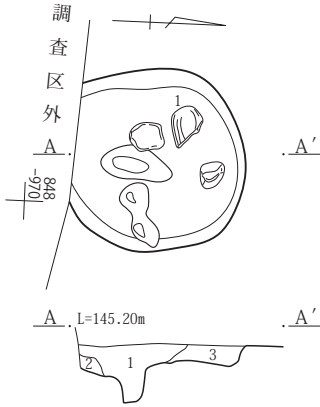
- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ 2~4mmの灰黄褐色、灰白色粒子を少量含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック(φ 5mm)が混入。
- 3 2に近似するがロームブロック(φ 5mm)が混入。



第76図 縄文土坑・出土遺物(3)

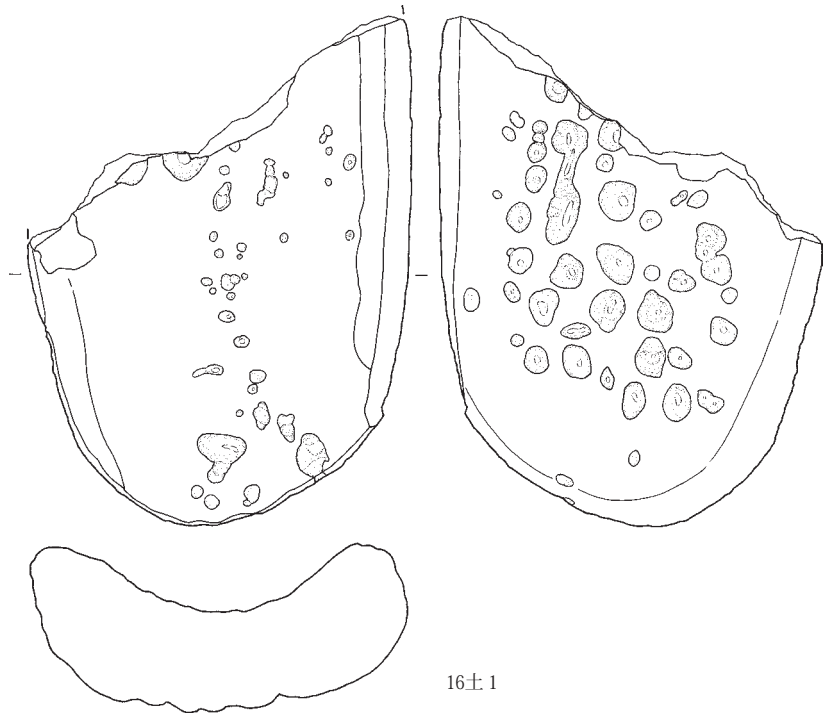
第3章 検出された遺構と遺物

1区16号土坑



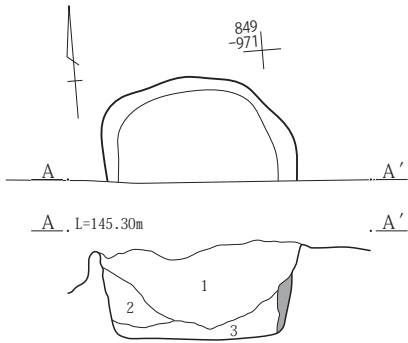
16号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微細の灰白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 微細の灰白色粒を含む。



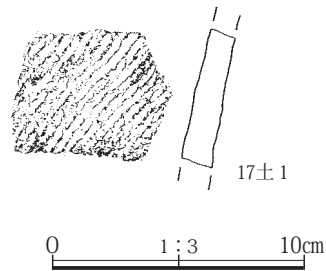
16土1

1区17号土坑



17号土坑

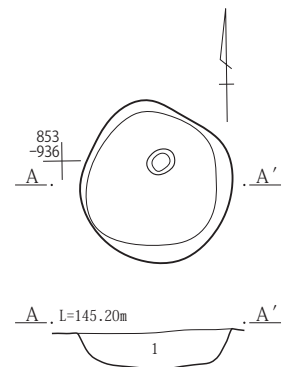
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微細~φ2mmの灰白・灰黄褐色粒子を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(少量φ2~15mm)を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 2にロームブロック粒子の混土。



17土1

0 1:3 10cm

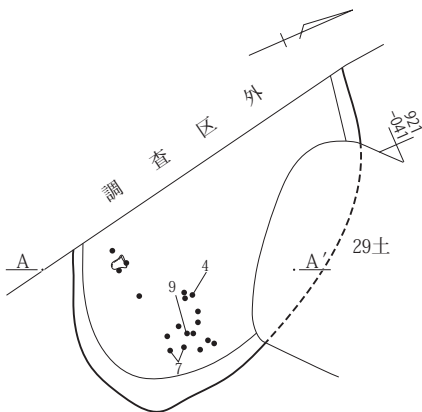
1区23号土坑



23号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を含む。

3区28号土坑

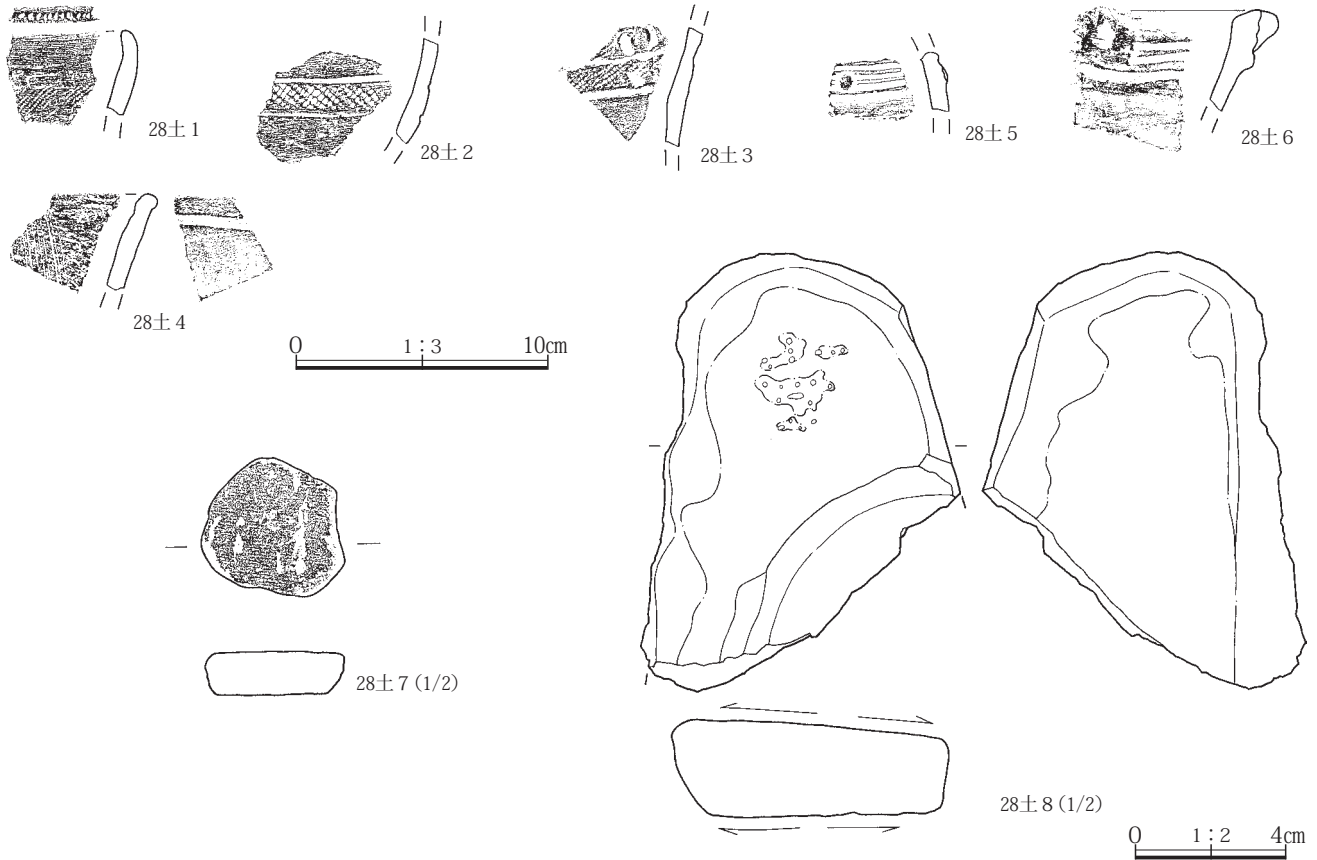


28号土坑

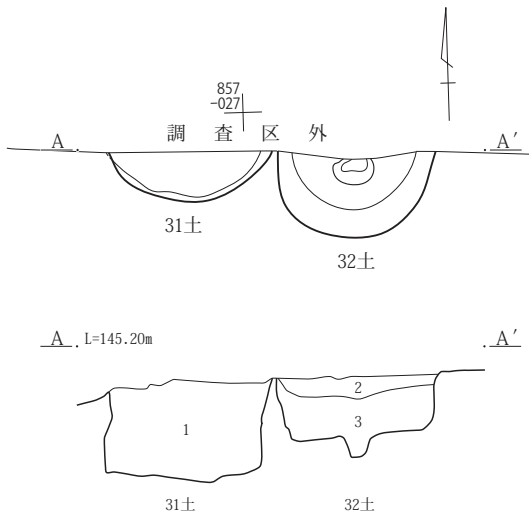
- 1 暗褐色土(10YR3/3) φ5mmの炭化物粒・灰白・黄褐色粒を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を多量含む。

0 1:40 1m

第77図 縄文土坑・出土遺物(4)



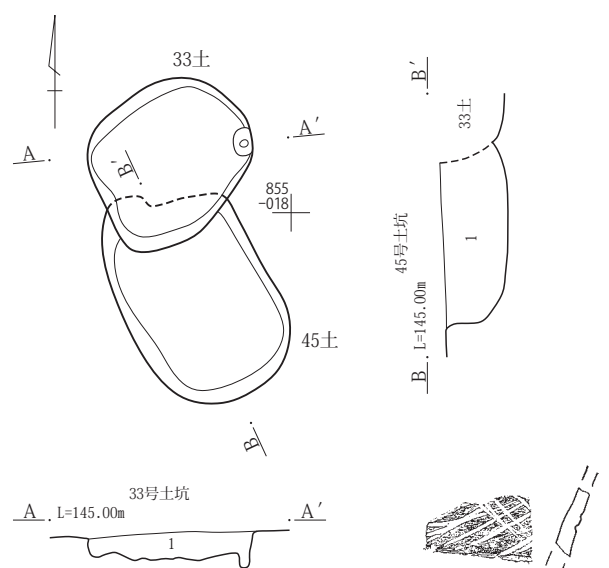
2区31号・32号土坑



31号・32号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微細の灰白粒子・ローム粒を少量含む。中位に30～50mmの焼土塊を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒(φ2mm)ローム粒(φ2mm)を含む。
- 3 2にφ2～15mmのロームブロック多量混入。

2区33号・45号土坑

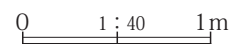


33号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ロームブロックと黒褐色土の混土。

45号土坑

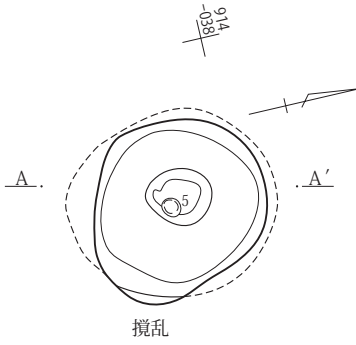
- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を主体としてφ30～50mmのロームブロックが混入。



第78図 縄文土坑・出土遺物(5)

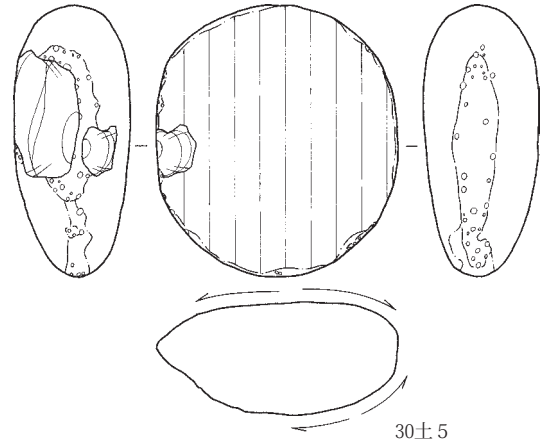
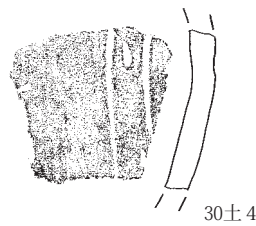
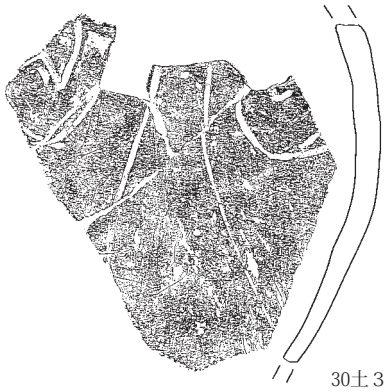
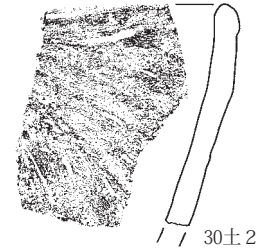
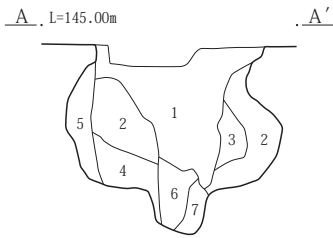
第3章 検出された遺構と遺物

3区30号土坑

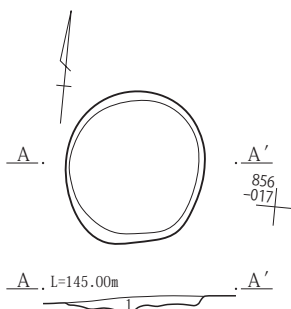


30号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 微細の灰白色パミス・ローム粒(φ 2mm)を少量含む。土器片・小礫(φ30mm)の混入あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(微細~φ 2mm)の混入多い。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2~3mm)の混入あり。しまりない。
- 4 ロームブロックと1の黒褐色土の混土。
- 5 ローム2次堆積土。
- 6 1にロームブロック(φ5~20mm)が多量混入。
- 7 ロームを主体として黒褐色土ブロックが少量混入。



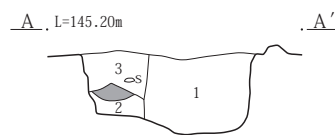
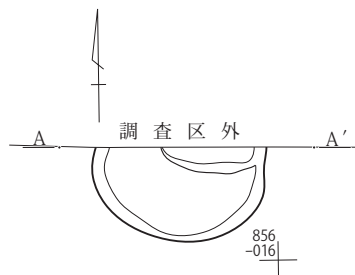
2区34号土坑



34号土坑

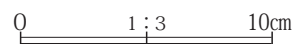
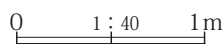
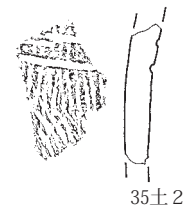
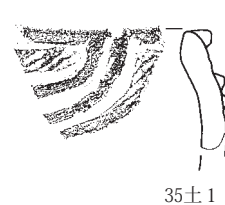
- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ロームブロックと黒褐色土の混土。

2区35号土坑



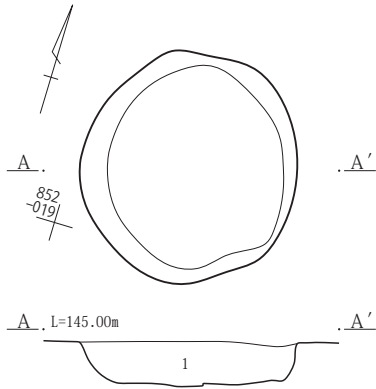
35号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ 2mm灰白色粒・ローム粒(φ 2~7mm)を少量含む。
- 2 1にローム粒(φ 2~5mm)が多量混入。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) φ 2mmの灰白色粒・ローム粒(φ 2mm)・ロームブロックを混入。



第79図 縄文土坑・出土遺物(6)

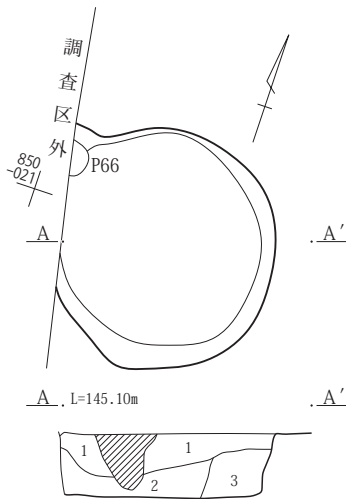
2区36号土坑



36号土坑

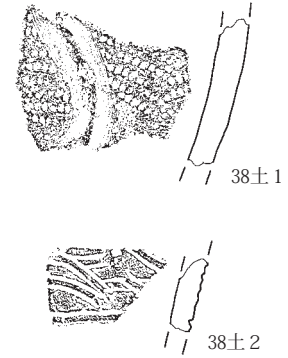
1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 2mm)・ロームブロック(φ 3mm)が混入。

2区38号土坑

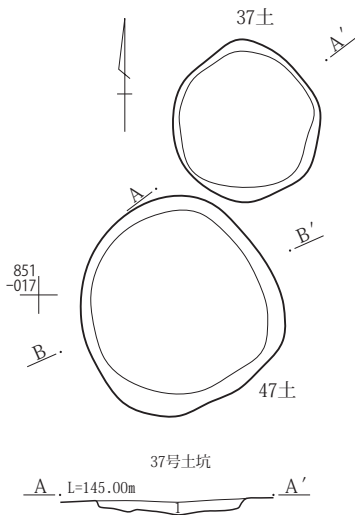


38号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒(φ 2mm)・ローム粒少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を含む。
- 3 1にロームブロック(φ 20mm)混入。



2区37号・47号土坑



37号土坑

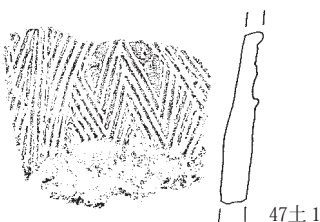
1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 2mm)・ロームブロック(φ 3mm)が混入。

47号土坑

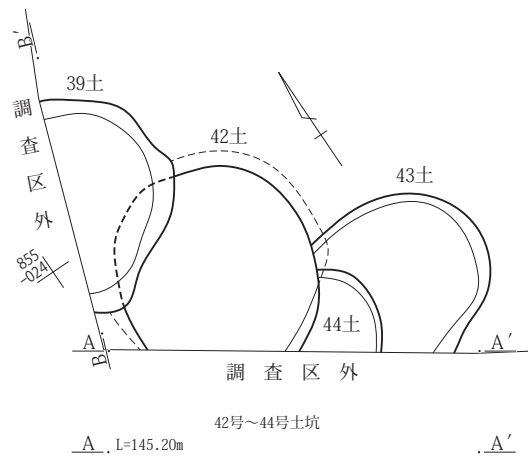


47号土坑

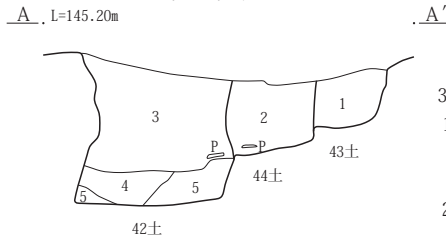
1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2~5mm)ロームブロック(20~50mm)を含む。



2区39号・42号~44号土坑



42号~44号土坑

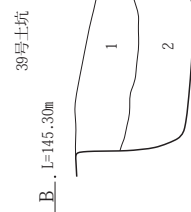


42号~44号土坑

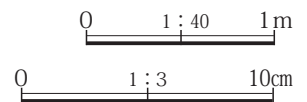
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロック(φ 2~40mm)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ 2mm)を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロック(φ 5~30mm)を少量含む。
- 4 3に近似。ローム粒・ロームブロックを含まない。
- 5 暗褐色土 ローム粒子を多量含む。

39号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色パミス(φ 2mm)少量・ロームブロック(φ 50mm)少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2~5mm)ロームブロック(φ 20~30mm)を含む。

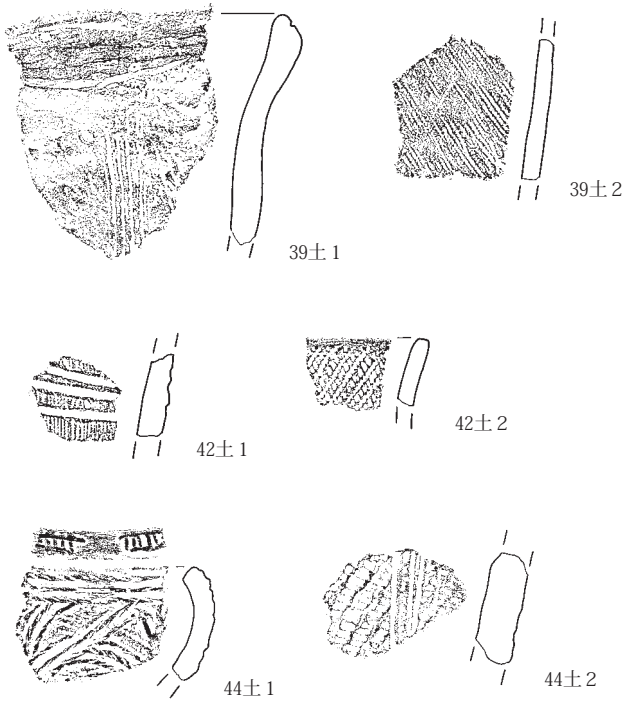


39号土坑

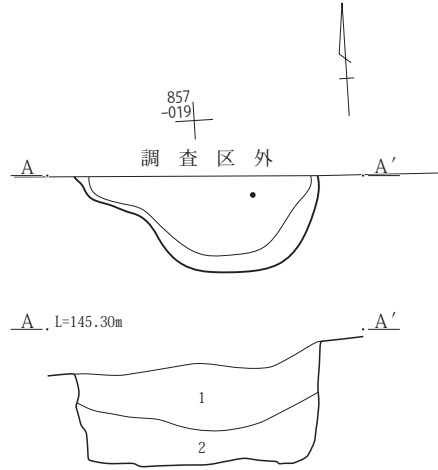


第80図 縄文土坑・出土遺物(7)

第3章 検出された遺構と遺物



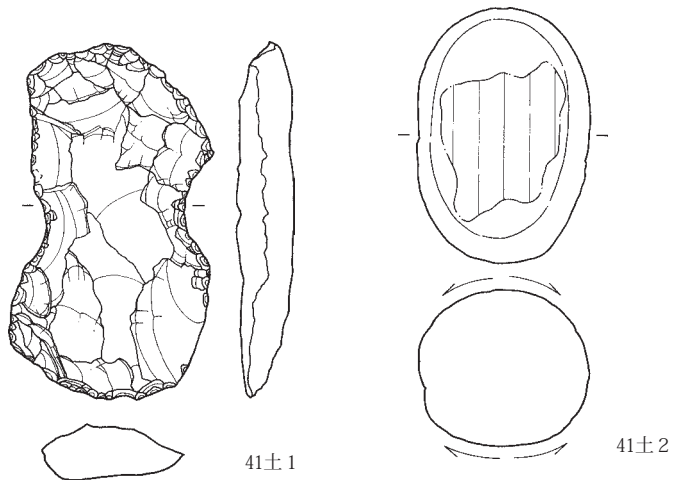
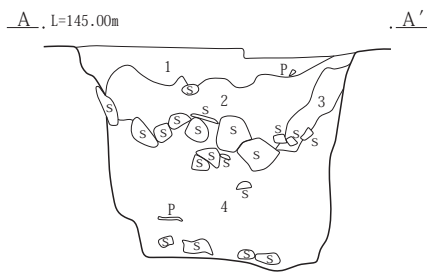
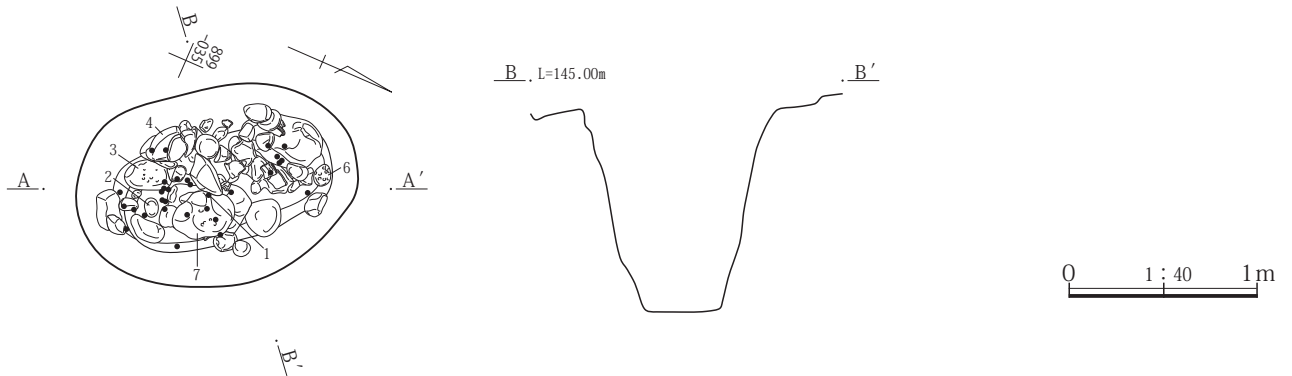
2区40号土坑



40号土坑

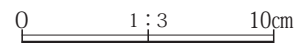
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ 2~5mm)ロームブロック(φ 20mm)を多量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 旧表土か?

3区41号土坑

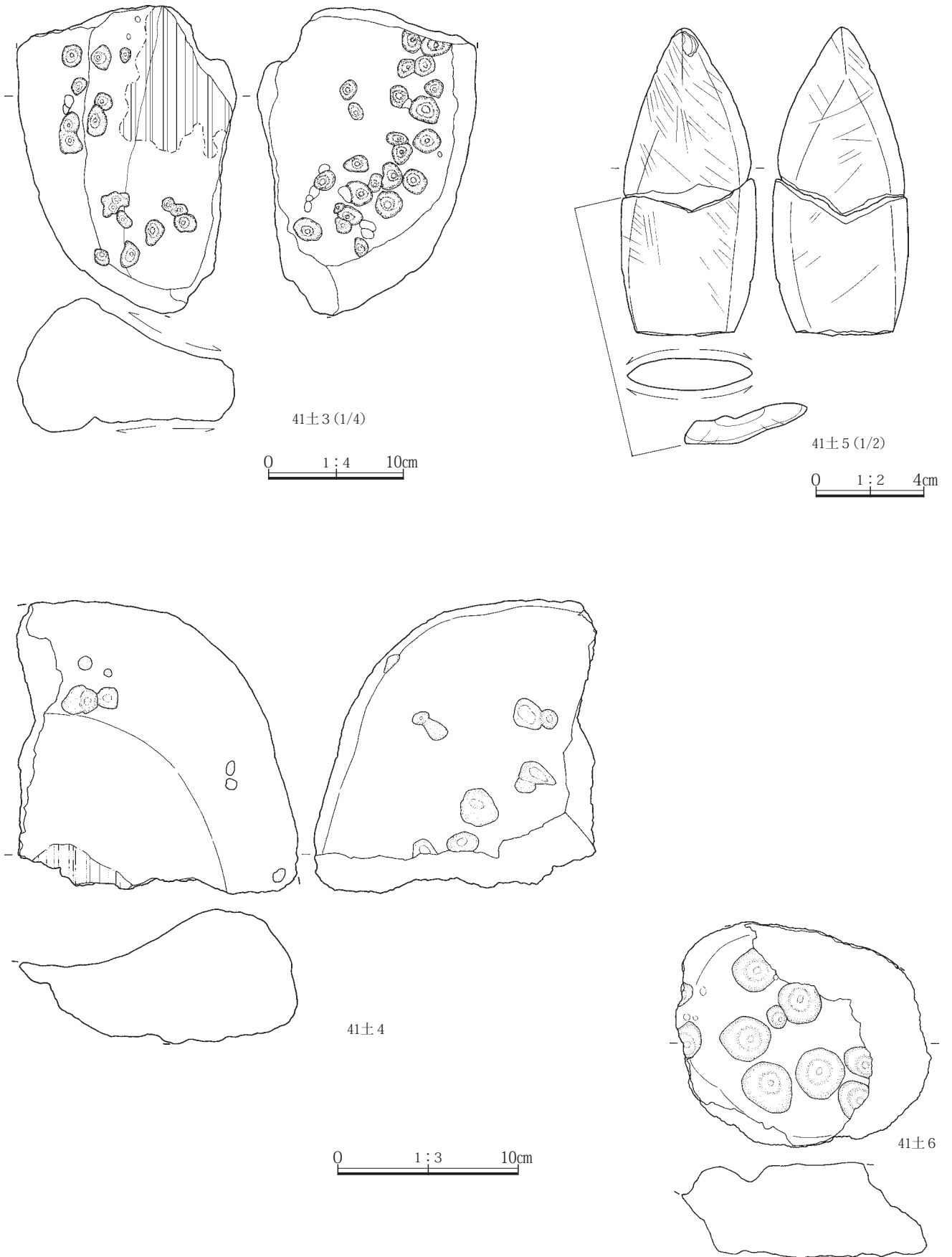


41号土坑

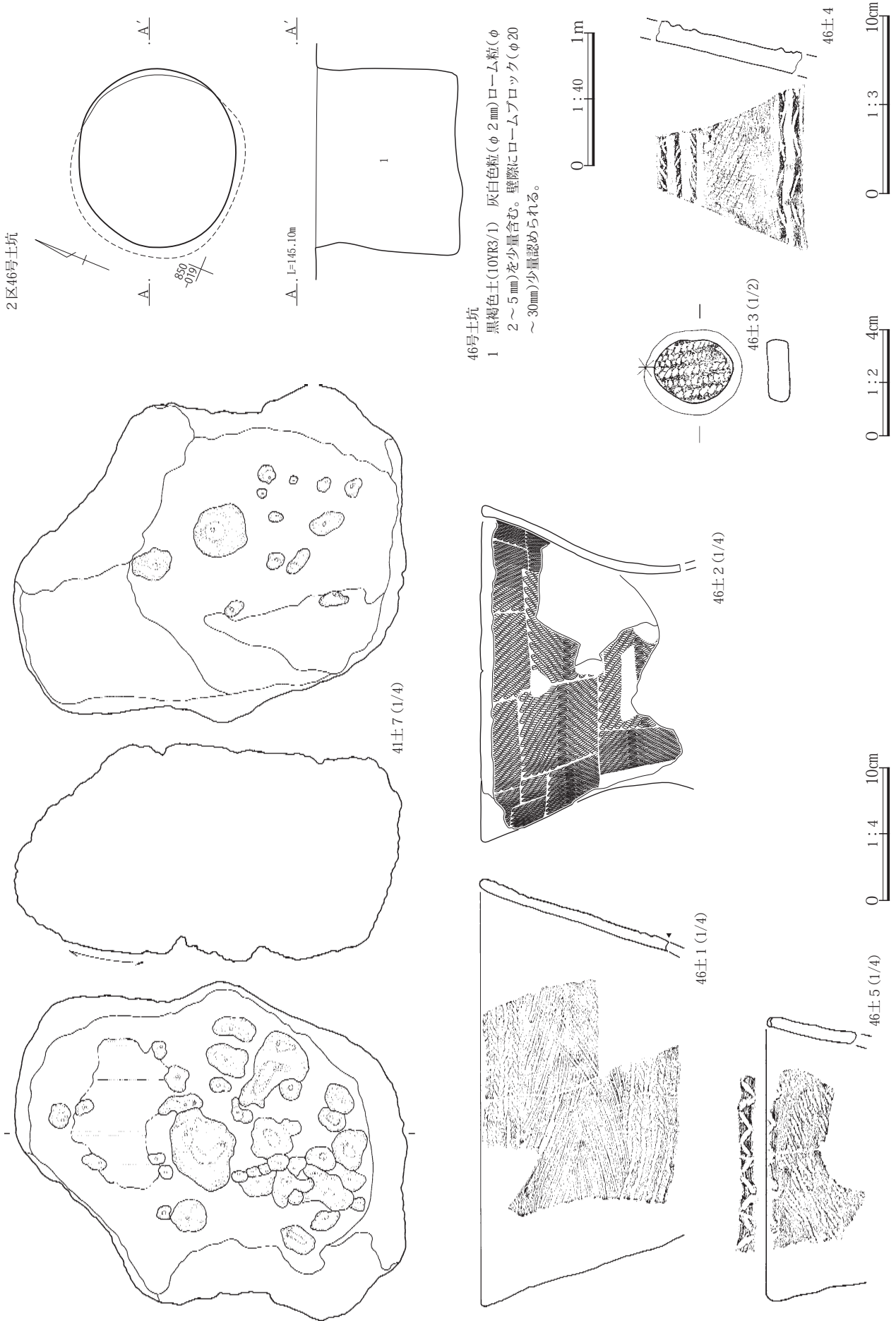
- 1 暗褐色土(10YR3/3) φ 2mmの灰白色パミスを含む。ローム粒・ロームブロック(φ 40mm)を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰白色パミス(φ 2mm)を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 灰白色パミス(φ 2mm)を含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 3に近似。粒性あり。



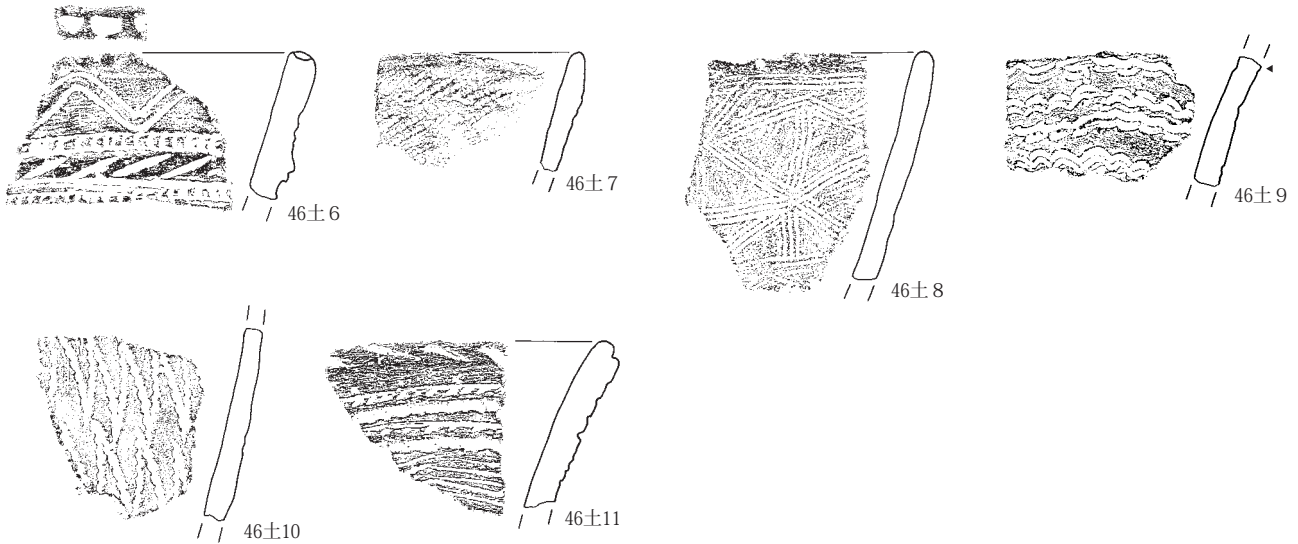
第81図 縄文土坑・出土遺物(8)



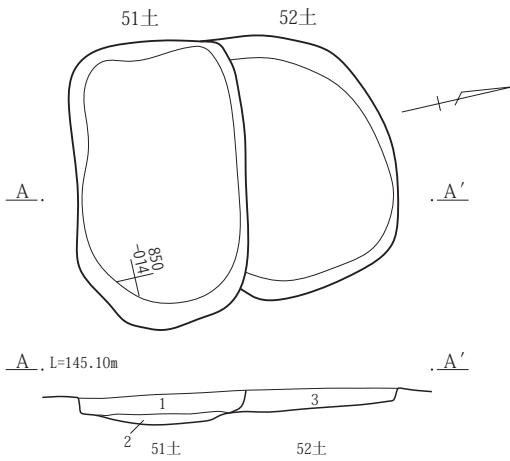
第82図 縄文土坑・出土遺物(9)



第83図 縄文土坑・出土遺物(10)

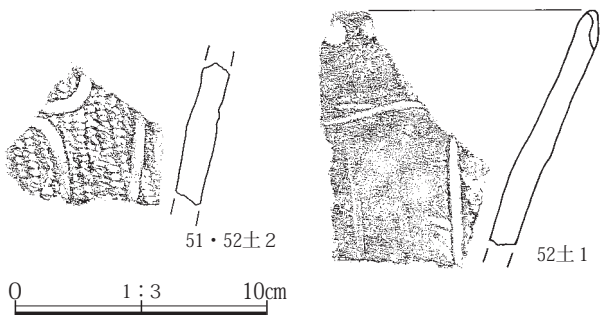
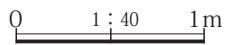


2区51号・52号土坑

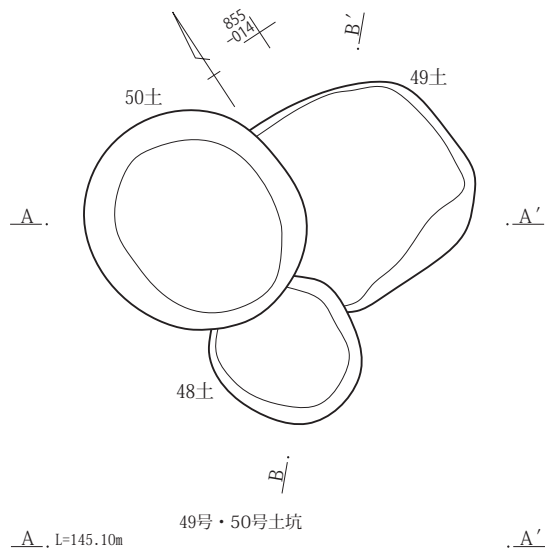


51号・52号土坑

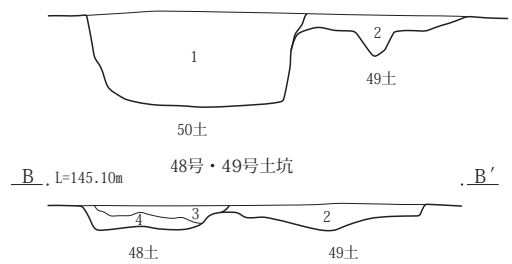
- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒 ϕ 2 ~ 10mmを含む。
- 2 1にロームブロック(ϕ 20mm)混入。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(ϕ 2mm)少量。下位にロームブロックを混入。



2区48号~50号土坑



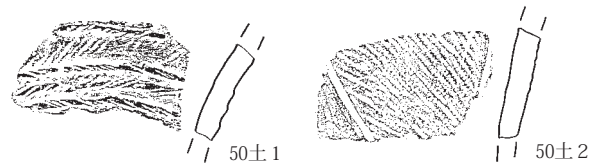
49号・50号土坑



48号・49号土坑

48号~50号土坑

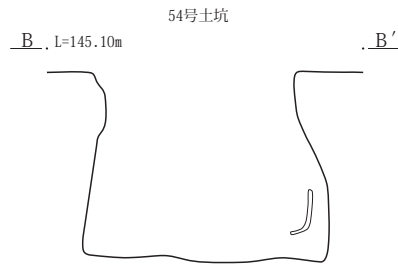
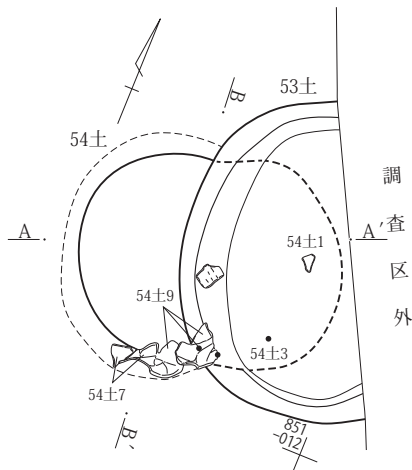
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(ϕ 2 ~ 5mm)ロームブロック(ϕ 20 ~ 40mm)を含む。
- 2 黒褐色土とロームブロック(ϕ 30 ~ 40mm)の混土。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1mm前後の灰白色粒を少量含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量含む。



第84図 縄文土坑・出土遺物(11)

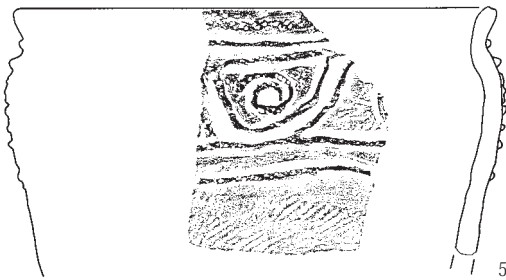
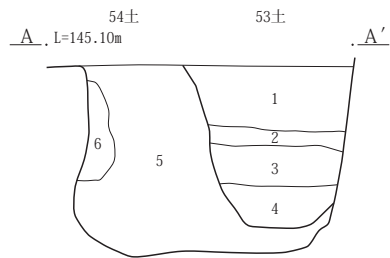
第3章 検出された遺構と遺物

2区53号・54号土坑



53号・54号土坑

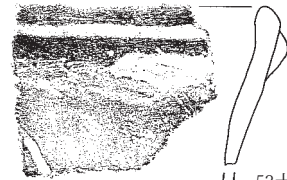
- 53土坑
- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ 1～10mmのローム粒を多量含む。
 - 2 1よりローム粒の混入少なくやわらかい。
 - 3 ローム2次堆積土。53土坑の底面を埋めたもの。
 - 4 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 3～4mm)を含む。3と同質。
- 54土坑
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 微細の灰白色パミス含む。
 - 6 5にロームブロック(φ 30～40mm)を含む。



54土1 (1/4)



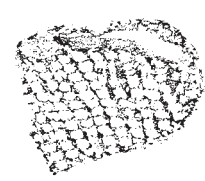
53土1



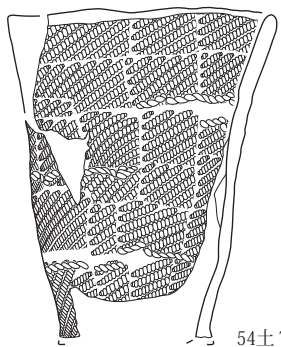
53土2



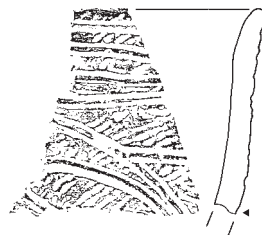
53土3



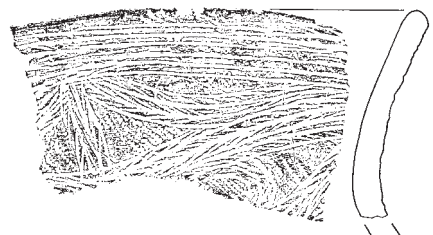
53土4



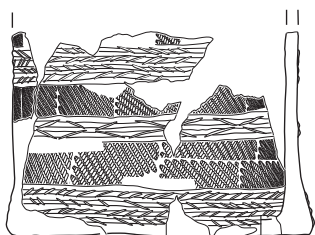
54土7 (1/4)



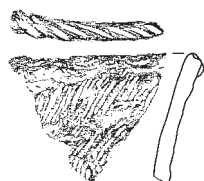
54土2



54土3



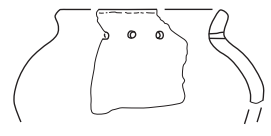
54土8 (1/4)



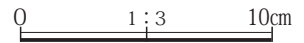
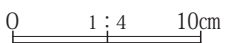
54土4



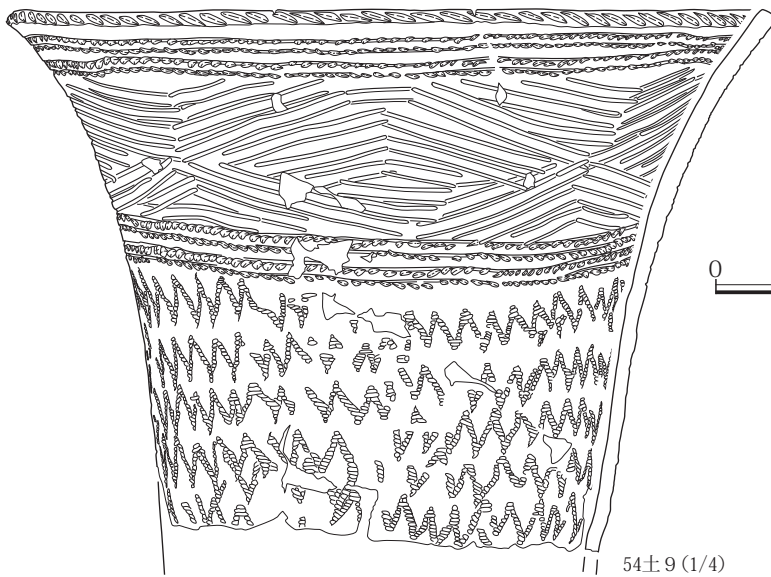
54土5



54土6

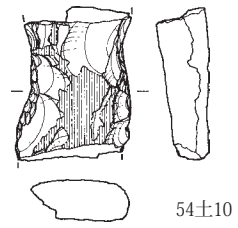
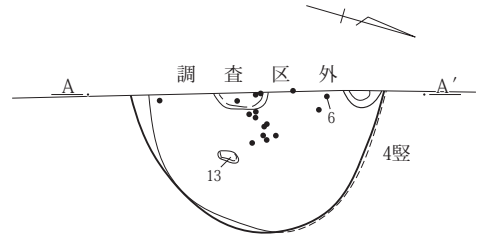


第85図 縄文土坑・出土遺物(12)

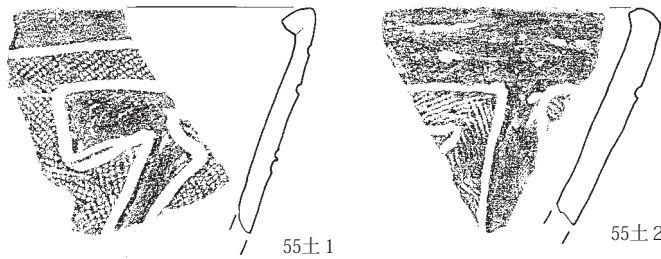


0 1:4 10cm

3区55号土坑

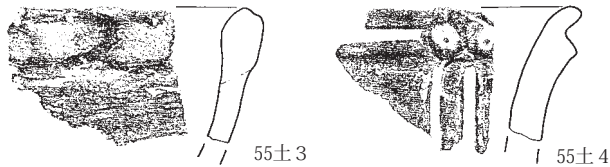


54±10



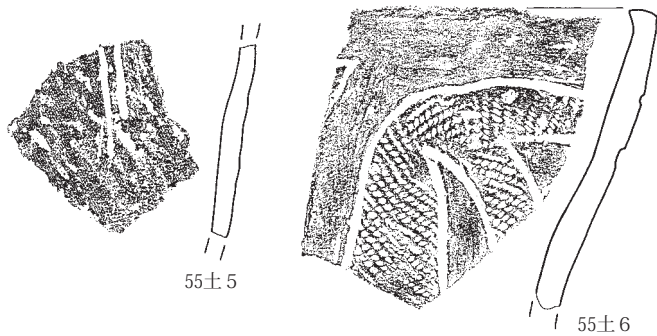
55±1

55±2



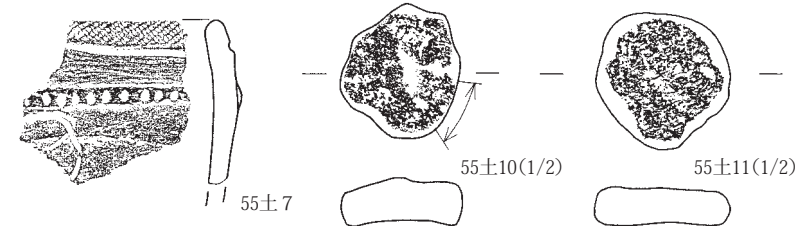
55±3

55±4



55±5

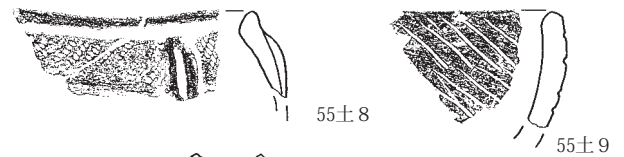
55±6



55±7

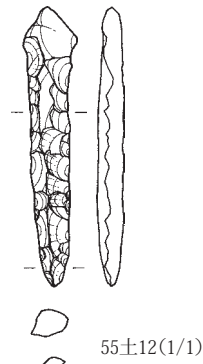
55±10(1/2)

55±11(1/2)



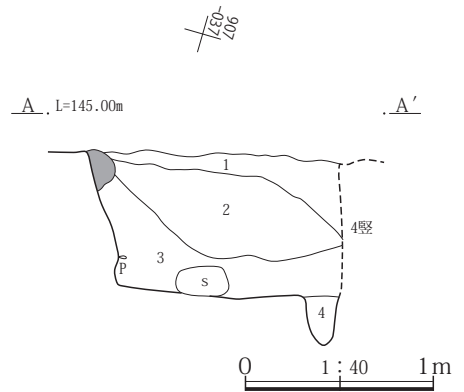
55±8

55±9



55±12(1/1)

55±13



55号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の灰白色粒(φ 1mm)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰白色粒(φ 1mm)ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 2に近似。ローム粒の混入多い。
- 4 にぶい黄橙(10YR6/3) 炭化物を含み粘質。Pitフク土。

0 1:3 10cm

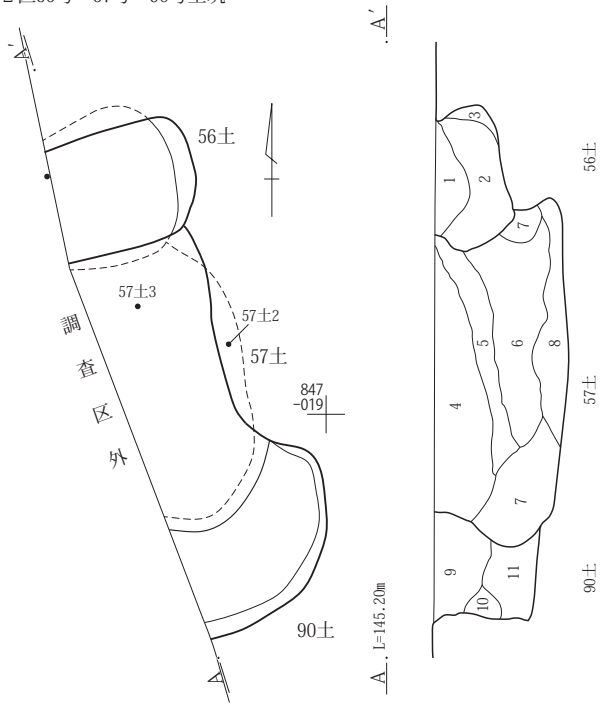
0 1:2 4cm

0 1:1 2cm

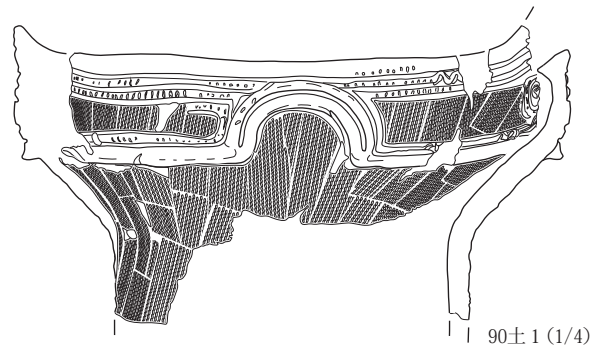
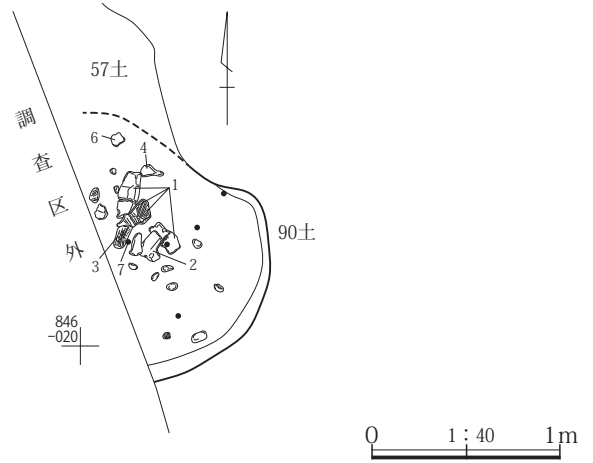
第86図 縄文土坑・出土遺物(13)

第3章 検出された遺構と遺物

2区56号・57号・90号土坑

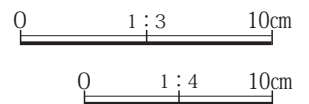
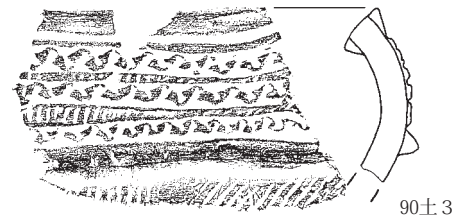
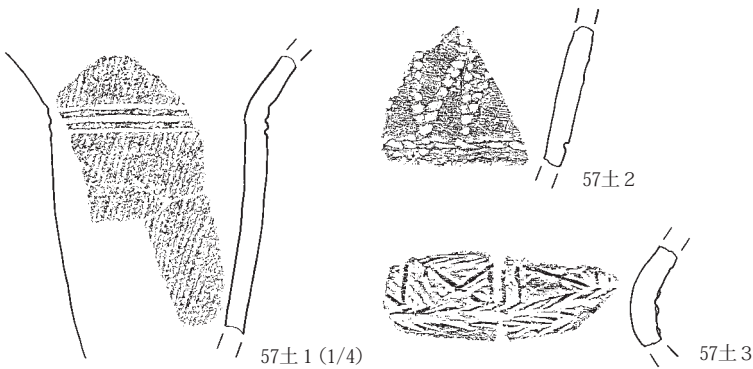
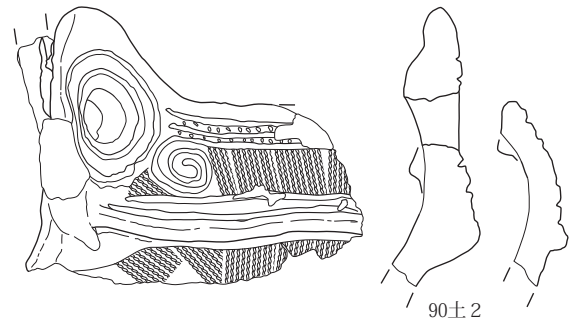
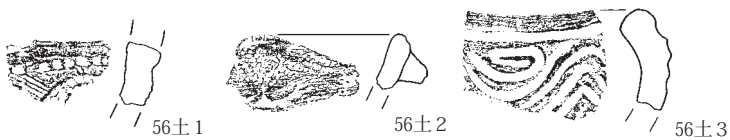


2区90号土坑

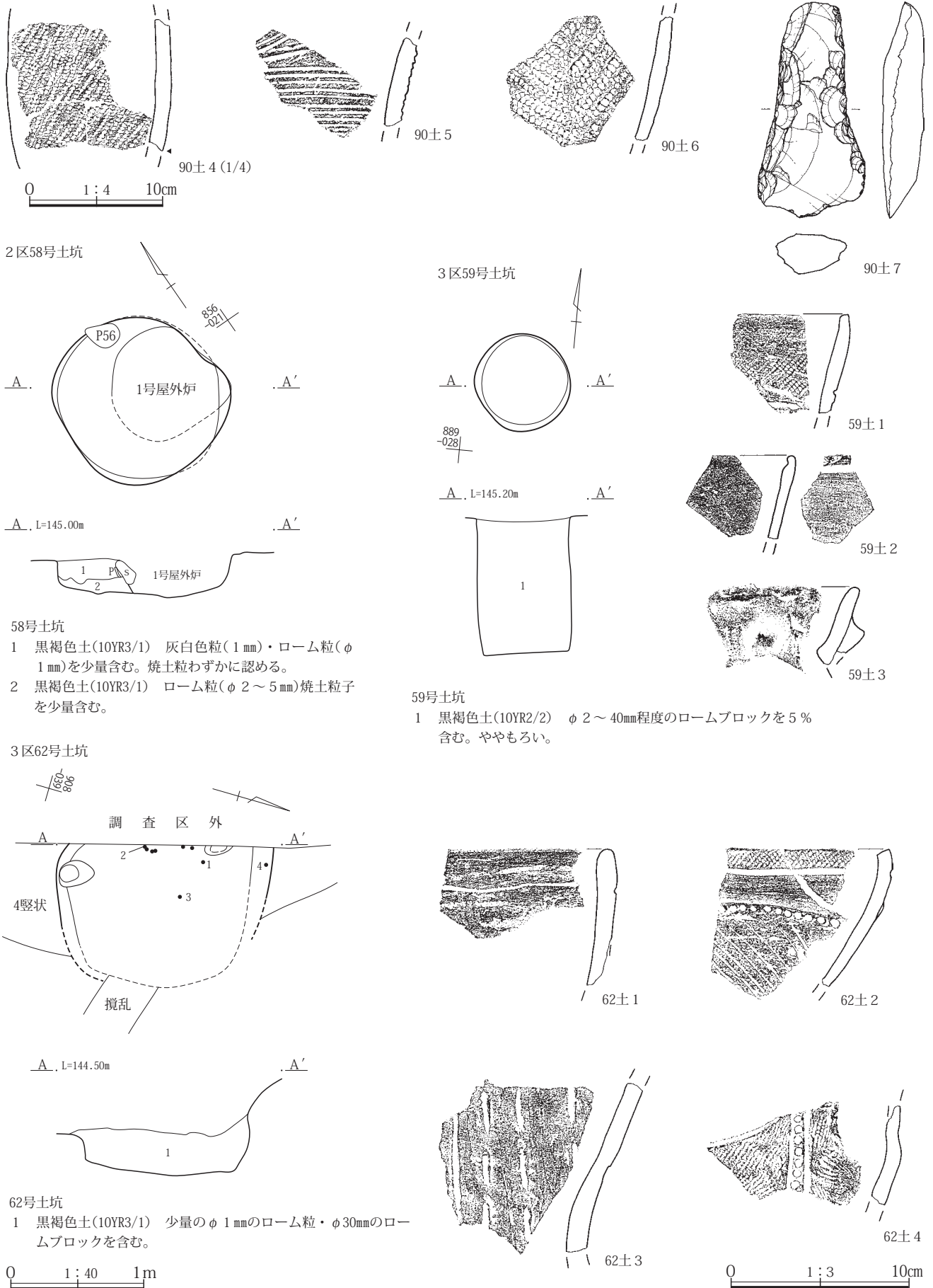


56号・57号・90号土坑

- 1 黒褐色(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ 1~2mm)ローム粒(φ 2mm)を含む。
- 2 黒褐色(10YR3/2) ローム粒・ロームブロックを含む。
- 3 2にローム粒・ロームブロック多量混入。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 微細~φ 2mmの灰白色粒を含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒を含む。
- 6 5に近似。少量のロームブロック(φ 20mm)を含む。
- 7 5にローム粒・ロームブロックを多く混入。
- 8 ロームブロックを主体として黒褐色土が混入。
- 9 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ 2~3mm)を含む。
- 10 9にローム粒(φ 2~10mm)を多く含む。
- 11 9に近似するがロームブロック(φ 30mm)の混入あり。



第87図 縄文土坑・出土遺物(14)



2区58号土坑

3区59号土坑

58号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒(1mm)・ローム粒(φ1mm)を少量含む。焼土粒わずかに認める。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ2~5mm)焼土粒子を少量含む。

59号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ2~40mm程度のロームブロックを5%含む。ややもろい。

3区62号土坑

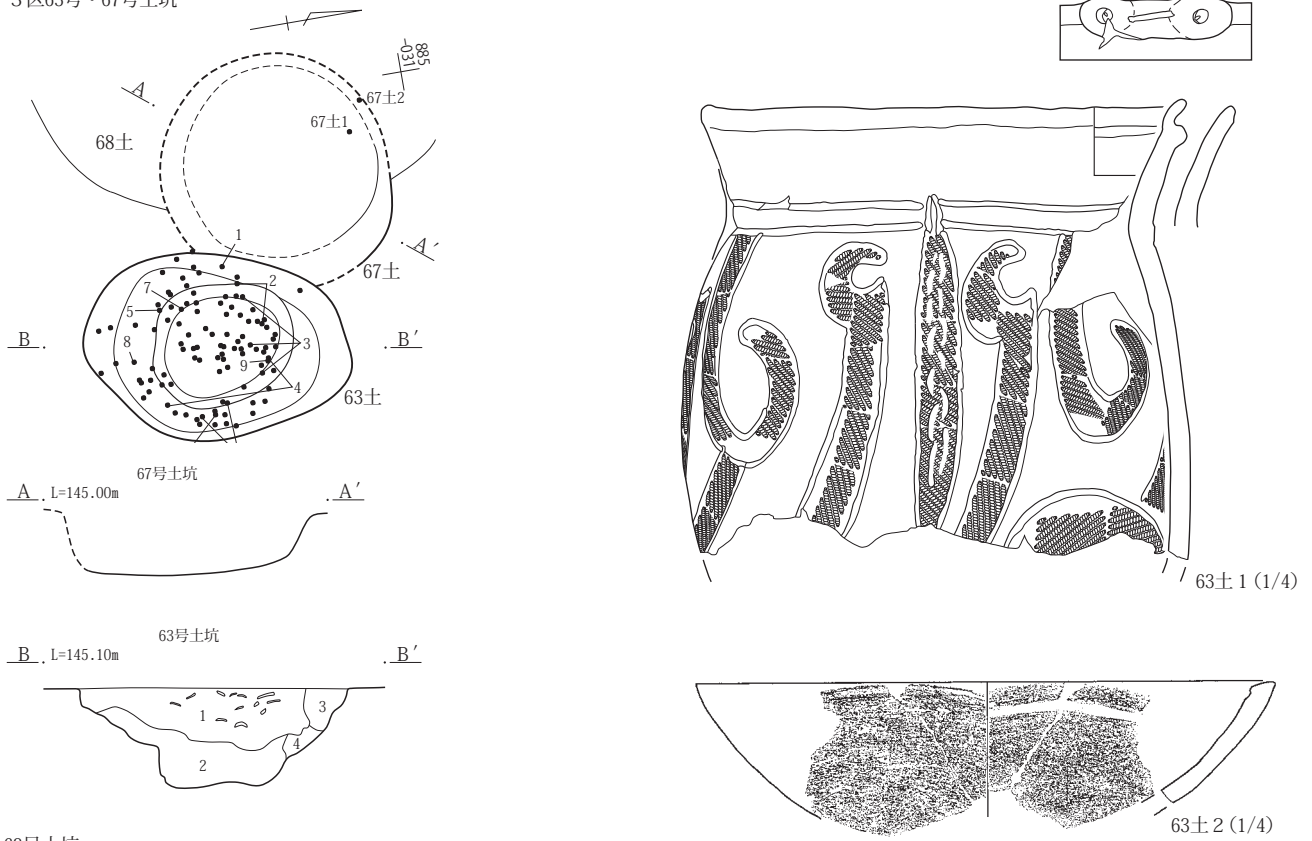
62号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量のφ1mmのローム粒・φ30mmのロームブロックを含む。

第88図 縄文土坑・出土遺物(15)

第3章 検出された遺構と遺物

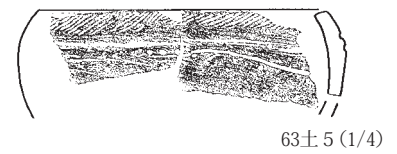
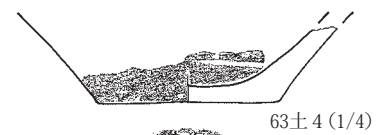
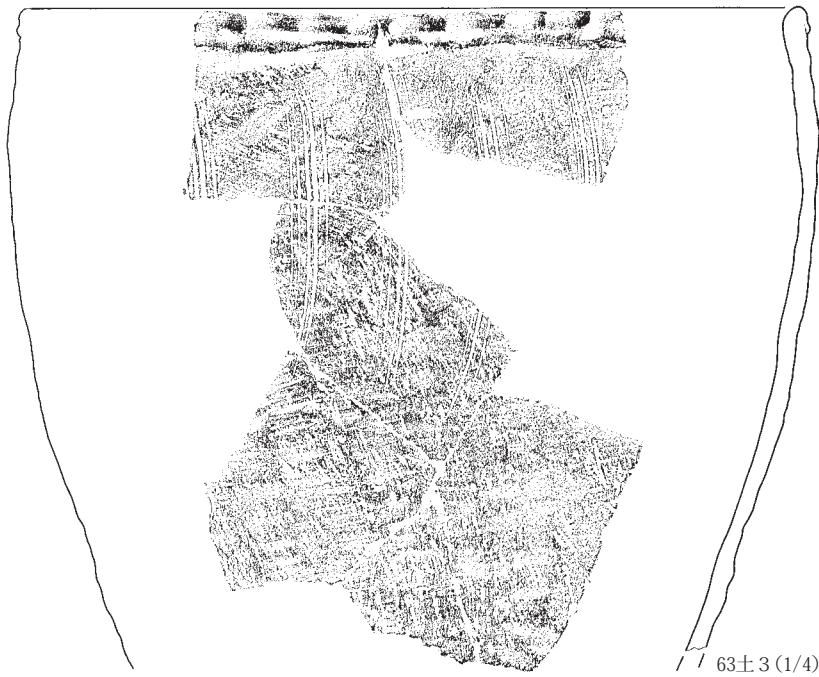
3区63号・67号土坑



63号土坑

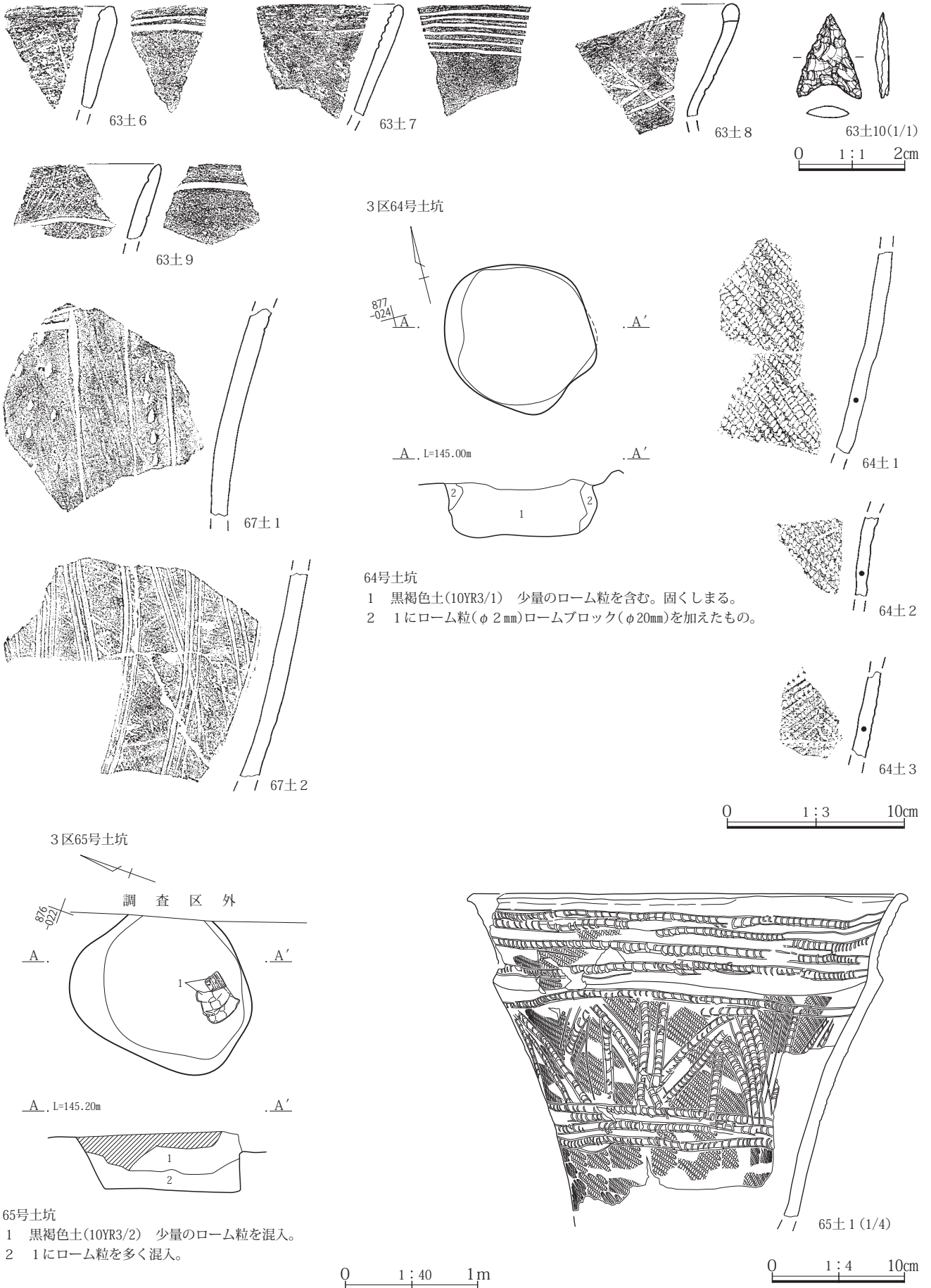
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を含む遺物包含層。
- 2 1にロームブロック(φ20~30mm)が混入。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を含む。固くしまる。
- 4 3にロームブロック(φ30~40mm)が混入。

0 1:40 1m

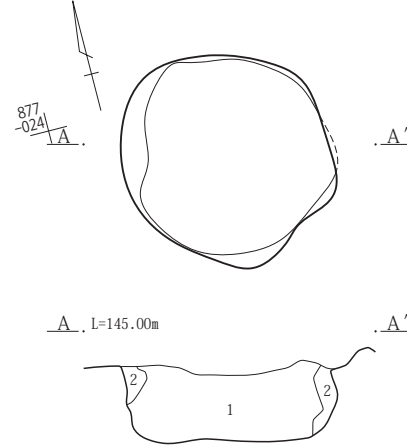


0 1:4 10cm

第89図 縄文土坑・出土遺物(16)



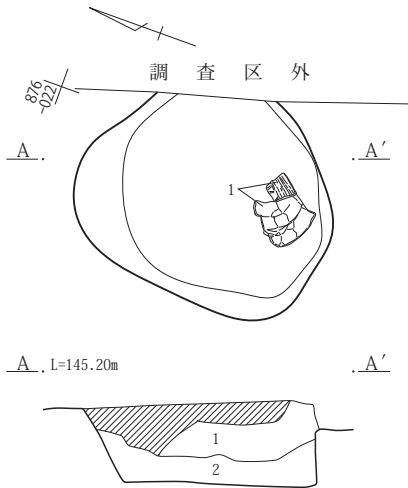
3区64号土坑



64号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒を含む。固くしまる。
- 2 1にローム粒(φ2mm)ロームブロック(φ20mm)を加えたもの。

3区65号土坑



65号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を混入。
- 2 1にローム粒を多く混入。

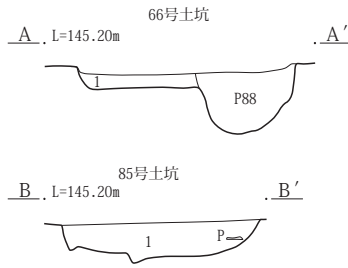
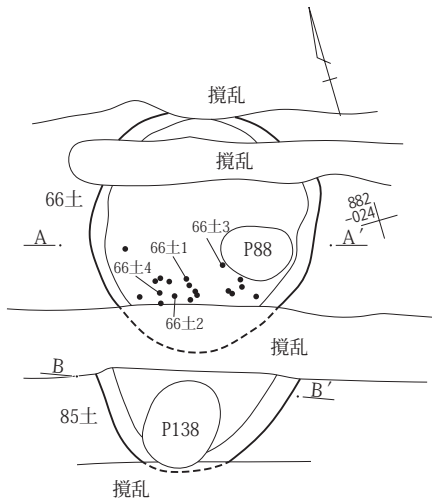
0 1:40 1m

0 1:4 10cm

第90図 縄文土坑・出土遺物(17)

第3章 検出された遺構と遺物

3区66号・85号土坑

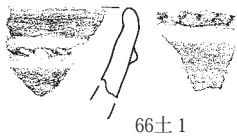


66号土坑

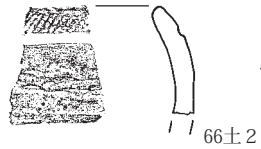
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(微細~φ30mm)を多量含む。

85号土坑

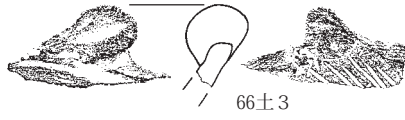
1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ2~10mm)灰白色粒(φ2mm)を多量含む。



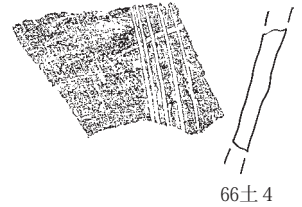
66±1



66±2

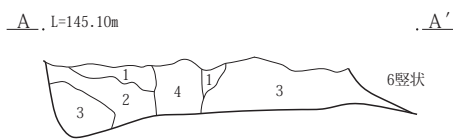
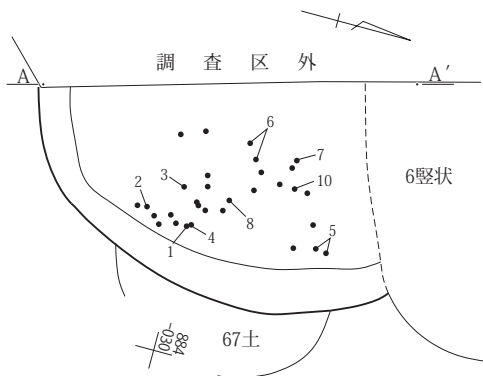


66±3

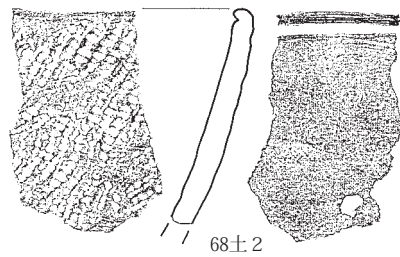


66±4

3区68号土坑



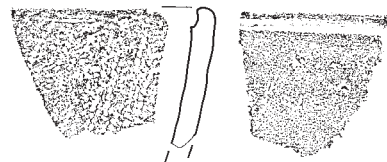
68±1



68±2

68号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)とロームブロック(φ30~40mm)の混土。
- 2 1と同質だがロームブロックの混入多い。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒の混入多い。(ローム粒主体)
- 4 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒の混入多い。ロームブロック(φ40mm)も認められる。

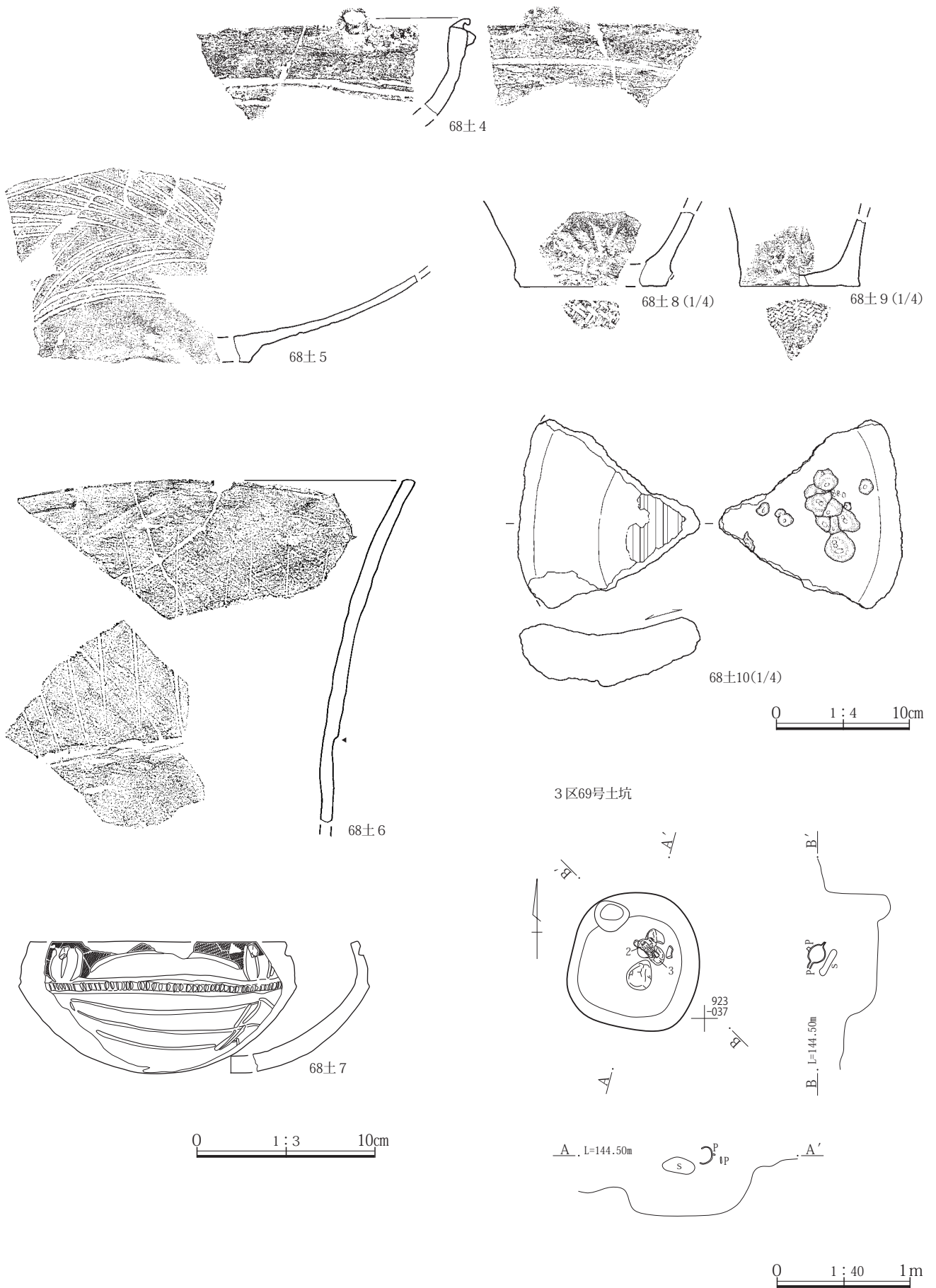


68±3

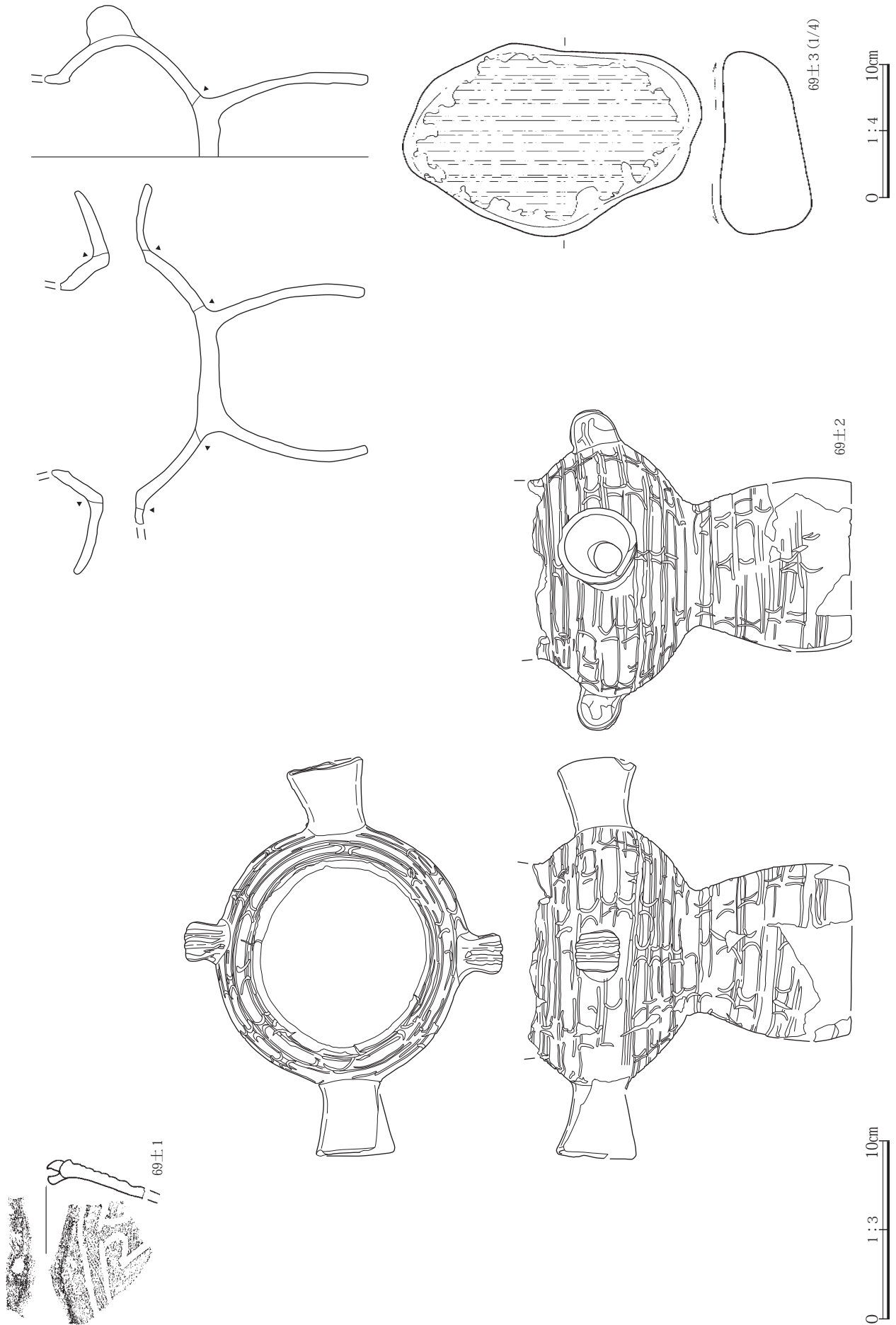
0 1:40 1m

0 1:3 10cm

第91図 縄文土坑・出土遺物(18)

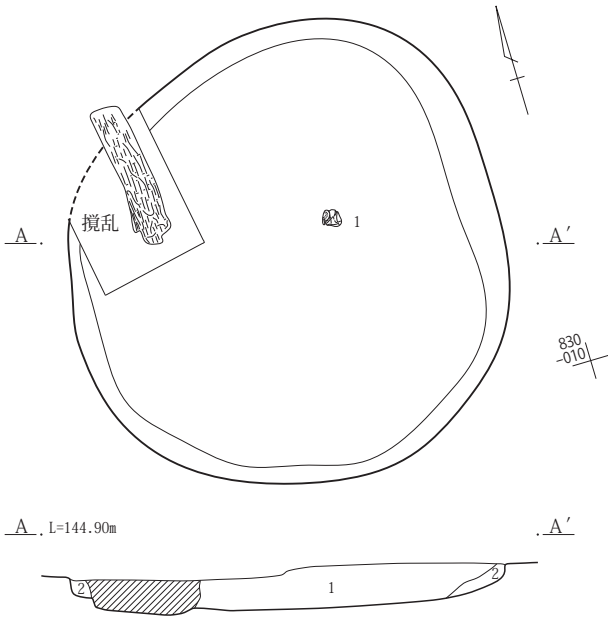


第92図 縄文土坑・出土遺物(19)



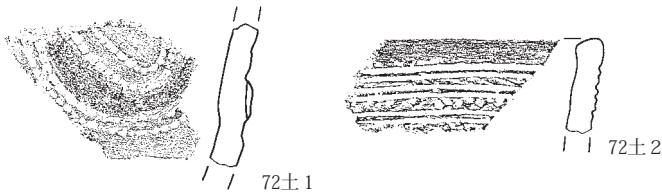
第93図 縄文土坑・出土遺物(20)

2区72号土坑

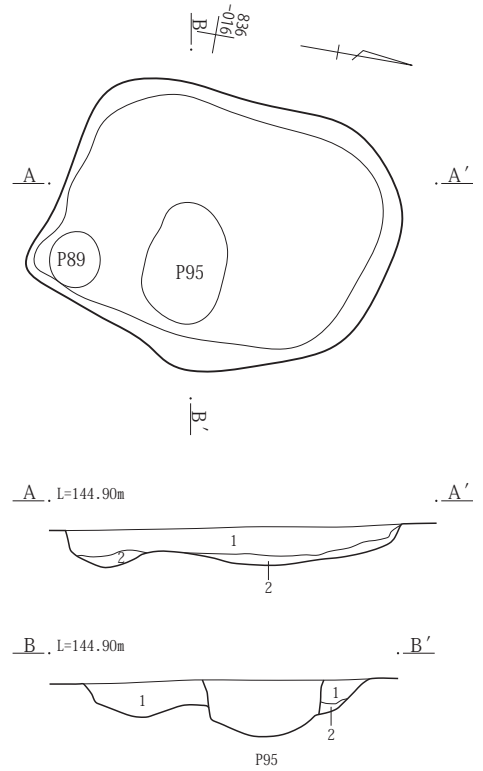


72号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 下部にロームを少量含む。左側攪乱。しまりあり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームを20%含む。しまりあり。

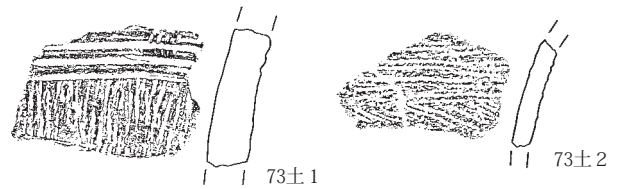


2区73号土坑

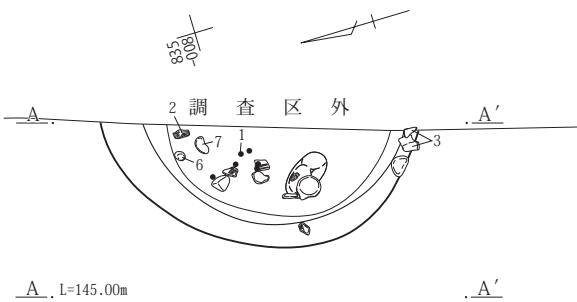


73号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土を5%含む。φ2~5mm程度のロームブロックを3%含む。しまりあり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームを30%含む。しまりあり。

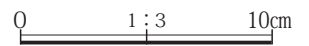
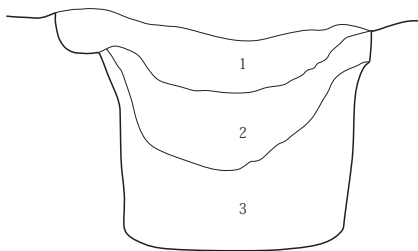


2区74号土坑

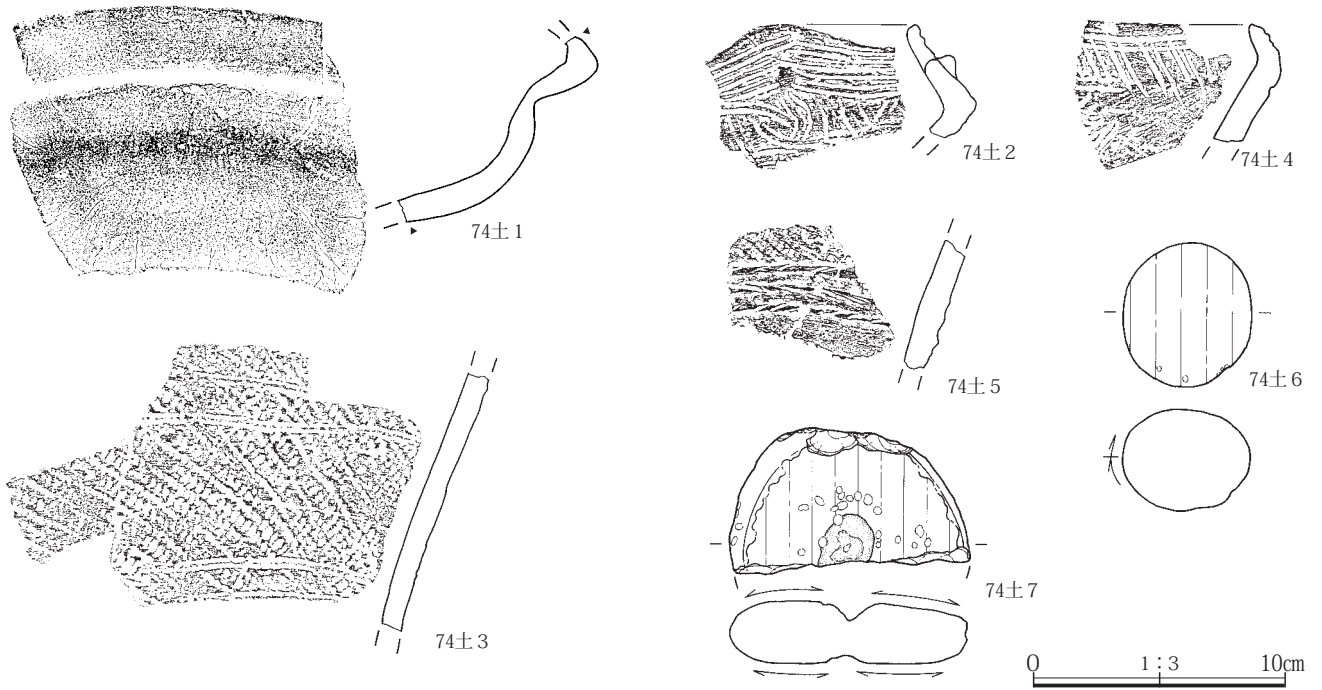


74号土坑

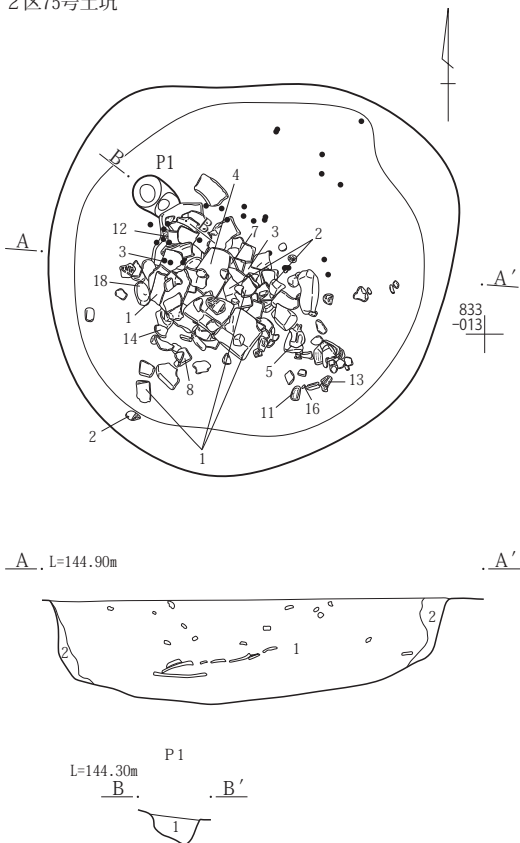
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒(φ2~5mm)・ローム粒・ロームブロック(微~20mm)を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(φ2~10mm)を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒・ロームブロックを主体とする。



第94図 縄文土坑・出土遺物(21)



2区75号土坑



P 1

1 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックの混入あり。

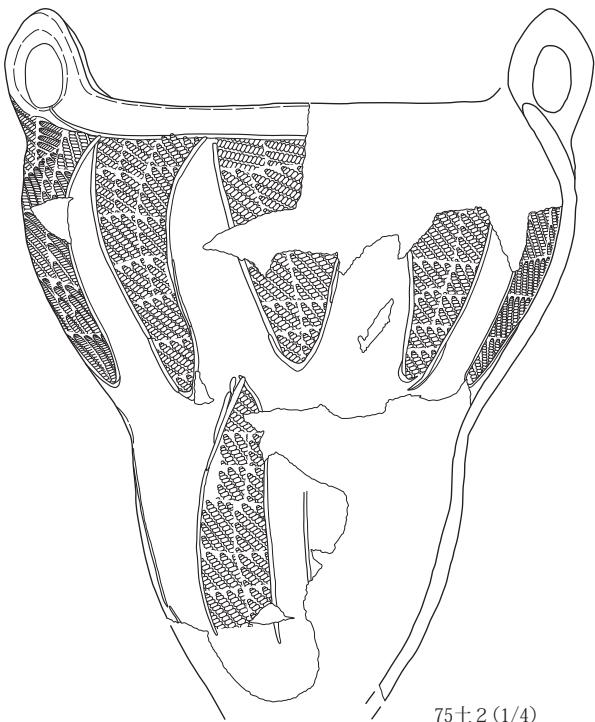
0 1:40 1m

75号土坑

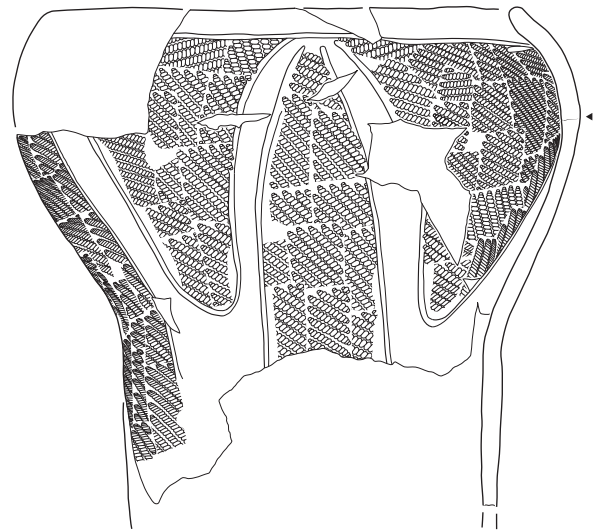
- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 1~3mm)少量・灰白色粒(φ 1~2mm)少量含む。土器を大量に包含する。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(φ 1~40mm)を少量含む。



第95図 縄文土坑・出土遺物(22)

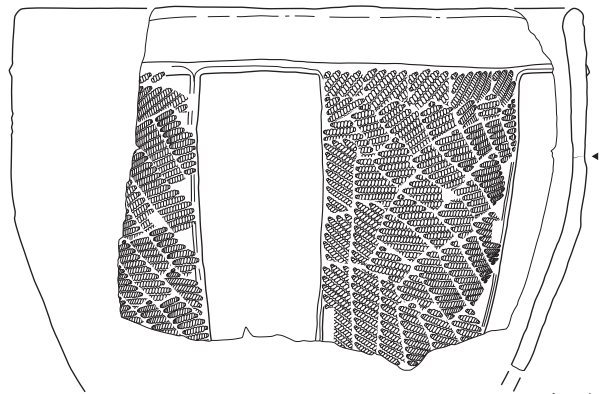


75±2(1/4)



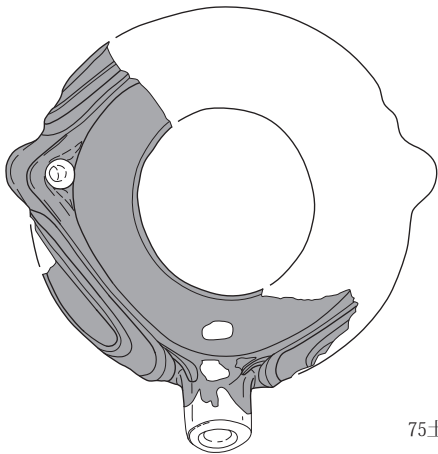
75±3(1/4)

0 1:4 10cm

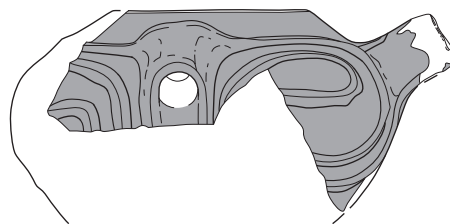
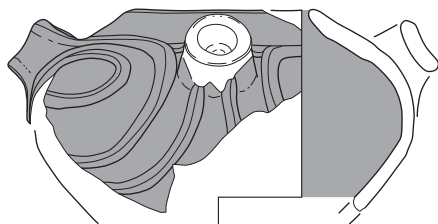


75±4(1/6)

0 1:6 12cm

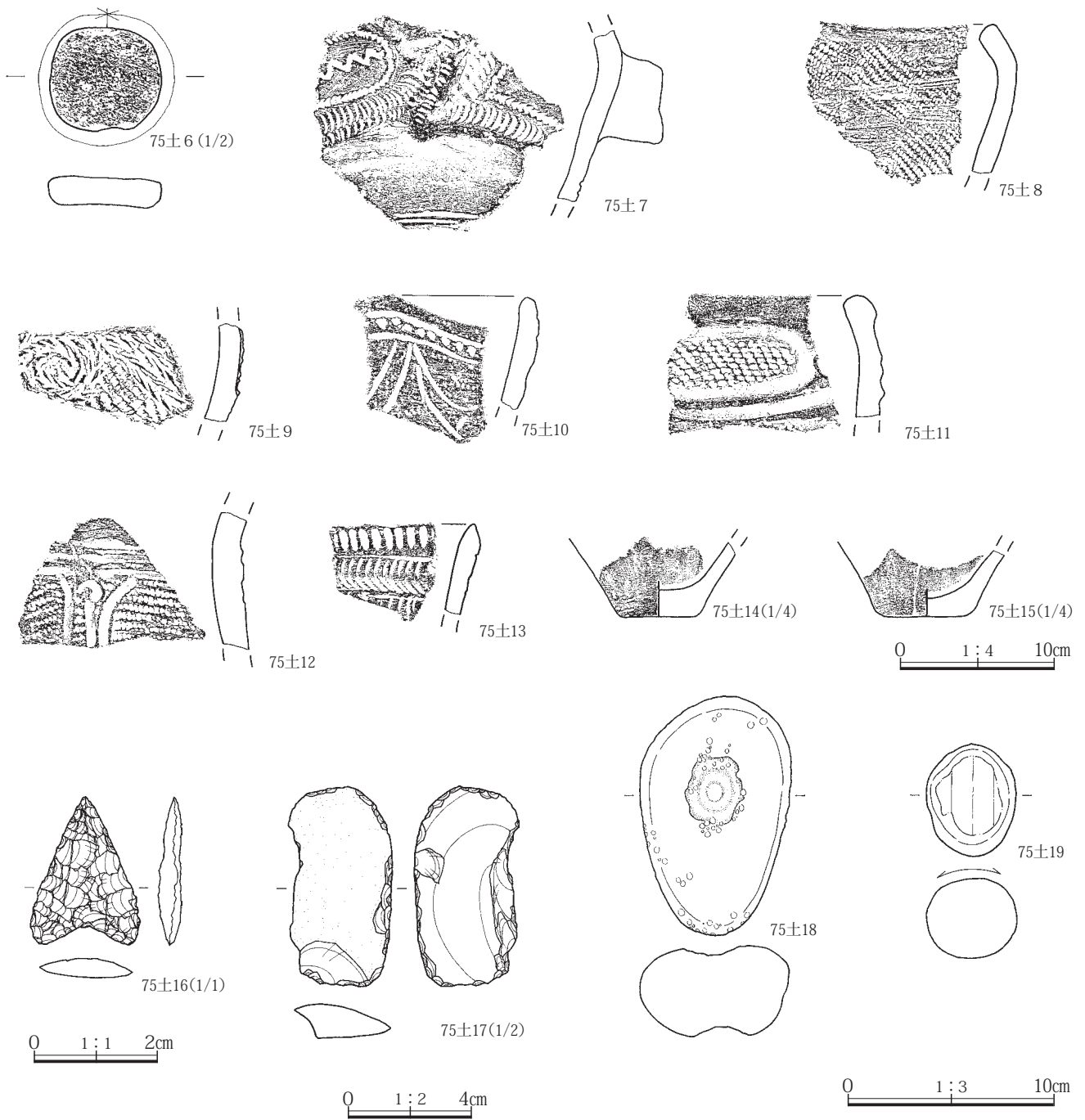


75±5



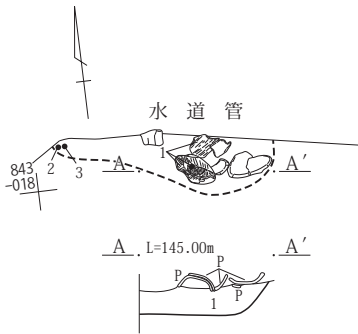
0 1:3 10cm

第96図 縄文土坑・出土遺物(23)



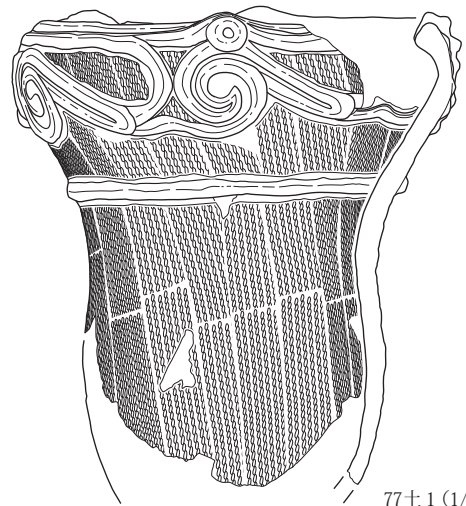
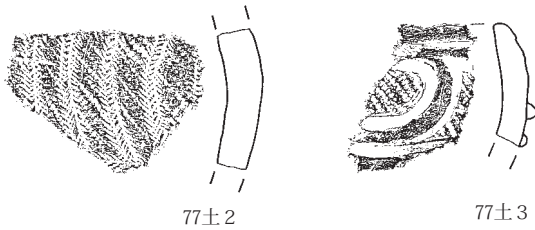
第97図 縄文土坑・出土遺物(24)

2区77号土坑



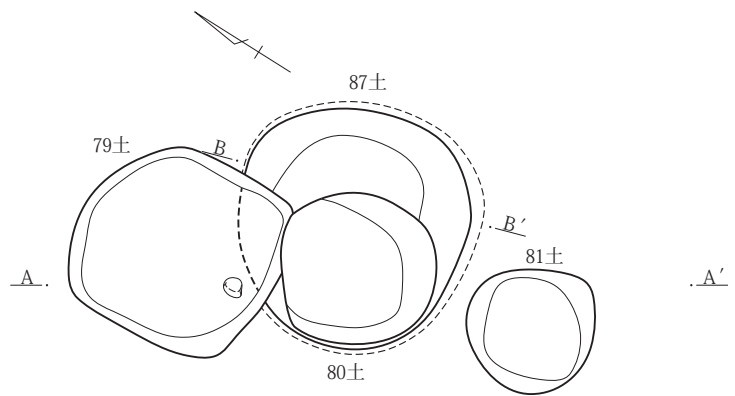
77号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒(φ 1~2mm)・黄褐色粒(φ 1~2mm)を含む。



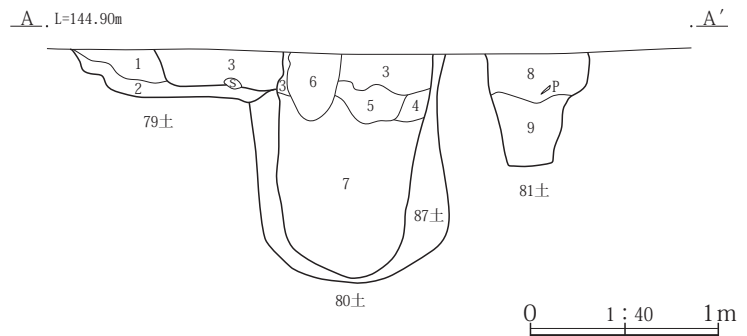
77土1 (1/4)
0 1:4 10cm

2区79号~81号・87号土坑



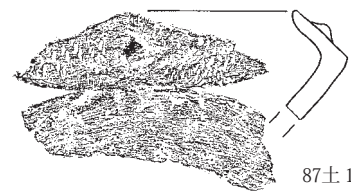
87号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(φ 2~30mm)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒(φ 1mm)を少量含む。
- 3 2に近似。2にローム粒を含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 2~4mm)を含む。壁際にロームブロック(φ 20mm)少量あり。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒・ロームブロック主体。暗褐色ブロック少量混入する。



79号~81号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 2mm)ロームブロック(φ 30mm)を少量含む。
- 2 1にロームブロック(φ 20~30mm)を多量含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 1mm)灰白色粒(φ 1~2mm)を含む。
- 4 3にローム粒(微細)が加わり褐色味つよい。
- 5 ロームブロック(φ 10~40mm)と3の混土。
- 6 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ 1~2mm)ロームブロック(φ 20mm)を含む。ピット状の掘り込み。
- 7 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ 1mm)を含み粘性つよい。
- 8 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 1~2mm)ロームブロック(φ 20mm)を少量含む。
- 9 8にロームブロック(φ 10~30mm)を多量混入。

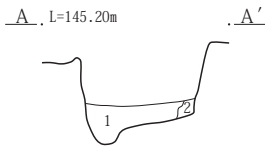
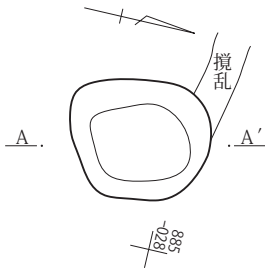


87土1
0 1:3 10cm

第98図 縄文土坑・出土遺物(25)

第3章 検出された遺構と遺物

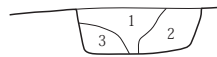
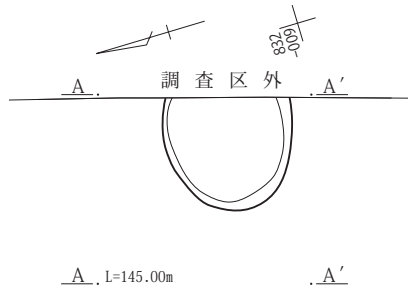
3区84号土坑



84号土坑

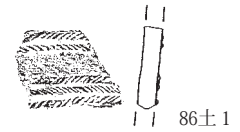
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒(φ 2~3mm)を含む。
- 2 ローム2次堆積土。

2区86号土坑



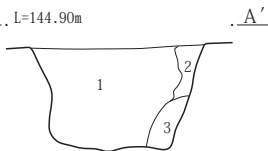
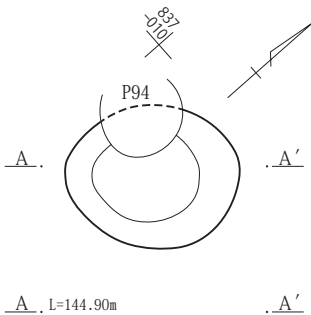
86号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰白色粒(φ 1mm)・ローム粒(φ 2mm)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 1にローム粒・ロームブロック(φ 1~15mm)混土。
- 3 ロームブロックと1の混土。



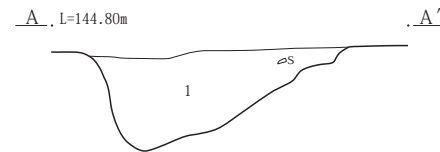
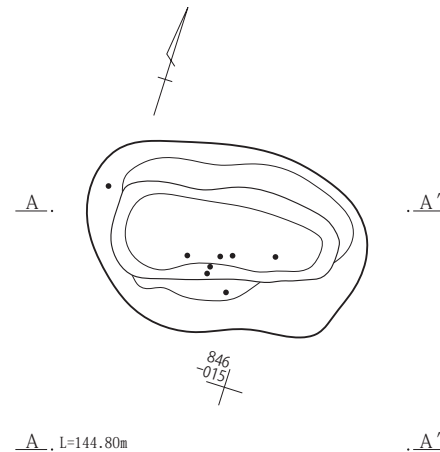
2区95号土坑

2区89号土坑



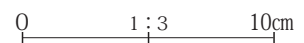
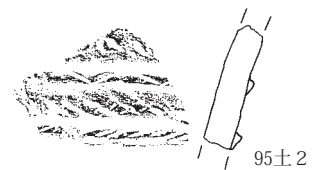
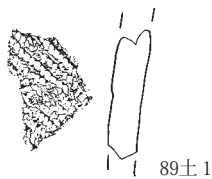
89号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 微細の灰白色粒・ローム粒(φ 2mm)を少量含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック(φ 2~25mm)を加えたもの。
- 3 2に近似。ロームブロックの混入少ない。



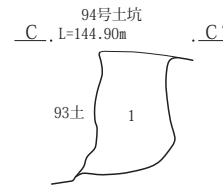
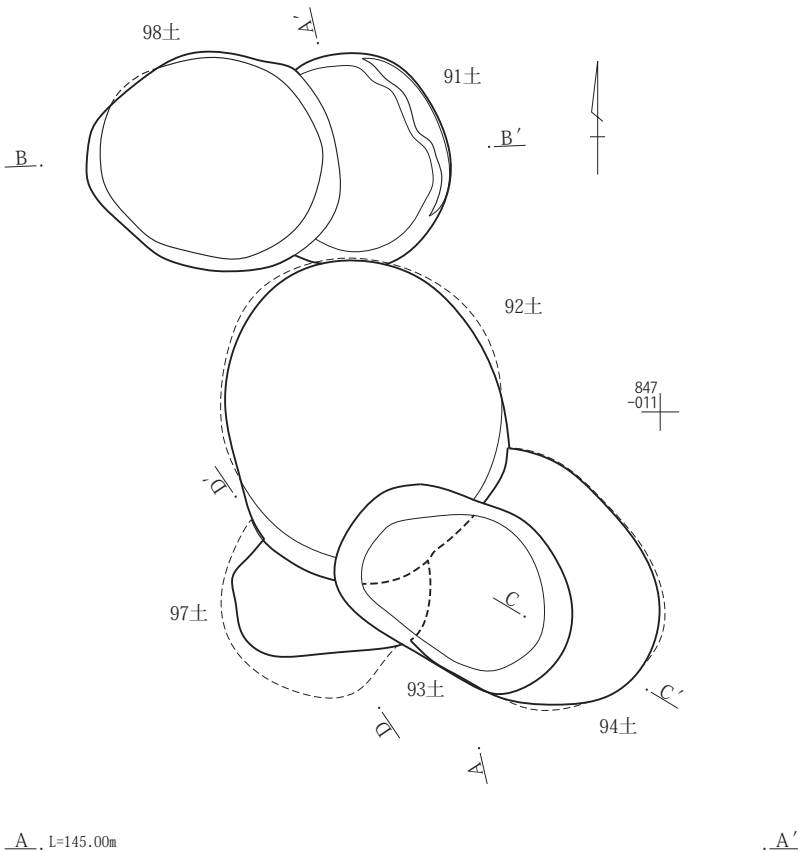
95号土坑

- 1 にぶい橙色(10YR6/4) ローム粒を主体とする。ローム粒の混入多い。



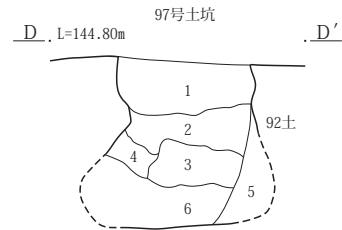
第99図 縄文土坑・出土遺物(26)

2区91号～94号・97号・98号土坑



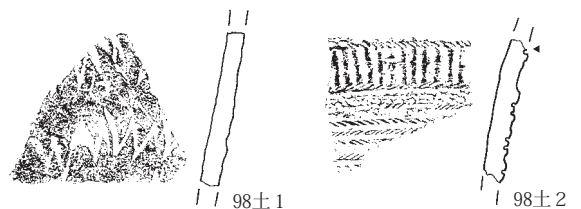
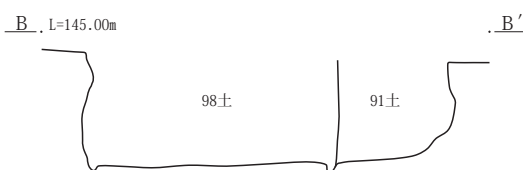
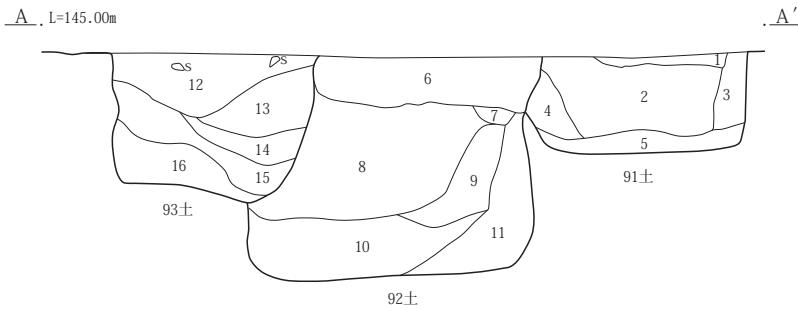
94号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ2～5mm程度のロームブロックを3%含む。φ1～2mm程度の白色粒を1%含む。



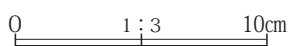
97号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を主体とする。ロームブロック(φ10～20mm)を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ2～15mm)を含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム・ロームブロック主体。
- 4 2にロームブロック(φ30mm)混入。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 微量のローム粒(微細)を含む。
- 6 5に近似するがしまりがない。



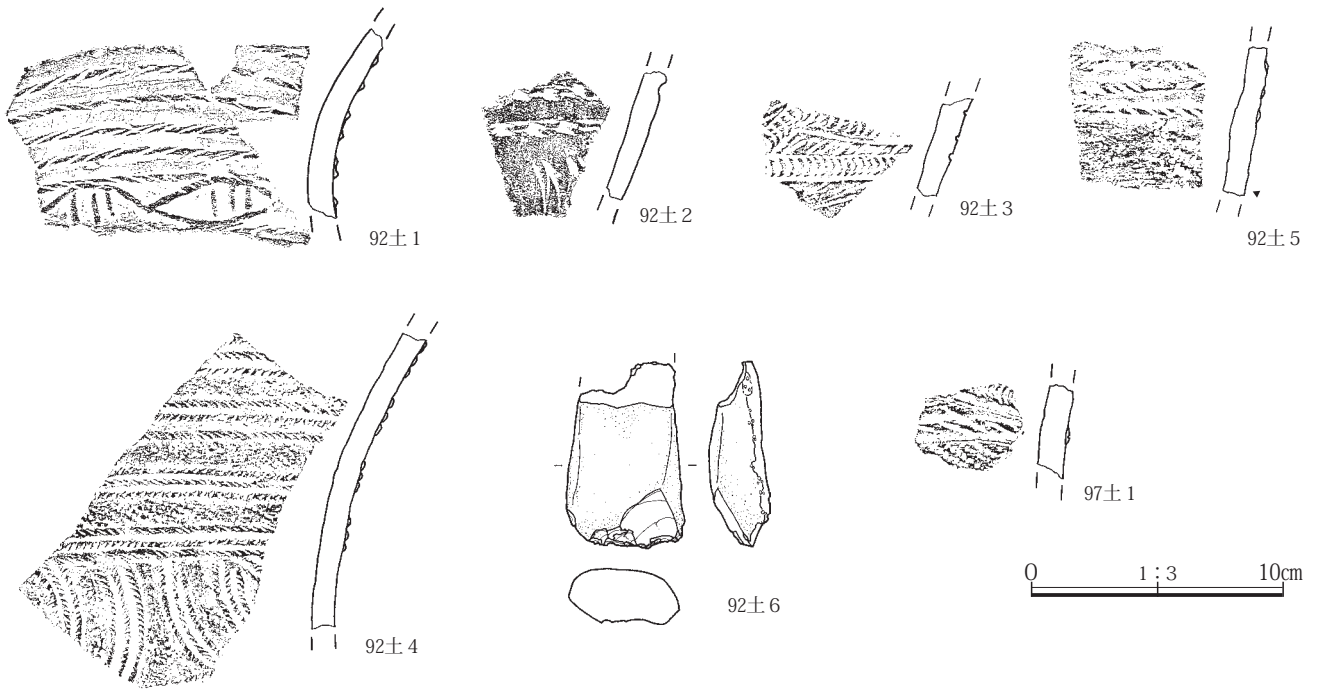
91号～93号土坑

- 1 暗褐色(10YR3/3) ローム粒(微細)を多量含む。
- 2 暗褐色(10YR3/3) 1に近似するが褐色味がつよい。
- 3 黒褐色(10YR3/1) ローム粒(φ2～7mm)を含む。
- 4 黒褐色(10YR3/2) 少量のローム粒(φ3mm)を含む。
- 5 黒褐色(10YR3/2) 少量のローム粒(φ2mm)を含む。
- 6 黒褐色(10YR3/2) 少量の灰白色粒・ローム粒(φ2mm)を含む。
- 7 6と7の中間層。
- 8 黒褐色(10YR3/2) 少量の灰白色粒(φ2mm)を含む。
- 9 暗褐色(10YR3/3) 8にローム粒・ロームブロックを多く混入。
- 10 9に近似するがやや粘質。
- 11 ロームを主体とした2次堆積土。
- 12 黒褐色(10YR3/2) ローム粒(φ2～15mm)を含む。少量の灰白色粒(φ2mm)を混入する。
- 13 12に近似する。ローム粒の混入少ない。
- 14 13よりさらにローム粒の混入少ない。
- 15 黒褐色(10YR3/2) 灰白色粒・ローム粒(φ2mm)を混入する。
- 16 15にφ20mmのロームブロック・ローム粒(φ2～5mm)を含む。

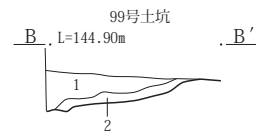
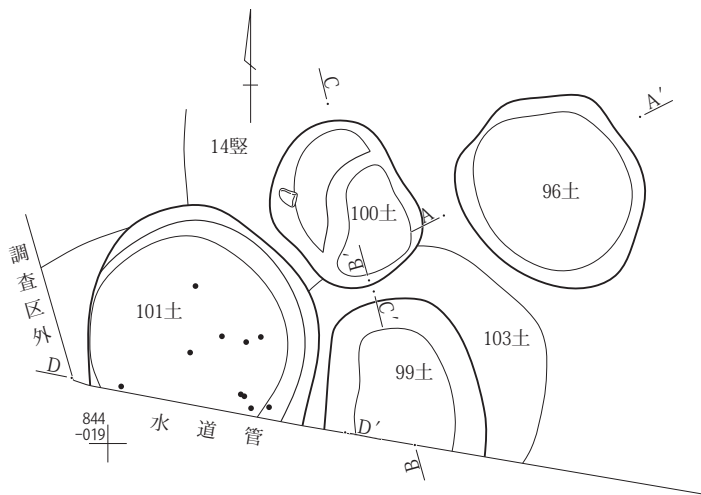


第100図 縄文土坑・出土遺物(27)

第3章 検出された遺構と遺物

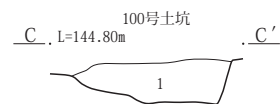


2区96号・99号～101号土坑



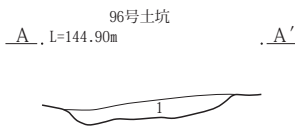
99号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 1～3mm)。少量の灰白色粒(φ 1mm)を含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック(φ 10mm)混土。



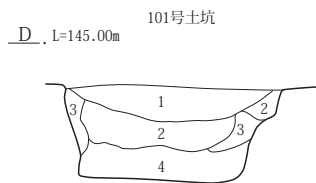
100号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2mm)ロームブロック(φ 20～30mm)を含む。



96号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR2/2)を30%含む。φ 2～40mm程度のロームブロックを5%含む。しまりあり

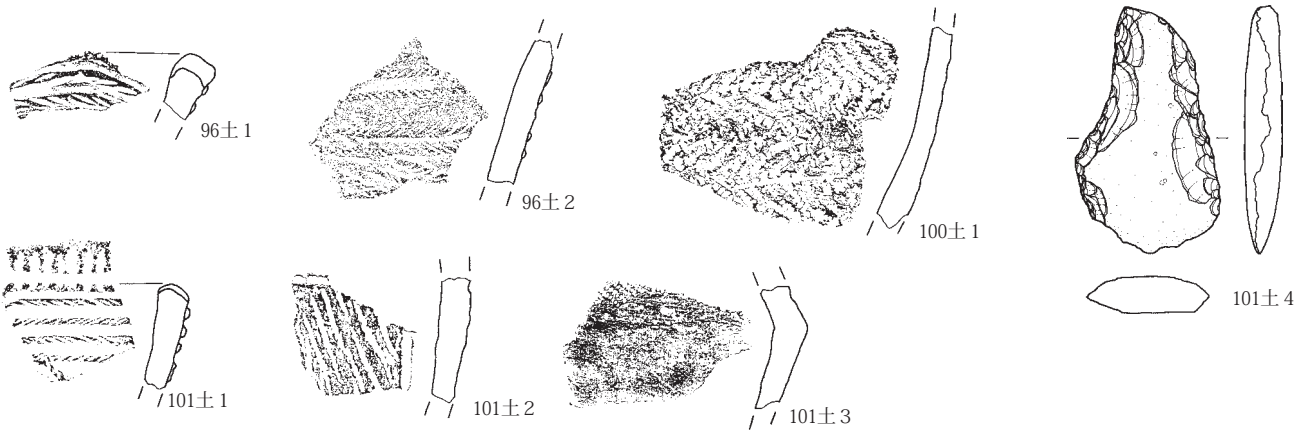


101号土坑

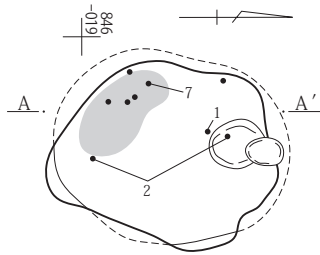
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ 1～2mm)を含み粘質でしまりある。含有物同じ。
- 2 2にローム粒(φ 5mm)を含む。
- 3 2・3にローム粒・ロームブロックの多量混土。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ 1～10mm)を多量含む。

0 1:40 1m

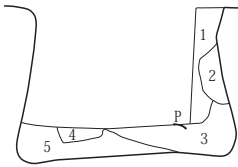
第101図 縄文土坑・出土遺物(28)



2区102号土坑



A, L=145.00m



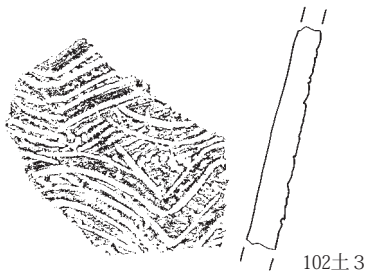
0 1:40 1m



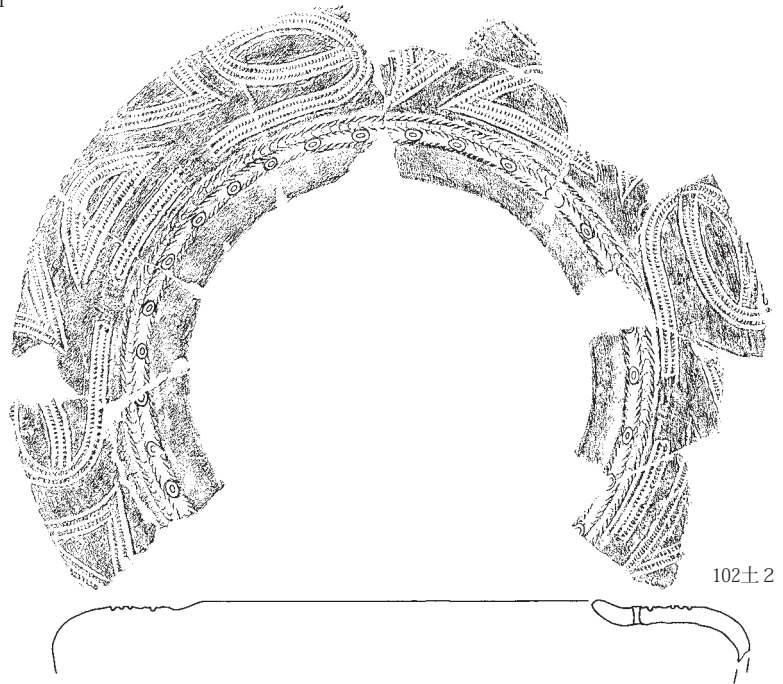
102±1 (1/4)

102号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) φ 1 ~ 3 mmのローム粒(φ 2 mm)の灰白色粒を含む。
- 2 1にローム粒の多量混土。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ 2 mm)を含む。
- 4 1と4の混土層で焼土粒(φ 2 ~ 15mm)を多量に含む。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を主体とする。しまりない。



102±3

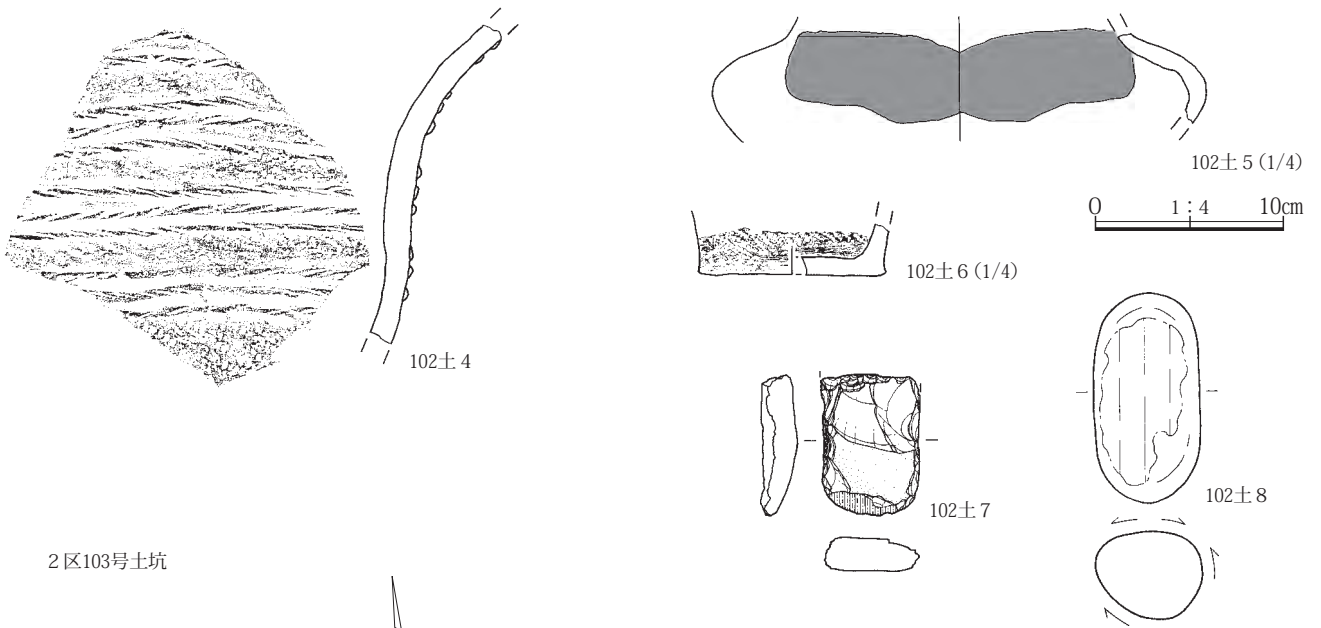


102±2

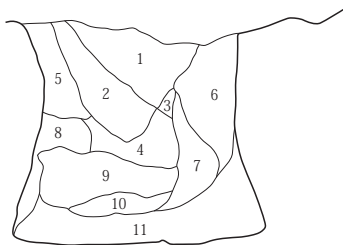
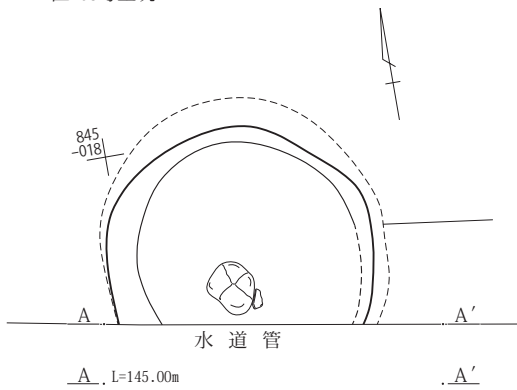
0 1:3 10cm

0 1:4 10cm

第102図 縄文土坑・出土遺物(29)



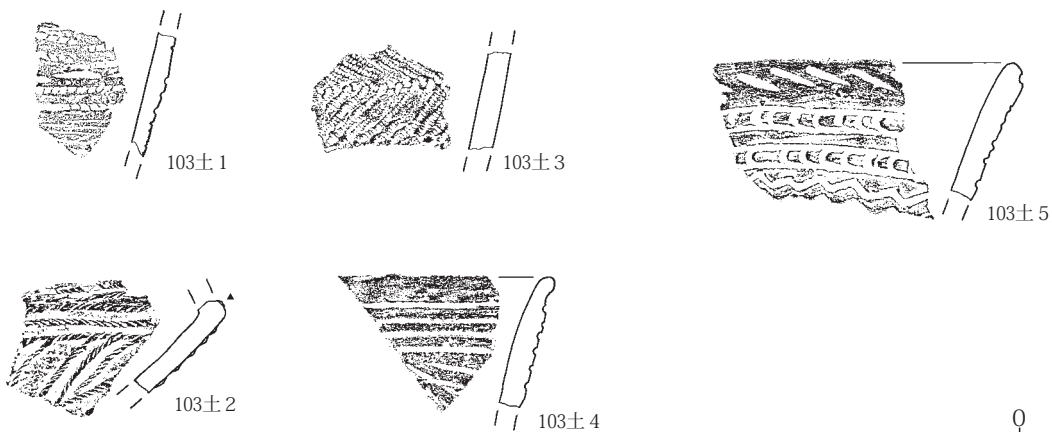
2区103号土坑



103号土坑

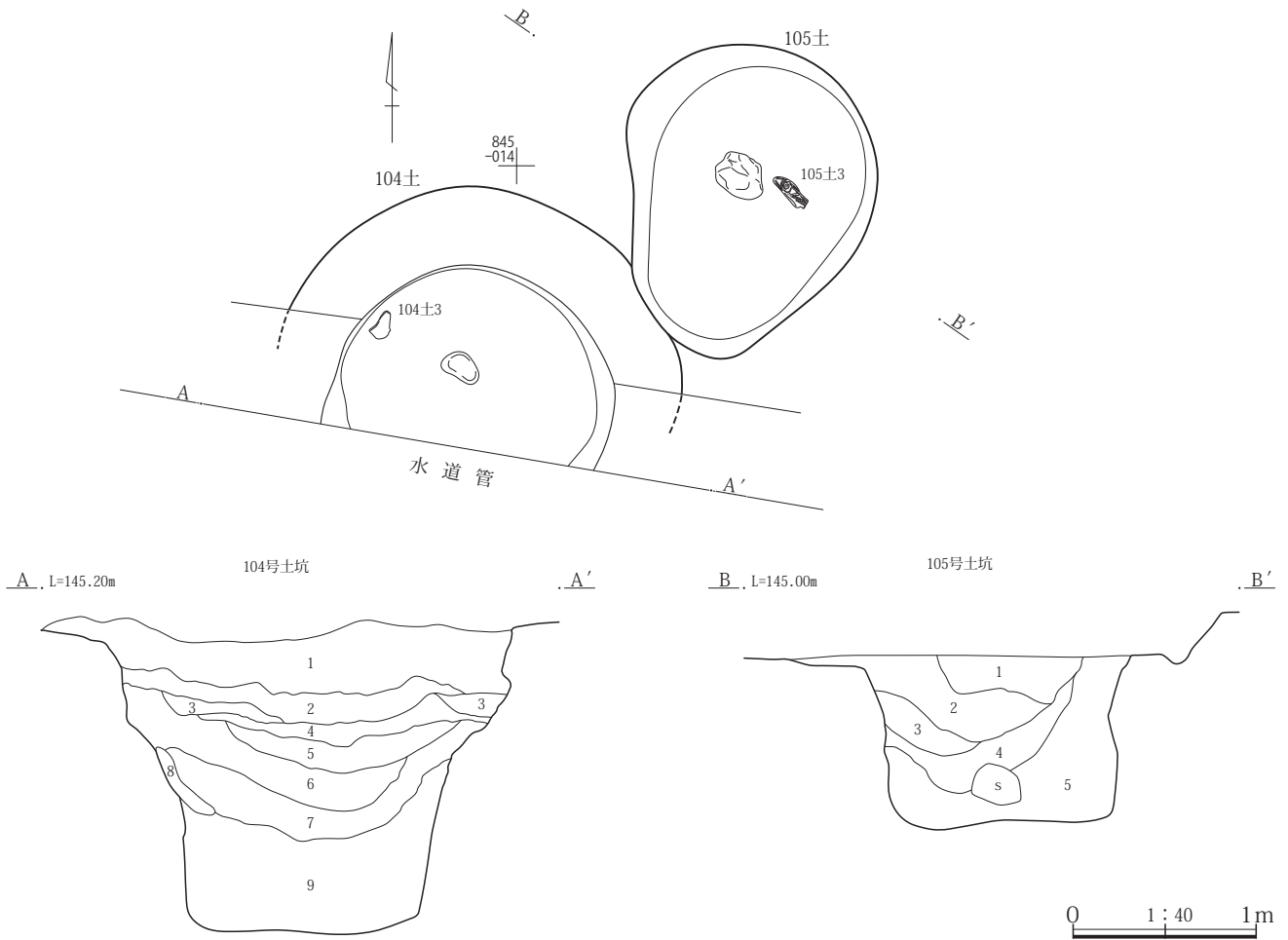
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ 1～2mm)ローム粒(φ 1～2mm)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 微細の灰白色粒を少量含む。
- 3 1にローム粒(微細)を含む。
- 4 3にロームブロック(φ 15～20mm)を含む。
- 5 2にローム粒・ロームブロックを多量に含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) φ 2～3mmの灰白色粒を含む。ローム粒の混入多く褐色味がつよい。
- 7 6にロームブロック(φ 20mm)を含む。
- 8 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロックを主体とする。
- 9 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック(φ 20mm)が少量混入。
- 10 黒褐色土(10YR3/2) φ 2mmのローム粒を少量含む。
- 11 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を主体とする。

0 1:40 1m



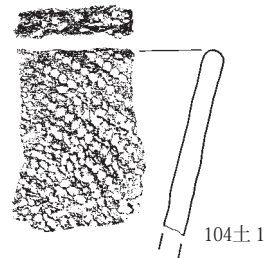
第103図 縄文土坑・出土遺物(30)

2区104号・105号土坑



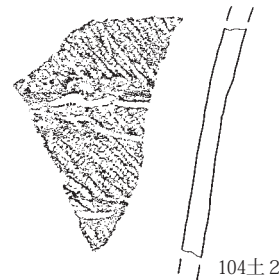
104号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2～5 mm)ロームブロック(φ 10～15mm)が混入。
 - 2 暗褐色土とロームブロック(φ 20～50mm)の混土。
 - 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ 1～10mm)が少量含まれる。
 - 4 ロームブロック(φ 20～50mm)を主体とする。暗褐色土との混土。
 - 5 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック(φ 20～30mm)が混入。
 - 6 暗褐色土とロームブロックの混土(2に近似)。
 - 7 5に近似。
 - 8 ローム2次堆積土。黒褐色土ブロック混入。
 - 9 黄褐色土(10YR5/6) ロームを主体とする(2次堆積)。
- ※ 2～7は人的に埋てんしたと考える。



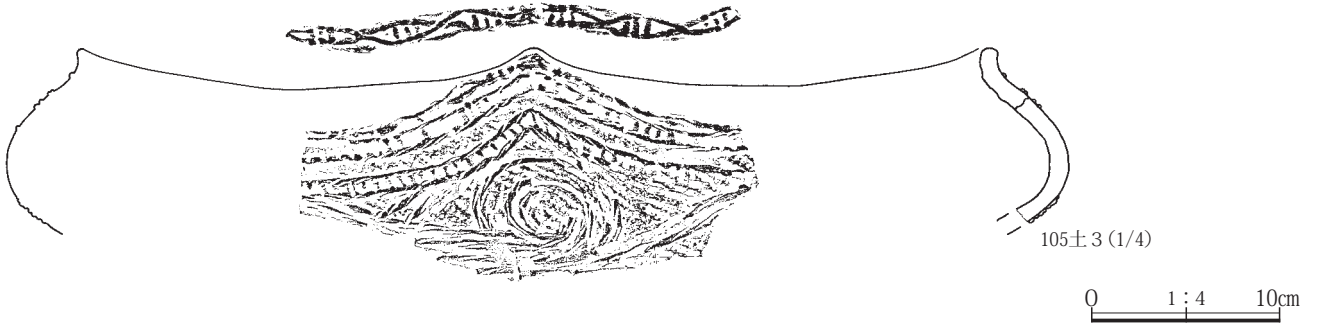
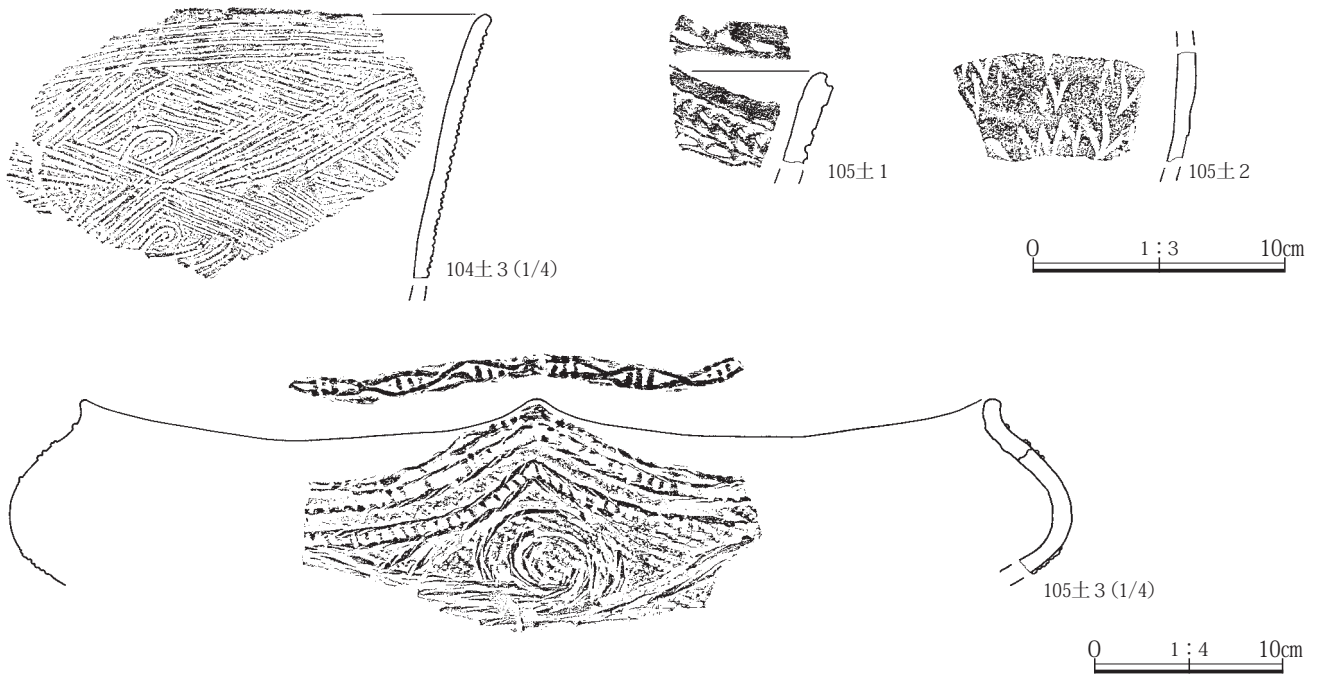
105号土坑

- 1 ローム2次堆積土 少量の黒褐色土ブロックが混入。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロックが多量に混入。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒(φ 2～3 mm)が混入。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒(微細)灰白色粒(φ 2 mm)を少量含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ 1～2 mm)を含む。

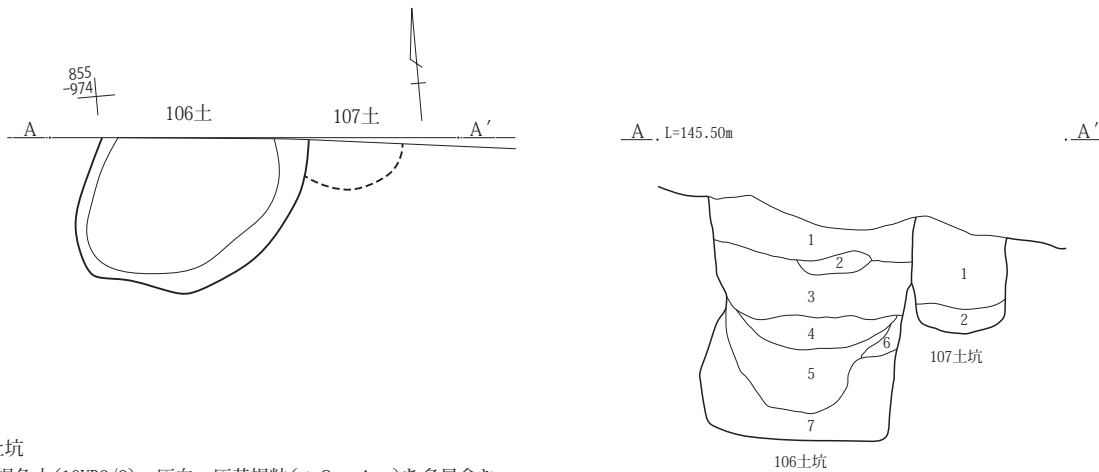


0 1:3 10cm

第104図 縄文土坑・出土遺物(31)



1区106号・107号土坑

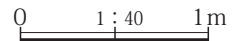


106号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白・灰黄褐粒(φ 2～4mm)を多量含む。
- 2 1にロームブロック(φ 20～50mm)を含む。
- 3 1に近似灰白・灰黄褐色粒子の混入多く褐色味が強い。
- 4 3にロームブロック(φ 5～40mm)を混入。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒主体。
- 6 5にロームブロック混土。
- 7 にぶい黄橙色土(10YR6/4) ローム主体。

107号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ 2～3mmの灰白・灰黄褐色粒子を含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック(φ 2～10mm)を多量含む。



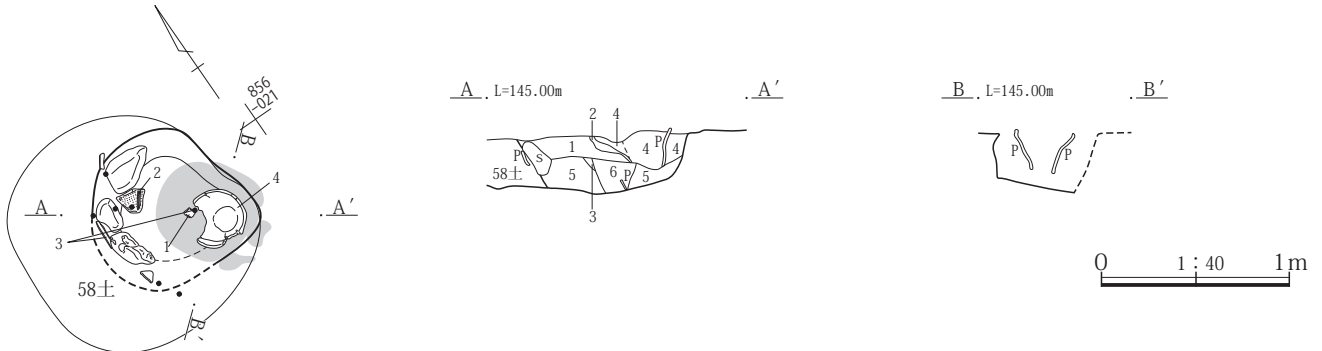
第105図 縄文土坑・出土遺物(32)

1号屋外炉(第106図、PL.46)

2区で屋外炉1が確認されている。屋外炉は58号土坑の内部に確認されている。しかし土坑は掘り方ではない。それは土坑の1/3ほどの部分に構築されている。実際には58号土坑があり、土坑が埋没した後に屋外炉が作られたということである。炉の周囲には縄文土器が出土して

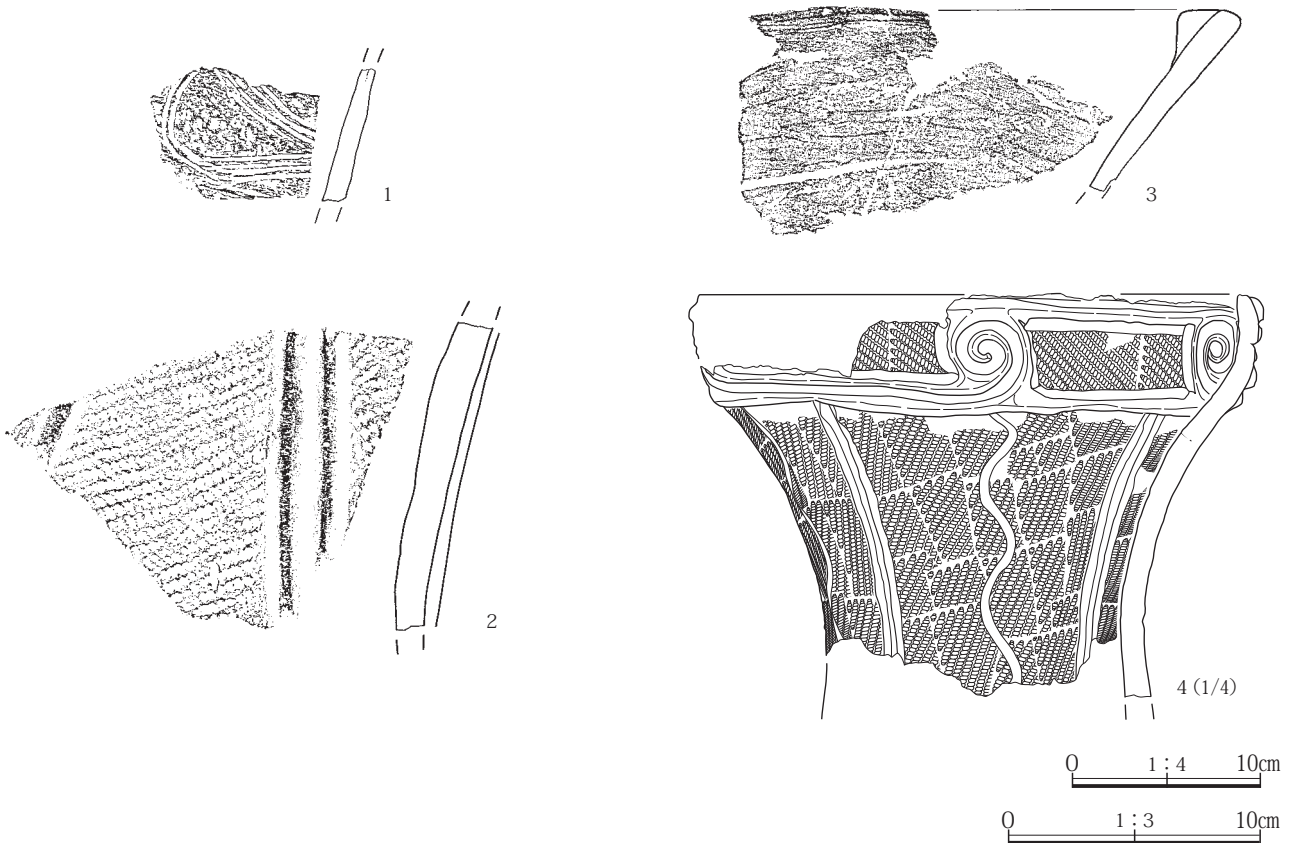
いる。掲載遺物は4点あり、1片が諸磯b式で、他の3点は加曾利E2・3式土器である。以上のことから屋外炉としたものは後期加曾利E式段階の遺構と考えられ、58号土坑は前期の土坑の可能性が高い。周囲に土器が出土することから15号竪穴建物と同様竪穴建物の炉の可能性も否定できない。

2区1号屋外炉



1号屋外炉 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒(1mm)・ローム粒(φ 1mm)を少量含む。焼土粒わずかに認める。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒子(φ 1~3mm)を多量含む。赤味つよい。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量含む。
- 4 1に焼土粒・焼土ブロック(φ 10mm)が混入。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒、ブロック混入。
- 6 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒子(φ 2mm)混入。



第106図 1号屋外炉・出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

第2表 前畑J遺跡土坑一覧 建・竪穴建物 竪状・竪穴状遺構

調査区	遺構名	位置		平面形状	規模			長軸方位	重複関係	備考
		X座標	Y座標		長軸m	短軸m	深さcm			
1	1土坑	X=44.860~861	Y=52.864~866	長方形?	1.80	(0.70)	20	N-80°-E		
1	2土坑	X=44.863~864	Y=52.867~869	円形?	(1.40)	(1.10)	69	N-50°-W	3土坑	
1	3土坑	X=44.862~864	Y=52.867~868	楕円形	(0.94)	0.57	55	N-27°-W		
1	4土坑	X=44.848~849	Y=52.958~860	長方形	1.30	(0.60)	16	N-50°-W		
1	5土坑	X=44.849~850	Y=52.958	長方形	0.90	0.53	13	N-4°-E		
1	6土坑	X=44.852~854	Y=52.979~980	楕円形	1.41	1.20	48	N-51°-W	4建、P9	
1	8土坑	X=44.848~849	Y=52.957~958	楕円形?	(0.63)	0.93	18	N-90°-E		縄文
1	9土坑	X=44.851~852	Y=52.960~961	円形?	1.20	1.10	40	-		
1	10土坑	X=44.849~850	Y=52.967~969	楕円形	2.10	1.81	68	N-52°-W	14土	縄文
1	11土坑	X=44.850~851	Y=52.976	楕円形	0.78	0.65	18	N-3°-E		縄文
1	12土坑	X=44.853~854	Y=52.962~963	楕円形?	(0.80)	1.00	27	N-0°		縄文
1	13土坑	X=44.851~852	Y=52.966~967	楕円形	1.18	1.10	20	N-84°-W		縄文
1	14土坑	X=44.848~849	Y=52.967~968	楕円形	1.30	1.16	33	N-8°-W	10土	縄文
1	15土坑	X=44.853~854	Y=52.966~967	楕円形	(0.93)	1.28	34	N-6°-E		縄文
1	16土坑	X=44.848~849	Y=52.969~970	円形	(0.90)	0.96	33	-		縄文
1	17土坑	X=44.848	Y=52.970~971	方形?	1.00	(5.50)	35	N-88°-E		縄文
1	18土坑	X=44.851~852	Y=52.976~977	円形	1.07	1.02	10	-	19土	縄文
1	19土坑	X=44.852~853	Y=52.976~977	楕円形	1.45	(0.98)	19	N-76°-W	18・20・22土	縄文
1	20土坑	X=44.852~853	Y=52.977~978	不明	(0.54)	(0.23)	(10)	-	19・22土	縄文
1	21土坑	X=44.853~854	Y=52.976~977	楕円形	0.94	0.83	27	N-3°-W	22土	縄文
1	22土坑	X=44.853~854	Y=52.977~978	楕円形	(0.90)	0.95	19	N-33°-E	19~21土	縄文
1	23土坑	X=44.852~853	Y=52.935	円形	0.85	0.82	24	-	11建	
1	24土坑	X=44.850~851	Y=52.941~942	楕円形	1.00	0.93	35	N-85°-E		
3	25土坑	X=44.948~949	Y=53.038~039	楕円形	1.03	1.10	63	N-2°-E		
3	28土坑	X=44.919~920	Y=-53.040~041	楕円形	(1.50)	(1.20)	21	N-52°-W	29土	縄文
3	29土坑	X=44.919~921	Y=-53.039~041	方形?	(0.78)	1.17	23	N-41°-E	28土	
3	30土坑	X=44.913~914	Y=-53.036~037	楕円形	1.06	0.93	100	N-12°-E		縄文
2	31土坑	X=44.856	Y=-53.020~021	円形?	(0.27)	(0.85)	29	N-9°-E		縄文
2	32土坑	X=44.856	Y=-53.020	楕円形?	(0.46)	0.83	21	N-11°-E		縄文
2	33土坑	X=44.854~855	Y=-53.018~019	楕円形	0.96	0.87	15	N-14°-E	45土	縄文
2	34土坑	X=44.855~856	Y=-53.017~018	円形	0.80	0.73	10	-		縄文
2	35土坑	X=44.856	Y=-53.016	不明	0.91	(0.49)	28	N-87°-W		縄文
2	36土坑	X=44.851~853	Y=-53.017~018	円形	1.22	1.15	21	-		縄文
2	37土坑	X=44.851~852	Y=-53.015~016	円形	0.86	0.79	10	-		縄文
2	38土坑	X=44.849~850	Y=-53.019~020	円形	1.28	(1.10)	34	-	P66	縄文
2	39土坑	X=44.854~855	Y=-53.023	円形?	1.15	(0.60)	22	N-23°-E	42土	縄文
2	40土坑	X=44.856	Y=-53.018~019	不定形	(1.30)	(0.50)	33	N-87°-W		縄文
3	41土坑	X=44.898~900	Y=-53.033~035	楕円形	1.48	1.04	109	N-24°-W		縄文
2	42土坑	X=44.853~855	Y=-53.022~023	楕円形	(0.97)	1.05	61	N-31°-E	39・43・44土	縄文
2	43土坑	X=44.853~854	Y=-53.022~023	楕円形?	(1.10)	0.95	25	N-72°-E	42・44土	縄文
2	44土坑	X=44.853~854	Y=-53.022~023	不明	(0.43)	(0.36)	40	N-61°-E	42・43土	縄文
2	45土坑	X=44.854~855	Y=-53.018	長方形	1.20	0.78	36	N-25°-W	33土	縄文
2	46土坑	X=44.850~851	Y=-53.017~018	円形	1.33	1.16	5	-		縄文
2	47土坑	X=44.850~851	Y=-53.015~016	円形	1.17	1.08	24	-		縄文
2	48土坑	X=44.853	Y=-53.014~015	楕円形	(0.63)	0.76	15	N-17°-W	49・50土	縄文
2	49土坑	X=44.853~854	Y=-53.013~014	方形?	(0.18)	1.11	11	-	48・50土	縄文
2	50土坑	X=44.853~854	Y=-53.014~015	円形	1.20	1.10	48	-	48・49土	縄文
2	51土坑	X=44.849~850	Y=-53.013~015	長方形	1.52	0.88	18	N-80°-W	52土	縄文
2	52土坑	X=44.850~851	Y=-53.013~015	楕円形	1.40	(0.80)	9	N-82°-E	51土	縄文
2	53土坑	X=44.851~852	Y=-53.011~012	円形?	1.68	(0.92)	80	N-26°-W	54土	縄文
2	54土坑	X=44.851~852	Y=-53.012~013	楕円形	1.36	1.06	96	N-68°-E	53土	縄文
3	55土坑	X=44.906~907	Y=-53.037~038	円形?	1.33	(0.74)	78	N-25°-W	4竪状	縄文
2	56土坑	X=44.847~848	Y=-53.019~020	長方形?	(0.78)	0.62	31	N-80°-E	57土	縄文
2	57土坑	X=44.845~848	Y=-53.019~020	楕円形	(1.53)	(0.66)	65	N-18°-W	56・90土	縄文
2	58土坑	X=44.855~856	Y=-53.021~022	円形	1.22	1.20	30	-	1屋外炉、P56	縄文
3	59土坑	X=44.889	Y=-53.027	円形	0.73	0.73	101	-		縄文
3	60土坑	X=44.888~889	Y=-53.028~029	円形	1.32	1.18	28	-		
3	61土坑	X=44.880~882	Y=-53.030~031	楕円形	1.63	1.12	21	N-36°-E	P118・P119	
3	62土坑	X=44.908~910	Y=-53.037~039	楕円形	2.02	(1.01)	30	N-27°-W	4竪状	縄文

第2節 縄文時代

3	63土坑	X=44.883~884	Y=-53.029~030	橢円形	1.40	1.00	54	N-10°-E	67・71土、P99	縄文
3	64土坑	X=44.876~877	Y=-53.022~023	円形	1.15	1.08	57	—		縄文
3	65土坑	X=44.874~875	Y=-53.021~022	円形	1.35	(1.15)	38	—		縄文
3	66土坑	X=44.881~882	Y=-53.024~025	円形	1.27	1.21	13	—	85土、P88	縄文
3	67土坑	X=44.883~884	Y=-53.029~031	円形	1.30	1.20	28	—	63・68・71土、P99	縄文
3	68土坑	X=44.883~885	Y=-53.030~031	不明	(1.73)	(1.23)	36	N-16°-W	67・71土、6 壑状	縄文
3	69土坑	X=44.922~923	Y=-53.037	方形	1.02	0.97	31	—	12建	縄文
3	70土坑	X=44.890~891	Y=-53.030~031	不定形	1.40	1.03	56	N-85°-W	P81~P84・P111	
3	71土坑	X=44.883~884	Y=-53.029~030	橢円形	1.42	1.11	134	N-11°-E	63・67・68土、P99	
2	72土坑	X=44.829~832	Y=-53.010~012	橢円形	2.45	2.31	21	N-18°-E		縄文
2	73土坑	X=44.835~837	Y=-53.014~015	長方形	1.76	1.46	19	N-10°-E		縄文
2	74土坑	X=44.833~835	Y=-53.008~009	円形?	1.71	(0.64)	104	N-18°-E	13建	縄文
2	75土坑	X=44.832~834	Y=-53.013~015	円形	2.26	2.13	55	—		縄文
3	76土坑	X=44.875~876	Y=-53.029~030	不定形	0.18	0.78	43	N-15°-E	15建	
2	77土坑	X=44.842~843	Y=-53.016~017	不明	(1.20)	(0.30)	(12)	N-79°-W	14建	縄文
3	78土坑	X=44.894~895	Y=-53.030	橢円形	1.05	0.60	28	N-10°-W	5 壑状	
2	79土坑	X=44.835~836	Y=-53.010~011	方形	1.08	1.02	26	—	13建、80・87土	縄文
2	80土坑	X=44.834~835	Y=-53.010	円形	0.89	0.81	119	—	13建、79・87土	縄文
2	81土坑	X=44.833~834	Y=-53.009~010	円形	0.68	0.65	45	—	13建	縄文
3	82土坑	X=44.894~895	Y=-53.033~034	円形	0.94	0.86	33	—		
3	83土坑	X=44.893	Y=-53.028~029	橢円形	0.90	0.51	61	N-88°-E	P129	
3	84土坑	X=44.884~885	Y=-53.028	橢円形	0.71	0.63	46	N-13°-W		縄文
3	85土坑	X=44.881	Y=-53.024~025	不明	1.10	(0.53)	15	N-70°-W	66土、P138	縄文
2	86土坑	X=44.832	Y=-53.009	橢円形	(0.60)	0.72	22	N-80°-W	13建	縄文
2	87土坑	X=44.834~835	Y=-53.009~010	円形	1.26	1.21	118	—	13建、79・80土	縄文
2	89土坑	X=44.836	Y=-53.009	橢円形	0.92	0.75	56	N-40°-E	13建、P94	縄文
2	90土坑	X=44.845~847	Y=-53.019~020	不明	(1.45)	(0.85)	60	N-18°-W	57土	縄文
2	91土坑	X=44.847~848	Y=-53.012	円形	(1.10)	(0.56)	52	—	92・98土	縄文
2	92土坑	X=44.846~847	Y=-53.011~013	橢円形	1.68	1.43	114	N-23°-W	14建、93・94・97土	縄文
2	93土坑	X=44.845~846	Y=-53.011~012	橢円形	1.30	0.90	70	N-60°-W	14建、92・94・97土	縄文
2	94土坑	X=44.845~846	Y=-53.011~012	橢円形	(1.24)	1.24	66	N-60°-W	14建、92・93・97土	縄文
2	95土坑	X=44.846~847	Y=-53.014~015	橢円形	1.50	1.03	53	N-86°-E	14建	縄文
2	96土坑	X=44.844~845	Y=-53.016~017	橢円形	1.05	0.92	17	N-40°-W	14建	縄文
2	97土坑	X=44.845~846	Y=-53.012~013	不明	1.03	(0.38)	86	N-87°-W	14建、92~94土	縄文
2	98土坑	X=44.847~848	Y=-53.012~013	橢円形	1.33	1.16	58	N-87°-E	14建、91土	縄文
2	99土坑	X=44.843~844	Y=-53.017	橢円形	(0.78)	0.86	20	N-4°-W	14建、103土	縄文
2	100土坑	X=44.844~845	Y=-53.017~018	橢円形	0.86	0.70	17	N-40°-W	14建、103土	縄文
2	101土坑	X=44.844~845	Y=-53.017~019	橢円形	(1.05)	1.22	50	N-9°-E	14建、103土	縄文
2	102土坑	X=44.845~847	Y=-53.017~018	橢円形	1.20	0.96	82	N-0°	14建	縄文
2	103土坑	X=44.843~845	Y=-53.016~018	円形	1.40	(1.05)	110	—	14建、99~101土	縄文
2	104土坑	X=44.843~844	Y=-53.013~015	円形	2.20	(1.40)	163	—	14建、105土	縄文
2	105土坑	X=44.844~845	Y=-53.012~013	橢円形	1.79	1.45	93	N-27°-E	14建、104土	縄文
1	106土坑	X=44.853~854	Y=-52.972~974	橢円形	(0.90)	1.10	115	N-35°-E	9建、107土	縄文
1	107土坑	X=44.854	Y=-52.972	不明	(0.50)	0.27	0.52	N-20°-E	9建、106土	縄文

第3章 検出された遺構と遺物

第3表 前畑J遺跡ピット一覧 建・竪穴建物 竪状・竪穴状遺構

調査区	遺構名	位置		平面形状	規模			長軸方位	重複関係	備考
		X座標	Y座標		長軸m	短軸m	深さcm			
1	1	X=44.858	Y=-52.890	円形	0.50	0.46	15	—		
1	2	X=44.858～859	Y=-52.891	楕円形	0.54	0.47	16	N-2°-W		
1	3	X=44.857～858	Y=-52.890～891	円形	0.45	(0.32)	31	—		
1	4	X=44.858	Y=-52.892	円形	0.54	0.52	44	—		
1	5	X=44.858	Y=-52.892～893	円形	0.48	0.43	11	—		
1	6	X=44.857～858	Y=-52.893～894	楕円形	0.60	(0.54)	18	N-3°-W		
1	7	X=44.858	Y=-52.897	円形	0.51	0.50	16	—		
1	8	X=44.862	Y=-52.886～887	不明	0.43	(0.20)	20	N-82°-E		
1	9	X=44.853	Y=-52.978～979	円形	0.34	0.34	58	—	6土	
1	10	X=44.849～850	Y=-52.950～951	不定形	0.61	0.58	23	N-89°-E	P24	
1	11	X=44.849～850	Y=-52.947～948	楕円形	0.72	0.60	50	N-36°-E		
1	12	X=44.852	Y=-52.948	楕円形	0.25	0.21	41	N-1°-E		
1	13	X=44.850～0851	Y=-52.957	楕円形	0.43	0.36	10	N-72°-E		縄文
1	14	X=44.852	Y=-52.963	不定形	0.78	0.46	32	N-50°-E		縄文
3	15	X=44.953～954	Y=-53.034～035	楕円形	0.63	0.51	29	N-58°-E		
3	16	X=44.949	Y=-53.037～038	楕円形	0.68	0.62	13	N-59°-E		
1	17	X=44.851～852	Y=-52.964	楕円形	0.40	0.25	20	N-20°-W		縄文
1	19	X=44.853	Y=-52.948～949	円形	(0.46)	(0.44)	21	—		
1	20	X=44.851～852	Y=-52.948	楕円形	(0.44)	(0.30)	41	N-10°-W		
1	21	X=44.849	Y=-52.946～947	楕円形	0.42	0.38	38	N-1°-E		
1	22	X=44.854	Y=-52.933～934	円形	(0.40)	0.42	32	—		11建P5
1	23	X=44.850	Y=-52.941	円形	0.36	0.35	19	—		
1	24	X=44.849	Y=-52.950～951	不明	(0.14)	(0.32)	(9)	N-80°-W	P10	
1	25	X=44.849	Y=-52.950	円形	0.25	0.23	32	—		
1	26	X=44.849～850	Y=-52.950～951	円形	0.98	0.96	28	—		
1	27	X=44.850～851	Y=-52.937	楕円形	0.65	0.51	60	N-3°-E		11建P3
1	28	X=44.853～854	Y=-52.940	楕円形	0.26	0.18	12	N-15°-W	11建	
1	29	X=44.852	Y=-52.940	楕円形	0.32	0.23	18	N-10°-W	11建	
1	30	X=44.853	Y=-52.938	楕円形	0.50	0.40	73	N-20°-W		11建P7
1	37	X=44.852	Y=-52.934	円形	0.36	0.32	67	—		11建P6
1	39	X=44.851～852	Y=-52.933～934	円形	0.65	0.60	45	—		11建P8
1	40	X=44.851	Y=-52.933～934	楕円形	0.71	0.50	40	N-88°-W		11建P2
1	42	X=44.853	Y=-52.961～962	円形	0.29	0.25	24	—		縄文
1	43	X=44.850	Y=-52.970	円形	0.31	0.29	23	—		縄文
1	44	X=44.920	Y=-53.038	円形	0.23	0.22	10	—		縄文
3	45	X=44.920	Y=-53.048	円形	(0.20)	(0.20)	12	—		縄文
3	46	X=44.920	Y=-53.036～037	円形	0.22	0.20	31	—		縄文
2	47	X=44.853～854	Y=-53.019	不定形	0.63	0.36	46	N-56°-W		縄文
2	48	X=44.855	Y=-53.022	円形	0.25	0.24	31	—		縄文
2	49	X=44.854	Y=-53.021	円形	0.29	0.25	36	—		縄文
2	50	X=44.855	Y=-53.021	円形	0.25	0.25	33	—		縄文
2	51	X=44.854	Y=-53.020	方形	0.24	0.23	19	—		縄文
2	52	X=44.854	Y=-53.019	円形	0.25	0.24	30	—		縄文
2	53	X=44.856	Y=-53.022～023	楕円形	0.41	0.32	29	N-20°-E		縄文
2	54	X=44.856	Y=-53.022	楕円形	0.19	0.15	15	N-30°-W		縄文
2	55	X=44.856	Y=-53.022	楕円形	0.27	0.23	16	N-2°-E		縄文
2	56	X=44.856	Y=-53.021	楕円形	0.26	0.19	26	N-42°-W	58土	縄文
2	57	X=44.855～856	Y=-53.020	楕円形	0.31	0.24	12	N-84°-E		縄文
2	58	X=44.855	Y=-53.021	楕円形	0.22	0.18	18	N-70°-E		縄文
2	59	X=44.856	Y=-53.019～020	円形	0.31	0.31	19	—		縄文
2	60	X=44.856	Y=-53.019	楕円形	0.35	0.27	15	N-42°-W		縄文
2	61	X=44.855～856	Y=-53.019	不定形	0.61	0.54	41	N-83°-E		縄文
2	62	X=44.854	Y=-53.016	楕円形	0.25	0.22	16	N-18°-W		縄文
2	63	X=44.852	Y=-53.015	円形	0.21	0.19	13	—		縄文
2	64	X=44.849	Y=-53.017	楕円形	0.21	0.19	22	N-85°-E		縄文
2	65	X=44.848～849	Y=-53.019	円形	0.30	0.28	15	—		縄文
2	66	X=44.850	Y=-53.020	不明	(0.19)	(0.10)	53	N-15°-W	38土	縄文
3	67	X=44.879～880	Y=-53.027～028	円形	0.55	0.50	120	—		15建P9
3	69	X=44.882～883	Y=-53.028	円形	0.42	0.42	32	—		

3	70	X=44.878 ~ 879	Y=-53.028	橢円形	0.61	0.55	48	N-8°-W	15建、P87	
3	71	X=44.878 ~ 879	Y=-53.025	橢円形?	(0.25)	0.28	30	N-27°-E		
3	72	X=44.878 ~ 879	Y=-53.024	橢円形	0.35	0.27	22	N-17°-E		
3	73	X=44.878 ~ 879	Y=-53.024	橢円形	0.41	0.34	36	N-68°-W		
3	74	X=44.876	Y=-53.026	橢円形	0.50	0.41	64	N-22°-E		
3	75	X=44.892	Y=-53.033	橢円形	0.57	0.51	19	N-38°-W		
3	76	X=44.891 ~ 892	Y=-53.031	橢円形	0.70	0.49	73	N-28°-W		
3	77	X=44.890 ~ 891	Y=-53.032	円形	0.43	0.43	44	-		
3	78	X=44.890	Y=-53.032	円形	0.30	0.27	11	-		
3	79	X=44.890	Y=-53.031 ~ 032	円形	0.35	0.35	27	-		
3	80	X=44.890	Y=-53.031	橢円形	0.39	0.25	20	N-3°-E		
3	81	X=44.889 ~ 890	Y=-53.031	橢円形	0.50	0.38	60	N-73°-W	70土	
3	82	X=44.890	Y=-53.031	円形	0.23	0.22	42	-	70土	
3	83	X=44.890	Y=-53.031	円形	0.28	0.25	80	N-84°-E	70土	
3	84	X=44.890 ~ 891	Y=-53.030	円形	0.46	0.44	20	-	70土	
3	85	X=44.891 ~ 892	Y=-53.032 ~ 033	橢円形	0.73	0.45	68	N-58°-W		
3	86	X=44.893	Y=-53.029 ~ 030	橢円形	0.70	0.60	69	N-21°-W		
3	87	X=44.879	Y=-53.028	円形	0.43	0.38	65	-	15建、P70	
3	88	X=44.881 ~ 882	Y=-53.024	橢円形	0.39	0.27	38	N-73°-W	66土	
2	89	X=44.835	Y=-53.014	円形	0.30	0.27	45	-	73土	縄文
2	90	X=44.856	Y=-53.013	橢円形	0.31	0.25	10	N-6°-W		縄文
2	91	X=44.834	Y=-53.013	円形	0.25	0.24	18	-		縄文
2	92	X=44.829	Y=-53.014	円形	0.31	0.28	26	-		縄文
2	93	X=44.834	Y=-53.011	橢円形	0.50	0.46	33	N-2°-W	13建	縄文
2	94	X=44.836	Y=-53.009	円形	0.45	0.45	19	-	13建、89土	縄文
2	95	X=44.835 ~ 836	Y=-53.014 ~ 015	橢円形	0.65	0.43	13	N-80°-E	73土	縄文
2	96	X=44.835	Y=-53.014 ~ 015	橢円形	0.24	0.19	31	N-73°-W		縄文
3	97	X=44.891	Y=-53.031	橢円形	0.87	0.43	35	N-89°-W		
3	98	X=44.875 ~ 876	Y=-53.028	円形	0.44	0.40	82	-		15建P3 縄文
3	99	X=44.884	Y=-53.029 ~ 030	橢円形	0.48	0.40	94	N-24°-E	63・67・71土	縄文
3	100	X=44.892	Y=-53.030 ~ 031	橢円形	0.55	0.48	37	N-81°-E		
3	101	X=44.879	Y=-53.030 ~ 031	橢円形	0.55	0.41	75	N-56°-E		15建P6 縄文
3	102	X=44.878 ~ 879	Y=-53.029 ~ 030	円形	0.66	0.61	67	N-14°-W	15建	縄文
3	103	X=44.878	Y=-53.028 ~ 029	橢円形	0.70	0.47	54	N-5°-E	15建	縄文
3	104	X=44.891 ~ 892	Y=-53.029 ~ 030	橢円形	0.62	0.45	40	N-12°-E		
3	105	X=44.889 ~ 890	Y=-53.032	円形	0.46	0.41	24	-		
3	106	X=44.890	Y=-53.029	円形	0.52	0.44	56	-		
3	107	X=44.878 ~ 879	Y=-53.027 ~ 028	橢円形	0.60	0.41	54	N-64°-W		15建P8 縄文
3	108	X=44.893	Y=-53.033	円形	0.46	0.42	60	-		
3	110	X=44.876 ~ 877	Y=-53.032 ~ 033	橢円形	0.96	0.87	102	N-74°-E	15建	縄文
3	111	X=44.889 ~ 890	Y=-53.030 ~ 031	円形	0.35	0.30	61	-	70土	縄文
3	113	X=44.895	Y=-53.029	円形	0.45	0.40	58	-		
3	114	X=44.889	Y=-53.032	不明	0.59	(0.32)	31	N-17°-W		
3	116	X=44.895	Y=-53.032	円形	0.41	0.38	17	-		
3	117	X=44.878	Y=-53.027	円形	0.34	0.34	54	-		15建P1 縄文
3	118	X=44.880 ~ 881	Y=-53.029 ~ 030	橢円形	0.68	0.46	40	N-10°-E	61土	
3	119	X=44.881 ~ 882	Y=-53.030 ~ 031	橢円形	0.87	0.49	50	N-58°-E	61土	
3	120	X=44.881	Y=-53.028	円形	0.30	0.28	71	-		
3	121	X=44.881	Y=-53.028	円形	0.36	0.30	39	-		
3	122	X=44.880	Y=-53.027	不定形	0.38	0.34	29	N-1°-W		
3	123	X=44.882 ~ 883	Y=-53.029	不定形	0.58	0.50	46	N-20°-E		
3	124	X=44.894	Y=-53.031	橢円形	0.46	0.37	24	N-20°-E	5 壱状	
3	125	X=44.892	Y=-53.029	方形	0.32	0.29	46	-		
3	126	X=44.879	Y=-53.032	橢円形	0.82	(0.55)	63	N-36°-W	P137	
3	127	X=44.887	Y=-53.031 ~ 032	長方形	0.46	0.39	22	N-85°-W		
3	128	X=44.881 ~ 882	Y=-53.028	円形	0.50	0.44	56	-		
3	129	X=44.893 ~ 894	Y=-53.029	橢円形	0.40	0.32	78	N-31°-W	83土	
3	130	X=44.887	Y=-53.029	橢円形	0.60	0.52	42	N-41°-W		

第3章 検出された遺構と遺物

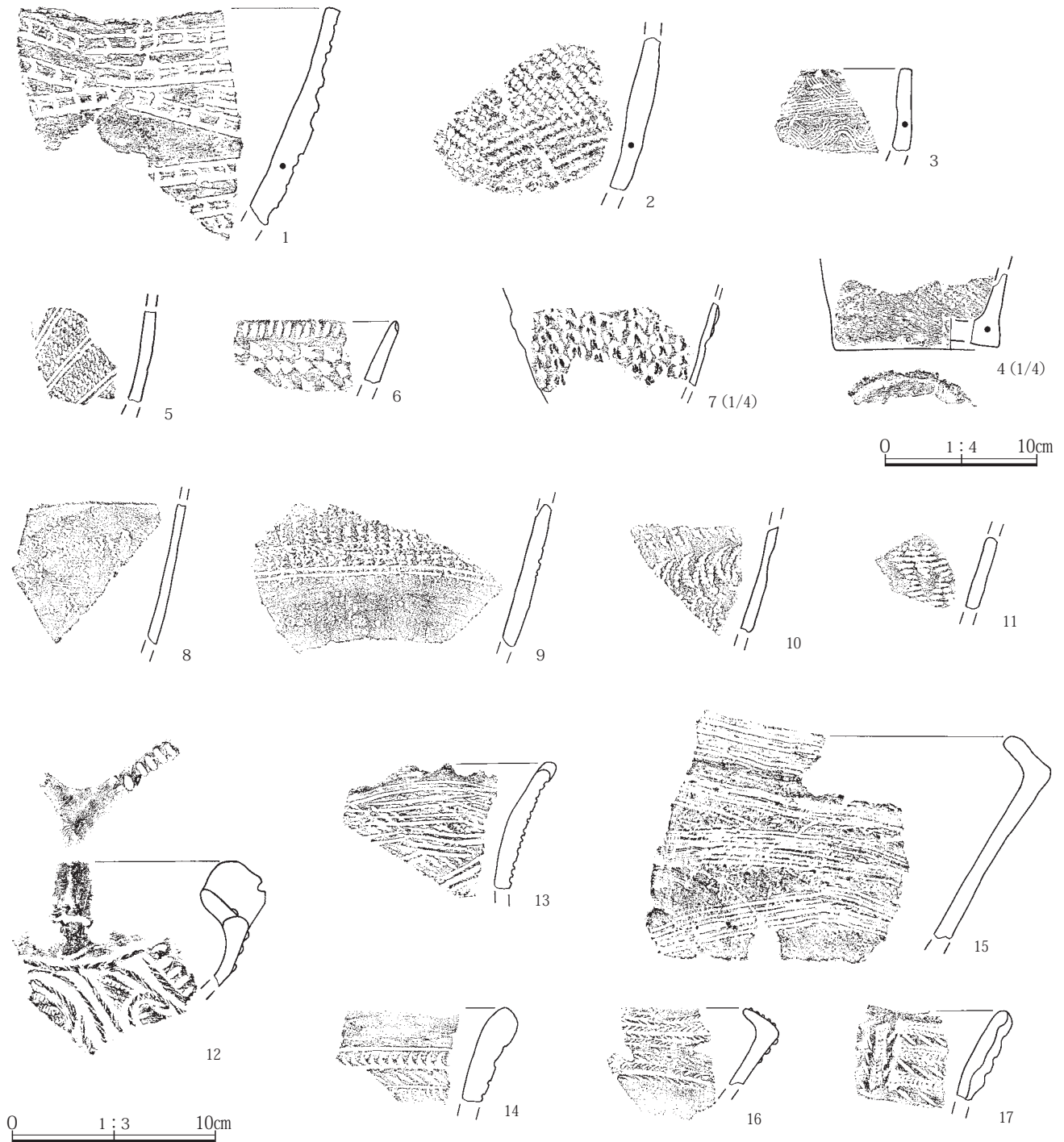
3	131	X=44.880 ~ 881	Y=-53.024	不明	0.40	(0.15)	10	N-75°-W		
3	132	X=44.880 ~ 881	Y=-53.024	楕円形	(0.26)	0.21	30	N-6°-W		
3	133	X=44.878 ~ 879	Y=-53.022	円形	0.36	0.33	16	—		
3	134	X=44.879	Y=-53.023	円形	0.27	0.28	22	—		
3	135	X=44.880 ~ 881	Y=-53.023	不明	(0.56)	(0.30)	50	N-71°-W		
3	136	X=44.880 ~ 881	Y=-53.028	円形	0.32	0.30	42	—		
3	137	X=44.879	Y=-53.031 ~ 032	円形	0.38	0.36	85	—	P 126	
3	138	X=44.881	Y=-53.025	楕円形	0.48	0.38	31	N-40°-E	85土	
3	139	X=44.873 ~ 874	Y=-53.020	楕円形	0.96	0.63	62	N-27°-E		
3	140	X=44.877 ~ 878	Y=-53.025	円形	0.40	0.36	40	—		
3	141	X=44.874	Y=-53.029 ~ 030	楕円形	0.56	0.45	75	N-46°-E		
3	142	X=44.877	Y=-53.030 ~ 031	楕円形	0.55	0.46	45	N-51°-E	15建	縄文
2	143	X=44.833	Y=-53.011	楕円形	(0.21)	0.25	19	N-65°-E	13建	縄文
3	144	X=44.880	Y=-53.029 ~ 030	楕円形	0.50	0.45	59	N-89°-E		15建 P 10 縄文
3	145	X=44.880 ~ 881	Y=-53.029	円形	0.50	0.43	42	—		15建柱穴 縄文
3	146	X=44.877	Y=-53.028	円形	0.37	0.34	60	—		15建 P 2 縄文
3	147	X=44.878	Y=-53.032	不定形	0.52	0.49	57	N-50°-E		15建 P 4 縄文
3	148	X=44.876	Y=-53.030	円形	0.46	0.46	45	—	15建	
2	149	X=44.843	Y=-53.011	円形	0.29	0.24	11	—		縄文
2	150	X=44.844	Y=-53.011	円形	0.31	0.26	11	—		縄文
3	151	X=44.879	Y=-53.031	円形	0.39	0.38	47	—		15建 P 5 縄文
2	152	X=44.838 ~ 839	Y=-53.015	円形	0.30	0.30	35	—		縄文
2	153	X=44.837	Y=-53.011 ~ 012	円形	0.23	0.21	30	—		縄文
2	154	X=44.831	Y=-53.014	円形	0.23	0.22	31	—		縄文
2	155	X=44.830	Y=-53.014	円形	0.21	0.20	28	—		縄文
2	156	X=44.848	Y=-53.014	円形	0.53	0.48	22	—		縄文

縄文土器遺構外出土(第107～121図、PL.46～54)

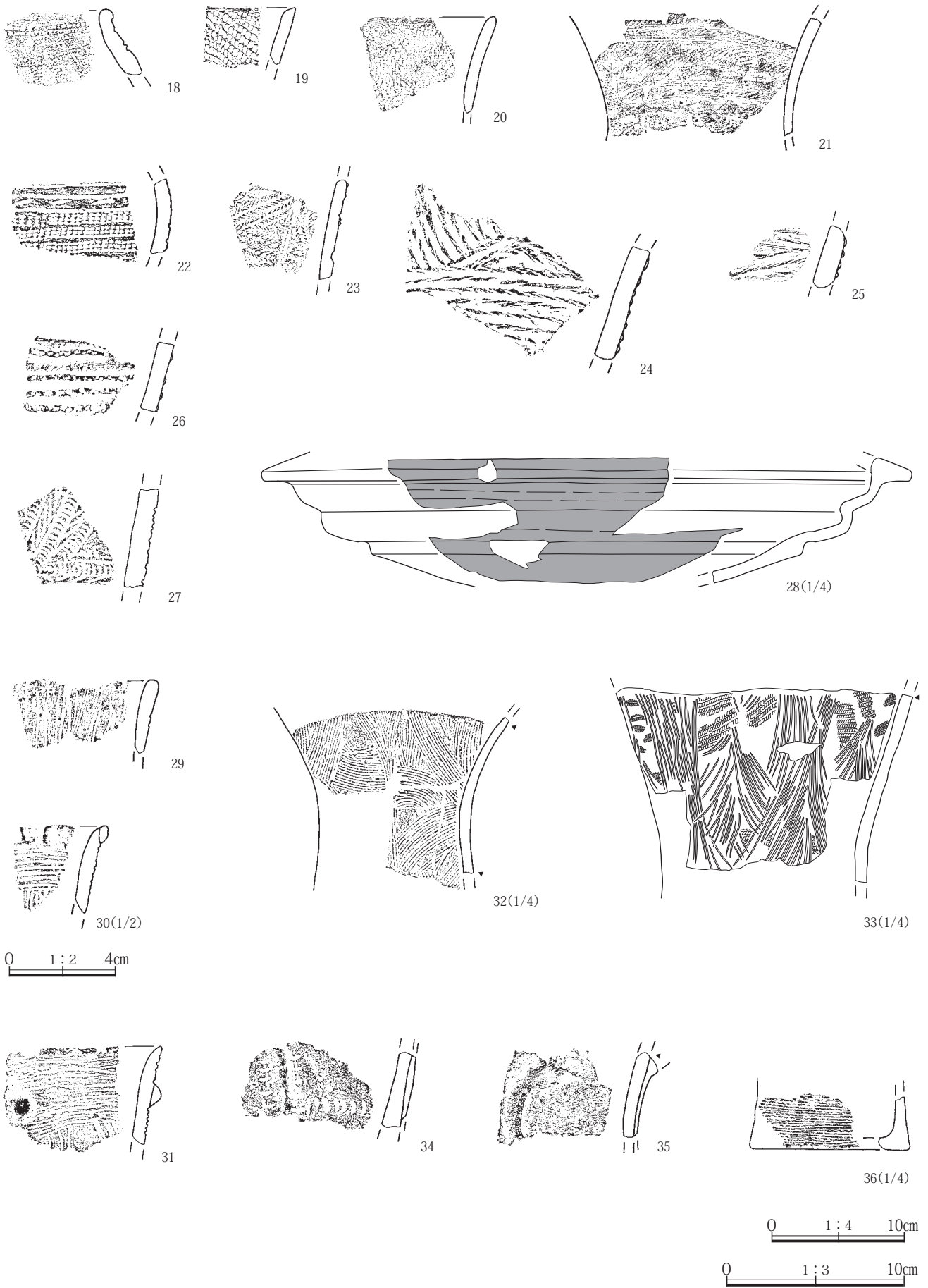
遺構外出土土器は前期から後期まで継続して出土している。時期は有尾式、黒浜式、諸磯a式、浮島式から後期高井東式段階の土器型式が出土している。

前畑J遺跡では前期の諸磯b式期が主体で中期から後期に型式が継続し、後期は加曾利E式期を主体としている。

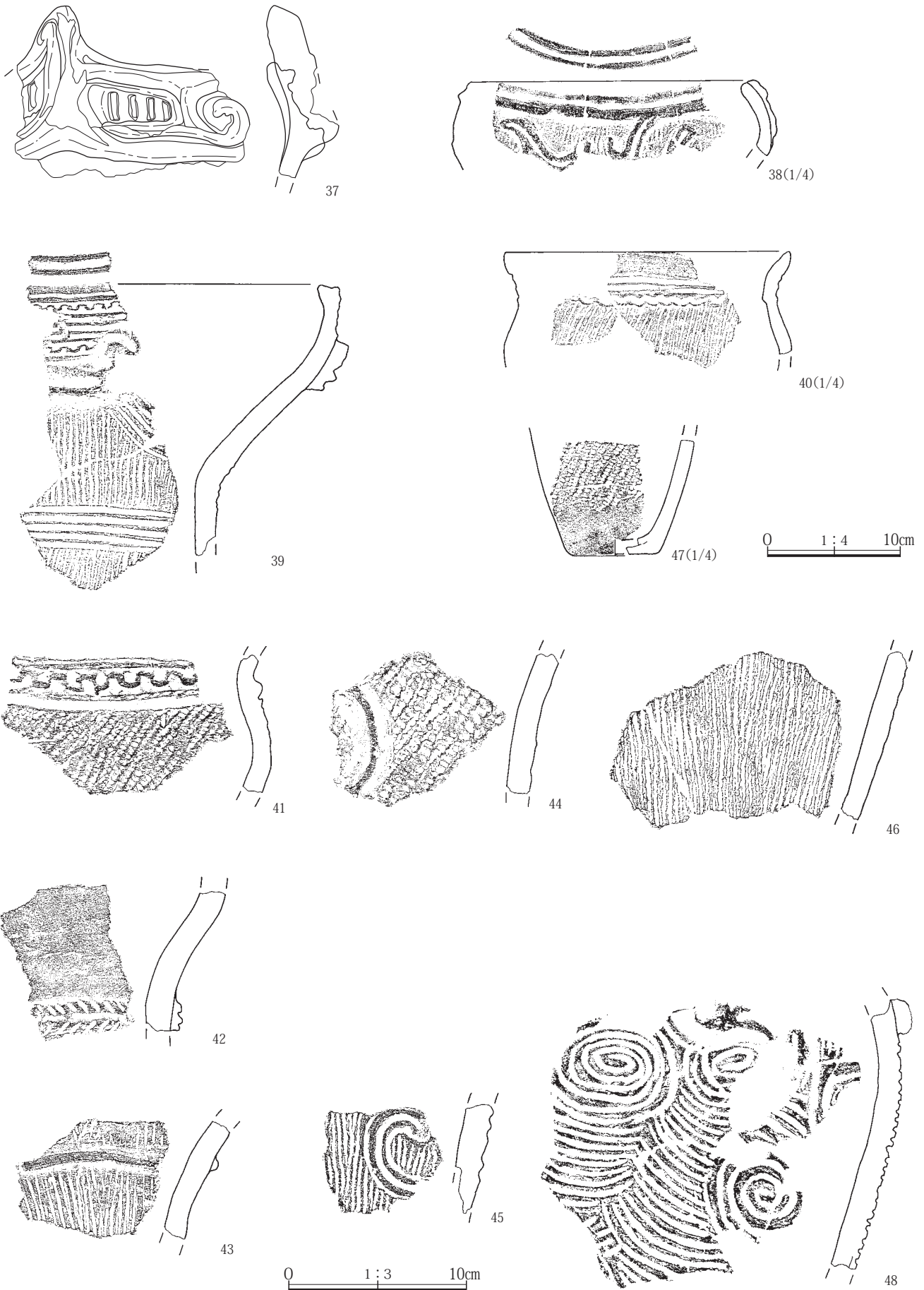
1区



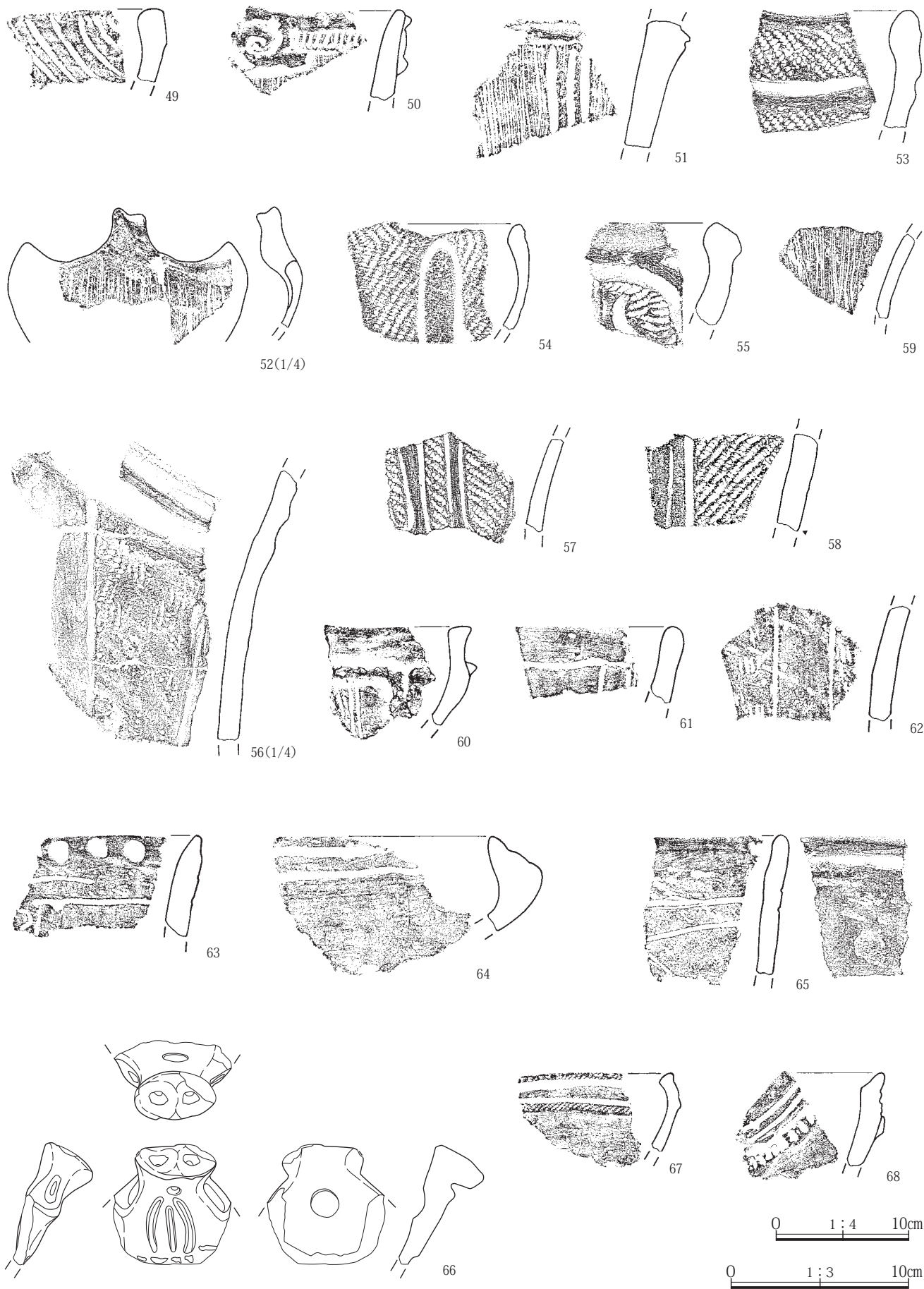
第107図 縄文遺構外出土遺物(1)



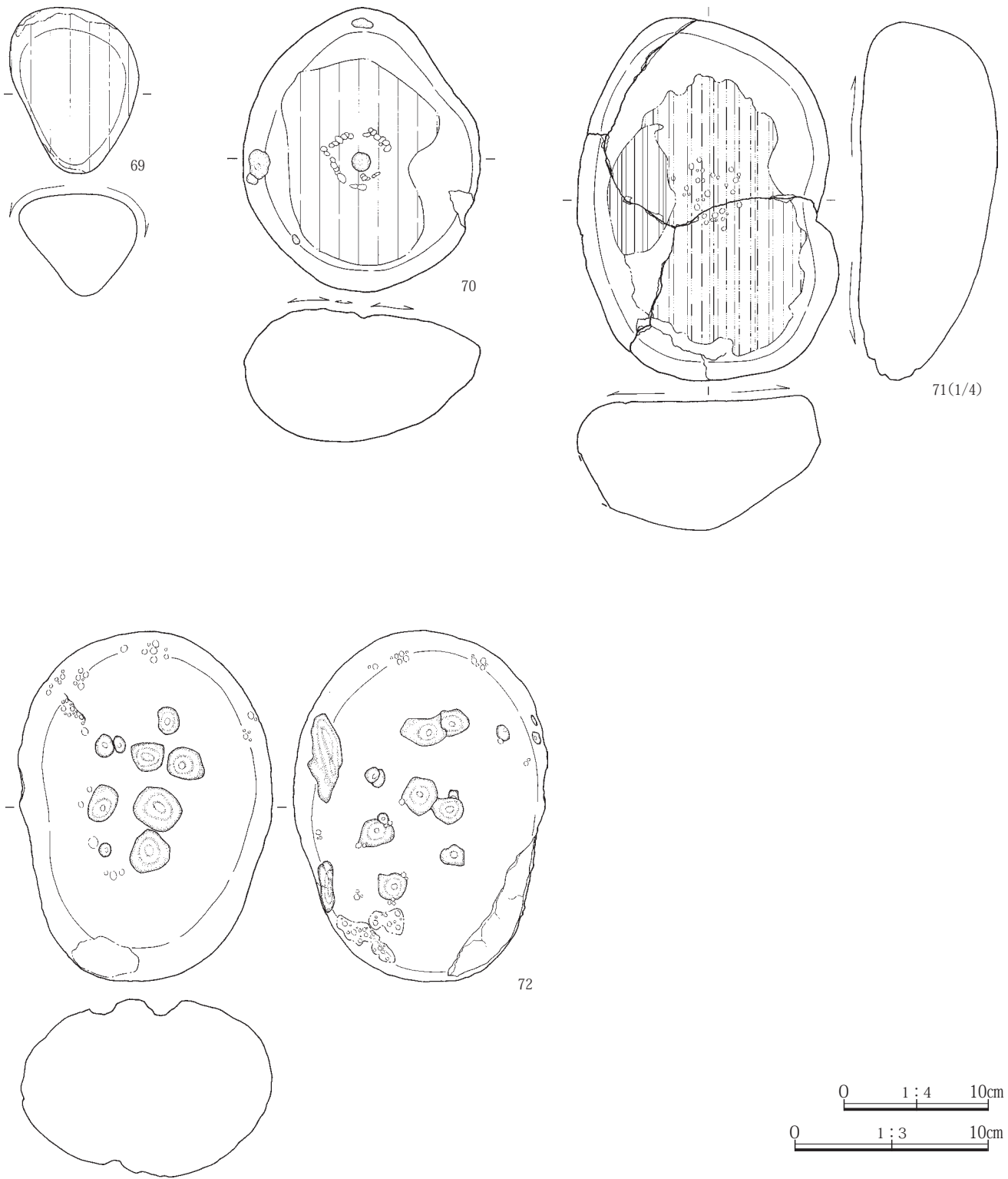
第108図 縄文遺構外出土遺物(2)



第109図 縄文遺構外出土遺物(3)



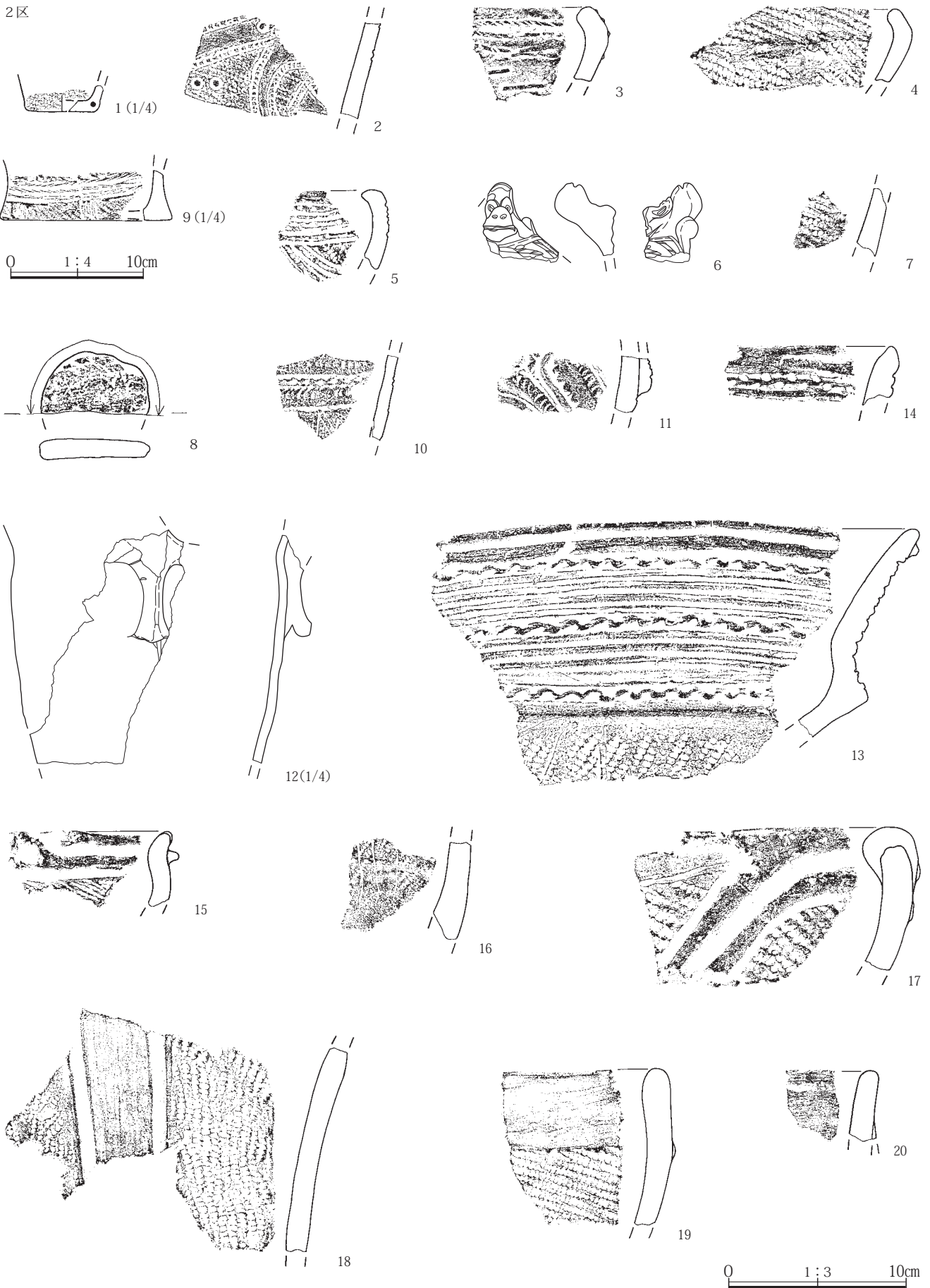
第110図 縄文遺構外出土遺物(4)



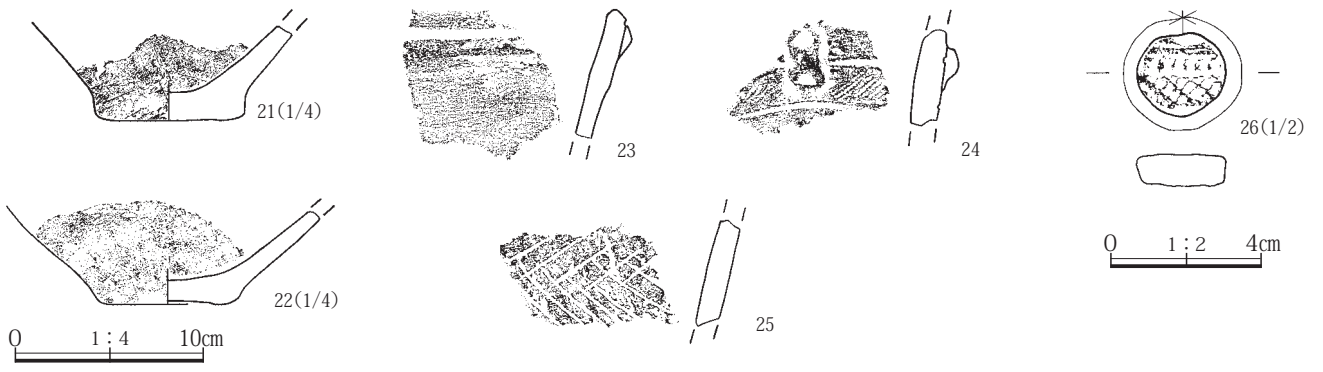
第111図 縄文遺構外出土遺物(5)

第3章 検出された遺構と遺物

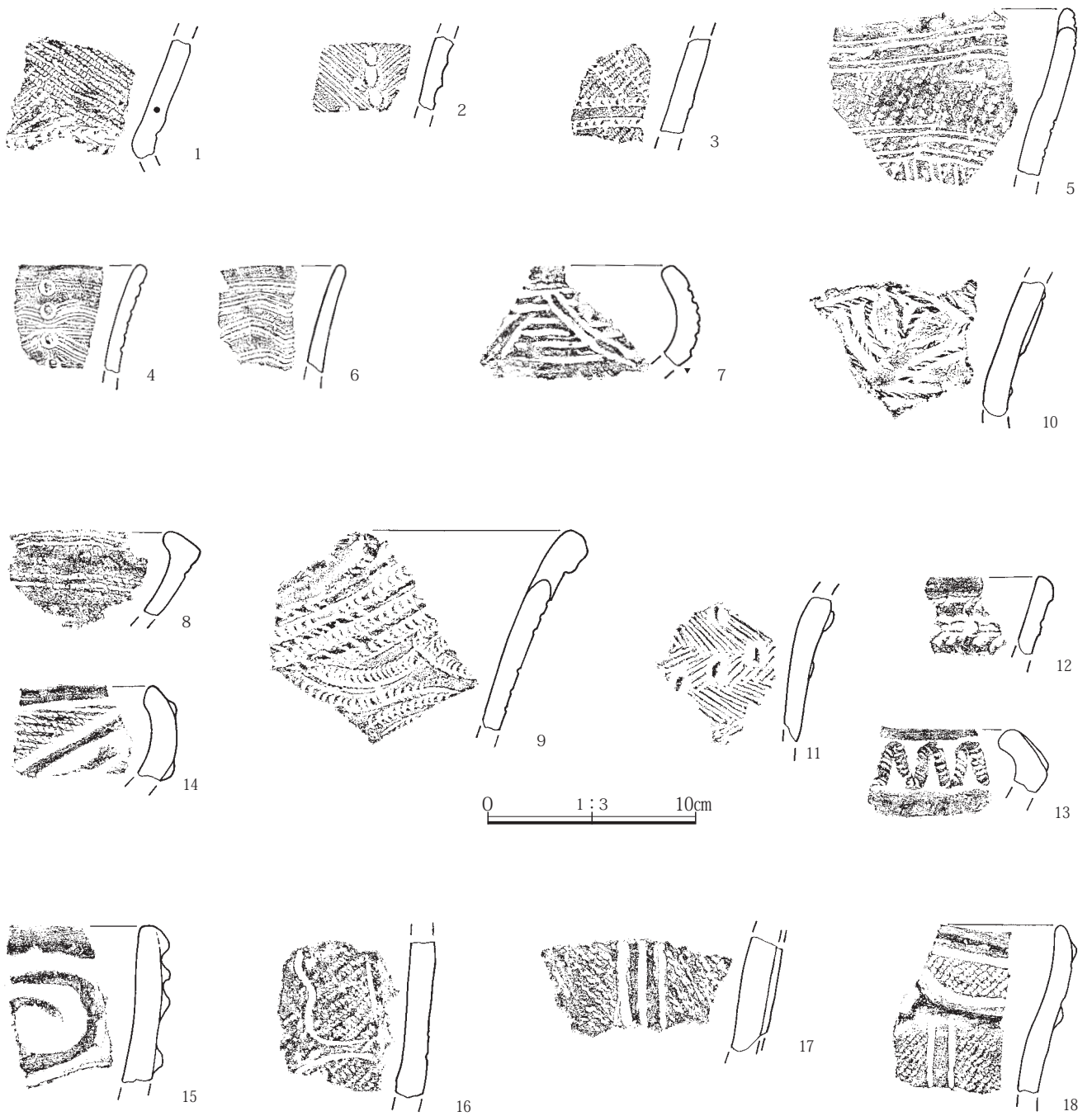
2区



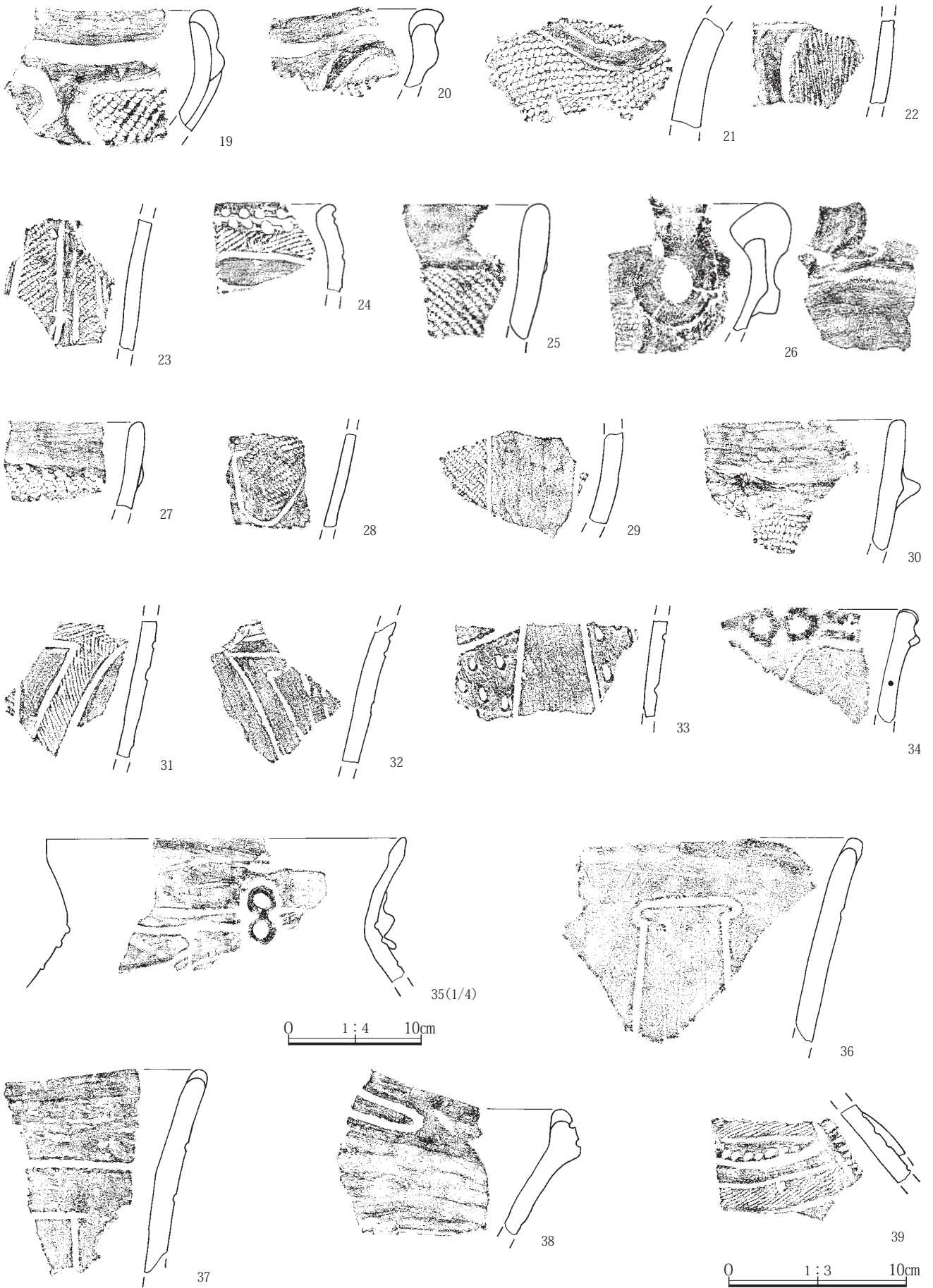
第112図 縄文遺構外出土遺物(6)



3区



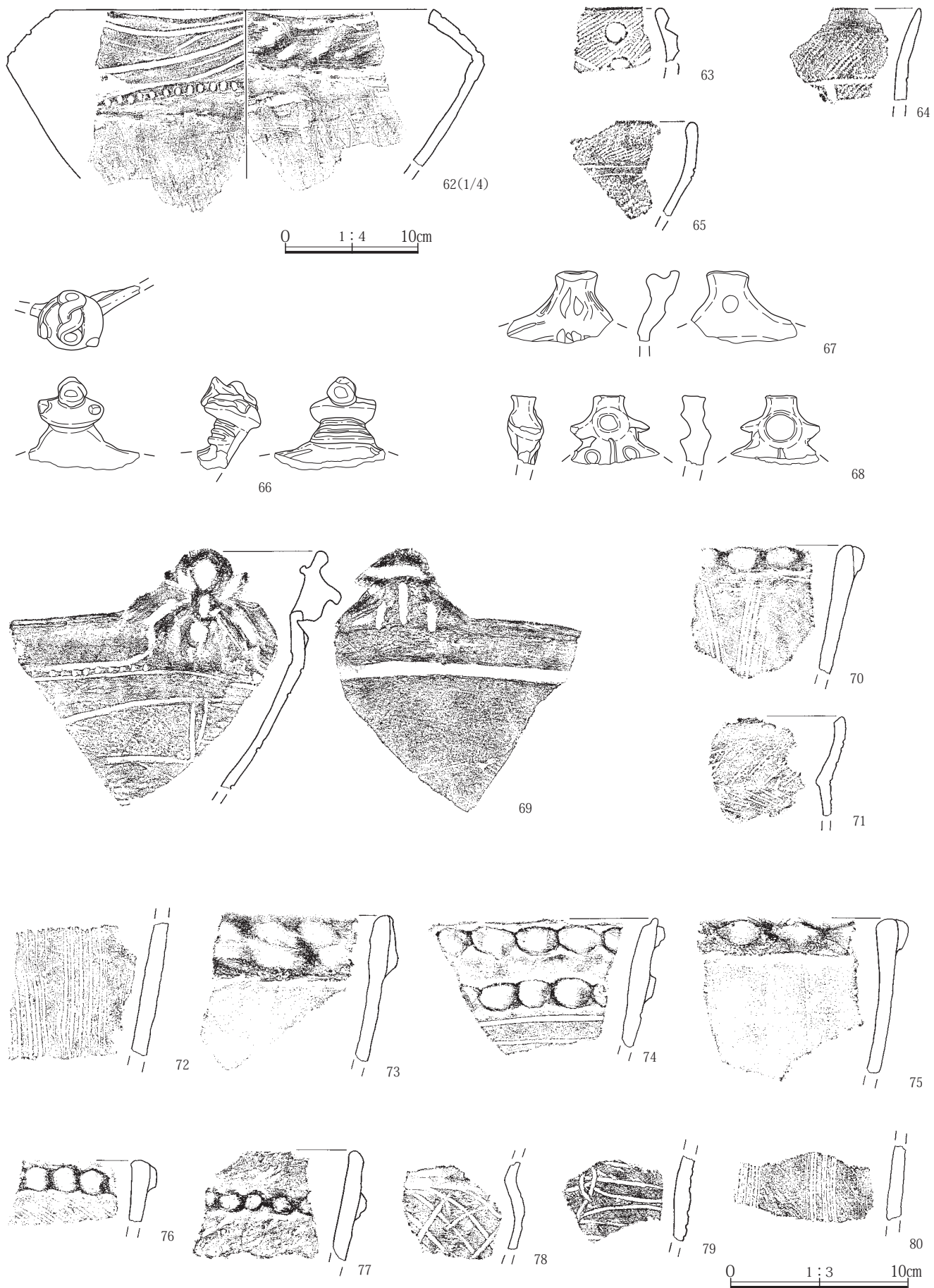
第113図 縄文遺構外出土遺物(7)



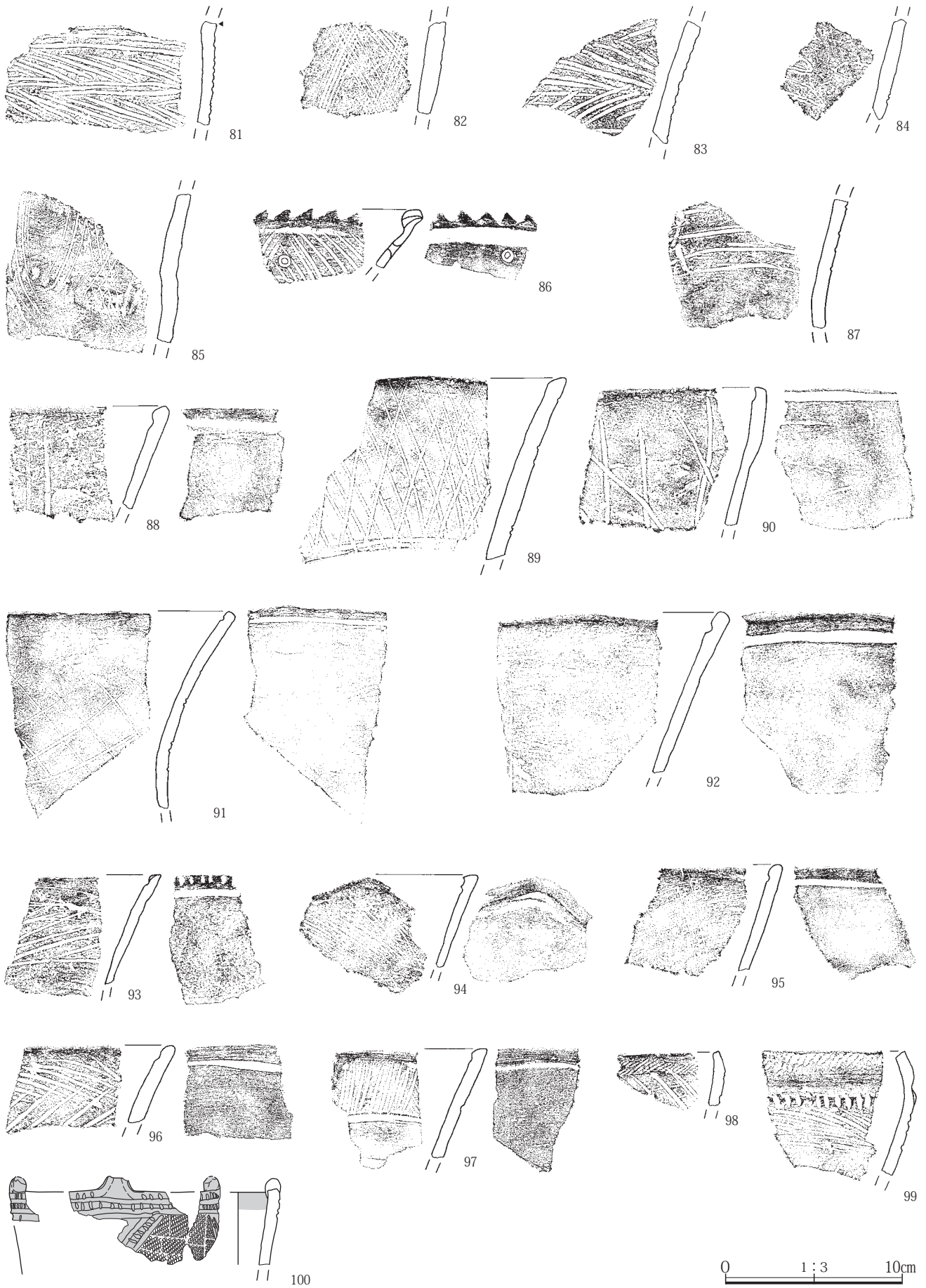
第114図 縄文遺構外出土遺物(8)



第115図 縄文遺構外出土遺物(9)



第116図 縄文遺構外出土遺物(10)



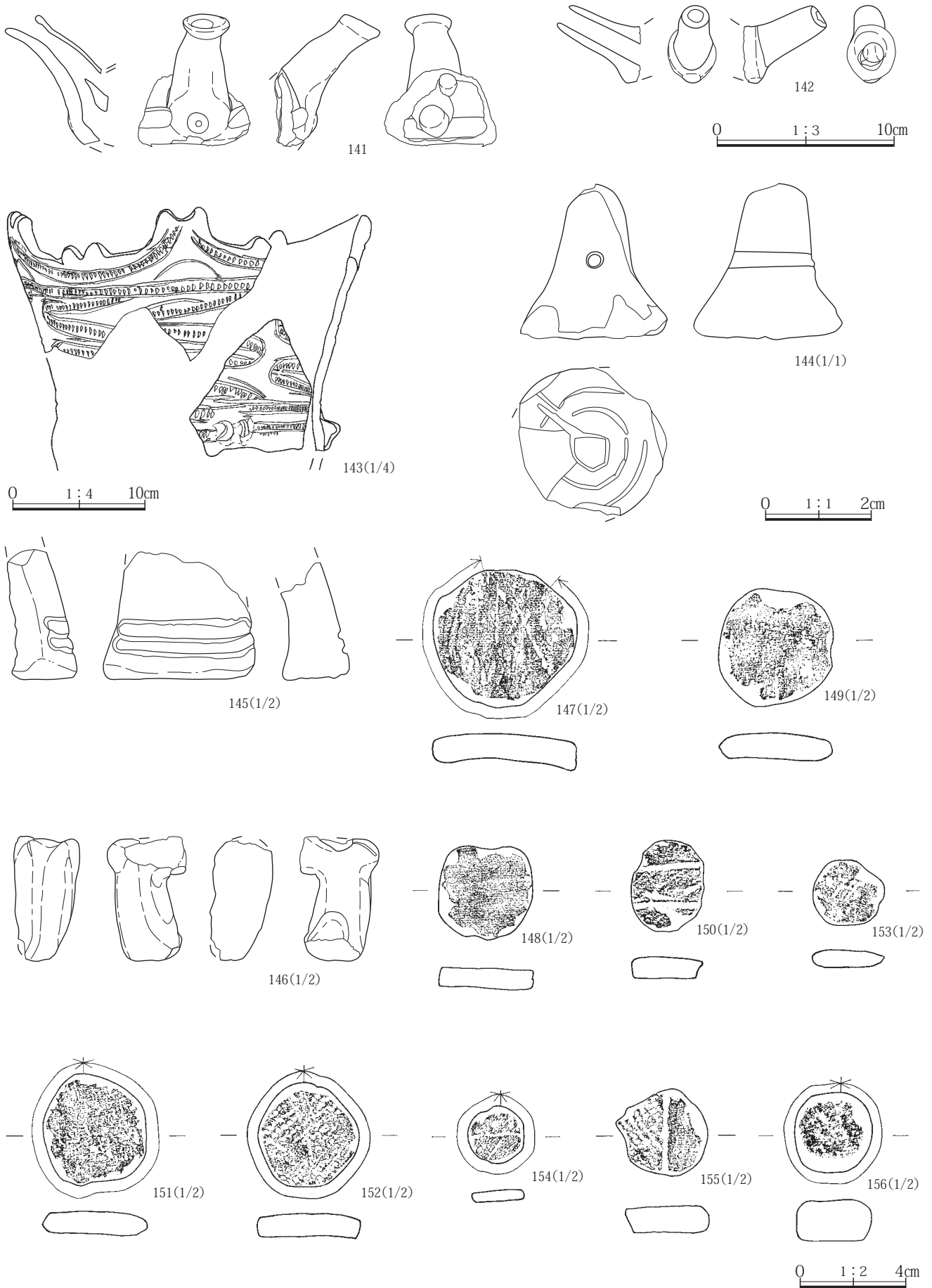
第117図 縄文遺構外出土遺物(11)



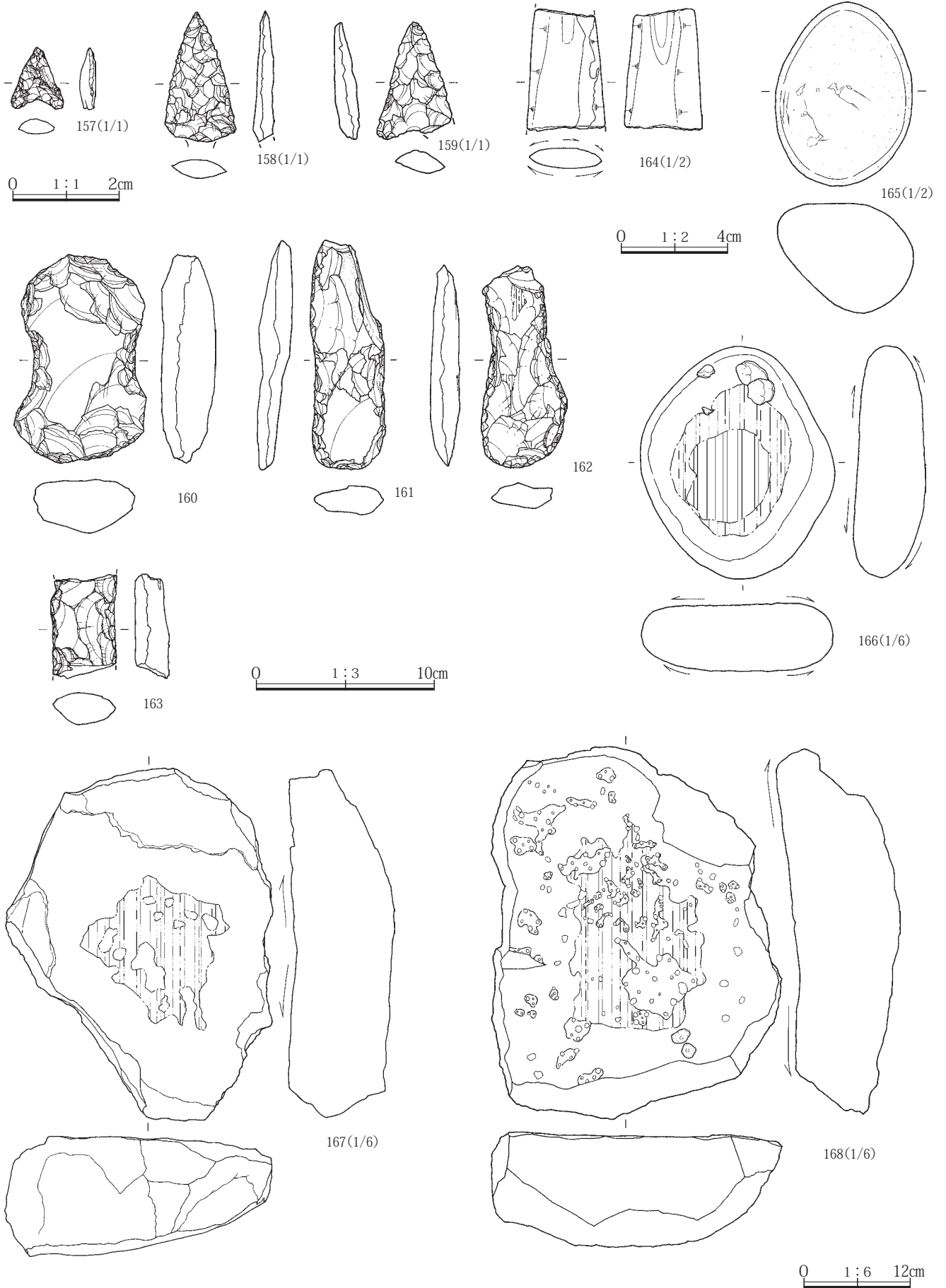
第118図 縄文遺構外出土遺物(12)



第119図 縄文遺構外出土遺物(13)

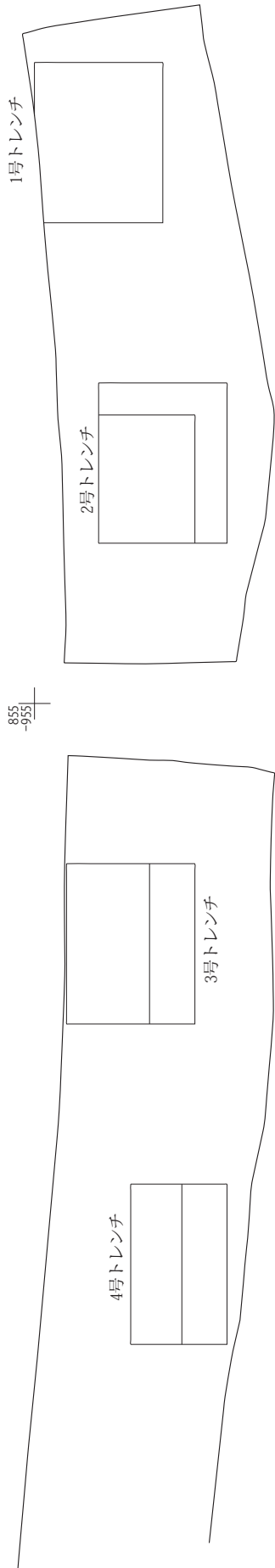


第120図 縄文遺構外出土遺物(14)



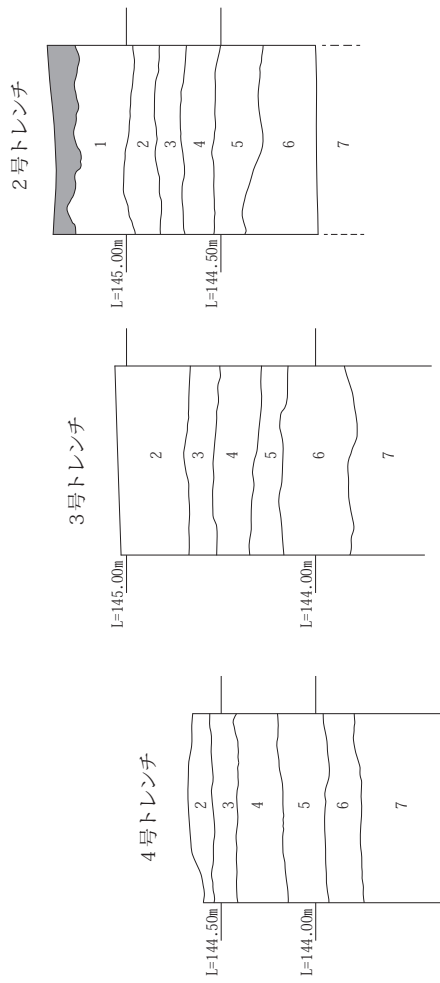
第121図 縄文遺構外出土遺物(15)

1区旧石器試掘トレンチ



845
-970

845
-940



2号トレンチ

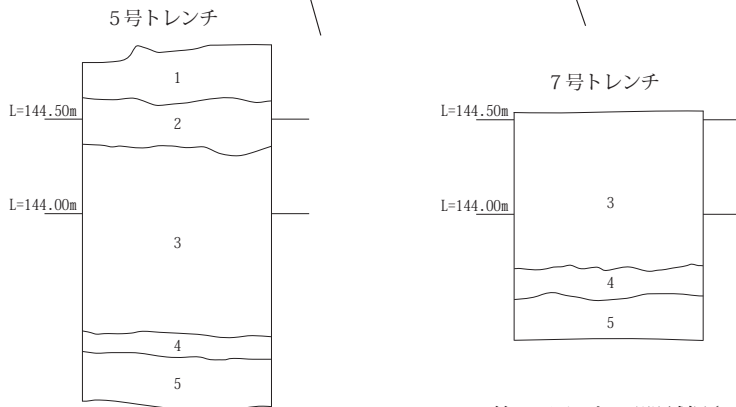
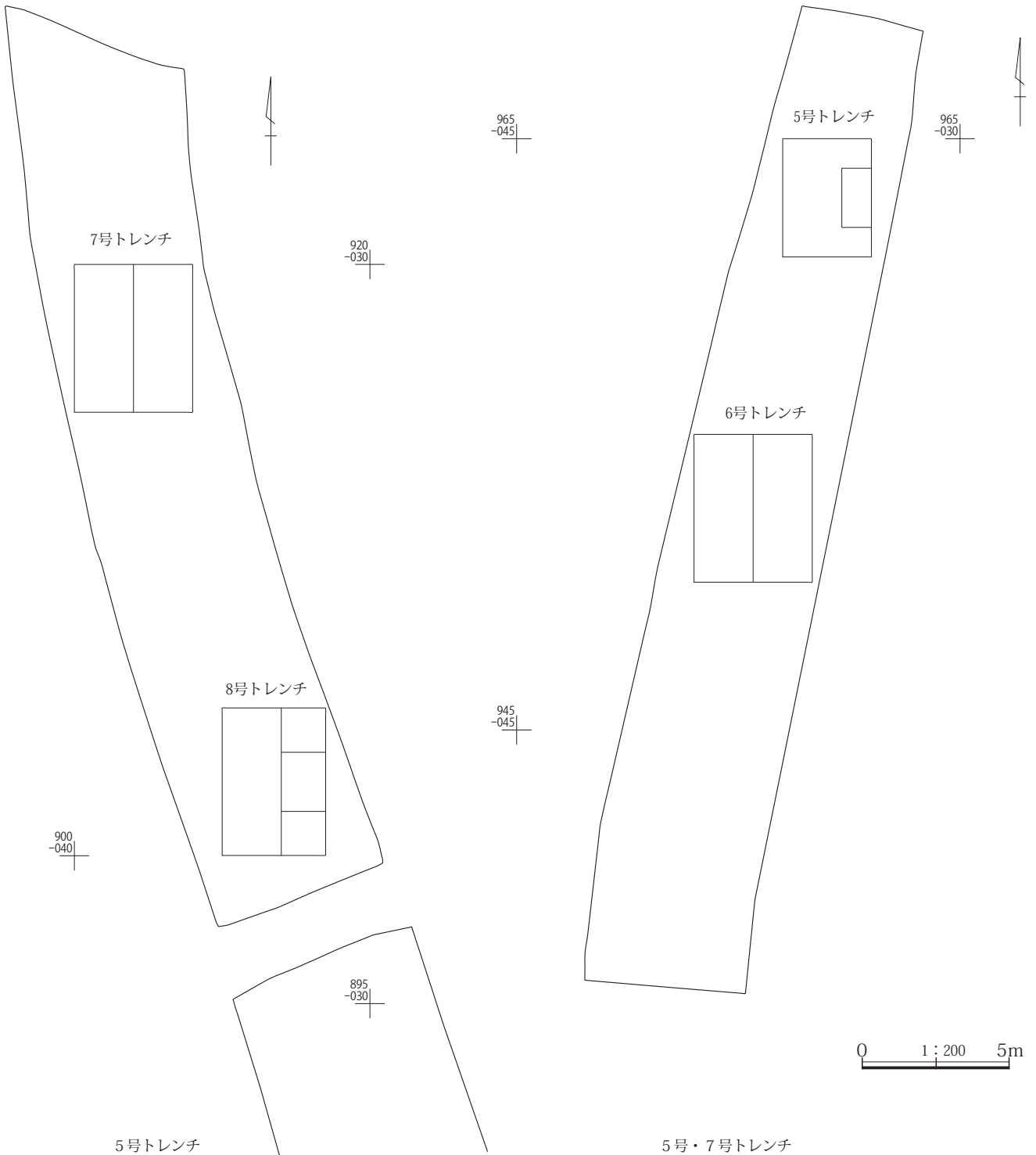
- 1 明褐色土(10YR7/6) YPを比較的多量含む。
- 2 明褐色土(10YR7/6) YPを少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR7/3) BPを多量含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3)
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/3)
- 6 暗褐色土(10YR3/3)
- 7 にぶい黄褐色土(10YR7/3)

3号・4号トレンチ

- 2 明褐色土(10YR7/6) YPを少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR7/3) BPを多量含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3)
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/3)
- 6 暗褐色土(10YR3/3)
- 7 にぶい黄褐色土(10YR7/3)

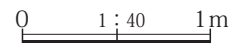
0 1:40 1m

第122図 旧石器試掘(1)



5号・7号トレンチ

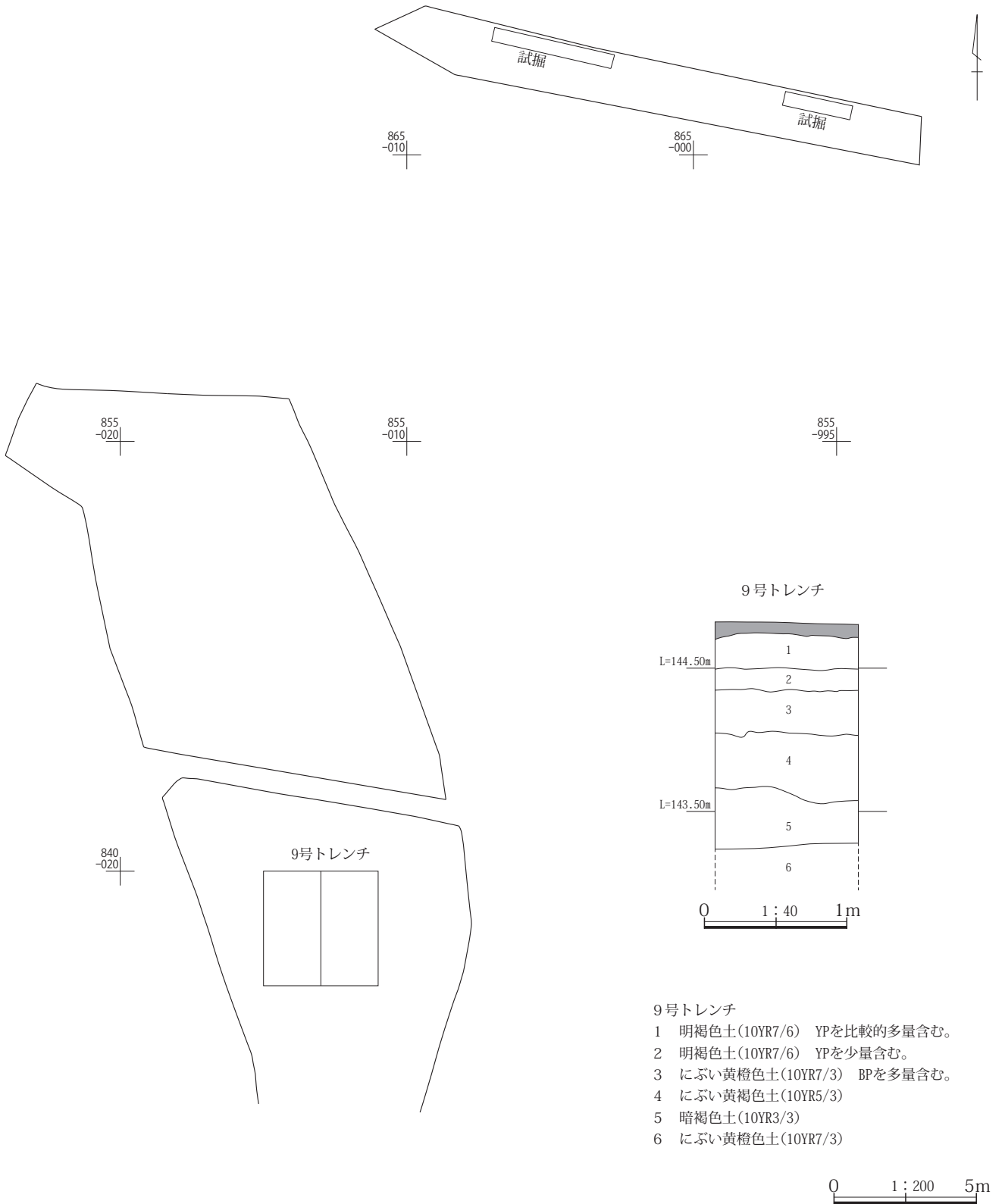
- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3)
- 2 暗褐色土(10YR3/3)
- 3 にぶい黄橙色土(10YR7/3)
- 4 八崎軽石層 明黄褐色軽石(φ 6~10mm)
- 5 八崎軽石層 灰白色軽石(φ 3~7mm)



第123図 旧石器試掘(2)

第3章 検出された遺構と遺物

2区旧石器試掘トレンチ



第124図 旧石器試掘(3)

第4章 まとめ

前畑J遺跡は桐生市新里町野に所在し、大間々扇状地系の西端に位置し、標高は145m前後、赤城山の南麓尾根上にある。遺跡の西側を鐺木川が南流し、桐生市内で粕川と合流する。

今回の前畑J遺跡では縄文時代～江戸時代までの遺構、遺物が確認された。周辺には多くの縄文時代の集落・古墳群や古墳時代以降の遺跡が分布している。遺構・遺物は縄文時代に集中し、前期から後期にかけ遺構や時期の濃い薄いはあるが継続する縄文集落遺跡である。

前畑J遺跡では縄文時代前期・中期の竪穴建物7棟、多くの土坑が確認されている。土坑は番号を振ったものが107基このうち縄文時代のものは85基が確認されている。竪穴建物、土坑の時期は前期諸磯b式期、中期加曾利E 1～2式期を中心に出土が確認されている。さらに前期・中期は竪穴建物、竪穴状遺構が確認され、85基の土坑が検出されている。前畑J遺跡を取り巻くように前畑D・F遺跡、更に西にある峯岸山遺跡、峯岸山古墳群遺跡でも縄文土器の出土が確認されている。赤城南麓周辺は縄文時代前期に集落が展開し、量は少ないが、黒浜期、諸磯a期に展開を始めることが遺物の出土から確認された。前畑J遺跡も同様に前期の主体は諸磯b期が主体となる。前畑J遺跡周辺には東西に同じ標高線上に縄文時代の遺跡が広く分布していることがわかる。桐生市内に確認される縄文時代の遺跡は耳飾りで有名な千網谷戸遺跡がある。千網谷戸遺跡は縄文時代後・晩期を中心とする遺跡であるが、その後も弥生時代、古墳時代と長期間継続する遺跡としてもよく知られている。大間々扇状地地形が当時の人々の生活条件に適していたことが伺える。千網谷戸遺跡が縄文晩期から弥生時代まで続くことから広大な大間々扇状地が山麓の森林、河川の流れなど生活する豊富な食料確保の条件がそろっていたと考えられる。前畑J遺跡が所在する新里町は、この大間々扇状地の西端に位置し、赤城山南麓に位置する。丘陵は南北に延び、尾根と尾根の間には谷が走る。谷を流路が流れ、人間の居住空間に適し、動物や植生には極めて良好な場所であると考えられる。今回調査した前畑

J遺跡は極めて狭い空間の調査であったが、縄文時代前期から後期に継続する土器型式が確認でき、赤城山麓の地形の中で豊かな縄文社会の存在を彷彿とさせる。前期は諸磯b式期が主となり、中期から後期に続く型式が多量に確認されている。このため前期末から中期前葉の土器型式は薄くなるが、前期から後期まで長期間、土器型式からみると集団社会が継続していたことを物語っている。今回の前畑J遺跡では前期は有尾式土器、黒浜式土器、諸磯式土器、浮島式土器が出土し、黒浜式土器と有尾式土器は少量の出土で、圧倒的量で諸磯式b式土器が出土している。前期の竪穴建物は、7・8・13・14・15号竪穴建物が確認され、特に14号竪穴建物から多量の諸磯b式土器が出土した。中期は9・14号竪穴建物から加曾利E 1式土器が集中して出土したが、後期の竪穴建物は確認できなかった。土坑等から加曾利E 1段階から高井東式土器までが出土し、主体は堀之内1段階と加曾利B 2式土器である。後期は加曾利E 5式土器から高井東式土器までの型式が時間を継続して出土している。3区土坑からは中期、加曾利E 3式土器が多く、後期になると堀之内1式土器、加曾利B 2式土器が確認されている。このように前期から後期に及ぶ遺物の出土から、長期にわたる集団の活動をとらえることができる。後期の竪穴建物が確認されないが、その間は集落の立地をやや移動した可能性が考えられる。土坑、ピットに加え遺構外の土器片を加え検討すると、中期の勝坂式土器段階から高井東式土器段階まで濃い、薄いはあるが、土器型式が継続していることがわかる。

近年では縄文時代に、集団社会が構成されるという研究も多く発表され、集団社会の発展が指摘されている。それは集団内に存在する不平等性がすでに存在することが指摘されている。つまり大形の石を配した配石遺構や大型竪穴建物跡等の集落内での不平等さが指摘されている。集落には真ん中に広場を持ち、そこを囲むように重複する竪穴建物から地縁集団、墓の大小、墓域の有り様等から集団の構成や構造を感じ取れることも指摘されている。前畑J遺跡では調査面積の狭小さから、そのよう

な遺構の差異を指摘できるものは少なかった。そういった社会背景を感じさせる遺構は狭小な遺跡範囲では確認できなかった。しかし大間々扇状地を俯瞰すれば、周辺の遺跡群で、例えば千網谷戸遺跡では縄文時代後晩期から弥生時代へと変遷していることが見て取れる。縄文時代と弥生時代社会の成長は時代を経ても、継続していることがわかる。縄文時代社会から弥生時代社会に変換する足がかりが、ある程度進んでいたと考えられる。

前畑J遺跡では弥生時代の遺構遺物は確認されていない。古墳時代は前期から後期にかけての、竪穴建物が確認されている。前畑J遺跡での前期の竪穴建物は12号竪穴建物1棟で、出土遺物は東海系S字状口縁台付甕、南関東系単口縁台付甕、など、外来系土器や在地の甕・壺形土器が混在して出土している。在地の土器の中には無文化した樽式土器遺物番号4が含まれている。さらに同竪穴建物遺物番号5の壺、10・11の甕も樽式土器の要素を含んでいる。このような出土例は弥生土器から土師器へ変換する時期の特徴で、県内では弥生時代から古墳時代へと変換する時期に頻繁に認められる典型的な共伴状況とみることができる。大間々扇状地のⅡ面東端は現在の桐生市、太田市、みどり市があり、太田市内には前期古墳朝子塚古墳があり、石田川遺跡、高林遺跡等の集落が存在する。石田川遺跡と高林遺跡でも古墳時代東海系S字状口縁台付甕、南関東系単口縁台付甕、北陸系土器等の土器が共伴しながら古墳時代へのステージを通過している。県内では半世紀以上も前から、群馬県の古墳文化を構築したのは東海西部からの入植民であるとの説が根深く残っている。12号竪穴建物が存在した時代背景は『魏志倭人伝』によれば弥生時代から古墳時代の変換時、卑弥呼が亡くなって倭国は「相誅殺」するときである。戦乱の最中、東海西部から400km離れた群馬県に入植があったとは在りえない無謀な仮説である。前畑J遺跡12号竪穴建物は群馬県の弥生土器樽式土器が、古墳時代土師器と共伴し、土師器化していく過程にある。さらに大間々扇状地西端にある前畑J遺跡と太田市にある石田川遺跡、高林遺跡等群馬県域大間々扇状地内に一気に入植民が散らばっていることは入植民ではなく、在地の弥生時代からの社会が成長した結果であることを示している。群馬県の弥生文化を持った弥生人が、群馬の古墳文化を創造したのは間違いのないのだ。当然縄文時代から弥生時

代への社会も縄文時代から発展した集団社会の発展と理解できる。古墳時代になると周囲に多くの古墳群が出現し、中期・後期にかけての古墳群が分布する。前畑J遺跡では古墳時代前期は12号竪穴建物1棟にすぎないが、西に隣接する武井峯岸V遺跡では、前期の方形周溝墓が確認されている。前期の集落遺跡が周辺に分布していたことが考えられる。それでは前畑J遺跡の縄文集団から古墳時代へ結ぶ弥生時代の遺跡は、前畑F遺跡、峰岸山V遺跡、峰岸山古墳等で赤城南麓に分布する弥生時代後期の赤井戸式土器を確認することが出来る。さらに西に接する前橋市(旧粕川村)には弥生時代中期から後期、古墳時代前期に続く西迎遺跡が確認されるなど前畑J遺跡の12号竪穴建物を前後する時代の遺跡が西側に分布していることがわかる。その分布状況は縄文時代と様相が似て、赤城山麓の似通った標高上から下に広がることが確認される。伊勢崎波志江地区にも弥生時代末から古墳時代前期の集落が展開し、波志江中野面遺跡等多くの弥生時代末から古墳時代前期の集落が存在している。さらに前畑J遺跡の西、前橋市東部荒砥地域には荒子遺跡・堤頭遺跡等の弥生時代中～後期の遺跡群が展開する。弥生時代中期後葉から古墳時代前期は水田農耕の開始とともに可耕地の確保に伴い水の確保を伴う川筋を下り平野部に展開すると考えることが出来る。前畑J遺跡西を流下する鑄木川はやがて粕川に合流し、南下し伊勢崎市に入ると川筋には多くの古墳群を構成していく。伊勢崎波志江地区にも古墳時代前期の集落が展開し、波志江中野面遺跡等多くの弥生時代末から古墳時代前期の集落が存在している。

粕川の川筋は南に下ると伊勢崎市につながり、伊勢崎市北部の関古墳群あるいは本関町古墳群へとつながっていく。特に5世紀代のお富士山古墳の石棺は長持型石棺で太田市太田天神山古墳同様畿内勢力との関係があったことが広く知られている。お富士山古墳は粕川の端、平野部に存在する。前畑J遺跡の西を南流する鑄木川はやがて粕川と合流する。5世紀代に入ると平野部全体を広く覆う地域を抑える人間が出現すると考えられる。粕川の流れの端に立地するお富士山古墳が伊勢崎市北部粕川の流れを抑える立地を示すことから広い流域の集団の首長と考えることができる。このように川筋を下り前畑J遺跡の次代になると古墳時代中期・後期にはその分布は

大きく平坦地である南の平野部に広がっていく。南部の低地部に広がる平野部は水田可耕地としてお富士山古墳の被葬者を中心とする諸集団がまとまって開拓展開したものと考えられる。大間々扇状地の西端に立地する前畑J遺跡は縄文から古墳時代前期の遺構が確認されている。弥生時代から古墳時代にかけて赤城山南麓の尾根つたいから平野低地部に広がる穀倉地帯に広がるものである。

水稻耕作が群馬県に限らず、関東地方全域に展開するのは弥生時代中期後半にあることが近年の発掘調査資料によってわかってきている。前橋市西迎遺跡や同市内荒砥川周辺の荒子遺跡、伊勢崎市波志江地区の集落遺跡等まず低地内微高地に散見される弥生時代中期から古墳時代前期の集落は農耕地を南に拡大していく。古墳時代中・後期はさらに集団を再編し、広大な農地開拓の開発が進んだ結果である。大きな集団はやがて5世紀代には畿内大和王権との関係を構築していた。大間々扇状地は穀倉地帯として機能を果たしていく。やがて穀倉地帯は、中近世になると前畑J遺跡1号溝出土遺物のような江戸時代の陶磁器が出土している。1号溝からは羽口、板碑が出土するなど、食料生産地の周辺には他の専業集団がいたことを示している。大間々扇状地の西端に位置する前畑J遺跡の端緒は縄文時代前期にあり、中期から後期まで縄文時代は継続する。また同じ桐生市内には晩期の千網谷戸遺跡は後・晩期に始まり弥生時代、古墳時代へと継続する集落である。大間々扇状地形が長期にわたり、豊富な水量を供給していたことが確認できる。

今回の前畑J遺跡の調査は縄文前期～後期、古墳時代、江戸時代への流れを示している。中近世の遺構・遺物は少量ではあるが、広い範囲の中での時代の推移と発展の痕跡が認めることができた。

また縄文時代竪穴建物は前期諸磯b式が主である。土坑も同様中期諸磯式土器が主であるが、土坑出土遺物には中期の土器や、後期加曾利E1式期から高井東式期に至るものも確認されるなど、長い時間を経過した拠点的な集落遺跡であるといえる。また遺構外とされる土器も多量に確認され、諸磯b式段階から高井東式段階へと長期にわたり濃い薄いはあるものの時間を経過していることがわかる。これらはローム台地上の縄文黒色土層の出土である。遺構掘削時の注意も必要である。1区1号遺

物集中の位置は9号竪穴建物の上面にあり、一部竪穴建物出土遺物と接合した。1区屋外炉、3区屋外炉を竪穴建物の炉であるとの可能性は否定できない。2区屋外炉は58土坑との重複で、58号土坑内に炉が作られていた。新旧関係は58土坑が古い。屋外炉とされた屋外炉周辺から諸磯b式土器が出土し、屋外炉は竪穴建物の炉の可能性が高い。遺構写真や調査方法の問題も含め、今後の縄文包含層の調査に生かすべきだと考える。これらのことは我々発掘調査担当者として常に肝に銘ずべきことと考える。群馬県古墳時代・文化は長い間東海地方西部の入植民によって構築された説が半世紀以上続いている。古墳時代に入ると桐生市、太田市、一部伊勢崎市を含む大間々扇状地は幾条にも及ぶ河川が集まる穀倉地帯として確立していく。今回の前畑J遺跡12号竪穴建物は古墳時代前期でも樽式土器の伝統を色濃く持つ土器が外来系S字状口縁台付甕、南関東系単口縁台付甕等と共伴関係を示している。群馬県の在来系土器をもつ人々は古墳時代前期、初頭の段階にすでに外来系土器を所有していたことが確認された。前畑J遺跡12号竪穴建物から出土した土器は石田川遺跡、高林遺跡の土器よりも古い様相を示している。こう言った状況は高崎市井野川流域、前橋市荒砥地域、いわば県内全域にみることができ、群馬県古墳王国は樽式土器を母体とした群馬県在来の社会が発展したものである。

旧石器は微高地の1区に試掘を入れたが、ローム上面は圃場整備により掘削を受けており、一部では暗色帯まで削られていた。遺物の出土は確認できなかった。

遺物観察表

第4表 遺物観察表

1号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第6図	1	土師器 甕	覆土 頸部片				細砂・粗砂/良好/ 橙	内面はナデ。頸部外面はヨコナデ。体部外面はナデ。ヨコナデを水平にすると内傾する。	

2号竪穴建物

第8図 PL.22	1	土師器 甕	覆土 2/3	口 底	16.2 3.6	高 28.4	細砂・粗砂/良好/ にぶい橙	体部内外面整形の後、口縁部ヨコナデ。体部外面はハケ目状の縦位ヘラナデ。内面はナデ。体部中位以下の器表は黒味を帯び、下位の器面は荒れる。	
--------------	---	----------	-----------	--------	-------------	-----------	-------------------	---	--

3号竪穴建物

第10図	1	土師器 杯	覆土 口縁部～体部中 位1/6	口	14.3		細砂・粗砂/良好/ にぶい黄褐	口縁部はヨコナデで外反。底部内面はナデ。底部外面はヘラケズリ。	
第10図	2	土師器 杯	覆土 口縁部～底部片	口 高	10.9 3.5		細砂/良好/にぶい 黄橙	底部は平底気味で口縁部はやや高い。底部内面周縁から口縁部はヨコナデ。底部内面はナデ。底部外面はヘラケズリ。	
第10図 PL.22	3	土師器 杯	覆土 3/4	高	12.1 4.4		細砂・粗砂少量/ 良好/にぶい橙	口縁部の立ち上がりは長めで、底部は浅く平底気味。口縁部外面中位は肥庄。内面周縁から口縁部外面はヨコナデ。底部内面はナデ、底部外面は平底。	
第10図 PL.22	4	土師器 杯	覆土 口縁部1/2、底 部3/4	口 高	13.1 4.2		細砂・粗砂/良好/ 黒褐	器表は黒褐色であるが、内部はにぶい黄橙色。口縁部はヨコナデ、底部内は面放射状のヘラミガキ。底部外面はヘラケズリ。	
第10図 PL.22	5	土師器 杯	覆土 2/3	口 高	13.0 5.0		粗砂/良好/褐	口縁部は長く、ヨコナデにより外面の緩い稜を作る。底部外面のヘラケズリは幅広く回数は少ない。ヘラケズリは外面の稜線下にまで達しておらず、明瞭な稜をなさない。	
第10図	6	土師器 鉢か	覆土 口縁部1/12	口	16.7		粗砂、礫微量/良 好/橙	口縁部はヨコナデ。体部内面はナデ。体部外面はヘラケズリ。	
第10図	7	土師器か 甕か	覆土 口縁部片				粗砂・細砂/良好/ 灰黄褐	口縁部外面はヘラミガキ。口縁部内面はナデか。内面下部はヘラミガキ。	

4号竪穴建物

第12図 PL.22	1	土師器 杯	覆土 口縁部1部、底 部1/4	口	12.0		細砂/良好/にぶい 赤褐	底部内面周縁から口縁部外面はヨコナデ。底部内面はナデ。底部外面はヘラケズリ。底部内面に不明墨書。	不明墨書。	
第12図 PL.22	2	須恵器 杯	覆土 完形	口 底	12.8 7.1	高 3.7	粗砂多、礫少量/ 還元炎/灰	口縁部上位と体部外面下位、底部外面周縁の器表摩滅。底部左回転糸切り後周縁を左回転篋削り。内外面に弱い火襷。底部外面焼成前の「+」ヘラ記号。		
第12図 PL.22	3	土師器 小型甕	覆土 口縁部～体部上 位1/3	口	12.1		細砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。体部外面はヘラケズリ。小型の「コ」の字状口縁甕であろう。脚台が付くと考えられる。		
第12図 PL.22	4	土師器 甕	覆土 口縁部～体部上 位1/2	口	20.3		細砂・粗砂/良好/ にぶい褐	口縁部はヨコナデ。体部内面はナデ。体部外面はヘラケズリ。口縁部外面に整形時の窪み残る。		
第12図	5	土師器か 甕か	覆土 底部1/5	底	15.8		細砂少量/良好/橙	平底。内面は横位ヘラケズリの後に縦位ヘラミガキ。外面はヘラケズリの後に縦位ヘラナデと横位ナデ。	住居の時期とは異なるか。	
第12図 PL.22	6	土師器 甕	覆土 1/2	口 底	19.7 5.0	高 28.3	細砂・粗砂/良好/ 赤褐	口縁部はヨコナデ。口縁部外面に整形時の窪み残る。体部内面はナデ。体部から底部外面はヘラケズリ。		
第12図 PL.22	7	石製品 うす玉	覆土 完形	長 幅	1.1 1.2	厚 重	0.3 0.58	珪質粘板岩	表裏面は平坦で滑らかである。細かい線条痕がわずかに認められる。側面部には縦方向の擦痕が認められる。	

5号竪穴建物

第15図 PL.23	1	土師器 杯	覆土 3/4	口 高	13.1 3.8		細砂/良好/褐	底部内面周縁から口縁部外面はヨコナデ。底部内面は丁寧なナデ。底部外面はナデに近いヘラケズリで1部光沢を有する。	
第15図 PL.23	2	土師器 杯	覆土 1/2	口 高	14.8 4.6		細砂少量/良好/橙	底部内面周縁から口縁部外面は強いヨコナデ。口縁部は幅広く中央を沈線上に窪ませる。底部外面はヘラケズリ。	
第15図 PL.23	3	土師器 杯	覆土 1/2	口 高	13.5 3.3		細砂・粗砂少量/ 良好/赤褐	底部内面周縁から口縁部外面はヨコナデ。底部内面はナデ。底部外面はヘラケズリ。	
第15図 PL.23	4	土師器 杯	覆土 1/2	口 高	13.5 3.7		細砂/良好/明褐・ 黒	断面中央から外面器表は明褐黒色。内面側の器表付近はにぶい黄橙色。底部内面周縁から口縁部外面はヨコナデ。底部内面は放射状のヘラミガキ。底部外面はヘラケズリの後ナデで、器表にやや光沢を有する。	
第15図 PL.23	5	土師器 杯	覆土 1/2	口	12.0		細砂・粗砂/良好/ オリーブ黒	断面はにぶい黄橙色。底部内面周縁から口縁部外面はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。	
第15図 PL.23	6	土師器 鉢	覆土 口縁部1/2、底 部3/4	口 高	15.0 10.7		細砂・粗砂少量/ 良好/橙	口縁部はヨコナデ。体部から底部内面はナデ。体部外面は縦位ヘラケズリで下位の器表は摩滅。	
第15図 PL.23	7	土師器 小型甕	覆土 口縁部1/2欠	口 底	12.9 6.0	高 11.6	細砂、礫微量/良 好/橙・オリーブ 黒	口縁部はヨコナデで、内外面のナデ上げ箇所は一致する。体部内面は幅広く工具によるナデ。体部外面は横位のナデに近いヘラケズリ。体部外面下位はナデ。底部外面は葉脈痕。	
第15図 PL.23	8	土師器 甕	覆土 底部一部欠	口	23.1		粗砂、礫微量/良 好/にぶい橙・黒	口縁部ヨコナデ後、体部内面はヘラミガキ。体部外面は縦位ヘラケズリ。体部下位外面は横位ヘラケズリ。底部下端の器面は荒れ、端部の残存が不明瞭。	
第15図	9	土師器 甕か	覆土 口縁部1/6	口	19.8		細砂・粗砂/良好/ にぶい黄橙	口縁部は緩く開くが歪みがあり傾き不明瞭。口縁部はヨコナデ。外面口縁部下はヘラケズリか。	
第15図	10	土師器 壺	覆土 底部	底	7.8		細砂/良好/橙	内面はナデ。体部外面から底部外面ヘラケズリ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第15図	11	土師器 甕	覆土 口縁部～体部中 位1/3	口	17.0		細砂・粗砂/良好/ 橙	口縁部はヨコナデ。体部内面は幅広工具によるナデ。体部 外面はヘラケズリ。	
第16図	12	土師器 壺	覆土 体部上位1/5				細砂・粗砂/良好/ にぶい黄橙	内面は幅広の工具によるナデ。外面はヘラケズリ。最大径 下部に接合部の偽口縁が認められる。	
第16図 PL.23	13	土師器 甕	覆土 口縁部～体部下 位1/3	口	18.9		細砂・粗砂/良好/ 明赤褐・黒褐	口縁部はヨコナデでナデ上げ部は内外面で一致。ヨコナデ 後に体部内面は横位ナデ。外面は斜位ヘラケズリ。外面は 紐作り時の凹凸、内面は紐作り痕多く残る。	
第16図 PL.23	14	土師器 甕	覆土 底部	底	5.2		細砂・粗砂/良好/ 黒褐・橙	内面はナデ。外面は縦位ヘラケズリ。底部の器壁は厚い。 底部外面に葉脈痕。	
第16図	15	土師器 甕	覆土 体部中位～底部 1/4	底	6.8		細砂・粗砂/良好/ 明赤褐	内面はナデの後、部分的にヘラミガキ。外面はヘラケズリ の後にヘラミガキで下位ほど密なミガキを施し、単位不明 瞭。	16と同一個体 の可能性高 い。
第16図 PL.24	16	土師器 甕	覆土 口縁部完、体部 上半1/3	口	15.7		細砂・粗砂/良好/ 橙	口縁部はヨコナデ。口縁部以下の内面はナデ。体部外面は ヘラケズリの後に幅広のヘラミガキ。	15と同一個体 の可能性高 い。
第17図 PL.24	17	土師器 長胴甕	覆土 ほぼ完形	口 底	17.1 6.3	高 34.8	細砂・粗砂、礫微 量/良好/橙	口縁部歪む。口縁部はヨコナデ。体部内面は横位ナデ。体 部外面は縦位ヘラケズリで、下位のみ斜位ヘラケズリ。底 部外面はヘラケズリ。	
第17図 PL.24	18	土師器 甕	覆土 3/4	口 底	18.5 7.2	高 34.2	粗砂・礫/良好/ にぶい黄橙	器面の荒れにより整形痕不明瞭。口縁部はヨコナデ。内面 は下位のヘラナデのみ見える。体部外面は縦位ヘラケズリ で下端は横位ナデか。	

6号竪穴建物

第18図 PL.25	1	土師器 鉢	貯蔵穴 ほぼ完形	口 底	9.0 4.5	高 8.6	細砂・粗砂/良好/ 明赤褐	口縁部はヨコナデ。体部内面はナデ。体部外面はヘラケズ リ。口縁部外面に整形時の窪み残る。縦位幅の狭い工具に よるナデ。体部外面下端から底部ヘラケズリ。	
第18図 PL.25	2	土師器 小型甕	覆土 2/3	口 底	8.3 4.7	高 10.3	細砂・粗砂/良好/ 明褐	口縁部はヨコナデ。口縁部外面と肩部外面に紐作り痕残る。 体部内面はナデ。体部外面はハケ状工具によるナデ。体部 外面下端から底部ヘラケズリ。	
第18図 PL.25	3	土師器 小型甕	貯蔵穴 1/4	口 底	10.5 5.5	高 8.9・ 9.7	細砂・粗砂少量/ 良好/明赤褐	口縁部歪む。口縁部はヨコナデ。体部から底部内面はナデ。 体部外面から底部外面はヘラケズリ。	
第18図 PL.25	4	土師器 甕	貯蔵穴 口縁部1/2欠	口 底	25.3 8.2	高 26.9	細砂・粗砂/良好/ 橙	口縁部はヨコナデ。体部内面は横位ナデの後に縦位ヘラケ ズリ。体部外面上半はナデで紐作り痕残る。体部外面下半 はヘラケズリ。	
第18図	5	土師器 台付甕	覆土 脚台部1/6	台	8.8		細砂/良好/にぶい 黄橙	脚台端部内側に折り返す。内外面はナデで、外面は後にハ ケ目。	
第18図 PL.25	6	土師器 甕	覆土 口縁部～体部上 位1/2	口	9.3		粗砂、礫微量/良 好/にぶい黄褐	口縁部はヨコナデで、外面に紐作り痕とユビナデ状の窪み 残る。体部内面はナデ。体部外面は横位ヘラケズリ。	
第18図	7	土師器 甕	貯蔵穴 口縁部～体部上 位1/2	口	14.8		細砂・粗砂・赤色 粒/良好/にぶい橙	口縁部は歪む。口縁部ヨコナデの後に頸部以下の内面は削 りに近いヘラナデ。外面は縦位ヘラナデ。	

10号竪穴建物

第19図 PL.25	1	灰釉陶器 耳皿	覆土 口縁部1部、底 部完	高 台径	3.8		細砂微量/良好/黄 灰	口縁部を内側に曲げる。内面と口縁部外面の曲げた部分に 灰釉。底部は右回転糸切り無調整。	
第19図	2	土師器 椀	覆土 底部1/4	高 台径	5.6		細砂/酸化炎/橙	貼付高台。高台内の糸切り痕ナデ消す。	
第19図	3	須恵器 壺	覆土 頸部1/4				細砂少量/還元炎/ 黄灰	肩部内面に指押さえ痕。	
第19図	4	土師器 甕	覆土 体部下位～底部 1/5	底	4.2		細砂、粗砂少量赤 色粒/良好/にぶい 黄橙	内面はハケ目。体部外面と底部外面はヘラケズリ。	
第19図 PL.25	5	土師器 甕	覆土 口縁部～体部上 位片	口	15.7		細砂・粗砂/良好/ 浅黄橙	口縁部はヨコナデ。体部内面はハケ目。体部外面はヘラケ ズリ。	
第19図	6	土師器 甕	覆土 口縁部1/8	口	16.2		細砂、粗砂少量/ 良好/にぶい黄橙	口縁部はヨコナデ。	
第19図 PL.25	7	石製品 砥石	覆土 不明	長 幅	(10.8) (7.5)	厚 重	(7.5) 381.8	粗粒輝石安山岩	表裏面及び左右両側面に砥面が認められる。右側面には断 面V字状の溝状痕跡が認められる。

11号竪穴建物

第22図 PL.26	1	土師器 杯	覆土 3/4	口 高	11.9 3.9		細砂・粗砂/良好/ 橙	器表が摩滅し整形痕不明。全体に器壁は厚い。	
第22図	2	土師器 壺か	覆土 底部1/3	底	6.0		細砂多/良好/にぶ い褐	内面はナデ。外面の器面は荒れる。	
第22図 PL.26	3	土師器 甕	覆土 1/2	口 底	23.8 9.2	高 29.8	粗砂、礫少量/ 良好/明赤褐・黒 褐	口縁部はヨコナデ。内面口縁部以下は単位不明のナデの後、 不規則なヘラミガキ。外面口縁部以下は単位不明のナデで、 部分的単位が分かるナデ。	

遺物観察表

12号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	径				
第25図 PL.26	1	土師器 片口壺	覆土 完形	口底	9.0~ 10.4 5.9	高	14.7	細砂・粗砂/良好/ にぶい黄橙・赤褐	口縁部は外方に折り返すが、雑なナデで成形時の指押さえ痕残る。口縁部の1カ所を内面側から押さえて片口を作成。体部上半にハケ目。下半はナデで底部付近に1部ヘラケズリ。内面下半は幅の狭いヘラケズリ。上半はナデ。口縁部歪む。底部外面はヘラケズリ。	片口。
第25図 PL.26	2	土師器 壺	覆土 口縁部片					細砂少量/良好/オリ ープ黒	内面の器表はにぶい黄橙色。口縁部は外面に折り返し、折り返し範囲の内外面をヨコナデ。外面の折り返し部は縦位ヘラナデ。	
第25図 PL.26	3	土師器 壺	覆土 4/5	口	16.5 ~ 17.8			細砂/良好/灰褐	口縁部歪む。口縁部付近は外方に折り返す。内面は木口状工具によるナデ。折り返し部外面は指頭圧痕残す。外面の折り返し直下以下は幅の狭い工具によるナデ。	雑な整形。
第25図 PL.26	4	土師器 壺	覆土 2/3	口底	12.2 6.7	高	21.6	細砂・粗砂/良好/ 橙	口縁部ハケ目の後に端部付近外面のみヨコナデ。体部から底部内面はナデ。体部外面中位はハケ目の後にヘラケズリ。体部外面下位はナデ。底部外面は全面ヘラケズリ。	
第25図 PL.26	5	土師器 壺	覆土 一部欠	口底	13.8 6.3	高	18.8	細砂・粗砂/良好/ 暗赤褐・赤褐	口縁部内面はハケ目の後ヨコナデで、頸部付近はヨコナデ後のヘラケズリ。体部内面は密な横位ヘラナデで単位不明。口縁部外面はヨコナデ後の斜位ハケ目。体部外面はハケ目で最大径部分は横位ヘラケズリ。体部下端は横位ヘラケズリで底部外面もヘラケズリ。	
第25図 PL.27	6	土師器 壺	覆土 1/2	口底	14.0 5.1	高	19.6	細砂・粗砂/良好/ にぶい橙	口縁部はハケ目の後に口縁部付近ヨコナデ。ヨコナデ後に外面は縦位ヘラナデ。内面はナデと不規則なヘラミガキで共にハケ目が部分的に残る。内面はヘラナデで、底部内面は底部中央を中心としたヘラナデ。外面はナデに近いようなヘラケズリで部分的に平滑となる。底部外面は周縁のみヘラケズリ。	
第25図 PL.27	7	土師器 壺	覆土 1/4欠	口底	15.0 7.2	高	26.4	細砂少量/良好/明 黄褐	口縁部はハケ目の後にヨコナデ。体部内外面はハケ目で外面は縦位ヘラナデを密に施す。体部内面上位は組作り痕残る。	
第26図 PL.27	8	土師器 壺	覆土 体部上位~底部 3/4	底	9.3			細砂・粗砂/良好/ 明赤褐	内面ナデで、体部下位の接合部は横位の削り状ナデ。外面はハケ目の後密なヘラミガキで測図不可能。底部外面は周縁のみヘラケズリ。	
第25図 PL.27	9	土師器 甗	覆土 体部下位~底部	底	6.0			細砂・粗砂/良好/ にぶい黄橙	内面粗いハケ目。外面は幅の狭い工具による縦位ナデ。底部は整形後、焼成前に外方から穿孔。	
第26図 PL.27	10	土師器 小型甗	覆土 1/2	口底	13.4 6.2	高	15.7	細砂・粗砂/良好/ 橙	口縁部内面から体部外面はハケ目の後、口縁部上半にヨコナデ。体部内面以下はヘラケズリ。体部外面中位以下、底部外面までヘラケズリ。	
第26図 PL.27	11	土師器 甗	覆土 口縁部欠	底	10.1			粗砂、礫微量/良 好/橙	口縁部内面はヘラナデ。体部から底部内面はナデ。体部外面は縦位と斜位ヘラケズリで下端は横位ヘラケズリ。底部外面は全面ヘラケズリ。	
第26図 PL.28	12	土師器 台付甗	覆土 体部一部欠	口底	21.3 10.1	高	36.7~ 38.0	粗砂少量/良好/橙	口縁部ハケ目の後にヨコナデ。体部内面上位は縦位ヘラナデ。体部中位の接合部分は横位条線。外面体部外面は下位までハケ目で、下位はハケ目の後にナデ。脚台内外面はハケ目の後ヨコナデ。	
第26図 PL.28	13	土師器 台付甗	覆土 体部一部欠	口 台 部 径	15.5 8.9	高	27.6	細砂・粗砂/良好/ 明黄褐	頸部内面はヘラナデ。体部内面はナデ。脚台内面はナデ。肩部外面から台部外面にハケ目。外面最大径部分は単位不明瞭なヘラケズリ痕を残す。脚台天井部と底部内面に砂を多く含む粘土塗りつけ。	S字条口縁台付甗。

1号溝

第34図 PL.28	1	瀬戸・美濃 陶器 皿	覆土 口縁部1/6欠	口底	10.9 6.8	高	2.8	褐灰	高台は断面逆三角形。外面中位以下回転削り。外面の篋削り開始部分は稜をなす。内外面に灰釉。底部内面と高台端部に重ね焼き痕残る。内面器表に膨らみが認められる。	
第34図 PL.28	2	在地系土器 皿	覆土 1/4	口底	(9.8) (6.3)	高	2.4	にぶい橙	口縁部から体部内湾。底部回転系切り無調整。	江戸時代。
第34図 PL.28	3	瀬戸・美濃 陶器 天目碗	覆土 口縁部から体部 1/3	口底	(11.2) -	高	-	灰黄	口縁部は屈曲して長く立ち上がる。口縁部は小さく外反。内面から体部外面下位に鉄釉。	17中頃か。
第34図 PL.28	4	在地系土器 鍋	覆土 口縁部片	口底	- -	高	-	灰白	器表燻し焼成。口縁部内面に小さく退化した内耳貼り付け。	江戸時代。
第34図 PL.28	5	在地系土器 内耳鍋	覆土 口縁部片	口底	- -	高	-	にぶい黄橙	器表燻し焼成で黒色。口縁部内面下端に段差。口縁部上面は平坦で内傾。内面に粘土紐貼り付けの内耳1カ所残る。外面器表に煤付着。	16世紀。
第35図 PL.28	6	在地系土器 内耳焙烙	覆土 2/3	口 径 底 径	35.2 30.0	高	6.2	浅黄	断面中央黒色、器表付近浅黄色、器表黒色のサンドイッチ状。底部内面器表は浅黄色、底部外面中央付近器表は浅黄褐色。内面中位付近に段差。残存部に内耳残らないが、欠損部1カ所に内耳部分の窪みあり。体部外面中位以下の器表は皺状痕残る。	17世紀。10片接合。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第35図 PL.28	7	在地系土器 内耳鍋	覆土 体部片	口 底	- -	高 -	にぶい黄橙	器表燻し焼成。外面に煤付着。	中世。
第34図 PL.28	8	羽口	先端部～体部	長 径	96 8.6	重 900.7		内径2.5cm。メタル度なし。磁着は非常に微弱。胎土の締まりは良く、やや白色粒が混じる。表面は指痕とナデが見られる。	
第35図 PL.28	9	石製品 板碑	覆土 1/6	長 幅	(22.3) (15.5)	厚 重	2.3 1249.1	緑色片岩	表面に梵字(キリーク)が線刻される。表裏面には平ノミ状の工具痕が明瞭に認められる。

1号井戸

第37図 PL.29	1	肥前磁器 染付碗	覆土 口縁部1/3、底 部1/2	口 底	(9.6) (3.8)	高 5.3	灰白	外面に雪輪梅樹文。高台内に不明銘。高台端部は細かく打ち欠く。口縁部内面は外方からの叩打による打ち欠き3カ所。外面高台脇に叩打痕あり。	
第37図 PL.29	2	肥前磁器 染付碗	覆土 口縁部一部、底 部2/3	口 底	(9.9) 4.8	高 5.4	灰白	外面に雪輪梅樹文か。高台内に不明銘。	
第37図	3	瀬戸・美濃 陶器 鉢	覆土 口縁部片	口 底	- -	高 -	浅黄	口縁部は屈曲して外反。内面櫛状工具による波状文。内外面に灰釉。歪み著しい。	2片接合。
第37図 PL.29	4	堺・明石陶 器 すり鉢	覆土 口縁部から体部 片	口 底	- -	高 -	明赤褐	内面にすり目を施した後、口縁部回転横撫で。口縁部内面に明瞭な段差。口縁部を内面から押して片口部作出。体部外面は回転斲削り。	

2号井戸

第39図 PL.29	1	石製品 石鉢	覆土 不明	長 幅	(9.0) (17.1)	厚 重	(3.8) 794.9	粗粒輝石安山岩	全体的に丁寧に整形される。口唇部と内面は特に滑らかである。
第39図 PL.29	2	石製品 石製品	覆土 1/3	長 幅	19.2 (21.2)	厚 重	(10.0) 4211.5	粗粒輝石安山岩	全体的に丁寧に整形されており側面には棒状の工具痕がわずかに認められる。上面には漏斗状の孔が認められ口唇部から孔の内面にかけて黒色物質が厚く付着する。
第39図 PL.29	3	石製品 石臼(上)	覆土 1/2	長 幅	(36.0) (18.2)	厚 重	20.1 17750	粗粒輝石安山岩	底面のすり合わせ面には挽き目の痕跡が認められない。底面には供給孔から続く溝状痕跡がわずかに認められる。側面は挽き手跡が一箇所認められるが上面からの孔と連結する。供給孔は中央が狭くなり段差が認められ両面穿孔と考えられる。

75号ピット

第45図	1	土師器 椀	覆土 体部下位～高台 部1/2	高 台 径	7.8			細砂/酸化炎/にぶ い黄橙	高台は高く「ハ」の字状に開く。貼付高台。ロクロ整形。
------	---	----------	-----------------------	-------------	-----	--	--	------------------	----------------------------

89号ピット

第47図 PL.30	1	石英の結晶	覆土	長 幅	- -	厚 重	5.2	石英	石英の結晶。縁辺部に微細な剥離痕がわずかに認められる。人為的に遺跡内に搬入されたものと考えられる。
---------------	---	-------	----	--------	--------	--------	-----	----	---

遺構外出土遺物 古墳時代以降

第52図	1	土師器 鉢	1区西 口縁部～体部 1/6	口	17.3			粗砂・礫/良好/橙	口縁部はヨコナデ。内面は横位ヘラナデ。口縁部以下の外面は縦位ヘラケズリ。
第52図 PL.30	2	土師器 器台	3区覆土 杯部中位-脚部 中位					細砂少量/良好/浅 黄橙	脚部内面はハケ目。他はハケ目の後にヘラミガキ。脚部と杯部に三角形透かしが入るが、大きさと個数は不明。脚部外面と杯部内外面に赤色塗彩。
第52図 PL.30	3	土師器 台付甕	3区覆土 台部片					粗砂少量/良好/に ぶい黄褐	器壁は厚い。台部内面はハケ目。外面はハケ目後ナデ。底部内面はナデ。
第52図 PL.30	4	瓦 瓦塔か	3区北 小片	厚 さ	1.5			細砂少量/酸化炎/ 橙	土師質。上面に工具による押し引きで丸瓦?を表す。瓦の継ぎ目や平瓦の表現はない。図の下部はシャープに切られている。裏面は器表に剥がれがあるか?
第52図	5	瓦 平瓦	3区攪乱 破片					細砂/還元炎/黄灰	上面に布目圧痕。下面は格子目状タタキ。
第52図	6	埴輪 円筒か	6トレンチ 破片					細砂・粗砂/良好/ 橙	内面は縦位ナデ。外面は縦位ハケ目の後突帯貼付。内面側上部に透かしの1部が残る。
第52図 PL.30	7	肥前磁器か 染付碗	覆土 2/3	口 底	7.8 3.0	高 4.2	灰白		体部外面の3方にコンニャク印判による菊花文。体部外面下位から高台外面に5条の圈線。高台端部を除き透明釉。釉は白濁し、文様不鮮明。
第52図 PL.30	8	瀬戸・美濃 陶器 輪髣皿	覆土 口縁部一部、底 部1/2	口 底	(12.6) (6.7)	高 3.2	浅黄		内面から外面中位に長石釉。底部内面輪状に釉剥ぎ。2片接合。
第52図 PL.30	9	益子・笠岡 陶器か 灯火受台	覆土 口縁部1/2欠	口 底	8.0 5.6	高 5.0	灰白		受け部1カ所にU字状切り込み。内外面に灰釉。受け部端部と脚端面取り部以下は無釉。脚底部外面は右回転糸切り無調整。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第52図	10	瀬戸・美濃 陶器 輪奘皿	覆土 底部1/3	口 底	— (6.9)	高 —	黄灰	高台内の削り出しは浅い。内面に灰釉施釉後、リング状の高まり部を中心に釉剥ぎ。外面は無釉。	
第52図	11	在地系土器 内耳鍋	覆土 口縁部片	口 底	— —	高 —	橙	酸化炎焼成。口縁部丸みを持つ。内耳欠損。内面口縁部下位は丸みを持って外反。口縁部はやや短い。	中世。
第52図	12	在地系土器 鍋	覆土 口縁部片	口 底	— —	高 —	灰白	胎土中央が黒色、器表付近が灰白色、器表が黒灰色のサンドイッチ状。口縁部短く内湾。口縁部内面側が凹線状に窪む。	江戸時代。
第52図	13	在地系土器 内耳鍋	覆土 口縁部片	口 底	— —	高 —	にぶい褐	断面中央黒色、器表付近にぶい褐色、器表黒色のサンドイッチ状。口縁部は短く内湾。口縁部は尖り、外面は外傾。	中世。
第52図	14	在地系土器 内耳鍋	覆土 口縁部片	口 底	— —	高 —	にぶい黄橙色。	口縁部は外反し、端部はやや窪み内傾。外面の器表煤付着。	15と同一個体の可能性高い。中世。
第52図	15	在地系土器 内耳鍋	覆土 口縁部片	口 底	— —	高 —	にぶい黄橙	口縁部は外反し、端部はやや窪み内傾。外面の器表煤付着。屈曲部内面に段差はない。	14と同一個体の可能性高い。中世。
第52図	16	在地系土器 内耳鍋	覆土 体部片	口 底	— —	高 —	灰	還元炎焼成。	中世。
第52図	17	在地系土器 内耳鍋	北2面 口縁部片	口 底	— —	高 —	灰	還元炎焼成。内面にやや太い耳を貼付。口縁部はやや短い。	中世。

7号竪穴建物

第53図 PL.30	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				A1	LR縄文を横位・多段に施文。内面丁寧な横・斜位磨き。	有尾式	
第53図 PL.30	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				A5	半截竹管状具の連続爪形文を横位施文。内面横位磨き。	有尾式	
第53図 PL.30	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E4	半截竹管状具の平行波状文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式	
第53図 PL.30	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D27	RL縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。	諸磯b式	
第53図 PL.30	5	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				B9	RL縄文を横位・多段に施文。内面斜位磨き、外面煤炭炭化物付着。	諸磯b式	
第53図 PL.30	6	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長 幅	8.0 6.3	厚 重	1.7 77.7	黒色頁岩	側辺部全体に両面加工が認められる。裏面に自然面が認められ円礫を利用する。	
第53図 PL.30	7	剥片石器 打製石斧	覆土 1/2	長 幅	(8.3) (4.6)	厚 重	1.9 68.3	黒色頁岩	左右両側辺には両面加工が認められる。裏面に広く自然面を残し円礫を利用する。	
第54図 PL.30	8	剥片石器 スクレイパー	覆土 完形	長 幅	10.1 6.6	厚 重	1.5 132.5	ホルンフェルス	右側辺から上側辺にかけては両面加工が認められる。左側辺は表面への片面加工である。表面の中央には素材剥片の主要剥離面を大きく残し大形剥片を素材とする。裏面には自然面を大きく残し裏面右側辺近くに摩滅痕が認められる。円礫を利用する。	
第54図 PL.30	9	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅	12.9 9.7	厚 重	4.3 773.9	粗粒輝石安山岩	表面の中央付近に滑らかな面が認められる。	
第54図 PL.30	10	礫石器 磨石	一括 完形	長 幅	5.9 5.0	厚 重	4.4 182.5	粗粒輝石安山岩	表面の中央付近に滑らかな面が認められる。	
第54図 PL.30	11	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅	6.5 4.3	厚 重	4.3 144.1	粗粒輝石安山岩	全面的に滑らかである。全体的に赤褐色部分と黒褐色部分が認められ受熱の可能性ある。	

8号竪穴建物

第55図 PL.30	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				A2	0段多状のRL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成か。内面横位磨き。	有尾式
第55図 PL.30	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E3	半截竹管状具の爪形文を横・斜位に施し、隙間に棒状具の刻み目状の斜位短沈線文を横位に連続施文。内外面共にやや被熱風化。	諸磯b式
第55図 PL.30	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D14	細い半截竹管状具の平行沈線文を横位に帯状施文。内面横位磨き。	諸磯b式

9号竪穴建物

第58図 PL.31	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				E37	無文の口縁部が大きく外反する。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利E1式
第58図 PL.31	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部下 位1/2		(29)		B5	双頭状の波状口縁。口縁部に推定4単位の沈線渦巻文や横位の連続刺突文を施し、その隙間に縦位の短沈線文を密集施文。頸部～胴部にはL撚糸文を縦位に密集施文し、懸垂状の沈線文や括れ部に3条の横線文を施す。内面横位磨き、内外面共に一部に煤炭炭化物付着。	加曾利E1式

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第58図 PL.31	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				F5	口唇部が短く外反する。口縁部の並行する2条の横位沈線文内に棒状具の鋸歯状交互刺突により波状文を施す。内外面共に丁寧な横位磨き。	加曾利E1式併行	
第58図 PL.31	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E27	R撚糸文を縦位に密接施文し、半截竹管状具の重ね引き集合沈線文でクランク文や渦巻文を施す。内外面共に被熱風化、外面煤状炭化物付着。	加曾利E1式	
第58図 PL.31	5	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E28	口縁部はL撚糸文を縦位に密接施文し、2本単位の隆線文をクランク状や横位に施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利E1式	
第58図 PL.31	6	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				E28	RL縄文を口縁部は横位に、頸部～胴部は縦位に施文。口縁部には窓枠状の隆線区画文を、括れ部には3条の横線文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利E1式	
第58図 PL.31	7	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				E28	口縁部にRL縄文を横位施文し、横位隆線文の区画内に波状隆線文を施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利E1式	
第58図 PL.31	8	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D2	RL縄文を斜位に密接施文し、括れ部に背割り状の横位隆帯文を施す。内面横位磨き。	加曾利E1式	
第58図 PL.31	9	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				F5	RL縄文を縦位施文し、2本単位の隆線懸垂文や半截竹管状具の重ね引き横位集合沈線文を多段に施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曾利E1式	
第58図 PL.31	10	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部上半1/6	口	(53)		D3	強く括れる甕的な深鉢土器。尖頭状の筐または棒状具により、括れ部に斜位の刻み目・横線文や鋸歯状の交互刺突による横位波状文を施す。胴部は眼鏡状や懸垂状の基隆帯文に沿って、刻み目や弧線・渦巻状の沈線文を施し、区画内にも同文様を施文。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化。	加曾利E1式併行	
第59図 PL.31	11	剥片石器 石鏃	覆土 完形	長幅	2.0 1.7	厚重	0.3 0.5	黒曜石	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。先端部を尖頭状に作出する。	凹基無茎鏃
第59図 PL.31	12	剥片石器 石匙	覆土 完形	長幅	5.1 4.2	厚重	0.7 7.0	チャート	側辺部全体に両面加工が認められる。剥片素材と予想されるが素材剥片段階の剥離面は認められない。	
第59図 PL.31	13	剥片石器 スクレイパー	覆土 完形	長幅	6.9 4.6	厚重	0.7 25.7	粗粒輝石安山岩	右側辺全体に両面加工が認められ機能部と想定される。表面には素材剥片の主要剥離面が認められ横長剥片を利用する。裏面には自然面が広く残り円礫を利用する。	
第59図 PL.31	14	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長幅	9.6 5.7	厚重	1.6 82.9	黒色頁岩	先端刃部は片面加工が主体的であるが左右両側辺は両面加工である。表裏面の先端刃部付近には摩滅痕が広く認められる。表面の中央付近にも摩滅痕が認められる。表面の中央に広く認められる剥離面は素材剥片の主要剥離面と考えられる。	
第59図 PL.31	15	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長幅	10.0 4.6	厚重	1.3 81.9	黒色頁岩	側辺部には全体的に両面加工が認められる。表裏面の先端刃部付近には摩滅痕が認められる。	
第59図 PL.31	16	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長幅	11.2 3.8	厚重	1.1 42.0	黒色頁岩	左右両側辺には二次加工が認められるが刃部と想定される先端部には二次加工が認められない。右側辺には自然面が認められ円礫を利用する。	
第59図 PL.31	17	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長幅	9.3 5.1	厚重	1.6 88.7	ホルンフェルス	側辺部には全体的に両面加工が認められる。表面の一部に自然面が認められ円礫を利用する。	
第59図 PL.31	18	礫石器 凹石	覆土 1/2	長幅	(10.1) (7.4)	厚重	4.5 369.2	粗粒輝石安山岩	表裏面に浅鉢状の凹みがそれぞれ2か所認められる。全体的に敲打痕が散在する。	
第59図 PL.31	19	石製品 砥石	一括 不明	長幅	(5.2) (5.5)	厚重	1.3 28.9	牛状砂岩	粗粒の石質であり全体的に比較的滑らかである。特に表面に滑らかな部分が広範囲に認められ砥面と判断した。	

1号遺物集中

第60図 PL.32	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				D28	R撚糸文を縦位に密接施文し、2本単位の隆帯によりS字状文を施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曾利E1式
第60図 PL.32	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				D23	口縁部に半截竹管状具の重ね引き平行沈線文を横位施文し、棒状具の鋸歯状交互刺突により波状文を施す。屈折部には筐状具の刻み目を施す。内面横位磨き、一部被熱風化・剥落。外面一部に煤状炭化物付着。	加曾利E1式併行
第60図 PL.32	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D28	R撚糸文を縦位に密接施文し、2本単位の隆帯により渦巻文を施す。内面横位磨き。	加曾利E1式
第60図 PL.32	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部上位～中位1/3				E37	L撚糸文を縦位に密接施文し、渦巻状の突起と刻み目を加えた隆帯文を横位や弧状・Y字状に施す。内外面共に被熱風化・荒れ、外面胴部上位煤状炭化物付着・一部剥落。	加曾利E1式併行
第60図 PL.32	5	縄文土器 浅鉢	覆土 口縁部破片				E5	口唇部に長方形の突起を付し、中央の穿孔部を中心に半截竹管状具による同心円状の沈線文を施す。内外面共にやや風化。	加曾利E1式併行
第60図 PL.32	6	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部中位破片				E6	口唇部内面に段を構成。胴部は基隆帯に沿って棒状具による渦巻・重弧状の沈線文を施す。外面口縁部砂粒の移動痕を残す撫で状の粗い横位磨き、一部に煤状炭化物付着。内面横位磨き。	加曾利E1式併行
第60図 PL.32	7	縄文土器 深鉢	覆土 括れ部～胴部中位1/3				E5	L撚糸文を縦位に密接施文し、括れ部に半截竹管状具の横位平行沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化・一部に煤状炭化物付着。	加曾利E1式
第60図 PL.32	8	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D7	割付状の縦位細沈線文を施し、細い半截竹管状具の平行沈線文を矢羽状に交差施文し、同部位に円形竹管文を縦列施文。内面横・斜位磨き。	諸磯a式

遺物観察表

13号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第62図 PL.32	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				F2	く字状に内折する口縁部にRL縄文を横位施文。内外面共に被熱風化・荒れ、外面に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第62図 PL.32	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				C11	半截竹管状具の横位連続爪形文を多段に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、内面煤状炭化物付着。	諸磯b式
第62図 PL.32	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D21	RL縄文を横位施文し、浮線文を斜位に施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	諸磯b式
第62図	4	縄文土器 深鉢	覆土 底部1/5	底	(11.5)		D1	浮線文を横位・多段に施す。内面横位磨き。	諸磯b式

14号竪穴建物

第65図 PL.32	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				G3	篋状具の刺突文や変形爪形文を横位に施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	浮島式
第65図 PL.32	2	縄文土器 浅鉢	覆土 体部下位～底部 完存	底	11.2		B2	複数段に屈曲する無文浅鉢。外面体部～底部に赤色塗彩。内外面共に横位篋削り後、やや粗い横位磨き。	諸磯b式
第65図 PL.32	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部上 位1/4	口	(14.5)		D2	4単位の双頭波状口縁。浮線文を口縁部は渦巻状や波状に、胴部には横位・多段に施す。内面横位磨き・一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第65図 PL.32	4	縄文土器 浅鉢	覆土 口縁部破片				D23	口唇端部を内側に折り返す内折系浅鉢。体部にRL縄文を横位施文。内外面共に横位磨き、内面煤状炭化物付着。	中期中葉
第65図 PL.32	5	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				D1	口唇部に棒状具の刻み目状の斜位短沈線文を施し、下位にRL縄文や開端自縛のL結節縄文を横位に施文。内面横位磨き。	諸磯b式併行
第65図 PL.32	6	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				G3	波状口縁。篋状具の刺突文や変形爪形文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き。	浮島式
第65図 PL.33	7	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				C11	4単位の波状口縁。口唇部にイノシシ頭部を簡略化した小突起を付す。口縁部～胴部にLR縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の集合沈線文を蕨手状や横帯状に施す。内面口縁部横位・胴部縦位磨き。内外面共にやや被熱風化、外面口縁一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第65図 PL.32	8	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				E2	RL縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の集合沈線文を横位や渦巻状に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第65図 PL.32	9	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				E5	半截竹管状具の横位連続爪形文や細い半截竹管状具の集合沈線文を波状に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第65図 PL.32	10	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D2	RL縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の連続爪形文を米字状に施す。内面縦位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第65図 PL.33	11	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D2	半截竹管状具の平行沈線文を斜格子状に施し、交点に同具先端部を回転刺突して円形竹管文を施文。外面横位篋撫で、内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式
第65図 PL.33	12	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部下 位完存	口	36.5		E24	4単位の三頭波状口縁。LR縄文を横位・多段に施文し、口頭部に半截竹管状具の横線文・弧線文・蕨手状文を施す。胴部下位の接合部で欠損。内外面共にやや被熱風化・荒れ、胴部の一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第66図 PL.33	13	剥片石器 打製石斧	一括 完形	長幅	9.8 5.0	厚重	1.7 76.1	黒色頁岩	先端刃部は表面側への片面加工が主体的であるが左右両側面は両面加工である。表面の先端刃部付近から上方にかけて摩滅痕が認められる。裏面には広く自然面が認められ円礫を利用する。
第66図 PL.33	14	剥片石器 打製石斧	ベルト内 完形	長幅	10.1 4.9	厚重	2.0 85.6	黒色頁岩	側刃部には全体的に両面加工が認められる。表裏面の先端刃部付近には摩滅痕が認められる。表面の中央及び上方にも摩滅痕が認められる。
第66図 PL.33	15	礫石器 凹石	P2一括 完形	長幅	10.5 7.3	厚重	4.9 410.6	粗粒輝石安山岩	表裏面の中央付近に凹みが集中する。表面の右上方から側面部を経て裏面にかけて滑らかな面が認められる。

15号竪穴建物

第68図 PL.33	1	剥片石器 石匙	P10一括 完形	長幅	9.6 4.3	厚重	0.9 32.65	黒色頁岩	側刃部に散発的な二次加工が認められる。裏面には素材剥片の主要剥離面が大きく認められ縦長剥片を利用する。
第68図 PL.33	2	石製品 砥石	P6一括 不明	長幅	(4.4) (4.9)	厚重	0.9 22.2	牛状砂岩	表裏面ともに全体的に滑らかである。左右両側面は鋭角であり表裏面ともに滑らかである。表裏面には断面V字状の比較的幅の広い線条痕がわずかに認められる。

2号竪穴状遺構

第69図 PL.33	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部下 位完存	口	33.7			B13	口縁部～胴部下位にアナダラ属の波状貝殻文を横位・多段に施文。口縁部に篋状具の斜位刻み目や半截竹管状具の横位変形爪形文を施し、胴部に同半截竹管状具の平行沈線文を5条施文。内面縦・斜位の磨き。内外面共にやや被熱風化・外面一部に煤状炭化物付着。	浮島Ⅲ式
---------------	---	------------	----------------------	---	------	--	--	-----	---	------

4号竪穴状遺構

第70図 PL.34	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E3	RL縄文を横位施文し、逆U字状の沈線懸垂文を施す。内面横位磨き。	加曾利E3式
第70図 PL.34	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E25	棒状具のやや深い沈線でJ字文を施し、異束のLR縄文を充填施文。内面横位磨き。	称名寺I式
第70図 PL.34	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					C17	口唇部が内削ぎ状に肥厚する波状口縁。横位の篋削り整形痕を残した部位に斜線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B2式

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第70図 PL.34	4	縄文土器 鉢	覆土 口縁部破片				C2	内削ぎ状の口唇部。口縁部に横線文を施し、やや細密なLR縄文を充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式	
第70図 PL.34	5	縄文土器 深鉢	覆土 頸部～胴部破片				C1	括れ部に2条の横線文を、胴部には沈線文を斜格子状に施す。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式	
第70図 PL.34	6	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片1/4	口	(24.5)		B17	内削ぎ状の口唇部上面に刻み目を、口縁部内面に凹線状の幅広沈線文を施す。口頸部の横位削削り整形痕を残した部位に斜線文を施す。内面丁寧な横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	加曾利B 2式	
第70図 PL.34	7	縄文土器 深鉢	覆土 頸部破片				B17	横位の削削り整形痕を残した部位に斜線文や横線文を施す。内面丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式	
第70図 PL.34	8	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				C7	内削ぎ状の口唇部内面に凹線状の横線文を施す。口頸部は無文。内外面共に横位磨き。	加曾利B 2式?	
第70図 PL.34	9	縄文土器 浅鉢	覆土 口辺部破片				D7	く字状に内折する口縁部に横・斜位の沈線文や円形貼付文を施す。内面やや粗い横位磨き。	加曾利B 3式	
第70図 PL.34	10	縄文土器 鉢	覆土 体部破片				C7	沈線の縦位区画文や円形貼付文を付した横位隆線文の両側に沈線文を施し、各施文部位や体部下半にLR縄文を充填的に施文。内面やや粗い横位撫で。	加曾利B 3式	
第70図 PL.34	11	縄文土器 鉢	覆土 体部破片				C1	横・斜位の沈線文やその交差部に円形貼付文を施し、区画内に細密なLR縄文を充填施文。内面横位磨き。	加曾利B 3式	
第70図 PL.34	12	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				F8	内削ぎ状の口唇部。口頸部は無文。内外面共に横位磨き。外面燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B 3式?	
第70図 PL.34	13	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部破片				C2	小形壺的な土器。外面横・斜位、内面やや粗い横位磨き。	後期中葉	
第70図 PL.34	14	縄文土器 鉢	覆土 口縁部破片				B7	口縁部に不連続な横線文を施し、以下にL縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。外面被熱風化・荒れ、煤状炭化物付着。	後期中葉	
第71図 PL.34	15	剥片石器 石鏃	覆土 完形	長幅	2.8 1.6	厚重	0.5 1.0	黒色頁岩	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。	凸基有茎鏃
第71図 PL.34	16	剥片石器 石鏃	覆土 完形	長幅	2.8 1.4	厚重	0.4 1.1	チャート	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。	凸基有茎鏃
第71図 PL.34	17	剥片石器 石鏃	覆土 ほぼ完形	長幅	(3.7) 2.2	厚重	0.5 2.6	黒色安山岩	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。	凸基有茎鏃

6号竪穴状遺構

第73図 PL.34	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E5	半截竹管状具の連続爪形文を横位や蕨手状に施文し、間隙に篋状具の斜位刻み目や円形竹管文を施す。内面煤状炭化物付着。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第73図 PL.34	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					C20	半截竹管状具の連続爪形文を横位に施文し、間隙に篋状具の斜位刻み目を施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第73図 PL.34	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E13	RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の平行沈線文を横・斜位に、円形竹管文を縦列に施文。内面斜位磨き。	諸磯b式
第73図 PL.34	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					D5	RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。一部にRL縄文の開端自縄自縛によるL結節縄文を施す。内面縦位磨き、外面被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第73図 PL.34	5	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E27	0段多条のRL縄文を横位・多段に施文し、浮線文を斜位に施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第73図 PL.34	6	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E13	RL縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の連続爪形文を横位や木葉状に施す。内面丁寧な横位磨き、外面やや被熱風化。	諸磯b式
第73図 PL.34	7	縄文土器 鉢	覆土 胴部破片					D5	沈線の横帯文を施し、区画内にLR縄文を充填施文して沈線文をナゾリ返す。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式
第73図 PL.34	8	縄文土器 そろばん玉 形土器	覆土 頸部～胴部上位 1/5					E5	無文で体部上位が「く字状」に強く内折する。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。外面の一部が円形状に剥落。	加曾利B 3式
第73図 PL.34	9	礫石器 凹石	覆土 完形	長幅	9.5 6.8	厚重	4.0 327.7	粗粒輝石安山岩	表裏面のほぼ全面に滑らかな面が認められる。表裏面の中央に浅鉢状の凹みが認められる。表面の下方には線条痕が認められる。	
第73図 PL.34	10	礫石器 石皿	覆土 完形	長幅	27.8 17.8	厚重	5.5 3610.9	ホルンフェルス	表裏面の中央付近に滑らかな面が認められる。全体的に自然面と判断され円礫を利用する。	

10号土坑

第74図 PL.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E12	RL縄文を横位・多段に施文。内面被熱風化・荒れ、煤状炭化物付着。	諸磯b式
第74図 PL.35	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E38	LR縄文を横位施文し、半截竹管状具の集合沈線文を縦・斜位に施す。内面横位磨き。	諸磯c式

14号土坑

第74図 PL.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					B15	波状口縁で、波頂下が靴先状に突出する。細い半截竹管状具により平行沈線文や蕨手状の渦巻文を施す。内外面共に被熱風化・荒れ、縄文施文の有無不明。	諸磯b式
第74図 PL.35	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D5	口縁が短く内折。口縁部に細い半截竹管状具の横位平行沈線文を施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・煤状炭化物付着。	諸磯b式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第74図 PL.35	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部1/4				F2	RL縄文を縦位に密接施文し、細い半截竹管状具の平行沈線により羽状・菱形・懸垂状の集合沈線文を施す。内面胴部上位横・斜位・同下位縦位の粗い磨き。内外面共にやや被熱風化・外面煤状炭化物付着。	諸磯c式
第74図 PL.35	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部1/5				F4	RL縄文を縦位に密接施文し、細い半截竹管状具の平行沈線により矢羽根状・懸垂状の集合沈線文を施す。内面横・縦位磨き。内外面共にやや被熱風化、内面一部剥落。	諸磯c式
18号土坑									
第75図 PL.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				C9	RL縄文を横位施文。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式
19号土坑									
第75図 PL.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E36	浮線文の形骸化した半截竹管状具の連点状刺突文を横・斜位に施す。内外面共に被熱風化・荒れのため、縄文施文の有無不明。	諸磯b式
21号土坑									
第75図 PL.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D9	低平な浮線文を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	諸磯b式
第75図 PL.35	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				C14	L縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の平行沈線文を多段に施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第75図 PL.35	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E13	RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の連続爪形文を横位に施す。内面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
22号土坑									
第75図 PL.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E13	沈線懸垂文を施文後に櫛歯状具の条線文を縦位に施す。内面縦位磨き。	加曾利E 3式
第75図 PL.35	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E15	R捺糸文を縦位に密接施文し、半截竹管状具の重ね引き平行沈線文を横位に施す。内面縦位磨き。	加曾利E 1式
第75図 PL.35	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				C14	RL縄文を横位施文。内面丁寧やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
12号土坑									
第76図 PL.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				D1	小突起を付した波状口縁。RL縄文を横位施文し、浮線文を横位に施す。内面横位磨き。	諸磯b式
13号土坑									
第76図 PL.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				D1	RL縄文を斜位に施す。内外面共にやや被熱風化、外面煤状炭化物付着。	諸磯b式
第76図 PL.35	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				E13	口縁部に隆帯文を横位に施す。内面横位磨き。	加曾利E 1式
15号土坑									
第76図 PL.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				A2	RL縄文を横位施文。内面横位磨き。	黒浜式
第76図 PL.35	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D29	RL縄文を横位施文し、やや低平な浮線文を横・斜位に施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第76図 PL.35	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				F4	波状口縁で、波頂下が靴先状に突出する。RL縄文を横位・多段に施文し、細い半截竹管状具の平行沈線文や箒手状の渦巻文を施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化。	諸磯b式
第76図 PL.35	4	剥片石器 打製石斧	一括 1/2	長幅 (9.8) (6.4)	厚重 2.7 211.4		ホルンフェルス	側辺部には全体的に両面加工が認められる。左右両側辺の中央付近にはつぶれ痕が認められる。下側面は折断面であるが表面の下端部には下方の折断面を打面とする剥離痕が多数認められる。また表面の下端部と折断面との境界の稜上にはつぶれ痕が認められ、下方折断面は敲打面として利用されたと考えられる。	
16号土坑									
第77図 PL.35	1	礫石器 石皿	覆土 1/2	長幅 (20.1) (15.2)	厚重 (6.7) 1488.6		粗粒輝石安山岩	表面の磨り面には中央付近に小さな漏斗状の孔が多数認められ石皿から転用された可能性がある。下方には掃出し部が形成される。裏面には漏斗状の孔が多数認められる。縁から側面及び裏面にかけては曲面で構成され整った形態であることから全体的に整形されていると考えられる。	
17号土坑									
第77図 PL.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E41	L縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
28号土坑									
第78図 PL.36	1	縄文土器 鉢	覆土 口縁部破片				D7	細密なLR縄文を横位施文。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B 2式
第78図 PL.36	2	縄文土器 鉢	覆土 胴部破片				D7	沈線の横帯文を施し、区画内にRL縄文を充填施文して沈線文をナゾリ返す。内外面共に丁寧な横位磨き。	加曾利B 2式
第78図 PL.36	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D7	沈線の横帯文を施し、区画内にやや細密なLR縄文の充填や対弧状の縦区切り文を施文して沈線文をナゾリ返す。内面丁寧な横位磨き、内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B 2式
第78図 PL.36	4	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				C1	口縁部の横位篋削り整形痕を残した部位に細い斜線文を施し、内面口唇部下に横線文を施文。内面横位磨き。	加曾利B 2式
第78図 PL.36	5	縄文土器 鉢	覆土 胴部破片				D17	沈線の横帯文を施し、円形貼付文を付す。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B 3式

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第78図 PL.36	6	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D7	波状口縁。く字状に緩く内折する口縁部に3条の横線文と瘤状の小突起を付し、下位に細い斜線文を施す。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	高井東式
第78図 PL.35	7	縄文土器 土器片加工 円板	覆土 胴部破片	長 径	4.0	厚 重	18.2	E45	深鉢土器破片を円形状に打割整形し、周縁部に磨耗痕を持たない。	中期後半
第78図 PL.36	8	石製品 砥石	覆土 1/2	長 幅	(11.6) (8.5)	厚 重	(3.1) 320.0	凝灰質砂岩	表裏面には平坦で非常に滑らかな面が認められ砥面と判断した。表面の上方には敲打痕が集中する。	
33号土坑										
第78図 PL.36	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					C1	甕状具の沈線文を羽状に施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曾利B 2式
30号土坑										
第79図 PL.36	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E21	口縁部に横線文を施し、列点状刺突文を施文。内外面共に横位磨き。	堀之内1式
第79図 PL.36	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					F8	無文の粗製深鉢土器。外面砂粒の移動痕を残す斜位磨きで、内面やや粗い横・斜位指撫で。内外面共にやや被熱風化。	堀之内1式
第79図 PL.36	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					B3	棒状具のやや浅い沈線J字文を施す。内面やや粗い縦位磨き。	堀之内1式
第79図 PL.36	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E40	棒状具のやや浅い縦位沈線文区画内に列点状の刺突文を施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	堀之内1式
第79図 PL.36	5	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅	10.7 9.5	厚 重	4.6 696.7	粗粒輝石安山岩	表裏面のほぼ全面に非常に滑らかな面が認められる。左右両側面には敲打痕が集中する。左側面側からの剥離面が表裏面に認められるが敲打により生じたと考えられる。	
35号土坑										
第79図 PL.36	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					B15	LR縄文を横位施文し、2本単位の隆帯文をクランク状に施す。内面縦位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	加曾利E 1式
第79図 PL.36	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					D19	L撚糸文を縦位に密接施文し、横線文を施す。内面縦位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曾利E 1式
38号土坑										
第80図 PL.36	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					D17	LR縄文を縦位に施文し、断面三角形隆線の蛇行懸垂文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利E 3式
第80図 PL.36	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					D2	半截竹管状具の平行沈線文をやや乱雑な斜格子状に施し、交点に刺突文を施文。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式
47号土坑										
第80図 PL.36	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E13	細い半截竹管状具の集合沈線文を縦位や菱形状に施文。内外面共に被熱風化・荒れ、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯c式
第80図 PL.36	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					C2	波状口縁。半截竹管状具の連続爪形文を横位や縦位に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、内面煤状炭化物付着。	諸磯b式
39号土坑										
第81図 PL.37	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E12	波状口縁か。外側に折り返し状に肥厚する口唇部。波頂部下に半截竹管状具の4条の平行沈線文を懸垂文的に縦位施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面に煤状炭化物付着。	堀之内1式
第81図 PL.37	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E13	RL縄文を横位・多段に施文。内面縦位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯a式
42号土坑										
第81図 PL.37	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E4	いわゆる連弧土器で、櫛歯状具の条線文を縦位に密接施文し、3条単位沈線の連弧文を施す。	加曾利E 2式
第81図 PL.37	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D5	LR縄文を横位施文。内面縦位磨き。	諸磯b式
44号土坑										
第81図 PL.37	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E3	RL縄文を横位施文し、浮線文を口唇部上面には窓枠状に、口縁部には横位や蕨手状に施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第81図 PL.37	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E5	RL縄文を縦位施文し、半截竹管状具の2単位の平行沈線を懸垂文的に施す。内面横・縦位磨き。	加曾利E 2式
41号土坑										
第81図 PL.37	1	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長 幅	14.0 8.0	厚 重	2.2 296.1	変質安山岩	側辺部はほぼ全体に両面加工が認められる。裏面の中央には自然面が広く認められ円礫を利用する。	
第81図 PL.37	2	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅	10.0 6.8	厚 重	6.1 562.5	粗粒輝石安山岩	表裏面の中央付近に非常に滑らかな面が認められる。	
第82図 PL.37	3	礫石器 石皿	覆土 1/4	長 幅	(22.6) (16.1)	厚 重	(9.9) 3787.0	粗粒輝石安山岩	表面にすり面がみとめられ中央付近が非常に滑らかである。表面下方側に掃出口が形成される。裏面も全体的に滑らかでありすり面として機能したと考えられる。表面と裏面を中心に漏斗状の孔が多数認められる。側面は全体的に曲面で構成されるが自然面であるか判断できない。	
第82図 PL.37	4	礫石器 石皿	覆土 1/4	長 幅	(16.0) (15.5)	厚 重	(7.9) 2310.9	粗粒輝石安山岩	表面のすり面には非常に滑らかな部分が認められる。縁と裏面には漏斗状の孔が散在する。縁から裏面にかけては曲面で構成されるが自然面であるか判断できない。	
第82図 PL.37	5	石製品 砥石	一括 完形	長 幅	11.3 5.0	厚 重	1.3 77.3	凝灰質砂岩	表裏面は全体的に非常に滑らかであり細かい線条痕が多数認められる。左右両側辺は鋭角に作出されている。表裏面の左右両側辺付近は特に滑らかであり両側辺に平行な稜がされている。	
第82図 PL.37	6	礫石器 多孔石	覆土 不明	長 幅	(14.0) (12.4)	厚 重	(6.2) 986.5	粗粒輝石安山岩	表面に漏斗状の孔が複数認められる。赤褐色部分が認められ受熱の可能性がある。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	29.3 25.8	厚 重	16.3 12725.0			
第83図 PL.37	7	礫石器 多孔石	覆土 完形					粗粒輝石安山岩	表裏面に漏斗状の孔が多数認められる。表面の上方に非常に滑らかな部分が認められる。全体的に自然面であるか判断できない。	
46号土坑										
第83図 PL.37	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部中位1/5	口	(32)			B8	2条単位の横位変形爪形文を上下2段に施し、その間に半截竹管状具の平行沈線文を羽状に施文。内面斜位磨き、一部に煤状炭化物付着。	浮島Ⅱ式
第83図 PL.37	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部上位1/2	口	(25.5)			E24	口縁部～胴部に0段多条RL・LRの結束第1種縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式併行
第83図 PL.37	3	縄文土器 土器片加工 円板	覆土 完形	直径	2.9	厚	0.6 7.1	D5	深鉢土器破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を持つ。	諸磯b式
第83図 PL.37	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E15	RL縄文を横位施文し、やや粗大な浮線文を横位・多段に施す。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式
第83図 PL.37	5	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部1/5	口	(21)			B2	口唇部上面に棒状具による八字状の刻み目を施し、以下にL縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き、外面やや被熱風化・煤状炭化物付着。	諸磯b式併行
第84図 PL.37	6	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					D5	口唇部上面に刺突文を施す。口縁部に半截竹管状具の波状文や、連続爪形文と刻み目状の斜位短沈線文を付加した横位隆帯文を施文。内面丁寧な横位磨き、外面やや風化・一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第84図 PL.38	7	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					B2	LR縄文を横位・多段に施文。内面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第84図 PL.38	8	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E27	細い半截竹管状具の平行沈線でやや弛緩した米字文を施文。内面やや粗い横・縦位磨き、外面被熱風化・荒れ・煤状炭化物付着。	諸磯b式
第84図 PL.38	9	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					B5	半截竹管状具の幅狭な平行沈線で小波状文を横位・多段に施す。内面被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第84図 PL.38	10	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E33	アナダラ属の大柄な波状貝殻文を横位・多段に施文。内面やや粗い縦位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	浮島式
第84図 PL.38	11	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					G3	口唇部に棒状具の刻み目状の斜位短沈線文を施し、下に半截竹管状具の2条単位の変形爪形文と笠状具の菱形文を施文。内面丁寧な横位磨き、外面煤状炭化物付着。	浮島Ⅱ式
51・52号土坑										
第84図 PL.38	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					B5	RL縄文を横位施文。内外面共に被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第84図 PL.38	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					D15	LR縄文を縦位・密接施文し、棒状具の沈線文を施す。内外面共に被熱風化・荒れ。	加曽利E2式
52号土坑										
第84図 PL.38	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E12	口端部に円形刺突文を施し、以下に棒状具の横・縦位の沈線文を施文。内面やや粗い横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	堀之内1式
50号土坑										
第84図 PL.38	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D9	L縄文を横位・多段に施文し、浮線文を横位・多段に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面煤状炭化物付着。	諸磯b式
第84図 PL.38	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E29	細沈線のV字状区画文を施し、LR縄文を充填施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曽利E4式
53号土坑										
第85図 PL.38	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D13	棒状具の沈線区画文を施す。外面口縁部横位・胴部縦位磨き、内面横位磨き。	堀之内1式
第85図 PL.38	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D2	やや肥厚・内折する口端部に凹線状の横線文を、胴部に棒状具の沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ・一部剥落・煤状炭化物付着。	堀之内1式
第85図 PL.38	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					D16	L縄文を横位施文し、浮線文を横位・多段に施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第85図 PL.38	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					C8	LR縄文を縦位施文し、凹線状の幅広沈線文を横位に施す。内面横位磨き。	加曽利E3式
54号土坑										
第85図 PL.38	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部中位1/6	口	(25.5)			E35	短く外反する口唇部上面に斜位の刻み目を施す。口縁部に隆線文を横位や弧状・渦巻状に施し、その上面および口唇部下にRL縄文を施文。胴部にはL縄文を横位・多段に施す。内外面共にやや被熱風化。外面煤状炭化物付着、内面荒れ・剥落。	諸磯b式併行
第85図 PL.38	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D1	L縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の平行沈線文を横・斜位に施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第85図 PL.38	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D11	RL縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の平行沈線文内に矢羽条刻み目を付加した擬似的な浮線文や横線文を施す。内面縦位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第85図 PL.38	4	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D5	口唇部上面に斜位の刻み目を施し、以下にL縄文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き、外面やや被熱風化。	諸磯b式併行
第85図 PL.38	5	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D5	半截竹管状具の連続爪形文を横位や木葉状に施し、部分的にRL縄文を充填施文。内面丁寧な横位磨き、外面煤状炭化物付着。	諸磯b式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第85図 PL.38	6	縄文土器 浅鉢	覆土 口縁部～胴部中 位1/5	口	(7)			D17	ミニチュア的な有孔浅鉢。括れ部に直径3mmの焼成前穿孔を12mm間隔で施す。内外面共に横位磨き。	諸磯b式
第85図 PL.38	7	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部下 半2/3	口	14.5			E2	口縁部～胴部下位にL縄文や同縄文の開端自縛による結節縄文を横位・多段に施文。内面口縁部横位・胴部縦位の磨き。	諸磯b式
第85図 PL.38	8	縄文土器 深鉢	覆土 胴部下位～底部 2/3	口	16.0			D8	RL縄文を横位・多段に施文し、横位の低平な浮線文を多段に施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。内面横位磨き、内外面共に一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第86図 PL.38	9	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部上 半1/2	口	40.5			G2	口唇部に棒状具の斜位刻み目を、口縁部と括れ部に半截竹管状具の横位変形爪形文を施し、その間隙に同具の菱形文を施文。胴部はアナダラ属の波状貝殻文を多段に施すが、放射肋を引きずる施文で条線化。内面横・縦位の磨き。内外面共にやや被熱風化・胴部下半に煤状炭化物付着。	浮島Ⅲ式
第86図 PL.38	10	剥片石器 打製石斧	覆土 1/2	長 幅	(6.1) (4.6)	厚 重	(2.1) 67.4	細粒輝石安山岩	左右両側面には両面加工が認められる。表面の中央付近には摩滅痕が認められる。	

55号土坑

第86図 PL.39	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E21	口唇部が内側に鉤手状に突出。棒状具の深い沈線でJ字状の区画文を施し、LR縄文を充填施文。内面横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	称名寺I式
第86図 PL.39	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					F12	棒状具の深い沈線でJ字状の区画文を施し、LR縄文を充填施文。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。外面一部に煤状炭化物付着。	称名寺I式
第86図 PL.39	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					C21	口端部が複合口縁状に肥厚し、扁平・楕円形状の指頭圧痕を連鎖状に横位施文。内面横位磨き。	堀之内I式
第86図 PL.39	4	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D19	口端部に横線文や円形刺突文を施し、以下に2条の沈線文を縦位施文。内面横位磨き。	堀之内I式
第86図 PL.39	5	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					F5	2条の縦位沈線文を施す。外面斜位窺撫で痕を残す粗い斜位磨き、内面縦位磨き。内外面共にやや被熱風化。	堀之内I式
第86図 PL.39	6	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D2	口唇部内側が鉤手状に小さく突出。棒状具の深い沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文後に一部の沈線をナゾリ返す。内面縦位磨き、外面やや被熱風化。	堀之内I式
第86図 PL.39	7	縄文土器 鉢	覆土 口縁部破片					C7	口縁部にLR縄文を充填施文した横帯文や刻み隆線文を施し、以下に単沈線文を施文。内外面共に丁寧な横位磨き。	加曾利B3式
第86図 PL.39	8	縄文土器 鉢	覆土 口縁部破片					C7	口縁部にLR縄文を充填施文した横帯文や縦位の貼付文を施す。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	加曾利B3式
第86図 PL.39	9	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					B1	口縁部に斜線文をやや疎らに施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曾利B3式
第86図 PL.39	10	縄文土器 土器片加工 円板	覆土 胴部破片	長 径	3.3	重	12.2	D2	深鉢土器の破片を円形状に打割整形し、周縁部の一部に磨耗痕を持つ。	中期後半
第86図 PL.39	11	縄文土器 土器片加工 円板	覆土 胴部破片	長 径	3.3	重	13.3	F5	深鉢土器の破片を円形状に打割整形し、周縁部に磨耗痕を持たない。	後期前半
第86図 PL.39	12	剥片石器 石錐(ドリル)	一括 完形	長 幅	3.7 0.7	厚 重	0.4 0.9	黒色頁岩	表裏面のほぼ全面に両面加工が認められ尖頭部を作出する。裏面上端付近に素材剥片の主要剥離面がわずかに認められる。	
第86図 PL.39	13	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長 幅	11.5 4.9	厚 重	1.8 118.3	ホルンフェルス	先端刃部から左側辺にかけては両面加工が認められる。右側辺は片面加工である。表裏面の先端刃部付近には摩滅痕が認められる。右側面には自然面が広くあり部分的な剥離痕が認められ敲打により生じた可能性がある。	

56号土坑

第87図 PL.39	1	縄文土器 深鉢	覆土 頸部破片					D9	赤色塗彩した横位の隆施文に沿って角押文を施し、間隙部にL縄文を充填的に施文。内面横位磨き。	新巻類型
第87図 PL.39	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D12	波状口縁の波頂下に瘤状の小突起を付し、RL縄文を横位施文。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	諸磯b式
第87図 PL.39	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					B1	背割り状の曲隆線文に沿って半肉彫的な沈線文を渦巻状に施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曾利E1式 併行

57号土坑

第87図 PL.39	1	縄文土器 深鉢	覆土 頸部～胴部下 位1/5					E2	L撚系文を斜位に密接施文し、半截竹管状具の平行沈線文を横位に施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化・煤状炭化物付着。	加曾利E1式 併行
第87図 PL.39	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E13	アナダラ属の波状貝殻文を横位に施し、下位に同具による横線状の接続した刺突文を施文。内面横位磨き、外面やや被熱風化・煤状炭化物付着。	浮島式
第87図 PL.39	3	縄文土器 深鉢	覆土 頸部破片					B1	RL縄文を横位施文し、浮線文を横位やX字状に施す。内面丁寧な横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式

90号土坑

第87図 PL.39	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部上 位1/4	口	(30)			D25	眼鏡状把手を付した波状口縁。R撚系文を縦位に密接施文。口縁部は眼鏡状把手に接続する横位の隆帯文や沈線文・渦巻文を施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・一部剥落、外面煤状炭化物付着。2と同一個体。	加曾利E1式
第87図 PL.39	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D25	1と同一個体。	加曾利E1式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第87図 PL.39	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					B20	内面側に口唇端部が突出。R 撚糸文を縦位・密接施文し、口縁部に棒状具の鋸歯状交互刺突による波状文を3条施す。内面丁寧な横位磨き、外面煤状炭化物付着。	三原田式
第88図 PL.39	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部1/5					E15	RL縄文を縦位に密接施文。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曾利E1式
第88図 PL.39	5	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E27	半截竹管状具の集合沈線文を横・斜位に施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第88図 PL.39	6	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					D2	RLとLR縄文を横位・交互に施文して、羽状または菱形意匠を構成か。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式?
第88図 PL.39	7	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長 幅	12.0 6.0	厚 重	2.3 155.5	黒色頁岩	左右両側辺には両面加工が認められる。先端刃部には微細剥離痕がわずかに認められるが二次加工痕は集中していない。表面には素材剥片の主要剥離面が大きく認められ大形の横長剥片を利用する。裏面には自然面を大きく残り円礫を利用する。	

59号土坑

第88図 PL.40	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					B1	口縁部にLR縄文を横位施文し、口唇下を10mm幅で横位に磨り消す。下位に横線文を施文。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B3式
第88図 PL.40	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D3	内面口唇部下に横線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨き、外面煤状炭化物付着。	堀之内2式
第88図 PL.40	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D2	いわゆる魚尾状の大形突起を付す波状口縁。瘤状の貼付文を施す。	高井東式

62号土坑

第88図 PL.40	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E42	口縁部に横線文を施すが、他の文様は不明。内外面共にやや被熱風化、外面一部剥落。	堀之内1式
第88図 PL.40	2	縄文土器 鉢	覆土 口縁部破片					C7	口縁部にLR縄文を充填施文した横帯文や刻み隆線文を施し、以下に斜線文を施文。内外面共に丁寧な横位磨き。	加曾利B3式
第88図 PL.40	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E42	短沈線状に間延びした縦位の列点文や沈線文を施す。内面横・縦位磨き、外面煤状炭化物付着。	堀之内1式
第88図 PL.40	4	縄文土器 注口土器?	覆土 体部破片					D1	破片右上に注口部と想定される剥落痕あり。2条の縦位沈線文間に棒状具の刺突文を充填し、外縁にLR縄文を充填的に施文。内面やや粗い横位磨き。	堀之内1式

63号土坑

第89図 PL.40	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部中位2/3	口	25.4			D20	口端部の対向する2箇所に8字状の小突起を付す。胴部に単沈線によるJ字状の区画文を施し、LR縄文を充填施文。内面口縁部に凹線状の幅広沈線文を施す。内面口縁部横位・胴部縦位の磨き。外面胴部の一部に煤状炭化物付着。	堀之内1式
第89図 PL.40	2	縄文土器 鉢	覆土 口縁部破片					C18	内削ぎ状の内面口唇部下に横線文を施す。外面は無文。内外面共に横位磨き、外面は燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B2式
第89図 PL.40	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部中位1/6	口	(41)			C11	外面に折り返す複合口縁部に指頭による鎖状押印文を施す。胴部には櫛状具の弧線文を等間隔に施文。外面斜位の磨き、内面口縁部横位・胴部縦位の磨き。	加曾利B2式
第89図 PL.40	4	縄文土器 深鉢	覆土 底部1/4	口	(9.5)			E42	底外面に大柄な網代痕。内外面共に丁寧な横位磨き、内面燻べ焼きで黒色の光沢を帯びる。	後期中葉
第89図 PL.40	5	縄文土器 鉢	覆土 口縁部1/6	口	(16.5)			C1	口縁部はやや細密な1帯の横位LR縄文や、その下位にやや乱雑な2条の沈線文と刺突文を施す。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B3式
第90図 PL.40	6	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					C1	口縁部は砂粒の移動痕を残す斜位磨き後に、口唇下を10～15mm幅で横位磨き。内面口唇部下に2条の横線文を施文。内面横位磨き。	加曾利B2式
第90図 PL.40	7	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D1	口縁部は砂粒の移動痕を残す斜位磨き後に、横位磨き。内面口唇部下に6条の細い横線文を施文。内面丁寧な横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曾利B2式
第90図 PL.40	8	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					C1	波状口縁。やや内削ぎ状の口唇部。粗い羽状文を施す。内面丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B3式
第90図 PL.40	9	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D7	LR縄文を横位施文し、横線文を施す。内面口縁部にも横線文を施す。内面丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B2式
第90図 PL.40	10	剥片石器 石鏃	一括 完形	長 幅	1.6 1.2	厚 重	0.3 0.2	黒曜石	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。左右両側辺は鋸歯状を呈する。	凹基無茎鏃

67号土坑

第90図 PL.40	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E5	尖頭状具の浅い沈線区画文を施し、斜位下方からの同具の刺突列点文を充填施文。内面横位磨き。	堀之内1式
第90図 PL.40	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					D2	半截竹管状具の平行沈線文を対弧状に縦位施文。外面砂粒の移動痕を残すやや粗い斜位磨き、内面縦位磨き・一部に煤状炭化物付着。	加曾利B2式

64号土坑

第90図 PL.41	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					A2	RL縄文を横位・多段に施文。内面縦位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	黒浜式
第90図 PL.41	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					A6	RL縄文を横位施文。内面横位磨き。	黒浜式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図 PL.41	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				A2	RL・LR縄文を横位・交互に施文し、半截竹管状具の連続爪形文を横・斜位に施す。内面丁寧な縦位磨き。	黒浜式
65号土坑									
第90図 PL.41	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部上 半1/3	口	(33)		D19	RL縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の連続爪形文を口縁部には横位、胴部には鋸歯状に施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	諸磯b式
66号土坑									
第91図 PL.41	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				E5	短く内折する口唇部内面に横線文を施す。口縁部は刻み隆線文を施文。内面横位磨き。	堀之内2式
第91図 PL.41	2	縄文土器 鉢	覆土 口縁部破片				C1	口縁部に横線文を施し、LR縄文を充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B2式
第91図 PL.41	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				F5	口唇部に捻転状の小突起を付す波状口縁。口縁部に斜線文を施す。内面横位磨き。	加曾利B2式
第91図 PL.41	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E5	細い棒状具の縦位沈線文を弧状に施す。内面丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。外面砂粒の移動痕を残す筥撫で後、縦位磨き。	加曾利B2式
68号土坑									
第91図 PL.41	1	縄文土器 注口土器	覆土 肩部破片				D2	細い半截竹管状具の入組状S字文や横位集合沈線文と斜位刻み目文等を重帯施文。内面指頭状の押圧痕を残す横位撫で、外面やや風化・荒れ。	加曾利B1式
第91図 PL.41	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				D2	LR縄文を横位・多段に施文。内面口唇部下に横線文を施す。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B2式
第91図 PL.41	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				F11	LR縄文を横位・多段に施文。内面口唇部下に横線文を施す。内外面共に被熱風化・荒れ。	加曾利B2式
第92図 PL.41	4	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				C21	口唇部外端に円形貼付文状の小突起を付す。口縁の内外面に横線文を施す。内面横位磨き。	加曾利B2式
第92図 PL.41	5	縄文土器 浅鉢	覆土 胴部中位～底部 破片				E15	筥状具の細い横線文で上下に区画した中に、羽状沈線文を施す。内外面に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B2式
第92図 PL.41	6	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部 中位破片				E15	胴部中位に凹線状の横線文を施し、口縁部から筥状具の細い沈線文を縦位・散漫に施文。外面口縁部～胴部中位砂粒の移動痕を残す撫で状の斜位磨き、胴部下位横位磨き。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B2式
第92図 PL.41	7	縄文土器 鉢	覆土 口縁部～底部 1/2	口	(14)	高 7.3	D12	口縁部に対弧文や磨消弧線文を施し、外縁に細密なLR縄文を充填的に施文。体部の屈曲部には刻み隆線文を、下位には縦連対弧文や2帯の磨消弧線文を施し、外縁に擦痕状の整形痕を残す。内外面共に丁寧な磨きと燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B2式
第92図	8	縄文土器 深鉢	覆土 底部1/5	底	(11)		D12	外底面にやや大柄な網代痕。内面横位磨き、内外面にやや被熱風化、一部剥落。	後期中葉
第92図	9	縄文土器 深鉢	覆土 底部1/5	底	(9)		D5	外底面に網代痕。内面横位磨き、内外面にやや被熱風化・荒れ。	後期中葉
第92図 PL.41	10	礫石器 石皿	覆土 不明	長 幅	(14.1) (13.7)	厚 重	(5.3) 803.2	粗粒輝石安山岩	表面の磨り面は中央付近が特に滑らかである。裏面には漏斗状の孔が多数認められる。縁から側面及び裏面にかけては曲面で構成され整った形態であることから全体的に整形されていると考えられる。
69号土坑									
第93図 PL.42	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				D10	波状口縁の波頂部に刺突を施す。スベード状の沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ、内面煤状炭化物付着。	称名寺I式
第93図 PL.42	2	縄文土器 台付異形注 口土器	覆土 括れ部～台部 ほぼ完存	底	9.4		E42	口頸部を欠損。対向する1対の注口と3条の沈線文を施す小把手を持つ。括れ部～台部にかけて幅10mm前後の間隔で帯状の横線文を16～18段に施し、区切り文的にX字状弧線文を縦連させて楕円形の意匠を構成。内面やや粗い横位磨き、外面著しい風化・荒れ。	後期後葉
第93図 PL.42	3	礫石器 石皿	覆土 完形	長 幅	22.1 14.3	厚 重	6.9 2321.9	溶結凝灰岩	表面の中央付近に滑らかな面が認められる。円礫を利用する。
72号土坑									
第94図 PL.42	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E18	隆帯区画文に沿って2列の角押文を施す。内面撫で状のやや粗い横位磨き、外面やや被熱風化・煤状炭化物付着。	阿玉台II式
第94図 PL.42	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				D5	LR縄文を横位施文し、半截竹管状具の平行沈線文を横位に施す。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式
73号土坑									
第94図 PL.42	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D11	L撚糸文を縦位に密接施文し、半截竹管状具の平行沈線文を横位・帯状に施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利E1式 併行
第94図 PL.42	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E44	半截竹管状具に集合沈線文を横・斜位に施す。内面丁寧な横位磨き、外面被熱風化・荒れ。	諸磯b式
74号土坑									
第95図 PL.42	1	縄文土器 浅鉢	覆土 体部破片				B22	複数段に屈曲する無文浅鉢。内面やや粗い横位磨き、内外面共に風化・荒れ。	諸磯b式
第95図 PL.42	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				D6	波状口縁の波頂下に瘤状の小突起を付す。RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の平行沈線文を横位や渦巻状に施す。内面やや粗い横位磨き、	諸磯b式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第95図 PL.42	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E13	RL縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の平行沈線文を横位・多段に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第95図 PL.42	4	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E18	く字状に内折する口縁部に半截竹管状具の平行沈線文を横・斜位に施文。内面やや粗い横位磨き。	諸磯b式
第95図 PL.42	5	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					D18	RL縄文を横位施文し、浮線文を横位に施す。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第95図 PL.42	6	礫石器 磨石	土坑 完形	長幅	5.7 5.1	厚重	4.0 153.2	粗粒輝石安山岩	ほぼ全面が滑らかである。下端部付近に敲打痕がわずかに認められる。	
第95図 PL.42	7	礫石器 凹石	土坑 1/2	長幅	(5.8) 9.4	厚重	2.6 158.4	粗粒輝石安山岩	表裏面の中央に漏斗状の凹みが認められる。表裏面のほぼ全面が滑らかである。上端部に敲打痕が集中する。表面に敲打痕が散在する。	

75号土坑

第95図 PL.43	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部下位2/3	口	49.5			F12	断面三角形の微隆起線により懸垂文を施し、LR縄文を充填的に施文。内面胴部上半横位・同下半縦位磨き。内外面共にやや被熱風化・胴部上半一部に煤状炭化物付着。	加曾利E4式
第96図 PL.43	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部下位2/3	口	21.2			F12	口縁部に1個の橋状取手を付す。口頸部にV字状の、胴部に逆V字状の沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。区画文はナゾリ返す。内面口頸部横位・胴部縦位磨き。外面煤状炭化物付着。	加曾利E4式
第96図 PL.43	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部中位1/2	口	(25)			F12	口頸部にV字状の、胴部に逆V字状の沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。区画文は一部を除きナゾリ返す。内面横位磨き。内外面共に被熱風化・煤状炭化物付着。	加曾利E4式
第96図 PL.43	4	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部中位1/4	口	(30)			F12	断面三角形の微隆起線により懸垂文を施し、LR縄文を充填的に施文。内面胴部上半横位・同下半縦位磨き。内外面共にやや被熱風化・一部に煤状炭化物付着。	加曾利E4式
第96図 PL.43	5	縄文土器 注口土器	覆土 口頸部1/2	口	(7.5)			E2	瓢形の注口土器。口縁部に1対の橋状取手を付すか。断面三角形の微隆起線により渦巻文を4単位に施す。内・外面赤色塗彩。内外面共にやや風化・一部剥落。	加曾利E4式
第97図 PL.43	6	縄文土器 土器片加工 円板	覆土 完形	直径	3.7	厚重	0.7 15.2	B22	深鉢土器破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を持つ。	諸磯b式
第97図 PL.43	7	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					C2	口縁部の隆線文上面やその区画内に、幅広の連続爪形文・三角押文などを施す。内面横位磨き、内外面共に一部に煤状炭化物付着。	勝坂2式
第97図 PL.43	8	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D5	RL縄文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式
第97図 PL.43	9	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E5	RL縄文を横位施文し、浮線文を蕨手状に施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第97図 PL.43	10	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E19	波状口縁。円形竹管状具の横線文や刺突文と連弧文を施し、部分的にRL縄文を充填施文。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利E3式
第97図 PL.43	11	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E3	口縁部に低平・幅広な隆帯や凹線状の沈線で楕円区画文を施し、RL縄文を充填施文後に沈線文のなぞり返し。内面横位磨き。	加曾利E3式
第97図 PL.43	12	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E3	頸部に無文帯を構成。胴部にRL縄文を横・斜位に施文し、棒状具の横線文や渦巻文・懸垂文等を施す。内面横・斜位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	加曾利E2式
第97図 PL.43	13	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					G4	外削ぎ状の口唇部に刻み目状の縦位短沈線文を施し、下位に変形爪形文を複数段に横位施文。内面丁寧な横位磨き。	浮島II式
第97図 PL.43	14	縄文土器 深鉢	覆土 胴部下位～底部 完存	底	5.3			E14	底径の小さい深鉢土器。内面横位磨き、外面被熱風化・荒れ。	中期末葉
第97図 PL.43	15	縄文土器 深鉢	覆土 胴部下位～底部 1/2	底	(6)			E43	底径の小さい深鉢土器。内外面共に縦位磨き、外面やや被熱風化・一部に煤状炭化物付着。	中期末葉
第97図 PL.43	16	剥片石器 石鏃	覆土 完形	長幅	2.4 1.8	厚重	0.4 1.3	チャート	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。	凹基無茎鏃
第97図 PL.43	17	剥片石器 スクレイ パー	覆土 完形	長幅	6.5 3.4	厚重	1.2 29.1	黒色頁岩	側辺部のほぼ全体に二次加工が認められる。右側辺には両面加工が集中し機能部と想定される。裏面には素材剥片の主要剥離面が広く認められ横長剥片を素材とする。表面には自然面が広く残り円礫を利用する。	
第97図 PL.43	18	礫石器 凹石	覆土 完形	長幅	11.5 7.3	厚重	4.4 377.2	粗粒輝石安山岩	表裏面の中央やや上方に浅鉢状の凹みが認められる。	
第97図 PL.43	19	礫石器 磨石	覆土 完形	長幅	5.4 4.3	厚重	3.8 109.3	粗粒輝石安山岩	表面の中央付近に滑らかな面が認められる。	

77号土坑

第98図 PL.44	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部下位2/3	口	21.2			E40	不規則4単位の波状口縁。L撚糸文を縦位密集施文し、口縁部に隆帯のS字状渦巻文を6単位に施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化。	加曾利E1式
第98図 PL.44	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E5	RL縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の平行沈線文内に矢羽条刻み目を付加した擬似的な浮線文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面煤状炭化物付着。	諸磯b式
第98図 PL.44	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E3	口縁部にRL縄文を横位施文し、隆帯区画文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面煤状炭化物付着。	加曾利E1式

87号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第98図 PL.44	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				D2	く字状に内折する波状口縁の波頂下に円形貼付文を施し、やや粗いRL縄文を散漫に施文。頸部は無文で、粗い横撫で調整。内面やや粗い横位磨き。内外面共にやや被熱風化、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式

86号土坑

第99図 PL.44	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D2	浮線文を横位・多段に施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化・煤状炭化物付着。	諸磯b式
第99図 PL.44	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				G4	外削ぎ状の口唇部に刻み目状の斜位短沈線文を施し、下位に変形爪形文を横位施文。内面丁寧な横位磨き、外面やや被熱風化・煤状炭化物付着。	浮島II式

89号土坑

第99図 PL.44	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D12	RL縄文を横位・多段に施文。内面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
---------------	---	------------	------------	--	--	--	-----	----------------------------	------

95号土坑

第99図 PL.45	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E3	RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の連続爪形文を横位に施す。内面丁寧な縦位磨き、外面やや被熱風化・一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第99図 PL.45	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E2	RL縄文を横位施文し、浮線文を横位・多段に施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式

91号土坑

第100図 PL.44	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				E17	波状口縁。LR縄文を横位施文し、円形や楕円形の沈線区画文を施す。内面横位撫で、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利E3式
----------------	---	------------	-------------	--	--	--	-----	--	--------

98号土坑

第100図 PL.45	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				B8	ハマグリ等の貝殻波状文を横位・多段に施文。内面横位磨き、外面やや被熱風化・一部に煤状炭化物付着。	浮島式
第100図 PL.45	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D2	RL縄文を横位施文し、横・縦位の低平な浮線文と連点状の刺突文を施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	諸磯b式

92号土坑

第101図 PL.44	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E5	RL縄文を横位・多段に施文し、浮線文を横位や菱形に施す。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第101図 PL.44	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E18	半截竹管状具の平行沈線文や押し引状の刺突文を施し、下位にハマグリ等の貝殻波状文を横位に施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	浮島式
第101図 PL.44	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E18	半截竹管状具の連続爪形文や円形竹管文を施し、隙間に篋状具の刻み目状の斜位短沈線文を充填的に施文。内面斜位磨き。	諸磯b式
第101図 PL.44	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E18	RL縄文を横位・多段に施文し、低平な浮線文を横位・多段や渦巻状に施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第101図 PL.44	5	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E9	RL縄文を横位・多段に施文し、低平な浮線文を横位に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第101図 PL.44	6	剥片石器 打製石斧	一括 1/2	長 幅	(7.3) 4.6	厚 重	2.4 91.0	黒色頁岩	表面と左右両側面には自然面が広く認められ棒状の円礫を利用する。右側辺にはつぶれ痕がわずかに認められる。

97号土坑

第101図 PL.44	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D2	RL縄文を横位施文し、浮線文や半截竹管状具の連続爪形文を施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
----------------	---	------------	------------	--	--	--	----	--	------

96号土坑

第102図 PL.44	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				E17	波状口縁。浮線文を横位・多段に施す。内面丁寧な縦位磨き。	諸磯b式
第102図 PL.44	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E40	低平な浮線文を横位・多段に施す。内面横位磨き、外面被熱風化・荒れ、一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式

100号土坑

第102図 PL.45	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E2	RL・LRの結束第一種縄文を横位・多段施文して、羽状の意匠を構成。内面丁寧な横位磨き。外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式併行
----------------	---	------------	------------	--	--	--	----	---	--------

101号土坑

第102図 PL.45	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E13	口唇部上面に刻み目を施し、浮線文を横位・多段に施文。内面横位磨き。	諸磯b式
第102図 PL.45	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E4	L撚糸文を縦位施文し、棒状具の横線文や懸垂文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面煤状炭化物付着。	加曾利E2式
第102図 PL.45	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				C2	く字状に内折する口縁部にRL縄文を横位施文。内外面共に丁寧な横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第102図 PL.45	4	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長 幅	9.7 5.7	厚 重	1.5 91.2	細粒輝石安山岩	先端刃部は片面加工が主體的であるが左右両側辺は両面加工である。表面には広く自然面が認められ円礫を利用する。

102号土坑

第102図 PL.45	1	縄文土器 浅鉢	覆土 口縁部～体部 1/5	口	(24)			C2	無文の浅鉢。外面口縁部横位・体部縦位磨き、内面横位磨き。内外面共に一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第102図 PL.45	2	縄文土器 浅鉢	覆土 口縁部～体部上 位2/3	口	21.4			E20	有孔浅鉢。口縁部に長径8～10mmの楕円形状の焼成前穿孔を25箇所前後に施す。体部には浮線文や連点状刺突文と半截竹管状具の連続爪形文を付加した平行沈線文で、藤手状や三角形の文様を施文。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第102図 PL.45	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				F6	LR縄文をやや不規則に施文し、半截竹管状具の平行沈線文を波状に施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第103図 PL.45	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E16	RL縄文を横位・多段に施文し、口頸部に3条単位の横位浮線文を多段に施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化・煤状炭化物付着。	諸磯b式
第103図 PL.45	5	縄文土器 浅鉢	覆土 肩部～体部上位 1/5				F6	複数段の屈曲部を持つ浅鉢。内外面共にやや粗い横位磨き、外面は赤色塗彩。	諸磯b式
第103図 PL.45	6	縄文土器 深鉢	覆土 底部1/2	底	(10)		D5	RL縄文を横位施文。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式
第103図 PL.45	7	剥片石器 打製石斧	覆土 1/3	長幅	(5.6) (4.0)	厚重	1.5 42.5	頁岩	側辺部には全体的に両面加工が認められる。表面の先端刃部付近には摩滅痕が認められる。上側辺は折断面であるが表面の上端部には折断面を打面とする剥離痕が認められる。
第103図 PL.45	8	礫石器 磨石	一括 完形	長幅	8.3 4.2	厚重	3.5 183.2	かこう岩	表面の中央付近、裏面全体から右側面にかけて滑らかな面が認められる。

103号土坑

第103図 PL.45	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					G4	有節沈線文やアナダラ属の貝殻縁文と細い半截竹管状具の平行沈線文などを施す。内面縦位磨き、内外面共にやや被熱風化・外面煤状炭化物付着。	浮島式
第103図 PL.45	2	縄文土器 深鉢	覆土 口頸部破片					C4	RL縄文を横位施文し、く字状に内折する口頸部に浮線文を横・斜位に施す。内面横位撫で。	諸磯b式
第103図 PL.45	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					B6	0段多条のRL・LR結束第一種縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式併行
第103図 PL.45	4	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E26	半截竹管状具の平行沈線文を横・斜位に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第103図 PL.45	5	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D2	外削ぎ状の口唇部に刻み目状の斜位単沈線文を施し、口縁部に半截竹管状具の横位の連続爪形文や波状文を施文。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式

104号土坑

第104図 PL.46	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E13	口縁部～胴部にRL縄文を横位・多段に施し、口唇部上面にも施文。内面横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第104図 PL.46	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					D17	RL縄文やL結節縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。	諸磯b式
第105図 PL.46	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					E28	半截竹管状具の集合沈線文を横位や菱形に施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式

105号土坑

第105図 PL.46	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片					D4	波状口縁。口唇部上面に刺突状の刻み目を施す。口縁部に横位の変形爪形文や刺突文を施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ、内面一部・外面煤状炭化物付着。	浮島式
第105図 PL.46	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					B4	ハマグリ等の貝殻波状文を横位・多段に施文。内面斜位磨き。	浮島式
第105図 PL.46	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部1/5	口	(48)			E22	波状口縁。口縁部～胴部にRL縄文を横位・多段に施文。口唇部と強く内湾する口縁部に浮線文を梯子状や渦巻状に施す。内面撫で状のやや粗い横位磨き。	諸磯b式

1号屋外炉

第106図 PL.46	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					C11	RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の集合沈線文を施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	諸磯b式
第106図 PL.46	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片					E38	RL縄文を縦位・密接施文し、蛇行状や平行状の隆線懸垂文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利E2式
第106図 PL.46	3	縄文土器 浅鉢	覆土 口縁部破片					C12	口唇部が内側に鉤手状に突出する無文浅鉢。内面丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。外面やや被熱風化・荒れ・一部剥落。	加曾利E2式
第106図 PL.46	4	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴上部 中位2/3	口	(30)			E17	口縁部にやや低平な隆帯の渦巻文や楕円区画文を施し、RL縄文を充填的に施文。胴部は同縄文を縦位に密接施文し、2本単位の沈線懸垂文や蛇行懸垂文を5単位に交互施文。内面著しい被熱風化・荒れ。	加曾利E3式

1区遺構外(縄文)

第107図 PL.46	1	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片					A4	波状口縁。やや粗大な連続爪形文を横位や菱形に施す。内面横位磨き。	有尾式
第107図 PL.46	2	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片					A7	RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内面横位磨き、外面被熱風化・荒れ。	有尾式
第107図 PL.46	3	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片					A3	櫛歯状具の集合沈線で横線文や波状文を交互施文。内面丁寧な横位磨き。	黒浜式
第107図 PL.46	4	縄文土器 深鉢	1区西覆土 底部1/3	底	(11)			A3	RL縄文を横位施文。底部はやや上げ底状。内外面共にやや被熱風化、内面煤状炭化物付着。	有尾～黒浜式
第107図 PL.46	5	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片					C20	RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の平行沈線文を斜位施文。内面横位磨き。	諸磯a式
第107図 PL.46	6	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片					G3	外削ぎ状の口唇部に刻み目を施し、以下に連続した三角文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き。	浮島Ⅲ式
第107図 PL.46	7	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部1/4					C13	半截竹管状具によるD字状の爪形文を縦列を基本に密接施文。内面横位撫で。	浮島式
第107図 PL.46	8	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片					G1	アナダラ属の波状貝殻文を横位・多段に施文。内面やや粗い横位磨き。	浮島式

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第107図 PL.46	9	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片				E33	アナダラ属の波状貝殻文を横位・多段に施文後、半截竹管状具の平行沈線文を複数条施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面上位に煤状炭化物付着。	浮島式
第107図 PL.46	10	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片				E10	アナダラ属の波状貝殻文を横位・多段に施文。内面やや粗い横位磨き、外面煤状炭化物付着。	浮島式
第107図 PL.46	11	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片				G3	アナダラ属の波状貝殻文を横位・多段に施文。内面やや粗い横位磨き。	浮島式
第107図 PL.46	12	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				E15	波状口縁の波頂部に口部表現のみのイノシシ顔面突起を付す。口唇部上面に貼付文や刻み目を施す。口縁部に浮線文を弧状に施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第107図 PL.46	13	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				E29	三頭状の小突起を付す波状口縁。RL縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の集合沈線文を横位や弧状に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第107図 PL.46	14	縄文土器 深鉢	1区西表 口縁部破片				F7	半截竹管状具の連続爪形文を横位に施文し、その間隙に刻み状の斜位短沈線文を施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第107図 PL.46	15	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				C5	口縁部が「く字状」に内折する波状口縁。細い半截竹管状具の集合沈線文を横位・多段に施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化。	諸磯b式
第107図 PL.47	16	縄文土器 深鉢	1区グリッド 口縁部破片				E2	口縁部が「く字状」に内折する波状口縁。RL縄文を斜位施文し、低平な浮線文を横位に施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第107図 PL.47	17	縄文土器 深鉢	1区西表 口縁部破片				B21	斜位の刻み目を施した幅広・低平な浮線状の隆帯文を縦・横位に施文し、間隙に半截竹管状具の連続爪形文を施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第108図 PL.47	18	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部破片				E42	波状口縁。浮線文の退嬰化した連点状刺突文を横・縦位に施文。内面横位磨き。	諸磯b式
第108図 PL.47	19	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				D2	RL縄文を横位施文。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式
第108図 PL.47	20	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				E2	RL縄文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き、外面煤状炭化物付着。	諸磯b式
第108図 PL.47	21	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部1/4				B2	L縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の平行沈線文を多段に施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・一部剥落、外面煤状炭化物付着。	諸磯b式
第108図 PL.47	22	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片				E32	棒状具の横線文や斜位短沈線文と櫛状具の有節平行線文を施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	興津式
第108図 PL.47	23	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片				C15	低平な2条単位の浮線文を横・斜位施し、同文の条間に連点状刺突文を施文。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第108図 PL.47	24	縄文土器 深鉢	1区グリッド 胴部破片				C11	RL縄文を横位・多段に施文し、浮線文を渦巻状や横帯状に施す。内面撫で状の横位磨き。	諸磯b式
第108図 PL.47	25	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片				E2	浮線文を横・斜位に施文。内面横位磨き。	諸磯b式
第108図 PL.47	26	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片				C2	LR縄文を横位・多段に施文。浮線状の横位隆線文を施文後、その上面に同縄文を横位施文する。内面撫で状の荒い横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式併行
第108図 PL.47	27	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片				E3	RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の連続爪形文を横・斜位に、その間隙に刻み状の斜位短沈線文を施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第108図 PL.47	28	縄文土器 浅鉢	1区覆土 口縁部～底部1/4				B14	3段の屈曲部を持つ無文浅鉢。外面赤色塗彩。内外面共に丁寧な横位磨き。	諸磯b式
第108図 PL.47	29	縄文土器 鉢	1区覆土 口縁部破片				D9	手捏ね状のミニチュア土器で、口唇部は未整形の凹凸を残す。口縁部は細い半截竹管状具の縦位集合沈線文を施す。内面粗い横位撫で、内外面共にやや風化。	諸磯c式
第108図 PL.47	30	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部破片				D9	口縁部に小耳状貼付文を、以下に細い半截竹管状具の集合沈線文を横・縦位に施す。内面横位磨き。	諸磯c式
第108図 PL.47	31	縄文土器 鉢	1区グリッド 口縁部破片				D2	RL縄文を横位・多段に施文し、円形貼付文や細い半截竹管状具の集合沈線文を横・縦位に施す。内面丁寧な横位磨き。	諸磯c式
第108図 PL.47	32	縄文土器 深鉢	1区覆土 頸部～胴部中位 1/3				D2	細い半截竹管状具の集合沈線文を弧状・対弧状に施す。上位の破断面は輪積み部分で欠損後に研磨されて平滑面を形成。内面横位磨き、外面胴部下位に煤状炭化物付着。	諸磯c式
第108図 PL.47	33	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部上位～下位 2/3				E31	LR縄文を横・斜位に施文し、半截竹管状具による対弧状の集合沈線文を施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯c式
第108図 PL.47	34	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				B22	断面三角形の隆線文を縦位に施し、篋状具の爪形文を横・縦位に施文。内外面共にやや被熱風化、外面一部に煤状炭化物付着。	阿玉台I b式
第108図 PL.47	35	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				B22	断面三角形の隆線文を逆U字状に施す。内外面共にやや被熱風化。	阿玉台I b式
第108図	36	縄文土器 深鉢	1区覆土 底部1/4	底	(12)		D21	細い半截竹管状具の集合沈線文を横位施文。内面横位磨き。	諸磯c式
第109図 PL.47	37	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				B16	波状口縁。口縁部に隆帯の渦巻文や楕円区画文を施し、縦位の短沈線文を充填的に施文。頸部は無文。内面横位磨き、やや被熱風化・荒れ。	加曾利E1式
第109図 PL.47	38	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部1/4	口	(22)		E45	口縁部にL撚糸文を縦位に密接施文し、2本隆帯のS字状渦巻文を施す。内外面共にやや被熱風化、外面煤状炭化物付着。	加曾利E1式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第109図 PL.47	39	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部~胴部破片				E45	口縁部に棒状具の横線文や鋸歯状交互刺突による波状文と隆帯渦巻文を施す。頸部~胴部にR燃糸文を縦位施文し、頸部に半截竹管状具の弧線文を、括れ部に棒状具の横線文を帯状に施文。内面縦位磨き。	加曾利E1式併行
第109図 PL.47	40	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部1/4	口	(21)		D2	やや条間隔の開いたL燃糸文を縦位施文し、口唇部下に棒状具の横線文や波状文を施す。内面丁寧な横位磨き。	加曾利E1式併行
第109図 PL.47	41	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片				B19	RL縄文を縦位に密接施文し、括れ部に棒状具の横線文や同具の鋸歯状の交互刺突による波状文を施す。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	加曾利E1式併行
第109図 PL.47	42	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片				C14	括れ部に2本の隆帯文を横位施文し、篋状具の刻み目を施す。内面横位磨き。	加曾利E1式併行
第109図 PL.47	43	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片				D26	やや条間隔の開いた0段r燃糸文を縦位施文し、隆帯文を横位に施す。内面横位磨き。	加曾利E1式
第109図 PL.47	44	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片				F9	RL縄文を縦位施文し、蛇行状の隆帯懸垂文を施す。内面横位磨き。	加曾利E1式
第109図 PL.47	45	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				D27	L燃糸文を縦位に密接施文し、棒状具により半肉彫的な沈線渦巻文を施す。内面縦位磨き。	加曾利E1式
第109図 PL.47	46	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片				E5	L燃糸文を縦位に密接施文。内面縦位磨き。	加曾利E1式
第109図 PL.47	47	縄文土器 鉢	1区覆土 底部1/4	底	(6.5)		B18	RL縄文を縦位に密接施文。内面横・縦位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	加曾利E1式
第109図 PL.48	48	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片				E21	胴部に棒状具の単沈線文を渦巻き・重弧状に密接施文。内面横位磨き、外面一部被熱剥落。	加曾利E1式併行
第110図 PL.48	49	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部破片				F2	口唇部内面がやや突出気味に肥厚。口縁部に棒状具の斜線文を密に施文。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	曾利Ⅲ式
第110図 PL.48	50	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部破片				D1	口縁部に隆帯の渦巻文や楕円区画文を施し、区画内に棒状具の短沈線文を縦位に充填施文。胴部は櫛状具の縦位条線文を施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化。	加曾利E2式
第110図 PL.48	51	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片				B3	櫛状具の条線文を縦位施文し、3本単位の沈線懸垂文を施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曾利E2式
第110図 PL.48	52	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部1/4	口	(15.5)		E45	小突起を付した波状口縁で、波頂部上面に口縁部から延びる凹線状の幅広沈線でS字文を構成。口縁部から胴部に櫛状具の縦位条線文を施す。内面横位磨き、外面被熱風化・一部剥落。	加曾利E3式
第110図 PL.48	53	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				F10	波状口縁。RL縄文を横位施文し、幅広な沈線区画文を施す。内面縦位磨き。	加曾利E3式
第110図 PL.48	54	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				E16	RL縄文を口唇下に横位、以下に縦位施文。内面横位磨き、外面被熱風化・荒れ。	加曾利E3式
第110図 PL.48	55	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部破片				E16	隆帯文に沿って幅広の沈線渦巻文を施し、間隙部にRL縄文を充填施文。内面縦位磨き。	加曾利E3式
第110図 PL.48	56	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部-胴部 中位破片				E39	口縁部に低平な幅広の隆帯文を施し、胴部には沈線懸垂文の外縁にRL縄文を散漫に充填施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利E3式
第110図 PL.48	57	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片				D16	RL縄文を縦位施文し、沈線のU字状区画文や懸垂文を施す。内面丁寧な横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曾利E3式
第110図 PL.48	58	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片				E40	RL縄文を縦位施文し、沈線懸垂文を施す。内外面共にやや被熱風化。	加曾利E3式
第110図 PL.48	59	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片				E13	櫛状具の縦位条線文を施す。内面縦・横位磨き。	加曾利E3式
第110図 PL.48	60	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部破片				D2	口縁部に横位の隆帯文や半截竹管状具の縦位平行沈線文を施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	中期中葉
第110図 PL.48	61	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				E5	棒状具による沈線文を横・縦位に施文。外面横・縦位、内面横位の磨き。	称名寺Ⅱ式
第110図 PL.48	62	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片				E38	棒状具の深い沈線文を縦位に施し、半截竹管状具の先端部を上位斜位方向から刺突施文する。内面横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	称名寺Ⅱ式
第110図 PL.48	63	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				D1	口端部に指頭状の押圧による刺突文を、下位に棒状具の沈線文を施す。内面やや粗い横位磨き、一部に煤状炭化物付着。	堀之内1式
第110図 PL.48	64	縄文土器 浅鉢	1区覆土 口縁部破片				B15	く字状に内折する口端部に棒状具の横位沈線文を2条施す。内外面共に横位磨き。	堀之内1式
第110図 PL.48	65	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				F3	擦痕状の砂粒移動痕を残す粗い横・斜位磨き後に、沈線文を羽状に施文。内面口縁部に凹線状の幅広沈線文を施す。内面横位磨き。	加曾利B3式
第110図 PL.48	66	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				D2	いわゆる3単位突起深鉢で、突起頂部に8字状の刺突文や下位に弧状沈線文と横位の列点状刺突文を施す。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B2式
第110図 PL.48	67	縄文土器 鉢	1区覆土 口縁部破片				C7	口縁部に2条の横線文を施し、口唇部下に屈曲部にRL縄文を充填施文後に、沈線文をナゾリ返す。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B3式
第110図 PL.48	68	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片				D2	大波状口縁。く字状に緩く内折する口縁部に棒状具の沈線文を3条施し、屈曲部に同具の刻み目を施文。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	高井東式
第111図 PL.48	69	礫石器 磨石	1区覆土 完形	長幅	8.6 6.6	厚重	5.9 392.2	粗粒輝石安山岩	表面のほぼ全面から側面部にかけて滑らかな面が認められる。

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	厚 重	厚 重			
第111図 PL.48	70	礫 凹石	1区覆土 完形	長幅 14.6 12.1	厚重 7.0 1487.1		粗粒輝石安山岩	表面の中央に漏斗状の凹みが認められその周囲に敲打痕が集中する。表面の中央付近に滑らかな面が認められる。		
第111図 PL.48	71	礫石器 台石	1区覆土 ほぼ完形	長幅 25.0 18.0	厚重 10.0 6000.0		溶結凝灰岩	表面のほぼ全体に滑らかな部分が認められ中央左側に非常に滑らかな部分がある。表面の中央に敲打による痕跡が集中する。全体的に自然面であり円礫を利用する。赤色箇所が認められ受熱の可能性はある。		
第111図 PL.48	72	礫石器 多孔石	1区覆土 完形	長幅 17.9 13.0	厚重 9.5 2773.6		粗粒輝石安山岩	表裏面の中央部を中心に漏斗状の孔が多数認められる。全体的に自然面と判断され円礫を利用すると考えられる。		
2区遺構外(縄文)										
第112図 PL.49	1	縄文土器 深鉢	2区一括 底部1/4	底	(5)		A5	RL縄文を横位に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	黒浜式	
第112図 PL.49	2	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片				E13	RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の連続爪形文や円形竹管文を施す。内面丁寧な縦位磨き。	諸磯a式	
第112図 PL.49	3	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片				D5	LR縄文を横位施文し、浮線文を横位・多段に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式	
第112図 PL.49	4	縄文土器 深鉢	2区覆土 口縁部破片				D5	RL縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式	
第112図 PL.49	5	縄文土器 深鉢	2区覆土 口縁部破片				D9	波状口縁。RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の集合沈線文を横・斜位に施す。内面横位磨き。	諸磯b式	
第112図 PL.49	6	縄文土器 深鉢	2区覆土 口縁部破片				D28	波状口縁部にイノシシの顔面を貼付し、下位に浮線文を施す。	諸磯b式	
第112図 PL.49	7	縄文土器 深鉢	2区覆土 胴部破片				B1	RL縄文を横位施文。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式	
第112図 PL.49	8	縄文土器 土器片加工 円板	2区覆土 1/2	直径 4.0	厚重 0.7 (8.9)		E13	低平な浮線文を施す深鉢土器破片を円形状に打割整形し、周縁部に磨耗痕を持つ。1/2が欠損。	諸磯b式	
第112図 PL.49	9	縄文土器 深鉢	2区覆土 底部1/4	底	(13)		B1	RL縄文を横位施文し、浮線文を横位に施す。内面被熱風化・荒れ。	諸磯b式	
第112図 PL.49	10	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片				G3	刺突文や変形爪形文と半截竹管状具の平行沈線の鋸歯状文を横位に施す。内外面共に被熱風化・煤状炭化物付着。	浮島式	
第112図 PL.49	11	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片				E3	半截竹管状具の連続爪形文を施した隆帯文の区画内外に、半截竹管状具の平行沈線文や蓮華文を施文。内外面共に被熱風化・荒れ。	勝勝2式	
第112図 PL.49	12	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部～胴部中 位1/6	口	(22)		B10	波状口縁の波頂下に鼻梁状の隆帯文を施す。外面口縁部横位・胴部縦位の磨き、内面横位磨き。	阿玉台I b式	
第112図 PL.49	13	縄文土器 深鉢	2区覆土 口縁部破片				E38	口縁部に棒状具の鋸歯状交互刺突による波状文や、半截竹管状具の集合的平行沈線文を交互施文。胴部はRL縄文を縦位・密接に施す。内面やや被熱風化・荒れ・一部に煤状炭化物付着。	三原田式	
第112図 PL.49	14	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片				B1	口縁部に棒状具の鋸歯状交互刺突による波状文を施す。内面丁寧な横位磨き。	三原田式	
第112図 PL.49	15	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片				C3	口縁部にRL縄文を横位施文。隆線の渦巻文が口唇部に迫り上がり口縁波頂部を形成。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・外面煤状炭化物付着。	加曾利E 1式	
第112図 PL.49	16	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片				E7	RL縄文を縦位・密接施文し、沈線懸垂文を施す。内面縦位磨き、外面やや被熱風化。	加曾利E 2式	
第112図 PL.49	17	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片				E8	RL縄文を横位施文し、2本単位の幅広な隆帯区画文に沿って沈線文を施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	加曾利E 3式	
第112図 PL.49	18	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片				E39	幅広な沈線懸垂文を施し、外縁部にRL縄文を充填的に施文。内面縦位磨き、やや被熱風化・荒れ。	加曾利E 3式	
第112図 PL.49	19	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片				D1	LR縄文を横位に施し、断面三角形の微隆起線文を横位施文。内面横位磨き、一部に煤状炭化物付着。	加曾利E 4式	
第112図 PL.49	20	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片				E5	断面三角形の微隆起線文を横位施文。内面横位磨き、煤状炭化物付着。	加曾利E 4式	
第113図 PL.49	21	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部下位～底部 2/3	底	7.9		D17	内外面共に横・縦位磨き。	中期後半	
第113図 PL.49	22	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部下位～底部 1/2	底	7.0		D3	内外面共にやや粗い縦位磨き、一部に煤状炭化物付着。	中期後半	
第113図 PL.49	23	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片				D1	く字状に内折する口端部に横線文を施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	堀之内1式	
第113図 PL.49	24	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片				E1	横帯状の沈線区画内にLR縄文を充填的に施文し、円形竹管文を加えた8字状貼付文を施す。内面丁寧な横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	堀之内2式	
第113図 PL.49	25	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片				C18	篋状具の細沈線文を羽状に施す。内面横位磨き。	加曾利B 2式	
第113図 PL.49	26	縄文土器 土器片加工 円板	2区一括 完形	直径 2.2	厚重 0.8 4.4		D5	RL縄文や半截竹管状具の連続爪形文を施す深鉢土器破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を持つ。	諸磯b式	
3区遺構外(縄文)										
第113図 PL.49	1	縄文土器 深鉢	3区南攪乱 胴部破片				A2	2種類の附加条第一種RL+LとLR+R縄文を横位・交互に施文して菱形意匠を構成か。括れ部に半截竹管状具の連続爪形文を横位施文。内面横位磨き。	黒浜式	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第113図 PL.49	2	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				D2	細い半截竹管状具の斜位集合沈線文や縦位の刺突文を施す。内面斜位磨き。	諸磯 a 式
第113図 PL.49	3	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				E2	LR縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の連続爪形文を横・斜位に施す。内面丁寧な横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯 a 式
第113図 PL.49	4	縄文土器 深鉢	3区攪乱 口縁部破片				D2	櫛状具の集合沈線横線文や波状文を施し、円形竹管文を縦列に施文。内面横位磨き、外面やや被熱風化。	諸磯 a 式
第113図 PL.49	5	縄文土器 深鉢	3区倒木痕 口縁部破片				E2	波状口縁。やや粗大なLR縄文を横位施文し、半截竹管状具の平行沈線文を横・縦位に施す。内外面共にやや被熱風化、内面一部に煤状炭化物付着。	諸磯 b 式
第113図 PL.49	6	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	櫛状具の横線文や波状文を施す。内面丁寧な横位磨き。	諸磯 b 式
第113図 PL.49	7	縄文土器 深鉢	3区北 口縁部破片				E27	棒状具の集合沈線文を横・斜位に施す。内外面共に被熱風化・荒れ。	諸磯 b 式
第113図 PL.49	8	縄文土器 深鉢	3区攪乱 口縁部破片				D19	浮線文の退嬰化した半截竹管状具の連点状沈線文を横位に施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯 b 式
第113図 PL.49	9	縄文土器 深鉢	3区南攪乱 口縁部破片				E5	小波状口縁の波頂下に斜位刻み隆帯文を施す。以下に半截竹管状具の連続爪形文を横位や弧状に施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯 b 式
第113図 PL.49	10	縄文土器 深鉢	3区南攪乱 胴部破片				D1	浮線文を横位や蕨手状に施す。内面丁寧な横位磨き。	諸磯 b 式
第113図 PL.49	11	縄文土器 深鉢	3区攪乱 胴部破片				C1	細い半截竹管状具の集合沈線文を縦位羽状に施文し、小楕円形状貼付文を施す。内面横位磨き。	諸磯 c 式
第113図 PL.50	12	縄文土器 深鉢	3区攪乱 口縁部破片				E23	やや幅広い半截竹管状具をロッキング状に支点移動して擬似的な貝殻波状文を重畳施文。内外面共にやや被熱風化。	浮島式
第113図 PL.50	13	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				B8	内湾する口縁部に刻み隆帯の波状文を施し、その間隙を三角陰刻状に挟む。内面横位磨き。	五領ヶ台式
第113図 PL.50	14	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				C1	L撚糸文を横位に施し、S字状隆帯文を施文か。内外面共にやや被熱風化、外面煤状炭化物付着。	加曾利 E 1 式
第113図 PL.50	15	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				E5	隆帯渦巻文の側縁を指頭状具でなぞる。内面横位磨き。	加曾利 E 2 式
第113図 PL.50	16	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				E13	RL縄文を縦位施文し、クランク状に沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化。	加曾利 E 2 式
第113図 PL.50	17	縄文土器 深鉢	3区攪乱 胴部破片				E13	R撚糸文を斜位施文し、2本単位の隆帯懸垂文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利 E 2 式
第113図 PL.50	18	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				E15	口縁部～胴部にRL縄文を縦位施文。口縁部は隆帯区画文や側線的な沈線文を、胴部は2条単位の懸垂文を施して縄文を擦り消す。内面横位磨き。	加曾利 E 3 式
第114図 PL.50	19	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D1	RL縄文を横位施文し、隆帯の渦巻文・楕円区画文や側線的な幅広沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利 E 3 式
第114図 PL.50	20	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				E4	波状口縁。RL縄文を横位施文し、隆帯の渦巻文や側線的な凹線状の幅広沈線文を施す。内面丁寧な横位磨き。	加曾利 E 3 式
第114図 PL.50	21	縄文土器 深鉢	3区攪乱 胴部破片				B5	LR縄文を縦位施文し、2条単位の沈線文間の縄文を擦り消す。内面横位磨き。	加曾利 E 3 式
第114図 PL.50	22	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				E5	逆U字状の沈線区画文内にLR縄文を充填施文。内面横位磨き。	加曾利 E 3 式
第114図 PL.50	23	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				D2	沈線懸垂文を施し、区画内にRL縄文を充填的に施文。内面縦位磨き。	加曾利 E 3 式
第114図 PL.50	24	縄文土器 鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	交互刺突文や渦巻状あるいは逆U字状の沈線区画文を施し、外縁にLR縄文を充填的に施文。内面横位磨き。	加曾利 E 3 式
第114図 PL.50	25	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				E5	断面三角形の微隆起線文を横位施文し、以下にLR縄文を縦位に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利 E 4 式
第114図 PL.50	26	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	口唇部～口縁部にかけて捻転した8字状の突起を付す。以下に断面三角形の微隆起線文で区画文を施し、LR縄文を充填施文。内外面共に被熱風化・荒れ。	加曾利 E 4 式
第114図 PL.50	27	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	断面三角形の微隆起線文を横位施文し、以下にLR縄文を縦位に施す。内面横位磨き、煤状炭化物付着。	加曾利 E 4 式
第114図 PL.50	28	縄文土器 深鉢	3区倒木痕 胴部破片				D2	U字状の沈線区画文を施し、RL縄文を充填施文。内外面共に被熱風化・荒れ、一部に煤状炭化物付着。	加曾利 E 4 式
第114図 PL.50	29	縄文土器 深鉢	3区土坑 胴部破片				D2	沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。内外面共に被熱風化・荒れ、外面煤状炭化物付着。	加曾利 E 4 式
第114図 PL.50	30	縄文土器 深鉢	3区倒木痕 口縁部破片				E5	断面三角形の微隆起線文を横位施文し、瘤状の小突起を付す。以下にLR縄文を縦位に施文。内面横位磨き、外面やや被熱風化・煤状炭化物付着。	称名寺 I 式併行
第114図 PL.50	31	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				D2	沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。内面丁寧な横位磨き。	称名寺 I 式
第114図 PL.50	32	縄文土器 深鉢	3区南攪乱 胴部破片				E30	スベード状の沈線区画文を施し、短沈線状の列点文を充填施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	称名寺 II 式
第114図 PL.50	33	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				E12	沈線区画文を施し、列点状の刺突文を充填施文。内面横・斜位磨き、外面やや被熱風化。	称名寺 II 式
第114図 PL.50	34	縄文土器 深鉢	3区南攪乱 口縁部破片				E5	口端部に8字状貼付文や横線文を施し、下位に沈線文を施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	堀之内 I 式
第114図 PL.50	35	縄文土器 深鉢	3区攪乱 口縁部～胴部上 位1/5	口	(27)		E5	口端部がやや内削ぎ状に肥厚。胴部に横位や斜位の沈線文を施文し、括れ部に8字状貼付文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、	堀之内 I 式

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第114図 PL.50	36	縄文土器 深鉢	3区攪乱 口縁部破片				D2	沈線区画文を施し、縦位の細沈線文を充填的に施文。内面横位磨き、外面被熱風化・荒れ。	堀之内1式
第114図 PL.50	37	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				E11	波状口縁。沈線区画文を施す。内面横位磨き。	堀之内1式
第114図 PL.50	38	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				E30	く字状に内折する口端部に楕円形状の沈線区画文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面煤状炭化物付着。	堀之内1式
第114図 PL.50	39	縄文土器 注口土器	3区覆土 肩部破片				F2	横帯状の沈線区画文内にL縄文や刺突文を充填施文し、縦位の刻み隆帯文を施す。内面横位撫で。	堀之内1式
第115図 PL.50	40	縄文土器 深鉢	3区覆土 頸部～胴部破片				D1	口頸部は無文で、胴部に沈線区画文を施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	堀之内1式
第115図 PL.50	41	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D20	口縁部に2本の横位刻み隆線文や8字状貼付文を施し、下位の沈線区画文内にLR縄文を充填施文。内面口唇部下に2条の横線文を施す。内面丁寧な横位磨き。	堀之内2式
第115図 PL.50	42	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	口縁部に1本の横位刻み隆線文を施し、下位の半截竹管状具の細沈線区画文内にLR縄文を充填施文。内面口唇部下に1条の横線文を施す。内面丁寧な横位磨き。	堀之内2式
第115図 PL.50	43	縄文土器 深鉢	3区攪乱 胴部破片				D2	胴部上半に集合沈線的な渦巻文や細密なLR縄文を充填施文した沈線区画文を施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	堀之内2式
第115図 PL.50	44	縄文土器 深鉢	3区南東 口縁部破片				D2	波状口縁。く字状に短く内折する口唇部上端に刻み目を施す。口縁に沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。内面は横位の微隆起線文や4条の横線文を施す。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B1式
第115図 PL.50	45	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	波状口縁。く字状に短く内折する口唇部上端に刻み目を施す。口縁に沈線区画文やクランク状の区切り縦線文を施文し、区画内の斜位篋撫で整形痕を磨き残す。内面は横位の微隆起線文や刺突文・横線文等を施す。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B1式
第115図 PL.50	46	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	刻み隆線文を横位施文し、その上下に細沈線文を斜格子状に施す。内面口唇部下に横線文を施文。内面横位磨き。	加曾利B1式
第115図 PL.50	47	縄文土器 深鉢	3区倒木痕 口縁部破片				D2	く字状に短く内折する口唇部。口縁に6条の横線文を施し、細密なLR縄文を充填的に施文。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B1式
第115図 PL.50	48	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部～胴部上 位1/4	口	(11.5)		D2	口唇部上面と内面に横線文を施す。口縁に3条の横線文を施し、上位にLR縄文を横位・充填的に施文。内外面共に極めて丁寧な横位磨き。	加曾利B2式
第115図 PL.51	49	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D21	横位の沈線区画文内にLR縄文を充填施文し、区画内外に「の字文」を施す。内面丁寧な磨きと燻べ焼きで黒色の光沢を帯びる。	加曾利B2式
第115図 PL.51	50	縄文土器 鉢	3区土坑 口縁部破片				D2	磨消弧線文や横線文を施し、LR縄文を充填的に横位施文。内面丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B2式
第115図 PL.51	51	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				D2	4条の横線文を施し、LR縄文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B2式
第115図 PL.51	52	縄文土器 浅鉢?	3区ビット 口縁部破片				C1	く字状に緩く内折する部位に横線文や刻み目を施す。以下は無文で斜位の砂粒移動痕を残すやや粗い縦位磨き。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B2式
第115図 PL.51	53	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				C7	口縁部に瘤状の小突起や刻み隆線文を施し、以下に沈線区画文や対跗状の区切り縦線文を施文。内面は2条の横線文を施す。内面横位磨き。	加曾利B2式
第115図 PL.51	54	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				D2	4条の横線文を施し、充填的な横位LR縄文やお玉杓子状の縦区切り文を施文。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B2式
第115図 PL.51	55	縄文土器 注口土器	3区覆土 胴部破片				D2	3条単位の横線文を複数段に施し、LR縄文を横位・充填的に施文。外面丁寧な横位磨き、内面横位篋撫で。	加曾利B2式
第115図 PL.51	56	縄文土器 深鉢	3区ビット 胴部破片				D2	磨消弧線文や横線文を施し、LR縄文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B2式
第115図 PL.51	57	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	瓢形状の深鉢か。口縁部に沈線区画文を施し、LR縄文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B2式
第115図 PL.51	58	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				B1	磨消弧線文や横線文を施し、LR縄文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B2式
第115図 PL.51	59	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				D2	瓢形状の深鉢か。肩部に横線文や刺突文を施し、LR縄文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B2式
第115図 PL.51	60	縄文土器 鉢	3区覆土 口縁部破片				C1	口縁部に磨消弧線文や縦位の刺突文とLR縄文を充填的に施文し、下位に横線文・刻み目・弧線文などを施す。内面横位磨き。	加曾利B2式
第115図 PL.51	61	縄文土器 深鉢	3区攪乱 口縁部破片				B1	波状口縁。沈線区画文を複数段に施し、LR縄文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨き、内面に赤色塗彩。	加曾利B2式
第116図 PL.51	62	縄文土器 鉢	3区攪乱 口縁部～胴部上 位1/5	口	(28)		D7	ソロバン玉状の器形。口縁部に横線文や弧線文を施し、屈折部に棒状具の刻み目を施文。外面胴部やや粗い縦位磨き、一部に煤状炭化物付着。内面口縁部斜位の指押さえ痕を残すやや粗い横位磨き・胴部横・縦位磨き。	加曾利B2式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第116図 PL.51	63	縄文土器 鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	摺鉢状の円形刺突文や磨消弧線文を施し、LR縄文を横位・充墳的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	64	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	横線文や区切り縦線文を施文後に、LR縄文を横位・多段に施す。内面丁寧な横位磨き。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	65	縄文土器 鉢	3区覆土 胴部破片				D12	体部中位に2条の横線文を施し、2種類のLR縄文を横位・多段に施文。内面撫で状のやや粗い横位磨き。内外面共にやや風化。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	66	縄文土器 深鉢	3区ピット 口縁部破片				F8	口縁波頂部に扁平円形状の小突起を付し、その上面に8字状貼付文を施す。突起部内面には3条の沈線文を、口唇部下には横線文を施文。内外面共に丁寧な磨きと燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	67	縄文土器 深鉢	3区ピット 口縁部破片				D22	いわゆる3単位突起深鉢。突起頂部や内面に刺突文を、その下位と肩部に短沈線を施す。内外面共に丁寧な磨きと燻べ焼きで黒色の光沢を帯びる。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	68	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				E15	波頂部に十字状の小突起を付す波状口縁。内外面に凹み穴状の円孔を施す。内外面共に丁寧な磨きと燻べ焼きにより黒灰色を呈する。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	69	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				C7	3単位突起深鉢。突起に接続する横線文や横位刻み目と、区画内の砂粒移動の整形痕を磨き残す弧線文や対弧状の区切り縦線文を施文。内面は縦位の単沈線文や横線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	70	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				C19	半精製の深鉢。口縁部に指頭状押圧による連鎖状隆帯文を施し、胴部に櫛状具の対弧文を縦位施文。外面砂粒移動痕を残す斜位磨削り、内面丁寧な横位磨き。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	71	縄文土器 深鉢	3区覆土 頸部破片				C1	頸部と胴部に斜線文を施し、括れ部に棒状具の横位連続刺突文を施文。内面横位磨き、外面被熱風化・荒れ。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	72	縄文土器 深鉢	3区攪乱 胴部破片				E37	半精製の深鉢。櫛状具の6本単位の条線の沈線文を縦位施文。外面斜位の撫で、内面やや粗い横位磨き。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	73	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				C11	半精製の深鉢。口縁部に幅広籠状具で上下2段に押圧した連鎖状隆帯文を施す。外面は砂粒移動痕を残す斜位磨削り、内面横位磨き。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	74	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				D2	半精製の深鉢。口縁部に指頭状押圧による2本の連鎖状隆帯文を施し、下位に2条の横線文を施文。内面横位磨き。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	75	縄文土器 深鉢	3区南東 口縁部破片				C11	半精製の深鉢。口縁部に指頭状押圧による連鎖状隆帯文を施し、下位に縦位沈線文を施文。外面砂粒移動痕を残す横・斜位磨削り、内面丁寧な横位磨き。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	76	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	半精製の深鉢。口縁部に指頭状押圧による連鎖状隆帯文を施し、下位に斜線文を施文。内面丁寧な横位磨き。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	77	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				B1	半精製の深鉢。L縄文を横位・多段に施文し、鎖状隆帯文を横位施文。内面丁寧な横位磨き。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	78	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				C1	胴部に沈線文を斜格子状に施す。外面胴部横位磨削り。外面頸部・内面は丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	79	縄文土器 深鉢	3区攪乱 胴部破片				E21	縦連対弧文や磨消弧線文を施文し、区画外縁の斜位磨削り痕を磨き残す。内面横位磨き。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曽利B 2式
第116図 PL.51	80	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				D2	半精製の深鉢。櫛状具の条線の弧線文を縦位施文。外面砂粒移動痕を残す斜位の磨削り、内面やや粗い斜位磨き。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曽利B 2式
第117図 PL.51	81	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				B3	胴部に羽状沈線文を多段に施す。内面横位磨き。	加曽利B 2式
第117図 PL.51	82	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				B3	半精製の深鉢。櫛状具の条線の斜格子状沈線文を施文。内面丁寧な横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曽利B 2式
第117図 PL.52	83	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				D2	胴部に羽状沈線文を多段に施す。内面丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曽利B 2式
第117図 PL.52	84	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				C11	細沈線の楕円状区画文を重畳的に施文。内面横位磨き。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曽利B 2式？
第117図 PL.52	85	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片				D2	半精製の深鉢。櫛状具の条線の縦位対弧文を施文。内面横位磨き、外面横・縦位の磨削り。	加曽利B 2式
第117図 PL.52	86	縄文土器 深鉢	3区ピット 口縁部破片				C16	折返し状の口唇部上面に端正な刻み加工を施し、下位に斜線文を施文。内面口唇部下に横線文を施す。外面→内面側へ直径3mmの錐揉み状補修孔。内面丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曽利B 2式
第117図 PL.52	87	縄文土器 深鉢	3区覆土 頸部破片				E3	横線文や磨消弧線文・区切り縦線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曽利B 2式
第117図 PL.52	88	縄文土器 深鉢	3区南 口縁部破片				C21	半精製の深鉢。凹線状の浅い沈線文を縦位に施文。折返し状の内面口唇部下に横線文を施す。外面横位磨削り、内面丁寧な横位磨き。	加曽利B 2式
第117図 PL.52	89	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				D1	括れ部に横線文を施文後、口頸部に斜格子状の沈線文を施す。内面丁寧な横位磨き。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曽利B 2式
第117図 PL.52	90	縄文土器 深鉢	3区倒木痕 口縁部破片				F3	半精製の深鉢。口縁部～胴部に棒状具の沈線文を斜格子状に施す。内面口唇部下に横線文を施す。外面斜位磨削り、内面横位磨き。	加曽利B 2式

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第117図 PL.52	91	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				D5	頸部に細沈線文を斜格子状に施す。内面口唇部下に横線文を施す。外面口縁部と内面は極めて丁寧な横位磨き、外面頸部横位撫で。内外面共に口縁部の一部に煤状炭化物付着。	加曾利B 2式
第117図 PL.52	92	縄文土器 深鉢	3区ピット 口縁部破片				C19	半精製的な深鉢。細沈線文を散漫に縦位施文。内面口唇部下に横線文を施す。外面斜位銚削り後・粗い横位磨き、内面横位磨き。	加曾利B 2式
第117図 PL.52	93	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				C21	内削ぎ状口唇部上面に刻みを施す。口頸部下位に横線文を施し、上位に斜線文を施文。内面口唇部下に横線文を施す。外面やや粗い横位磨き、内面丁寧な横位磨き。	加曾利B 2式
第117図 PL.52	94	縄文土器 深鉢	3区南東 口縁部破片				C17	波状口縁。口頸部に斜線文を施す。内面口唇部下に横線文を施文。外面横・斜位の銚削り、内面横位磨き。	加曾利B 2式
第117図 PL.52	95	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				C21	櫛歯状具の条線的な弧線文を縦位に施文。内面口唇部下に横線文を施す。外面斜位銚削り、内面丁寧な横位磨き。	加曾利B 2式
第117図 PL.52	96	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				C21	口頸部に羽状沈線文を施す。内面口唇部下に横線文を施文。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B 2式
第117図 PL.52	97	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D1	口縁部に羽状沈線文を、下位に横線文を施す。内面口唇部下に横線文を施文。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式
第117図 PL.52	98	縄文土器 鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	く字状に短く内折する口縁部にLR縄文を横位施文し、下位に間隔の広い斜線文を施す。内面丁寧な横位磨き。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B 2式
第117図 PL.52	99	縄文土器 鉢	3区南 口縁部破片				D9	口縁部に横位のL縄文や凹線状の横線文・刻み隆帯文を施し、下位に羽状沈線文を施文。内面横位磨き。	加曾利B 3式
第117図 PL.52	100	縄文土器 鉢	3区土坑 口縁部1/4	口	(15.5)		C6	口唇部に小突起を付すが、単位数は不明。列点状の刺突文を充填した2条単位の沈線文を口縁部は横位に、体部はV字状に施文し、同沈線文内に赤色塗彩を施す。内外縁にLR縄文を充填的に施文。口唇部上面と口縁部内面に約10mm幅で赤色塗彩を施す。内面丁寧な横位磨きと燻べ焼きにより黒灰色を呈する。	後期後葉
第118図 PL.52	101	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				C7	波状口縁の内面波頂部に短沈線状の刺突を施す。口唇部外端にLR縄文を横位施文し、下位に凹線状の横線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	後期後葉
第118図 PL.52	102	縄文土器 異形台付土器	3区覆土 台部完存	台 径	7.0		E18	異形土器の台部で、下端は大小4単位の波状を呈する。陽刻技法的に刻み隆線文と縄文施文の横帯文を施す。縄文施文部は、細密なLR・RL縄文を横位・交互に充填施文して鋸歯状または羽状の意匠を構成。外面横位磨き、内面縦位銚磨き。内外面共に丁寧な磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	後期後葉
第118図 PL.52	103	縄文土器 鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	横位の刻み隆線文や斜線文を施す。内外面共に丁寧な磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 3式
第118図 PL.52	104	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	波状口縁。2本の横位刻み隆線文やRL・LR縄文を横位・交互に充填施文したタスキ状入組文を施す。内面横位磨き。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	後期後葉
第118図 PL.52	105	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				D19	双頭状の波状口縁で、口唇部外端に刻み目を施す。環状貼付文を付した刻み隆線文を縦・横位に施文し、区画内に角押し状の刺突文を施す。内面やや粗い銚撫で状の横・斜位磨き。	後期後葉
第118図 PL.52	106	縄文土器 浅鉢	3区覆土 口縁部破片				E34	口縁部にLR縄文を充填した横線文や刻み隆線文を施す。内外面共に横位磨き・やや風化、燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B 3式
第118図 PL.52	107	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D2	大波状口縁で内面に折返し状の口唇部。口唇部下に隆帯文を施す。外面銚撫で状のやや粗い縦位磨き、内面粗い横・斜位銚磨き。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	高井東式
第118図 PL.52	108	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				D9	魚尾状の突起を付す大波状口縁で口唇部上面に刻み目を、内面に弧線文を施す。内外面共に縦・斜位磨き。	高井東式
第118図 PL.52	109	縄文土器 深鉢	3区倒木痕 口縁部破片				D9	波状口縁。波頂下に楕円形状の貼付文を施し、下位に凹線状の幅広沈線区画文を施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	高井東式
第118図 PL.52	110	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				E5	く字状に緩く内折する口縁部に凹線状の幅広横線文を2条施す。外面斜位・内面横位の磨き。	高井東式
第118図 PL.52	111	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				F2	大波状口縁。口縁部に横位隆帯文や縦位の貼付文を施す。内面銚削り状の粗い横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	高井東式
第118図 PL.52	112	縄文土器 深鉢	3区ピット 口縁部破片				B1	く字状に内折する口縁部に2条の横線文や隆線文を施し、波頂下に稲妻状細沈線文を施文。内面横・斜位磨き。	高井東式
第118図 PL.52	113	縄文土器 浅鉢	3区覆土 口縁部破片				E21	く字状に内折する口縁部に2条の凹線状横線文を施し、LR縄文を充填的に施文。内面丁寧な横位磨き。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	高井東式
第118図 PL.52	114	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				B1	波底部に小突起を付す波状口縁。く字状に緩く内折する口縁部に3条の横線文や刻み隆帯文を施す。内面丁寧な横位磨き。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	高井東式
第118図 PL.52	115	縄文土器 深鉢	3区境乱 口縁部破片				D2	魚尾状突起を付す大波状口縁。波頂下に瘤状突起を、複合状口縁部に3条の横線文を施す。内面丁寧な横・斜位磨き。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	高井東式
第118図 PL.53	116	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				F2	口縁部に2条の横線文や2個の円形貼付文を施す。内面横位銚撫で。外面やや被熱風化・荒れ、煤状炭化物付着。	高井東式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図 PL.53	117	縄文土器 深鉢	3区掘り方 口縁部破片				F2	コップ状の小突起を付す大波状口縁。波頂下に鉢巻状の隆帯や瘤状の貼付文を施し、口縁部に2条の横線文を施文。内面に円形貼付文を付す。内外面共に被熱風化・荒れ。	高井東式
第118図 PL.53	118	縄文土器 深鉢	3区攪乱 口縁部破片				C1	横線文や刻み隆帯文を施す。内面丁寧な横位磨き。	高井東式
第118図 PL.53	119	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				E43	口縁部にRL縄文を横位・充填的施文した隆起帯縄文を施し、胴部に縦位の細沈線文を施文。外面横位磨削り、内面横位磨き。	安行1式
第118図 PL.53	120	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				D24	半精製的な無文土器。外面砂粒の移動痕を残すやや粗い横・斜位磨き、内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	後期中葉
第118図 PL.53	121	縄文土器 深鉢	3区倒木痕 口縁部破片				F1	LR縄文を横位・多段に施文。内面撫で状のやや粗い横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	後期中葉
第118図 PL.53	122	縄文土器 鉢	3区覆土 口縁部破片				D8	口縁部にL縄文を充填的に横位施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	後期中葉
第119図 PL.53	123	縄文土器 深鉢	3区ビット 口縁部破片				D2	口縁部にL縄文を充填的に施文し、以下は横位磨きで磨り消す。内面やや粗い横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	後期中葉
第119図 PL.53	124	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D3	外削ぎ状の口唇部。LR縄文を横位・多段に施文。内面口唇部下に横線文を施す。内面口縁部丁寧な横位磨き。	後期中葉
第119図 PL.53	125	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D19	LR縄文を横位・多段に施文。内面口唇部下に横線文を施す。内面撫横位磨き、外面煤状炭化物付着。	後期中葉
第119図 PL.53	126	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D30	外削ぎ状の口唇部。LR縄文を横位・多段に施文。内面口縁部丁寧な横位磨き・胴部斜位磨削り痕を残すやや粗い横位磨き。	後期中葉
第119図 PL.53	127	縄文土器 深鉢	3区倒木痕 口縁部破片				D2	LR縄文を横位・多段に施文。内面口唇部下に横線文を施す。	後期中葉
第119図 PL.53	128	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				B12	粗製の無文深鉢。外面激しい凹凸を残す粗い横・斜位磨削り、内面横位磨削り。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	後期中葉
第119図 PL.53	129	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片				D20	粗製の無文深鉢。外面凹凸を残す横・斜位磨削り、内面横位指撫で。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	後期中葉
第119図 PL.53	130	縄文土器 鉢	3区攪乱 口縁部～体部 1/4	口	(6)		D9	無文の鉢で、口唇部が外面にやや肥厚。外面丁寧な縦位磨き、内面丁寧な横位磨きと赤色塗彩。	後期中葉?
第119図 PL.53	131	縄文土器 深鉢	3区土坑 胴部下位～底部 完存	底	8.0		C11	底外面に網代痕。外面縦位・内面横位の磨き。内外面共にやや被熱風化。	後期中葉
第119図 PL.53	132	縄文土器 深鉢	3区倒木痕 胴部下位～底部 完存	底	7.4		C2	底外面に網代痕。外面縦位・内面横位の磨き。	後期中葉
第119図 PL.53	133	縄文土器 深鉢	3区土坑 胴部下位～底部 1/4	底	(8)		C7	底外面に網代痕。外面丁寧な縦位磨き、内面横位磨き・やや被熱風化・一部に煤状炭化物付着。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	後期中葉
第119図 PL.53	134	縄文土器 深鉢	3区覆土 底部1/4	底	(8)		E45	粗製深鉢土器。外面横位磨削り、内面横位磨き。内外面共に被熱風化・荒れ、一部に煤状炭化物付着。	後期中葉
第119図 PL.53	135	縄文土器 小形土器	3区覆土 口縁部～胴部 中位1/4	口	(7)		D2	手捏ね状の小形土器。内外面共に指頭圧痕状の整形痕を残す。外面やや粗い横位磨き、内面やや粗い横位撫で。	後期中葉
第119図 PL.53	136	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片				E42	粗製深鉢土器。内外面共に横・斜位の磨削り。	後期中葉
第119図 PL.53	137	縄文土器 小形土器	3区覆土 口縁部～胴部 下位1/3	口	(6.5)		D20	手捏ね状の小形土器。内外面共に指頭圧痕状の整形痕を残す粗い横位撫で。	後期中葉
第119図 PL.53	138	縄文土器 注口土器	3区覆土 体部破片				E5	横位の刻み隆線文を施し、欠損する注口部直下に2個の円形貼付文を施文。外面砂粒の移動痕を残す粗い横・縦位磨き、内面やや粗い横位撫で。	後期中葉
第119図 PL.53	139	縄文土器 注口土器	3区覆土 注口部完存				C7	体部との接合部で破損。粘土板を直径12mmの円形棒状具に巻き付け、貫通整形。外面は縦位磨き。	後期中葉
第119図 PL.53	140	縄文土器 注口土器	3区覆土 注口部完存				C17	体部との接合部で破損。先端部の最大孔径18mm、基部は直径25mmで、板状粘土を円筒状に整形。外面縦位磨き、燻べ焼きにより黒灰色を呈する。	後期中葉
第120図 PL.53	141	縄文土器 注口土器	3区覆土 注口部完存				C18	接合基部に接する体部側で破損。基部背面に円形貼付文を施し、それと並行する体部側に凹線状の幅広横線文を施文。上下2箇所貫通孔を持つが、直径9mmの上位孔が下位を切る状態で貫通する。外面やや風化。	後期中葉
第120図 PL.53	142	縄文土器 注口土器	3区覆土 注口部完存				B1	体部との接合部で破損。粘土板を直径10mmの円形棒状具に巻き付け、貫通整形。基部背面に瘤状の円形貼付文を施す。外面丁寧な縦位磨き、先端部風化・荒れ。	後期中葉
第120図 PL.53	143	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部～括れ部 1/3	口	(27.5)		D1	4単位の双頭波状口縁で、波底部にも双頭状の突起を付す。口頸部には沈線の横帯文や縦位連携の入組文を施し、区画内に篋状具の刻目状刺突文を充填施文。括れ部に背向した三日月状の小突起を付す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	後期後葉
第120図 PL.53	144	縄文土器 スタンプ形 土製品	3区覆土 4/5	直径	(3)	厚重 2.9 13	D5	ガジリ痕により体部と底面の一部が欠損。体部中央に直径3mmの焼成前穿孔。底面に同心円状の沈線文を施す。体部縦位磨き、底面風化・荒れ。	後期中葉

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	5.7					
第120図 PL.000	145	縄文土器 土偶	3区倒木痕 脚部1/2				F5	ハート形土偶の左脚部か。外側面に前端側を弧線で閉じた3条の平行沈線文を施し、底面には網代痕を残す。内外側面共に横位磨き。	後期前半	
第120図 PL.54	146	縄文土器 土偶	3区覆土 腕部破片				E5	右側の肩部～腕部と推定され、先端部に浅い凹みで掌を作出。外面は撫で状のやや粗い磨き。	後期中葉	
第120図 PL.54	147	縄文土器 土器片加工 円板	3区土坑 完形	直径	5.3	厚重	0.9 30.3	E30	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、上端部を除く周縁部に磨耗痕を持つ。	中期後半
第120図 PL.54	148	縄文土器 土器片加工 円板	3区ピット 完形	直径	3.5	厚重	0.8 13.0	D2	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、周縁部には磨耗痕を持たない。	後期中葉
第120図 PL.54	149	縄文土器 土器片加工 円板	3区覆土 完形	直径	4.6	厚重	1.0 22.4	F5	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、周縁部には磨耗痕を持たない。	後期中葉
第120図 PL.54	150	縄文土器 土器片加工 円板	3区覆土 完形	直径	3.4	厚重	0.6 8.5	D2	深鉢土器の胴部破片を楕円形状に打割整形し、周縁部には磨耗痕を持たない。	後期中葉
第120図 PL.54	151	縄文土器 土器片加工 円板	3区覆土 完形	直径	4.2	厚重	0.7 15.0	F5	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を持つ。	後期中葉
第120図 PL.54	152	縄文土器 土器片加工 円板	3区南 完形	直径	3.7	厚重	0.8 15.0	D2	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を持つ。	後期中葉
第120図 PL.54	153	縄文土器 土器片加工 円板	3区覆土 完形	直径	2.7	厚重	0.5 4.3	C10	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、周縁部には磨耗痕を持たない。	後期中葉
第120図 PL.54	154	縄文土器 土器片加工 円板	3区覆土 完形	直径	2.1	厚重	0.4 2.6	D2	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を持つ。	後期中葉
第120図 PL.54	155	縄文土器 土器片加工 円板	3区土坑 完形	直径	3.2	厚重	1.0 12.0	D2	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、周縁部には磨耗痕を持たない。	後期前半
第120図 PL.54	156	縄文土器 土器片加工 円板	3区覆土 完形	直径	2.8	厚重	1.5 14.9	E26	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を持つ。	中期後半
第121図 PL.54	157	剥片石器 石鏃	一括 完形	長幅	1.2 1.0	厚重	0.3 0.2	黒曜石	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。右側辺に先端方向からの種状剥離が認められ対象物に接触した際の衝撃剥離痕の可能性が有る。	凹基無茎鏃
第121図 PL.54	158	剥片石器 石鏃	覆土 4/5	長幅	(2.5) 1.3	厚重	0.4 1.0	黒曜石	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。下側辺には舌部の折断面が認められるが表面の下端部には折断面を打面とする剥離痕が認められる。	平基有茎鏃
第121図 PL.54	159	剥片石器 石鏃	一括 4/5	長幅	(2.2) (1.4)	厚重	0.5 0.8	黒曜石	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。	凹基無茎鏃
第121図 PL.54	160	剥片石器 打製石斧	一括 完形	長幅	11.5 7.3	厚重	3.0 317.4	黒色頁岩	側辺部には全体的に両面加工が認められる。表面には素材剥片段階の主要剥離面が大きく認められ大形剥片を素材とする。裏面には広く自然面が認められ円礫を利用する。	
第121図 PL.54	161	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長幅	12.8 4.2	厚重	2.0 105.6	黒色頁岩	側辺部全体に両面加工が認められる。表面の一部に自然面が認められる。	
第121図 PL.54	162	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長幅	11.2 4.7	厚重	1.6 90.3	黒色頁岩	側辺部全体に両面加工が認められる。表面の中央付近に摩滅痕が散在する。	
第121図 PL.54	163	剥片石器 打製石斧	覆土 1/2	長幅	(5.8) (3.7)	厚重	1.9 55.8	黒色頁岩	両側辺には両面加工が認められる。上下両側面は折断面であるが下側面は左右両側辺側に打点があり両極加撃により形成された折断面と考えられる。	
第121図 PL.54	164	石製品 砥石	覆土 1/2	長幅	(4.6) (2.9)	厚重	(0.9) 12.7	凝灰質砂岩	表裏面ともに全体的に滑らかである。左右両側辺は鋭角であり表裏面ともに滑らかである。裏面の上方にはごく浅い幅の広い溝状痕跡が認められる。	
第121図 PL.54	165	礫 礫	ピット 完形	長幅	6.8 5.1	厚重	4.2 192.1	珪質変質岩	極円礫。全体的に鮮やかな橙色であり人為的に遺跡内に搬入されたと考えられる。	
第121図 PL.54	166	礫石器 石皿	覆土 完形	長幅	26.2 22.0	厚重	8.1 6450.0	粗粒輝石安山岩	表面の中央付近に滑らかな面が認められ中心部付近が特に滑らかである。表面の上方に表層的な剥落痕が認められ敲打による可能性がある。裏面のほぼ全面に滑らかな面が認められる。全体的に自然面と考えられ大形円礫を利用する。	
第121図 PL.54	167	礫石器 石皿	覆土 完形	長幅	39.6 29.7	厚重	13.5 1650.0	粗粒輝石安山岩	表面の中央付近に滑らかな部分が認められる。側面は全体的に打割面で構成される。裏面は全体的に風化殻が認められ自然面と考えられ大形円礫を利用する。	
第121図 PL.54	168	礫石器 石皿	覆土 完形	長幅	41.9 32.5	厚重	13.8 21200.0	角閃石安山岩	表面はほぼ平坦で全体的に滑らかであり中央付近が特に滑らかである。表面には敲打痕が散在する。側面は全体的に打割面で構成される。裏面は全体的に風化殻が認められ自然面の可能性が高い。	

遺物観察表

第5表 縄文土器胎土分類一覧表

縄文土器の胎土分類の詳細は下記表のとおりである。

分類	夾雑物の特徴	備考
A類	A1 少量の円磨度の進んだ灰白色岩片・長石・角閃石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	灰白色・珪質乳白色岩片や長石・輝石・石英・角閃石・雲母等を含有するグループ
	A2 少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色・赤色・黒色岩片や輝石・長石・石英・角閃石の粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。	
	A3 少量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片の礫・粗砂や灰白色・赤色岩片や長石・輝石・石英の粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。	
	A4 少量の円磨度の進んだ花崗岩礫・粗砂と珪質乳白色・灰白色・赤色岩片や長石・輝石の粗・細砂および微量の雲母細砂を含むやや粗雑な胎土。	
	A5 中量の円磨度の進んだ赤色岩片と少量の灰白色・黒色岩片や長石・輝石の粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。	
	A6 中量の円磨度の進んだ結晶片岩礫・粗砂と多量の雲母や少量の珪質乳白色・灰白色・赤色岩片および長石・輝石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	A7 多量の円磨度の進んだ長石礫・粗砂や灰白色岩片粗・細砂と少量の珪質乳白色・赤色岩片および角閃石・石英の粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。	
B類	B1 少量の円磨度の進んだ長石・輝石や珪質乳白色・灰白色・赤色岩片および微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	花崗岩起源の雲母を含有するグループ
	B2 中量の円磨度の進んだ灰白色・赤色岩片の礫・粗砂や長石の粗・細砂と少量の珪質灰白色岩片・輝石および微量の雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B3 中量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片礫・粗砂と少量の灰白色・赤色岩片や長石・輝石・石英および微量の雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B4 中量の円磨度の進んだ長石・珪質乳白色岩片の礫・粗砂と少量の輝石・雲母や灰白色・赤色・黒色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B5 中量の円磨度の進んだ長石・灰白色岩片・輝石と少量の雲母・石英・角閃石や黒色・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B6 中量の円磨度の進んだ長石・灰白色岩片と少量の赤色・黒色岩片や石英・輝石・角閃石や微量の雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B7 中量の円磨度の進んだ長石・輝石や少量の雲母・石英・灰白色岩片の粗・細砂と少量の珪質乳白色岩片礫・粗砂を含む緻密な胎土。	
	B8 中量の円磨度の進んだ長石・雲母と少量の輝石・石英や珪質乳白色・灰白色・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B9 中量の雲母細砂と少量の灰白色・赤色岩片や長石・輝石の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	B10 多量の円磨度の進んだ赤色岩片や中量の雲母・長石と少量の灰白色岩片・角閃石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B11 多量の円磨度の進んだ灰白色岩片や中量の珪質乳白色岩片・長石・輝石と少量の雲母・石英・赤色・黒色岩片および微量の角閃石の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	B12 多量の円磨度の進んだ灰白色・珪質乳白色・黒色岩片や中量の長石・輝石と少量の赤色岩片・石英および微量の雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	B13 多量の円磨度の進んだ石英礫・粗砂や中量の長石と少量の雲母・角閃石・灰白色・赤色岩片の粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。	
	B14 多量の円磨度の進んだ長石・珪質乳白色岩片や中量の灰白色岩片の礫・粗砂と中量の輝石・少量の赤色岩片・石英および微量の雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B15 多量の円磨度の進んだ長石や珪質乳白色・黒色岩片と少量の灰白色・赤色岩片・輝石および微量の雲母の粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。	
	B16 多量の円磨度の進んだ長石・灰白色岩片や中量の黒色岩片と少量の雲母・赤色岩片・輝石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B17 多量の円磨度の進んだ長石・珪質乳白色岩片の礫・粗砂と中量の黒色岩片・輝石や少量の雲母・角閃石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B18 多量の円磨度の進んだ長石・珪質乳白色岩片と少量の灰白色・赤色・黒色岩片や輝石・石英および微量の雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B19 多量の円磨度の進んだ長石や珪質乳白色・灰白色・赤色・黒色岩片と少量の雲母・輝石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B20 多量の長石と少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色岩片の礫・粗砂や赤色・黒色岩片・輝石・石英および微量の雲母の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B21 少量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質な乳白色・赤色岩片の礫・粗砂と長石・輝石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	B22 多量の円磨度の進んだ雲母・長石と少量の灰白色・赤色岩片や輝石・角閃石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
C類	C1 少量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質な乳白色・灰白色・赤色・黒色岩片と長石・輝石の粗・細砂および中量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	結晶片岩を含有するグループ
	C2 少量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質な乳白色・灰白色・赤色・黒色岩片の礫・粗砂と長石・輝石の粗・細砂および少量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	C3 少量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質な乳白色・赤色岩片の礫・粗砂と少量の灰白色・黒色岩片・長石・輝石の粗・細砂および中量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	C4 中量の円磨度の進んだ珪質な乳白色・灰白色・赤色・黒色岩片や少量の長石・石英・輝石の粗・細砂および微量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	C5 中量の円磨度の進んだ珪質な乳白色・灰白色・赤色・黒色岩片の礫・粗砂と少量の結晶片岩・長石・輝石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	C6 中量の円磨度の進んだ珪質な乳白色・黒色・赤色岩片と少量の結晶片岩の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	C7 中量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質な乳白色・赤色・黒色岩片と少量の雲母・長石・輝石・灰白色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
	C8 中量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質な乳白色・赤色・黒色岩片と少量の長石・輝石の粗・細砂および中量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	C9 中量の円磨度の進んだ結晶片岩・長石と少量の珪質な乳白色・灰白色・赤色岩片や雲母・輝石・石英の粗・細砂を含む緻密でぬめり感のある胎土。	
	C10 中量の円磨度の進んだ結晶片岩・輝石と少量の珪質な乳白色・灰白色・赤色岩片や長石・石英の粗・細砂および雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	C11 中量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質な乳白色・黒色岩片の礫・粗砂と少量の灰白色・赤色岩片・長石・輝石の粗・細砂および中量の雲母細砂を含む緻密な胎土。	
	C12 中量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質乳白色岩片の礫・粗砂と中量の長石や少量の灰白色・赤色・黒色岩片・輝石の粗・細砂および多量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。	
	C13 中量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質な乳白色・黒色岩片の礫・粗砂と少量の雲母・長石・輝石・灰白色・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
	C14 中量の円磨度の進んだ結晶片岩礫・粗砂と少量の珪質な乳白色・灰白色・赤色岩片や長石・輝石・石英・雲母の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
C15 中量の円磨度の進んだ結晶片岩・珪質乳白色岩片と少量の灰白色・赤色岩片や長石・輝石の粗・細砂および雲母細砂を含むやや緻密な胎土。		
C16 多量の雲母や中量の円磨度の進んだ結晶片岩と珪質な乳白色・灰白色岩片および少量の長石・輝石の粗・細砂を含む緻密な胎土。		
C17 多量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質な乳白色・赤色・黒色岩片と少量の長石・輝石・石英・灰白色岩片の粗・細砂および中量の雲母細砂を含む緻密な胎土。		
C18 多量の円磨度の進んだ結晶片岩の礫・粗砂や珪質な乳白色・赤色・黒色岩片と少量の長石・輝石・灰白色岩片の粗・細砂および少量の雲母細砂を含む緻密な胎土。		
C19 多量の円磨度の進んだ結晶片岩の礫・粗砂や珪質な乳白色・灰白色・赤色・黒色岩片と少量の長石・輝石・石英の粗・細砂および多量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。		
C20 多量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質な乳白色・赤色・黒色岩片と少量の長石・輝石・石英・灰白色岩片の粗・細砂および多量の雲母細砂を含むぬめり感のある緻密な胎土。		
C21 多量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質な乳白色・赤色・黒色岩片の礫・粗砂と多量の雲母および少量の長石・輝石・灰白色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。		

写真図版



1 1号竪穴建物



2 2号竪穴建物



3 2号竪穴建物



4 2号竪穴建物出土遺物



5 2号竪穴建物出土遺物



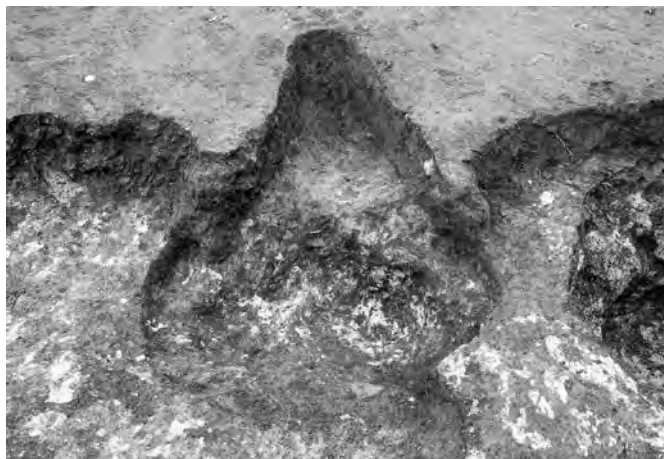
6 2号竪穴建物内ピット



7 3号竪穴建物



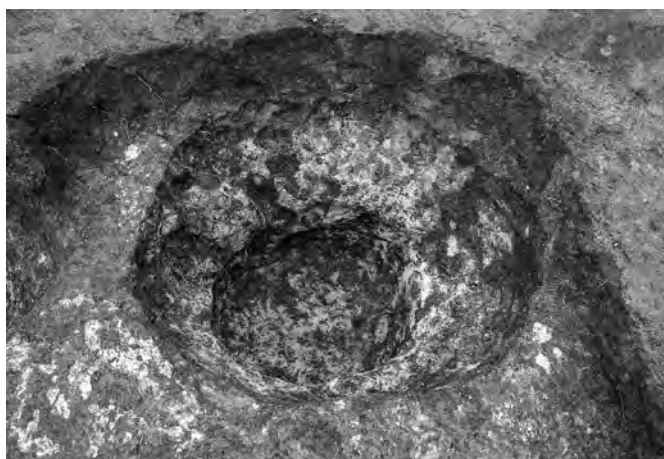
8 3号竪穴建物出土遺物



1 3号竖穴建物竈



2 3号竖穴建物竈



3 3号竖穴建物貯藏穴



4 3号竖穴建物出土遺物



5 3号竖穴建物出土遺物



6 4号竖穴建物



7 4号竖穴建物竈



8 4号竖穴建物竈



1 4号竖穴建物出土遺物



2 5号竖穴建物



3 5号竖穴建物



4 5号竖穴建物



5 5号竖穴建物出土遺物



6 5号竖穴建物出土遺物



7 5号竖穴建物出土遺物



8 5号竖穴建物竈・貯蔵穴

PL.4



1 5号竖穴建物出土遺物



2 6号竖穴建物



3 6号竖穴建物出土遺物



4 6号竖穴建物貯蔵穴



5 7号竖穴建物



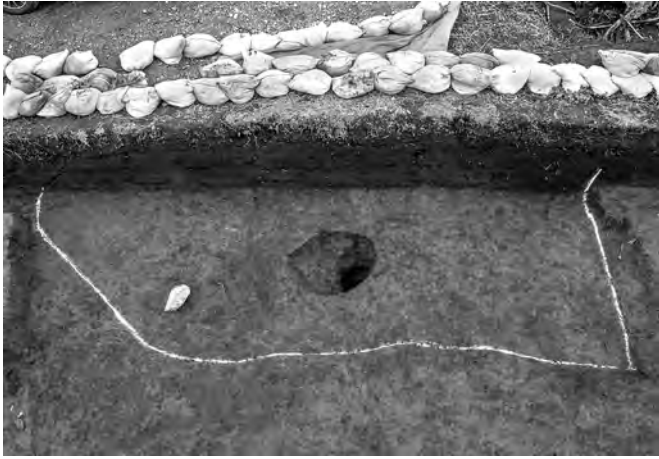
6 8号竖穴建物



7 9号竖穴建物



8 9号竖穴建物出土遺物



1 10号竖穴建物



2 11号竖穴建物



3 12号竖穴建物



4 12号竖穴建物



5 12号竖穴建物出土遺物



6 12号竖穴建物出土遺物



7 12号竖穴建物出土遺物



8 12号竖穴建物出土遺物



1 13号豎穴建物



2 14号豎穴建物



3 15号豎穴建物



4 15号豎穴建物炉



5 1号豎穴状遺構



6 2号豎穴状遺構



7 2号豎穴状遺構出土遺物



8 2号豎穴状遺構出土遺物



1 3号竖穴状遺構出土遺物



2 4号竖穴状遺構



3 5号竖穴状遺構



4 6号竖穴状遺構



5 6号竖穴状遺構



6 6号竖穴状遺構



7 6号竖穴状遺構

PL.8



1 1号井戸



2 2号井戸



3 1号土坑



4 2・3号土坑



5 3号土坑・馬齒



6 5号土坑



7 6号土坑



8 8号土坑



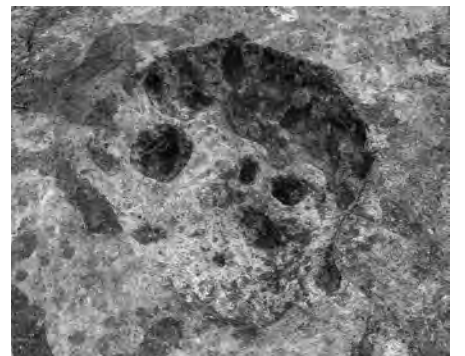
9 9号土坑



10 9号土坑出土遺物



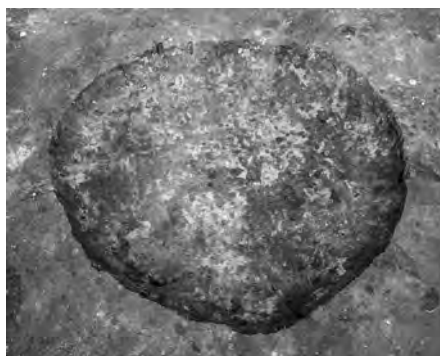
11 10号土坑



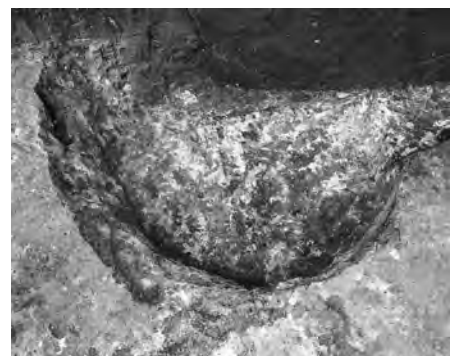
12 11号土坑



13 12号土坑



14 13号土坑



15 15号土坑



1 15号土坑出土遺物



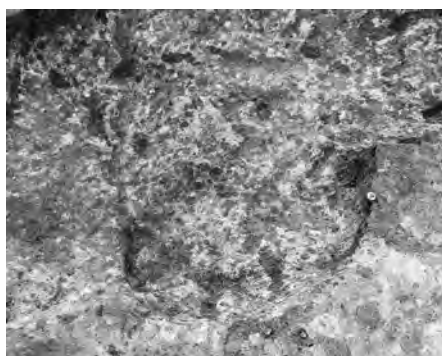
2 16号土坑



3 17号土坑



4 18号土坑



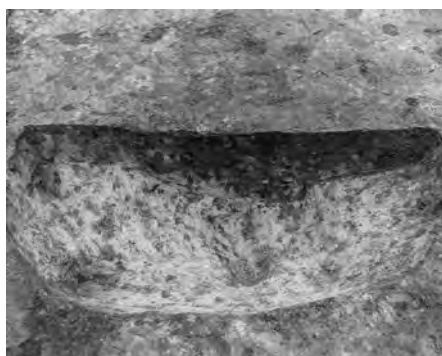
5 20号土坑



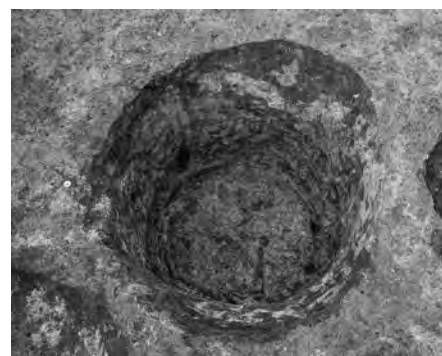
6 21号土坑



7 22号土坑



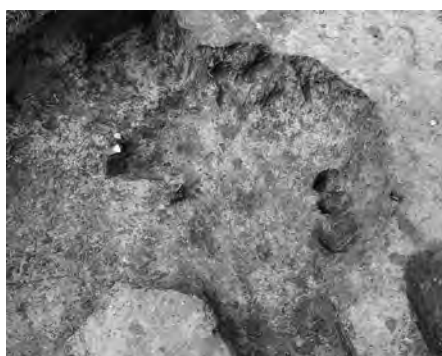
8 24号土坑



9 25号土坑



10 28号土坑



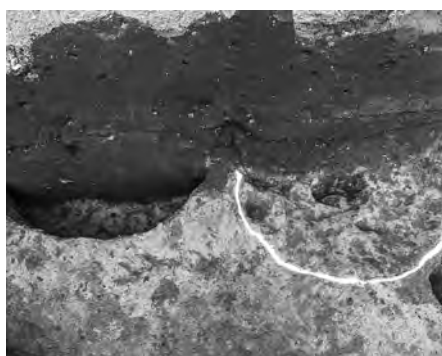
11 29号土坑



12 30号土坑



13 30号土坑出土遺物

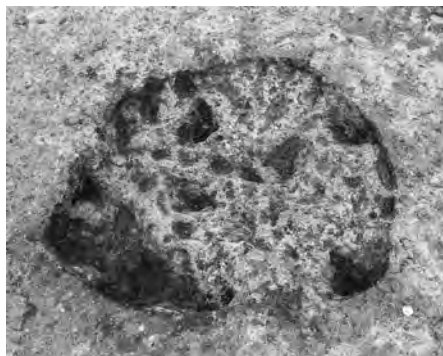


14 31・32号土坑

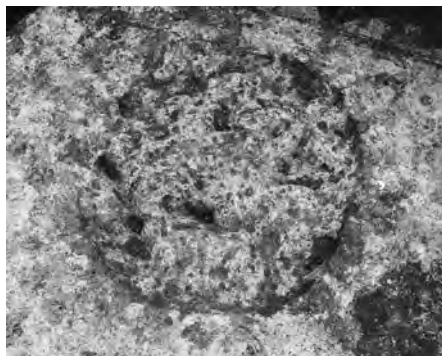


15 32号土坑

PL.10



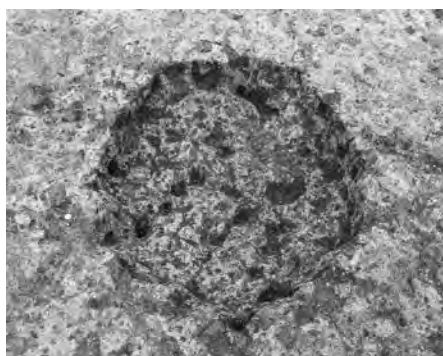
1 33号土坑



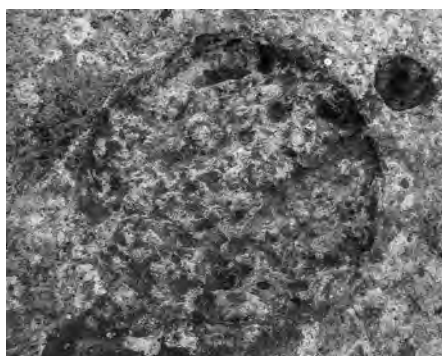
2 34号土坑



3 35号土坑



4 36号土坑



5 37号土坑



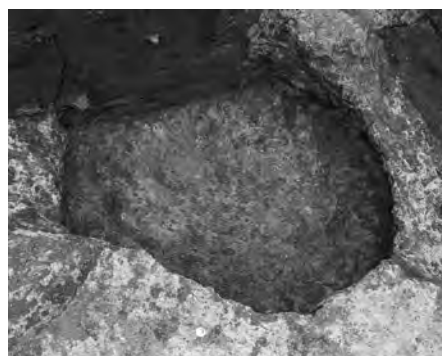
6 39号土坑



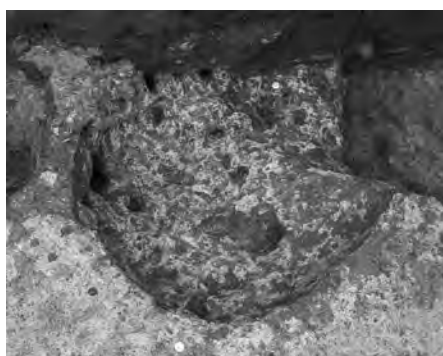
7 40号土坑



8 41号土坑



9 42号土坑



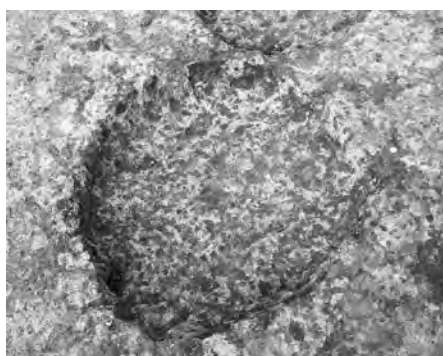
10 43号土坑



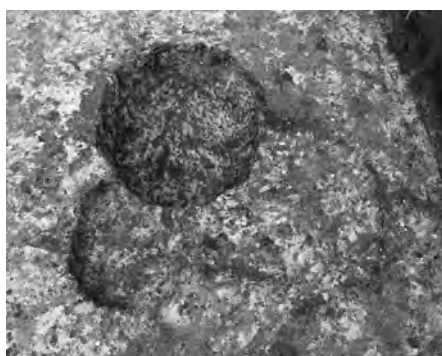
11 45号土坑



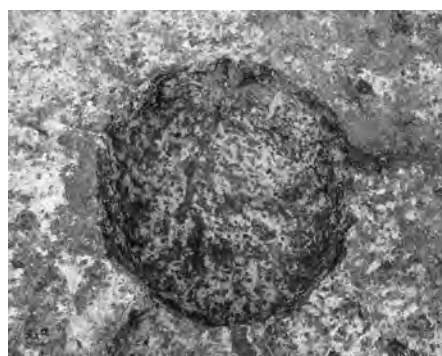
12 46号土坑



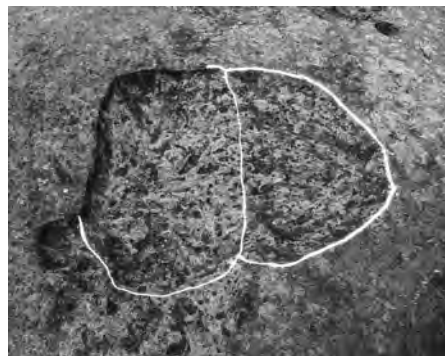
13 48号土坑



14 48~50号土坑



15 50号土坑



1 51·52号土坑



2 53·54号土坑



3 53号土坑出土遺物



4 53号土坑



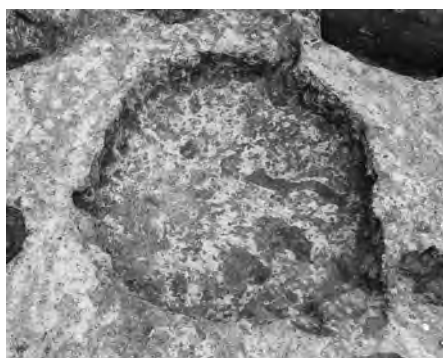
5 53号土坑出土遺物



6 55号土坑



7 57号土坑



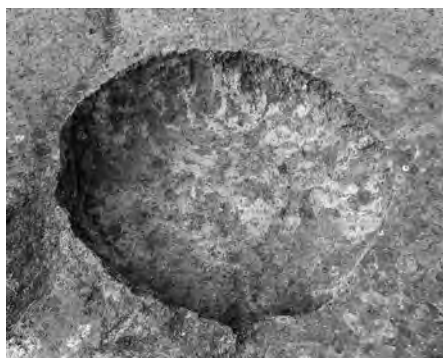
8 58号土坑



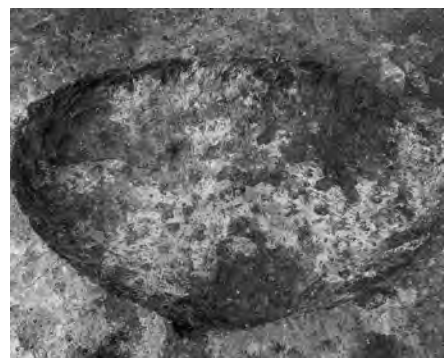
9 56号土坑



10 59号土坑



11 60号土坑



12 61号土坑



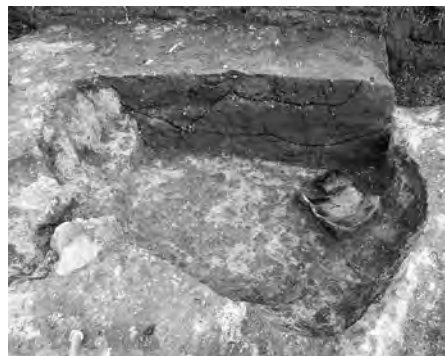
13 62号土坑



14 63号土坑



15 64号土坑



1 65号土坑



2 65号土坑出土遺物



3 67号土坑



4 66号土坑



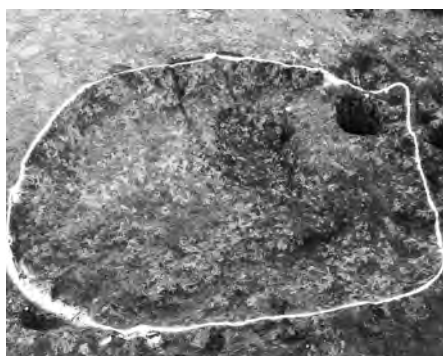
5 68号土坑



6 69号土坑



7 72号土坑



8 73号土坑



9 74号土坑



10 75号土坑



11 75号土坑出土遺物



12 77号土坑



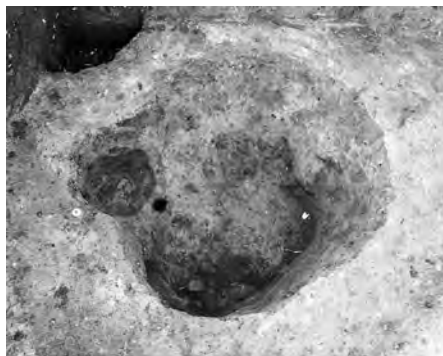
13 77号土坑



14 80号土坑



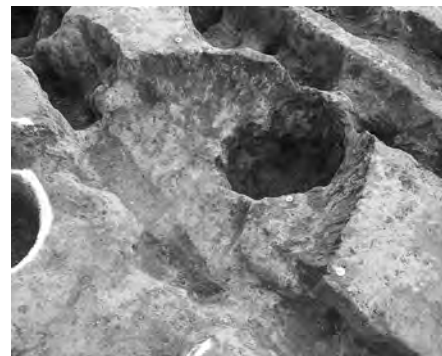
15 81号土坑



1 82号土坑



2 84号土坑



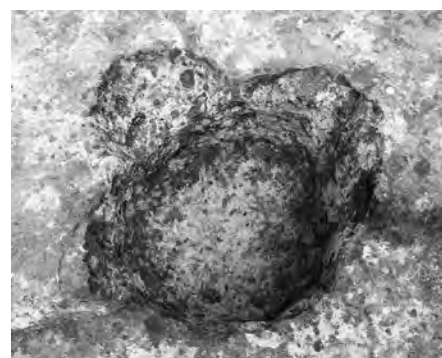
3 85号土坑



4 86号土坑



5 87号土坑



6 89号土坑



7 90号土坑



8 90号土坑出土遺物



9 103号土坑出土遺物



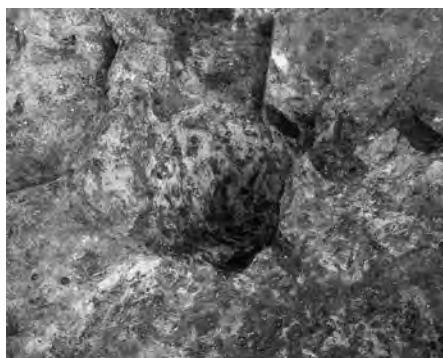
10 103号土坑



11 104号土坑



12 105号土坑



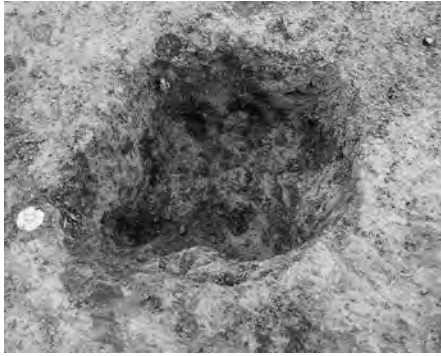
13 ピット9



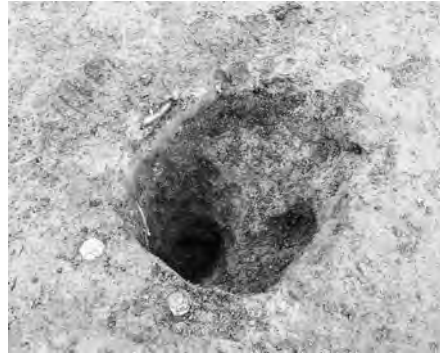
14 ピット11



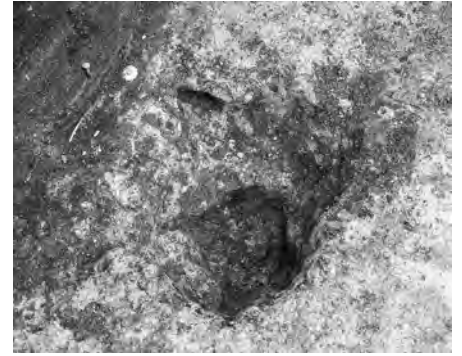
15 ピット12



1 ピット51



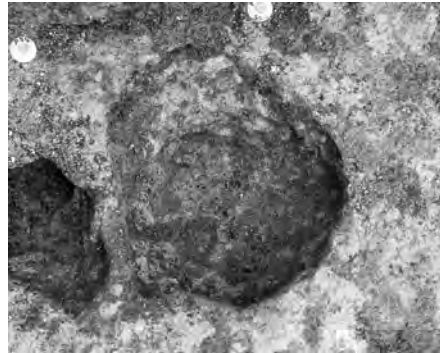
2 ピット52



3 ピット53



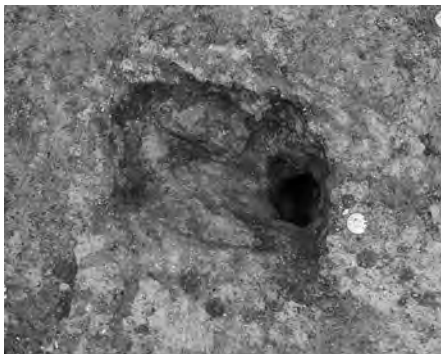
4 ピット54



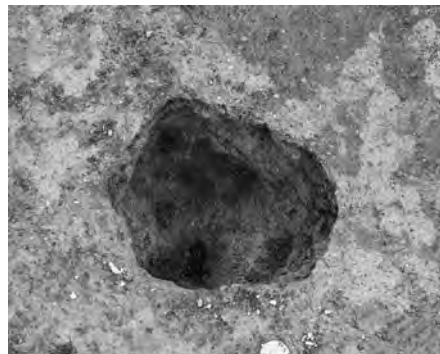
5 ピット55



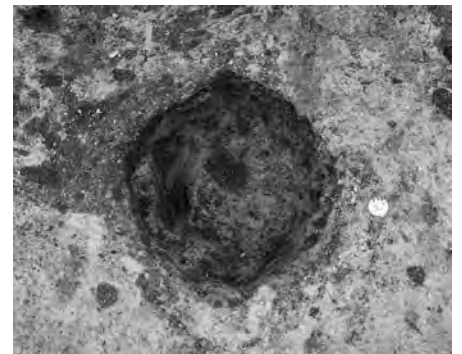
6 ピット56



7 ピット57



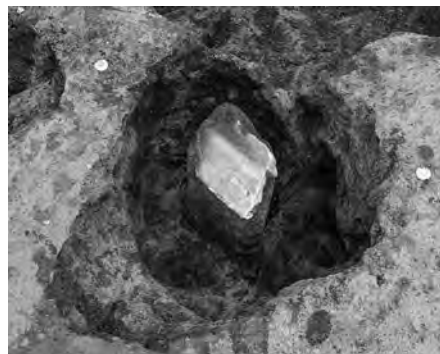
8 ピット58



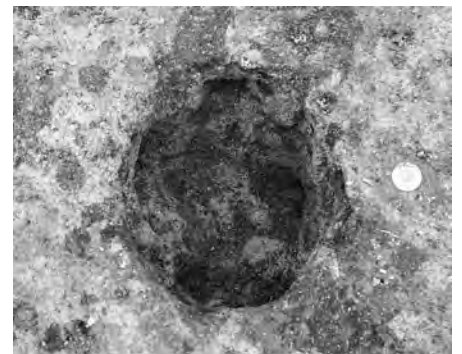
9 ピット59



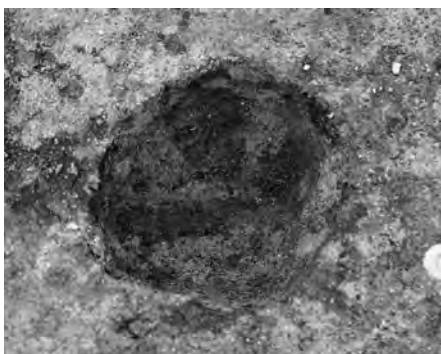
10 ピット60



11 ピット61



12 ピット62



13 ピット63

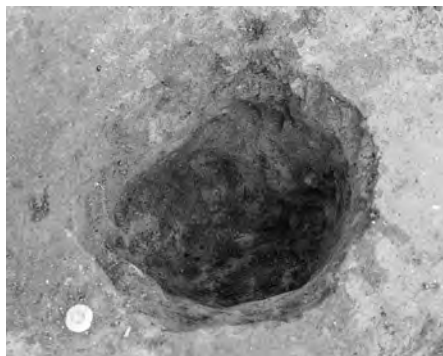


14 ピット66



15 15号竪穴建物P 9

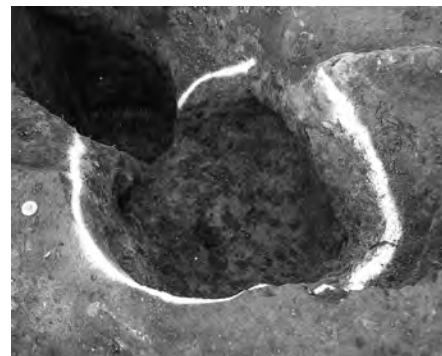
PL.16



1 ピット68



2 ピット69



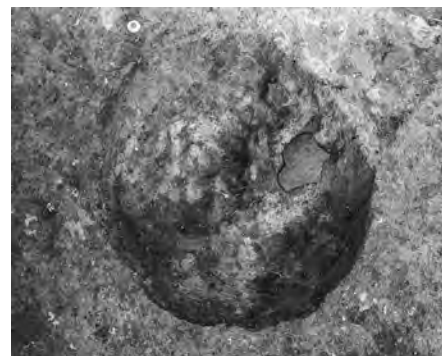
3 ピット70



4 ピット72



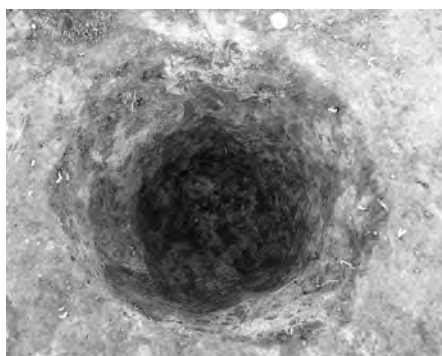
5 ピット74



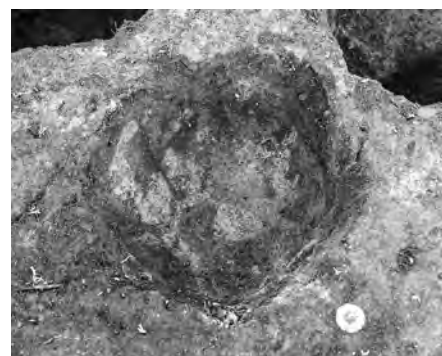
6 ピット75



7 ピット76



8 ピット77



9 ピット78



10 ピット80



11 ピット81



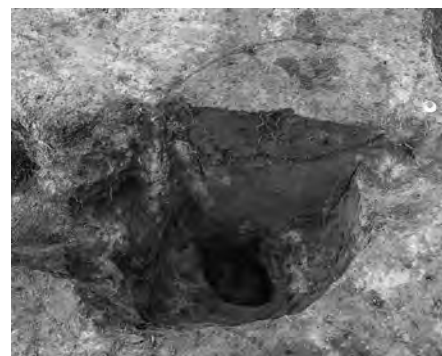
12 ピット82



13 ピット83



14 ピット85



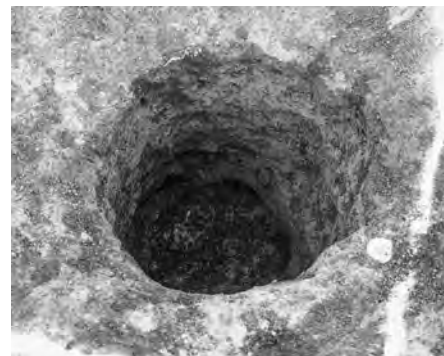
15 ピット86



1 ピット87



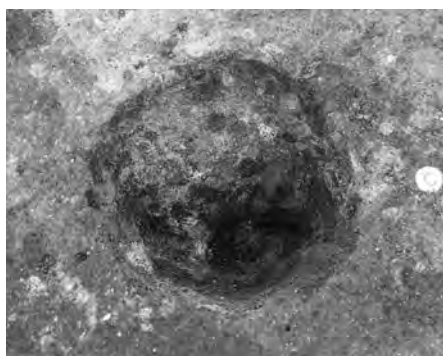
2 ピット88



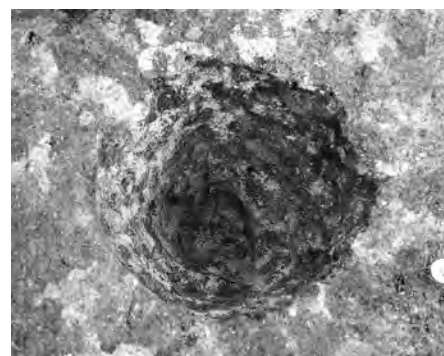
3 ピット89



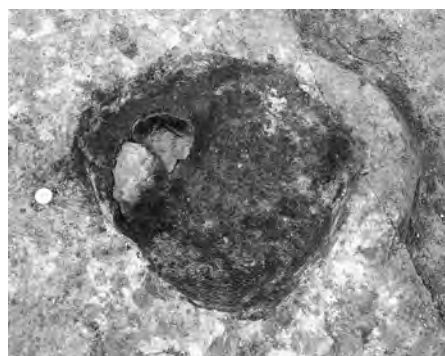
4 ピット90



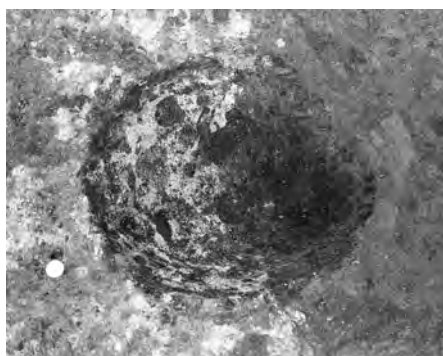
5 ピット91



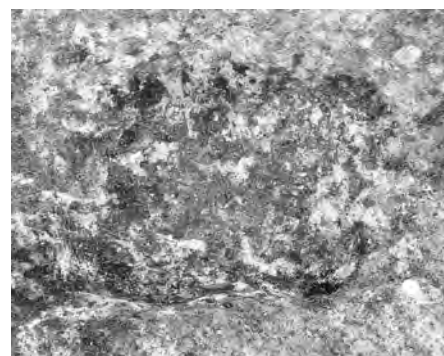
6 ピット92



7 ピット93



8 ピット94



9 ピット95



10 15号竪穴建物P 3



11 ピット99



12 ピット100



13 15号竪穴建物P 6



14 ピット102

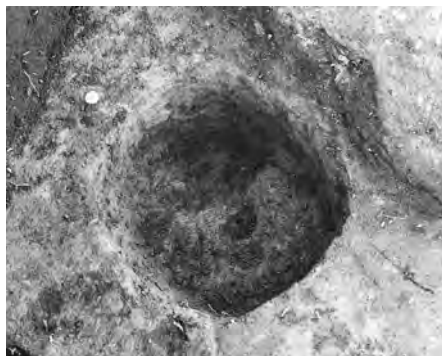


15 ピット103

PL.18



1 ピット104



2 ピット106



3 ピット107



4 ピット108



5 ピット109



6 ピット110



7 ピット111



8 ピット113



9 ピット115



10 ピット116



11 15号竪穴建物P 1



12 ピット118



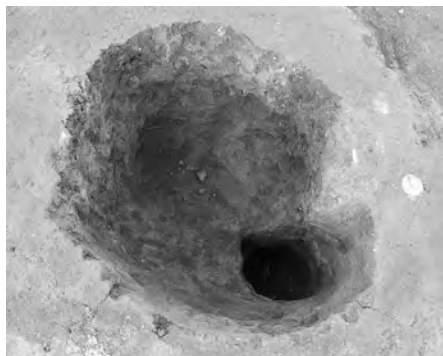
13 ピット119



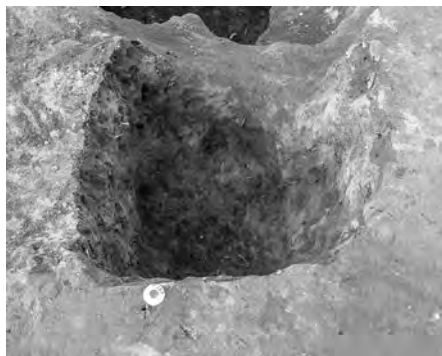
14 ピット120



15 ピット121



1 ピット122



2 ピット123



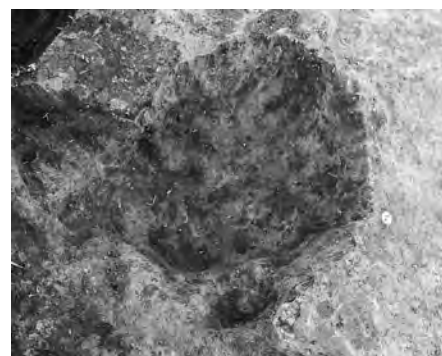
3 ピット124



4 ピット125



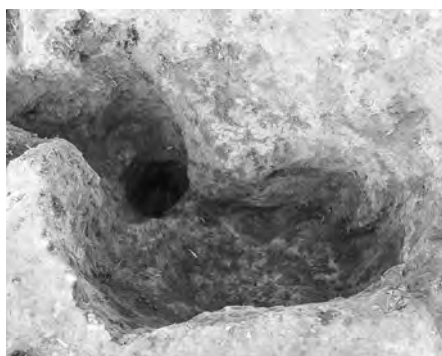
5 ピット126



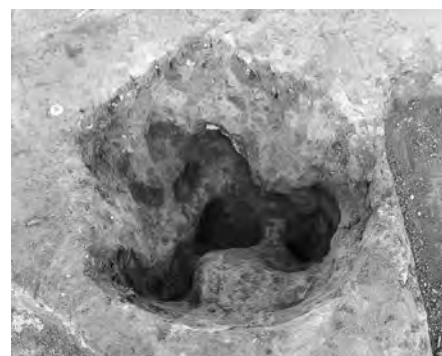
6 ピット127



7 ピット128



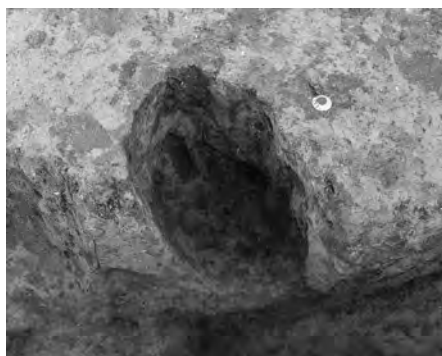
8 ピット129



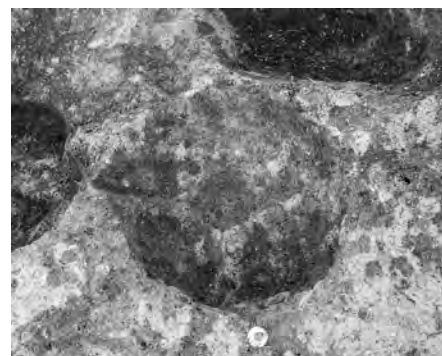
9 ピット130



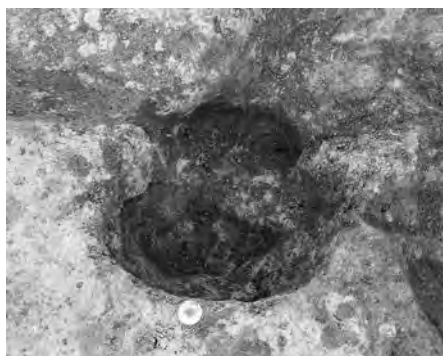
10 ピット131



11 ピット132



12 ピット133



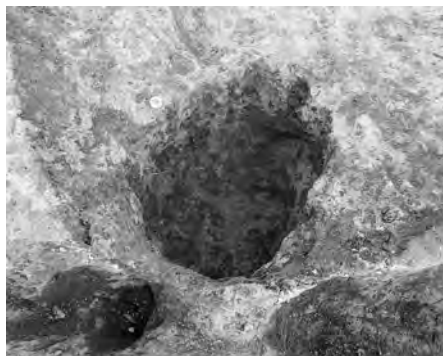
13 ピット134



14 ピット136



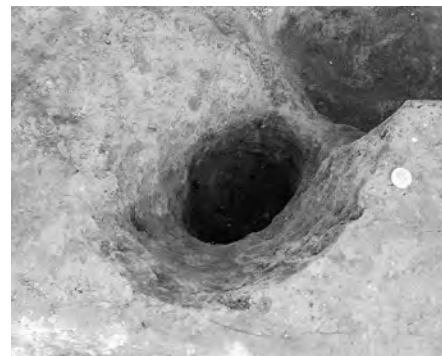
15 ピット139



1 ピット137



2 ピット138



3 ピット140



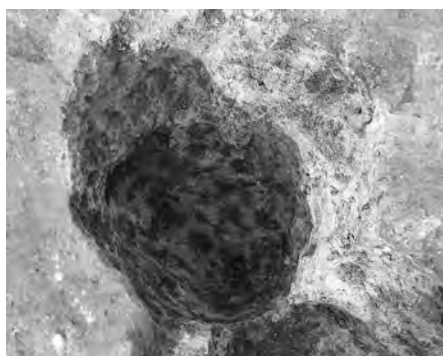
4 ピット141



5 ピット142



6 15号竪穴建物P 10



7 ピット145(15号竪穴建物柱穴)



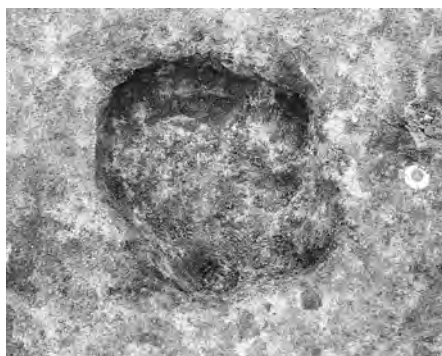
8 15号竪穴建物P 2



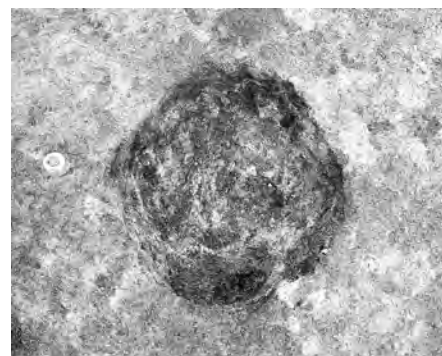
9 15号竪穴建物P 4



10 ピット148



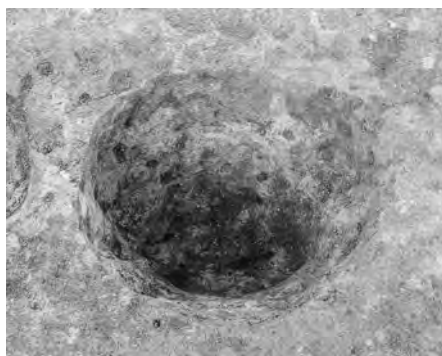
11 ピット149



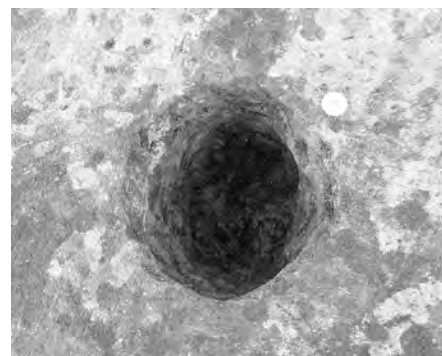
12 ピット150



13 15号竪穴建物P 5



14 ピット152



15 ピット153



1 ピット154



2 ピット155



3 ピット156



4 1号屋外炉・下面が58号土坑



5 58号土坑



6 1号屋外炉



7 1号屋外炉埋め甕



8 1号屋外炉埋め甕

PL.22

2号竖穴建物出土遺物



1

3号竖穴建物出土遺物



3



4



5

4号竖穴建物出土遺物



1



2



3



4



7



6

5号竖穴建物出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



8



13



14



16



17

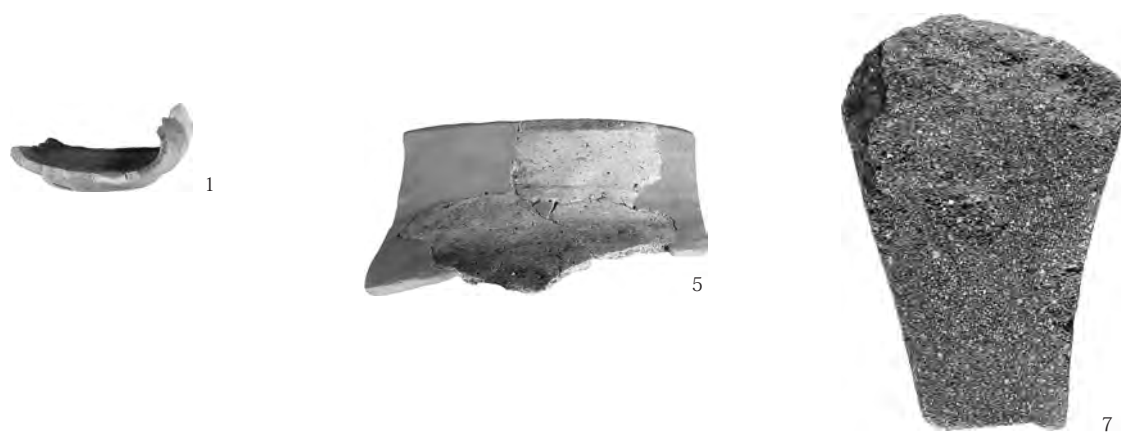


18

6号竖穴建物出土遺物



10号竖穴建物出土遺物



PL.26

11号竖穴建物出土遺物



12号竖穴建物出土遺物

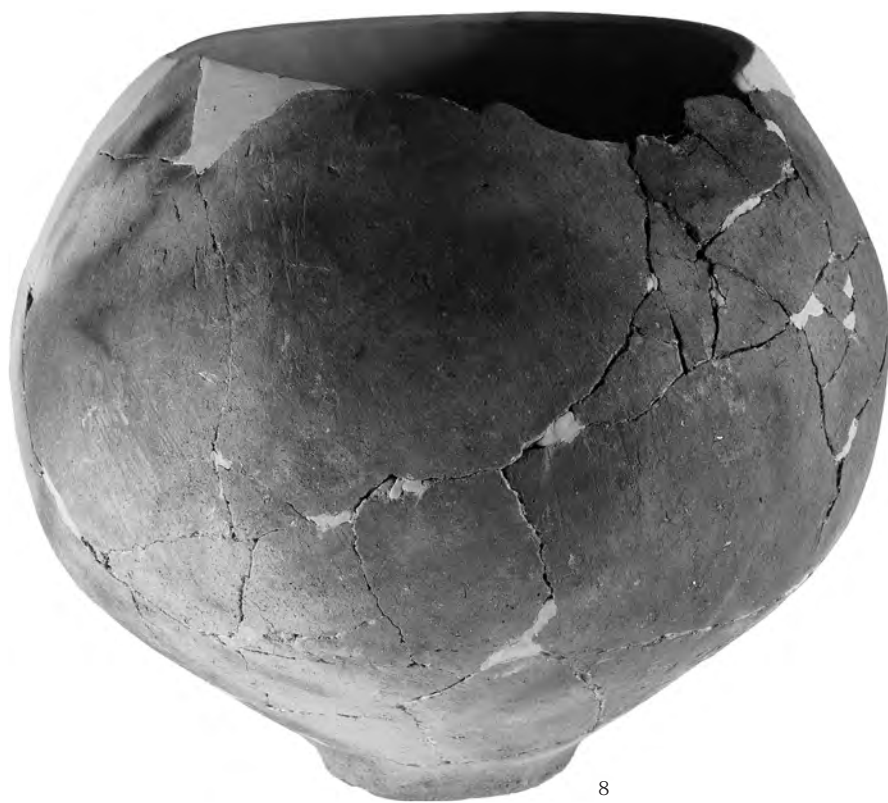




6



7



8



9



10



11



12



13

1号溝出土遺物



1



3



9



4



5

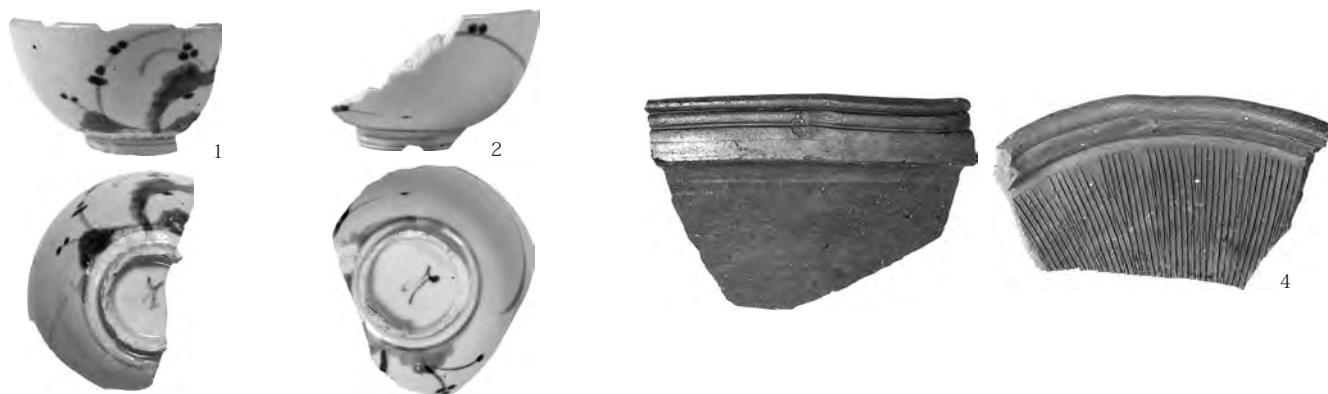


6

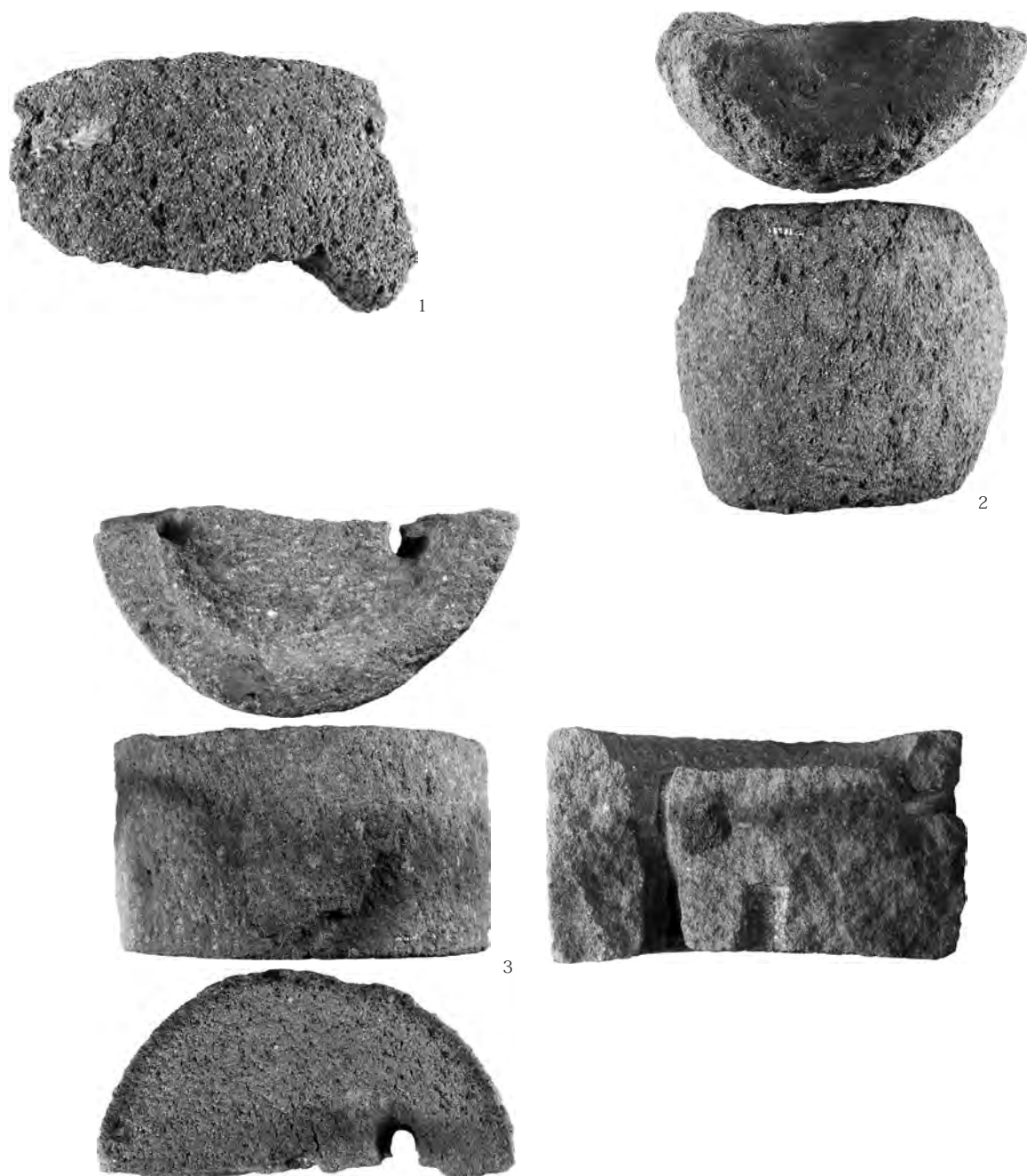


8

1号井戸出土遺物



2号井戸出土遺物



PL.30

89号ピット出土遺物



遺構外出土遺物



縄文時代

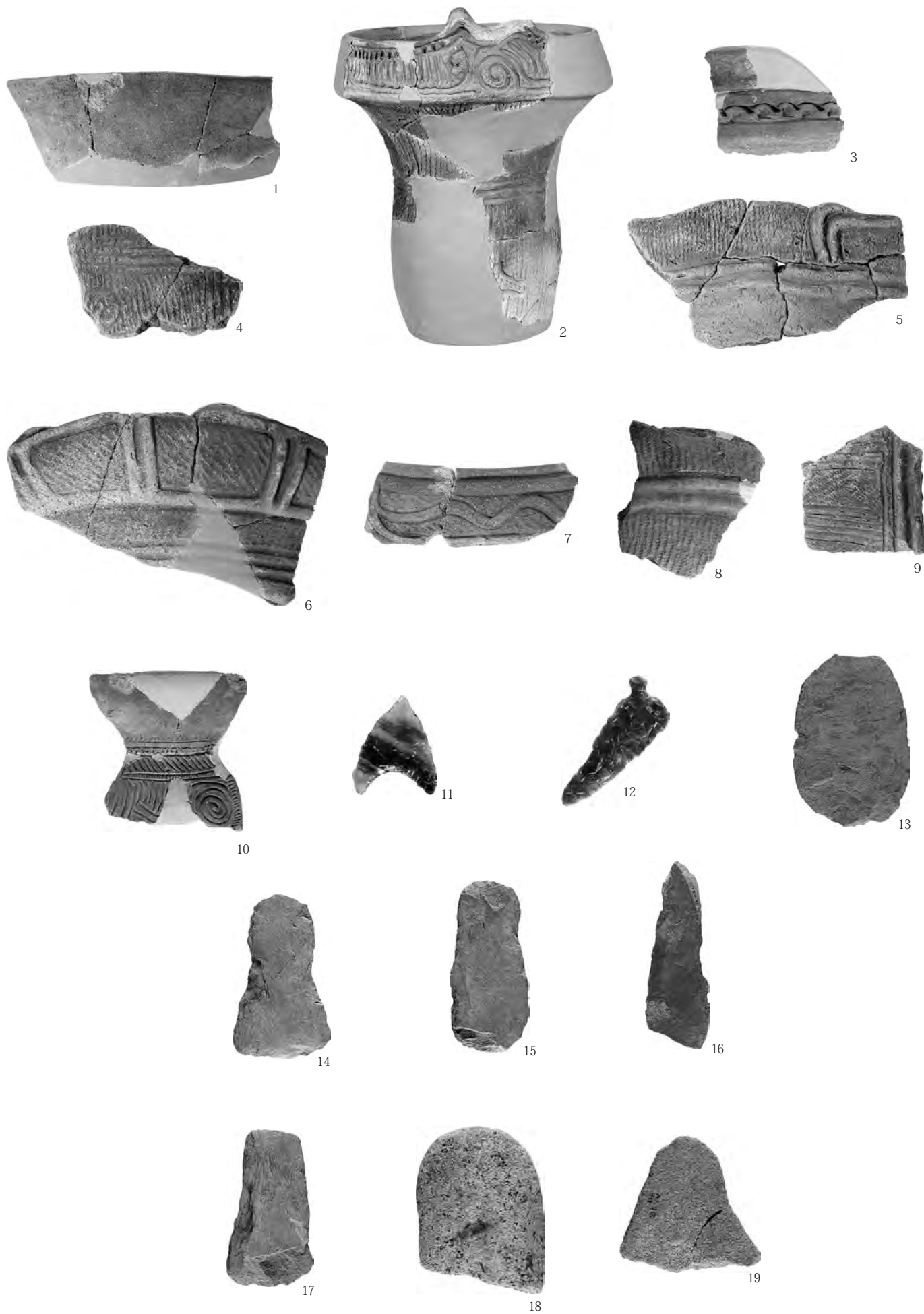
7号竪穴建物居出土遺物



8号竪穴建物出土遺物



9号竖穴建物出土遺物



PL.32

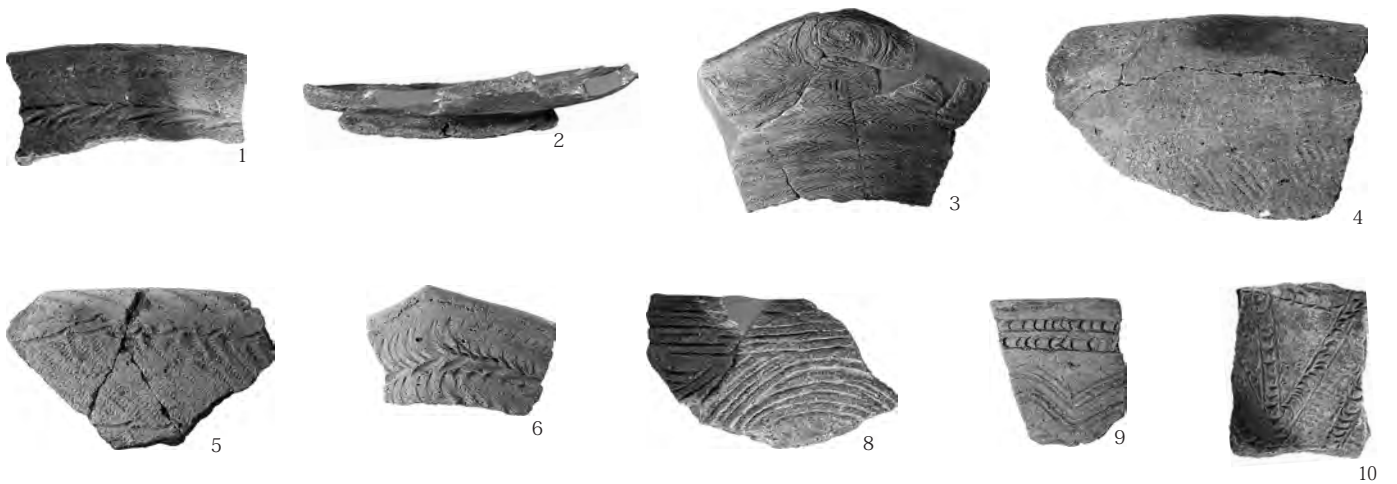
1号遺物集中出土遺物



13号豎穴建物出土遺物



14号豎穴建物出土遺物





7



12



11



13



14



15

15号竖穴建物出土遺物

2号竖穴状遺構出土遺物



1



2



1

PL.34

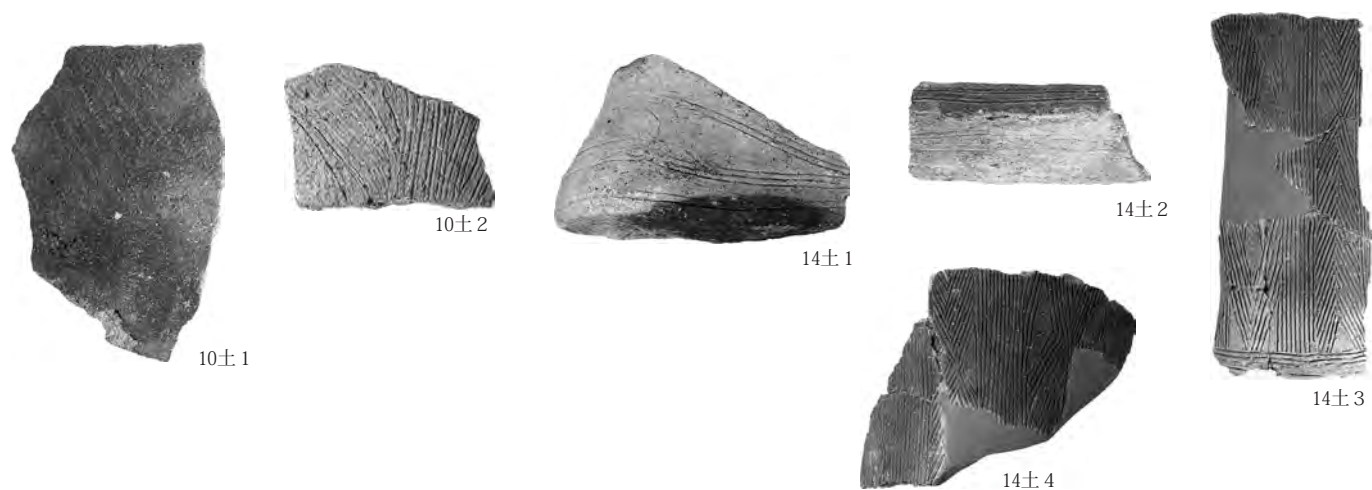
4号竖穴状遺構出土遺物



6号竖穴状遺構出土遺物



10·14号土坑出土遺物



18·19·21·22号土坑出土遺物



12号土坑出土遺物



13号土坑出土遺物



15号土坑出土遺物



16号土坑出土遺物

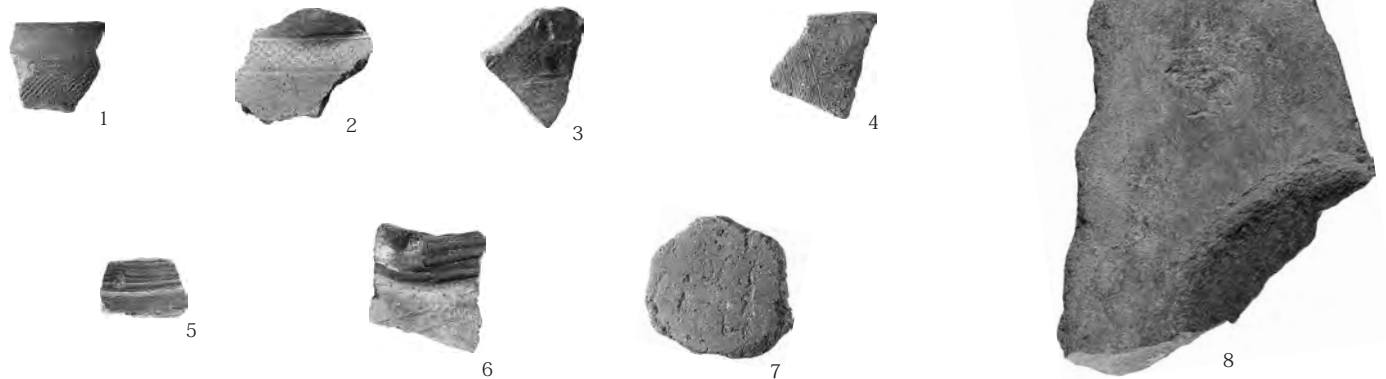


17号土坑出土遺物



PL.36

28号土坑出土遺物



30号土坑出土遺物



33号土坑出土遺物



35号土坑出土遺物



38号土坑出土遺物



47号土坑出土遺物



39・42・44号土坑出土遺物



39±1



39±2



42±1



42±2



44±1



44±2

41号土坑出土遺物



1



2



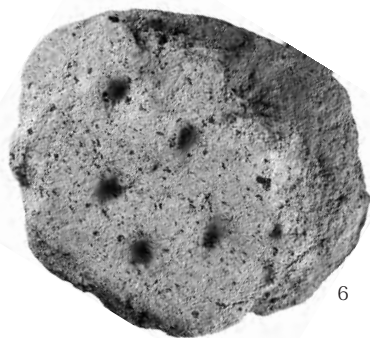
3



5



4



6

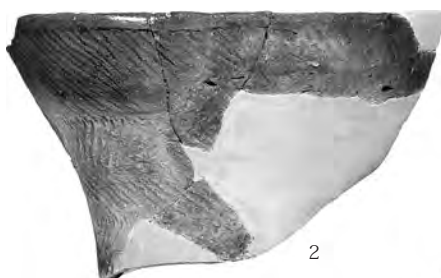


7

46号土坑出土遺物



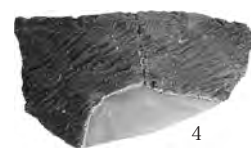
1



2



3



4



5



6

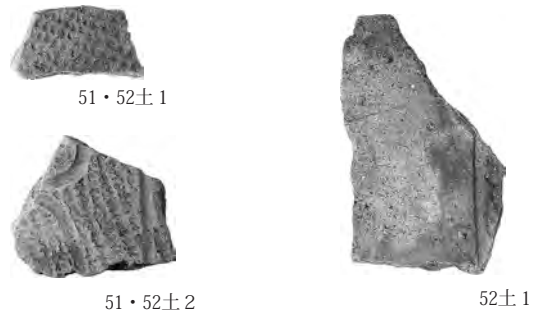
PL.38



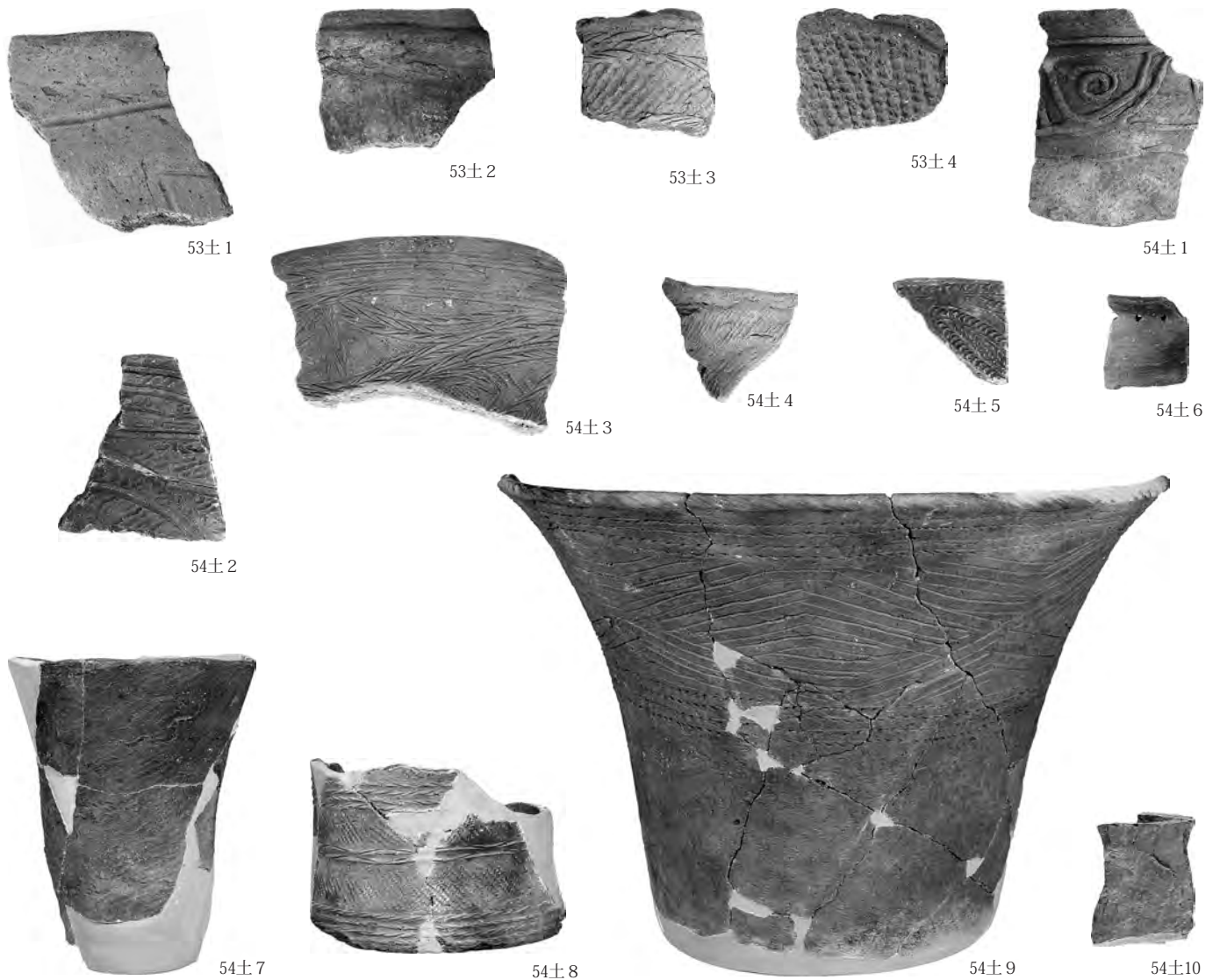
50号土坑出土遺物



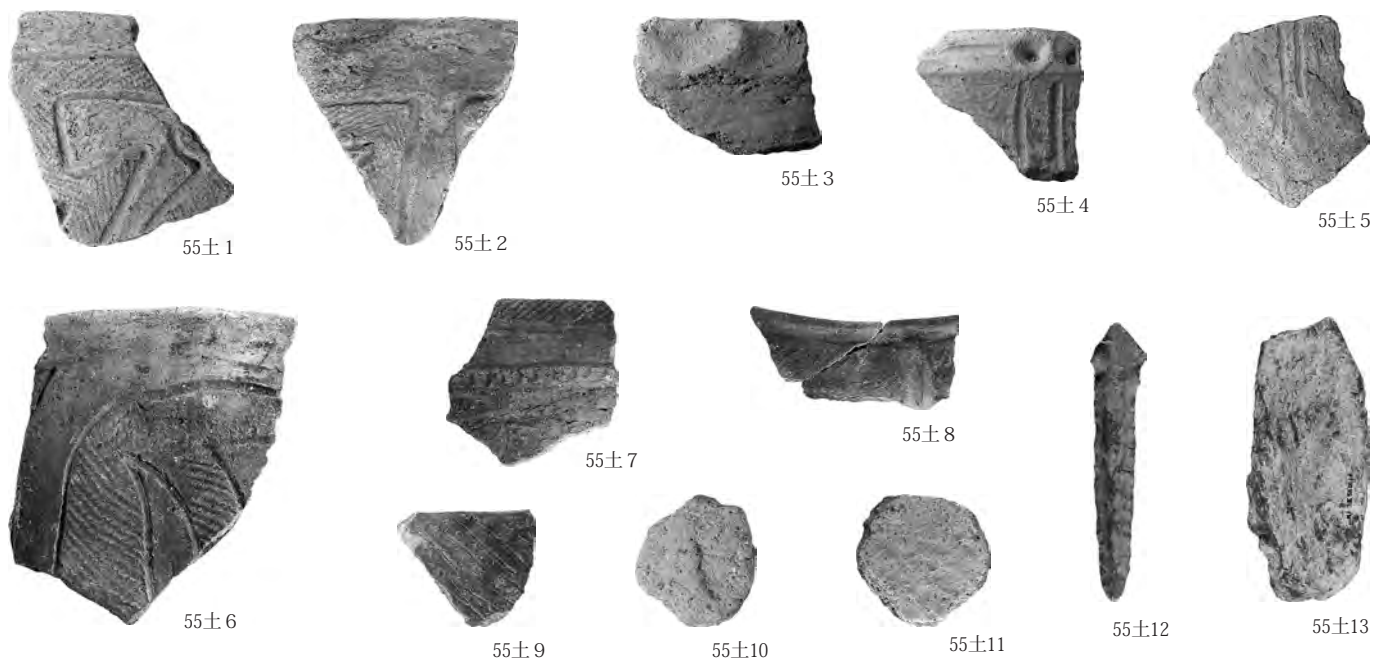
51・52号土坑出土遺物



53・54号土坑出土遺物



55号土坑出土遺物



56・57号土坑出土遺物



90号土坑出土遺物



PL.40

59号土坑出土遺物



59±1



59±2



59±3

62号土坑出土遺物



62±1



62±2



62±3

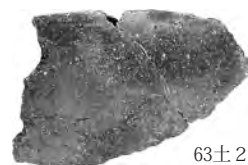


62±4

63・67号土坑出土遺物



63±1



63±2



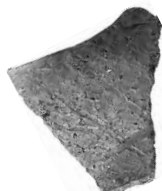
63±5



63±6



63±7



63±8



63±9



63±10



67±1



67±2



63±3

64号土坑出土遺物



64±1



64±2



64±3

65号土坑出土遺物



65±1

66号土坑出土遺物



66±1



66±2



66±3



66±4

68号土坑出土遺物



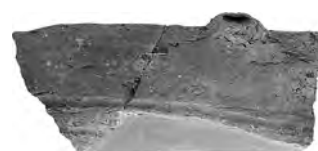
68±1



68±2



68±3



68±4



68±5



68±6



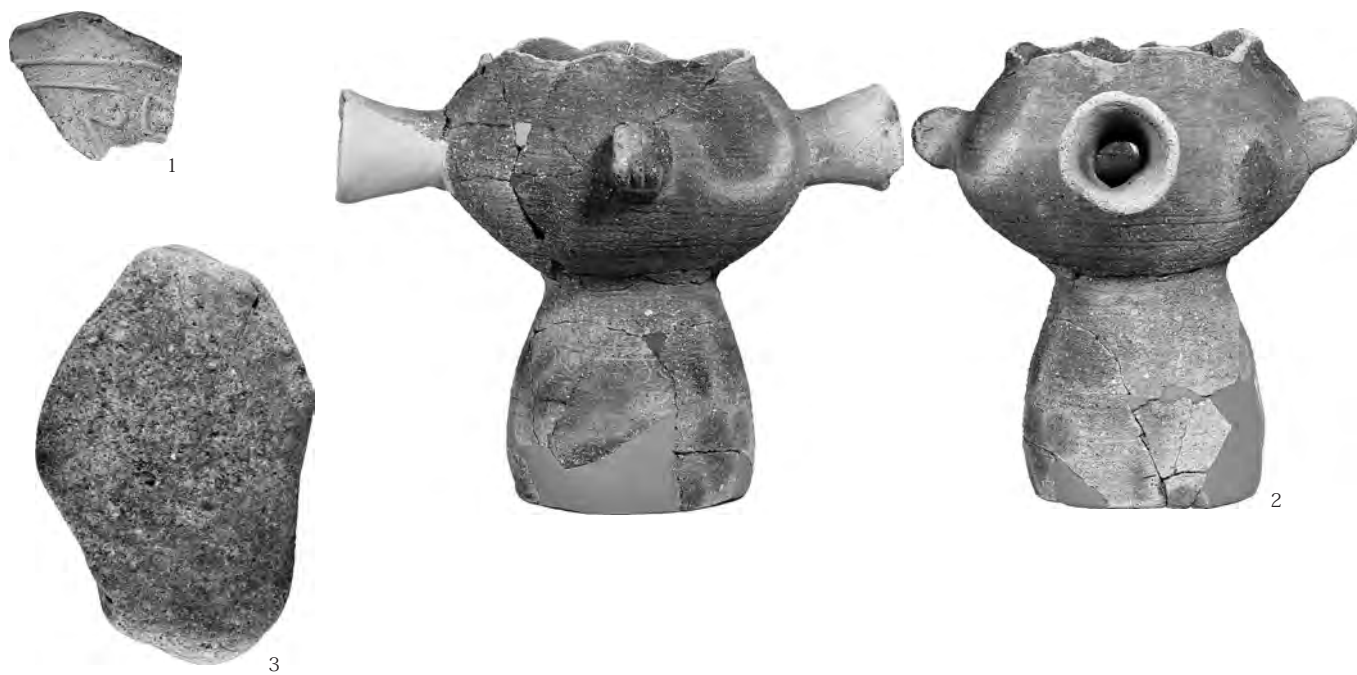
68±7



68±10

PL.42

69号土坑出土遺物



72号土坑出土遺物



73号土坑出土遺物



74号土坑出土遺物



75号土坑出土遺物



1



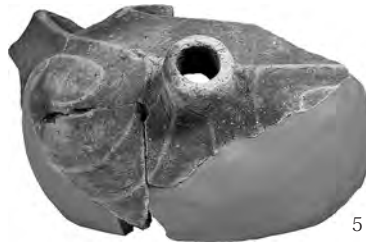
2



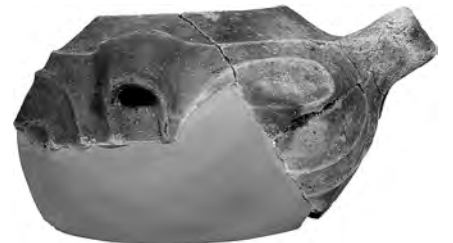
3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19

PL.44

77号土坑出土遺物



1



2



3

86号土坑出土遺物



1



2

87号土坑出土遺物



87±1

89号土坑出土遺物



1

91・92・96・97号土坑出土遺物



91±1



92±1



92±2



92±3



92±4



92±5



92±6



96±1

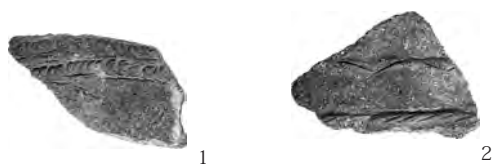


96±2

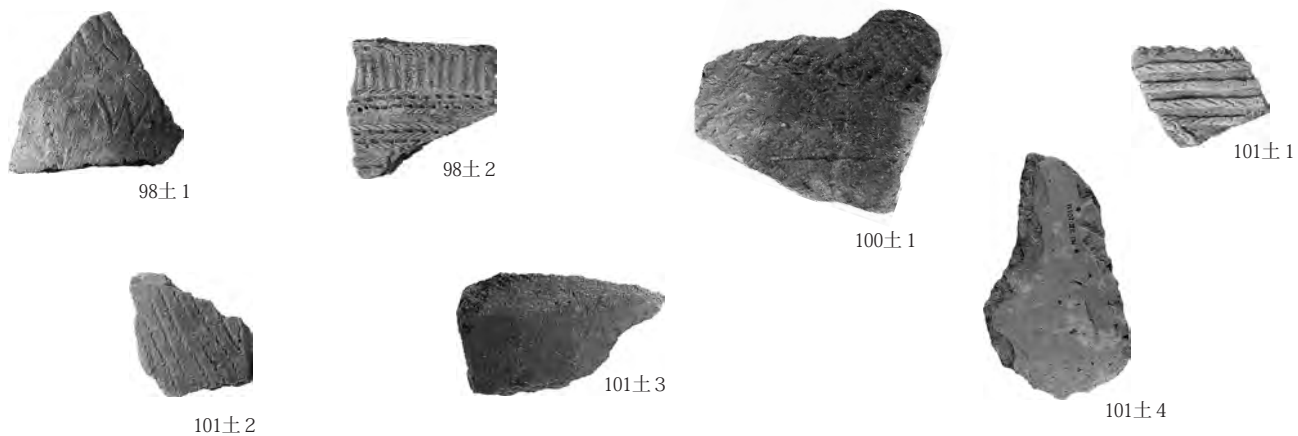


97±1

95号土坑出土遺物



98・100・101号土坑出土遺物



102号土坑出土遺物



103号土坑出土遺物



PL.46

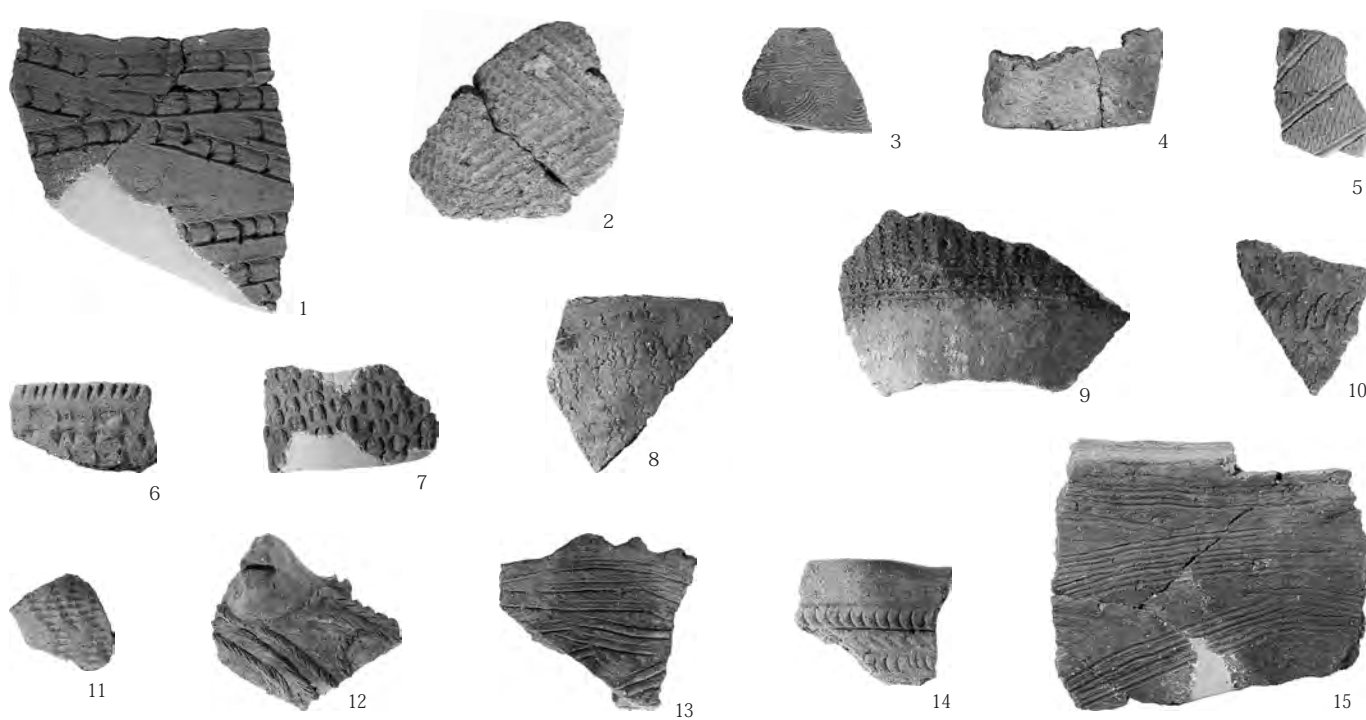
104・105号土坑出土遺物

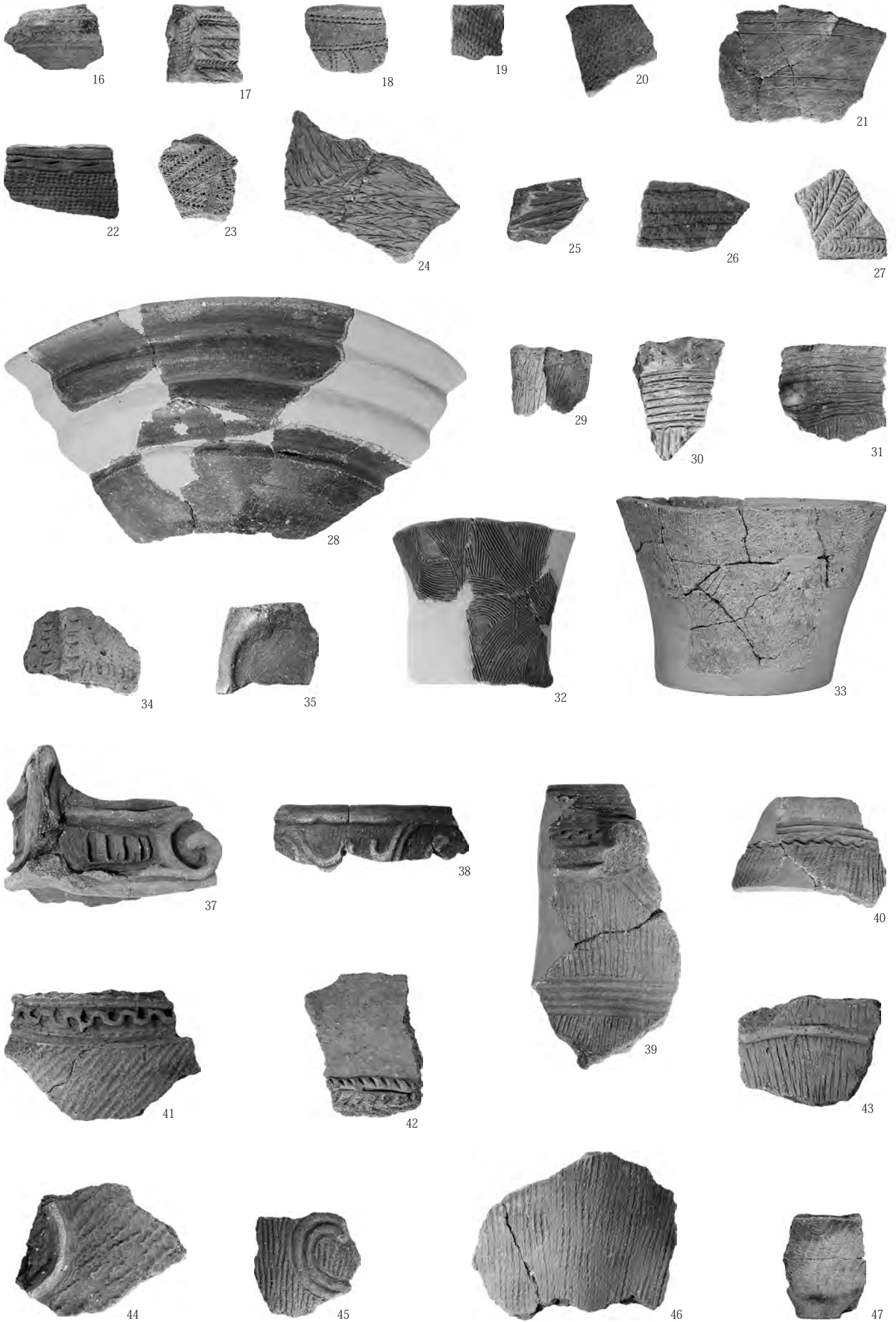


1号屋外炉出土遺物



1区遺構外出土遺物







48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



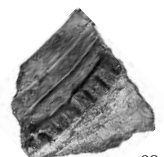
65



66



67



68



69



70

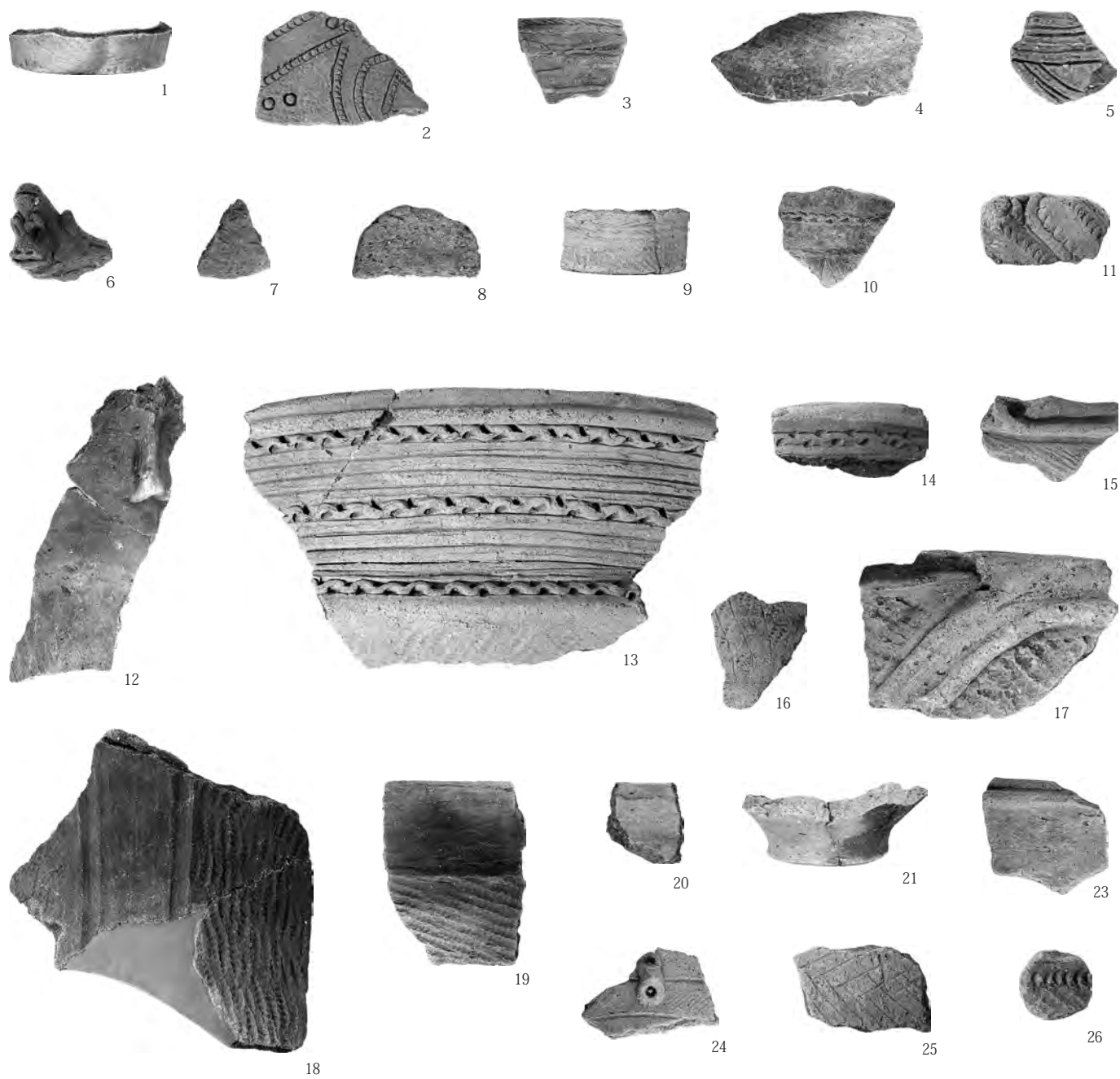


71

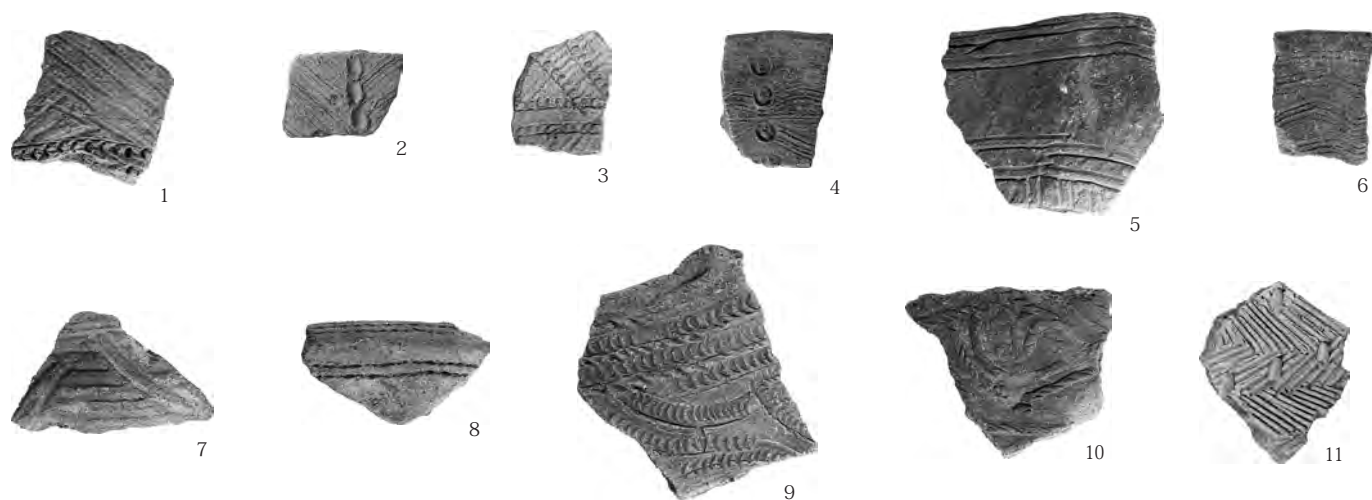


72

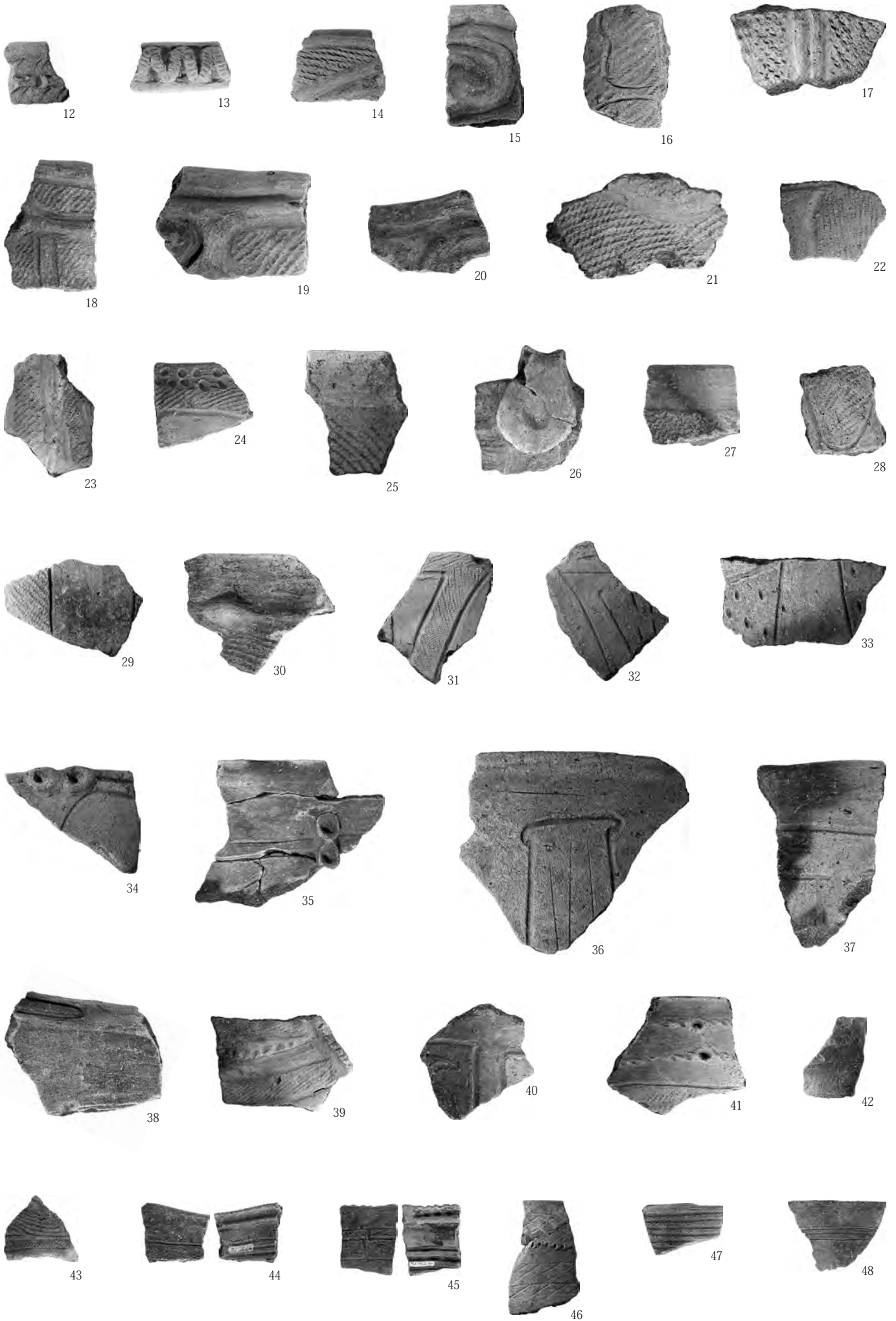
2区遺構外出土遺物

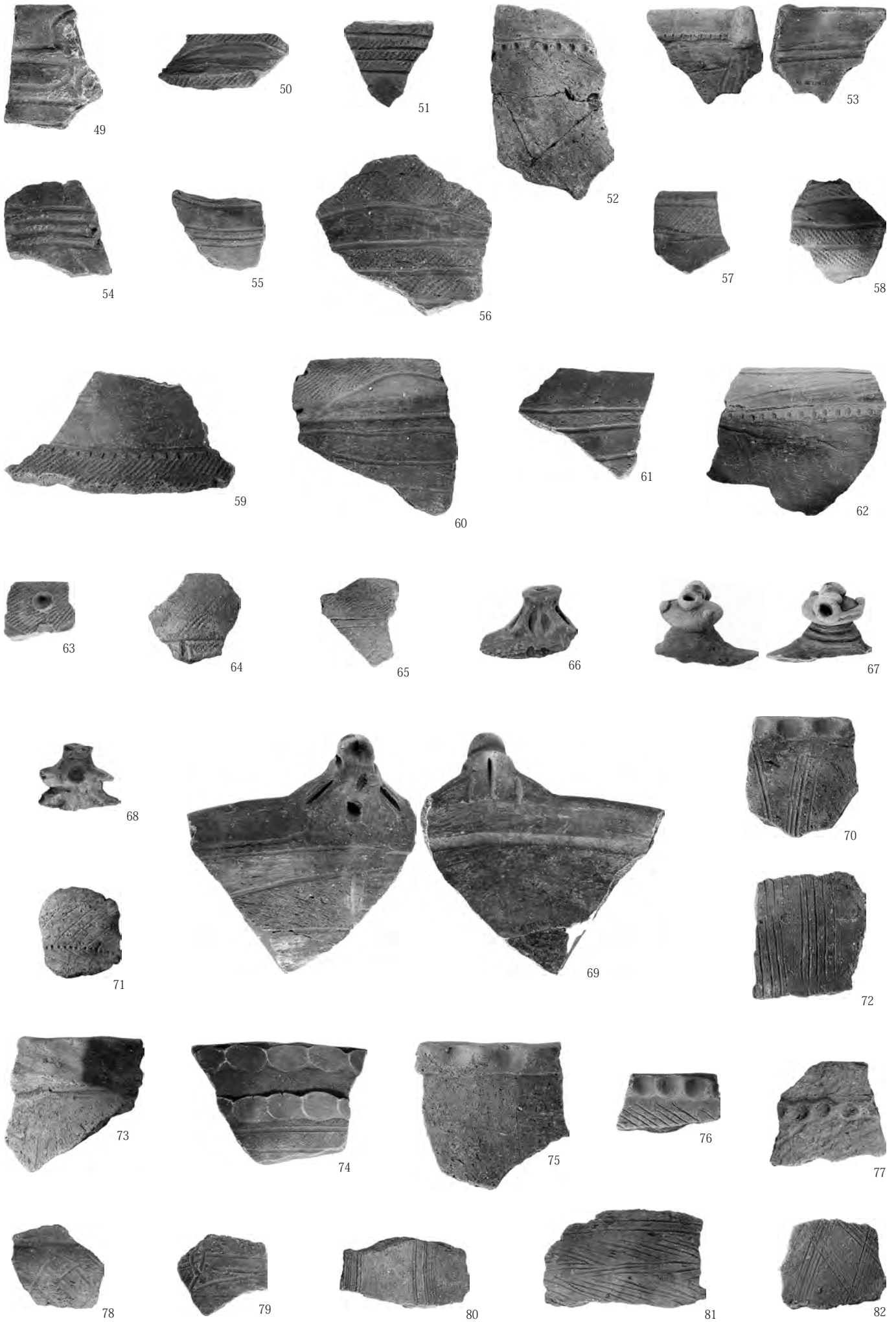


3区遺構外出土遺物



PL.50







83



84



85



86



87



88



89



90



91



92



93



94



95



96



97



98



99



100



101



102



103



104



105



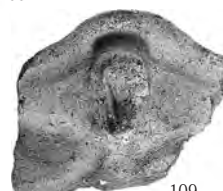
106



107



108



109



110



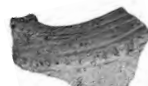
111



112



113



114



115



116



117



118



119



120



121



122



123



124



125



126



127



128



129



130



131



132



133



135



136



137



138



139



140



141



142



143



144



PL.54



146



147



148



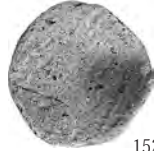
149



150



151



152



153



154



155



156



157



158



159



160



161



162



163



164



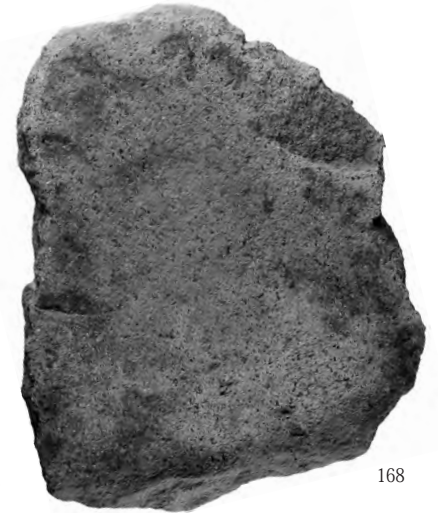
165



166



167



168

報告書抄録

書名ふりがな	まえはたじえいいせき
書名	前畑J遺跡
副書名	一般県道笠懸赤堀今井線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	656
編著者名	友廣哲也
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20190320
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	まえはたじえいいせき
遺跡名	前畑J遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんきりゅうしにいさとまちの
遺跡所在地	群馬県桐生市新里町野
市町村コード	203
遺跡番号	B0183
北緯（世界測地系）	
東経（世界測地系）	
調査期間	20170901-20171130
調査面積	2,482㎡
調査原因	道路改良工事
種別	包蔵地／集落
主な時代	縄文／古墳／中近世
遺跡概要	包蔵地－縄文時代＋土器＋石器／集落－縄文竪穴建物・古墳－竪穴建物15＋縄文竪穴状遺構5＋土坑105＋近世－溝1陶磁器＋ピット150
特記事項	古墳時代前期竪穴建物1棟
要約	前畑J遺跡は大間々扇状地の西端に位置し、縄文時代から中近世までの遺物が出土する遺跡である。竪穴建物は縄文時代・古墳時代・平安時代が確認されている。縄文時代は未掲載の土器を含めると前期から後期まで継続して確認されている。古墳時代前期の竪穴建物は太田市石田川遺跡出土遺物より古い段階にあり、弥生時代末から古墳時代にかけて戦乱の時代にS字状口縁台付甕や在地の土師器と樽式土器が共伴し、入植説を否定している。周辺には古墳群が多く分布し、平安時代まで集落が分布している。前畑J遺跡は縄文時代から多くの集落が大間々扇状地内の穀倉地帯に広く分布していたことを示している。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第656集

前畑J遺跡

一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成31(2019)年3月20日 印刷

平成31(2019)年3月20日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／川島美術印刷株式会社

X=44, 975

X=44, 965

X=44, 955

X=44, 945

X=44, 935

X=44, 925

X=44, 915

X=44, 905

X=44, 895

X=44, 885

X=44, 875

X=44, 865

X=44, 855

X=44, 845

X=44, 835

X=44, 825

付図 前畑J遺跡 全体図 (1:400)

3区1・2面

